

HP Systems Insight Manager

テクニカル リファレンス ガイド



356920-195

July 2005, 2.0 版

©Copyright 2003-2005 Hewlett-Packard

目次

法的な注意事項	31
保証	31
制限付き権利の一覧	31
著作権表示	31
商標表示	31
リリース履歴	32
はじめに	33
オンライン ヘルプ	33
HP Systems Insight Managerヘルプ カテゴリ	33
製品概要	35
その他のリソース	35
関連トピック	35
機能	35
関連トピック	40
新機能	40
HP Systems Insight Manager 5.0の新機能	40
関連トピック	42
製品アーキテクチャ	42
中央管理サーバ	43
管理対象システム	43
システム収集	43
ネットワーク クライアント	44
関連トピック	44
支援	44
その他のリソース	44
テクニカル サポート	45
関連トピック	45
お使いになる前に	46
関連プロシージャ	46
関連トピック	46
ログイン	47
GUIへのサイン イン	47
SSLを使用したサイン イン	48
CLIへのログイン	49
CMSでの直接ログイン	49
SSHクライアントを使用したリモートでのログイン	50
関連トピック	50
サイン アウト	50
グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) からのサイン アウト	50
コマンド ライン インタフェース (CLI) からのサイン アウト	51
関連トピック	51
ファーストタイム ウィザード	51
関連プロシージャ	52
関連トピック	52
初期設定の実行	53
初期設定のプロセス	53
関連トピック	54
ホーム ページのナビゲート	54
グラフィカル ユーザ インタフェースの機能	54
デフォルトのホーム ページ機能	55
関連トピック	56

ホーム ページのカスタマイズ	56
関連トピック	57
システム ステータス パネルのカスタマイズ	57
関連トピック	58
言語ロケールの設定	59
はじめに	59
Webブラウザの言語またはロケールの設定	59
Internet Explorerで使用する言語の設定	59
Mozillaで使用する言語の設定	60
Windowsで使用する言語またはロケールの設定	60
Windows XPの言語設定	60
Windows 2000のロケール設定	60
HP-UXおよびLinuxの言語設定	61
HP Systems Insight Managerの設定	61
CMSロケール	62
ターゲット ロケール	62
コマンド ライン インタフェース コマンドの使用	63
HP Systems Insight Managerコマンド	63
関連トピック	67
リソース ライブラリ	67
関連トピック	70
検出と識別	71
自動検出	71
IPプロトコル	71
IPXプロトコル	72
イベント ベースの自動検出	72
検出テンプレート	73
hostsファイル	74
初回検出	74
後続検出	74
手動検出	75
1つのシステムを追加するオプション	75
関連プロシージャ	76
関連トピック	77
自動検出の設定	77
関連プロシージャ	78
関連トピック	79
新規検出タスクの作成	79
関連プロシージャ	80
関連トピック	80
検出タスクの編集	80
関連プロシージャ	81
関連トピック	81
検出タスクの無効化または有効化	81
関連プロシージャ	81
関連トピック	82
検出タスクの削除	82
関連プロシージャ	82
関連トピック	82
検出タスクの実行	82
関連プロシージャ	83
関連トピック	83
システム タイプ	83
検出一般設定の指定	85

関連トピック	87
検出フィルタ	87
関連プロシージャ	88
関連トピック	88
検出テンプレートの管理	88
関連プロシージャ	88
関連トピック	88
新規検出テンプレート ファイルの作成	89
関連プロシージャ	89
関連トピック	89
検出テンプレートの編集	89
関連プロシージャ	90
関連トピック	90
検出テンプレートの削除	90
関連プロシージャ	91
関連トピック	91
システムの手動追加	91
コマンド ライン インタフェース	93
関連プロシージャ	93
関連トピック	93
hosts ファイルの管理	93
関連プロシージャ	94
関連トピック	94
新規hosts ファイルの作成	94
関連プロシージャ	95
関連トピック	96
hosts ファイルの編集	96
関連プロシージャ	96
関連トピック	96
hosts ファイルの削除	96
関連プロシージャ	97
関連トピック	97
データベースへのhosts ファイルのシステムの追加	97
関連プロシージャ	97
関連トピック	97
HP Systems Insight Manager統合タスク用のhosts ファイル インポート タスクの作成	98
.dat ファイルのインポート	98
システムの表示	99
Insight マネージャ (WIN32) ファイルのエクスポート	99
関連プロシージャ	99
hosts ファイル拡張子	99
デフォルト値	101
関連プロシージャ	102
関連トピック	102
IP 範囲	103
関連プロシージャ	103
関連トピック	103
識別	103
初期識別	104
システムの識別	105
関連プロシージャ	105
関連トピック	105
システム タイプの管理	105

関連プロシージャ	106
関連トピック	106
システム タイプの管理ページのナビゲート	106
システム タイプ	107
カラム	107
合計	107
使用可能ボタン	107
関連プロシージャ	107
関連トピック	107
システム タイプ管理について	107
システム識別を追加または変更する理由	108
システム タイプ管理ルールを作成するオプション	108
関連プロシージャ	109
関連トピック	109
新規STMルールの作成	109
コマンド ライン インタフェース	112
関連プロシージャ	112
関連トピック	112
STMルールの編集	112
コマンド ライン インタフェース	113
関連プロシージャ	113
関連トピック	113
STMルールの削除	113
関連プロシージャ	114
関連トピック	114
新規STMルールのリファレンス	114
新しいDMIルールの追加 (Windows CMSのみから)	114
SNMPルールの新規追加	114
DMI識別について知っておくべきこと	115
関連プロシージャ	116
関連トピック	116
ユーザと認証	117
ユーザ設定権	118
[ユーザおよび認証]タブ	118
関連プロシージャ	118
関連トピック	118
ユーザおよびユーザ グループ	119
関連プロシージャ	120
関連トピック	120
新規ユーザの作成	120
コマンド ライン インタフェース	122
関連プロシージャ	122
関連トピック	122
新規ユーザ グループの作成	122
コマンド ライン インタフェース	124
関連プロシージャ	124
関連トピック	124
ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集	125
コマンド ライン インタフェース	127
関連プロシージャ	127
関連トピック	127
ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除	127
コマンド ライン インタフェース	128
関連プロシージャ	128

関連トピック	129
ユーザおよびユーザ グループ レポート	129
コマンド ライン インタフェース	129
関連プロシージャ	130
関連トピック	130
デフォルト ユーザ テンプレート	130
関連トピック	130
ツールボックス	130
関連プロシージャ	131
関連トピック	131
新規ツールボックスの作成	132
コマンド ライン インタフェース	132
関連プロシージャ	132
関連トピック	133
ツールボックスの編集	133
コマンド ライン インタフェース	133
関連プロシージャ	134
関連トピック	134
ツールボックスの削除	134
コマンド ライン インタフェース	134
関連プロシージャ	135
関連トピック	135
ツールボックス レポート	135
コマンド ライン インタフェース	135
関連プロシージャ	136
関連トピック	136
認証	136
関連プロシージャ	137
関連トピック	137
新規認証の作成	138
コマンド ライン インタフェース	140
関連プロシージャ	140
関連トピック	140
認証の更新	140
コマンド ライン インタフェース	141
関連プロシージャ	141
関連トピック	142
認証の削除	142
コマンド ライン インタフェース	142
関連プロシージャ	143
関連トピック	143
認証レポート	143
コマンド ライン インタフェース	144
関連プロシージャ	144
関連トピック	144
システム グループ	144
GUIからのシステム グループの管理	144
CLIからのmxngroupによるシステム グループの管理	145
関連プロシージャ	145
関連トピック	146
ネットワークとセキュリティ	147
SSL (Secure Sockets Layer) および証明書	147
ログインおよびアカウント	147

シングル ログイン、エージェント設定のレプリケート、およびソフトウェアおよびファームウェアのインストール	148
証明書	148
関連プロシージャ	148
関連トピック	148
ログインについて	149
シングル ログイン	149
サイン イン	150
LinuxおよびHP-UXでのログイン認証	151
LinuxシステムにおけるPAMの設定	151
HP-UXシステムにおけるPAMの設定	152
関連トピック	152
セキュア タスク実行について	152
関連トピック	153
システム リンクの設定	153
関連トピック	154
ログイン イベントの設定	154
関連トピック	155
タイムアウト オプションの設定	155
関連トピック	156
サーバ証明書	156
関連プロシージャ	156
関連トピック	156
サーバ証明書のエクスポート	157
関連プロシージャ	157
関連トピック	157
サーバ証明書の編集	157
関連プロシージャ	158
関連トピック	159
サーバ証明書の作成	159
関連プロシージャ	160
関連トピック	160
サーバ証明書のインポート	161
関連プロシージャ	161
関連トピック	162
CSRの作成	162
関連プロシージャ	162
関連トピック	162
CSRの提出	162
関連プロシージャ	163
関連トピック	163
CA署名済み証明書のインポート	163
関連プロシージャ	164
関連トピック	165
証明書の同期	165
関連プロシージャ	165
関連トピック	165
証明書のレプリケート	165
ソースCMSからターゲットCMSへの信頼システム証明書の移行	166
エージェント設定のレプリケート機能を使用した、信頼証明書および信頼モードのソースCMSから信頼済み管理対象システムへの複製	167
関連プロシージャ	168
関連トピック	168
信頼証明書	169

関連プロシージャ	169
関連トピック	169
信頼証明書のインポート	169
関連プロシージャ	170
関連トピック	170
信頼証明書のエクスポート	170
HP Systems Insight Managerからのシステム証明書のエクスポート	171
ブラウザからのシステム証明書のエクスポート (Microsoft Internet Explorerのみ)	171
関連プロシージャ	172
関連トピック	172
信頼証明書の削除	172
関連プロシージャ	173
関連トピック	173
信頼証明書の要求	173
関連プロシージャ	174
関連トピック	174
信頼関係の設定	174
管理対象のProLiantサーバを信頼するようにCMSを設定する方法	175
管理対象システムの設定	175
System Management Homepageを実行する管理対象サーバを設定する方法	176
マネジメントHTTPサーバを実行する管理対象サーバを設定する方法	177
ブラウザの警告メッセージの管理	179
関連プロシージャ	180
関連トピック	180
システム、クラスタ、イベントの監視	181
収集について	181
関連プロシージャ	181
関連トピック	182
[システムおよびイベント]パネルのナビゲート	182
ツリー コントロールおよびカスタマイズ	184
概要	184
システム	185
イベント	185
関連プロシージャ	186
関連トピック	186
システム概要ページの表示	186
ヘルス ステータス	186
未確認イベント ステータス	186
関連トピック	187
収集の保存	187
関連プロシージャ	187
関連トピック	188
システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ	188
関連プロシージャ	189
関連トピック	189
システム収集またはクラスタ収集の作成	189
コマンド ライン インタフェース	190
関連プロシージャ	190
関連トピック	190
システム収集またはクラスタ収集の編集	191
コマンド ライン インタフェース	191
関連プロシージャ	191

関連トピック	191
システム収集またはクラスタ収集の削除	192
コマンド ライン インタフェース	192
関連プロシージャ	192
関連トピック	192
システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定	193
コマンド ライン インタフェース	193
関連プロシージャ	193
関連トピック	194
イベント収集のカスタマイズ	194
コマンド ライン インタフェース	195
関連プロシージャ	195
関連トピック	195
イベント収集の作成	195
コマンド ライン インタフェース	196
関連プロシージャ	196
関連トピック	197
イベント収集の編集	197
コマンド ライン インタフェース	197
関連プロシージャ	197
関連トピック	198
イベント収集の削除	198
コマンド ライン インタフェース	198
関連プロシージャ	198
関連トピック	198
イベント収集のプロパティの設定	199
コマンド ライン インタフェース	199
関連プロシージャ	199
関連トピック	199
システム テーブル ビュー ページ	200
関連プロシージャ	200
関連トピック	200
システム テーブル ビュー ページのナビゲート	200
結果表示	201
システム ヘルス ステータスの凡例	201
システム詳細情報	201
システム ビューの列	202
システム テーブル ビュー ページのボタン	207
ビューのカスタマイズ	208
関連プロシージャ	208
関連トピック	208
ツリー ビューのナビゲート	208
ツリー ビューの展開	209
ツリー ビューでの選択	209
ツリー ビューのステータス	210
使用可能なドリルダウン	210
収集の選択状態	210
ツリー ビューのボタン	211
関連トピック	211
アイコン ビューのナビゲート	212
結果表示	212
システム ヘルス ステータスの凡例	212
アイコン ビューのボタン	212
関連トピック	213

ピクチャー ビュー ページのナビゲート	213
ラック ビュー ページ	213
エンクロージャ ビュー ページ	213
ビューのカスタマイズ	214
関連トピック	214
管理プロセッサについて	214
関連トピック	215
ラックとエンクロージャについて	215
関連トピック	216
システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ	216
関連プロシージャ	217
関連トピック	217
データベースからのシステムの削除	217
関連プロシージャ	218
関連トピック	218
システム収集レポートの印刷	218
関連プロシージャ	219
関連トピック	219
システム ステータス タイプ	219
関連トピック	220
WBEM動作ステータス タイプ	220
関連トピック	221
ソフトウェア ステータス タイプ	222
関連トピック	222
クラスタ テーブル ビュー ページ	223
関連プロシージャ	223
関連トピック	223
クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート	223
表示	225
クラスタ ステータスの凡例	225
ビューのカスタマイズ	225
クラスタ収集の列	225
ボタン	227
関連プロシージャ	228
関連トピック	228
クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ	228
関連プロシージャ	229
関連トピック	229
データベースからのクラスタの削除	229
関連プロシージャ	229
関連トピック	229
クラスタ収集レポートの印刷	229
関連プロシージャ	230
関連トピック	230
イベント テーブル ビュー ページ	230
関連プロシージャ	231
関連トピック	231
イベント テーブル ビュー ページのナビゲート	231
イベント ステータスの凡例	232
イベント詳細	232
イベント収集の列	233
イベント管理のボタン	234
ビューのカスタマイズ	235
関連プロシージャ	235

関連トピック	235
イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ	236
関連プロシージャ	236
関連トピック	236
収集からのイベントを確認済みに変更	236
関連プロシージャ	237
関連トピック	237
データベースからのイベントの削除	237
関連プロシージャ	237
関連トピック	237
ユーザへのイベントの割り当て	237
関連プロシージャ	238
関連トピック	238
イベントに関するコメントの入力	238
関連プロシージャ	239
関連トピック	239
イベント収集レポートの印刷	239
関連プロシージャ	240
関連トピック	240
イベント深刻度の種類	240
関連トピック	241
イベント詳細セクション	241
はじめに	241
イベント詳細	241
関連トピック	243
システムとイベントの検索	243
関連プロシージャ	243
関連トピック	244
基本検索と高度な検索	244
基本検索	244
[高度な検索]	244
関連プロシージャ	245
関連トピック	245
基本検索の実行	245
関連プロシージャ	246
関連トピック	246
システムの高度な検索の実行	246
関連プロシージャ	247
関連トピック	247
システム検索結果の削除	247
関連プロシージャ	248
関連トピック	248
システム検索結果の印刷	248
関連プロシージャ	248
関連トピック	248
イベントの高度な検索の実行	249
関連プロシージャ	250
関連トピック	250
イベント検索結果の削除	250
関連プロシージャ	250
関連トピック	250
イベント検索結果の印刷	251
関連プロシージャ	251
関連トピック	251

クラスタの高度な検索の実行	251
関連プロシージャ	252
関連トピック	252
クラスタ検索結果の削除	252
関連プロシージャ	253
関連トピック	253
クラスタ検索結果の印刷	253
関連プロシージャ	254
関連トピック	254
検索条件	254
ソフトウェア/ファームウェアの条件	257
確認ステータスの条件	257
サーバの役割の条件	257
担当者条件	257
イベント カテゴリ条件	258
イベント タイプ条件	258
メモリ範囲の条件	258
関連トピック	259
リファレンス	259
関連トピック	259
デフォルト パブリック収集	259
共有システム収集	259
共有イベント収集	263
関連プロシージャ	264
関連トピック	264
収集命名規則	264
関連トピック	264
ストレージ統合	266
関連トピック	266
SMI-Sを使用したストレージ統合	266
ストレージ システムについて	266
関連プロシージャ	267
関連トピック	267
ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定	267
ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定	267
関連プロシージャ	268
関連トピック	268
ストレージ システムの表示	268
ストレージ システム収集の表示	268
個々のストレージ システムの表示	268
関連プロシージャ	269
関連トピック	269
ストレージ システム レポートの表示	269
既存のストレージ システム レポート	269
カスタム レポート。	270
関連プロシージャ	270
関連トピック	270
ストレージ アレイ容量の表示	270
すべてのアレイのストレージ容量の表示	270
単一アレイのストレージ容量の表示	270
関連プロシージャ	271
関連トピック	271
HP Storage Essentialsがインストールされている場合のHP Systems Insight Managerストレージ機能の変化	271

関連トピック	272
SNMPを使用したストレージ統合	273
概要	273
ストレージ イベント	273
ストレージ インベントリ詳細	274
関連プロシージャ	275
関連トピック	275
SNMPを使用するストレージ検出について	275
検出と識別	275
関連プロシージャ	276
関連トピック	276
SNMPを使用したストレージ検出	276
関連プロシージャ	277
関連トピック	277
HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージ ソリューションとの併用	277
ストレージ イベントの表示	277
タイプ グループによるストレージの作成	277
イベント収集と起動	278
関連プロシージャ	279
関連トピック	279
タスクの使用法	280
ユーザ権限	280
関連プロシージャ	280
関連トピック	281
デフォルト ポーリング タスクについて	281
隔週データ収集	282
日単位デバイス識別	282
ハードウェア ステータス ポーリング - 非サーバ	283
ハードウェア ステータス ポーリング - サーバ	283
ハードウェア ステータス ポーリング - Systems no Longer Disabled	283
初期データ収集	283
初期ハードウェア ステータス ポーリング	283
ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング	284
ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング - Systems no Longer Disabled	284
関連プロシージャ	284
関連トピック	284
タスクの作成	284
コマンド ライン インタフェース	285
デフォルトのツール	286
関連トピック	287
すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート	287
ユーザ権限	288
すぐに実行	288
編集	288
削除	288
タスク結果の表示	288
関連トピック	289
タスクのスケジュール設定	289
[スケジュールされたすべてのタスク]の表示	290
関連プロシージャ	290
関連トピック	290
スケジュール済みタスクの実行	290
コマンド ライン インタフェース	291

関連プロシージャ	291
関連トピック	291
スケジュール済みタスクの編集	291
関連プロシージャ	292
関連トピック	292
スケジュール済みタスクの削除	292
関連トピック	292
タスク結果の表示	293
タスク結果の表示	293
タスク インスタンス結果の表示	293
ターゲット詳細の表示	294
印刷可能なレポートの表示	294
関連プロシージャ	295
関連トピック	295
レポートの印刷	295
関連プロシージャ	295
関連トピック	296
タスク結果リスト	296
関連トピック	297
タスクの停止	297
関連プロシージャ	297
関連トピック	297
タスク結果の削除	297
コマンド ライン インタフェース	298
関連プロシージャ	298
関連トピック	298
時間フィルタの適用	298
関連トピック	299
タスク ステータス タイプ	299
関連トピック	300
デフォルト ツールの使用法	301
関連プロシージャ	302
関連トピック	303
クラスタ監視	304
関連トピック	305
クラスタ リソース設定の指定	305
関連プロシージャ	306
関連トピック	306
ノード リソース設定の指定	306
関連プロシージャ	306
関連トピック	306
クラスタ監視のクラスタ タブ	307
関連トピック	307
クラスタ監視のノード タブ	307
関連トピック	307
クラスタ監視のネットワーク タブ	308
関連トピック	308
クラスタ監視のリソース タブ	308
関連トピック	309
MSCSステータス	309
MSCSステータスの監視	309
関連トピック	310
クラスタ監視リソース	310
クラスタ監視の状態	310

関連トピック	311
クラスタ監視のリソースおよび関連設定	312
関連プロシージャ	312
関連トピック	312
クラスタ監視のポーリング率	313
ポーリング率	313
関連プロシージャ	313
関連トピック	314
クラスタ監視のリソース スレッシュホールド	314
スレッシュホールドの概要	314
関連トピック	315
コマンド ライン ツール	315
コマンド ライン インタフェース	315
関連トピック	315
新規 コマンド ライン ツールの作成	316
関連プロシージャ	316
関連トピック	316
新規 コマンド ライン ツール	316
追加情報	317
関連プロシージャ	317
関連トピック	317
新規 コピー ファイル ツール	318
追加情報	318
コピー ファイル ツールの作成例	319
関連プロシージャ	319
関連トピック	319
新規 X Window ツール	319
追加情報	320
関連プロシージャ	320
関連トピック	320
コマンド ライン ツール リファレンス	320
ツールのタイプ	320
パラメータ化された文字列	321
ツール フィルタ	323
バージョン番号	326
その他の要件	326
文書型定義	327
関連プロシージャ	339
関連トピック	339
コマンド ライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例	339
関連プロシージャ	340
関連トピック	340
カスタム コマンド	340
関連プロシージャ	341
関連トピック	341
新規 カスタム コマンドの作成	341
関連プロシージャ	342
関連トピック	342
カスタム コマンドの管理	342
新規	343
編集	343
すぐに実行/スケジュール	343
削除	343
関連プロシージャ	343

関連トピック	343
カスタム コマンド用の環境変数	343
関連プロシージャ	345
関連トピック	345
新規Web起動ツール	345
追加情報	346
関連プロシージャ	346
関連トピック	346
DMIアクセスの設定	347
関連プロシージャ	347
SNMPアクセスの設定	347
関連プロシージャ	347
デバイスのping	347
ディスク スレッシュョルド	348
ディスク スレッシュョルドの設定	348
ディスク スレッシュョルドの削除	349
関連プロシージャ	349
ディスク スレッシュョルドの設定	349
関連プロシージャ	350
関連トピック	350
月単位ですべてのディスク スレッシュョルドを削除するタスクの作成	350
タスクの作成	350
関連プロシージャ	350
関連トピック	350
ライセンス マネージャ	351
関連プロシージャ	352
関連トピック	352
キーについて	352
関連プロシージャ	353
関連トピック	353
キーの収集	353
関連トピック	353
キーの収集結果	353
関連トピック	355
キーのインストール	355
関連トピック	355
キーの選択	355
関連トピック	356
キーのインストール結果	356
関連トピック	358
キーの管理	358
関連トピック	359
キー データベースの内容の表示	359
関連トピック	359
ファイルからのキーの追加	360
関連トピック	361
キーの個別追加	361
関連トピック	362
キー詳細の表示	362
関連トピック	363
システム ライセンス情報レポート	363
システム ライセンス情報レポート	364
アップグレード結果	364
関連プロシージャ	365

関連トピック	365
ProLiant Essentialsアプリケーションを使用したライセンス付与	365
関連トピック	366
管理プロセッサ ツール	366
管理プロセッサのシステム電源オプションの設定	367
関連プロシージャ	368
管理プロセッサのシステム ロケータ オプションの設定	368
関連プロシージャ	368
管理プロセッサの新しいユーザの作成	368
関連プロシージャ	369
管理プロセッサ ユーザの編集	369
関連プロシージャ	370
管理プロセッサ ユーザの削除	370
管理プロセッサLANアクセスの設定	371
管理プロセッサのLDAPの設定	371
管理プロセッサのiLO制御の設定	372
管理プロセッサ ファームウェアのアップグレード	373
管理プロセッサへのSSHパブリック キー展開	373
MIBの管理	374
関連プロシージャ	374
MIBの表示	375
関連プロシージャ	376
関連トピック	376
MIBの編集	376
関連プロシージャ	377
関連トピック	377
MIBのコンパイル	377
関連プロシージャ	378
関連トピック	378
MIBの登録	378
関連プロシージャ	379
関連トピック	380
MIBの登録解除	380
関連プロシージャ	380
関連トピック	380
OpenSSHのインストール	380
関連プロシージャ	381
RDPを使用したOpenSSHの複数システムへのインストール	381
RDPを使用したOpenSSHのインストール	381
HP Systems Insight Managerからターゲット システムへのパブリック キー のコピー	382
関連プロシージャ	383
CLIを介したOpenSSHタスクの作成	383
OpenSSHタスクの作成	384
XMLファイルを使用したコマンド ラインからのOpenSSHタスクの作 成	385
XMLファイルを使用しない場合の、コマンド ラインからのOpenSSHタス クの作成	386
関連プロシージャ	386
PMPツール	387
関連トピック	388
ツールの削除と回復	388
ツールの削除	388
ツールの復旧	388

関連プロシージャ	388
関連トピック	389
エージェント設定のレプリケート	389
関連プロシージャ	389
関連トピック	389
エージェント設定のレプリケート タスクの作成	389
関連プロシージャ	390
関連トピック	390
エージェント設定のレプリケート - リファレンス	390
信頼関係の決定	390
信頼関係の変更	391
Wake On LAN (WOL) 機能	391
エージェント設定のレプリケート イベント	391
関連プロシージャ	391
関連トピック	391
RPMパッケージ マネージャ	391
関連プロシージャ	392
RPMのインストール	392
関連プロシージャ	392
関連トピック	392
RPMのアンインストール	392
関連プロシージャ	393
関連トピック	393
RPMのクエリ	393
関連プロシージャ	393
関連トピック	393
RPMの確認	393
関連プロシージャ	394
関連トピック	394
Server Migration Pack	394
SMPのライセンス設定	394
関連プロシージャ	395
Server Migration Packへのアクセス	395
関連トピック	395
System Management Homepage	395
関連プロシージャ	396
関連トピック	396
System Management Homepageへのアクセス	396
関連プロシージャ	396
関連トピック	396
システム ページ	396
関連トピック	396
サーバ識別タブ	397
システム ステータス	397
詳細情報	398
識別	398
製品説明	399
連絡先情報	400
資産情報	400
管理プロセッサ	400
関連情報	400
関連トピック	401
クラスタ識別タブ	401
ヘルス ステータス	401

識別	401
製品説明	401
関連トピック	402
複合体識別タブ	402
ヘルス ステータス	402
製品説明	402
コンポーネントの概要	403
関連トピック	404
パーティション識別タブ	404
識別	404
製品説明	404
コンポーネントの概要	404
関連情報	405
関連トピック	405
ストレージ ホスト識別タブ	405
製品説明	406
ホスト バス アダプタ	406
LUN	408
関連トピック	408
ストレージ スイッチ識別タブ	408
製品説明	409
ポート	410
概要ステータス	410
関連トピック	411
ストレージ アレイ識別タブ	411
製品説明	411
ポート	413
ストレージ ボリューム	413
容量情報	414
関連トピック	415
テープ ライブラリ識別タブ	415
製品説明	415
ポート	417
メディア アクセス デバイス	417
チェンジャ デバイス	417
関連トピック	418
ポート タイプ	418
関連トピック	418
ツール&リンク タブ	418
システム マネジメント ページ	419
システムWebアプリケーション ページ	419
HP Systems Insight Managerページ	419
Storage Essentials Pages	420
関連プロシージャ	420
関連トピック	420
バージョン コントロール	420
関連プロシージャ	420
関連トピック	421
バージョン コントロール エージェントについて	421
その他のリソース	422
関連プロシージャ	422
関連トピック	422
バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて	422
その他のリソース	423

関連プロシージャ	423
関連トピック	423
統合について	424
関連プロシージャ	424
関連トピック	424
ソフトウェア レポジトリについて	424
関連プロシージャ	425
関連トピック	425
多重システム管理について	425
関連プロシージャ	426
関連トピック	426
バージョン コントロール エージェントへのアクセス	426
バージョン コントロール エージェントへのログイン	427
関連プロシージャ	427
関連トピック	427
バージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス	427
HP Systems Insight Managerからバージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス	427
インプレースのバージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス	428
関連プロシージャ	428
関連トピック	428
バージョン コントロール ステータス アイコン	428
バージョン コントロール ステータス	429
関連プロシージャ	430
関連トピック	430
ソフトウェアとファームウェアのインストール	430
スイッチへのファームウェアのインストール	432
関連プロシージャ	432
関連トピック	432
初期ProLiant Support Packのインストール	432
関連プロシージャ	440
関連トピック	440
Virtual Machine Management Pack	440
関連プロシージャ	441
関連トピック	441
VMホストのライセンス	441
関連プロシージャ	442
関連トピック	442
VMMエージェントのインストール	442
関連プロシージャ	443
関連トピック	443
VMMへのアクセス	443
関連プロシージャ	443
関連トピック	443
VMMの登録	444
関連プロシージャ	444
関連トピック	444
VMMの登録解除	444
関連プロシージャ	445
関連トピック	445
VMMのアップグレード	445
関連トピック	445
VMステータスの種類	445

関連トピック	446
WBEMベース ツール	446
関連トピック	446
プロパティ ページ	446
システム障害管理の概要	447
WBEMプロバイダの概要	448
利用可能なMSAツール	449
パートナー アプリケーション	451
HP Integrity Essentialsプラグイン	451
HP ProLiant Essentialsプラグイン	452
HP Storage Essentialsプラグイン	453
HPインフラストラクチャ リソース管理プラグイン	453
関連トピック	454
HP Integrity Essentialsの概要	455
HP Integrity Essentials for HP-UX 11i	455
ソフトウェアのインストール	455
設定管理	456
負荷管理	456
リモート サーバ管理	456
HP Integrity Essentials for Windows	456
インストールおよび設定	456
リモート サーバ管理	456
Linuxで動作するHP Integrityサーバ	457
中央管理	457
HP Integrity Essentials for Linux	457
インストールおよび設定	457
負荷管理	457
リモート サーバ管理	457
OpenVMSで動作するHP Integrityサーバ	457
中央管理	457
HP Integrity Essentials for OpenVMS	458
設定管理	458
負荷管理	458
リモート サーバ管理	458
関連トピック	458
イベント監視サービスの概要	458
GlancePlusの概要	459
Ignite-UXの概要	459
Partition Managerの概要	459
セキュリティ バッチ チェックの概要	460
HP Serviceguard Managerの概要	460
関連トピック	461
Software Distributorの概要	461
Webminの概要	462
Workload Managerの概要	462
HP OpenView Storage Data Protectorの概要	463
HP OpenView Storage Area Managementの概要	464
HP OpenView Storage Management Applianceの概要	464
HP OpenView Storage Operations Managerの概要	465
Process Resource Managerの概要	466
PRMを使用する目的	466
HP Systems Insight ManagerからのProcess Resource Managerへのアクセ ス	467
HP ProLiant Essentialsアプリケーション	467

関連トピック	467
アレイ コンフィギュレーション ユーティリティの概要	468
HP ProLiant Essentials Automation Managerの概要	468
関連トピック	469
HP BladeSystemの概要	469
HP Client Managerの概要	469
ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Packの概要	470
HP Virtual Server Environmentの概要	470
Web JetAdminの概要	471
HP Storage Essentialsの概要	471
関連トピック	472
HP StorageWorks Command View XPの概要	472
HP StorageWorks Command View XP Advanced Editionの概要	473
HP StorageWorks Command View SDMの概要	473
HP StorageWorks Command View Tape Libraryの概要	473
HP StorageWorks EVAの概要	474
HP StorageWorks Modular Storage Array 1000の概要	474
レポート機能	475
ProLiant Essentials Performance Management Packレポート機能	475
システム情報レポート機能	475
スナップショット比較。	476
関連プロシージャ	476
関連トピック	476
システム レポート	476
HTMLフォーマットによる既存のレポートの実行	477
並べ替え順序の選択	478
XMLフォーマットによる既存のレポートの表示	478
CSVフォーマットによる既存のレポートの表示	478
既存レポートの印刷	478
コマンド ライン インタフェース	479
関連プロシージャ	479
関連トピック	479
レポートの追加	479
新しいレポートの追加	479
並べ替え順序の選択	480
レポートの印刷	481
コマンド ライン インタフェース	481
関連プロシージャ	481
関連トピック	481
レポートの編集	481
コマンド ライン インタフェース	482
関連プロシージャ	483
関連トピック	483
レポートのコピー	483
コマンド ライン インタフェース	483
関連プロシージャ	484
関連トピック	484
SQLの表示	484
関連プロシージャ	484
関連トピック	484
レポート ビュー	484
データベース ビュー	484
関連トピック	500
スナップショット比較レポート	501

関連プロシージャ	502
関連トピック	502
PMPレポートのオプション	502
関連トピック	503
システムとイベントの管理	504
関連プロシージャ	504
関連トピック	506
イベント	506
関連プロシージャ	507
関連トピック	508
イベント管理について	508
自動イベント処理。	508
イベントの削除	509
イベント フィルタ設定	509
SNMPトラップ設定	509
ステータス変化イベント設定	510
関連プロシージャ	510
関連トピック	510
指定するイベントおよびシステム属性を使用した新しい自動イベント処理タスクの作成	510
自動イベント処理タスクの作成	510
関連プロシージャ	511
関連トピック	511
イベント処理タスクの管理	511
関連プロシージャ	512
関連トピック	512
これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成	513
関連プロシージャ	516
関連トピック	516
既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成	516
関連プロシージャ	519
関連トピック	519
自動イベント処理タスクの編集	519
関連プロシージャ	519
関連トピック	519
自動イベント処理タスクのコピー	519
関連プロシージャ	520
関連トピック	520
タスク定義の表示	520
関連プロシージャ	521
関連トピック	521
イベント タスク結果の表示	521
関連プロシージャ	521
関連トピック	521
自動イベント処理タスクの有効化または無効化	522
関連プロシージャ	522
関連トピック	522
Email設定の指定	522
関連プロシージャ	523
関連トピック	523
モデム設定の指定	523
関連プロシージャ	524
関連トピック	524

イベントの確認	524
関連プロシージャ	525
関連トピック	525
イベントの削除	525
関連プロシージャ	526
関連トピック	526
イベント フィルタの設定	526
関連プロシージャ	527
関連トピック	527
SNMPトラップの設定	527
SNMPトラップ フィールド	527
関連プロシージャ	528
関連トピック	528
ステータス変更イベントの設定	528
関連プロシージャ	529
関連トピック	529
WBEMイベント	529
関連プロシージャ	530
関連トピック	530
WBEMイベントの予約	530
関連プロシージャ	530
関連トピック	530
WBEMイベントの予約解除	531
関連プロシージャ	531
関連トピック	531
Emailメッセージの例	531
標準Emailメッセージの例	532
ポケベル/SMSメッセージの例	532
HTMLメッセージの例	532
関連プロシージャ	533
関連トピック	533
サービス通知イベント	533
設定とセットアップ	534
HP Systems Insight Managerによる、サービス トラップ通知の処理	534
サービス トラップ通知の詳細	534
サービス トラップとMIBタイプに関する情報	535
関連プロシージャ	536
関連トピック	536
イベント タスクの例	536
関連プロシージャ	536
Email通知に基づくポケベル タスクの作成	537
関連プロシージャ	538
すべての確認済みイベント削除タスクの作成	539
イベント収集の作成	539
タスクの作成およびスケジュール設定	540
関連プロシージャ	540
関連トピック	540
30日以前のイベント削除タスクの作成	540
収集の作成	540
タスクのスケジュール設定	541
関連プロシージャ	542
関連トピック	542
システムがクリティカルな状態になったときEmailを送信するタスクの作成	542
収集の作成	542

Emailを送信するためのHP Systems Insight Managerの設定	543
ステータス変更イベントの設定	543
タスクの作成	543
関連プロシージャ	544
ステータス ポーリング	545
関連プロシージャ	546
関連トピック	546
ソフトウェア ステータス ポーリング	546
関連プロシージャ	546
関連トピック	546
ハードウェア ステータス ポーリング	546
関連プロシージャ	548
関連トピック	548
WMI Mapperプロキシ	548
関連プロシージャ	548
関連トピック	548
WMI Mapperプロキシの追加	549
関連プロシージャ	549
関連トピック	549
WMI Mapperプロキシの編集	549
関連プロシージャ	550
関連トピック	550
WMI Mapperプロキシの削除	550
関連プロシージャ	551
関連トピック	551
プロトコル	551
関連プロシージャ	551
関連トピック	551
グローバル プロトコル設定	552
関連トピック	554
システムまたはシステム グループのプロトコル設定	554
関連プロシージャ	555
関連トピック	556
単一システムのプロトコル設定	556
関連プロシージャ	557
関連トピック	557
グローバル プロトコル	557
SNMP	558
DMI	559
HTTP	559
WBEM	559
関連プロシージャ	560
関連トピック	560
データ収集	560
新規データセットを追加（時系列変動解析用）	561
既存データセットを上書き（詳細解析用）	562
初期データ収集	562
隔週データ収集	562
関連プロシージャ	562
関連トピック	562
データ収集タスクの作成	563
コマンド ライン インタフェース	563
関連トピック	563
システム プロパティ	564

関連プロシージャ	564
関連トピック	565
単一システムのシステム プロパティの編集	565
関連プロシージャ	567
関連トピック	567
複数システムのシステム プロパティの編集	567
関連プロシージャ	568
関連トピック	569
単一システムのシステム監視の停止と回復	569
関連プロシージャ	570
関連トピック	570
複数システムのシステム監視の停止と回復	570
関連プロシージャ	571
関連トピック	571
バージョン コントロール レポジトリ	571
関連トピック	571
PMP管理オプション	572
関連トピック	572
管理対象システム	573
概要	573
必要な管理対象システム ソフトウェアおよびオプションの管理対象システム	
ソフトウェアのインストール	573
WindowsシステムへのProLiant Support Packの初期インストール	573
LinuxシステムへのProLiantまたはIntegrity Support Packの初期インストー	
ル	581
HP-UXシステムへの必要なソフトウェアのインストール	581
管理対象システム ソフトウェアの設定	583
CMSからのエージェントの設定および修復機能の実行	583
管理対象システムの手動セットアップ	587
HP-UX管理対象システムの手動セットアップ	587
Linux管理対象システムの手動セットアップ	590
例	593
Windows管理対象システムのセットアップ	593
Linux CMSからのリモートのLinuxシステムのセットアップ	593
HP-UX CMSからのリモートのHP-UXシステムのセットアップ	594
関連トピック	594
SSHキーの管理	594
関連プロシージャ	595
SSHキー セキュリティの設定	595
関連プロシージャ	595
関連トピック	595
SSHキーのインポート	596
関連プロシージャ	596
関連トピック	596
SSHキーのエクスポート	596
関連プロシージャ	597
関連トピック	597
SSHキーの削除	597
関連プロシージャ	597
関連トピック	597
データベースのバックアップと復元	597
関連プロシージャ	597
関連トピック	597
HP-UX/Linux	598

HP-UXオペレーティング システムとLinuxオペレーティング システムにおけるデータベースのバックアップと復元	598
関連プロシージャ	598
関連トピック	599
Windows	599
SQLサーバ データベースのバックアップ	599
バックアップによるSQLサーバ データベースの復元	600
MSDEデータベースのバックアップ	600
MSDEデータベース コマンド ライン機能を使用したHP Systems Insight Managerのバックアップ	601
関連プロシージャ	602
関連トピック	603
SSHバイパス プロパティの設定	603
監査ログ	603
HP Systems Insight Manager監査ログの設定	604
ツール定義ファイルの設定	604
log.propertiesファイルの設定	604
関連トピック	604
監査ログの表示	604
ログの内容	605
関連トピック	605
監査ログ ファイルの設定	605
関連トピック	607
トラブルシューティング	608
認証	608
ブラウザ	608
CLI	612
CIMOM	613
クラスタ	614
収集	617
カスタム コマンド	617
データベース	618
検出	618
イベント/SNMPトラップ	619
ファームウェア アップグレード	620
一般的な問題	620
HP Systems Insight Manager	621
HTTPイベント	622
識別	622
Internet Explorer	622
インストール	623
IPアドレス	625
OpenSSH	625
オペレーティング システム	625
ポケベル通知	626
ping	626
印刷機能	627
プロパティ ページ	627
プロトコル	628
エージェント設定のレプリケート	628
応答	628
検索	629
セキュリティ	629
Serviceguard Manager	630

サイン イン	631
SNMPエージェント	639
ソフトウェア ステータス	640
ストレージ システム	641
スイッチ	641
システム	642
システム ページ	644
タスク	645
ツール	646
VCRMカタログ	650
Windows NTイベント ログ	650
WMIMapper	651
リファレンス情報	652
定義済みビュー	652
データベース テーブル	653
AuthenticationMethods_valuesテーブル	655
CIM_ActiveConnectionテーブル	655
CIM_Chassisテーブル	655
CIM_ComponentCSテーブル	657
CIM_ComputerSystemPackageテーブル	657
CIM_ComputerSystemテーブル	657
CIM_ControlledByテーブル	658
CIM_DeviceSAPImplementationテーブル	658
CIM_DeviceSoftwareIdentityテーブル	659
CIM_ElementCapabilitiesテーブル	659
CIM_HostedStoragePoolテーブル	659
CIM_IPProtocolEndpointテーブル	659
CIM_IPRouteテーブル	659
CIM_iSCSICapabilitiesテーブル	660
CIM_iSCSIConn_TCProtoEndテーブル	661
CIM_iSCSIConnectionテーブル	661
CIM_iSCSI_Sessionテーブル	661
SCSIProtoEnd_iSCSI_Sessionテーブル	662
SCSIProtoEnd_NetworkPortテーブル	662
CIM_LogicalDeviceテーブル	662
CIM_LogicalDiskテーブル	663
CIM_LogicalPortGroupテーブル	664
CIM_MediaAccessDeviceテーブル	664
CIM_NetworkAdapterテーブル	666
CIM_MemberOfCollectionテーブル	669
CIM_NetworkPipeCompositionテーブル	669
CIM_NetworkPortテーブル	670
CIM_OperatingSystemテーブル	670
CIM_PhysicalElementテーブル	672
CIM_PhysicalMediaテーブル	674
CIM_PhysicalMemoryテーブル	677
CIM_PhysicalPackageテーブル	678
CIM_PortControllerテーブル	678
CIM_PowerSupplyテーブル	679
CIM_Processテーブル	681
CIM_Processorテーブル	683
CIM_Productテーブル	686
CIM_RemoteServiceAccessPointテーブル	687
CIM_SCSIProtocolControllerテーブル	687

CIM_SCSIProtocolEndpointテーブル	688
CIM_ProtoControlAccessesUnitテーブル	688
CIM_ProtocolControllerForPortテーブル	688
CIM_ProtocolControllerForUnitテーブル	688
CIM_ProtocolEndpointテーブル	689
CIM_Rackテーブル	689
CIM_Realizesテーブル	689
CIM_Sensorテーブル	690
CIM_SoftwareElementテーブル	691
CIM_SoftwareIdentityテーブル	692
CIM_StoragePoolテーブル	695
CIM_StorageVolumeテーブル	695
CIM_TCPProtocolEndpointテーブル	696
Classifications_valuesテーブル	696
ComputerSys_HAPテーブル	696
ComputerSys_LogicalPortGroupテーブル	697
ComputerSys_NetworkPortテーブル	697
ComputerSys_PortControllerテーブル	697
ComputerSys_SAPテーブル	697
ComputerSys_SCSIProtoContテーブル	697
ComputerSys_SCSIProtoEndpテーブル	697
ComputerSys_SoftwareIdentテーブル	697
ComputerSys_StorageVolテーブル	698
DB_DeviceInfoテーブル	698
DB_DeviceInfoExテーブル	698
DC_Enclosureテーブル	699
DC_ProliantHostテーブル	700
Dedicated_valuesテーブル	701
DeviceNamesテーブル	702
Device Extended Attributesデータベース テーブル	702
Devicesテーブル	703
DeviceProtocolInfoテーブル	704
ExtentStatus_values table	705
DeviceSnmpSettingsテーブル	705
HP_Clusterテーブル	706
HP_Nodeテーブル	706
HP_NParCabinetテーブル	707
HP_NParCellテーブル	707
HP_NParComplexテーブル	709
HP_NParLOChassisテーブル	710
HP_NParLOChassisSlotテーブル	711
HP_NPartitionテーブル	711
HPUX_BaseKernelParameterテーブル	712
HPUX_Bundleテーブル	712
HPUX_DNSServiceテーブル	715
HPUX_Filesetテーブル	716
HPUX_HFSテーブル	720
HPUX_LogicalVolumeテーブル	721
HPUX_NISServerServiceテーブル	723
HPUX_NTPServiceテーブル	723
HPUX_PhysicalVolumeテーブル	724
HPUX_Productテーブル	724
HPUX_VolumeGroupテーブル	728
IPAddressテーブル	729

IPProtocolEnd_NetworkPortテーブル	729
IPXAddressテーブル	729
OperationalStatus_SVvaluesテーブル	730
PhysicalPackage_Productテーブル	730
SCSIProtoCont_SCSIProtoEndテーブル	730
SCSIProtocolCont_SoftwareIdテーブル	730
SCSIProtoEnd_SCSIProtoEndテーブル	731
NetworkAddresses_valuesテーブル	731
NodeSnapshotテーブル	731
NodeTypesEnumテーブル	731
NodeSubTypesEnumテーブル	732
Noticesテーブル	732
NoticeTypeテーブル	733
OperationalStatus_CSvaluesテーブル	733
OperationalStatus_NPvaluesテーブル	734
operationalStatus_PCvaluesテーブル	734
Snapshotテーブル	734
SPAllocatedFromStoragePoolテーブル	734
SVAllocatedFromStoragePoolテーブル	734
TCPPProtoEnd_IPProtoEndテーブル	735
Windowsのイベント ログ	735
Windows NT/2000イベント	735
Windows NT/2000イベント ログ エラー メッセージ	735
サービスとサポート	737
サービスおよびサポート	737
用語解説	738
索引	756

法的な注意事項

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメンテーション、および商用製品の技術データは、ベンダ標準の商用ライセンスのもとで、米国政府にライセンスが付与されます。

ここに掲載されている情報は、通知することなく変更されることがあります。HP製品とサービスの唯一の保証は、製品とサービスに付属する、明示的な保証声明で規定されます。ここに掲載される情報は、その他の保証を構成するものとして解釈されません。HPは、ここに含まれる、技術的または編集上の誤りや不作為の責任を負いません。

保証

HP製品に適用される特定保証条項の複写、および交換部品は、最寄の販売保守事務所から入手できます。

制限付き権利の一覧

米国政府による使用、複製、開示は、DOD機関用のDFARS 252.227-7013に記述されているRights in Technical Data and Computer Software条項のサブパラグラフ(c)(1)(ii)、およびその他の機関用のFAR 52.227-19に記述されているCommercial Computer Software Restricted Rights条項のサブパラグラフ(c)(1)と(c)(2)に規定されている制限を受けます。

HEWLETT-PACKARD COMPANY 3000 Hanover Street Palo Alto, California 94304 U.S.A.

このパックで提供される、この文書とすべての支援ソフトウェアメディアの使用は、この製品のみに制限されます。プログラムのコピーは、セキュリティとバックアップのみを目的として作成できます。現在の形式で、または変更してプログラムを再販売することは、明示的に禁止されています。

著作権表示

© Copyright 2003-2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標表示

すべてのHP 9000コンピュータのHP-UX 10.20およびそれ以降と、HP-UX 11.00およびそれ以降（32ビット構成および64ビット構成の両方）は、Open Group UNIX 95ブランド製品です。

Intel、Celeron、Itanium、Pentium、Xeonは、米国ならびに他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Javaは、Sun Microsystems, Incの米国における商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国における登録商標です。

Microsoft、Windows、およびWindows NTは、米国における、Microsoft Corporationの登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

リリース履歴

第2.0版、2005年7月

新版が使用可能になったときに新版を受け取るため、適切な製品サポート サービスを受けてください。お手元のマニュアルが最新のものかどうかは、当社の営業担当に確認してください。

はじめに

オンライン ヘルプ

HP Systems Insight Managerには、その管理機能を詳しく説明するオンライン ヘルプ システムがあります。このオンライン ヘルプ システムでは、HP Systems Insight Managerの使用法と管理方法に関する一般情報が提供されます。

- **ヘルプの表示** 任意のページでヘルプアイコンをクリックします。[ヘルプ]ページが独立したウィンドウとして開きます。このウィンドウは移動やサイズ変更が可能です。ほとんどのトピックには関連プロシージャと関連トピックへのリンクがあります。
- **追加情報の閲覧** 目次、インデックス、検索機能からトピックを選択できます。閲覧したいヘルプトピックを表示するには、トップメニューフレームでヘルプアイコンをクリックします。別のトピックを開くには、フレームの左側の目次から、そのトピックを選択します。

HP Systems Insight Managerヘルプ カテゴリ

HP Systems Insight Managerヘルプ システムでは、次のカテゴリが取り扱われています。

- **製品概要。** HP Systems Insight Managerの新機能について概説します。詳細については、「製品概要」を参照してください。
- **お使いになる前に。** HP Systems Insight Managerの使用と管理を始めるための手順を示します。詳細については、「お使いになる前に」を参照してください。
- **検出と識別。** 識別、hostsファイルの管理、検出テンプレートの管理などの検出タスクを作成し、管理する手順を示します。詳細については、「検出と識別」を参照してください。
- **ユーザと認証。** ユーザ、ユーザグループ、ツールボックス、および認証を作成し、管理する手順を示します。詳細については、「ユーザと認証」を参照してください。
- **ネットワークとセキュリティ。** 信頼関係の設定など、ネットワークとセキュリティに関する情報を提供します。詳細については、「ネットワークとセキュリティ」を参照してください。
- **システム、イベント、クラスタの監視。** システムとイベントの監視を始めるための手順を示します。詳細については、「システム、クラスタ、イベントの監視」を参照してください。
- **ストレージ統合。** SNMPおよびSMI-Sストレージ デバイスを検出し、それらの情報を表示する手順を示します。詳細については、「SNMPを使用したストレージ統合」および「SMI-Sを使用したストレージ統合」を参照してください。
- **タスクによる管理。** タスクをスケジュールして実行し、システムとイベントを管理する手順を示します。詳細については、「タスクの使用法」を参照してください。
- **管理を拡張するツール** HP Systems Insight Managerデフォルト ツールを使用する手順を示します。詳細については、「デフォルト ツールの使用法」を参照してください。

- **パートナー アプリケーション** すべてのパートナー アプリケーションのリストとそれらの概要を提供します。詳細については、「パートナー アプリケーション」を参照してください。
- **レポート機能。** カスタムレポートの作成と生成に関する手順を示します。詳細については、「レポート機能」を参照してください。
- **システムとイベントの管理。** HP Systems Insight Managerの管理と保守に関する情報を示します。このセクションの情報は、完全な設定権があるユーザ専用です。詳細については、「システムとイベントの管理」を参照してください。
- **トラブルシューティング。** HP Systems Insight Managerの問題解決に関する情報とヒントを示します。詳細については、「トラブルシューティング」を参照してください。
- **リファレンス。** データベース テーブル、Windows NTエラー ログ メッセージ、MSA ツール、およびサービス/サポートに関する情報を提供します。詳細については、「リファレンス情報」を参照してください。

製品概要

HP Systems Insight Managerは、Insightマネージャ7、HP Tootools、HP Servicecontrolマネージャの長所を組み合わせることにより、Microsoft® Windows®、Linux、HP-UXを実行しているHP ProLiantシステム、Integrityシステム、HP 9000システムを管理する、統一されたツールとしてお使いいただけます。HP Systems Insight Managerソフトウェアの中核部分では、すべてのHP製サーバプラットフォームの管理に不可欠な機能が提供されます。

HP Systems Insight Managerを拡張して、システム管理用に、HPクライアント、ストレージ、電源、およびプリンタ製品のプラグインを提供することができます。ユーザは、迅速なマシンの展開、パフォーマンス管理、パーティション管理、負荷管理のプラグインアプリケーションにより、ハードウェア資産の完全なライフサイクルの管理機能の提供に必要な付加価値ソフトウェアを選択できます。

その他のリソース

その他のリソースについては、HP Systems Insight ManagerのWebサイト <http://www.hp.com/jp/hpsim>を参照してください。

関連トピック

- 機能
- 新機能
- 製品アーキテクチャ
- 支援
- 法的な注意事項

機能

HP Systems Insight Managerでは、次の機能を利用できます。

- **簡単で迅速なインストール。** HP-UX、Windows、またはLinuxを実行しているサーバプラットフォーム、またはWindowsデスクトップやワークステーションにインストールできます。
- **ファーストタイム ウィザード。** HP Systems Insight Managerの初期設定の実行手順を順番に示すオンラインガイダンスを提供します。このウィザードは、中央管理サーバ（CMS）でHP Systems Insight Managerを設定する際に役立ちます。
- **自動検出と自動識別。** ネットワークに接続されているシステムを自動的に検出および識別します。検出フィルタを使用することにより、不必要なシステムタイプの検出を避けることができます。検出フィルタにより、特定のネットワークセグメントやIPアドレスの範囲に検出を限定できます。
- **障害管理とイベント処理。** 実際のコンポーネント障害警告、または発生しようとしているコンポーネント障害警告の、障害予測通知が提供されます。自動イベント処理では、Email、ポケベルまたはShort Message Service（SMS）ゲートウェイを通じて、適切なユーザに障害を通知するためのアクションを設定したり、スクリプトの自動実行や、HP OpenView Network Node ManagerまたはHP OpenView Operationsなどのエンタープライズプラットフォームへのイベント自動転送が可能です。

注記:



WindowsベースのCMSにのみポケベルのサポートがあります。

注記:



日本国内では、ポケベル機能はサポートされていません。

- **一貫性のあるマルチシステム管理。** CMS上でコマンドを1回実行するだけで、複数のシステムまたはノード上でタスクを起動できます。この機能によって、各システムでそれぞれ操作する煩わしさがなくなります。
- **安全なリモート管理。** ユーザ認証のオペレーティングシステムセキュリティ機能、SSL（Secure Sockets Layer）、SSH（Secure Shell）が活用され、管理通信が暗号化されます。
- **役割ベースのセキュリティ。** どのユーザが、どのシステムで、どの管理操作を実行できるかを、システム管理者が細かく制御できるので、管理責任を効果的に委任できます。
- **ツール定義。** 単純なXML文書を使ってツールを定義することにより、既成ツールとユーザ定義ツールを統合できます。ツールには、コマンドラインツール、Webベースのアプリケーション、スクリプトなどがあります。統合されたツールへのアクセスは、役割ベースのセキュリティで制御されます。
- **データ収集とインベントリ レポート。** 総合的なシステム データ収集が実行され、ユーザが管理対象システムの詳細インベントリ レポートを迅速に作成できるようになります。レポートは、HTML、XML、またはCSVフォーマットで生成できます。
- **スナップショット比較。** 4つまでの異なるサーバの設定スナップショットを比較したり、1つのサーバの設定スナップショットを時間の経過に沿って比較したりすることができます。この機能により、IT担当者は、システムの不安定な動作の原因になる可能性がある設定上の問題点を正確に見つけることができます。また、スナップショットの比較により、標準設定の画像を保存して他のシステムと比較することもできます。
- **HPバージョン コントロール。** WindowsおよびLinuxを実行するHP ProLiantサーバについて、最新のBIOS、ドライバ、およびエージェントのアップデート データを自動的にダウンロードし、古いシステム ソフトウェアを実行しているシステムが識別され、サーバ グループ全体でシステム ソフトウェアを更新できるようにします。HP-UXシステムの場合は、Software DistributorがHP Systems Insight Managerに統合されています。
- **2つのユーザ インタフェース。** Webブラウザのグラフィカル ユーザ インタフェース（GUI）とコマンドラインインタフェース（CLI）によって、HP Systems Insight Managerを既存の管理プロセスに組み込みやすくなります。
- **管理対象システムでのシステム プロパティの編集。** [システム ページ]の[システム プロパティの編集]リンクでは、完全な設定権があるユーザが、1つのシステムのシステム プロパティを再設定できます。複数のシステムのシステム プロパティを設定するには、[オブ

ション]>[システム プロパティ]>[システム プロパティの設定]を選択します。これは、HP Systems Insight Managerによってレポートされるシステム プロパティに影響しますが、ターゲット システムのプロパティは変更されません。

- **システムの監視の停止と回復。** 監視の中断時間を設定できます。これにより、HP Systems Insight Managerのステータス ポーリング、識別、データ収集、および自動イベント処理からシステムを除外できます。[システム ページ]の[ツール&リンク]タブの下にある[監視の停止/回復]リンクにより、システム監視の停止または回復時間を設定できます。複数のシステムのシステム監視を停止または回復するには、[オプション]>[システム プロパティ]>[監視の停止または回復]を選択します。中断時間の長さは、事前設定により、5分、15分、1時間、および1日単位で設定できます。停止機能は、無期限に設定することもできます。
- **OpenSSHツールのインストール。** CMSから実行し、対象となるWindowsシステムにOpenSSHサービスをインストールしてから、**mxagentconfig**コマンドを実行して設定を完了します。

注記:



Windows CMSでのみ使用できる機能です。

- **初期ProLiant Support PackインストールによるOpenSSHのインストール（オプション）。** HP Systems Insight Managerでは、[初期ProLiant Support Packインストール]ページで[SSH（セキュア シェル）のインストールと初期化を行います]を選択することによって、初期ProLiant Support Packインストール プロセスを通じてOpenSSHをインストールできます。

注記:



Windows CMSでのみ使用できる機能です。

- **HP-UX Serviceguardクラスタのサポート。** HP Systems Insight Managerは、HP-UX Serviceguardクラスタを認識し、UIに表示します。検索リストのServiceguardクラスタをクリックすることにより、HP Serviceguard Managerを起動し、クラスタに関する情報を参照することができます。
- **HP-UX、Linux、およびSMI-Sデバイスに対するWBEMイベントの操作。** HP Systems Insight Managerでは、GUIを介して、WBEMイベントの予約と予約解除ができます。また、CLIからも、WBEMイベントの予約と予約解除ができます。HP-UXでは、この機能は、11iv2 update 2上でのみ使用できます。
- **HPインスタント サポート エンタープライズ エディション（ISEE）。** HPインスタント サポート エンタープライズ エディション（ISEE）は、HPサポートの提供する機能の1つで、システムおよびデバイスの管理を容易にする事前予防リモート監視/診断ツールです。ISEEは、データセンタ全体の監視を、簡単に統一された方法で行えるようにします。お客様は、多様なシステムで構成されるIT環境を、プラットフォーム別の技術を使用するのではなく、

単一のソリューションで監視および管理できます。ISEEは、HP-UX、Microsoft Windows、Linux、OpenVMS、Tru64 UNIX、NonStop、およびSun Solarisサーバ、接続されている周辺装置、ならびにストレージおよびネットワーク デバイスをお客様が予防的に管理およびサポートできるようにします。ISEEは、ミッションクリティカルなシステム/デバイスとそれ以外のシステム/デバイスの両方をサポートすることによりコストを削減し、複雑さを解消します。ISEEは、ハードウェアイベントの連続的な監視と自動通知を提供することにより、重大な問題を識別しその発生を防止します。また、リモート診断スクリプトやシステムについて収集される重要なシステム コンフィギュレーション情報を利用して、システムの早期回復を可能にします。システムにISEEをインストールして、リスクを軽減し重大な問題の発生を防止してください。

- **HP System Management Homepage。** System Management Homepageは、集中した表示であり、HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアとユーティリティで生成された管理情報と設定データを提供します。HP Webベース エージェントおよび管理ユーティリティからデータを集約することにより、System Management Homepageは、個々のサーバのハードウェアの障害やステータスの監視、パフォーマンス データ、システム スレッショルド、診断およびソフトウェアのバージョン コントロールを行うための使いやすしい共通インタフェースを提供します。
- **Performance Management Pack (PMP) アクセス。** HP ProLiantサーバおよびModular Shared Array (MSA) 共有ストレージのハードウェア障害の検出、分析、説明を行うソフトウェア ソリューション。HP Systems Insight Managerで使用可能なPMPツールには、オンライン分析、オフライン分析、CSVファイル生成レポート、システム概要レポート、静的分析レポート、設定、ライセンス契約、および手動ログ パージがあります。PMPは、通常のインストールによってデフォルトで、または、Management CDからのHP Systems Insight Managerのカスタム インストールによってオプションで、インストールされ、使用可能になります。ライセンスは、サーバとネットワーク ストレージ エンクロージャに適用されます。PMPによって監視されるサーバまたはネットワーク ストレージ エンクロージャごとに1つずつライセンスが必要です。評価のために、すべての機能を使用できる30日間試用ライセンスがPMPに5つ付属しています。インストール、ライセンス付与、およびセットアップの詳細については、Management CDに収録されている『[HP ProLiant Essentials Performance Management Packセットアップ/インストレーション ガイド](#)』を参照してください。
- **HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack (VPM) へのアクセス。** VPMは、セキュリティの脆弱性を識別し、解決するためのアドバイスを提供します。また、取得の自動化、配備の最適化、セキュリティ パッチの強化の継続によって、高度なパッチ管理を提供します。VPMは、Management CDから手動でインストールする必要があります。また、管理するターゲット システムごとに1つずつライセンスが必要です。VPMには、評価の目的でサーバまたはデスクトップ上で使用でき、すべての機能を利用できる無期限のライセンスが5つ付属しています。インストールおよびセットアップの詳細については、Management CDに収録されている『[HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack Quick Setup Poster](#)』および『[HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack User Guide](#)』を参照してください。VPMの詳細については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/proliantessentials/vpm>（英語）を参照してください。

注記:



現在Vulnerability and Patch Management Packは、日本語OSへのインストールはサポートされていません。

- **HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM)** へのアクセス。 VMMは、HP Systems Insight Managerに、VMWareおよびMicrosoft Virtual Server仮想マシンをインストール、複製、監視、および制御する機能を提供します。VMMにアクセスするには、[ツール]>[Virtual Machine Management Pack]を選択します。Windows エージェントのインストールとライセンスのオプションが表示されます。VMMは、HP Systems Insight Managerのカスタム インストールによってオプションで、または、HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Packの下にあるインストールをクリックすることによって個別に、インストールすることができます。評価のために、すべての機能を使用できる30日間試用ライセンスがVMMに5つ付属しています。これらのライセンスは、VMMをインストールすると使用可能になり、VMM Wizardからシステムに適用できます。追加ライセンスの購入については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/servers/proliantessentials/vmm>（英語）を参照してください。詳細については、『HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack User Guide』を参照してください。

注記:

このソフトウェアは、英語版のみ提供されています。

- **HP ProLiant Essentials Server Migration Pack (SMP)**。 VMMの機能を拡張して、統合P2V（Physical-to-Virtual）およびV2V（Virtual-to-Virtual）移行機能を提供します。Server Migration Packを使用すると、サーバ統合プロセスを簡素化できるので、優先順位の高い他の作業に集中できるようになります。すべての機能を使用できる30日間試用ライセンスがSMPに5つ付属しています。追加ライセンスの購入については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/servers/proliantessentials/smp>（英語）を参照してください。

注記:

このソフトウェアは、英語版のみ提供されています。また、日本語OSへのインストールはサポートされていません。

- **HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager** HP Systems Insight Managerは、ブレードの設置、設定、および監視ツールへのアクセスを統合するために設計されたブレード環境を提供します。ピクチャー ビューは、ラックおよびエンクロージャを対象に使用できます。HP BladeSystem Integrated Managerは、HP Systems Insight Managerとともに自動インストールされるため、ライセンス キーは不要です。HP BladeSystem Integrated Managerにアクセスするには、[ツール]>[内蔵コンソール]>[HP BladeSystem]を選択します。詳細については、HPのWebサイト <http://h18004.www1.hp.com/products/servers/management/bsme/index.html>（英語）を参照してください。
- **HPエージェントの設定および修復。** エージェントの設定および修復機能は、HP Systems Insight ManagerによってサポートされているWindows、Linux、およびHP-UXシステムにおいて、SNMP設定の認証情報、System Management HomepageまたはマネジメントHTTPサーバとの信頼関係を修正できるHP Systems Insight Managerの機能です。

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『エージェントの設定および修復』ユーザ ガイドを参照してください。

- **HP ProLiant Essentials Rapid Deployment Pack (RDP) - Windows Edition。** RDPは、マルチサーバ配備ツールです。このツールを使用すると、IT管理者は、無人化された自動の方法で大量のサーバを簡単に配備できます。RDPは、HP Systems Insight Managerとは別にインストールされ、管理されるサーバごとに1つずつライセンスが必要です。RDPは、独自のCDからインストールされます。ネットワーク環境のセットアップ、サーバ配備の要件、およびインストール手順の詳細については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/jp/servers/rdp>を参照してください。インストールが完了したら、製品の登録番号を登録してライセンス ファイルを受け取る必要があります。RDPによって管理されるサーバごとに1つずつライセンスが必要です。
- **Superdome**やその他の複合体のデータ収集およびインベントリ レポート機能。 Superdomeシステムおよびその他のセルラー複合体用にデータ収集およびレポート機能が追加されました。収集可能なデータのタイプには、シャーシ、キャビネット、セル、メモリ、およびハードパーティション (nPars) に関する情報が含まれます。実際に収集されるデータのタイプは、選択されるフィルタによって異なります。
- **HP Storage Essentials。** HPは、データ センタにおける管理の経済性を向上させつつけています。HP Storage Essentialsは、HPの統一サーバ/ストレージ管理プラットフォームであるHP Systems Insight Managerに統合されるように設計された最初のオープンな標準ベース ストレージ製品スイートです。HP Storage Essentialsの詳細については、HPのWebサイト <http://h18006.www1.hp.com/products/storage/software/esuite/index.html> (英語) を参照してください。
- **SSHキーの管理。** [SSHキー]機能により、known_hostsファイルに保存されるパブリックSSHキーを中央管理サーバから表示および管理することができます。SSHキーによって、中央管理サーバと管理対象システムは、安全な接続を認証できます。

関連トピック

- 新機能
- 製品アーキテクチャ
- 支援
- 法的な注意事項
- お使いになる前に

新機能

HP Systems Insight Managerは、クロスプラットフォーム互換性を持つ非常に堅牢な機能セットを備えています。より使いやすくするために、この製品の上部にあるメニュー項目 ([ツール]、[展開]など) は、環境で検出されたシステムに応じて動的に変化します。たとえば、HP-UXシステムが検出されなかった場合は、[最適化]>[Process Resource Manager]などのHP-UX固有のコマンドは表示されません。

HP Systems Insight Manager 5.0の新機能

- グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) の新しい外観。他のHP製品と外観や操作性が似ています。
- HP Systems Insight Managerでは、JREをクライアント システムにインストールする必要がなくなりました。

- インストールされるSMI-Sプロバイダを介して、ストレージシステムを検出。サポートされているデバイスおよびSMI-Sプロバイダについては、HPのWebサイト <http://www.hp.com/go/hpsim/providers>（英語）を参照してください。
- クラスタ モニタは、MSCSクラスタのみを監視します。
- レポートをXMLフォーマットで利用できるようになります。
- 新しいデフォルト レポートとともに提供される新しいレポート エンジン
詳細については、「レポート ビュー」を参照してください。
- すべてのサーバおよびストレージ イベントの統合リストを単一のイベント ビューアに表示します。また、自動アクションを設定して実行することができます。
- 未割り当て領域、RAIDオーバーヘッド、ポートに割り当てられた使用可能バイト、ポートに未割り当ての使用可能バイトなど、ストレージ アレイの容量に関する詳細情報を表示します。
- 柔軟な役割ベースのセキュリティにより、サーバやストレージの詳細情報にアクセスできる管理者を決定できます。
- 単一のシステム ビューアからサーバとストレージの要素 マネージャを起動できます。
- リストとフォルダが収集と呼ばれるようになりました。
- 個々のユーザを作成しなくても、オペレーティング システムのユーザ グループに対応するユーザ グループを作成して、HP Systems Insight Managerへのアクセス権をそれらのユーザ グループに付与することができるようになりました。
詳細については、「新規ユーザ グループの作成」を参照してください。
- **[自動]**、**[手動]**、および**[Hostsファイル]**設定用のタブを持つ**[検出]**ページを含む**[検出]**オプションへのアクセスが改善されました。
詳細については、「検出と識別」を参照してください。
- mxreport、mxcert、mxglobalprotocolsettings、mxglobalsettings、mxcollections、mxgethostnameなどの新しいコマンド ライン インタフェース (CLI) コマンドが追加されました。
詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。
- 複数のシステムのシステム プロパティを同時に設定できます。
詳細については、「複数システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。
- 複数のシステムの監視を同時に停止または回復できます。
詳細については、「複数システムのシステム監視の停止と回復」を参照してください。
- システムおよびクラスタ収集用に新しいツリー ビューを利用できるようになりました。
詳細については、「ツリー ビューのナビゲート」を参照してください。
- 検出タスクを作成、編集、および削除できます。

詳細については、「検出と識別」を参照してください。

- HP-UXおよびLinuxシステム上で、ファイルをコピーしたり、ツールを削除したり、コマンドライン、Web起動、およびX Windowツールを作成したりするための新しいコマンドラインツールを作成できます。

詳細については、「コマンドライン ツール」を参照してください。

- Windows、HP-UX、およびLinuxで、Oracleデータベース（ローカルまたはリモート）の使用をサポートしています。

詳細については、『[HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド](#)』を参照してください。

- Linux、HP-UX、およびWindowsオペレーティング システムを含む、管理対象システム構成のサポートが追加されています。

詳細については、http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『エージェントの設定および修復オンライン ヘルプ』を参照してください。

- ファーストタイム ウィザードは、HP Systems Insight Managerの初期設定の実行手順を順番に示すオンライン ガイダンスを提供します。また、中央管理サーバ（CMS）上でのHP Systems Insight Managerの設定を容易にします。

詳細については、「ファーストタイム ウィザード」を参照してください。

- HP Systems Insight Manager 4.xのHP Systems Insight Manager 5.0へのアップグレードをサポートします。

詳細については、『[HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド](#)』を参照してください。

- HPのサービス分析ツール、Web-Based Enterprise Services (WEBES) およびOpen Service Event Manager (OSEM) は、保守の必要なイベントがあると判断すると、特定のSNMPトラップを使用して、HP Systems Insight Managerに対するサービス通知を生成します。インスタントサポート エンタープライズ エディション (ISEE) をインストールすると、WEBES およびOSEMのサービス通知は、リモートで発生したサポートの必要な事項についてのステータス情報も提供します。

関連トピック

- 機能
- 製品アーキテクチャ
- 支援
- 法的な注意事項
- お使いになる前に

製品アーキテクチャ

HP Systems Insight Managerでは、3タイプのシステム（中央管理サーバ（CMS）、管理対象システム、ネットワーク クライアント）に分類される分散型アーキテクチャが採用されています。

CMSと管理対象システムとを合わせて、HP Systems Insight Manager管理ドメインと呼びます。

中央管理サーバ

それぞれの管理ドメインには、CMSが1つずつあります。CMSは、HP Systems Insight Manager ソフトウェアを実行する管理ドメインのシステムで、ドメイン内のすべての集中操作が開始されます。CMSでは、HP Systems Insight Managerソフトウェアに加え、永続的なオブジェクト用のストレージとなるデータベースが保守管理されます。データベースは、別のシステムにインストールすることもできます。マルチシステム対応（MSA）ツールを実行するアプリケーションも、通常、CMSに常駐します。これらのアプリケーションはCMS上に常駐させる必要はありません。ネットワーク上の任意の場所で使用することができます。

CMSは管理環境内のシステムであるため、ドメインの一部としてシステム自身を管理します。別のCMSを使って管理する場合、他の管理ドメインに管理対象システムとしてCMSを追加できます。

管理対象システム

管理ドメインを構成するシステムは、管理対象システムと呼ばれます。システムは、サーバ、デスクトップ、ラップトップ、プリンタ、ワークステーション、ハブ、ストレージシステム、SAN、ルータなど、HP Systems Insight Managerとやり取りできるネットワーク上のすべてのデバイスを指します。ほとんどの場合、これらのデバイスには、関連するIPアドレスかIPXアドレスがあります。管理対象システムは、必要に応じ、複数のCMSによって管理できます。

管理対象となるシステムには、1つ以上のマネジメント エージェントがインストールされていなければなりません。SNMPに基づくProLiantマネジメント エージェント、Windowsシステムで見られるWMI、HP-UX用のシステム障害管理プロバイダなどのWBEMプロバイダなど、さまざまなエージェントがあります。それらのエージェントは、CMSに管理情報と警告（指示）を提供します。これに対応して、SSHエージェント（サービス）は、HP Systems Insight Manager CMSが管理対象システムにログインしてスクリプトを介して管理コマンドを実行できるようにします。

注記:



IPXシステムは、Windows CMS以外からは検出および管理できません。

システム収集

システム収集は、HP Systems Insight Managerデータベースでシステムをグループ化する方法を提供します。収集は、オペレーティング システム タイプやハードウェア タイプなどの共通の属性を備えるシステムをフィルタするために使用できます。システム収集は、任意のシステムの集合体とすることもできます。システムは、1つ以上のシステム収集に属することができます。デフォルトの共有システム収集が数多く提供されており、また、ユーザが自分の共有収集とプライベート収集を作成することもできます。システム収集にある各システムのタスクは1つの手順で実行できるため、システム収集での作業によって作業効率を増すことができます。すべての共有システム収集の詳細リストについては、「共有システム収集」を参照してください。

ネットワーク クライアント

HP Systems Insight Managerは、どのネットワーク クライアントからもアクセスできます。ネットワーク クライアントは、管理ドメインの一部にすることができます。グラフィカル ユーザ インタフェース（GUI）かSecure Shell（SSH）クライアント アプリケーションにアクセスすることによって、コマンド ライン インタフェース（CLI）に安全にアクセスするには、互換性のあるブラウザをネットワーク クライアントで実行する必要があります。

注記:



CMSでのWebサーバへのアクセスは、特定のユーザに対し、IPアドレス範囲を指定して、制限することができます。

関連トピック

- 機能
- 新機能
- 支援
- 法的な注意事項
- お使いになる前に

支援

その他のリソース

その他のリソースを参照するには、次を参照してください。

- HP Systems Insight ManagerのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim/>。一般製品情報と、ソフトウェア ダウンロード、マニュアル、およびトラブルシューティング情報へのリンクを掲載しています。
- HP Systems Insight ManagerのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim/>。HP Systems Insight Managerのマニュアルおよびリリース ノートにアクセスできます。
- HP Systems Insight ManagerのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim/>。HP Systems Insight Managerソフトウェア ダウンロードにアクセスできます。
- HPビジネス サポート センタのWebサイト<http://www.hp.com/bizsupport/>（英語）。HP Systems Insight Managerとその他の個人ユーザ向けHP製品のサポート情報が掲載されています。
- HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/support>。HP Systems Insight Managerとその他の企業ユーザ向けHP製品のサポート情報が掲載されています。
- HP Systems Insight Manager SMI-SプロバイダのWebページ <http://www.hp.com/go/hpsim/providers>（英語）。デバイス サポートとSMI-Sプロバイダについての情報が掲載されています。

テクニカル サポート

該当するサポート契約を結んでいるお客様は、HP World-Wide Response Centerを通して、通常営業時間中にテクニカル サポートを利用できます。

関連トピック

- リソース ライブラリ
- 機能
- 新機能
- 製品アーキテクチャ
- 法的な注意事項
- お使いになる前に

お使いになる前に

HP Systems Insight Managerを初めて使用する場合は、ソフトウェアの使い方に慣れ、ご自身の環境に合わせて設定する必要があります。まず、「製品概要」セクションにある情報を参照して、製品についての知識を修得してください。次に、権限レベルに対応した「お使いになる前に」の推奨手順を完了してください。

- グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) にサイン インします。詳細については、「ログイン」を参照してください。
- HP Systems Insight Managerホーム ページについて調べます。詳細については、「ホーム ページのナビゲート」を参照してください。
- 新規インストールの場合は、初期設定を実行します。新規でない場合は、初期設定と関連した手順を参照して、基本の管理タスクを参照してください。詳細については、「初期設定の実行」を参照してください。完全な設定権があるユーザのみが、この機能を使用できます。
- タスクの実行およびスケジュールの方法について調べます。詳細については、「タスクの使用法」を参照してください。
- HP Systems Insight Managerレポートの機能について調べます。詳細については、「レポート機能」を参照してください。
- コマンド ライン インタフェース (CLI) を使用する場合は、HP Systems Insight Manager コマンドを参照してください。詳細については、「コマンドラインインタフェース コマンドの使用」を参照してください。完全な設定権があるユーザのみが、この機能を使用できます。
- ホーム ページおよびシステム ステータスパネルをカスタマイズします。詳細については、「ホーム ページのカスタマイズ」および「システム ステータス パネルのカスタマイズ」を参照してください。

関連プロシージャ

- ログイン
- サイン アウト
- ホーム ページのナビゲート
- 初期設定の実行
- コマンド ライン インタフェース コマンドの使用
- ホーム ページのカスタマイズ
- システム ステータス パネルのカスタマイズ

関連トピック

- 製品概要
- システム、クラスタ、イベントの監視
- タスクの使用法
- システムとイベントの管理

ログイン

Webブラウザを使用してグラフィカル ユーザ インタフェース（GUI）にアクセスするか、またはSecure Shell（SSH）クライアントを使用して、コマンドライン インタフェース（CLI）にアクセスします。

初めてHP Systems Insight Managerにサイン インする際には、ファーストタイム ウィザードポップアップ ウィンドウが表示されます。ファーストタイム ウィザードには、HP Systems Insight Managerの使用を開始するための情報と手順が表示されます。終了をクリックしてウィンドウを閉じます。HP Systems Insight Managerにサイン インするたびにこのウィンドウを表示させたくない場合は、**[今後自動的にこのウィザードを表示しない。]**を選択してから終了をクリックしてください。詳細については、「ファーストタイム ウィザード」を参照してください。

注記：日本語OS上にHP Systems Insight Managerをインストールする場合、ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Packはインストールされません。そのため、上記のポップアップ ウィンドウは表示されません。

GUIへのサイン イン

Webブラウザを使用して任意のネットワーク クライアントからHP Systems Insight ManagerのGUIにアクセスします。サポートされているブラウザについては、『[HP Systems Insight Manager インストール/ユーザ ガイド](#)』を参照してください。

注記:



HP Systems Insight Managerへのアクセス後、ブラウザの同じプロセスで任意のウィンドウを開いて直前に使用したものと同一HP Systems Insight Manager URLに移動する場合は、再サイン インすることなくHP Systems Insight Managerが開きます。新しいインスタンスでブラウザ プロセスを開始してHP Systems Insight Managerに移動する場合は、サイン インが必要です。

HP Systems Insight Managerにサイン インしてから別のサイトに完全に移動する場合、HP Systems Insight Managerのセッションはタイムアウトになります。20分以内にブラウザの同じプロセスを使用してHP Systems Insight Managerに戻る場合は、再びサイン インする必要はありません。それ以外の場合は再サイン インが必要です。

注記:



Windows 2003システムから中央管理サーバ（CMS）にアクセスする際に、アクセスに問題がある場合は、ブラウザがCMSを信頼するように設定しなければならない場合があります。これは次のように実行します。

1. CMSにアクセスするシステム上で、**[スタート]->[設定]->[コントロール パネル]->[インターネット オプション]->[セキュリティ]->[信頼済みサイト]**を選択し、サイトをクリックします。
2. **[次のWebサイトをゾーンに追加する]**で、CMSを入力するか、追加をクリックします。システムは、**https://<中央管理サーバ名>:50000**として追加します。

3. **OK**をクリックして、CMSを追加します。

GUIへのサイン イン

1. ネットワーク クライアント上でサポートされているWebブラウザを開き、
http://hostname:280/に移動して、サイン イン ページのアドレスを入力します。
hostnameには中央管理サーバのホスト名を指定します。

注記：Windows CMSに直接サイン インする場合は、**HP Systems Insight Manager**デスクトップ アイコンを使用してサイン イン ページにアクセスするか、[スタート]->[プログラム]->[HP Systems Insight Manager]->[HP Systems Insight Manager]を選択してください。

2. 必要に応じて、[ユーザ名]、[パスワード]、[ドメイン]、および[タイムゾーン]を入力します。

注記：ブラウザでタイムゾーンが確定している場合は、[タイムゾーン]選択フィールドは表示されません。

3. サイン インをクリックします。

SSLを使用したサイン イン

HP Systems Insight ManagerシステムのSecure Sockets Layer (SSL) システム証明書でブラウザを設定していない場合は、SSLでHP Systems Insight Managerに初めてアクセスしたとき、出所が信頼できない証明書に関するセキュリティ警告が表示されます。セキュリティ警告が表示された場合は、次の手順のうちの1つを実行します。

- ブラウザを使用して、ブラウザに証明書をインポートします。[ロック]アイコンをダブルクリックして証明書を表示し、証明書をインストールします。詳細については、「サーバ証明書のインポート」を参照してください。
- HP Systems Insight Managerシステムのローカル ブラウザから最初にアクセスして、HP Systems Insight Managerシステム証明書をファイルにエクスポートします。次に、リモートブラウザに手動でインポートします。詳細については、「サーバ証明書のエクスポート」を参照してください。
- 今回は信頼証明書なしでHP Systems Insight Managerシステムにサイン インし、将来、証明書をインポートすることにします。データは暗号化されます。

注意:



アクセスしているHP Systems Insight Managerシステムが、実際に信頼できるHP Systems Insight Managerシステムであることが不明な場合は、最後の2つのSSLオプションのいずれかは選択しないでください。HP Systems Insight Managerシステムに扮装している詐称されたシステムにサイン イン証明書を与えることになるか、HP Systems Insight Managerシステムに扮装している詐称されたシステムから証明書をインポートし、また、サイン イン証明書を与えることになります。

HP Systems Insight ManagerとのSSLセッションが確立すると、ブラウザとHP Systems Insight Manager間のすべての通信がSSLを使用して保護されます。

CLIへのログイン

HP Systems Insight ManagerのCLIにはCMS上で直接アクセスするか、またはSSHクライアントソフトウェアを使用してネットワーク クライアントからアクセスします。

注記:

Windows CMSでは、ユーザがローカルのAdministratorsグループのメンバでないと、使用できないコマンドがあります。該当するコマンドは、次のとおりです。



- mxagentconfig
- mxauth
- mxcert
- mxcollection
- mxexec
- mxglobalprotocolsettings
- mxglobalsettings
- mxlog
- mxmib
- mxngroup
- mxnode
- mxquery
- mxreport
- mxstm
- mxtask
- mxtool
- mxtoolbox
- mxuser
- mxwbemsub

CMSでの直接ログイン

CMSから直接CLIにログインする方法

1. 有効なユーザ名とパスワードを使用してCMSにログインします。

オペレーティングシステムでのユーザログインに基づきHP Systems Insight Managerによって認証が与えられます。

2. 端末ウィンドウかコマンド プロンプト ウィンドウを開いて、HP Systems Insight Manager コマンドを実行します。

SSHクライアントを使用したリモートでのログイン

注記:



リモートからログインする有効な方法は、SSHクライアントを使用することです。Telnetやrloginでもログインはできますが、どちらも安全に接続することができません。

SSHクライアントを使用してCLIにリモートでログインする方法

1. 任意のネットワーク クライアント上でSSHクライアント アプリケーションを開きます。
2. 有効なユーザ名とパスワードを使用しSSHクライアントソフトウェアを介してCMSにログインします。

オペレーティングシステムでのユーザ ログインに基づきHP Systems Insight Managerによって認証が与えられます。

関連トピック

- お使いになる前に
- サイン アウト
- コマンド ライン インタフェース コマンドの使用
- ネットワークとセキュリティ

サイン アウト

システムから離れる場合は、HP Systems Insight Managerからサイン アウトし、他人がアクティブ セッションにアクセスできないようにしてください。

HP Systems Insight Managerの監視中は、ブラウザを閉じたり別のサイトに移動しない限り、セッションは実行され、定期的に更新されます。この場合、20分が経過するとHP Systems Insight Managerによりユーザはサイン アウトされます。HP Systems Insight Managerで作業している限り、セッションは実行中のままになります。ただし20分間何の操作も行わなかった場合は、HP Systems Insight Managerではセッションが強制終了になり、ユーザはサイン アウト状態になります。セッションを実行中の状態に保つための手順については、『[HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド](#)』の第14章の『[GUIのタイムアウト ポリシー](#)』を参照してください。

グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) からのサイン アウト

GUIからサイン アウトするには、次のように操作します。

1. HP Systems Insight Managerバナーの[サイン アウト]をクリックします。
2. Webブラウザを閉じます。

コマンドライン インタフェース（CLI）からのサイン アウト

CLIからサイン アウトするには、CMSまたはSecure Shell（SSH）クライアント アプリケーションからログオフします。

関連トピック

- お使いになる前に
- ログイン

ファーストタイム ウィザード

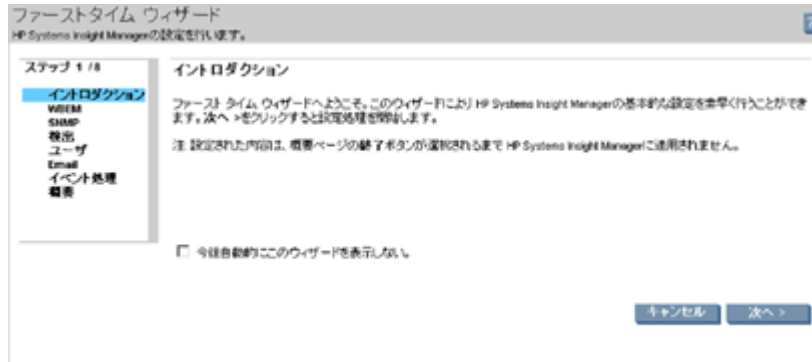
ファーストタイム ウィザードは、ユーザがHP Systems Insight Managerの初期設定を正しく行えるように、オンラインで手順を順番に説明していきます。ウィザードを使用すると、中央管理サーバ（CMS）上で、HP Systems Insight Managerに関する以下の設定を行うことができます。

- WBEMプロトコル
- SNMPプロトコル
- 自動検出
- ユーザ設定
- Email設定
- 自動イベント処理

注記:



自動検出が選択されていると、ファーストタイム ウィザードの終了時に検出が実行されます。自動検出が選択されていない（デフォルトでは選択されていません）場合、検出を実行するには、デフォルトの[システム自動検出]タスクを有効にする必要があります。[オプション]>[検出]を選択し、[システム自動検出]タスクを選択してください。有効をクリックするとこのタスクが有効になります。



ウィザードは、完全な設定権があるユーザがHP Systems Insight Managerに最初にログインする際に、起動します。ウィザードが完了する前にキャンセルすると、完全な設定権があるユーザが次にサイン インする際に再び起動します。【今後自動的にこのウィザードを表示しない。】チェックボックスを選択すると、ウィザードは取り消され、以後、自動起動しなくなります。【オプション】->【ファーストタイム ウィザード】を選択すると、ウィザードを手動で起動できます。ウィザードが起動すると、【ファーストタイム ウィザード イントロダクション】ページが表示されます。

【概要】で選択項目を確認し、終了をクリックして、設定を保存します。自動検出がただちに開始され、HP Systems Insight Managerデータベースにデータが格納されます。

注記:



ファーストタイム ウィザードは、HP Systems Insight Managerの基本設定のみを行います。詳細については、関連プロシージャおよび関連トピックを参照してください。

関連プロシージャ

- グローバル プロトコル設定
- 検出一般設定の指定
- 自動検出の設定
- 新規検出タスクの作成
- ユーザおよびユーザ グループ
- 新規ユーザの作成
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- Email設定の指定
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成

関連トピック

- システムとイベントの管理
- プロトコル
- WBEMイベント
- データ収集
- 検出と識別
- イベント
- イベント管理について

初期設定の実行

初期設定には、管理対象システムのセットアップ、検出の設定、イベント処理の設定、ユーザの追加、認証の定義などがあります。この時点で、中央管理サーバ（CMS）のインストールが完了済みであることが前提になります。ファーストタイムウィザードを省略またはキャンセルした場合、以下の手順を実行することにより、ご使用の環境をHP Systems Insight Manager実行用にセットアップできます。

既存の管理ドメインの管理を新たに担当する場合は、CMSが初期設定を終了していたとしても、以下の手順について知っておくことは後々役に立ちます。このプロセスの手順は、HP Systems Insight Managerの管理者が定期的に行うタスクとして一般的なものです。

初期設定のプロセス

HP Systems Insight Managerを初めて起動すると、紹介ページには、**【インストールを完了するために以下をすぐに実行してください】**というセクションが表示されます。HP Systems Insight Managerを初めて使用するには、次のように操作します。

1. **管理対象システムを設定します。** 具体的な作業は、必須のマネジメント エージェントのインストールとHP Systems Insight Managerソフトウェアの設定です。詳細については、「管理対象システム」を参照してください。
2. **プロトコル設定。** プロトコル設定を設定することにより、次のステップで検出を使用しHP Systems Insight Managerに追加するシステムを定義します。詳細については、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。

ファーストタイムウィザードを実行している場合は、この手順は既に完了している可能性があります。

3. **検出の設定：自動または手動。** 検出とはHP Systems Insight Managerがネットワークのシステムを検出および識別し、得られた情報をデータベースに登録するプロセスです。データの収集およびシステムヘルスステータスの追跡を行うには、最初にシステムを検出する必要があります。新しいシステムを検出するには、次の2つの方法があります。

- **自動検出** 自動検出では、特定のプロトコルを実行しているシステムをネットワーク上で検索します。自動検出は24時間ごとに自動的に実行されますが、任意の時刻に手動で実行することもほかの時刻に実行するようにスケジュールすることもできます。

ファーストタイムウィザードを実行している場合は、この手順は既に完了している可能性があります。

- **手動検出** hostsファイルを使用して、単体のシステムやシステムのグループを追加します。

自動検出の詳細については「自動検出の設定」、手動検出の詳細については「システムの手動追加」を参照してください。

4. **新規ユーザを追加します。** 有効なネットワークログインのあるユーザはHP Systems Insight Managerに追加されます。詳細については、「ユーザおよびユーザグループ」を参照してください。

ファーストタイムウィザードを実行している場合は、この手順は既に完了している可能性があります。

5. **Emailの設定。** Email設定を指定することによって、ユーザは特定のイベントのEmail通知を受信できます。Email設定の詳細については、「Email設定の指定」を参照してください。
6. **ポケベル設定。** ポケベル設定により、ユーザは特定のイベントのあるユーザに通知するページを受信できます。ポケベル設定の詳細については、「モデム設定の指定」を参照してください。
7. **自動およびイベント処理の設定。** 自動イベント処理の設定では、イベントが受信されるときにHP Systems Insight Managerが実行するアクションを定義できます。自動イベント処理では、前のセクションで指定されたEmailおよびポケベルの設定を使用するよう設定できます。詳細については、「これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成」および「既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成」を参照してください。

関連トピック

- ログイン
- サイン アウト
- ホーム ページのナビゲート

ホーム ページのナビゲート

グラフィカル ユーザ インタフェースの機能

このセクションでは、グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) の機能について説明します。次の図は、GUIのスクリーン ショットのサンプルです。

GUIには次の5種類の領域があります。

1. **バナー。** バナーには、ホーム ページへのリンクと、HP Systems Insight Managerのサイン アウトへのリンクがあり、現在ログイン中のユーザを示します。
2. **システム ステータス パネル。** このパネルは、未確認のイベント ステータスおよびシステム ヘルス ステータス情報を提供し、特定のイベントまたはステータスについては警告して知らせます。[システム ステータス]パネルは、環境に応じてカスタマイズすることができます。このパネルを常に表示しておく必要がない場合は、パネルの右上のマイナス記号をクリックして折り畳むことができます。パネルを展開するには、もう一度プラス記号をクリックします。[システム ステータス]パネルを折り畳んでも、警告を受け取ると、パネルが展開され、警告が表示されます。
3. **検索パネル。** 検索の機能により、システム名や共通のシステム属性を基に検索できます。条件で選択して一致した内容について、さらに高度な検索を実行することもできます。このパネルを常に表示しておく必要がない場合は、パネルの右上のマイナス記号をクリックして折り畳むことができます。パネルを展開するには、もう一度プラス記号をクリックします。詳細については、「基本検索と高度な検索」を参照してください。
4. **システムおよびイベント収集。** システム収集とイベント収集により、ある特定のサブセットにおける既知のシステムとイベントをすべて表示できます。収集は、プライベート（作成者だけが表示可能）または共有（すべてのユーザが表示可能）に設定できます。HP Systems Insight Manager は、デフォルトの共有収集のみが定義された状態で出荷されます。新しい収集のカスタマイズおよび作成については、「システム、クラスタ、イベントの監視」を参照してください。HP Systems Insight Managerに付属のデフォルト共有コレクションの詳細については、「デフォルト パブリック収集」を参照してください。

5. **メニュー。** HP Systems Insight Managerのメニューを使用して、ツール、ログ、ソフトウェアオプション、およびオンラインヘルプにアクセスできます。**[オプション]メニュー**は、HP Systems Insight Managerソフトウェアを管理しているユーザを主にターゲットとしています。これらのツールを使用する権限がない場合は、このメニューにアクセスできない可能性があります。
6. **作業領域。** 作業領域は最新のリクエスト結果を表示します。ここには収集、ツール、レポートを表示できます。ツールの中には、作業領域内に表示するのではなく、別のブラウザウィンドウやX Window端末を起動するものもあります。この領域には、ユーザがHP Systems Insight Managerにサインインしたときに表示されるホームページが含まれます。デフォルトでは、ホームページが紹介ページとして表示されます。



デフォルトのホーム ページ機能

HP Systems Insight Managerの紹介ページは、GUIのデフォルトのホームページです。紹介ページには、HP Systems Insight Managerに関する情報とヒント、および頻繁に使用する機能へのリンクが表示されます。別のページをホームページとして表示するようにHP Systems Insight Managerをカスタマイズすることができます。別の紹介ページを選択する詳細については、「ホームページのカスタマイズ」を参照してください。次の図は、紹介ページのスクリーンショットのサンプルです。

紹介ページには、次の4つのデフォルトのセクションがあります。

1. **インストールを完了するために以下をすぐに実行してください。** このセクションは、次の条件を満たす場合のみ表示されます。
 - ユーザに、完全な設定権がある。
 - ユーザが**[ホームページの設定]**ページでこのセクションを無効にしていない。

2. **監視。** このセクションには、システムおよびイベントの確認と追跡などの共通の監視タスクへのリンクがあります。すべての監視タスクは、システムおよびイベント収集領域にある機能とツールを使用して実行できます。
3. **管理。** このセクションには、上記の作業領域のメニューにある、頻繁に使用されるツールや機能へのリンクがあります。これらのリンクを使用して、インベントリレポート、ソフトウェアとファームウェアのデプロイメント、検出、イベント処理、統合カスタムコマンド、および認証にアクセスできます。
4. **参照情報。** このセクションには、HP製品、サービス内容、およびソフトウェアについて調べる際に役立つヒントとショートカットが表示されます。

このセクションは、ユーザが[ホーム ページの設定]ページでこのセクションを無効にしている場合にのみ表示されます。

The screenshot shows the HP OpenView Home page. At the top, there's a 'ホーム' (Home) header with a help icon. Below it, a section titled 'インストールを完了するには' (To complete installation) lists tasks for configuration, user addition, and notification settings. A checkbox allows users to '今後これを表示しない' (Don't show this again). The main area is divided into two columns: '監視 ②' (Monitoring) and '管理 ③' (Management). The Monitoring column lists tasks like viewing all systems, events, health, and creating custom views. The Management column lists tasks like managing reports, updating software, using custom commands, and configuring event handling. Below these is a '参照情報' (Reference Information) section with links to various HP products and documentation. On the right side of the page, there's a large green box with the text 'HP OpenView !!' and '稼働効率が断然アップ' (Operational efficiency is significantly improved).

関連トピック

- ホーム ページのカスタマイズ
- システム ステータス パネルのカスタマイズ

ホーム ページのカスタマイズ

ホーム ページをカスタマイズすることにより、表示するページを選択したり、デフォルトのホーム ページと紹介ページの領域をカスタマイズしたりできます。

ホーム ページをカスタマイズするには、次のように操作します。

1. バナーのホームをクリックして、作業領域にホーム ページを表示します。

2. 紹介ページの右上にあるカスタマイズをクリックします。

注記：デフォルトの紹介ページ以外にホーム ページを設定した場合は、[オプション]>[ホーム ページ設定]を選択して、[ホーム ページ設定]ページにアクセスできます。

3. 次から、ホーム ページとして使用するページを指定します。

- 紹介ページ（デフォルト）
- [ステータス概要]ページ
- 特定のシステム、クラスタ、またはイベント収集

注記：デフォルトの紹介ページは、ホーム ページとして設定されている場合のみ使用できます。このページをホーム ページとして設定していない場合に表示させるには、ホーム ページとして再選択してください。

4. (省略可能) 紹介ページがホーム ページとして選択されている場合は、次のいずれかを選択または選択解除して、ページ上の内容をカスタマイズします。

- [インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]フレームを表示がチェックされていると、このセクションがホーム ページに表示されます。
- [参照情報イメージを表示]がチェックされていると、ホーム ページの底部右隅にイメージが表示されます。

関連トピック

- ホーム ページのナビゲート
- システム ステータス パネルのカスタマイズ

システム ステータス パネルのカスタマイズ

[システム ステータス]パネルをカスタマイズして、次のステータス情報を表示します。

- **未確認イベント ステータス。** 特定のシステム収集における、クリティカル、メジャー、マイナー、正常といった、未確認イベント ステータスの数を示します。番号は、具体的なステータスの状態にあるイベントの詳細なリストへのハイパーリンクです。番号をクリックすると、イベント収集が具体的なイベントおよび対応するシステムとともに表示されます。
- **ヘルス ステータス。** 指定されたシステム収集における、クリティカル、メジャー、マイナー、正常といった、システムヘルス ステータスがあるシステムの数を表示します。番号は、具体的なステータスの状態にあるシステムの詳細なリストへのハイパーリンクです。番号をクリックすると、具体的なシステムを含むシステム収集が表示されます。デフォルトではヘルスステータスは表示されませんが、表示されるように設定することもできます。
- **警告。** 警告は、指定されたシステム収集が特定の条件を満たす場合に表示させるようにカスタマイズすることができます。警告では、収集内の1つ以上のシステムが特定の条件を満たしていることがユーザに通知されます。ステータス パネルは頻繁に更新されるので、イベントをクリアするか、収集からシステムを削除するか、警告のカスタマイズを変更して非表示にするまで、警告は表示されます。[システム ステータス]パネルを折り畳んでいても、警告が発生すると、警告を確認できるようにパネルが自動的に開きます。パネルは、閉じることができですが、警告が有効である間は開きつづけます。パネルを折り畳んだままにするには、警告の原因となっているイベントまたはシステム ステータスをクリアするか、警告が表示されないようにステータス表示を設定しなおす必要があります。

- ステータス アイコンの凡例。 ステータス アイコンのリストを表示するには、[システム ステータス]パネルの[汎用]をクリックします。凡例情報はポップアップ ウィンドウで表示され、閉じるまで開いたままになります。デフォルト ユーザ テンプレートの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。

注記:



ステータスを表示しないように[システム ステータス]パネルをカスタマイズすると、タイムスタンプは表示されません。

[システム ステータス]パネルをカスタマイズするには、次のように操作します。

1. [システム ステータス]パネルの右上にある[カスタマイズ]をクリックします。[システム ステータスのカスタマイズ]ページが表示されます。
2. 最初の[概要の表示]を選択し、[未確認イベント ステータス]または[ヘルス ステータス]を選択します。
 - a. システム収集[すべてのシステム]を選択するか、ドロップダウン リストから別のシステム収集を選択します。
 - b. 必要であれば、[ラベル]を編集します。
3. 2番目の[概要の表示]を選択し、[未確認イベント ステータス]または[ヘルス ステータス]を選択します。
 - a. システム収集[すべてのシステム]を選択するか、ドロップダウン リストから別のシステム収集を選択します。
 - b. 必要であれば、[ラベル]を編集します。
4. [システムが次の条件に適合したら、アラートを表示します]を選択します。
 - a. [条件]を選択します。
 - b. システム収集[すべてのシステム]を選択するか、ドロップダウン リストから別のシステム収集を選択します。
 - c. 必要であれば、[ラベル]を編集します。
5. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。

注記：デフォルトの復元は、カスタマイズ画面をデフォルトの状態に戻します。デフォルトでは、未確認イベント ステータスだけがバナーに表示されます。ヘルス ステータスおよび警告は表示されません。すべての個人用情報は削除されます。

関連トピック

- ホーム ページのナビゲート

- ホーム ページのカスタマイズ
- システム ステータス タイプ

言語ロケールの設定

はじめに

オペレーティング システム、コマンド シェル、またはWebブラウザで使用する言語またはロケールを英語と日本語のいずれかに設定してHP Systems Insight Managerを実行できます。中央管理サーバ（CMS）管理対象システムの両方でインストールされた指定の言語をすべてサポートする必要があります。HP Systems Insight Managerで使用するラベル、メニュー、ステータス、およびエラー メッセージのすべてが要求された言語で表示されます。ブラウザのグラフィカル ユーザ インタフェース（GUI）は、Webブラウザで選択されている言語で表示されます。また、CMSを通じて対話形式で実行されるツールおよびタスクには、ターゲット システムでコマンドラインを使用してツールを実行する言語と同じ言語が使用されます。これにより、希望した言語を使用してWebブラウザがツールを実行したり、スケジュールされたタスクを作成したり、スケジュールされたタスクを手動で実行したりできます。同様に、コマンドシェルの言語設定が、**mxexec**および**mxtask**のコマンド ライン コマンドを通じて転送され、ターゲット システムでコマンド ラインを使用してツールを実行する場合に、ツールの実行、タスクの手動実行、スケジュールされたタスクの作成で使用する言語が設定されます。

また、CMSはどのユーザセッションからも独立した別のロケールを備えています（「HP Systems Insight Managerの設定」を参照）。これは、CMSロケールと呼ばれます。ファイルのログや自動イベント処理によって送信されるEmailメッセージなど、どのセッションからも中立な一部の機能では、このロケールが継承されます。

Webブラウザの言語またはロケールの設定

Webブラウザを設定して希望の言語を選択する場合に、HP Systems Insight Manager GUIでもその言語が使用できるように設定されます。選択可能な言語は英語と日本語だけです。ブラウザのロケールも言語の設定およびツールのコマンドを実行するSecure Shell（SSH）コマンドシェルのエンコーディングに使用できます。ブラウザのロケールは、スケジュールされたタスクの作成時にタスク内に保存され、単一システム対応（SSA）ツールの場合はターゲット システム、マルチシステム対応（MSA）ツールの場合は実行システム上で、言語の設定やエンコーディングに使用されます。タスクを手動で実行する場合は、今回のタスクの手動実行（SSAツールとMSAツール）については、現在のブラウザのロケールが、スケジュールされたタスクに設定してあるロケールを上書きします。

Internet Explorerで使用する言語の設定

Internet Explorerで使用する優先言語に日本語を設定する手順は次のとおりです。

1. [ツール] -> [インターネット オプション] -> [言語]を選択します。[言語の優先順位]ウィンドウが表示されます。
2. 追加をクリックします。[言語の追加]ウィンドウが表示されます。
3. リストから日本語[ja]を選択します。
4. **OK**をクリックすると、言語の優先順位リストに日本語が追加されます。
5. 言語の優先順位リストで[日本語]を選択し、上へをクリックしてリストの一番上に移動します。または、リストに表示されている他の言語を選択して削除します。

6. **OK**をクリックします。すべてのウィンドウが閉じるまで**OK**をクリックします。

Mozillaで使用する言語の設定

Mozillaで使用する優先言語に日本語を設定する手順は次のとおりです。

1. **[編集]**->**[設定]**を選択します。**[設定]**ウィンドウが表示されます。
2. 左側の**[カテゴリ]**リストで、**[Navigator]**ドロップダウン リストを選択して開き、**[言語]**を選択します。**[言語]**ビューが右側に表示されます。
3. 追加をクリックします。**[言語を追加]**ウィンドウが表示されます。
4. リストから日本語**[ja]**を選択します。
5. **OK**をクリックすると、言語の優先順位リストに日本語が追加されます。
6. 言語の優先順位リストで**[日本語]**を選択し、上に**移動**をクリックしてリストの一番上に移動します。または、リストに表示されている他の言語を選択して削除します。
7. **OK**をクリックして、設定を保存し、ウィンドウを閉じます。

Windowsで使用する言語またはロケールの設定

HP Systems Insight Managerをインストールして日本語モードで実行するには、現在のユーザのロケールを**[日本語]**に設定する必要があります。詳細については、「Windows XPの言語設定」か「Windows 2000のロケール設定」を参照してください。これらのステップ終了後にHP Systems Insight Managerをインストールすると、日本語の言語モードで起動します。HP Systems Insight Managerのインストールの詳細については、『HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド』を参照してください。

Windows XPの言語設定

1. **[スタート]**->**[コントロール パネル]**->**[地域と言語のオプション]**->**[詳細設定]**をクリックします。
2. **[Unicode対応でないプログラムの言語]**の下で、**[日本語]**を選択します。
3. 変更内容を適用するには、**適用**をクリックします。
4. システムを再起動します。

システムが再起動したら、コマンド プロンプト ウィンドウを開いて、**chcp 932**（日本語）および**chcp 437**（英語）を実行して、2つの言語を切り替えます。HP Systems Insight ManagerのCLIコマンドはCodeページを使用してどのロケールかを判定して、**dir**などのコマンド プロンプト コマンド実行のための出力をエンコーディングします。

Windows 2000のロケール設定

1. **[スタート]**->**[設定]**->**[コントロール パネル]**->**[地域のオプション]**->**[全般]**をクリックします。
2. 既定値に設定をクリックします。**[システム ロケールの選択]**ウィンドウが表示されます。
3. ドロップダウン リストから、**[日本語]**を選択します。

4. **OK**をクリックします。
5. **適用**をクリックします。
6. 変更内容を適用するには、**適用**をクリックします。
7. システムを再起動します。

システムが再起動したら、コマンドプロンプトウィンドウを開いて、**chcp 932**（日本語）および**chcp 437**（英語）を実行して、2つの言語を切り替えます。HP Systems Insight ManagerのCLIコマンドはCodeページを使用してどのロケールかを判定して、**dir**などのコマンドプロンプトコマンド実行のための出力をエンコーディングします。

HP-UXおよびLinuxの言語設定

希望する言語と文字マップのエンコーディングのサポートが管理対象システム（SSAツール用）と実行システム（MSAツール用、通常はCMS）にインストールされていることを確認します。確認するには、次のように実行します。

locale -a

必要な言語と文字マップのエンコーディングがリストされているかを確認します。これ以外に、X-Windowタイプのコマンドツールを実行する場合は、X-Windowアプリケーションの表示用に選択したX Displayの設定が、このアプリケーションと、要求された言語で必要なフォントリストを使用するようになっていることを確認する必要があります。Motif X Windowアプリケーション（Xクライアント）の場合は、表示を希望する言語にCDE Desktopを設定をするだけで準備できる場合があります。X11 MotifまたはGnome widget用のX11リソースファイルのプロパティを、使用する言語とエンコーディング（例：日本語およびSJIS）をサポートするフォントで設定されているフォントリストにセットするか、XクライアントのXリソースファイルの設定を、各アプリケーションで使用する特定のフォントリストにセットする必要があります。これは一般に、**xlsfonts**を実行して、どのフォントがインストールされているかを検索し、Xアプリケーションでどの言語がサポートされているかを調べ、アプリケーションが自身のapp-defaultsファイルにフォントをどのように設定しているかを確認した後で、XクライアントのX Resourceファイルプロパティを編集してアプリケーションのフォントリストプロパティを設定することを意味します。

HP Systems Insight Managerの設定

HP Systems Insight Managerは、次のロケールを制御するロケール設定を変更するために修正することができる設定ファイルを備えています。

- **CMSのロケール。** CMSのログおよび自動イベント処理タスクによって送信されるEmailで使用される言語に影響する、CMSのロケールです。
- **ターゲット ロケール。** SSHによってリモートシステムでコマンドを実行する際に使用されるロケール、文字マップエンコーディング、Code Page、およびLANG変数です。

この設定ファイルは、globalsettings.propsという名前で、次の場所にあります。

- **Windowsの場合。** C:\Program Files\HP\System Insight Manager\config\globalsettings.propsにあります。
- **HP-UXおよびLinuxの場合。** /etc/opt/mx/config/globalsettings.propsにあります。

CMSロケール

デフォルトでは、CMSロケールは、環境によって決定されます。HP-UX CMSでは、"`LANG=`" in "`/etc/rc.config.d/LANG`"を検索して、その設定を使用します。Linux CMSでは、"`LANG=`" in "`/etc/sysconfig/i18n`" and "`/etc/sysconfig/language`"を検索して、その設定を使用します。Windows CMSでは、Java仮想マシンのデフォルトのロケール設定が使用されます。これは、HP Systems Insight Managerのインストールに使用されたユーザ アカウントのロケール設定に基づいています。

CMSによって使用されるロケールが希望するロケールと異なる場合は、`globalsettings.props`を手動で編集し、希望するロケールの行（`CMSLocale=en_US`など）を追加して、CMSロケールを変更することができます。

ターゲット ロケール

HP Systems Insight Managerでは、ロケールの文字マップのエンコーディングは、オペレーティング システムおよび言語の種類によって異なる場合があります。HP Systems Insight Managerで各ターゲット システム(SSAツールを実行)または各実行システム(MSAツール、通常はCMS)で使用するエンコーディングを選択可能にするために、`globalsettings.props`ファイルに追加できないいくつかのプロパティのフォーマットが定義されています。これらのプロパティで提供する文字マップ エンコーディングは、オペレーティング システムごとに特定の言語を使用できるようにしたり、Windowsターゲットおよび実行システムでそれぞれの言語を使用するためのCode Pageコードを指定します。また、LinuxまたはHP-UXシステムで、`LANG`環境変数のエンコーディングを定義するストリングも提供されます。また、各オペレーティング システムでサポートされない言語に使用する内容を定義するためのプロパティもあります。このようなプロパティ名のフォーマットは次のようになります。

```
"TargetCharacterMapEncoding_" + language + "_" + os_name + "=" + encoding
"TargetCodePage_" + language or encoding + "_" + os_name + "=" + code page number
"TargetLangEncoding" + encoding + "_" + os_name + "=" + encoding string
```

`language`には、言語の2つの文字コードを指定し、`os_name`には、サポートされているオペレーティングシステム（Linux、HP-UX、WINNTなど）の大文字のキーワードを入れます。また、`encoding`には、オペレーティング システムの言語の文字マップ エンコーディングの正式名称を指定します。サポートされている名前は、Webページ <http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/guide/intl/encoding.doc.html> の2列目に記載されています。

次のように入力します。

```
TargetCharacterMapEncoding_ja_LINUX=EUC_JP
TargetCharacterMapEncoding_??_LINUX=ISO8859_1
TargetCharacterMapEncoding_ja_HP-UX=SJIS
TargetCharacterMapEncoding_??_HP-UX=ISO8859_1
TargetCharacterMapEncoding_ja_WINNT=SJIS
TargetCharacterMapEncoding_??_WINNT=ISO8859_1
TargetCodePage_ja_WINNT=932
TargetCodePage_??_WINNT=437
```

Windowsターゲット システムおよび実行システムについては、これらのプロパティを使用して、SSHコマンド プロンプト シェルで**chcp**コマンドを実行するように選択し、Windowsコマンド ライン コマンドを実行するための言語とエンコーディングを強制設定します。次に例を示します。

chcp 932（言語を日本語Shift-JISに強制設定）

chcp 437（言語を米国の英語にし、最低でもISO-8859-1サポートを適用するように強制設定）

LinuxとHP-UXのターゲット システムおよび実行システムの場合は、エンコーディングをロケールと共に使用して、ターゲット システムと実行システムのSSHシェル環境に定義される**LANG**環境変数を定義します。これらのオペレーティング システムで**locale -a**コマンドを実行すると、使用されている値の例を見つけることができます。次に例を示します。

LANG=en_US.iso88591

（米国の英語およびHP-UXのISO-8859-1エンコーディング）

LANG=ja_JP.SJIS

（日本語、HP-UXのShift-JISエンコーディング）

LANG=ja_JP.eucjp

（日本語、LinuxのEUC-JPエンコーディング）

LANG=en_US.utf8

（米国の英語、LinuxのUTF-8エンコーディング）

コマンド ライン インタフェース コマンドの使用

HP Systems Insight Managerには、グラフィカル ユーザ インタフェース（GUI）以外にコマンド ライン インタフェース（CLI）を備えています。GUIで実行可能な機能の多くが、CLIを介しても使用できます。ここでは、利用可能なHP Systems Insight Manager コマンドの一覧と関連マニフェストへのリンクを記載し、各コマンドの機能について説明します。

HP Systems Insight Managerコマンド

HP Systems Insight Managerコマンドは、CMS上の次の場所にインストールされています。

- HP-UXおよびLinux：

/opt/mx/bin/

- Windows：

C:\Program Files\HP\System Insight Manager\bin\

注記:



HP Systems Insight Managerがデフォルトの場所にインストールされていなかった場合、Windowsパスは上記とは異なります。

HP-UX、またはLinuxシステム上にあるコマンドラインからマンページを表示するには、次のマンページ セクションを使用します。

- HP-UX :

- コマンドのマンページは、セクション1Mにあります。
- XML ファイルを使用するコマンドの、マンページはセクション4にあります。

- Linux :

- XMLファイルを使用するコマンドの、マンページはセクション4にあります。

- Windows :

- Windowsシステムでは、マンページは次のフォルダにあります。

HP\System Insight Manager\hpwebadmin\webapps\mxhelp\mxportal\en\manpages

次の表には、HP Systems Insight Managerコマンドの完全なリストがあります。これらのコマンドの詳細については、マンページ リンクをクリックして、関連マンページを表示してください。このページに戻るには、ブラウザの[戻る]矢印を使用します。

コマンド	機能	表示可能なマンページ
mcompile	mxmibコマンドを使用してHP Systems Insight Managerにインポートするために、Simple Network Management Protocol (SNMP) 管理情報ベース (MIB) ファイルを中間フォーマット (.CFG) ファイルにコンパイルします。	mcompile(1M) [man/mcompile.1m.html]
mxagentconfig	中央管理サーバ (CMS) と連携するエージェントを設定します。	mxagentconfig(1M) [man/mxagentconfig.1m.html]
mxauth	ツールボックスに基づく権限の追加、削除、またはリストを行います。また、既存のユーザから別のユーザに権限をコピーします。	mxauth(1M) [man/mxauth.1m.html] mxauth(4) [man/mxauth.4.html]

コマンド	機能	表示可能なマンページ
mxcert	新しい証明書を作成し、署名済みおよび信頼済み証明書をインポートし、証明書を削除し、証明書をリストし、証明書署名要求を生成し、必要な信頼済み証明書を示し、HP Systems Insight Manager 4.xから証明書をアップグレードし、パブリック証明書を[System Management Homepage]の共有ディレクトリと同期化させます。	mxcert(1M) [man/mxcert.1m.html]
mxcollection	収集の追加、修正、削除およびリストを行います。 注記: mxcollection XMLファイルのコンポーネントとタグでは、大文字と小文字が区別されます。	mxcollection(1M) [man/mxcollection.1m.html]
mxdomainmgr	データベースと分散タスクファシリティ (DTF) と連携するオブジェクト マネージャが含まれます。	mxdomainmgr(1M) [man/mxdomainmgr.1m.html]
mxdtf	Secure Shell (SSH) がインストールされている管理対象システムで、リモートからコマンドを実行するために使用するDTFが含まれます。	mxdtf(1M) [man/mxdtf.1m.html]
mxexec	関連引数による特定のHP Systems Insight Manager管理対象システムでのHP Systems Insight Managerツールの実行、実行中のツールのステータスに関する確認、および完全な設定権を持つユーザによる実行中のタスクの停止やキャンセルを行います。	mxexec(1M) [man/mxexec.1m.html]
mxgethostname	HP Systems Insight Manager内のローカル ホストの名前を出力します。	mxgethostname(1M) [man/mxgethostname.1m.html]
mxglobalprotocolsettings	グローバル プロトコル設定の管理に使用され、XMLからグローバル プロトコル設定を設定し、グローバル プロトコル設定を詳細フォーマットまたはXMLフォーマットでリストします。	mxglobalprotocolsettings(1M) [man/mxglobalprotocolsettings.1m.html]

コマンド	機能	表示可能なマンページ
mxglobalsettings	globalsettings.props ファイルのグローバル設定の管理に使用されます。	mxglobalsettings(1M) [man/mxglobalsettings.1m.html]
mxinitconfig	CMSの初期設定を実行します。	mxinitconfig(1M) [man/mxinitconfig.1m.html] mxinitconfig(4) [man/mxinitconfig.4.html]
mxlog	ログ ファイルまたは標準出力にエントリを記録します。	mxlog(1M) [man/mxlog.1m.html]
mxmib	HP Systems Insight ManagerのMIBのリストに関する追加、削除、および処理を行い、登録されたMIBと特定の登録されたMIBのトラップをリストします。	mxmib(1M) [man/mxmib.1m.html]
mxngroup	HP Systems Insight Managerからのシステム グループの追加、修正、削除、またはリストを行い、システム リストからシステムを追加および削除し、1つのシステム グループから別のシステム グループにシステムをコピーします。	mxngroup(1M) [man/mxngroup.1m.html] mxngroup(4) [man/mxngroup.4.html]
mxnode	HP Systems Insight Manager管理ドメインにおけるシステムの追加、修正、識別、削除、またはリストを行います。	mxnode(1M) [man/mxnode.1m.html] mxnode(4) [man/mxnode.4.html]
mxnodesecurity	SNMPプロトコルとWebベース エンタープライズ管理 (WBEM) プロトコルのセキュリティ証明書の追加、修正、または削除を行います。	mxnodesecurity(1M) [man/mxnodesecurity.1m.html]
mxpassword	HP Systems Insight Managerに保存されているパスワードの追加、リスト、修正、または削除を行います。	mxpassword(1M) [man/mxpassword.1m.html]
mxquery	HP Systems Insight Managerのリストにおける追加、リスト、修正、または削除を行います。	mxquery(1M) [man/mxquery.1m.html] mxquery(4) [man/mxquery.4.html]
mxreport	レポート タイプとカテゴリをリストし、デフォルト レポートと一般的なレポートを生成します。	mxreport(1M) [man/mxreport.1m.html]

コマンド	機能	表示可能なマンページ
mxrepositoryrestore (HP-UXおよびLinuxのみ)	以前作成したバックアップからHP Systems Insight Managerデータベースを復元します。	mxrepositoryrestore(1M) [man/mxrepositoryrestore.1m.html]
mxrepositorysave (HP-UXおよびLinuxのみ)	HP Systems Insight Managerデータベースをバックアップします。	mxrepositorysave(1M) [man/mxrepositorysave.1m.html]
mxstart	CMSが使用するデーモンやプロセスを起動します。	mxstart(1M) [man/mxstart.1m.html]
mxstm	システム タイプ管理ルール、の、追加、削除、およびリストを行います。	mxstm(1M) [man/mxstm.1m.html]
mxstop	CMSが使用するデーモンやプロセスを停止します。	mxstop(1M) [man/mxstop.1m.html]
mxtask	HP Systems Insight Managerがスケジュールしたタスクのリスト、実行、削除、作成、および所有権の変更を行います。	mxtask(1M) [man/mxtask.1m.html] mxtask(4) [man/mxtask.4.html]
mxtool	HP Systems Insight Managerからツールの追加、修正、および削除を行います。	mxtool(1M) [man/mxtool.1m.html] mxtool(4) [man/mxtool.4.html]
mxtoolbox	HP Systems Insight Managerシステムからツールボックスの追加、修正、または削除を行います。	mxtoolbox(1M) [man/mxtoolbox.1m.html] mxtoolbox(4) [man/mxtoolbox.4.html]
mxuser	HP Systems Insight Managerにおけるユーザの追加、修正、削除、またはリストを行います。	mxuser(1M) [man/mxuser.1m.html] mxuser(4) [man/mxuser.4.html]
mxwbemsub	WBEM指定のサブスクリプション機能を一連のシステムに対して実行します。この機能により各システムに引数として渡されたサブスクリプションの追加、削除、リスト、または移動などが行われます。	mxwbemsub(1M) [man/mxwbemsub.1m.html]

関連トピック

- ログイン

リソース ライブラリ

このセクションでは、タスクの実行、問題のトラブルシューティング、さまざまな機能の学習などに役立つ、HP Systems Insight Managerの資料へのリンクを提供します。

- **HP環境でのソフトウェア メンテナンスの自動化**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP環境におけるソフトウェアのメンテナンスの自動化』を参照してください。

- **HP Systems Insight Manager**システム名の変更

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP Systems Insight Managerのシステム名の変更』を参照してください。

- **HP Systems Insight Manager**による**SNMP MIB**のコンパイルおよびカスタマイズ

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『Compiling and customizing SNMP MIBs with HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。

- エージェントの設定および修復

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『エージェントの設定および修復オンライン ヘルプ』を参照してください。

- **MSCS**クラスタへの**HP Systems Insight Manager**のインストール

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『Deploying HP Systems Insight Manager on MSCS Clusters white paper』を参照してください。

- **System Management Homepage**の（**HP Systems Insight Manager**を使用しない）個別インストール

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP System Management Homepage インストール ガイド』を参照してください。

- バージョン コントロールの（**HP Systems Insight Manager**を使用しない）個別インストール

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HPバージョン コントロール インストール ガイド』を参照してください。

- **HP ProLiant Essentials Performance Management Pack**データ マイグレーション ツールのインストールおよび使用

<http://www.hp.com/products/pmp>にある『HP ProLiant Essentials Performance Management Packデータ マイグレーション ツール インストール/ユーザ ガイド』を参照してください。

- **HP Systems Insight Manager**のインストール

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド』を参照してください。

- **ProLiant**または**Integrity Support Pack**に関するさらなる学習

- ProLiant Support Packの詳細については、<http://h18013.www1.hp.com/manage/psp.html>（英語）を参照してください。
- ProLiant Support Packのダウンロード方法については、<http://www.hp.com/support/itaniumservers>（英語）を参照してください。

- Integrity Support Packのダウンロード方法については、
<http://www.hp.com/support/itaniumservers>（英語）を参照してください。

- **ProLiantリモート デプロイメント ユーティリティに関するさらなる学習**

ProLiantリモート デプロイメント ユーティリティの詳細については、
<http://h18013.www1.hp.com/manage/rdu.html>（英語）を参照してください。

- **HP Systems Insight ManagerによるHP-UXシステム用のWBEMイベント予約の管理**

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『WBEM Subscriptions in HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。

- **HP Systems Insight Managerによるファイアウォール経由でのHPサーバの管理**

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『Managing HP servers through firewalls with HP System Insight Manager white paper』を参照してください。

- **HP Systems Insight Managerへの手動での移行**

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『Manually Migrating to HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。

- **新しいシステムへのHP Systems Insight Managerの移動**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP Systems Insight Managerの新しいシステムへの移行』を参照してください。

- **HPドライバ、サポート、およびセキュリティ警告と、HP製品用にカスタマイズされたソフトウェア アップデートの受け取り**

<http://www.hp.com/go/subscribe-gate1>（英語）を参照してください。

- **管理対象システムのセットアップ**

「管理対象システム」を参照してください。

- **HP Systems Insight Managerへの移行**

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『Transitioning to HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。

- **HP Systems Insight Managerセキュリティに関する理解**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP Systems Insight Managerのセキュリティについて』を参照してください。

- **HP ProLiant Essentials Server Migration Packの使用**

<http://www.hp.com/products/pmp>（英語）にある『HP ProLiant Essentials Server Migration Pack User Guide』を参照してください。

- **HP Systems Insight ManagerでのSecure Shell (SSH) の使用**

<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『Secure Shell (SSH) in HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。

- **HP OpenViewの使用**

<http://h18000.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）にある『HP Systems Insight Manager and HP OpenView white paper』を参照してください。

- **HP StorageWorks Management SoftwareによるHP Systems Insight Managerの使用**

<http://h200001.www2.hp.com/bc/docs/support/SupportManual/c00057439/c00057439.pdf>（英語）にある『Using HP Systems Insight Manager with HP StorageWorks Management Software white paper』を参照してください。

- **PDF形式でのHP Systems Insight Managerのオンライン ヘルプ全体の表示**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP Systems Insight Managerテクニカル リファレンス ガイド』を参照してください。

- **オンラインでのHP Systems Insight ManagerのRead Meファイルの表示**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP Systems Insight Manager用Read Me』を参照してください。

- **PDF形式でのSystem Management Homepageのオンライン ヘルプ全体の表示**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP System Management Homepage 製品概要』を参照してください。

- **PDF形式でのHPバージョン コントロール エージェントのオンライン ヘルプ全体の表示**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HPバージョン コントロール エージェント製品概要』を参照してください。

- **PDF形式でのHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャのオンライン ヘルプ全体の表示**

http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ』を参照してください。

関連トピック

- [トラブルシューティング](#)
- [お使いになる前に](#)
- [パートナー アプリケーション](#)

検出と識別

完全な設定権がある場合に限って、すべてのタイプの検出を実行できます。

検出には、次の2種類があります。

- **自動検出。** ネットワーク上のシステムを検出および識別し、その情報をデータベースに☐入力するため、HP Systems Insight Managerが使用するプロセス。データの収集およびシステムヘルスステータスの追跡を行うには、そのシステムを事前に検出しておく必要があります。
- **手動検出。** 全自動検出を実行せずに、1台以上のシステムをデータベースに追加したり、HP Systems Insight Managerデータベースhostsファイルや一般hostsファイルの作成やインポートを実行できます。

自動検出

データの収集およびシステムステータスの追跡を行うには、そのシステムを検出しておく必要があります。**[システムからイベントを受け取ると、自動的にそのシステムを検出します]**機能は、デフォルトで無効になっていますが、**[一般設定]**セクションで選択して有効にすることができます。**[システムからイベントを受け取ると、自動的にそのシステムを検出します]**では、IPXベースのSNMPトラップがサポートされていません。検出を実行するには、デフォルトの**[システム自動検出]**プロセスを有効にする必要があります。**[オプション]->[検出]**を選択し、デフォルトタスクを選択して、有効をクリックしてください。タスクを編集し、IP範囲が正しいことを確認することをおすすめします。

[一般設定]セクションにアクセスするには、**[オプション]->[検出]**を選択し、**[自動]**タブを選択し、**[一般設定]**をクリックするか、紹介ページの**[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]**セクションにある**[自動]**をクリックするか、または**[ホーム]**ページの**[管理]**セクションにある**[検出]**をクリックします。

HP Systems Insight Managerは、インターネットプロトコル（IP）とInternetwork Packet Exchange（IPX）プロトコル（Windowsのみ）を使用して自動検出を実行します。

注記:



検出を実行するには、デフォルトの**[システム自動検出]**タスクを有効にする必要があります。**[オプション]->[検出]**を選択し、**[システム自動検出]**タスクを選択してください。有効をクリックするとこのタスクが有効になります。タスクを編集し、IP範囲が正しいことを確認することをおすすめします。

IPプロトコル

HP Systems Insight Managerは、リストされたアドレス範囲でシステムをpingした際、IPプロトコルを実行しているシステムを検出します。デフォルトは、ローカルサブネットであり、その範囲はHP Systems Insight Managerが動作するシステムに割り当てられたIPアドレスに対応します。ネットワークのその他のシステムやセグメントをHP Systems Insight Managerに検出させるには、アドレスリストを変更します。

[グローバル プロトコル設定]ページの[デフォルトHTTP設定]セクションでHTTPを有効にしないと、Webエージェントは検出されません。HTTPを有効にするには、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。自動検出でクラスタが検出されるようにするには、[設定]セクションで[IP範囲のping]を選択し、クラスタIPアドレスとすべてのノード アドレスを[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]にリストする必要があります。[設定]セクションにアクセスするには、[自動]タブを選択し、新しい検出タスクについては新規、既存の検出タスクを編集する場合は編集をクリックします。

HP Systems Insight Managerは、システムのグローバル ユニーク識別子を使用して、複数のIPアドレスを含むHPシステムを識別します。

IPXプロトコル

HP Systems Insight Managerは、IPXシステムが生成するService Advertising Protocol (SAP) ブロードキャストを受信して、IPXプロトコルを実行するシステムを検出します。Novell NetWare 3.xサーバは、自動的にSAPブロードキャストを生成します。Novell NetWare 4.x以上のサーバは、SAPブロードキャストを生成するように設定できます。

注記:



IPXは、Windowsベースの（CMS）システムのみでサポートされます。

以下は、IPXプロトコルに固有の条件です。

- IPX検出では、1台のマシンに1つのネットワーク インタフェース カード（NIC）のみが検出されます。
- IPXシステムでは、NetWareサーバのみが検出されます。

イベント ベースの自動検出

イベント ベースの自動検出は、デフォルトで無効になっています。この機能を有効にするには、[システムからイベントを受け取ると、自動的にそのシステムを検出します。]を選択します。これを選択すると、SNMPトラップ、WBEM表示、その他のイベントを送信するシステムのうち、データベースでIPアドレスが一致しないものが、イベント ベースの自動検出によってHP Systems Insight Managerに追加されます。[ping除外範囲、テンプレートもしくはhostsファイル]オプションを使用すると、イベント ベース自動検出から除外するIPアドレスを入力できます。[オプション]->[プロトコル設定]->[グローバル プロトコル設定]の[グローバル プロトコル設定]ページでSNMPが無効にされていると、SNMPトラップは無視されます。WBEMが無効にされていると、WBEM表示も無視されます。

注記:



SNMP認証エラートラップにより、自動検出が実行されることはありません。その他すべてのトラップでは、自動検出が実行されます。

自動検出はデフォルトで無効に設定されていますが、**[検出]**ページから検出を有効にできます。**[自動]**タブを選択し、テーブルで**[システム自動検出]**タスクを選択し、有効をクリックしてください。また、編集をクリックすることもできます。**[スケジュール]**セクションで、**[毎回、自動的に検出を実行]**を選択して、検出時間を設定してください。自動検出を無効にした場合、**[検出]**ページで選択して有効にするまで、新しい自動検出が実行されることはありません。また、いつでも手動検出を実行できます。自動検出のスケジュール設定の詳細については、「自動検出の設定」を参照してください。

検出テンプレート

検出テンプレートは、自動検出によって使用されるファイルであり、**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**フィールドや**[ping除外範囲、テンプレートもしくはhostsファイル]**フィールドにアドレスを直接入力する代わりとなります。これにより、自動検出のスコープを迅速に変更できるようになります。検出テンプレート セクションにアクセスするには、**[検出]**ページから**[自動]**タブを選択し、**[テンプレートの管理]**をクリックします。

たとえば、広範囲のアドレスに対してpingを実行する場合、あまり検出されない、広範囲のアドレスを持つ検出テンプレートを設定できます。必要な場合は、**[検出の編集]**セクションの**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**フィールドで、テンプレートを入力として使用できます。このセクションにアクセスするには、**[オプション]**→**[検出]**を選択し、**[自動]**タブを選び、編集をクリックします。また、テンプレートを使用すると、アドレスを切り取って貼り付けたり、手動で範囲を入力したりする手間を省き、迅速に検出スコープを変更できます。

検出テンプレートの作成後、自動検出でそのテンプレートを参照するには、**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**フィールドか**[ping除外範囲、テンプレートもしくはhostsファイル]**フィールドで `@template_name` を使用します。詳細については、「IP範囲」を参照してください。

注記:



検出は、複数のスケジュールおよび設定（範囲）をサポートするようになりました。このため、テンプレートの必要性は、大幅に減少しています。検出テンプレートを使用する代わりに、いくつかの異なる検出スケジュールおよび設定を活用することをおすすめします。

注記:



1つの検出テンプレートに包括範囲と除外範囲の両方を入れることはできません。自動検出の各フィールドに使用するテンプレートは、個別に作成する必要があります。テンプレート ファイルをネストすることはできません。つまり、`@template_name`の参照で、あるテンプレート ファイルに別のテンプレート ファイル名を含めることはできません。

検出テンプレートのフォーマットは、自動検出を設定するとき、**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**フィールドと**[ping除外範囲、テンプレートもしくはhostsファイル]**フィールドで使用するフォーマットと同じです。

検出テンプレートにアクセスするには、**[検出]**ページの**[すべての自動検出に対して]**セクションの下にある**[テンプレートの管理]**をクリックします。検出テンプレート ファイルの作成方法については、「検出テンプレートの管理」を参照してください。

hostsファイル

既存のhostsファイル、HP Systems Insight Managerデータベースから作成したファイル、またはHP Systems Insight Managerのエクスポート済みhostsファイルを、システム追加のベースとして使用します。一般的に、このファイルはシステム名、そのIPアドレス、およびシステムで 사용되는任意のエイリアス名のリストです。

hostsファイルをインポートすることによって、ただちに検出を行う必要がなくなります。たとえば、深刻なシステム障害の場合は、管理環境を再設定するベースとしてバックアップしたhostsファイルをインポートし、データベースを自動的に再作成します。hostsファイルユーティリティを使用してシステムを追加しても、データベースのシステムは置き換わりません。たとえば、hostsファイルにリストされているシステムのIPアドレスが、既存のシステムと同じIPアドレスである場合、この重複は無視されます。データベースにすでに存在しているシステムは変更されません。

hostsファイルは、次のソースからインポートできます。

- システム データをインポートしたり、hostsファイルを作成したり、選択に従ってデータ タイプを並べ替えたりするHP Systems Insight Managerデータベース。
- 既存hostsファイルを含む、別のシステム。

hostsファイルの作成や管理には、**[検出]**ページの**[hostsファイル]**タブを選択してください。

初回検出

検出は、次のような方法で開始できます。

- **[検出]**->**[自動]**ページで、検出タスクを選択し、編集をクリックして環境に合わせて検出タスクを設定してから、すぐに実行をクリックして、検出をただちに実行します。ただちにプロセスが開始されます。システムが検出され、検出プロセスが終了するまで、検出の進行状況が更新されます。
- 十分な時間をかけて完全な検出と識別を実行します。これにかかる時間は、ネットワーク、帯域幅、および検出設定値によって異なります。ほとんどの場合、検出プロセスはネットワークに対してpingを実行し、すべてのシステムを検出します。

後続検出

[検出]->**[自動]**ページからは、いつでも検出を実行できます。初回以後の検出では、照会するサブネットやシステム、使用するプロトコル、および検出スケジュールを指定できます。ネットワークにNovell社製システムが存在する場合は、検出プロトコルとしてIPXを選択してください。

最も包括的な検出と識別を行うには、**[オプション]**->**[プロトコル設定]**->**[グローバル プロトコル設定]**ページで、SNMP、DMI、WBEM、HTTPのすべてをプロトコルとして選択します。**[グローバル プロトコル設定]**ページでは、デフォルトのコミュニティ名とWBEMパスワードを設定します。詳細については、「グローバル プロトコル」を参照してください。

ステータス表示では、検出の実行中、**[最後に実行]**列に**[実行]**と表示され、処理の進行状況が表示されます。また、**ping**試行の回数と処理済みシステムの数も表示されます。処理済みシステムとは、識別が完了したIPアドレスまたは応答しないことが判明したIPアドレスを持つシステムのことです。処理済みシステムは、データベースに追加されているとはかぎりません。

手動検出

手動検出では、完全な検出を実行せずに、次のタスクを実行できます。

- 1つのシステムをHP Systems Insight Managerデータベースに追加。
- 複数のシステムをhostsファイルで追加。
- HP Systems Insight Managerのhostsファイルの作成とインポート。
- Insightマネージャ（WIN32）で作成したかエクスポートされたhostsファイルのインポート（hostsファイルは、システムの追加またはシステム情報の復元プロセスを自動化します）。
- システムの追加またはシステム情報の復元プロセスを自動化するための汎用hostsファイルの作成またはインポート。
- 物理的にネットワークに接続する前にシステムを設定。

IPアドレスをシステム名として、システムはデータベースに追加されます。ネットワーク上でシステムがアップして識別が実行された後で、システム名は、IPアドレスではなく、システムの名前で更新されます。

手動検出ページには、次のようにアクセスできます。

- **[オプション]>[検出]**をクリックし、**[手動]**タブを選択します。
- 紹介ページの**[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]**セクションで**[手動]**をクリックします。
- **[ホーム]**ページの**[管理]**セクションで、**[検出]**をクリックします。

1つのシステムを追加するオプション

- システムのIPアドレスかホスト名を調べます。いずれかを認識していれば、HP Systems Insight ManagerはネットワークのDNS（ドメイン ネーム サービス）で情報を検証することによって、もう一方を検出することができます。
- クラスタとそのノードを追加するには、それぞれのIPアドレスを個別に入力します。
- システム タイプ、システム サブタイプ、またはWBEM証明書と、製品モデルを設定するかどうかを決めます。
- **[システム プロトコル設定]**ページでシステムの**[WBEM設定]**を指定します。[use custom settings]を選択し、適切なユーザ名とパスワードを入力することによって、デフォルトのユーザ名とパスワードを上書きすることができます。
- このシステムのSNMP設定が一意であるか、またはグローバル検出設定に一致するかどうかを指定します。現在のシステムのデフォルト設定が表示されます。デフォルト設定を上書きして異なる値を指定する場合、そのコミュニティ名は、システムでサポートされている必要があります。そのコミュニティ名がサポートされていない場合、いずれかのデフォルト

ト設定がサポートされていれば、HP Systems Insight Managerはデフォルト値に戻ります。修正できる設定は次のとおりです。

タイムアウト	HP Systems Insight Managerがシステムに要求を送信したときにSNMP応答を待機する時間。デフォルトのタイムアウト値が表示される。時間内に応答を受信しなかった場合、HP Systems Insight Managerは、そのシステムがSNMPをサポートしていないと判断する場合があります。この値を小さくすると試行回数が増加するため、ネットワークトラフィックが増えることがあります。この値は慎重に変更すること。通常、LANの場合は、この値を3秒にすることが有効ですが、システムがWAN経由で接続されている場合は、より大きな値（10秒など）で試してください。
再試行回数	システムとの通信を最初に試行した後、試行をやめるまでの追加試行回数。
コミュニティ名	コミュニティ名はシステムとコンソール間のやり取りを許可したり禁止したりする認証を設定。コンソールのコミュニティ名は、システムのコミュニティ名と対応する必要がある。読み取り専用コミュニティ名を使用し、変数を読み取る。書き込みコミュニティ名を使用し、変数を修正する。1回の通信の試行に有効なコミュニティは1つのみだが、1つのシステムは複数のコミュニティに属することができる。ただし、HP Systems Insight Managerは、システムと通信する際に1つのコミュニティ名しか使用しない。

注記:



IPアドレスを使用した場合、適切に名前に解決されないと、名前はGUIに表示されません。

1つのシステムをデータベースに追加する手順については、「システムの手動追加」を参照してください。

関連プロシージャ

- 自動検出の設定
- 検出一般設定の指定
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの無効化または有効化
- 検出タスクの削除
- 検出タスクの実行

- 新規検出テンプレート ファイルの作成
- 検出テンプレートの編集
- 検出テンプレートの削除
- システムの手動追加
- 新規hostsファイルの作成
- hostsファイルの編集
- hostsファイルの削除
- データベースへのhostsファイルのシステムの追加

関連トピック

- hostsファイルの管理
- 検出テンプレートの管理
- 識別
- 検出フィルタ
- データ収集
- ステータス ポーリング
- プロトコル
- 検出と識別

自動検出の設定

[検出]ページの[自動]タブにアクセスすると、テーブルが表示され、使用できるすべての検出タスクの一覧が表示されます。検出の複数のインスタンスを、各インスタンスに独自のスケジュールと包括範囲を指定して、設定できます。検出タスクを実行すると、[最後に実行]列が更新され、処理の完了率などの進行状況が表示されます。

注記:



一度に複数の検出タスクを実行することはできません。複数の検出タスクを選択した場合、現在実行されているタスクが完了するまでは、[最後に実行]列の進行状況は0%のままで変わりません。

[すべての自動検出に対して]セクションの下には、3つのオプションがあります。

- **一般設定** すべての検出タスクに適用される設定に使用します。詳細については、「検出一般設定の指定」を参照してください。
- **テンプレートの管理** 検出テンプレートの管理に使用します。詳細については、「検出テンプレートの管理」を参照してください。
- **グローバル プロトコル設定の指定** グローバル プロトコル設定の指定に使用します。詳細については、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。

注記：クラスタを正しく検出するには、HP Systems Insight Managerで正しいセキュリティ設定でSNMP（Simple Network Management Protocol）を有効にしてターゲット システムで実行する必要があります。

注記：DMI識別は、WindowsベースおよびHP-UXベースの中央管理サーバ（CMS）のインストールでのみサポートされています。また、同種のオペレーティング システムしか識別で

きません。たとえば、WindowsベースのCMSはWindowsベースのDMIシステムだけを、HP-UXベースのCMSはHP-UXベースのDMIシステムだけを、それぞれ識別できます。

[自動]タブからも、以下の操作を実行できます。

- **新しい検出タスクの作成。** 新規をクリックすると、[新規検出]セクションが表示されます。詳細については、「新規検出タスクの作成」を参照してください。
- **既存検出タスクの編集。** テーブルからタスクを選択し、編集をクリックします。[検出の編集]セクションが表示されます。詳細については、「検出タスクの編集」を参照してください。
- **検出タスクの有効化または無効化。** タスクを選択し、無効をクリックして、有効になっているタスクのスケジュールを無効にします。タスクが無効な場合は、ボタンが有効に変わります。タスクの自動実行を再開するには、有効をクリックします。詳細については、「検出タスクの有効化または無効化」を参照してください。
- **既存検出タスクの削除。** テーブルからタスクを選択し、削除をクリックします。詳細については、「検出タスクの削除」を参照してください。
- **検出タスクの実行。** 実行するタスクを選択して、すぐに実行をクリックします。タスクが実行されている場合は、すぐに実行ボタンが停止ボタンに変わります。詳細については、「検出タスクの実行」を参照してください。

注記:



2つのタスクをまったく同時に実行することはできません。このため、最初のタスクが完了するまでは、2つ目のタスクは0%と表示されます。

-
- **実行中の検出タスクを停止する。** 実行中のタスクを選択し、停止をクリックします。詳細については、「検出タスクの実行」を参照してください。
 - **HP Storage Essentials検出ステータスの表示。** HP Storage Essentialsがインストールされている場合は、検出ステータスが、HP Storage Essentials検出ログへのリンクとともに表示されます。
 - **HP Storage Essentialsグローバル アプリケーション設定の指定。** HP Storage Essentialsがインストールされている場合は、[自動]タブにHP Storage Essentialsグローバル アプリケーション設定コンフィギュレーション ページへのリンクが表示されます。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの有効化または無効化
- 検出タスクの削除
- 検出タスクの実行
- 新規検出テンプレート ファイルの作成
- 検出テンプレートの編集
- 検出テンプレートの削除

- グローバル プロトコル設定

関連トピック

- 検出と識別
- 検出テンプレートの管理
- IP範囲

新規検出タスクの作成

この手順により、新しい検出タスクを作成できます。

1. [オプション]->[検出]を選択します。[自動]タブが選択された状態で、[検出]ページが表示されます。
2. 新しい検出タスクを作成するには、新規をクリックします。[新規検出]セクションが表示されます。

新規検出

必須フィールド *

名前: * 新規検出タスク 1

スケジュール:

☒ 毎回、自動的に検出を実行:

1 日 時間 11:00

設定:

☐ IPX SAP

☒ IP範囲のping

Ping 対象範囲、テンプレートおよびまたは hostsファイル: *

3. [名前]フィールドに、タスクの名前を入力します。これは必須フィールドです。
4. [スケジュール]セクションで[毎回、自動的に検出を実行]を選択し、タスクの日程を入力します。デフォルトは、1日1回です。[毎回、自動的に検出を実行]チェックボックスの選択を解除すると、タスクは作成後無効になります。
5. [設定]セクションで、次のうちいずれかを選択します。

- [IP範囲のping]
- [IPX SAP] (WindowsCMSのみ)

6. **[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**フィールドで、pingの対象範囲に含めるIPアドレスを指定します。IPアドレス範囲の入力について詳しくは、「IP範囲」を参照してください。
7. タスクを保存するには、**OK**をクリックします。**[新規検出]**セクションを閉じ、設定を保存しない場合は、キャンセルをクリックします。

注記：多数のシステムを選択していると、「自動検出タスクは多数のアドレスで設定されています[アドレス数]」というメッセージが表示されます。このまま先に進むには、**OK**をクリックします。IPアドレス範囲を変更するには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの無効化または有効化
- 検出タスクの削除
- 検出タスクの実行

関連トピック

- 検出と識別
- IP範囲

検出タスクの編集

既存の検出タスクを編集する際、すべてのフィールドに既存の情報が表示されます。編集対象のフィールドだけを、編集してください。

既存検出タスクを編集するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択します。**[自動]**タブが選択された状態で、**[検出]**ページが表示されます。
2. 編集するタスクを選択し、**編集**をクリックします。**[検出の編集]**セクションが表示されます。
3. **[名前]**フィールドに、タスクの名前を入力します。これは必須フィールドです。
4. **[スケジュール]**セクションで**[毎回、自動的に検出を実行]**を選択し、タスクの日程を入力します。デフォルトは、1日1回です。**[毎回、自動的に検出を実行]**チェックボックスの選択を解除すると、タスクは作成後無効になります。
5. **[設定]**セクションで、次のうちいずれかを選択します。
 - **[IP範囲のping]**
 - **[IPX SAP] (Windowsのみ)**
6. **[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**フィールドで、pingの対象範囲に含めるIPアドレスを指定します。IPアドレス範囲の入力について詳しくは、「IP範囲」を参照してください。

7. タスクを保存するには、**OK**をクリックします。**[新規検出]**セクションを閉じ、設定を保存しない場合は、キャンセルをクリックします。

注記：多数のシステムを選択していると、「自動検出タスクは多数のアドレスで設定されています[アドレス数]」というメッセージが表示されます。このまま先に進むには、**OK**をクリックします。IPアドレス範囲を変更するには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの無効化または有効化
- 検出タスクの削除
- 検出タスクの実行

関連トピック

- 検出と識別
- IP範囲

検出タスクの無効化または有効化

既存の検出タスクを有効または無効にすることができます。タスクを無効にすると、スケジュール列にタスクが無効になったことを説明するメッセージが表示されます。タスクを有効にすると、スケジュール列にそのタスクのスケジュールが表示されます。

注記:



無効になっているタスクを、そのタスクを選択してすぐに実行をクリックして手動で実行しても、将来の検出用にそのタスクが有効になることはありません。

検出タスクを有効にする場合や、無効にする場合は、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択します。**[自動]**タブが選択された状態で、**[検出]**ページが表示されます。
2. 無効か有効に設定するタスクを選択します。
3. 無効をクリックして、タスクを無効にします。あるいは、タスクが既に無効の場合は、有効をクリックしてタスクの自動実行を再開します。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの削除
- 検出タスクの実行

関連トピック

- 検出と識別

検出タスクの削除

不要になった検出タスクは削除できます。ただし、[システム自動検出]タスクは削除できません。[システム自動検出]タスクを選択すると、削除ボタンが無効になります。

検出タスクを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[検出]を選択します。[自動]タブが選択された状態で、[検出]ページが表示されます。
2. 削除するタスクを選択し、削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
3. タスクを削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの無効化または有効化
- 検出タスクの実行

関連トピック

- 検出と識別
- IP範囲

検出タスクの実行

既存の検出タスクは、いつでも、手動で選択して実行できます。実行中のタスクを停止することもできます。

検出タスクを実行または停止する場合は、次のように操作します。

1. [オプション]>[検出]を選択します。[自動]タブが選択された状態で、[検出]ページが表示されます。
2. 実行する検出タスクを選択して、**すぐに実行**をクリックします。タスクはすぐに実行されます。

注記:



タスクの実行中、**すぐに実行**ボタンは**停止**ボタンに変わります。タスクを停止するには、タスクを選択し、**停止**をクリックします。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの無効化または有効化
- 検出タスクの削除

関連トピック

- 検出と識別
- IP範囲

システム タイプ

HP Systems Insight Managerには、多くの異なるシステム タイプがあります。クラスタ、複合体、ラック、およびエンクロージャ以外はすべて、**[検出フィルタ]**ページで使用可能です。

- アプリケーション。
- クラスタ。 仮想コンピュータは通常、特別なソフトウェアとともにクラスタ化されたサーバを数台で構成したものです。クラスタ構成は一般的に、フォールトトレラントです。システムをクラスタ化しているつもりでも、クラスタとして認識されていない場合、クラスタ ノード上にエージェントが適切に設定されていて、クラスタ環境がサポートされていることを確認してください。
- 複合体。 複数のハードウェア パーティションがサポートされているコンピュータ システムは、複合体と呼ばれています。たとえば、HP Integrity Superdomeクラス システムでは、単一複体内で、複数のハードウェア パーティションがサポートされます。
- デスクトップ。 小さなコンピュータ システムは、通常、ユーザの机の上に置かれています。
- エンクロージャ。 サーバ ブレードやその他のタイプのブレードをインストールできるシャーシ。多くの場合、エンクロージャはネットワークに接続されませんが、インストールされているブレードに電力や冷却機能を供給できます。
- 環境モニタ。 システムやラックなどの周辺にある環境を監視するデバイス。温度、煙、およびセキュリティをチェックできます。
- ハンドヘルド。 手の中に収まるサイズのPDA（Personal Digital Assistant）や小さなコンピュータ。
- ハブ。 リピータとも呼ばれ、ネットワーク上で使用可能なポート数を増やす場合に使用されるシンプルなデバイス。
- KVMスイッチ。 1台のキーボード、1台のビデオ モニタ、1つのマウスを、複数のシステムで共有する場合に使用される、キーボード、ビデオ、またはマウス。これは、ネットワーク化できます。
- 管理プロセッサ。 通常、サーバや、エンクロージャなどのその他のサーバ関連ハードウェアに組み込まれる、ファームウェア ベースの小規模システム。これらのシステムの機能は通常、限定されています。例としては、内蔵Lights-Out（iLO）カードがあります。
- ノートブック。 ポータブル コンピュータ。

- **パーティション。** ある特定のシステムやオペレーティング環境は、パーティション内に柔軟に設定でき、各パーティションでは、オペレーティング システムのインスタンスを個別に実行できます。パーティションには、あるパーティションにおけるソフトウェア エラーが、他のパーティションに影響を与えないように保護する機能があります。ハードウェアパーティションが利用可能なサーバ システムでは、ハードウェア エラーが他のパーティションに影響を与えないよう、保護できます。
- **配電ユニット (PDU)。** ラック内の複数のシステムに電力を供給します。システムへの電力供給を行うかどうかは、リモートで制御できます。
- **電源装置。** ネットワーク上にあるサーバに電力を供給する装置。
- **プリンタ。** 用紙への印刷に使用されるデバイス。通常は、ネットワークに接続されます。
- **ラック。** サーバ、エンクロージャ、またはネットワーク機器のマウントに使用するハードウェアで、アドレスの割り当てはできません。
- **リソース パーティション。**
- **リモート アクセス デバイス。** リモート ユーザが、電話回線かイントラネットのLANを介して接続できるデバイス。
- **ルータ。** ネットワーク パケットの転送に使用するネットワーク デバイス。
- **サーバ。** ある特定の目的専用に使われる、ネットワーク上のコンピュータ。たとえば、ファイル サーバ、プリンタ サーバ、データベース サーバなどです。
- **共有リソース ドメイン。**
- **ストレージ デバイス。** ディスク ドライブ アレイ。
- **スイッチ。** ルータに類似したネットワーク デバイスで、パケットを高速で通過させるハードウェア ベースのスイッチング技術が使用されます。
- **テープ ライブラリ。** テープ ライブラリ。
- **Thinクライアント。** ターミナル サーバに接続するリモート システム。ディスクやローカルストレージがないコンピュータで、ターミナルサーバパッケージを介して、中央サーバやリモート デスクトップへの接続を可能にします。
- **UPS (無停電電源装置)。** サーバや他のコンピュータのバッテリ バックアップ。
- **不明。** HP Systems Insight Managerで、組み込まれているタスクや、システム タイプ管理 (STM) ベースのタスクを、システムで認識できないことを表す状態です。ただし、システムにおいて検出された管理プロトコルがあります。サーバは、次の理由により「不明」としてリストされます。
 - HP Systems Insight Managerが動作しているサーバからシステムをpingすることができません。これはコマンドまたは端末ウィンドウで実行できます。あるいは、HP Systems Insight Managerから不明サーバを選択してプルダウン メニューの[診断→Ping]を選択し、示された手順に従います。
 - HP Systems Insight Managerでのコミュニティ名は、リモート デバイスで使われているコミュニティ名と一致しなければなりません。HP Systems Insight Managerとシステムが同じコミュニティ名を使用していることを確認してください。コミュニティ名は大文字

と小文字が区別されることに注意してください。変更を行うには、HP Systems Insight Managerから、[オプション]>[プロトコル設定]を選択し、[グローバル プロトコルの設定]または[システム プロトコル設定]を選択します。

- Windows NTおよびWindows 2000では、システム上の1つのコミュニティ名をRead Createに設定する必要があります。HP Systems Insight Managerでこのコミュニティ名を使用する必要がないことに注意してください（必要なことは、コミュニティ名をReadに設定することだけです）。マネジメント エージェントはSNMPを使用して接続され、1つのコミュニティ名がRead Createに設定されることを要求します。
 - HP Systems Insight Managerシステムが管理対象システムに対してSNMP要求を行えるようにする必要があります。SNMPのセキュリティ設定がこれを妨げることがないようにしてください。Windows NTとWindows 2000では、[すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける]を選択するか、HP Systems Insight Managerサーバのアドレスが許容可能ホストのリストに含まれている必要があります。
 - IP固有のセキュリティを使用している場合は、localhost（127.0.0.1）もホストにSNMP要求を行えるようにしなければなりません。localhostエントリにより、SNMPを使用してマネジメント エージェントを接続できるようになります。
 - 管理しようとしているProLiantサーバ上にProLiantマネジメント エージェントを正しくインストールして実行しておく必要があります。Windowsシステムの場合、イベント ログが必ず動作していることを確認してください（いくつかのAgents startedのメッセージが表示されてエラーがないことを確認します）。
 - ネットワーク内のルータとスイッチは、ポート161、162、および7にSNMPトラフィックを渡せる必要があります。
- 非管理対象。 IPアドレスとともに検出されたが、管理プロトコルが検出されなかったシステムを表すためのシステムのタイプ。予測されたタイプと異なる場合は、WBEMユーザ名とパスワードやSNMPコミュニティ名が正しいかどうか確認してください。可能であれば、エージェントをインストールします（たとえば、Windowsの場合は、初期ProLiant Support Packをインストールします）。初期ProLiant Support Packのインストールについては、「初期ProLiant Support Packのインストール」を参照してください。
 - ワークステーション。 ハイエンドなパーソナル コンピュータ システムで、グラフィックやその他の設計作業に使用することがあります。

検出一般設定の指定

環境に合わせて検出プロセスをカスタマイズするには、自動検出を設定します。

注記:



すべてのステップはオプションです。

自動検出の一般設定を行うには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[検出]**を選択します。**[自動]**タブが選択された状態で、**[検出]**ページが表示されます。
2. **[すべての自動検出に対して]**セクションで、**[一般設定]**を選択します。**[一般設定]**セクションが表示されます。
3. **[システムからイベントを受信した場合、自動的にそのシステムを検出]**を選択します。HP Systems Insight Managerが、トラップやその他のサポートされているイベントを受信したとき、システムを検出できます。検出フィルタとIPアドレス除外範囲が使用され、このイベントがさらにフィルタ処理されます。
4. **[内蔵Lights-Out管理プロセッサを検出すると、自動的にサーバブレードを検出]**を選択します。管理プロセッサを通じて間接的に検出されたサーバが追加されます。これらのサーバが検出されると、システム テーブル ビュー ページ上に無効にされた状態でリストされます。表示される情報は、「システム シリアル番号」および「iLOとエンクロージャとの関係」だけです。
5. **[ping除外範囲、テンプレートもしくはhostsファイル]**フィールドで、自動検出プロセスから除くIPアドレス、テンプレート、またはIPアドレスを含むhostsファイルを指定します。この指定は、ping範囲とイベントベースの自動検出の両方に適用されます。詳細については、「IP範囲」を参照してください。

重要： クラスタを検出する場合は、ping包括範囲にクラスタとクラスタ メンバのIPアドレスが含まれている必要があります。
6. **[検出フィルタを有効化]**チェックボックスを選択します。
7. **[次のシステムタイプを検出]**セクションで、検出するシステムのタイプを選択します。リストされる各システム タイプの詳細については、「システム タイプ」を参照してください。

重要： クラスタを検出する場合は、クラスタ メンバが除外されないように、サーバ システム タイプを組み込む必要があります。

注記： これは、**[検出フィルタを有効化]**チェックボックスを選択した場合のみ、利用できます。
8. **[次の基準を満たすシステムに検出を限定します]**セクションで、以下から選択します。
 - **[上記のフィルタに適合するシステム]**
 - **[すべての管理可能システム] (WBEM、SNMP、DMI、WMI、またはHTTPのサポート)**
 - **[HPエージェントにより管理可能なシステムのみ]****注記：** これは、**[検出フィルタを有効化]**チェックボックスを選択した場合のみ、利用できます。
9. 設定を保存するには、**OK**をクリックします。設定を保存しないで**[一般設定]**セクションを閉じる場合は、キャンセルをクリックします。

 検出フィルタを有効にしているがシステム タイプを選択していない場合に**OK**をクリックすると、次のエラー メッセージが表示されます。

フィルタを有効にするには、少なくとも1つのデバイス タイプを選択する必要があります。

[検出]ページの[一般設定]セクションは、複数のユーザによる同時アクセスから保護されていません。最後に保存したユーザの設定が有効になります。検出の進行中に別のユーザまたは同じユーザが設定を適用すると、処理が残っているシステムに設定が適用されます。

関連トピック

- 検出と識別
- IP範囲
- 検出フィルタ
- システム タイプ
- グローバル プロトコル

検出フィルタ

検出フィルタは、特定のシステム タイプが、自動検出を通じてデータベースに追加されることを防止または許可するメカニズムです。特定のタイプのシステムを検出したい場合、フィルタを使用すると、各個別システムのIPアドレスを指定するよりも大幅に簡素化されます。検出フィルタは、手動で追加するシステムには適用されません。

検出フィルタには、次の3つの方法でアクセスできます。

- [オプション]>[検出]を選択して、[検出]ページにアクセスします。[自動]タブで、[一般設定]をクリックし、[検出フィルタを有効化]を選択します。
- [ホーム]ページの[管理]セクションで、[検出]をクリックします。[検出]ページが表示されます。[自動]タブで、[一般設定]をクリックし、[検出フィルタを有効化]を選択します。
- 紹介ページの[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]セクションで[自動]をクリックします。[検出]ページが表示されます。[自動]タブで、[一般設定]をクリックし、[検出フィルタを有効化]を選択します。

フィルタを無効にするには、[検出フィルタを有効化]チェックボックスの選択を解除します。フィルタを有効にするには、[検出フィルタを有効化]チェックボックスを選択し、検出するシステム タイプを選択します。

検出フィルタにアクセスおよびフィルタを修正するには、完全な設定権が必要です。検出フィルタを有効にすると、選択したタイプのシステムのみが、自動検出でデータベースに追加されます。すべてのタスクがデータベースに存在するシステムに対してのみ動作するので、システムがフィルタに適合し、データベースに追加されないと、そのシステムに対してはタスクが実行されません。フィルタは、すでに検出されているシステムに影響しません。これは、現在のフィルタに適合しないタイプに変化した場合も同様です。検出フィルタが無効な場合、自動検出は、[一般設定]セクション（[検出]ページの[自動]タブ）の設定に従ってシステムを検出します。検出フィルタの設定について詳しくは、「検出一般設定の指定」を参照してください。

検索されるはずのHP製システムが検出されない場合は、ターゲット システムにHP Insightマネジメント エージェントがインストールされ、正常に動作していることを確認してください。また、HP Systems Insight Managerと、検出されていないシステムのエージェントで、SNMPコミュニティ名、およびWBEMユーザ名とパスワードが正しく設定されているかどうかを確認してください。詳細については、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- 検出一般設定の指定

関連トピック

- 検出と識別

検出テンプレートの管理

検出テンプレートは、自動検出によって使用されるファイルであり、**[Ping]**包括範囲、テンプレートおよび/または**hosts**ファイル]フィールドや**[ping]**除外範囲、テンプレートもしくは**hosts**ファイル]フィールドにアドレスを直接入力する代わりとなります。これにより、自動検出のスコープを迅速に変更できるようになります。

注記:



保存された検出テンプレート ファイルは、<インストール ディレクトリ>\config\discovery\templatesディレクトリにあります。

[テンプレートの管理]セクションでは、以下を実行できます。

- 新しい検出テンプレート ファイルの作成。 新規をクリックして、[新規テンプレートの作成]セクションを表示します。詳細については、「新規検出テンプレート ファイルの作成」を参照してください。
- 既存の検出テンプレート ファイルの編集。 編集する検出テンプレート ファイルを選択して、編集をクリックします。[テンプレートの編集]セクションが表示されます。詳細については、「検出テンプレートの編集」を参照してください。
- 既存の検出テンプレート ファイルの削除。 削除する検出テンプレート ファイルを選択して、削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。詳細については、「検出テンプレートの削除」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規検出テンプレート ファイルの作成
- 検出テンプレートの編集
- 検出テンプレートの削除

関連トピック

- 検出と識別

新規検出テンプレート ファイルの作成

新しい検出テンプレート ファイルを作成して、**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/または hostsファイル]**フィールドや**[ping除外範囲、テンプレートもしくは hostsファイル]**フィールドにアドレスを直接入力する代わりに使うことができます。

新しい検出テンプレート ファイルを作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択します。**[自動]**タブが選択された状態で、**[検出]**ページが表示されます。
2. **[すべての自動検出に対して]**セクションで、**[テンプレートの管理]**を選択します。**[テンプレートの管理]**セクションが表示されます。
3. 新規をクリックします。**[新規テンプレートの作成]**セクションが表示されます。
4. **[検出テンプレート名]**フィールドに、新しいテンプレートの名前を入力します。これは必須フィールドです。
5. 参照をクリックして、ローカルクライアント（参照元のシステム）にある、既存の検出テンプレート ファイルを選択し、インポートをクリックするか、

または

[内容]領域に検出範囲情報を入力します。

注記：テンプレート ファイルはネストできないので、1つの範囲のみが許可されます。

6. 検出テンプレート ファイルを保存するには、**OK**をクリックします。変更内容を保存せずに終了するには、キャンセルをクリックします。

検出テンプレートの作成後、自動検出でそのテンプレートを参照するには、**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/または hostsファイル]**フィールドか**[ping除外範囲、テンプレートもしくは hostsファイル]**フィールドで @template_name を使用します。詳細については、「IP範囲」を参照してください。

関連プロシージャ

- 検出テンプレートの編集
- 検出テンプレートの削除

関連トピック

- 検出と識別
- 検出テンプレートの管理

検出テンプレートの編集

既存の検出テンプレート ファイルを編集できます。**[検出テンプレート名]**フィールドを除いてすべてのフィールドがオプションです。変更するフィールドのみを編集してください。

検出テンプレート ファイルを編集するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択します。**[自動]**タブが選択された状態で、**[検出]**ページが表示されます。

2. [すべての自動検出に対して]セクションで、[テンプレートの管理]を選択します。[テンプレートの管理]セクションが表示されます。
3. 編集する検出テンプレートを選択し、編集をクリックします。[テンプレートの編集]セクションが表示されます。
4. [検出テンプレート名]フィールドで、テンプレートの名前を変更します。このフィールドは必須フィールドですが、テンプレートに新しい名前を付ける必要はありません。既存の名前を使用できます。
5. 参照をクリックして、ローカルクライアント（参照元のシステム）にある、既存の検出テンプレート ファイルを選択し、インポートをクリックするか、
または
[内容]領域に検出範囲情報を入力します。
注記：テンプレート ファイルはネストできないので、1つの範囲のみが許可されます。
6. 検出テンプレート ファイルを保存するには、**OK**をクリックします。変更内容を保存せずに終了するには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 新規検出テンプレート ファイルの作成
- 検出テンプレートの削除

関連トピック

- 検出と識別
- 検出テンプレートの管理

検出テンプレートの削除

既存の検出テンプレート ファイルを削除できます。検出テンプレート ファイルを削除すると、ファイルは永久に削除され、回復できません。テンプレートがなくなった場合、または、新しい検出テンプレート ファイルを作成する場合に限って、検出テンプレート ファイルを削除してください。

注記:

削除するテンプレートが、現在使用されていないことを確認してください。次のような場合、テンプレートは使用されていません。



- 一般設定セクションの[ping除外範囲、テンプレートもしくは**hosts**ファイル]フィールドに、その**hosts**ファイルについての参照がない。
および
 - 既存のすべての検出タスクの[**Ping**包括範囲、テンプレートおよび/または**hosts**ファイル]フィールドに、その**hosts**ファイルについての参照がない。
-

検出テンプレート ファイルを削除するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択します。**[自動]**タブが選択された状態で、**[検出]**ページが表示されます。
2. **[すべての自動検出に対して]**セクションで、**[テンプレートの管理]**を選択します。**[テンプレートの管理]**セクションが表示されます。
3. 削除する検出テンプレート ファイルを選択します。
4. 削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
5. 検出テンプレート ファイルを削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 新規検出テンプレート ファイルの作成
- 検出テンプレートの編集

関連トピック

- 検出と識別
- 検出テンプレートの管理

システムの手動追加

スケジュールされた検出間でHP Systems Insight Managerデータベースにシステムを追加するには、手動検出を使用します。

手動検出を使用してシステムを追加するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択し、**[手動]**タブを選択します。**[システム情報]**セクションが表示されます。
2. **[システム名]**ラジオ ボタンを選択してシステム名を入力します。
または
[IPアドレス]ラジオ ボタンを選択してIPアドレスを入力します。
3. システムをデータベースに追加するには、**システムの追加**をクリックします。追加情報を入力するには、**詳細設定**をクリックします。

システム情報

必須フィールド *

システム名またはIPアドレスを入力してください。*

☐ システム名:

☒ IPアドレス:

このシステム上で識別が失敗した場合にのみ使用される追加のシステム プロパティを指定してください。

システム タイプ:

システム サブタイプ 1:

システム サブタイプ 2:

システム サブタイプ 3:

システム サブタイプ 4:

システム サブタイプ 5:

システム サブタイプ 6:

システム サブタイプ 7:

システム サブタイプ 8:

製品モデル:

WBEM設定

ユーザー名

☒ デフォルトの使用 (現在)

☐ カスタムの使用

パスワード

☒ デフォルトの使用

☐ カスタムの使用 パスワードの確認

SNMP設定

タイムアウト(秒)

☒ デフォルトの使用 (現在: 5)

☐ カスタムの使用

再試行数

☒ デフォルトの使用 (現在: 1)

☐ カスタムの使用

読み込み専用コミュニティ名

☒ デフォルトの使用 (現在: public)

☐ カスタムの使用

書き込みコミュニティ名

☒ デフォルトの使用 (現在: private)

☐ カスタムの使用

簡易設定...

システムの追加

- [このシステム上で識別が失敗した場合にのみ使用される追加のシステム プロパティを指定してください。]これには以下が含まれます。

- [システム タイプ]
- [システム サブタイプ]

[システム サブタイプ]には、8つのフィールドがあります。これらのフィールドは、後で、[システム プロパティの編集]ページで変更できます。1つのシステムのシステム サブタイプの編集について詳しくは、「単一システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。複数のシステムのシステム サブタイプの編集について詳しくは、「複数システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。

- [製品モデル]
 - [WBEM設定]。次を含みます。
 - [ユーザ名]
 - [パスワード]
 - [SNMP設定]。次を含みます。
 - [タイムアウト（秒）]
 - [再試行数]
 - [読み込み専用コミュニティ名]
 - [書き込みコミュニティ名]
4. 詳細設定をクリックしたら、システムの追加をクリックしてシステムをすぐに追加したり、簡易設定をクリックして前の簡潔な表示に戻ります。簡易設定をクリックした場合、システムの追加をクリックしてデータベースにシステムを追加します。

hostsファイルは、複数のシステムをHP Systems Insight Managerデータベースに手動で追加するために使用できます。詳細については、「hostsファイルの管理」を参照してください。

コマンド ライン インタフェース

このタスクをコマンドラインインタフェース（CLI）から実行するには、**mxnode**コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンドラインに**man mxnode**と入力し、HP-UXまたはLinuxのマニュアルページを参照してください。コマンドとマニュアルページのリンクの詳細については、「コマンドラインインタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規hostsファイルの作成

関連トピック

- 検出と識別
- IP範囲

hostsファイルの管理

hostsファイルは、複数のシステムをHP Systems Insight Managerデータベースに手動で追加するために使用できます。

hostsファイルを使用して自動検出するシステムを指定するには、[検出]ページの[自動]タブの[一般設定]の[Ping包括範囲、テンプレートおよび/または**hosts**ファイル]セクションにhostsファイル名を追加します。次の文を使用してください。`$Hosts_filename`

1つのシステムをデータベースに追加する手順については、「システムの手動追加」を参照してください。

[**hosts**ファイル]セクションでは、以下を実行できます。

- **新しいhostsファイルの作成。** 新規をクリックすると、[**新規hostsファイル**]セクションが表示されます。詳細については、「新規hostsファイルの作成」を参照してください。
- **hostsファイルの編集。** hostsファイルを選択して、編集をクリックすると、[**hostsファイルの編集**]セクションが表示されます。詳細については、「hostsファイルの編集」を参照してください。
- **hostsファイルの削除。** 削除するhostsファイルを選択して削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。詳細については、「hostsファイルの削除」を参照してください。
- **1つのhostsファイルをHP Systems Insight Managerデータベースに追加。** 追加するhostsファイルを選択して、システムをすぐに追加をクリックします。詳細については、「データベースへのhostsファイルのシステムの追加」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規hostsファイルの作成
- hostsファイルの編集
- hostsファイルの削除
- データベースへのhostsファイルのシステムの追加
- HP Systems Insight Manager統合タスク用のhostsファイル インポート タスクの作成

関連トピック

- 検出と識別

新規hostsファイルの作成

この手順により、HP Systems Insight Managerで使用する新しいhostsファイルを作成できます。

注記:



"Management Processor"のように、2語以上をキーワードに使用する場合には、二重引用符でキーワード全体を囲みます。"server"のような1語のキーワードでは、引用符はオプションです。

注記:



クラスタについては、クラスタとそのメンバがhostsファイルで定義されていることを確認してください。

hostsファイルを作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**→**[検出]**を選択し、**[hostsファイル]**タブを選択します。
2. 新しいhostsファイルを作成するには、新規をクリックします。**[新規hostsファイル]**セクションが表示されます。

新規hostsファイル

必須フィールド *

名前:

次の内容で初期化:

☒ テンプレート ファイル

☐ 中央管理サーバからロードされたシステム。次を元に並び替え IP アドレス

☐ hostsファイルからロードされたシステム

内容:

```
# Title:      [title here]
# Author:     [author here]

# Example:
##$INDEX_DEFAULT: Type = server
# 1.1.1.1    myServer1.mysite.com    myServer1
# 1.1.1.2    myServer2.mysite.com    myServer2
#
##$INDEX_DEFAULT: Type = desktop
# 1.1.1.3    myClient1.mysite.com    myClient1
# 1.1.1.4    myClient2.mysite.com    myClient2
```

3. **[hostsファイル名]**フィールドに新しいhostsファイルの名前を入力します。これは必須フィールドです。
4. **[次の内容で初期化]**の下で、次のいずれかを選択します。
 - **[空ファイル]**。**[内容]**ウィンドウに内容を再設定します。
 - **[中央管理サーバからロードされたシステム、次を元に並び替え]**。**[IPアドレス]**、**[システム名]**、**[システム タイプおよび次にIPアドレス別]**、**[システム タイプおよび次にシステム名別]**のうちいずれかを選択。このオプションにより、HP Systems Insight Managerによって管理されているシステムが**[内容]**ウィンドウにロードされます。
 - **[hostsファイルからロードされたシステム]**。ファイル名とファイルの場所 (c:\doc.txt など) を入力するか、参照をクリックしてhostsファイルの場所を探します。このオプションにより、指定されたファイルの内容が読み込まれて、**[内容]**ウィンドウに表示されます。
5. **[空ファイル]**を選択しなかった場合は、すぐに**初期化**をクリックしてhostsファイルをロードします。その他の場合は、hostsファイルの内容を**[内容]**セクションに入力します。
6. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。変更をキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

関連プロシージャ

- hostsファイルの編集
- hostsファイルの削除
- データベースへのhostsファイルのシステムの追加

関連トピック

- 検出と識別
- hostsファイルの管理

hostsファイルの編集

既存のhostsファイルを編集するには、次のように操作します。必要なフィールドだけを編集してください。

既存hostsファイルを編集するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択し、**[hostsファイル]**タブを選択します。
2. 既存のhostsファイルを選択し、**編集**をクリックします。**[hostsファイルの編集]**セクションが表示されます。
3. **[すぐに交換]**セクションで、いずれかのラジオ ボタンを選択して**すぐに交換**をクリックするか、**[内容]**セクションに変更内容を入力します。ラジオ ボタンの詳細については、「新規hostsファイルの作成」の手順5を参照してください。
4. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。変更内容を保存しない場合は、**キャンセル**をクリックします。

HP Systems Insight Managerは、hostsファイルを読み取ってシステムを追加します。

関連プロシージャ

- 新規hostsファイルの作成
- hostsファイルの削除
- データベースへのhostsファイルのシステムの追加

関連トピック

- 検出と識別
- hostsファイルの管理

hostsファイルの削除

このhostsファイルが、現在使用されていないことを確認してください。次のような場合には、hostsファイルは使用されていません。

- 一般設定ページの**[ping除外範囲、テンプレートもしくはhostsファイル]**セクションに、そのhostsファイルについての参照がない。
- 既存のすべての検出タスクの**[Ping包括範囲、テンプレートおよび/またはhostsファイル]**セクションに、そのhostsファイルについての参照がない。

注記:



hostsファイルの削除は、必要でなくなった場合、または新しいhostsファイルを作成する場合に限って実行してください。

hostsファイルを削除するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択し、**[hostsファイル]**タブを選択します。
2. 削除するhostsファイルを選択し、削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
3. hostsファイルを削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 新規hostsファイルの作成
- hostsファイルの編集
- データベースへのhostsファイルのシステムの追加

関連トピック

- 検出と識別
- hostsファイルの管理

データベースへのhostsファイルのシステムの追加

hostsファイルをHP Systems Insight Managerデータベースに追加するには、次のように操作します。

hostsファイルをデータベースに追加するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[検出]**を選択し、**[hostsファイル]**タブを選択します。
2. 既存のhostsファイルを選択します。
3. システムをすぐに追加をクリックします。

HP Systems Insight Managerは、hostsファイルを読み取ってシステムを追加します。

関連プロシージャ

- 新規hostsファイルの作成
- hostsファイルの編集
- hostsファイルの削除

関連トピック

- 検出と識別
- hostsファイルの管理

HP Systems Insight Manager統合タスク用のhostsファイル インポート タスクの作成

完全な設定権があるユーザは、HP Systems Insight Managerと付属のWindows管理アプリケーションのInsightマネージャ（WIN32）の両方を使用すると、Insightマネージャ（WIN32）システムのデータベース ファイルをインポートすることができ、Windowsクライアント サーバ環境からWebベースの環境に簡単に移行できます。

Insightマネージャ（WIN32）によって、システム データベース ファイルが作成されます。これは、検出したシステムの名前とIPアドレスをcim_ip.datという名前のファイルに格納します。このファイルは、HP Systems Insight Managerが認識できるhostsファイルなどの形式にフォーマットされます。このファイルは、Insightマネージャ（WIN32）でのシステムの検出時または削除時に、連動して更新されます。ファイルはInsightマネージャ（WIN32）がインストールされるディレクトリに格納されます。

Insightマネージャ（WIN32）では、空白を含むシステム名をサポートします。cim_ip.datでは、システム名に含まれる空白はアスタリスク（*）に置き換えられます。HP Systems Insight Managerでは、空白を含むシステム名は無効です。

.datファイルのインポート

注記:



hostsファイルにクラスタ名またはアドレスが含まれている場合は、インポートされたhostsファイルにクラスタ メンバが含まれていないことがあるので、HP Systems Insight Managerの検出IP範囲をクラスタ メンバが含まれるように変更する必要があります。IP範囲の変更については、「新規検出タスクの作成」を参照してください。

-
1. [オプション]>[検出]を選択し、[手動検出]タブを選択して、ページ上部の[Hostsファイル]をクリックします。[手動検出 - Hostsファイル]ページが表示されます。
 2. 新規をクリックします。[新規hostsファイル]セクションが表示されます。
 3. [hostsファイル名]フィールドに、**cim_ip.dat**など、ファイルの名前を入力します。
 4. [hostsファイルからロードされたシステム]を選択してファイルのフル パス名を入力するか、参照をクリックしてcim_ip.datファイルを見つけます。ファイルが見つかったら、開くをクリックして、[hostsファイルからロードされたシステム]フィールドにファイル名を入力します。
 5. すぐに初期化をクリックしてファイルを初期化し、[内容]の領域にファイルの内容を表示します。
 6. **OK**をクリックして、後で参照できるようにhostsファイルとしてファイルを保存します。
 7. [手動検出 - Hostsファイル]ページで、追加したファイルが選択されているか確認し、システムをすぐに追加をクリックしてこのシステムをデータベースに挿入します。

システムの表示

hostsファイルを介して挿入されたシステムは、短時間でデータベースに追加されます。次に検出や識別のタスクが実行された時点で、このシステムにはすべてのシステム情報が追加されます。

[システムおよびイベント]パネルで[すべてのシステム]を選択します。システム テーブルビュー ページが表示されます。さらに、検出された他のすべてのシステムに加えて、追加されたシステムが表示されるはずです。

Insightマネージャ（WIN32）ファイルのエクスポート

Insightマネージャ（WIN32）からInsight Manager（WIN32）.DATファイルをエクスポートするには、次の2とおりがあります。

- Insightマネージャ（WIN32）のエクスポート機能を使う方法
- cim_ip.datファイルを使う方法。このファイルには、最初の方法より簡略化されたシステム情報が含まれます。

Insight Manager (WIN32) .datファイルをエクスポートする方法の詳細については、
<http://h50146.www5.hp.com/products/servers/proliant/whitepaper/compaq/whitepaper180.pdf>
 を参照してください。

関連プロシージャ

- hostsファイルの管理

hostsファイル拡張子

hostsファイルには、一般的に、IPアドレス、システム名、システム名のエイリアス、ユーザ コメントが含まれます。作成したhostsファイルにはシステムについての追加情報を含めることができます。この情報は、システムのhostsファイル エントリの前に、1つ以上のコメントとして表示されます。値が指定されなかった場合は、デフォルト値が使われます。以下のパラメータについては、デフォルト値が設定されています。

パラメータ	キーワード
システム タイプ	TYPE
SNMPタイムアウト	SNMP_TIM
SNMP再試行回数	SNMP_RET
SNMP読み込みコミュニティ	SNMP_MON
SNMP書き込みコミュニティ	SNMP_CON

hostsファイルを修正して、あるエントリのデフォルト値を置き換えたり、すべての後続エントリのデフォルトを変更したりできます。hostsファイルで1つのシステム エントリの値を変更するには、次の例で示すように、hostsファイルでホストのエントリの前の行にコメントとして文を追加します。この文は、最初に見つかったシステムのみにも適用されます。次の例では、デフォルトのTYPEが、システムEngProliantのサーバに変更されます。

キーワード文	hostsファイル エントリ
#\$IMXE:< Keyword=value >	#\$IMXE: TYPE=server

キーワード文	hostsファイル エントリ
次に例を示します。#\$IMXE: TYPE=server	16.26.176.92 EngProliant.compaq.com EngProliant #ユーザのコメント

デフォルトをグローバルに変更し、次のファイルエントリとすべての後続エントリも変更するには、以下の例のような文を使用します。次のエントリのデフォルト値は「router」に変更されます。次の#\$IMXE_DEFAULT文が値を変更するまで、「router」がすべてのエントリのデフォルト値となります。TYPEの単一インスタンスを#\$IMXE文で変更すると、デフォルトは次のエントリのみで使用されずに「router」に戻ります。

キーワード文	hostsファイル エントリ
#\$IMXE_DEFAULT: < Keyword=value>	#\$IMXE_DEFAULT: TYPE=router
次に例を示します。#\$IMXE_DEFAULT: TYPE=router	16.26.176.92 BldRtr6.compaq.com BldRtr6 #ユーザのコメント

注記:



コメント付きエントリでキーワード パラメータを省略すると、現在のデフォルト値が使用されます。#\$IMXE_DEFAULT文で新しいデフォルト値が設定されない限り、現在のデフォルトが常に標準のデフォルト値になります。"Management Processor"のように、2語以上をキーワードに使用する場合には、二重引用符でキーワード全体を囲みます。"server"のような1語のキーワードでは、引用符はオプションです。

次のファイルは、いくつかの文について説明しているhostsからの抜粋です。シャープ記号（#）で始まる説明は、hostsファイルに表示されません。

```
# Title:Systems in database
# Sorted by:IP address
# Date:28-Mar-00 2:29:31 PM
# Author:administrator
```

システムEngProliantは、すべての現在のデフォルト値を使用します。追加のコメントはありません。

```
16.26.176.92 EngProliant.compaq.com EngProliant #ユーザのコメント
```

次の例のシステムtestServerのデフォルトは、TYPEです。SNMPタイムアウトと 再試行のデフォルトがこのシステム用に復元されますが、testServerにのみ適用されます。SNMP書き込みコミュニティ名のデフォルト値が変更され、testServerにのみ適用されます。

```
#$IMXE:TYPE=Server
#$IMXE:SNMP_TIM=0 SNMP_RET=0 SNMP_MON=public SNMP_CON=private
16.26.160.20 testServer.compaq.com testServer
```

次の例におけるシステムBldRtr1のデフォルトはすべて、testServerと同じです。ただし、この値はグローバルなデフォルトではないので、指定する必要があります。

これらの変更はBldRtr1にのみ適用されます。

```
#$IMXE:TYPE=Router
#$IMXE:SNMP_TIM=0 SNMP_RET=0 SNMP_MON=public SNMP_CON=private
16.26.160.23 BldRtr1.compaq.com BldRtr1
```

システムBldRtr5では、検出で使用するTYPEとプロトコルは現在のデフォルトから変更されました。残りのキーワードのエントリは存在しないので、SNMPタイムアウト、再試行回数、およびコミュニティ名には標準のデフォルトが適用されます。

```
#$IMXE:TYPE=Router 16.26.160.24 BldRtr5.compaq.com BldRtr5
```

システムAcctServerでは、TYPEのみが現在のデフォルトから変更されました。

```
#$IMXE:TYPE=Server
16.26.176.36 AcctServer.compaq.com AcctServer #ユーザのコメント
```

TYPEのグローバル デフォルトが「Unknown」から「Router」に変更されました。TYPE文を使用して他のタイプを指定するか、またはデフォルトに戻すまで、その後のすべてのエントリは「Router」として識別されます。

```
#$IMXE_DEFAULT:TYPE=Router
16.25.176.38 FloorRtr2a.compaq.com FloorRtr2a #ユーザのコメント
```

次のホスト エントリのデフォルト値は管理プロセッサに変更されました。これは引用符で囲まれています。

```
#$IMXE:TYPE="Management Processor" AcctSvriLo.compaq.com
16.25.176.37 AcctSvriLo #ユーザのコメント
```

...

デフォルト値

hostsファイルでパラメータが欠落している場合は、デフォルトが適用されます。

キーワード	値	説明
TYPE	アプリケーション、クラスタ、複合体、デスクトップ、エンクロージャ、環境モニタ、ハンドヘルド、ハブ、KVMスイッチ、管理プロセッサ、ノートブック、パーティション、配電ユニット（PDU）、電源装置、プリンタ、ラック、リソースパーティション、リモートアクセス デバイス、ルータ、サーバ、共有リソース ドメイン、ストレージ デバイス、スイッチ、テープ ライブラリ、Thinクライアント、UPS、不明、非管理対象、>ワークステーション 各システム タイプの詳細については、「システム タイプ」を参照してください。	不明（デフォルト）
DMI	0	無効（デフォルト）
	1	有効
SNMP	0	無効（デフォルト）
	1	有効
HTTP	0	無効（デフォルト）
	1	有効
SNMP_TIM	0	システム デフォルト（デフォルト）
	0より大きい値	
SNMP_RET	0	システム デフォルト（デフォルト）
	0より大きい値	
SNMP_MON	Public	読み取り専用（デフォルト）
	<コミュニティ名>	
SNMP_CON	<コミュニティ名>	デフォルトなし

関連プロシージャ

- hostsファイルの管理

関連トピック

- 検出と識別

IP範囲

IPアドレスは、検出用に個別に、または範囲の一部として含めたり除外したりできます。IPアドレス範囲のエントリは、クラスタの検出にも影響します。IP範囲には、クラスタのアドレスとそのノードのアドレスを含める必要があります。1行につき1つのシステムまたは範囲を入力してください。次のガイドラインを使用してください。

IP範囲	入力する範囲
1から254のローカルサブネットIP範囲、デフォルトの[包括範囲をPing]	172.25.76.1-172.25.76.254
[包括範囲をPing]または[除外範囲]フィールドの範囲としての単一システム	172.25.76.114-172.25.76.114または172.25.76.114
[包括範囲をPing]または[除外範囲]フィールドサブネット内のノードのグループ	172.25.76.38-172.25.76.48
検出テンプレート ファイルに含まれるシステム	@DiscoveryTemplate_filename
hostsファイルに含まれるシステム	\$filename
このサブネットの非ブロードキャスト ノード	172.25.76.255:NOBROADCAST
サブネット マスクで判断されるブロードキャスト ノード	172.25.76.0-172.25.76.255:255.255.255.0 または172.25.76.114:255.255.255.0

検出では、一般的にゼロ ノードであるサブネット ネットワークID、または一般的にノード255であるサブネット ブロードキャスト アドレスをpingしないことが想定されます。これは、ネットワークリソースが不必要に消費されることを防ぐためです。システム255がネットワーク上のブロードキャストアドレスでない場合、表に示すようにこれを[包括範囲をPing]セクションで表示するか、[除外範囲]セクションで特定のシステムを除外できます。HP Systems Insight Managerでは、サブネット マスクが使用され、ブロードキャスト システムが判断されます。マスクを指定しない場合、HP Systems Insight Managerは、ネットワーク クラス用のデフォルト マスクを使用します。サブネット マスクがそのクラスのデフォルトでない場合、ブロードキャスト システムが含まれて、ネットワーク トラフィックが必要以上に増加する場合があります。

関連プロシージャ

- 自動検出の設定

関連トピック

- 検出と識別

識別

識別は、システムの自動または手動検出の後で実行されます。識別では、検出されたシステムについての次の情報が判断されます。

- システムで使用する管理プロトコル（Simple Network Management Protocol（SNMP）、デスクトップ管理インタフェース（DMI）、Webベース エンタープライズ管理（WBEM）、HTTP、Secure Shell（SSH）など）

- システムのタイプ（サーバ、クライアント、管理プロセッサ、ストレージ、スイッチ、ルータ、クラスタなど）
- システムの製品名
- オペレーティング システムの名前、タイプ、バージョン
- サーバ内のiLOなどの関係

注記:

識別中は、すべてのエンクロージャから1つのサーバが検出されて識別されるまで、リモート エンクロージャに、一般的な名前（フォーマット：Encl_SerialNumber）が割り当てられます。以後、このエンクロージャには、エンクロージャに割り当てた名前が含まれます。

新しく自動検出されたシステムの場合、システムがデータベースに追加される前に、設定済み検出フィルタが適用されます。システムが検出フィルタと一致しない場合、システムはデータベースに追加されず、システムに追加タスクや追加要求は送信されません。システムがフィルタに適合すると、システムはデータベースに追加されます。この時点で、ポーリング タスク、リスト、その他の操作にシステムを使用できるようになります。

注記:

検出フィルタは、手動で検出したシステムには適用されません。

HP Systems Insight Managerでは、新しく追加されたシステムで、ハードウェアとソフトウェアの初期ステータス ポーリングおよび初期データ収集が実行されます。各タスクの詳細については、「ハードウェア ステータス ポーリング」、「ソフトウェア ステータス ポーリング」、および「データ収集」を参照してください。システムに関する情報はデータベースに格納されます。

検出と識別のサイクルを完了するのにかかる時間は、ネットワークサイズとリソースによって異なります。必要なすべてのタスクは、HP Systems Insight Managerで事前に定義されています。定義済みタスクをシステムから削除することはできませんが、必要な場合は無効にすることができます。また、新規の識別タスクを作成して、変更された識別情報を取得するときに実行するようスケジュールすることもできます。

デフォルトでは、HP Systems Insight Managerは、1日に1回、および新しいシステムが検出されたときに、システムの識別を実行します。ほとんどのユーザは1日に2回以上実行するよう識別タスクをスケジュールする必要はありません。

初期識別

システムが新たに検出されたり再検出されたりすると、HP Systems Insight Managerはそのシステムを識別しようとします。検出タスクは、すべての検出されたシステム、またはすべての再検出されたシステムを識別するまで、完了しません。

注記:

Insightマネージャ7からHP Systems Insight Managerにアップグレードする場合は、すべてのネットワーク デバイス、ラック、およびエンクロージャを[ステータス概要]ページに表示するように識別する必要があります。

システムの識別

次の検出が行われるまでにシステムを識別するには、[オプション]->[システムの識別]を選択します。[システムの識別]ページが表示されます。このページから、追加するターゲット システムを選択します。ターゲット選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。

関連プロシージャ

- システムの手動追加

関連トピック

- 検出と識別

システム タイプの管理

システム タイプ管理 (STM) は、識別のデフォルト動作を変更するユーティリティです。STM では、ネットワーク上のシステムからSNMPとDMI (Windowsのみ) リストに対する応答に基づいて、ルールを使用してネットワーク上のシステムのタイプと製品名をカスタマイズできます。

重要:

ほとんどのHP製システムでは、システム タイプと製品名を修正することはできません。それ以外では、SNMPシステム オブジェクト識別子 (OID) に基づいて識別をカスタマイズできます。SNMP対応製品には、各メーカーにより、他と重複しないシステム オブジェクト識別子が割り当てられています。STMでは、選択した製品カテゴリと製品名にシステム オブジェクト識別子をマップするルールを作成し、識別をカスタマイズできます。STMを使用するには、完全な設定権が必要です。

[システム タイプの管理]ページにアクセスするには、[オプション]->[システム タイプの管理]を選択します。このページでは以下を実行できます。

- 新しいルールの作成。 新規をクリックします。
- 既存ルールの編集。 編集をクリックします。
- 既存ルールの削除。 削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。ルールを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルして[システム タイプの管理]ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 新規STMルールを作成
- STMルールの編集
- STMルールの削除

関連トピック

- システム タイプの管理ページのナビゲート
- 新規STMルールのリファレンス
- システム タイプ管理について

システム タイプの管理ページのナビゲート

[システム タイプの管理]ページには、HP Systems Insight Managerで現在定義されているルールがリスト表示されます。このページの詳細については、以下を参照してください。

1. システム タイプ
2. カラム
3. 合計
4. 使用可能ボタン

ツール ▾ 展開 ▾ 設定 ▾ 診断 ▾ 最適化 ▾ レポート ▾ タスク & ログ ▾ オプション ▾ ヘルプ ▾

システム タイプの管理

サードパーティSNMP管理システムを識別するためのルールの作成および管理を行います。

システム タイプ: すべて ①

製品モデル識別ルール ②

合計: 369 ③

製品モデル	システム タイプ	サブタイプ	プロトコル	管理位置	システム オブジェクト ID
3Com Hub 10	ハブ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.43.1.8.5
3Com Hub 40	ハブ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.43.10.27.4.1
3Com Linkswitch 1000	ハブ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.43.1.8.13
AdvanceStack 12R with Management...	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.15
AdvanceStack 16U with SNMP module	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.12
AdvanceStack 24R with Management...	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.16
AdvanceStack 24T with Management...	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.17
AdvanceStack 8U with SNMP module	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.11
AdvanceStack Switch 100	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.9
AdvanceStack Switch 200	スイッチ	なし	SNMP	1	1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.5.10

④

刷新... 編集... 削除

[システム タイプの管理]ページにアクセスするには、[オプション]->[検出]->[システム タイプの管理]を選択します。

システム タイプ

[システム タイプ]ドロップダウン リストからタイプを選択して、システム タイプでリストをフィルタ処理できます。下向き矢印をクリックし、リストをフィルタ処理するシステム タイプを選択してください。

カラム

[システム タイプの管理]ページには、次のカラムが表示されます。

- [製品モデル]
- [製品タイプ]
- [サブ タイプ]
- [プロトコル]
- [優先順位]
- [システム オブジェクト識別子]

昇順か降順で列を並び替えるには、カラム見出しをクリックします。

合計

[合計]には、[システム タイプ]ドロップダウン リストで選択されたシステム タイプに合うシステムの総数が表示されます。

使用可能ボタン

- 新規。新しいルールの作成に使用します。
- 編集。既存ルールの編集に使用します。編集するルールを選択し、編集をクリックします。
- 削除。既存のSNMPまたはDMIルールの削除に使用します。ルールを選択して削除をクリックしてください。確認ボックスで**OK**をクリックすると、ルールが削除されます。ルールを削除せずに[システム タイプの管理]ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 新規STMルールの作成
- STMルールの編集
- STMルールの削除

関連トピック

- システム タイプの管理
- システム タイプ管理について

システム タイプ管理について

SNMP対応製品には、各メーカーにより、他と重複しないシステム オブジェクト識別子が割り当てられています。システム タイプ管理（STM）では、選択した製品カテゴリと製品名にシステ

ムオブジェクト識別子をマップするルールを作成し、識別をカスタマイズできます。HP Systems Insight Manager では、指定したルールに不明システムが一致する場合、ルールから情報を検出して適用します。ルールには、システム オブジェクト識別子が含まれており、ターゲット システムからの応答と比較する、別のオブジェクト識別子もオプションで含まれます。ルールが比較仕様に当てはまると、ルールの情報でシステムが識別されます。

注記:



SNMPルールは、HP Systems Insight Manager内の[システム タイプの管理]ページから、またはCLIから`mxstm`を使用して作成できます。Windowsシステムでは、CLI `mxstm` コマンドを使用して、DMIプロトコルに基づいてルールを作成できます。CLIオプションの詳細については、以下の手順を参照してください。

注記:



SNMPルールには、システム オブジェクト識別子と製品名が必要です。比較ルール（一致または先頭文字列）、値と比較ルールを含むMIB OID、製品タイプ、サブタイプ、カスタム管理ページ、および優先順位も、オプションで指定できます。DMIルールを指定するには、応答値と比較ルールとともに、製品名および、最低1つ最大3つのDMI要素を指定します。

システム識別を追加または変更する理由

- HP Systems Insight Managerデータベースに含まれておらず、場所や用途に基づいて一意の製品名で識別するサードパーティ製システムがネットワーク上にある場合があります。
- 既知のタイプのシステムを別の方法で識別場合があります。たとえば、複数のラップトップ コンピュータを持っていて、それを別の基準で分類する場合などです。

システム タイプ管理ルールを作成するオプション

システムは特定のルールで識別、分類され、対応するシステム タイプと製品名が割り当てられます。

SNMPシステムの場合、STMでは、システム オブジェクト 識別子が使用され、MIB変数OIDとその値、およびデータタイプもオプションで使用されます。識別は、識別するシステムから返されたシステム オブジェクト 識別子に基づいて実行されます。システム オブジェクト 識別子に一致するルールが存在する場合は、応答値がルールの基準に一致するかどうかに基づいて、識別が進行します。

DMIシステムの場合、STMは1つから3つのDMI要素から成る要求を使用します。要素は属性と値の組です。適用するルールでは、返された応答値が、対応する比較ルールで定義された方法でルールの値と一致する必要があります。

カスタム管理ページは、[ツール&リンク]タブの[システム ページ]上のリンクです。一意であれば、他のシステム リンクを持つリンクが表示されます。HTMLページが開くURLアドレスを指定できます。たとえば、以下を入力します。

<http://support.networkingcompany.com/model123>

検出が完全に実行されて、作成したルールと一致するシステムが識別された後で、新しいシステム タイプがシステム収集に表示されます。

ネットワークにあるシステムが変更された場合は、ルールを変更、削除できます。

関連プロシージャ

- 新規STMルールの作成
- STMルールの編集
- STMルールの削除

関連トピック

- システム タイプの管理
- システム タイプの管理ページのナビゲート

新規STMルールの作成

新しいSNMPルールをシステム タイプ管理（STM）で作成するには、この手順を実行します。

システム タイプ管理（STM）は、識別のデフォルト動作を変更するためのユーティリティです。STMでは、ネットワーク上のシステムから、SNMPとDMI（Windowsのみ）収集に対する応答に基づいて、ルールを使用してシステムのタイプと製品名をカスタマイズできます。

注記:



DMIルールは、コマンド ラインからのみ作成できます。

注記:

必要なフィールドは次のとおりです。



- [比較ルール]を含む[システム オブジェクト識別子]
 - システム タイプ
 - 製品名
-

新規ルール:

必須フィールド*

新規システムタイプを作成する場合は、次の基準に従ってください。

システム オブジェクト識別子* [システムから取得...](#)

比較ルール*

MD 実装オブジェクト識別子* [MDから取得...](#)

オブジェクト値 [システムから取得...](#)

データタイプ [文字列](#)

比較ルール [任意の値](#)

優先順位が最も高い

上記の基準で識別されたシステムは、以下のプロパティを割り当ててください。

システムタイプ* [サーバ](#)

サブタイプ [なし](#)

製品モデル*

カスタム管理ページ [起動](#)

[OK](#) [キャンセル](#)

新しいSNMPルールを作成するには、次のように操作します。

1. **[オブション]**->**[システム タイプの管理]**を選択します。**[システム タイプの管理]**ページが表示されます。
2. **新規**をクリックします。**[新規ルール]**セクションが表示されます。
3. **[システム オブジェクト識別子]**の情報を入力します。システム オブジェクト識別子は、システムから取得をクリックして、ネットワーク上の対象システムから取得します。**[システムから取得]**セクションが表示されます。これは必須フィールドです。

システムから取得:

オブジェクト識別子、コミュニティ名、ターゲット、ホスト名またはIPアドレスを入力し、応答を取得ボタンを押して、下記の結果を表示します。OKをクリックすると、この値を上のシステム オブジェクト識別子フィールドへ転送します。

オブジェクト識別子: 138.1.2.1.2

コミュニティ名: public

ターゲット ホスト名またはIPアドレス:

[応答を取得](#)

応答SNMPデータ値

応答値

[OK](#) [キャンセル](#)

- a. **[オブジェクト識別子]**フィールドに、オブジェクト識別子を入力します。
- b. コミュニティ名がデフォルトのpublic以外である場合は、**[コミュニティ名]**フィールドにコミュニティ名を入力します。データを取得するには、ターゲット システムとHP Systems Insight Managerサーバのコミュニティ名を一致させる必要があります。
- c. 検索するシステムのIPアドレスを**[ターゲット ホスト名またはIPアドレス]**フィールドに入力します。
- d. **[応答SNMPデータ値]**と**[応答値]**を表示するには、応答を取得をクリックします。
- e. **[システムから取得]**セクションを閉じて、**[システム オブジェクト識別子]**フィールドか、**[オブジェクト値]**フィールドの一方が両方に応答値を設定するには、**OK**をクリックします。

4. **[システム オブジェクト識別子の比較ルール]**を入力します。下向き矢印をクリックし、適切なルールを選択します。ほとんどの場合は**[一致]**にします。システムのクラスのシステム オブジェクト識別子が、入力した値で始まることがわかっている場合は、**[次の文字で始まる]**に設定します。
5. (省略可能) **MIB**から取得をクリックし、**[MIB変数オブジェクト識別子]**を指定します。**[MIBから取得]**セクションが表示されます。

これを実行する必要があるのは、同じシステム オブジェクト識別子を返す複数のシステムを、クラスごとに異なる値を返すSNMP変数に基づいて、異なる製品として分類する場合です。たとえば、異なるベンダのWindows NTサーバがあり、同じWindows NTシステム オブジェクト識別子が返される場合は、Windows NTシステム オブジェクト識別子をシステム オブジェクト識別子として使用してルールを指定し、ベンダ固有のMIB変数と値の組み合わせを使用して、ベンダごとに別のルールを作成してください。

MIBから取得:

MIB変数の詳細を下に表示するには、MIBファイルとMIB変数を選択してください。OKをクリックすると、この値を上のMIB変数フィールドへ転送します。

MIB定義ファイル名:	rfc1213.mib
MIB変数名:	sysDescr
MIB変数オブジェクト識別子:	1.3.6.1.2.1.1.1
MIB変数アクセス:	READ-ONLY
MIB変数ステータス:	MANDATORY
MIB変数タイプ:	DEPLAYSTRING

OK キャンセル

- a. **[MIB定義ファイル名]**ボックスで下向き矢印をクリックし、MIB定義ファイルを選択します。
 - b. **[MIB変数名]**ボックスで下向き矢印をクリックし、MIB変数名を選択します。
 - c. **[MIBから取得]**セクションを閉じて、**[MIB変数オブジェクト識別子]**情報をフィールドに設定するには、**OK**をクリックします。
6. システムから取得をクリックして**[オブジェクト値]**を選択します。**[システムから取得]**セクションが表示されます。
 - a. **[オブジェクト識別子]**、コミュニティ名、および**[ターゲット ホスト名またはIPアドレス]**を入力します。
 - b. **[応答SNMPデータ値]**と**[応答値]**を表示するには、応答を取得をクリックします。
 - c. **[システムから取得]**セクションを閉じて、**[オブジェクト値]**フィールドに情報を設定するには、**OK**をクリックします。
 7. 下向き矢印をクリックし、**[オブジェクト値]**の**[データ型]**を選択します。
 8. 下向き矢印をクリックし、**[オブジェクト値]**の**[比較ルール]**を選択します。
 9. **[優先順位]**を入力します（同一システム オブジェクト識別子の複数のルールが存在する場合に適用されます）。
 10. **[システム タイプ]**フィールドで下向き矢印をクリックし、システム タイプを選択します。
 11. **[サブタイプ]**フィールドで下向き矢印をクリックし、システム サブタイプを選択します。

12. **[製品名]**フィールドに、新しいルールの商品名を入力します。
13. **[カスタム管理ページ]**フィールドにURLを入力します。このURLでは、このルールで識別されたシステムの**[システム ページ]**上のシステム リンクとして、このWebページが表示されます。URLの任意の場所に、特別なキーワード`$ipaddress`および`$hostname`を入力します。このキーワードは、リンクが**[システム ページ]**に配置されている場合、システムの実際のIPアドレスかホスト名で置き換わります。
14. URLにアクセスできることを確認するには、**起動**をクリックします。
15. 新しいルールを保存するには、**OK**をクリックします。すべての変更内容をキャンセルして**[新規ルール]**セクションに戻るには、キャンセルをクリックします。

コマンド ライン インタフェース

SNMPルールとDMI（Windowsのみ）ルールの追加をコマンド ラインから行うには、**mxstm** コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに**man mxstm**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルを参照してください。コマンドとマニュアルの利用方法の詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- STMルールの編集
- STMルールの削除

関連トピック

- システム タイプの管理
- システム タイプ管理について
- システム タイプの管理ページのナビゲート

STMルールの編集

優先順位、システム タイプ、サブタイプ、またはカスタム管理ページを変更するには、システム タイプ管理（STM）を使用して、既存のSNMPルールを編集します。

注記:



このページで優先順位を変更すると、システム オブジェクト識別子が同一であるその他すべてのルールの優先順位が変更されます。変更後は、システム オブジェクト識別子が同一であるすべてのルールに対して、1から始まって同じシステム オブジェクト識別子を含むルールの数までの間で一意となる優先順位が与えられます。

注記:



すべてのステップはオプションです。

SNMPルールを編集するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[システム タイプの管理]**を選択します。**[システム タイプの管理]**ページが表示されます。
2. **編集**をクリックします。**[ルールの編集]**セクションが表示されます。
3. **[優先順位]**フィールドで、優先順位を変更します。
4. **[システム タイプ]**フィールドで下向き矢印をクリックし、システム タイプを変更します。
5. **[サブタイプ]**フィールドで下向き矢印をクリックし、サブタイプを変更します。
6. **[カスタム管理ページ]**フィールドでURLを変更します。URL起動ページにアクセスできることを確認するには、**起動**をクリックします。
7. 変更内容を保存して**[システム タイプの管理]**ページに戻るには、**OK**をクリックします。変更内容を保存せずに**[システム タイプの管理]**ページに戻るには、**キャンセル**をクリックします。

コマンド ライン インタフェース

SNMPルールとDMI（Windowsのみ）ルールの編集をコマンド ラインから行うには、**mxstm** コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに**man mxstm**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを参照してください。コマンドとマニュアルページの使用方法の詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規STMルールの作成
- STMルールの削除

関連トピック

- システム タイプの管理
- システム タイプ管理について
- システム タイプの管理ページのナビゲート

STMルールの削除

システム タイプ管理（STM）を削除するには、次のように操作します。

STMルールを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[システム タイプの管理]を選択します。[システム タイプの管理]ページが表示されます。
2. 削除するルールを選択します。
3. 削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
4. ルールを削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 新規STMルールの作成
- STMルールの編集

関連トピック

- システム タイプの管理
- システム タイプ管理について
- システム タイプの管理ページのナビゲート

新規STMルールのリファレンス

SNMP対応製品には、各メーカーにより、他と重複しないシステム オブジェクト識別子が割り当てられています。また、システムは、管理情報ベース（MIB）というファイルに記述されている変数で自分自身に関する情報を提供します。この値は、業界標準の構造で記述されます。MIBはベンダによってシステムに提供されるもので、システム タイプ管理（STM）からアクセスおよび使用できるようにHP Systems Insight Managerに登録する必要があります。すべてのHP MIBとサードパーティのMIBの多くは、HPによってあらかじめ登録されています。ネットワーク上に関連システムがある場合は、MIBコンパイラを使用して残りのMIBに登録することができます。MIBの登録については、「MIBの登録」を参照してください。MIBを調べると、変数のモジュールまたはグループがあるのがわかります。変数のなかには、複数の値を持つものがあります。このような値の場合は、各自がオブジェクト識別子も持っています。このオブジェクト識別子を使用すると、このオブジェクト識別子を問い合わせ、含まれるシステム、および現在の動作を判断できます。

新しいDMIルールの追加（Windows CMSのみから）

コマンドラインユーティリティ（**mxstm**）を使用して、新しいDMIベースルールを作成できます。DMIシステム情報はMIF（管理情報フォーマット）ファイルから作成されます。MIFファイルには属性と対応する値の要素が含まれます。**mxstm** マンページへのアクセスの詳細については、「コマンドライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

SNMPルールの新規追加

コマンドラインユーティリティ（**mxstm**）を使用するか、[オプション]>[システム タイプの管理]を選択してHP Systems Insight Managerユーザ インタフェースから、新しいSNMPベースルールを作成できます。SNMPフレームワーク内で、管理可能なネットワークシステム（ルータ、ブリッジ、サーバなど）には、マネジメント エージェントと呼ばれるソフトウェア コンポーネントが含まれます。このエージェントは、ネットワーク要素のさまざまなサブシステムを監視し、この情報をMIBに格納します。このエージェントにより、システムはトラップを生成でき、HP Systems Insight Managerを実行している、トラップ宛先サーバに送信するように設定できます。

DMI識別について知っておくべきこと

DMIの識別は、DMIの要求にシステムがどのように応答するかがベースになっています。システムは、MIFと呼ばれるファイルで定義される、デバイスについての情報を提供します。MIFはベンダに固有です。ターゲット システム上にMIFファイルだけがある場合は、DMI識別は保証されません。HP Systems Insight ManagerでMIBを登録するのと同じ方法では、MIFは登録できません。一般的なWin32sl.MIFなどのMIFを調べる場合は、属性グループを見つけます。MIF属性の要求に対する応答で返される値を使用すると、含まれるシステムと現在の動作を判断できます。

一例として、次の抜粋はWin32sl.MIFの一部です。NameがComponent IDになっているグループでは、Manufacturer、Product、Version、Serial NumberのようなDMIシステムの1つの状況を識別する、いくつかの属性が続くことに注意してください。その他のMIFでは異なるグループを持つことがあり、システムのその他の状況を指定します。MIFの情報は、ルールを作成するときSTMに提供する情報になります。STMは、特定属性用の特定のターゲットから値を要求できます。

注記:



DMI識別は、WindowsベースおよびHP-UXベースの中央管理サーバ（CMS）のインストールでのみサポートされています。また、同種のオペレーティング システムしか識別できません。たとえば、WindowsベースのCMSはWindowsベースのDMIシステムだけを、HP-UXベースのCMSはHP-UXベースのDMIシステムだけを、それぞれ識別できます。

```
Start Group
Name = "ComponentID"
ID = 1 Class = "DMTF | ComponentID | 001"
Description = "This group defines the attributes common to
all components. This group is required."
```

```
Start Attribute Name = "Manufacturer"
ID = 1
Description = "Manufacturer of this system."
Access = Read-Only
Storage = Common
Type = String(64)
Value = "Intel Corporation"
End Attribute
```

```
Start Attribute
Name = "Product"
ID = 2
Access = Read-Only
Storage = Common
Type = String(64)
Value = "Win32 DMI Service Layer"
End Attribute
```

```
Start Attribute
Name = "Version"
ID = 3
Description = "Version number of this component."
Access = Read-Only
Storage = Common
Type = String(64)
Value = "2.32"
End Attribute

Start Attribute
Name = "Serial Number"
ID = 4
Access = Read-Only
Storage = Common
Type = String(64)
Value = "unsupported"
End Attribute

...
```

関連プロシージャ

- 新規STMルールの作成
- STMルールの編集
- STMルールの削除

関連トピック

- システム タイプの管理
- システム タイプ管理について
- システム タイプの管理ページのナビゲート

ユーザと認証

注記:



中央管理サーバ（CMS）に追加されたユーザは、認証がそのユーザに対して設定されるまでは、システムの表示や管理を実行できません。

注記:



lsや**df**など、HP-UXとLinuxで提供されるコマンドライン ツールは、デフォルトではrootユーザの権限で実行されます。セキュリティを確保するために、特定ユーザとしてコマンドライン ツールを実行させ、意図していない機能をユーザに許可することを防止しなければならないことがあります。

HP Systems Insight Managerでは、特定のユーザかユーザ グループの認証を設定することができます。認証により、ユーザは、システムを表示および管理するためのアクセスが可能になります。各認証は、ユーザまたはユーザ グループ、ツールボックス、およびシステムまたはシステム グループを指定します。システムに対して実行可能なツールの個別のセットは、割り当てられているツールボックスで指定されます。

それぞれのユーザがどのシステムを管理するか、およびユーザが管理対象システムに対して実行する権限があるツールのセットはどれかを、慎重に計画することが重要です。システムに対してツールボックス認証を持たないユーザは、そのシステムを表示または管理することができません。

認証は、追加式です。ユーザがシステムのツールボックス1について認証されている場合、同じシステムのツールボックス2についても認証されると、そのユーザは、そのシステムのツールボックス1とツールボックス2の両方ですべてのツールを使用することができます。同様に、**【すべてのツール】**ツールボックスには、通常、すべてのツールが含まれているので、**【すべてのツール】**ツールボックスについて認証されているユーザには、そのシステムの他のツールボックス認証は不要です。

ユーザ名と認証を設定する場合は、次のセクションの手順をガイドラインとして参照してください。

1. 「自動検出の設定」
2. 「新規ユーザの作成」
3. 「新規ユーザ グループの作成」
4. 「新規ツールボックスの作成」
5. 「新規認証の作成」

ユーザ設定権

HP Systems Insight Managerには、次の設定権があります。

- **フル。** データベースを完全に制御することをユーザに許可します。ユーザは、「システムの検出とデータ収集の実行」、「ユーザと認証の定義」、「クラスタ監視設定の指定」、「ライセンス設定とプロトコル設定の指定」、「レポート、スナップショット比較、ツール、カスタム コマンド、イベント、自動タスクなどの作成、変更、削除、実行」を行うことができます。
- **制限。** ユーザは、レポート（事前定義レポートを含む）の作成、編集、削除を行うことができます。
- **なし。** ユーザは、表示を許可されたシステムのみで、定義済みレポートの表示と実行ができます。設定権がないユーザは、システムデータベースに影響するアクションを実行できません。

[ユーザおよび認証]タブ

[ユーザおよび認証]タブには、次のオプションがあります。

- ユーザおよびユーザ グループの追加、編集、削除、ならびにユーザ レポートの表示と印刷。[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択します。
- ツールボックスの追加、編集、削除、およびツールボックス レポートの表示と印刷。[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ツールボックス]を選択します。
- 認証の追加と削除、および認証レポートの表示と印刷。[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[認証]を選択します。

関連プロシージャ

- 新規ユーザの作成
- 新規ユーザ グループの作成
- 新規ツールボックスの作成
- 新規認証の作成
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集
- ツールボックスの編集
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- ツールボックスの削除
- 認証の削除
- ユーザおよびユーザ グループ レポート
- ツールボックス レポート
- 認証レポート

関連トピック

- ユーザおよびユーザ グループ
- ツールボックス
- 認証

ユーザおよびユーザ グループ

ユーザの管理には、追加、編集、削除、レポートが含まれます。ユーザまたはユーザ グループを追加したら、**[認証]**タブで定義済み認証をユーザに割り当てることができます。

ユーザおよび認証

稼出したシステムをユーザが表示および管理できるようにユーザおよび認証の追加、変更、設定を行います。

ユーザ					
ユーザ/ユーザ グループ	設定権限	ポケベル設定済み	IPログイン制約	フルネーム	
<input type="checkbox"/> #38adgpn2007ADMIN	フル	いいえ	いいえ		新規
<input type="checkbox"/> #38adgpn2007Administrator	フル	いいえ	いいえ		新規グループ
<input type="checkbox"/> #38adgpn2007GMUSER	なし	いいえ	いいえ		編集
<input type="checkbox"/> #38adgpn2007user	なし	いいえ	いいえ		削除
					レポート

割り当てるユーザおよびユーザ グループは、オペレーティング システムのユーザまたはユーザ グループでなければなりません。Windowsの場合、ユーザ グループには、Active Directoryが含まれます。HP Systems Insight Managerでユーザ グループを設定すると、オペレーティング システムのそのユーザ グループのメンバは、HP Systems Insight Managerにサイン インできます。つまり、HP Systems Insight Managerでユーザとして設定する必要はありません。以降、ユーザは、HP Systems Insight Managerで設定されたユーザ グループの認証と設定権に基づき、タスクを作成したり、ツールを実行したりすることができます。

[ユーザ]タブには、次の情報を含むテーブルが表示されます。

- **ユーザまたはユーザ グループ。** ユーザとユーザ グループがすべて表示されます。ユーザ グループは、ボールド体で表示され、グループベースのユーザ アカウント（設定済みのユーザ グループのメンバ）は、イタリック体で示されます。
- **設定権限。** ユーザが所有する設定権限の種類（フル、制限付き、なし）が表示されます。
- **ポケベル設定。** ユーザがポケベル設定されているかどうかを示されます。ユーザ グループについてはこの列は空白です。
- **IPログイン制約。** ユーザまたはユーザ グループに割り当てられたIP制限があるかどうかを示されます。
- **フルネーム。** ユーザやユーザ グループの作成時にフルネームが設定された場合、ここに表示されます。

[ユーザ]タブには、次のオプションがあります。

- **新しいユーザの作成。** **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]**を選択し、新規をクリックします。**[新規ユーザ]**セクションが表示されます。
- **新しいユーザ グループの作成。** **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]**を選択し、新規グループをクリックします。**[新規ユーザ グループ]**セクションが表示されます。
- **既存のユーザまたはユーザ グループの編集。** **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]**を選択し、ユーザまたはユーザ グループを選択します。編集をクリックします。**[ユーザの編集]**セクションまたは**[ユーザ グループの編集]**セクションが表示されます。

す。グループ ベース（イタリック体）のユーザを編集して、個別設定のユーザに変更できます。

- ユーザまたはユーザ グループの削除。 [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択し、ユーザまたはユーザ グループを選択します。削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。ユーザまたはユーザ グループを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。
- ユーザ レポートの表示と印刷。 [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択し、レポートをクリックします。[ユーザ レポート]ポップアップウィンドウが表示されます。レポートを印刷する場合は、[ファイル]>[印刷]を選択します。

注記:



昇順か降順で情報を並べ替えるには、適切な列の見出しをクリックします。矢印が含まれている列見出しは、リストの並べ替え基準になっている列です。矢印が上を向いている場合、リストは昇順で並べ替えられています。矢印が下を向いている場合、リストは降順で並べ替えられています。

関連プロシージャ

- 新規ユーザの作成
- 新規ユーザ グループの作成
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- ユーザおよびユーザ グループ レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ツールボックス
- 認証
- デフォルト ユーザ テンプレート

新規ユーザの作成

HP Systems Insight Managerにサイン インするには、新しいユーザ アカウントを作成します。アカウントは、中央管理サーバ（CMS）のオペレーティング システム（WindowsのActive Directoryを含む）に対して有効であり、CMSによって認証される必要があります。追加するユーザのオペレーティング システムユーザ アカウント名が必要ですが、パスワードは必要ありません。

新しいユーザを作成するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択し、新規をクリックします。[新規ユーザ]セクションが表示されます。
2. HP Systems Insight Managerへのサイン インに使用するオペレーティング システム ログイン アカウント名を、[ログイン名]（中央管理サーバ上）フィールドに入力します。これは必須フィールドです。

注記：アカウントが有効なログインでない場合、ユーザはHP Systems Insight Managerにサインインできません。ユーザがHP Systems Insight Managerにサインインしようとするまで、アカウントは有効になりません。

3. CMSがWindowsオペレーティングシステムを実行している場合は、ログイン名のWindowsドメイン名を[ドメイン]（ログイン名の**Windows**ドメイン）フィールドに入力します。空白のままにすると、CMSのシステム名がドメインとして使用されます。
4. [フルネーム]フィールドに、ユーザのフルネームを入力します。
5. [電話番号]フィールドに、ユーザの電話番号を入力します。
6. [Emailアドレス]フィールドに、ユーザのEmailアドレスを入力します。
7. 作成しているログインアカウントに割り当てる、定義済み権限を含むテンプレートかログインを、[このユーザに設定された認証を使用するか次の[テンプレート]からコピーする]フィールドから選択します。デフォルトユーザテンプレートの詳細については、「デフォルトユーザテンプレート」を参照してください。
8. [中央管理サーバの設定権]セクションで、新しいユーザに割り当てる認証のレベルを次のオプションから選択します。
 - フルの場合、すべての中央管理サーバ設定の変更が可能です。データベースを完全に制御することをユーザに許可します。ユーザは、「システムの検出とデータ収集の実行」、「ユーザと認証の定義」、「クラスタ監視設定の指定」、「ライセンス設定とプロトコル設定の指定」、「レポート、スナップショット比較、ツール、カスタムコマンド、イベント、自動タスクなどの作成、変更、削除、実行」を行うことができます。
 - 制限付き権限の場合、すべてのレポートとそのユーザのツールの作成、変更、および削除が可能です。ユーザは、新しいレポートの作成、レポートの編集、レポートの削除（事前定義レポートを含む）を行うことができます。
 - 設定権なしの場合、中央管理サーバの設定は行えません。ユーザは、CMSとすべての管理対象システムに関する定義済みレポートの表示と実行ができます。ただし、ユーザには、CMSや管理対象システムに関する設定権がありません。
9. [ログインIPアドレスの制限]セクションの[包括範囲]フィールドに、このユーザがこのCMSにアクセスするクライアントとして使用できるシステムのIPアドレスを入力します。複数のIPアドレスをリストする場合は、セミコロン (;) で区切ります。それぞれの範囲は、単一のIPアドレス、またはダッシュ (-) で区切った、2つのIPアドレスにします。IPアドレスは、15.1.54.133のように標準的なドット形式で入力する必要があります。セミコロンやダッシュの前後にある空白は無視されます。ドット形式の単一IPアドレスに空白を含めることはできません。ユーザがリモートシステムからログインすることを禁止するには、0.0.0.0と入力します。

重要：中央管理サーバからアクセスする場合は、CMSのすべてのIPアドレスが正しく含まれていることを確認してください。**localhost**にアクセスする場合は、ループバックアドレス127.0.0.1も含まれていることを確認してください。
10. このCMSにアクセスするクライアントとして、このユーザが使用できないようにする場合は、システムのIPアドレスを[除外範囲]フィールドに入力します。前の[包括範囲]の手順と同じフォーマットを使用してください。

注記：包括範囲と除外範囲が重ならないことを確認してください。

注記：手順11から15は、WindowsベースのCMSでのみ実行してください。

11. Windowsオペレーティングシステムを使用している場合は、**[ポケベル情報]**セクションの**[電話番号]**フィールドに、このユーザ アカウントに関連するユーザのポケベルの電話番号を入力します。**[電話番号]**フィールドが空白の場合、ポケベル情報は保存されません。
12. **[PIN番号]**フィールドに、ポケベル電話番号に関連するPIN番号を入力します。
13. **[メッセージ長]**フィールドで、ポケベル メッセージで受信可能な文字数をドロップダウン リストから選択します。
14. **[ボーレート]**フィールドで、ポケベルに適切なボーレートをドロップダウン リストから選択します。
15. **[データ フォーマット]**フィールドで、ポケベルに適切なデータ フォーマットをドロップダウン リストから選択します。
16. 新しいユーザを保存して**[新規ユーザ]**セクションを閉じるには、**OK**をクリックします。**[新規ユーザ]**セクションを開いたまま保存する場合は**適用**をクリックします。また、このユーザの作成をキャンセルする場合は**キャンセル**をクリックします。

新しいユーザ アカウントが作成されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxuser**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からユーザを作成できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- ユーザおよびユーザ グループ レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ユーザおよびユーザ グループ
- デフォルト ユーザ テンプレート

新規ユーザ グループの作成

オペレーティング システムには、ユーザ グループがあるはずです。Windowsの場合、ユーザ グループには、Active Directoryが含まれます。オペレーティング システムのユーザ グループのメンバは、HP Systems Insight Managerにサイン インすることができ、グループの認証だけでなく、設定権やログインIPアドレス制限に関するグループの属性も継承します。グループの設

定権、ログインIPアドレス制限、または認証が変更されると、この変更は、即座にグループの現在のすべてのメンバに反映されます。

複数のユーザグループのメンバになっているユーザは、各グループから属性と認証を継承します。設定権については、ユーザは、最も高い設定を継承します。ログインIPアドレス制限については、ユーザは、すべてのエントリを継承します。認証については、ユーザは、すべての認証を継承します。

注記:



ユーザのグループメンバシップは、サインイン時に決定されます。ユーザのグループメンバシップがオペレーティングシステムで変更されても、ユーザが次にHP Systems Insight Managerにサインインするまでは、変更がHP Systems Insight Managerに反映されません。

新しいユーザグループを作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]**を選択し、**新規グループ**をクリックします。**[新規ユーザグループ]**セクションが表示されます。
2. HP Systems Insight Managerへのログインに使用するオペレーティングシステムグループ名を、**[グループ名]**（中央管理サーバ上）フィールドに入力します。これは必須フィールドです。
3. 中央管理サーバ（CMS）がWindowsオペレーティングシステムを実行している場合は、グループのWindowsドメイン名を**[ドメイン]**（ログイン名の**Windows**ドメイン）フィールドに入力します。
4. **[フルネーム]**フィールドにグループのフルネームを入力します。このフィールドは、**[ユーザ]**タブのテーブルに表示されます。
5. 作成しているグループに割り当てる、定義済み認証を含むテンプレートかログインを、**[このユーザに設定された認証を使用するか次の[テンプレート]からコピーする]**ドロップダウンリストから選択します。デフォルトユーザテンプレートの詳細については、「デフォルトユーザテンプレート」を参照してください。
6. **[中央管理サーバの設定権]**セクションで、新しいユーザグループに割り当てる認証のレベルを次のオプションから選択します。このグループのメンバとしてHP Systems Insight Managerにログインするユーザは、これらの設定権を継承します。
 - フルの場合、すべての中央管理サーバ設定の変更が可能です。データベースを完全に制御することをユーザに許可します。ユーザは、「システムの検出とデータ収集の実行」、「ユーザと認証の定義」、「クラスタ監視設定の指定」、「ライセンス設定とプロトコル設定の指定」、「レポート、スナップショット比較、ツール、カスタムコマンド、イベント、自動タスクなどの作成、変更、削除、実行」を行うことができます。
 - 制限付き権限の場合、すべてのレポートとそのユーザのツールの作成、変更、および削除が可能です。ユーザは、新しいレポートの作成、レポートの編集、レポートの削除（事前定義レポートを含む）を行うことができます。

- 設定権なしの場合、中央管理サーバの設定は行えません。ユーザは、CMSとすべての管理対象システムに関する定義済みレポートの表示と実行ができます。ただし、ユーザには、CMSや管理対象システムに関する設定権がありません。

7. [ログインIPアドレスの制限]セクションの[包括範囲]フィールドに、このユーザ グループのメンバがこのCMSにアクセスするクライアントとして使用できるシステムのIPアドレスを入力します。複数のIPアドレスをリストする場合は、セミコロン (;) で区切ります。それぞれの範囲は、単一のIPアドレス、またはダッシュ (-) で区切った、2つのIPアドレスにします。IPアドレスは、15.1.54.133のように標準的なドット形式で入力する必要があります。セミコロンやダッシュの前後にある空白は無視されます。ドット形式の単一IPアドレスに空白を含めることはできません。ユーザがリモート システムからログインすることを禁止するには、0.0.0.0と入力します。

重要：中央管理サーバからアクセスする場合は、CMSのすべてのIPアドレスが正しく含まれていることを確認してください。**localhost**にアクセスする場合は、ループバック アドレス127.0.0.1も含まれていることを確認してください。

8. このCMSにアクセスするクライアントとして、このユーザ グループのメンバが使用できないようにする場合は、システムのIPアドレスを[除外範囲]フィールドに入力します。前の[包括範囲]の手順と同じフォーマットを使用してください。

注記：包括範囲と除外範囲が重ならないことを確認してください。

9. 新しいユーザを保存して[新規ユーザ グループ]セクションを閉じるには、**OK**をクリックします。適用をクリックして、保存後、[新規ユーザ グループ]セクションを開いたままにしておくこともできます。また、キャンセルをクリックして、新しいグループを保存せずに[新規ユーザ グループ]セクションを閉じることもできます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxuser**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からユーザ グループを作成できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- ユーザおよびユーザ グループ レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ユーザおよびユーザ グループ
- デフォルト ユーザ テンプレート

ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集

ユーザアカウントやユーザグループを修正する必要がある場合は、[ユーザおよび認証]ページの[ユーザ]タブから編集できます。

注記:



グループの設定権またはログインIPアドレス制限が変更されると、この変更は、即座にグループの現在のすべてのメンバに反映されます。グループ名を編集しても、新しいグループ名が取得されるだけで、その現在のメンバへの影響はありません。

注記:



グループベースのユーザアカウントは、編集して個々のユーザに変換することはできますが、元に戻すことはできません。

ユーザアカウントまたはユーザグループを編集するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択します。
2. 編集するユーザまたはユーザグループを選択して、編集をクリックします。[ユーザの編集]セクションまたは[ユーザグループの編集]セクションが表示されます。
3. 適切な設定を変更します。

注記：ユーザグループについては、ステップd～eおよびi～mは利用できません。

- a. ユーザまたはユーザグループのオペレーティングシステム名を、[ログイン名]（中央管理サーバ上）フィールドで編集します。これは必須フィールドです。
- b. 中央管理サーバ（CMS）がWindowsを実行している場合は、ユーザまたはユーザグループ名のWindowsドメイン名を[ドメイン]（ログイン名の**Windows**ドメイン）フィールドで編集します。

注記：Insightマネージャ7から移行したユーザアカウントの場合は、ドメイン（ログイン名の**Windows**®ドメイン）フィールドには、そのユーザに関連づけられたダミーのドメイン名が入力されています。ポケベル通知を受信するユーザの場合は、このフィールドにネットワーク上で有効なドメイン名を指定してください。

- c. [フルネーム]フィールドで、ユーザまたはグループのフルネームを編集します。この編集は、ユーザグループには適用されません。
- d. [電話番号]フィールドで、ユーザの電話番号を編集します。この編集は、ユーザグループには適用されません。
- e. [Emailアドレス]フィールドでユーザのEmailアドレスを編集します。

- f. **[中央管理サーバの設定権]**セクションで、ユーザまたはユーザ グループに割り当てる認証のレベルを次のオプションから選択します。

- フルの場合、すべての**CMS**設定の変更が可能です。データベースを完全に制御することをユーザに許可します。ユーザは、「システムの検出とデータ収集の実行」、「ユーザと認証の定義」、「クラスタ監視設定の指定」、「ライセンス設定とプロトコル設定の指定」、「レポート、スナップショット比較、ツール、カスタム コマンド、イベント、自動タスクなどの作成、変更、削除、実行」を行うことができます。
- 制限付き権限の場合、すべてのレポートとそのユーザのツールの作成、変更、および削除が可能です。ユーザは、新しいレポートの作成、レポートの編集、レポートの削除（事前定義レポートを含む）を行うことができます。
- 設定権なしの場合、**CMS**の設定は行えません。ユーザは、CMSとすべての管理対象システムに関する定義済みレポートの表示と実行ができます。ただし、ユーザには、CMSや管理対象システムに関する設定権がありません。

注意：ユーザの設定権が完全な設定権から変更された場合、ユーザ認証を変更したい場合があります。ユーザ認証を変更しないと、**[すべての管理対象システム]**の**[すべてのツール]**ツールボックスやCMSの**[すべてのツール]**ツールボックスなどについての不適切なツール認証をユーザが引き続き持つことになる場合があります。

それぞれの認証レベルの詳細については、「新規ユーザの作成」を参照してください。

- g. **[ログインIPアドレスの制限]**セクションの下**[包括範囲]**フィールドで、このユーザまたはユーザ グループによる管理に含めるシステムのIPアドレスを編集します。複数のIPアドレスをリストする場合は、セミコロン (;) で区切ります。それぞれの範囲は、単一のIPアドレス、またはダッシュ (-) で区切った、2つのIPアドレスにします。IPアドレスは、15.1.54.133のように標準的なドット形式で入力する必要があります。セミコロンやダッシュの前後にある空白は無視されます。ドット形式の単一IPアドレスに空白を含めることはできません。

重要：中央管理サーバからアクセスする場合は、CMSのすべてのIPアドレスが正しく含まれていることを確認してください。**localhost**にアクセスする場合は、ループバックアドレス127.0.0.1も含まれていることを確認してください。

- h. このユーザまたはユーザ グループの管理対象外にするシステムについては、そのシステムのIPアドレスを**[除外範囲]**フィールドで編集します。前の**[包括範囲]**の手順と同じフォーマットを使用してください。ユーザがリモート システムからログインすることを禁止するには、0.0.0.0と入力します。

注記：包括範囲と除外範囲が重ならないことを確認してください。

注記：次の5ステップはWindowsシステムのみで実行します。また、これらのステップは、ユーザ グループについては実行しません。

- i. Windowsオペレーティングシステムを使用している場合は、**[ポケベル情報]**セクションの**[電話番号]**フィールドで、このユーザ アカウントに関連するユーザのポケベルの電話番号を編集します。**[電話番号]**フィールドが空白の場合、ポケベル情報は保存されません。
- j. **[PIN番号]**フィールドで、ポケベル電話番号に関連するPIN番号を編集します。

- k. **[メッセージ長]**フィールドで、ポケベル メッセージで受信可能な文字数をドロップダウン リストから選択します。
 - l. **[ボーレート]**フィールドで、ポケベルに適切なボーレートをドロップダウン リストから選択します。
 - m. **[データ フォーマット]**フィールドで、ポケベルに適切なデータ フォーマットをドロップダウン リストから選択します。
4. 新しいユーザを保存して**[新規ユーザ]**セクションを閉じるには、**OK**をクリックします。**[ユーザの編集]**セクションを開いたまま保存する場合は、**適用**をクリックします。また、ユーザの変更操作をキャンセルする場合は、**キャンセル**をクリックします。

ユーザまたはグループの変更内容が保存されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxuser**コマンドを使用して、コマンド ライン インタフェース (CLI) からユーザまたはユーザ グループを修正できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- ユーザと認証
- 新規ユーザの作成
- 新規ユーザ グループの作成
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- ユーザおよびユーザ グループ レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ユーザおよびユーザ グループ

ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除

HP Systems Insight Manager ユーザ アカウントまたはユーザ グループをオペレーティング システムから削除するか、ユーザ アカウントやユーザ グループの無効化またはロックを行っても、そのユーザ アカウントですでにHP Systems Insight Managerにログインしているユーザは、影響を受けません。このため、ログインしているユーザをHP Systems Insight Managerから削除するには、ユーザ アカウントをHP Systems Insight Manager内部から削除する必要があります。これを実行すると、HP Systems Insight Managerにすでにログインしていても、そのユーザ アカウントは強制的にログアウトされます。

ユーザ グループを削除すると、そのグループのすべてのメンバが、そのグループでのメンバシップを失います。これにより、それらのユーザの認証、設定権、およびログインIPアドレス

制限が、新しいグループ メンバシップに基づいて更新されます。どのユーザ グループのメンバーでもなくなったユーザは、HP Systems Insight Managerから削除されます。

注意:



ユーザまたはユーザ グループを削除すると、ログインできなくなるだけでなく、関連するすべての認証と、影響を受けるユーザによって所有されるタスクも削除されます。

注記:



完全な設定権がある、最後のユーザ アカウントを削除することはできません。

ユーザ アカウントまたはユーザ グループを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択します。
2. 削除するユーザやグループを選択します。
3. 削除をクリックします。
4. 確認ボックスが表示されます。選択したユーザおよびユーザ グループを削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルして[ユーザ]セクションに戻るには、キャンセルをクリックします。ユーザ グループの削除によってグループのいずれかのメンバーも削除される場合は、削除されるユーザを示す2つ目の確認ボックスが表示されます。確認ボックスに示されているユーザをそのまま削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルして[ユーザ]セクションに戻るには、キャンセルをクリックします。

ユーザ、ユーザ グループ、関連する認証、およびタスクが永久に削除されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxuser**コマンドを使用して、コマンド ライン インタフェース (CLI) からユーザおよびユーザ グループを修正できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規ユーザの作成
- 新規ユーザ グループの作成
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集

- ユーザおよびユーザ グループ レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ユーザおよびユーザ グループ

ユーザおよびユーザ グループ レポート

ユーザおよびユーザ グループの詳細については、レポートの生成と印刷を行って調べることができます。

注記:



昇順か降順で情報を並べ替えるには、適切な列の見出しをクリックします。矢印が含まれている列見出しは、レポートの並べ替え基準になっている列です。矢印が上を向いている場合、レポートは昇順で並べ替えられています。矢印が下を向いている場合、レポートは降順で並べ替えられています。

[ユーザ レポート]ウィンドウには、すべてのユーザに関する次の一覧情報、およびレポート日時が表示されます。

- ユーザまたはユーザ グループ
- 設定権限
- ボケベル設定済み
- IPログイン制約
- フル ネーム

ユーザ アカウントまたはユーザ グループ レポートの生成と印刷を行うには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]を選択します。
2. レポートをクリックします。

[ユーザ レポート]ウィンドウが表示されます。

3. レポートを印刷するには、[ファイル]>[印刷]を選択します。

ユーザ レポートが印刷されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxuser**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からユーザおよびユーザ グループ レポートの作成できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規ユーザの作成
- 新規ユーザ グループの作成
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除

関連トピック

- ユーザと認証
- ユーザおよびユーザ グループ

デフォルト ユーザ テンプレート

デフォルトのテンプレートでは、ユーザが作成する新しいログイン アカウントに割り当てられる認証が事前に定義されています。この認証は、ユーザによるシステムへのアクセスを可能にし、ツールボックスと検出されたシステム間の関係を構築します。各アクセス レベル用に個別のツールが用意されているため、ユーザは[監視ツール]ツールボックスに含まれるこれらの user-access ツールに対する認証を受けることができますが、administrative-access ツールは[すべてのツール]ツールボックスに割り当てられています。

HP Systems Insight Managerでは、次の3つのデフォルト ユーザ テンプレートが用意されています。

- アドミニストレータ テンプレート。 このテンプレートは、中央管理サーバ（CMS）に対する完全な設定権をユーザに自動的に付与するとともに、CMSと[すべての管理対象システム]用の[すべてのツール]ツールボックスを備えています。
- オペレータ テンプレート。 このテンプレートは、CMSに対する制限付き設定権をユーザに付与するとともに、CMSの[監視ツール]ツールボックスの認証と、[すべての管理対象システム]の[すべてのツール]ツールボックスを備えています。
- ユーザ テンプレート。 このテンプレートは、CMSに対する設定権をユーザに付与しませんが、CMSと[すべての管理対象システム]用の[すべてのツール]ツールボックスの認証を備えています。

関連トピック

- 新規ユーザの作成
- 新規ユーザ グループの作成
- ツールボックス

ツールボックス

[ツールボックス]セクションでは、ツールのグループを設定できます。[すべてのツール]ツールボックスと[監視ツール]ツールボックスは、インストール プロセス中に作成されます。

- [すべてのツール]ツールボックスには、中央管理サーバ（CMS）のすべてのツールが含まれます。

- **[監視ツール]**ツールボックスには、管理対象システムの状態を表示するツールが含まれますが、管理対象システムの状態を変更するツールは含まれません。たとえば、**[監視ツール]**ツールボックスでは、インストールされているソフトウェアを表示できますが、ソフトウェアはインストールできません。
- HP Storage Essentialsがインストールされていると、Storage Essentialsツールのツールボックスがこのページに追加されます。詳細については、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。

[ツールボックス]タブには、次のオプションがあります。

- **新しいツールボックスの作成。** **[オプション]**->**[セキュリティ]**->**[ユーザおよび認証]**->**[ツールボックス]**を選択し、**新規**をクリックします。**[新規ツールボックス]**セクションが表示されます。
- **既存ツールボックスの編集。** 編集するツールボックスを選択し、**[オプション]**->**[セキュリティ]**->**[ユーザおよび認証]**->**[ツールボックス]**を選択します。次に**編集**をクリックします。**[ツールボックスの編集]**セクションが表示されます。
- **ツールボックスの削除。** 削除するツールボックスを選択します。**[オプション]**->**[セキュリティ]**->**[ユーザおよび認証]**->**[ツールボックス]**を選択します。確認ボックスが表示されます。ツールボックスを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。
- **ツールボックス レポートの表示と印刷。** **[オプション]**->**[セキュリティ]**->**[ユーザおよび認証]**->**[ツールボックス]**を選択し、**レポート**をクリックします。**[ツールボックス レポート]**が表示されます。レポートを印刷するには、**[ファイル]**->**[印刷]**を選択します。

注記:



昇順か降順で情報を並べ替えるには、適切な列の見出しをクリックします。矢印が含まれている列見出しは、リストの並べ替え基準になっている列です。矢印が上を向いている場合、リストは昇順で並べ替えられています。矢印が下を向いている場合、リストは降順で並べ替えられています。

関連プロシージャ

- 新規ツールボックスの作成
- ツールボックスの編集
- ツールボックスの削除
- ツールボックス レポート

関連トピック

- ユーザおよびユーザ グループ
- 認証
- デフォルト ユーザ テンプレート

新規ツールボックスの作成

ユーザにアクセス権があるツールのグループを設定するには、ツールボックスを作成します。

注記:



ツールボックス名は、アルファベットで始める必要があり、英数字、埋め込み空白、下線(_)、ダッシュ(-)を続けることができます。ツールボックス名は16文字以内にしてください。

ツールボックスを追加するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ツールボックス]**を選択し、新規をクリックします。**[新規ツールボックス]**セクションが表示されます。
2. **[名前]**フィールドに、新しいツールボックスの名前を入力します。これは必須フィールドです。
3. **[説明]**フィールドに、ツールボックスの説明を入力します。
4. ツールボックスと、このツールボックスで作成されたすべての認証を有効にする場合は、**[ツールボックスは有効です]**を選択します。
5. **[カテゴリのツールを表示]**フィールドから、使用可能ツール リストでツールのリストを表示するカテゴリを選択します。このツールボックスに割り当てるツールを使用可能ツール リストから選択し、>>をクリックします。

選択したツールが、**[ツールボックスの内容]**リストに表示されます。**[ツールボックスの内容]**リストに表示されているツールを選択して、<<をクリックすると、そのツールを割り当て済みツール リストから削除できます。

6. **OK**をクリックして、新しいツールボックスを保存して**[新規ツールボックス]**セクションを閉じます。**[新規ツールボックス]**セクションを閉じずに設定を保存する場合は**適用**をクリックします。また、新しいツールボックスの作成をキャンセルして**[ツールボックス]**セクションに戻る場合は**キャンセル**をクリックします。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxtoolbox**コマンドを使用してコマンドラインインタフェース (CLI) からツールボックスを追加できます。

完全な設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用して、CLIから1つまたは複数のシステムでコマンドツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- ツールボックスの編集
- ツールボックスの削除

- ツールボックス レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ツールボックス

ツールボックスの編集

ツールボックスを変更すると、ツールボックスの内容と名前や説明を修正できます。

注記:



[すべてのツール]ツールボックスは編集できません。[監視ツール]ツールボックスは編集できますが、ツールボックスに含まれているツールのセットのみを編集できます。

ツールボックスを修正するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ツールボックス]を選択します。
2. 編集するツールボックスを選択し、編集をクリックします。[ツールボックスの編集]セクションが表示されます。
3. 適切な設定を変更します。それぞれのフィールドの詳細については、「新規ツールボックスの作成」を参照してください。

注記:



新しいカスタム コマンド ツールには、[ツール]>[カスタム コマンド]>[アプリケーション起動ツール]を選択することによってアクセスできます。

4. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。変更をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxtoolbox**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からツールボックスを修正できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規ツールボックスの作成
- ツールボックスの削除
- ツールボックス レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ツールボックス

ツールボックスの削除

注意:



ツールボックスを削除すると、関連するすべての認証も削除されます。

注記:



[すべてのツール]ツールボックスと[監視ツール]ツールボックスは削除できません。

ツールボックスを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ツールボックス]を選択します。
2. 削除するツールボックスを選択します。
3. 削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
4. ツールボックスを削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

ツールボックス、および関連するすべての認証が永久に削除されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxtoolbox**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からツールボックスを削除できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規ツールボックスの作成
- ツールボックスの編集
- ツールボックス レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- ツールボックス

ツールボックス レポート

ツールボックスの詳細については、ツールボックス レポートの生成と印刷を行って調べることができます。

注記:



昇順が降順でレポート情報を並べ替えるには、適切な列の見出しをクリックします。矢印が含まれている列見出しは、レポートの並べ替え基準になっている列です。矢印が上を向いている場合、レポートは昇順で並べ替えられています。矢印が下を向いている場合、レポートは降順で並べ替えられています。

[ツールボックス レポート]ウィンドウには、すべてのツールボックスに関する次の情報、およびレポート日時が表示されます。

- ツールボックス
- 有効
- ツール
- 説明

ツールボックス レポートを印刷するには、次のように操作します。

1. [オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[ツールボックス]を選択します。
2. レポートをクリックします。

[ツールボックス レポート]ウィンドウが表示されます。

3. レポートを印刷するには、[ファイル]->[印刷]を選択します。

ツールボックスのレポートが印刷されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxtoolbox**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からレポートの生成と実行ができます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンドツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規ツールボックスの作成
- ツールボックスの編集
- ツールボックスの削除

関連トピック

- ユーザと認証
- ツールボックス

認証

認証により、ユーザは、システムを表示および管理するためのアクセスが可能になります。認証は、ユーザ、ツールボックス、および検出済みシステムで構成されます。**[認証]**タブに初めてアクセスすると、すべての認証を示すテーブルが表示されます。このテーブルには、次の情報が含まれます。

- ユーザまたはユーザ グループ。 有効なユーザとユーザ グループがすべて表示されます。ユーザ グループは、ボールド体で示されます。グループ ベースのユーザは、このテーブルには表示されません。ただし、グループ ベースのユーザは、**[認証ユーザ]**テーブルにはイタリック体で表示されます。
- ツールボックス。 認証ごとに、ユーザおよびユーザ グループに割り当てられたツールボックスが表示されます。
- システム。 ユーザやユーザ グループが認証を受けているシステムが表示されます。システム グループは、ボールド体で表示されます。

ユーザおよび認証
検出したシステムをユーザが表示および管理できるようユーザおよび認証の追加、変更、設定を行います。

概要 ユーザ ツールボックス **認証**

認証

	ユーザ/ユーザ グループ	ツールボックス	システム
<input type="checkbox"/>	d38ecdpn2003\ADMIN	すべてのツール	すべての管理システム
<input type="checkbox"/>	d38ecdpn2003\ADMIN	すべてのツール	CMS
<input type="checkbox"/>	d38ecdpn2003\Administrator	すべてのツール	CMS
<input type="checkbox"/>	d38ecdpn2003\Administrator	すべてのツール	すべての管理システム
<input type="checkbox"/>	d38ecdpn2003\user	監視ツール	CMS
<input type="checkbox"/>	d38ecdpn2003\user	監視ツール	すべての管理システム

新規 更新 削除 レポート

システム グループは、システム収集に基づくシステムのグループであり、認証に使用されます。システム グループは、システム グループが作成された時点での収集の内容の静的なスナップショットです。[システム]列でシステム グループリンクをクリックすると、システム グループに現在含まれているシステムがウィンドウに表示されます。このウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。システム グループの内容をソース収集に基づいて更新するには、認証を更新する必要があります。

すべての認証を表示することも、ユーザ、ユーザ グループ、ツールボックス、システム グループ、および個々のシステムについてフィルタ処理された認証を表示することもできます。[認証]ボックスでオプションを選択してください。次に、[名前を選択]ボックスで名前を選択します。

[認証]タブには、次のオプションがあります。

- 新しい認証の作成。 [オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[認証]を選択し、新規をクリックします。[新規認証]セクションが表示されます。グループベースのユーザについて、このオプションを使用することはできません。代わりに、グループ ベースのユーザのユーザ グループについて認証を作成してください。
- 認証の削除。 [オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[認証]を選択し、削除する認証を選択して削除をクリックします。ダイアログ ボックスが表示されます。認証を削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。グループ ベースのユーザについて、このオプションを使用することはできません。代わりに、グループ ベースのユーザのユーザ グループについて認証を削除してください。
- 認証レポートの表示と印刷。 [オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[認証]を選択し、レポートをクリックします。[認証レポート]ポップアップ ウィンドウが表示されます。レポートを印刷する場合は、[ファイル]->[印刷]を選択します。
- 認証の更新。 [オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[認証]を選択し、収集に基づくシステム グループを使用して認証を選択して、更新をクリックします。[認証の更新]セクションが表示されます。

注記:



昇順か降順で情報を並べ替えるには、適切な列の見出しをクリックします。矢印が含まれている列見出しは、リストの並べ替え基準になっている列です。矢印が上を向いている場合、リストは昇順で並べ替えられています。矢印が下を向いている場合、リストは降順で並べ替えられています。

関連プロシージャ

- 新規認証の作成
- 認証の削除
- 認証の更新
- 認証レポート

関連トピック

- ユーザと認証

- ユーザおよびユーザ グループ
- ツールボックス
- デフォルト ユーザ テンプレート

新規認証の作成

注記:



それぞれのシステムで認証を作成するには、システムが検出されてデータベース内でアクセスできることを確認します。

注記:



グループ ベースのユーザに対して、新しい認証を直接作成することはできません。

新しい認証を追加するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[認証]**を選択し、新規をクリックします。**[新規認証]**セクションが表示されます。
2. **[選択]**ドロップダウン ボックスで、**[ユーザ]**または**[ユーザ グループ]**を選択して、ボックスでユーザまたはグループを選択します。これは必須フィールドです。
3. **[選択されたユーザの認証を入力してください]**セクションで、次のオプションのうちのいずれかを選択します。
 - **[このユーザに設定された認証を使用するか次の[テンプレート]からコピーする]**
ドロップダウン リストからユーザかテンプレートを選択します。
 - **[ツールボックスおよびシステム/システム グループ認証を手動で割り当てる]**
 - a. **[ツールボックスの選択]**セクションで、認証を割り当てるツールボックスを選択します。
 - b. **[システムの選択]**リスト ボックスに、2つのデフォルト システム グループが表示されます。どちらかのグループを選択するか、追加をクリックして、**[システムの追加]**セクションを表示し、認証するシステムを選択します。
 1. **[次のリストから選択してターゲットを追加]**ドロップダウン ボックスの下向き矢印をクリックして、収集を選択します。
 2. 収集全体を選択する場合は、**["<収集名>"自体を選択]**チェックボックスを選択します。これにより、現在表示されている収集の内容に基づくシステム グループが作成されます。

3. 収集から個々のシステムをすべて選択する場合は、テーブル ビューの上部にある、すべてのシステムを選択するためのチェックボックスを選択します。

注記：これにより、選択されているシステムごとに別々の認証が作成されます。

4. 収集から個々のシステムを選択する場合は、テーブル ビューからシステムを選択します。

注記：これにより、選択されているシステムごとに別々の認証が作成されます。

5. 適用をクリックしてシステム選択を保存し、[新規認証]セクションに戻るか、キャンセルをクリックして変更点を保存せずに[新規認証]セクションに戻ります。

注記：システム グループは、システム収集に基づくシステムのグループであり、認証に使用されます。システム グループは、システム グループが作成された時点での収集の内容の静的なスナップショットです。収集に基づかない2つのデフォルト システム グループがあります。[すべての管理システム]システム グループには、中央管理サーバ（CMS）を除く、すべての管理対象システムが含まれます。CMSが除外されているのは、CMSシステム自体を管理する認証を誤ってユーザに割り当てないようにするためです。CMS用に明示的に作成されたCMSグループが存在します。これらのデフォルト システム グループを編集、更新、または削除することはできません。

- c. 収集の個々のシステムを選択した場合は、各選択内容がリスト ボックスに反映され、認証に含まれるシステムとして選択されます。収集を選択した場合、収集が以前に認証に使用されていると、収集のシステム グループが存在しており、現在のソース収集の内容で更新されることを示すメッセージが表示されます。この更新では、その収集に関連付けられたすべての認証が影響を受けます。収集が初めて使用される場合、メッセージは表示されません。収集名のあとに3つの数字（通常は001）が付いたシステム グループが、[システムの選択]ドロップダウン リスト ボックスに表示され、選択されます。
- d. **[新規認証]**セクションを閉じて新しい認証を保存する場合は、**OK**をクリックします。また変更点を保存しない場合は、キャンセルをクリックして、作成プロセスを取り消します。

注記:



他のバージョンのHP Systems Insight ManagerからHP Systems Insight Manager 5.0にアップグレードする場合、ユーザが作成したシステム グループは、移行されますが、トップ レベル収集になります。システム グループの管理には、収集の編集機能や認証の更新機能を使用するようになります。詳細については、「システム収集またはクラスタ収集の編集」および「認証の更新」を参照してください。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxngroup**コマンドを使用して、コマンドラインインタフェース (CLI) からシステム グループを作成し、管理することができます。

完全な設定権があるユーザは、**mxauth**コマンドを使用して、CLIから認証を追加できます。

完全な設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用して、CLIからシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 認証の削除
- 認証レポート
- 認証の更新

関連トピック

- ユーザと認証
- 認証

認証の更新

このオプションは、収集に基づくシステム グループを使用する認証に対してのみ使用できます。このオプションを使用すると、システム グループの内容を、ソース収集の現在の内容に

更新することができます。このシステム グループ（収集）を使用するすべての認証が更新されます。

認証を更新するには、次のように操作します。

1. **[オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[認証]**を選択し、システム グループに基づく認証を選択して、**更新**をクリックします。**[認証の更新]**セクションが表示されます。
2. **[表示]**ドロップダウン ボックスで、**[変更]**、**[現在の内容]**、または**[更新された内容]**を選択します。

- **変更。** 更新される場合にシステム グループに加えられる具体的な変更を示します。**[追加するシステム]**は、システム グループに追加される新しいシステムおよびそのシステム グループに基づくすべての認証について追加される新しいシステムを示します。**[削除するシステム]**は、システム グループから削除される現在のシステムおよびそのシステム グループを使用するすべての認証から削除される現在のシステムを示します。**[不変のシステム]**は、更新が影響しないシステムのリストを示します。これらのシステムは、システム グループやシステム グループに基づくすべての認証において変更されません。

認証の更新

以下に示されるこの認証のためのシステムを更新します。システムのこのグループに関連するすべての認証が更新されます。



更新内容 **キャンセル**

- **現在の内容。** システム グループの現在の内容を示します。
- **更新された内容** 更新後のシステム グループの内容を示します。これは、このシステム グループに基づく認証に適用されます。

3. 認証を更新するには、**更新内容**をクリックします。キャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxngroup**コマンドを使用して、コマンドラインインタフェース（CLI）からシステム グループを更新できます。ただし、CLIからシステム グループに対して編集が行われても、ソース収集には影響しません。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規認証の作成

- 認証の削除
- 認証レポート

関連トピック

- ユーザと認証
- 認証

認証の削除

注意:



すべての認証を削除すると、完全な設定権があるユーザを含むすべてのユーザが、システムの表示や管理を実行できなくなります。

認証を削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[認証]を選択します。
2. 削除する認証を選択します。
3. 削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
4. 認証を削除するには、**OK**をクリックします。削除プロセスをキャンセルして[認証]セクションに戻るには、キャンセルをクリックします。

グループベースのユーザについては、認証を直接削除することはできません。代わりに、グループベースのユーザのユーザグループについて認証を削除してください。

注記:



[CMS]システムグループのデフォルトの[すべての管理対象システム]以外については、システムグループを使用して最後の認証を削除すると、システムグループも削除されます。

コマンドライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxngroup**コマンドを使用して、コマンドラインインタフェース（CLI）からシステムグループを削除できます。

完全な設定権があるユーザは、**mxauth**コマンドを使用して、コマンドラインインタフェース（CLI）から認証を削除できます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンドツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規認証の作成
- 認証レポート
- 認証の更新

関連トピック

- ユーザと認証
- 認証

認証レポート

認証の表示と印刷を行うには、認証レポートを生成します。**[認証レポート]**は、現在のフィルタ処理されたビューに合わせて生成されます。たとえば、**[認証]**ボックスでユーザを選択すると、選択したユーザのみのレポートが生成されます。**[名前の選択]**ドロップダウン リストで**[(none)]**が選択されていると、**[認証]**ボックスで選択されているすべてのものについてレポートが生成されます。

注記:



昇順か降順でレポート情報を並べ替えるには、適切な列の見出しをクリックします。矢印が含まれている列見出しは、レポートの並べ替え基準になっている列です。矢印が上を向いている場合、レポートは昇順で並べ替えられています。矢印が下を向いている場合、レポートは降順で並べ替えられています。

[認証レポート]ウィンドウには、認証に関する次の情報、およびレポート日時が表示されます。

- ユーザまたはユーザ グループ
- ツールボックス
- システム

認証レポートの表示と印刷を行うには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[セキュリティ]**->**[ユーザおよび認証]**->**[認証]**を選択します。
2. **[認証]**ドロップダウン リストから認証を選択します。
3. （省略可能）**[名前の選択]**ドロップダウン リストから名前を選択します。
4. レポートをクリックします。

[認証レポート]が表示されます。

5. レポートを印刷するには、**[ファイル]**->**[印刷]**を選択します。

[認証レポート]が印刷されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザは、**mxngroup**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) からシステム グループ レポートの生成と実行ができます。

完全な設定権のあるユーザは、**mxauth**コマンドを使用して、CLIからレポートの生成や実行を行えます。

制限付き設定権があるユーザは、**mxexec**コマンドを使用し、CLIから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動できます。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。

マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規認証の作成
- 認証の削除
- 認証の更新

関連トピック

- ユーザと認証
- 認証

システム グループ

システム グループは、認証のためだけに使用されるシステムのグループです。システム グループは、コマンド ライン インタフェース (CLI) から**mxngroup**コマンドを使用して直接管理するか、CLIを使用して間接的に管理することができます。

GUIからのシステム グループの管理

システム グループは、システム収集を使用して認証が作成される際に作成されます。このシステム グループには、収集のあとに3つの数字（通常は001）が加えられた名前が付けられます。たとえば、All Racks 001 のような名前になります。システム グループには、システム選択時に表示されていたシステムが含まれ、認証が作成される際に保存されます。

注記:



システム収集に後から加えられる変更は、次のいずれかのオプションによって更新されるまでは、システム グループに影響しません。

システム グループの内容は、次の場合に、収集の現在の内容によって更新されます。

- 収集を使用して別の認証が作成される
- システム グループを使用する認証が更新される

- CLIから**mxngroup**コマンドが使用される

最初の2つの場合には、確認のために、収集の現在の内容が表示されます。

認証を削除すると、どの認証でも使用されなくなったシステム グループは、削除されます。

CLIからの**mxngroup**によるシステム グループの管理

システム グループは、**mxngroup**コマンドを使用して直接作成することができます。システム グループをこの方法で作成すると、トップレベル収集が作成され、システム収集のあとに3つの数字（通常は001）が加えられた名前が付けられます。収集には、システム グループが最初に追加されるときにシステム グループに含まれているシステムだけが含まれます。その後の変更は、収集には反映されません。

注記:



システム グループまたは収集に後から加えられる変更は、次のいずれかのオプションによって更新されるか、上記のようにGUIを使用して更新されるまでは、他のシステム グループや収集に影響しません。このため、特定の 방법으로更新されるまでは、収集に加えられる変更は認証に影響せず、システム グループに加えられる変更は収集ビューに影響しません。

システム グループの内容は、次のように、**mxngroup**の**-u**パラメータを使用することにより、収集の現在の内容によって更新することができます。

mxngroup -m -g <groupname> -u

注意:



この場合、収集内のシステムは表示されません。システム グループの更新された内容を表示するには、**mxngroup -lm -g <groupname>**を使用します。

注意:



定期的なタスクを設定してシステム グループを動的に更新することは、おすすめしません。システム属性スキャンに基づく収集は、それらの属性が安全でないプロトコル（SNMPなど）に基づく場合や設定権を持たないユーザによって維持管理される場合に、適切に行われずに、HP Systems Insight Managerでの認証に悪影響を与えます。さらに、収集自体が設定権を持たないユーザによって変更され、やはり認証に悪影響を与える可能性があります。

認証を削除すると、どの認証でも使用されなくなったシステム グループは、削除されます。

関連プロシージャ

- 新規認証の作成

- 認証の更新

関連トピック

- ユーザと認証

ネットワークとセキュリティ

HP Systems Insight Managerには、次のセキュリティ オプションがあります。

- ユーザおよび認証。 [オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]を選択します。
- サーバ証明書。 [オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[サーバ証明書]を選択します。
- 信頼証明書。 [オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[信頼証明書]を選択します。
- ログイン イベント設定。 [オプション]>[セキュリティ]>[ログイン イベント設定]を選択します。
- システム リンク設定。 [オプション]>[セキュリティ]>[システム リンク設定]を選択します。

SSL (Secure Sockets Layer) および証明書

SSL (Secure Sockets Layer) は、ブラウザとHP Systems Insight Managerの間で使用され、データの整合性とプライバシーを保証します。SSLに不可欠な部分が証明書であり、HP Systems Insight Managerサーバを識別するための公開文書です。HP Systems Insight Managerをインストールすると、自己署名証明書が作成されます。ブラウザで最初にHP Systems Insight Managerへアクセスするとき、証明書が信頼されていないことを示すセキュリティ警告が表示される場合があります。これは、証明書が自己署名入り（HP Systems Insight Managerサーバ自身が署名した）であり、署名者がブラウザの認証機関リストに入っていないためです。ブラウザにHP Systems Insight Managerサーバ証明書を安全にインポートすると、ブラウザはアクセスしているHP Systems Insight Managerサーバを認証できます。ブラウザに証明書をインポートする方法については、「サーバ証明書」を参照してください。

HP Systems Insight Managerでは、サードパーティ認証機関（CA）、独自の内部CA、PKI（パブリック キー インフラストラクチャ）からの証明書を使用できます。この場合、ブラウザにCA証明書をインポートできます。詳細については、「CA-署名済み証明書のインポート」を参照してください。

ログインおよびアカウント

HP Systems Insight Managerの機能にアクセスする前に、ユーザ名、ドメイン名（Windows CMS）、パスワードが必要になります。HP Systems Insight Managerでは、基礎となるオペレーティング システム（Windows、Linux、HP-UX）のユーザ権限が使用され、オペレーティング システムに依存してユーザが認証されます。

HP Systems Insight Managerをインストールするユーザは、システム管理者、つまりAdministrator（Windows）またはroot（LinuxとHP-UX）である必要があります。このユーザには、HP Systems Insight Managerへの管理者アクセス権が付与されます。

このアカウントでログインしたら、他のユーザ用のアカウントをさらに作成します。それぞれのアカウントは、別々の設定権と権限で設定できます。また、各アカウントがログインできるIPアドレスを制限できます。「ユーザと認証」を参照してください。

各種のログイン イベントとログアウト イベントの通知を記録する監査設定も設定できます。詳細については、「ログイン イベントの設定」を参照してください。

シングルログイン、エージェント設定のレプリケート、およびソフトウェアおよびファームウェアのインストール

シングルログインを利用したり、エージェント設定のレプリケートタスクやソフトウェアおよびファームウェアのインストールタスクを管理対象システムに対して実行したりするには、HP Systems Insight Managerと目的の管理対象システムの間で信頼関係を設定する必要があります。信頼関係を設定すると、管理対象システムでは、どのHP Systems Insight Managerサーバがシステムにコマンドを実行できるかを指定できます。信頼関係が確立されていないと、これらのコマンドは失敗します。

管理対象システムで信頼関係を設定するには、システムにアクセスし、信頼モードを設定して、信頼されたシステム証明書リストにHP Systems Insight Managerを追加します。管理対象システムは、展開中に適切な証明書で設定することもできます。詳細については、「初期ProLiant Support Packのインストール」を参照してください。HP Systems Insight Managerサーバでは、管理対象システムのユーザ権限を指定し、システム識別タスクを実行する必要もあります。[信頼されたシステム証明書]ページで[信頼証明書を要求する]オプションを有効にしている場合は、HP Systems Insight ManagerからルートCA証明書に、信頼している管理対象システムの証明書をインポートする必要があります。詳細については、「信頼証明書」および「サーバ証明書」を参照してください。

証明書

HP Systems Insight Managerでは、権限が設定された管理を中央管理サーバ（CMS）から安全に実行できます。管理対象システムとCMSに対するユーザの権限を設定できるので、権限があるユーザのみが、状態が変化する操作を実行できます。CMS、管理対象システム、およびブラウザの間のやり取りは、SSLと証明書を使用して安全に実行されるので、システムを認証してユーザ証明書と管理データを保護するのに役立ちます。

関連プロシージャ

- システム リンクの設定
- ログイン イベントの設定

関連トピック

- サーバ証明書
- 信頼証明書
- ユーザと認証
- ログインについて
- セキュア タスク実行について

ログインについて

シングル ログイン

シングル ログインを使用すると、HP Systems Insight Managerページ内のリンクで、シングル ログインをサポートする管理対象システムとの認証済みブラウザセッションを確立でき、ユーザがユーザ名とパスワードを再入力する必要はありません。ただし、別のシステムで動作しているHP Systems Insight Managerの別のインスタンスで認証済みブラウザ セッションを確立しようとしている場合は、ユーザ名とパスワードを再入力する必要があります。シングル ログイン リンクは、別のシステムへのリンクがある場所に存在します。

注記:



HP Systems Insight Managerは、認証の初期ポイントであり、別の管理対象システムへのアクセスは、HP Systems Insight Manager内から実行する必要があります。

HP Systems Insight Manager内のリンク以外の方法を使用して管理対象システムにアクセスする場合、シングル ログインはサポートされません。管理対象システムごとに、適切なユーザ名とパスワードの入力が必要になります。HP Systems Insight Managerを信頼するように管理対象システムを設定してから、シングル ログイン コマンドを受け入れる必要があります。管理対象システムの信頼管理サーバリストにHP Systems Insight Managerシステム証明書をインポートすると、システムで信頼を設定できます。詳細については、「信頼関係の設定」を参照してください。

重要:



HP Systems Insight Manager内のリンク以外の方法を使用して管理対象システムにアクセスする場合、シングル ログインはサポートされません。管理対象システムごとに、適切なユーザ名とパスワードの入力が必要になります。

HP Systems Insight Managerを信頼するように管理対象システムを設定してから、シングル ログイン コマンドを受け入れる必要があります。管理対象システムの信頼管理システム リストにHP Systems Insight Managerシステム証明書をインポートすると、システムで信頼を設定できます。詳細については、「信頼証明書の要求」を参照してください。

注記:



シングル ログインは、仮想クラスタ システムに対して動作しません。ただし、クラスタを構成する物理システムに対して動作します。

サイン イン

HP Systems Insight Managerにサイン インすると、HP Systems Insight Managerへのアクセスが許可され、HP Systems Insight Managerでの権限が決まります。SSL（Secure Sockets Layer）を使用してHP Systems Insight Managerにアクセスすると、ブラウザとHP Systems Insight Managerの間で、ログイン証明書も含めたすべての情報が暗号化されます。SSLはパスワードを安全に暗号化し、他人が有効なログイン シーケンスを取得して再実行することを防ぎます。

ログイン ページには3つのフィールドがあります。

- **[ユーザ名]**。ユーザの名前。
- **[パスワード]**。ユーザ名のパスワード。
- **[ドメイン名]**。ユーザのWindowsドメイン。このフィールドは、Windows環境のみで表示されます。

注記:



Windows環境では、HP Systems Insight Managerのインストール中に、オペレーティング システムから管理者が選択されます。HP Systems Insight Managerにサイン インする場合は、表示されたフィールドに、適切なアカウント情報を入力します。ユーザ名フィールドにはユーザ名を指定し、ドメイン名にはWindowsドメインを指定します。Windows環境では、これが必須です。

証明書が安全にHP Systems Insight Managerによって受信されると、HP Systems Insight Managerはアカウントを検査し、アカウントで有効なIPアドレスからアクセスしていることを確認し、Windowsドメインに対して証明書を認証します。アカウントの詳細については、「ユーザと認証」を参照してください。

オペレーティングシステムの障害からログイン障害が発生することもあるほか、HP Systems Insight Manager内の障害からログイン障害が発生することもあります。オペレーティングシステムのユーザ管理ツールを使用し、次のようなログイン障害に対処してください。

- ログイン証明書が正しく入力されていません。パスワードは大文字と小文字を区別します。
- 入力したアカウントの削除、無効化、またはロックアウトが行われています。
- アカウントのパスワードが失効したか、変更する必要があります。

以下に示す、HP Systems Insight Managerでのログイン失敗の原因は、**[ユーザと認証]**ページで対処することができます。

- 入力したアカウントが、HP Systems Insight Managerのアカウントになっていません。
- 指定されたアカウントに有効でないIPアドレスからサイン インしようとした。最後に、ブラウザ システムもログイン障害の原因となる場合があります。
- ブラウザがcookieを受け入れる設定になっていません。

注記:



詳細については、『HP Systems Insight Managerインストール/ユーザガイド』を参照してください。

- cookieブロックがインストールされています。

注記:



HP Systems Insight Managerは、エラー ログインや正常ログインが行われた際、およびサインアウトが行われた際、HP Systems Insight Managerイベント データベースにイベントを記録するように設定できます。

LinuxおよびHP-UXでのログイン認証

HP Systems Insight Managerは、Pluggable Authentication Modules (PAM) を使用して、LinuxとHP-UXのWebサーバ インタフェースにログインするユーザを認証します。

LinuxシステムにおけるPAMの設定

Linux CMSの管理者は、HP Systems Insight Managerが使用しているPAMをカスタマイズすることが可能です。ファイル/etc/pam.d/mxpamauthrealmには、HP Systems Insight Manager Webサーバインタフェースの認証手順が含まれています。このファイルでのデフォルトは、次のとおりです。

- **#%PAM-1.0**
- **auth required /lib/security/pam_unix.so**
- **account required /lib/security/pam_unix.so**
- **session required /lib/security/pam_unix.so**

このデフォルト手順により、PAMでは、HP Systems Insight Manager Webサーバインタフェースにログインしようとするユーザを認証する際に、UNIXで標準の認証モジュールが使用されます。システムライブラリからの標準呼び出しを使用して、アカウント情報にアクセスします。通常は、/etc/passwdまたは/etc/shadowから読み込まれます。

システムの管理者は、システムのセキュリティ要件に従って、要件を調整できます。たとえば、システムのセキュリティ ポリシーが時間に依存し、/etc/security/time.confが設定されている場合は、**mxpamauthrealm**を次のとおりに調整できます。

- **#%PAM-1.0**
- **auth required /lib/security/pam_unix.so**
- **account required /lib/security/pam_unix.so**
- **session required /lib/security/pam_unix.so**

HP-UXシステムにおけるPAMの設定

HP-UXシステムにおけるPAMセキュリティのカスタマイズ方法は、似ています。PAM設定は、すべて/etc/pam.confに格納されています。

HP-UX 11iにおけるHP Systems Insight Managerの行は、次のとおりです。

- **mxpamauthrealm auth required /usr/lib/security/libpam_unix.1**
- **mxpamauthrealm account required /usr/lib/security/libpam_unix.1**
- **mxpamauthrealm session required /usr/lib/security/libpam_unix.1**

HP-UX 11i 2.0におけるHP Systems Insight Managerの行は、次のとおりです。

- **mxpamauthrealm auth required /usr/lib/security/\$ISA/libpam_unix.1**
- **mxpamauthrealm account required /usr/lib/security/\$ISA/libpam_unix.1**
- **mxpamauthrealm session required /usr/lib/security/\$ISA/libpam_unix.1**

HP Systems Insight Manager Webサーバのログイン モデルを、他のログイン方法（telnet、rlogin、sshなど）の設定と一致させる場合は、他のログイン方法で使用されているのと同じプラグイン モジュールを設定する必要があります。これらは、/etc/pam.confファイルまたは/etc/pam.d/loginファイルの**login**サービス名で定義します。

関連トピック

- ネットワークとセキュリティ
- セキュア タスク実行について
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

セキュア タスク実行について

HP Systems Insight Manager 管理対象システムで状態や設定が変化するタスクでは、システムへのコマンド発行にセキュア タスク実行（STE）が使用されます。STEにより、HP Systems Insight Managerシステムは、管理対象システムからのタスク実行を安全に要求できます。STEは、タスクを要求するユーザが適切なタスク実行権を持っていることを保証します。要求には、要求を行うHP Systems Insight Managerシステムを一意に識別するデジタル署名が入っています。次に、SSL（Secure Sockets Layer）を使用して、要求を暗号化し、データの改変や盗聴を防止します。詳細については、「信頼関係の設定」を参照してください。

注記:



STEでは、指定したHP Systems Insight Managerシステムのみが、そのシステムでタスクを実行できるようにするため、それぞれの管理対象システムで信頼管理サーバ リストが必要です。

注記:

管理対象システムでは、[証明書による信頼]のみで、指定したHP Systems Insight Managerシステムからの要求であることが保証されます。[名前による信頼]や[すべて信頼]のような他のオプションは、HP Systems Insight Managerシステムのデジタル署名を検査しないので、要求の送信側の確認が不十分です。

注記:

エージェント設定のレプリケートやソフトウェアおよびファームウェアのインストールなど、STEを使用するタスクは、仮想クラスタシステムに対して実行できません。ただし、これらのタスクは、クラスタ内の物理システムに対して直接実行する場合に動作します。

関連トピック

- サーバ証明書のエクスポート
- 信頼関係の設定
- 信頼証明書の要求
- サーバ証明書の作成
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

システム リンクの設定

管理対象システムへのリンクの作成時に使用する名前フォーマットを選択するには、システムリンクを設定します。システム リンクの設定により、HP Systems Insight Managerがリモートシステムへのブラウザ リンクを作成する方法とHP Systems Insight Managerが特定の要求についてリモート システムと通信する方法が設定されます。

注記:

Secure Sockets Layer (SSL) を使用するシステムにアクセスしている場合、ブラウザの警告を避けるには、システムの名前が、システム証明書内の名前に一致する必要があります。

システム リンクを設定するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[システム リンクの設定]をクリックします。[システム リンク設定]ページが表示されます。
2. 次のオプションから選択します。
 - [システム名を使用]。システム名を使用するには、このオプションを選択します。

- **[システムのIPアドレスを使用]**。システムIPアドレスを使用するには、このオプションを選択します。複数のアドレスを含むシステムの場合は、複数のリンクを提供できます。
- **[システムのDNS名（フル）を使用]**。システムの完全DNS名を使用するには、このオプションを選択します。

注記：検出中には、完全システムDNS名が使用できる場合、これがプライマリルックアップキーとして使用されます。完全システムDNS名が使用できない場合は、IPアドレスが使用されます。

注記：システムに複数のネットワーク インタフェースがある場合、**[システム名を使用]**を選択すると、宛先ごとに1つのリンクのみがシステムに提供され、**[システムのIPアドレスを使用]**を選択すると、複数のリンクがシステムに提供されます。

3. 変更内容を保存して適用するには、**OK**をクリックします。

関連トピック

- ネットワークとセキュリティ
- サーバ証明書
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

ログイン イベントの設定

ログイン アクティビティとログアウト アクティビティの対処可能なイベントを作成するには、ログイン イベントを設定します。

注記:



HP Systems Insight Manager監査ログは影響されません。このアクティビティは、HP Systems Insight Manager監査ログに常に記録されます。

ログイン イベントを設定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]->[セキュリティ]->[ログイン イベント設定]**を選択します。**[ログイン イベント設定]**ページが表示されます。
2. 次のオプションから選択します。
 - **[すべてのログインおよびログアウト作業]**。すべてのログイン アクションとログアウト アクションのイベントを作成するには、このオプションを選択します。
 - **[失敗したログイン試行のみ]**。正常に動作しないログイン アクションのみのイベントを作成するには、このオプションを選択します。
 - **[なし]**。ログイン アクティビティとログアウト アクティビティのイベントを作成しない場合は、このオプションを選択します。

3. 変更内容を保存して適用するには、**OK**をクリックします。

関連トピック

- ネットワークとセキュリティ
- ユーザと認証
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

タイムアウト オプションの設定

HP Systems Insight Managerでは、次のうちいずれかにブラウザ タイムアウト設定を指定できます。これらの設定は、HP Systems Insight Manager GUIへのログイン中には、ブラウザ セッションに影響します。

監視。 タイムアウト オプションを監視に設定すると、HP Systems Insight Managerセッションが継続し、ブラウザを閉じるか別のサイトを表示しない限り、継続して更新されます。ブラウザを閉じると、セッションはすぐに終了します。別のサイトを表示すると、HP Systems Insight Managerによって20分後にログアウトされます。このオプションがデフォルトであり、EnableSessionKeepAlive=trueとしてglobalsettings.propsファイルに表示されます。

アクティブ。 アクティブな状態のままになるようにタイムアウト オプションを設定すると、HP Systems Insight Managerでアクティブに作業している間、HP Systems Insight Managerセッションは継続します。ただし20分間何の操作も行わなかった場合は、HP Systems Insight Managerではセッションが強制終了になり、ユーザはログアウト状態になります。

globalsettings.propsファイルを編集すると、タイムアウト設定を監視かアクティブに変更できます。

タイムアウト設定をアクティブに設定するには、次のように操作します。

1. globalsettings.propsファイルを開きます。
 - Windowsオペレーティング システムでは、install directory/configフォルダにglobalsettings.propsファイルが配置されています。
 - HP-UX/Linuxオペレーティング システムでは、/etc/opt/mx/configディレクトリにglobalsettings.propsファイルが配置されています。
2. EnableSessionKeepAlive=trueをEnableSessionKeepAlive=falseに変更します。
3. **[ファイル]>[保存]**をクリックします。
更新内容が保存されます。
4. globalsettings.propsファイルを閉じます。

デフォルト タイムアウトを変更するには、次のように操作します。

1. HP Systems Insight Managerディレクトリから、/hpwebadmin/webapps/MxSessionTimeout/WEB-INF/に移動し、web.xmlを開きます。
2. デフォルトの20分間から適切な時間（分単位）に編集します。

3. globalsettings.Propsとweb.xmlファイルを保存します。

更新内容が保存されます。

4. web.xmlファイルを閉じます。

関連トピック

- ログイン
- ネットワークとセキュリティ
- ユーザと認証

サーバ証明書

[サーバ証明書]ページでは、中央管理サーバ（CMS）のSSLサーバ証明書を表示して管理できます。HP Systems Insight Managerでは、自己署名証明書と、認証機関（CA）署名証明書という、2種類の証明書がサポートされています。自署証明書は、お客様がHP Systems Insight Managerを閲覧できるように、インストール中にデフォルトで作成されます。インストール後に、自署証明書と認証機関が署名した証明書を作成できます。CA署名証明書では、内部証明書サーバか外部認証機関が、証明書に署名する必要があります。

HP Systems Insight Managerには、次のセキュリティ証明書オプションがあります。

- サーバ証明書のエクスポート。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバの証明書]を選択し、エクスポートをクリックします。
- サーバ証明書の編集。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバの証明書]を選択し、編集をクリックします。
- 新しいサーバ証明書の作成。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバの証明書]を選択し、新規をクリックします。
- サーバ証明書のインポート。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバの証明書]を選択し、インポートをクリックします。

関連プロシージャ

- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書の編集
- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のインポート
- 証明書の同期
- CSRの作成
- CSRの提出
- CA署名済み証明書のインポート

関連トピック

- ネットワークとセキュリティ
- 証明書のレプリケート
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

サーバ証明書のエクスポート

ブラウザへの証明書の展開を容易にするには、HP Systems Insight Managerサーバ証明書をファイルにエクスポートします。これにより、ブラウザでHP Systems Insight Managerサーバを適切に識別できるようになります。証明書は公開文書であるため、機密扱いにする必要はありません。証明書のアクセスを公開する場合は、改変されないように注意する必要があります。

注記:



システム証明書は、Base64符号化証明書としてエクスポートできます。エクスポートした証明書は、ブラウザまたは信頼管理サーバ リストにインポートできます。

HP Systems Insight Managerからサーバ証明書をエクスポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバの証明書]**を選択し、エクスポートをクリックします。

Internet Explorerの**[ファイルのダウンロード]**ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 保存をクリックします。ファイル ダウンロード操作を中止して**[サーバ証明書]**ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

ファイルがエクスポートされて保存されます。

関連プロシージャ

- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のインポート
- サーバ証明書の編集
- 証明書の同期

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

サーバ証明書の編集

既存証明書のフィールドを変更するには、サーバ証明書を編集します。サーバ証明書の変更は、証明書署名要求（CSR）を外部認証機関（CA）に提出する場合に必要になることがあります。

注記:



このプロセスでは、ローカルSystem Management Homepage証明書とプライベート キーも置き換わり、新しいサーバ証明書とプライベート キーとともにディレクトリを共有する証明書が更新されます。

注記:



それぞれのフィールドで有効な文字は、aからz（小文字）、AからZ（大文字）、0から9、特殊文字「' () + , - . / : _ ~」とスペースです。それぞれのフィールドには、空白以外の文字を最低1つ含める必要があります。

サーバ証明書を編集するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[サーバの証明書]**を選択し、編集をクリックします。**[サーバ証明書の編集]**セクションが表示されます。
2. 必要に応じて次のフィールドを編集します。

注記： **[共通名（CN）]**フィールドとキーペアは、すべてのSystem Management Homepageとの信頼関係を有効に保つため、変更できません。ただし、修正した証明書をインポートし、古い証明書をブラウザから削除して、ブラウザの信頼関係を確立しなおす必要があります。

- a. **[組織（O）]**フィールドに組織名を入力します。フィールドの最大長は64文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - b. **[組織単位（OU）]**フィールドに部署名を入力します。フィールドの最大長は64文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - c. **[地方（L）]**フィールドに都市名を入力します。フィールドの最大長は128文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - d. **[州（S）]**フィールドに州名を入力します。フィールドの最大長は128文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - e. **[国（C）]**フィールドに国名を入力します。フィールドの最大長は2文字（英数字）で、2文字の国コードを使用します。
3. **OK**をクリックします。証明書が修正されることを示す警告メッセージが表示されます。修正処理を中止するには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書のインポート
- 証明書の同期

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

サーバ証明書の作成

完全な設定権があるユーザは、以下のような状況でHP Systems Insight Manager Secure Sockets Layer (SSL) サーバ証明書とプライベート キーを置き換える必要がある場合、新しい自己署名証明書を作成できます。

- HP Systems Insight Managerサーバ証明書のプライベート キーの整合性が損なわれた場合
- 既存のHP Systems Insight Managerサーバ証明書が失効した場合

この自署証明書は、作成日から10年間の有効期限が設定されています。

HP Systems Insight Manager SSLサーバ証明書とプライベート キーを置き換える必要がある場合は、新しい自署証明書を作成します。パブリック キーは、証明書に含まれてクライアントへ送信されます。プライベート キーは、HP Systems Insight Managerサーバ ファイル システムのキーストアデータベースに安全に保管されます。System Management Homepageのパブリック キーとプライベート キーのペア（同じシステムに存在する）は、HP Systems Insight Managerのパブリック キーとプライベート キーの新しいペアで上書きされます。

重要:



SSLサーバ証明書とプライベート キーを置き換えると、インポートするたびに、別のSystem Management Homepageのブラウザや信頼管理サーバ リストなど、既存のHP Systems Insight Managerサーバ証明書とSystem Management Homepage証明書が無効になります。セキュリティ方針に従って、前のサーバ証明書を新しいサーバ証明書で置き換え、以前と同じレベルの機能に戻す必要があります。

注記:



このプロセスでは、ローカルSystem Management Homepage証明書とプライベート キーも置き換わり、新しいサーバ証明書とプライベート キーとともにディレクトリを共有する証明書が更新されます。

注記:



それぞれのフィールドで有効な文字は、aからz（小文字）、AからZ（大文字）、0から9、特殊文字「' () + , - . / : _ ~」とスペースです。それぞれのフィールドには、空白以外の文字を最低1つ含める必要があります。

新しい証明書を作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[サーバの証明書]**を選択し、新規をクリックします。**[新規サーバ証明書]**セクションが表示され、フィールドには、デフォルト値が自動的に入力されます。
2. （省略可能）次のフィールドを変更します。
 - a. **[共通名 (CN)]**フィールドには、ブラウザが中央管理サーバの閲覧時に名前の比較に使用するパラメータが含まれています。このフィールドは、完全修飾名などの他のフォーマットに変更でき、フィールドの最大長は255文字です。
 - b. **[組織 (O)]**フィールドに組織名を入力します。フィールドの最大長は64文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - c. **[組織単位 (OU)]**フィールドに部署名を入力します。フィールドの最大長は64文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - d. **[地方 (L)]**フィールドに都市名を入力します。フィールドの最大長は128文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - e. **[州 (S)]**フィールドに州名を入力します。フィールドの最大長は128文字です（日本では都道府県名を入力します）。
 - f. **[国 (C)]**フィールドに国名を入力します。フィールドの最大長は2文字（英数字）で、2文字の国コードを使用します。
3. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。キャンセルをクリックすると、新しいサーバ証明書を作成せずに**[サーバの証明書]**ページに戻ります。証明書とプライベートキーの変更による影響について説明する警告が表示されます。この警告ボックスで**OK**をクリックすると、新しい1,024ビット キーペアと自署証明書が生成されます。このプロセスの前にバックアップを手動で作成しないと、古いキーペアと証明書は取得できなくなります。新しい証明書とプライベート キーは、HP Systems Insight Managerを再起動すると有効になります。
4. ディレクトリを共有する証明書を使用しているローカルSystem Management Homepageとアプリケーションやコンポーネントに、新しい証明書を適切に同期化するには、HP Systems Insight Managerサーバを再起動します。新しいサーバ証明書の作成後、HP Systems Insight Managerサーバ証明書をHTTPサーバ証明書と同期化するには、HP Systems Insight Managerサーバを再起動します。証明書の同期をとると、HP Systems Insight ManagerサーバのHP Insightマネジメント エージェントの閲覧時にブラウザのセキュリティ アラートが繰り返されることを防止できます。

関連プロシージャ

- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書のインポート
- サーバ証明書の編集
- 証明書の同期

関連トピック

- サーバ証明書
- OpenSSHのインストール

- SSHキーの管理

サーバ証明書のインポート

次のような状況で既存のサーバ証明書を置き換えるには、認証機関（CA）署名サーバ証明書をインポートします。

- HP Systems Insight Managerをインストールし、第三者認証機関（CA）が独自の内部認証機関によって作成された証明書でデフォルトの自己署名証明書を置き換える場合
- HP Systems Insight Managerサーバ証明書のプライベート キーの整合性が損なわれた場合
- 既存のHP Systems Insight Managerサーバ証明書が失効している場合

注意:



SSLサーバ証明書とプライベート キーを置き換えると、インポートするたびに、管理対象システムのブラウザや信頼管理サーバ リストなど、既存のサーバ証明書が無効になります。セキュリティ方針に従って、前のサーバ証明書を新しいサーバ証明書で置き換え、以前と同じレベルの機能に戻す必要があります。

注記:



このプロセスでは、ローカルSystem Management Homepage証明書とプライベート キーも置き換わり、新しいサーバ証明書とプライベート キーとともにディレクトリを共有する証明書が更新されます。

サーバ証明書をインポートするには、次のように操作します。

1. 証明書署名要求（CSR）を作成します。「CSRの作成」を参照してください。CSRでは、既存の証明書からパラメータを使用します。パラメータを変更する場合は、「サーバ証明書の編集」を参照してサーバ証明書を編集するか、「サーバ証明書の作成」を参照して新しいサーバ証明書を作成します。
2. 認証機関にCSRを提出します。詳細については、「CSRの提出」を参照してください。CAは、署名済み証明書を返します。
3. 返された署名済み証明書をHP Systems Insight Managerにインポートします。詳細については、「CA-署名済み証明書のインポート」を参照してください。

関連プロシージャ

- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書の編集
- 証明書の同期
- CSRの作成
- CA-署名済み証明書のインポート
- CSRの提出

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

CSRの作成

HP Systems Insight Manager Secure Sockets Layer (SSL) サーバ証明書とプライベート キーを置き換えるには、証明書署名要求 (CSR) を作成します。

証明書署名要求を作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[サーバの証明書]**を選択し、インポートをクリックします。**[サーバ証明書のインポート]**セクションが表示されます。
2. **[証明書署名要求(CSR)を作成する]**の横の**[詳細]**をクリックします。

[証明書署名要求の作成]セクションが、**[サーバ証明書のインポート]**セクションの下に表示されます。

注記：現在の証明書パラメータが表示されます。CSRの作成を選択しても、新しいキーペアが作成されたり、証明書パラメータが変更されることはありません。新しいキーペアを作成する場合は、新しい証明書を作成します。証明書パラメータを変更する場合は、**[サーバ証明書]**ページで、インポートではなく編集をクリックします。

3. PKCS #10署名要求を作成するには、作成をクリックします。これは、標準的なブラウザでダウンロードします。Internet Explorerで、**[ファイルのダウンロード]**ダイアログ ボックスを使用します。Mozillaの場合は、新しいブラウザ ウィンドウのテキストをファイルに保存します。
4. 内部認証機関 (CA) か外部認証機関に証明書ファイルを送信します。

注記：既存の自己署名証明書はまだ有効なので、署名済み証明書を認証機関から受け取るまで、SSL Webサーバは閲覧用に動作します。

関連プロシージャ

- サーバ証明書のインポート
- CA-署名済み証明書のインポート
- CSRの提出

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

CSRの提出

証明書署名要求 (CSR) を作成したら、目的の認証機関 (CA) にCSRを提出して署名を受ける必要があります。

注記:



まず、「CSRの作成」手順を完了してから、この手順を実行する必要があります。詳細については、「CSRの作成」を参照してください。

認証機関（CA）に要求を提出するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[サーバの証明書]**を選択し、インポートをクリックします。**[サーバ証明書のインポート]**セクションが表示されます。
2. **[証明書署名要求(CSR)を作成する]**の横にある**[詳細]**をクリックします。
3. PKCS #10（CSR）データを認証機関（CA）に送信します。

認証期間からPKCS #7データが戻されたら、HP Systems Insight Managerにインポートします。

関連プロシージャ

- サーバ証明書のインポート
- CSRの作成
- CA-署名済み証明書のインポート

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

CA-署名済み証明書のインポート

証明書署名要求（CSR）を作成し、認証機関（CA）によって署名されたら、署名済み証明書をインポートできます。

注記:



インポート可能な証明書のフォーマットは、PKCS #7フォーマットの証明書のみです。CAから受信した証明書が単一の証明書である場合には、最初に、発行元のCAからの自己署名証明書をHP Systems Insight Managerの、信頼されたシステム証明書リストにインポートする必要があります。CAルート証明書をインポートした後は、受信した証明書をHP Systems Insight Managerサーバ証明書としてインポートすることができます。

注記:



このプロセスでは、ローカルSystem Management Homepage証明書とプライベート キーも置き換わり、新しいサーバ証明書とプライベート キーとともにディレクトリを共有する証明書が更新されます。

注記:



HP Systems Insight Managerでは、パブリック キーのサイズが2046ビット以下の証明書のみをインポートできます。

認証機関（CA）から返された署名済み証明書をインポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[サーバの証明書]**を選択し、インポートをクリックします。**[サーバ証明書のインポート]**セクションが表示されます。
2. **[CAからの署名済み証明書の返信をインポートする]**の横の**[詳細]**をクリックします。

[署名済み証明書返信のインポート]セクションが、**[サーバ証明書のインポート]**セクションの下に表示されます。

3. **[証明書のファイル名]**フィールドの横にある**参照**をクリックします。

[ファイルの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

- a. 署名済み証明書を保存した場所までナビゲートします。
- b. 正しいファイル名を選択し、**開く**をクリックします。

ファイル名が**[証明書のファイル名]**フィールドに表示されます。

4. インポートをクリックします。

署名済み証明書がインポートされます。

証明書署名要求（CSR）を作成するか、サーバ証明書をインポートしたら、HP Systems Insight Managerサーバを再起動し、HP Systems Insight Managerサーバ証明書を、System Management Homepage証明書とディレクトリを共有する証明書に同期させます。証明書の同期をとると、HP Systems Insight ManagerサーバのHP Insightマネジメント エージェントの閲覧時にブラウザのセキュリティ警告が繰り返されることを防止できます。これにより、HP Systems Insight ManagerとローカルSystem Management Homepageが、Secure Sockets Layer（SSL）サーバ証明書とプライベートキーを更新できます。

関連プロシージャ

- サーバ証明書のインポート
- CSRの作成
- CSRの提出

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

証明書の同期

HP Systems Insight Managerサーバ証明書が作成または修正されると、System Management Homepage証明書のパブリック キーとプライベート キーのペアは、HP Systems Insight Managerのパブリック キーとプライベート キーのペアで上書きされます。

注記:



この機能は、何らかの理由で証明書が同期化されていない場合に使用できます。

注記:



証明書共有機能をHP-UXで動作させるには、OpenSSLを/OPT/APACHE/SSL/BIN/ディレクトリ（HP-UXインストールのデフォルト）にインストールする必要があります。証明書共有機能をLinuxで動作させるには、OpenSSLを/USR/BIN/ディレクトリ（Linuxインストールのデフォルト）にインストールする必要があります。

関連プロシージャ

- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書のインポート
- サーバ証明書の編集

関連トピック

- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- 証明書のレプリケート
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

証明書のレプリケート

HP Systems Insight Manager **[信頼証明書を要求する]**機能を有効にしているシステムの管理者は、信頼証明書リストを他のHP Systems Insight Managerシステムに複製できます。2方向信頼

ソリューションとして、HP Systems Insight Managerの[信頼証明書を要求する]機能を使用しない場合は、複製は不要です。

ソースCMSからターゲットCMSへの信頼システム証明書の移行

ソース中央管理サーバ（CMS）からターゲットCMSに信頼証明書を移行する方法は、2通りあります。最初の方法は、ソースCMSに多数の信頼証明書がある場合に使用でき、2つ目の方法は、ソースCMSにある信頼証明書の数が比較的少ない場合に使用できます。

ソースCMSに多数の信頼証明書がある場合の証明書移行

警告：この機能を使用すると、ターゲットCMSの既存のSSLサーバ キーおよび証明書は消去されます。また、ターゲットCMSを信頼するように設定されているエージェントとの信頼関係を再構築する必要があります。手順 13を参照してください。

1. ソースCMSシステムのHP Systems Insight Managerに管理者権限でサイン インします。
2. （HPSIMインストール フォルダ）->[Systems Insight Manager]->[config]->[certstor]の順に移動します。
3. hp.keystoreファイルおよびkeyfile.3ファイルをコピーします。
4. ターゲットCMSシステムに管理者権限でログインします。
5. （HPSIMインストール フォルダ）->[Systems Insight Manager]->[config]->[certstor]ディレクトリの順に移動します。
6. hp.keystoreファイルおよびkeyfile.3ファイルを、コピーしたものと入れ替えます。
7. ターゲットCMSシステムで、[スタート]->[設定]->[コントロール パネル]->[管理ツール]->[サービス]を選択します。
8. HP Systems Insight Managerサービスを再起動します。

注記：証明書の名前がサイトの名前と一致しないという、ブラウザの警告が表示される場合があります。一時的に、ソースCMSの証明書を使っているため、これは予想されることです。ただし、ブラウザが表示する証明書を表示して、信憑性を確認してからログインすることができます。

9. ターゲットCMSのHP Systems Insight Managerに管理者権限でサイン インします。[オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバ証明書]を選択します。
10. 新規をクリックして、新しいサーバ証明書を作成します。
11. ターゲットCMSシステムで、[スタート]->[設定]->[コントロール パネル]->[管理ツール]->[サービス]を選択します。
12. HP Systems Insight Managerサービスを再起動します。
13. エージェント設定のレプリケート機能を使用して、新しいサーバ証明書を、必要な管理対象システムにインストールします。詳細については、「エージェント設定のレプリケート機能を使用した、信頼証明書および信頼モードのソースCMSから信頼済み管理対象システムへの複製」を参照してください。

ソースCMSにある信頼証明書が比較的少ない場合の証明書移行

1. ソースCMSシステムに管理者権限でログインします。
2. [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼署名書]を選択します。
3. 証明書を選択して、エクスポートをクリックします。
4. 証明書をローカルで保存します。
5. [信頼されたシステム証明書]ページに表示されているすべての証明書について、手順2および3を繰り返します。
6. エクスポート済み証明書をすべてターゲットCMSシステムにコピーします。
7. ターゲットCMSのHP Systems Insight Managerに管理者権限でサイン インします。
8. [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼署名書]を選択します。
9. インポートをクリックします。
10. 参照をクリックして、証明書を選択します。
11. **OK**をクリックします。
12. すべての証明書について、最後の3つの手順を繰り返します。

エージェント設定のレプリケート機能を使用した、信頼証明書および信頼モードのソースCMSから信頼済み管理対象システムへの複製

注記:



このセクションでは、エージェントが既にソースCMSを信頼するように設定されているものとします。

注記:



この手順では、エージェントを新しいターゲットCMSだけを信頼するように設定します。オリジナル ソースCMSの信頼が必要な場合は、ソースCMSで手順5、6、および13（または16）を繰り返してください。

1. ターゲットCMSのSystem Management Homepageにログインします。
2. [設定]->[セキュリティ]->[信頼モード]の順に選択します。
3. [証明書による信頼]を選択して、設定の保存をクリックします。
4. [設定]->[セキュリティ]->[信頼された管理サーバ]を選択します。

5. サーバから証明書の追加の横のフィールドにターゲットCMSのIPアドレスを入力します。
6. サーバから証明書の追加をクリックします。
7. ソースCMSのHP Systems Insight Managerに管理者権限でサイン インします。
8. **[設定]**->**[エージェント設定のレプリケート]**を選択します。
9. **[ターゲット システムの選択]**ページで、ソースCMSを信頼するように設定されている管理対象システムをすべて選択します。
10. **[選択の適用]**をクリックし、次へをクリックします。
11. ターゲットCMSをソースとして選択し、次へをクリックします。

注記：ソース システムに、HP Systems Insight Managerがインストールされていない場合は、手順15に進んでください。
12. ソース構成設定を選択ページで、**[System Management Homepage]**->**[Settings]**->**[Configuration Options Properties]**を選択し、**[Trust Mode]**を選択します。
13. **[System Management Homepage]**->**[Settings]**->**[Trusted Certificate Properties]**を選択し、ターゲットCMSの**[Trusted Certificate]**を選択します。
14. ソース構成設定を選択ページで、**[HTTP Server]**->**[Configuration]**->**[Options Properties]**を選択し、**[信頼モード]**を選択します。
15. **[HTTP Server]**->**[Trusted Certificates Properties]**を選択し、ターゲットCMSの**[信頼証明書]**を選択します。
16. すぐに実行をクリックします。選択した管理対象システムで、CMSの証明書が複製されます。

関連プロシージャ

- エージェント設定のレプリケート タスクの作成
- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書の編集
- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のインポート
- 証明書の同期
- CSRの作成
- CSRの提出
- CA-署名済み証明書のインポート

関連トピック

- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

信頼証明書

信頼証明書では、セキュリティが最高レベルになります。完全な設定権があるユーザは、別のシステムからHP Systems Insight Manager信頼証明書リストに証明書をインポートできます。

HP Systems Insight Managerの信頼システム証明書リストの目的は、HP Systems Insight Manager キーストアで証明書のリストを維持することです。証明書には、HP Systems Insight Manager システム証明書、およびHP Systems Insight Managerシステムによって信頼されている管理対象システムの証明書が含まれます。インポートされた証明書は、キーストアに保管され、信頼されたシステム証明書リストに表示されます。

証明書のリストは、[信頼証明書を要求する]が有効になっているときに使用されます。ただし、このリストは、[信頼証明書を要求する]の状態に関係なく管理可能です。証明書のリストには、証明書自体が含まれますが、使用可能な場合は署名入り証明書も含まれます。署名入り証明書を使用すると、署名入り証明書によって署名された証明書が有効になって信頼されるので、リストの管理が簡単になります。詳細については、「信頼証明書の要求」を参照してください。

HP Systems Insight Managerには、次の信頼証明書オプションがあります。

- 信頼証明書のインポート。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼証明書]->[インポート]をクリックします。
- 証明書のエクスポート。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼証明書]を選択し、エクスポートをクリックします。
- 信頼証明書の削除。 [オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼証明書]を選択します。削除する証明書を選択し、削除をクリックします。

関連プロシージャ

- 信頼証明書のインポート
- 信頼証明書のエクスポート
- 信頼証明書の削除

関連トピック

- 信頼証明書の要求
- システムとイベントの管理
- サーバ証明書
- 信頼証明書の要求
- 信頼関係の設定
- 証明書のレプリケート
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

信頼証明書のインポート

[信頼されたシステム証明書]ページで[信頼証明書を要求する]を選択した場合は、信頼する管理対象システムを表す証明書を信頼証明書リストにインポートする必要があります。システム単位でシステム自体の証明書をインポートできます。また、システムグループの証明書に署名して発行する認証機関（CA）または中間CAの署名入り証明書もインポートできるため、このリストのメンテナンスが簡単になります。

注記:



完全な設定権があるユーザのみが、HP Systems Insight Managerの信頼されたシステム証明書リストに証明書をインポートできます。

注記:



HP Systems Insight Managerでは、パブリック キーのサイズが2,048ビット以下の証明書のみをインポートできます。

信頼されたシステム証明書リストから証明書をインポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[信頼証明書]**を選択し、インポートをクリックします。**[信頼されたシステム証明書のインポート]**セクションが表示されます。
2. **[証明書のファイル名]**フィールドの横にある**参照**をクリックします。
[ファイルの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. インポートする証明書の場所に移動し、ファイル名を選択します。**開く**をクリックします。

証明書がインポートされます。

関連プロシージャ

- 信頼証明書
- 信頼証明書のエクスポート
- 信頼証明書の削除

関連トピック

- 信頼証明書
- 信頼関係の設定
- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

信頼証明書のエクスポート

ブラウザへの証明書の展開を容易にするには、HP Systems Insight Managerサーバの証明書をファイルにエクスポートします。これにより、ブラウザでHP Systems Insight Managerサーバを適切に識別できるようになります。証明書は公開文書であるため、機密扱いにする必要はありません。証明書のアクセスを公開する場合は、改変されないように注意する必要があります。

完全な設定権があるHP Systems Insight Managerユーザのみが、HP Systems Insight Managerのシステム証明書をHP Systems Insight Managerからエクスポートできます。

注記:



システム証明書は、Base64符号化証明書としてエクスポートできます。エクスポートした証明書は、ブラウザまたはシステムの信頼管理システム リストにインポートできます。

HP Systems Insight Managerからのシステム証明書のエクスポート

Microsoft Explorerを使用して、HP Systems Insight Managerからシステム証明書をエクスポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[信頼証明書]**を選択し、エクスポートをクリックします。

[ファイルのダウンロード]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 保存するファイルの場所を選択します。
3. ファイル名を入力し、保存をクリックすると、Base64符号化X.509証明書として証明書が保存されます。このファイルは、Secure Sockets Layer (SSL) の接続中の中央管理サーバ (CMS) の認証用に、ブラウザや管理対象システムにインポートできます。保存操作を中止して**[システム証明書]**ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

Mozillaを使用して、HP Systems Insight Managerからシステム証明書をエクスポートするには、次のように操作します。

1. 新しいブラウザ ウィンドウに証明書を表示します。
2. 証明書を含むブラウザ ウィンドウの内容全体を選択します。
3. 選択したテキストをクリップボードにコピーします。
4. 任意のテキスト エディタにテキストを貼り付け、ファイル拡張子を.CERにしてファイルを保存します。

ブラウザからのシステム証明書のエクスポート (Microsoft Internet Explorerのみ)

1. 以下の方法のいずれかを使用して、HP Systems Insight Managerのシステム証明書を表示します。
 - Internet Explorerブラウザのメニューから**[ファイル]>[プロパティ]>[証明書]**を選択します。
 - ブラウザの右下にある**[ロック]**アイコンをダブルクリックし、**[証明書]**ダイアログ ボックスを表示します。

[証明書]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. **[証明書]**ダイアログ ボックスの**[詳細]**タブを選択します。
[詳細]タブが表示されます。
3. ファイルにコピーをクリックします。
[証明書のエクスポートウィザード]が起動されます。
4. 次へをクリックします。
[エクスポート ファイルの形式]ダイアログ ボックスが表示されます。
5. エクスポート ファイル形式として**[Base-64 encoded X.509]**を選択します。次へをクリックします。
[エクスポートするファイル]ダイアログ ボックスが表示されます。
6. ファイル名フィールドに、エクスポートするファイルを入力します。次へをクリックします。
[証明書エクスポートウィザードの完了]ダイアログ ボックスが表示されます。
7. 完了をクリックします。前のページに戻るには戻るをクリックします。エクスポート操作を中止するには、キャンセルをクリックします。
エクスポートが完了したというメッセージが表示されます。
8. **OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- 信頼証明書
- 信頼証明書のインポート
- 信頼証明書の削除

関連トピック

- 信頼証明書
- 信頼関係の設定
- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

信頼証明書の削除

HP Systems Insight Managerキーストアから証明書を削除するには、信頼されたシステム証明書リストから証明書を削除します。

注意:



削除プロセスを取り消すことはできません。この機能は慎重に使用してください。

信頼されたシステム証明書リストから証明書を削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[証明書]>[信頼証明書]を選択します。
2. 削除する証明書を選択します。
3. 削除をクリックします。ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 証明書を削除するには、はいをクリックします。削除のプロセスを中止して[信頼されたシステム証明書]ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

証明書が信頼されたシステム証明書リストから削除されます。

関連プロシージャ

- 信頼証明書のインポート
- 信頼証明書のエクスポート
- 信頼証明書の要求

関連トピック

- 信頼証明書
- サーバ証明書
- ネットワークとセキュリティ
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

信頼証明書の要求

信頼されたシステム証明書は、管理対象システムを表す証明書です。[信頼されたシステム証明書]ページの[信頼証明書を要求する]オプションを有効にすると、HP Systems Insight Managerでのリモート管理対象システムの認証が可能になります。利便性を考慮して、このオプションは無効になっています。これが典型的なシナリオであり、高いレベルのセキュリティが維持されます。セキュリティレベルを最大化するには、このオプションを有効にする必要があります。

[信頼証明書を要求する]を有効にした場合、HP Systems Insight Managerで管理対象システムにSSL (Secure Sockets Layer) 接続しようとする、そのシステムを表す証明書が、HP Systems Insight Managerキーストアで必要になります。証明書がない場合、SSL接続はエラーになり、操作もエラーになります。システムを表す証明書としては、システムのSSLシステム証明書、またはシステムの証明書の署名に使用された認証機関 (CA) レベルの証明書が使用可能です。システム数が多い場合、少数のCAレベル証明書を使用してすべてのシステム証明書に署名すると、システム証明書の管理と維持が簡単になります。ただし、このオプションでは、ご使用の環境にPKI (パブリック キー インフラストラクチャ) が必要になったり、外部のセキュリティ会社のサービスが必要になります。

注意:



[信頼証明書を要求する]オプションを選択すると、信頼されたシステム証明書リストに証明書が記されているシステムのみで特定機能が動作することを示す警告メッセージが表示されます。

注記:



[信頼証明書を要求する]を有効にすると、HP Systems Insight Managerの信頼されたシステム証明書リストのみが使用されます。

注記:



[信頼証明書を要求する]オプションを変更すると、HP Systems Insight Managerの操作に悪影響を及ぼす場合があります。以下で説明する、表示される警告をよく読んで理解してください。

注記:



CAレベル証明書を使用する場合、CAレベル証明書によって署名された有効な証明書は、すでに発行済みか、将来発行されるかを問わず、HP Systems Insight Managerによって受け付けられます。

関連プロシージャ

- 信頼証明書のインポート
- 信頼証明書のエクスポート
- 信頼証明書の削除

関連トピック

- 信頼証明書
- 信頼関係の設定
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

信頼関係の設定

HP Systems Insight Manager CMSと、ProLiantエージェントがインストールされた管理対象Windowsサーバとの間の信頼関係を設定する方法

管理対象のProLiantサーバを信頼するようにCMSを設定する方法

1. HP Systems Insight Managerで、[オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[サーバの証明書]を選択し、エクスポートをクリックします。ファイルの場所を覚えておきます（servcert.cert）。
2. （省略可能）HP Systems Insight Managerで、[オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼証明書]を選択し、インポートをクリックします。手順1でエクスポートしたファイルを探してインポートします。

注記:



HP Systems Insight Managerは、サーバ証明書と信頼証明書に対して同じキーストアを使用します。

3. Internet Explorerで、[ツール]->[インターネット オプション]->[コンテンツ]->[証明書]を選択し、[信頼されたルート証明機関]タブを選択します。手順1でエクスポートしたファイルをインポートして、[証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する]を選択します。

管理対象システムの設定

シングル ログインとセキュア タスク実行（STE）が動作するには、サポートされているエージェントを管理対象システムで実行し、HP Systems Insight Managerサーバを信頼するように管理対象システムを設定する必要があります。信頼モードは、System Management Homepageで設定されます。

[証明書による信頼]。[証明書による信頼]モードでは、信頼証明書を備えたHP Systems Insight Managerサーバの設定変更だけを受け入れるよう**System Management Homepage**が設定されます。このモードでは、デジタル署名と証明書による認証を提供する、提出されたサーバが必要です。このモードは最もセキュリティの高い方法になります。デジタル署名を確認してからアクセスを許可するからです。HPは、このオプションをおすすめします。

注記:



HP Systems Insight Managerによるリモートでの設定変更を可能にしたい場合は、**[証明書による信頼]**を選択したままにして、信頼システムのリストを空のままにしておきます。

[名前による信頼]。[名前による信頼]モードでは、HP Systems Insight Managerの名前が**[名前による信頼]**フィールドに指定されているサーバからの特定の設定変更だけを受け入れるよう**System Management Homepage**が設定されます。**[名前による信頼]**オプションは設定が容易で、悪意のないアクセスを防止します。たとえば、2つの別々の部門に2つの異なる管理者グループがある安全なネットワークの場合にこのオプションを使用できます。これにより、あるグループが間違えたシステムにソフトウェアをインストールすることを防止できます。このオプションは、提出されたHP Systems Insight Managerサーバ名だけを確認し、デジタル署名は確認しません。

[すべて信頼]。[すべて信頼]モードでは、あらゆるシステムからの設定変更を受け入れるよう **System Management Homepage** が設定されます。たとえば、安全なネットワークの場合に [すべて信頼] オプションを使用すると、そのネットワーク内のすべての人物が信頼されます。

注記:



[証明書による信頼]の場合、HP Systems Insight Manager システムからの証明書は、初期サポート パックの展開中にインストールできます。詳細については、「初期 ProLiant Support Pack のインストール」を参照してください。

System Management Homepage を実行する管理対象サーバを設定する方法

1. ブラウザから、IEを開いて **https://managed-server:2381** を通じて管理対象サーバにアクセスします。 **System Management Homepage** が表示されます。
2. **System Management Homepage** にログインします。
3. [設定]>[**System Management Homepage**]>[セキュリティ]を選択します。
4. 信頼モードをクリックします。[信頼モード]ページが表示されます。
5. [証明書による信頼]を選択して信頼証明書を要求します。
6. 信頼証明書をクリックして信頼管理サーバの証明書にアクセスします。
7. 設定の保存をクリックして信頼モードを保存するか、値のリセットをクリックしてすべての変更をキャンセルします。
8. ブラウザの戻るボタンをクリックします。
9. サーバから証明書の追加の横にあるテキスト ボックスに、追加する証明書が含まれた HP Systems Insight Manager サーバの名前を入力します。
10. サーバから証明書の追加をクリックします。リストに追加される前に、確認/確定のための証明書の情報が表示されます。

注記：これは、HTTP 経由のセキュリティ保護されていない要求なので、悪意のある者が要求を傍受して、その要求への応答として偽の証明書を返す危険性があります。HP Systems Insight Manager 証明書を入手する、より安全な方法の詳細については、「HP Systems Insight Manager 証明書のインポート」を参照してください。

11. 証明書の情報を確認し、信頼証明書のリストに追加したければ、証明書リストに証明書を追加をクリックします。

注記：クラスタで信頼証明書を設定する場合の詳細については、「クラスタ」を参照してください。

HP Systems Insight Manager 証明書のインポート

1. HP Systems Insight Manager サーバ証明書を HP Systems Insight Manager サーバからファイルにエクスポートします。詳細については、「サーバ証明書のエクスポート」を参照してください。

2. 証明書ファイルを、管理対象システムのファイルシステムにアクセス可能なファイル保存場所に保存します。
3. 管理対象システムにアクセスし、手順1で作成したHP Systems Insight Managerサーバ証明書を「メモ帳」で開きます。
4. **Begin Certificate**行と**End Certificate**行を含むファイルの内容全体を強調表示します。強調表示した証明書ファイルの内容をクリップボードにコピーします。
5. 管理対象システムのブラウザに戻り、**[HP Systems Insight Manager証明書データ]**ボックスを選択します。
6. 証明書ファイルの内容をこのボックスに貼り付け、ボックスの下**の証明書の追加**をクリックします。上部に3つのリンクのある確認ウィンドウが表示されます。
7. **[オプション]**をクリックし、**[信頼された証明書]**セクションまでスクロールします。追加したHP Systems Insight Manager証明書の**[信頼された証明書]**というリストが生成されており、サーバ名と、**[証明書の表示]**と**[証明書の削除]**という2つのリンクが表示されます。

HP Systems Insight Managerの設定

1. Internet Explorerで、**[ツール]->[インターネット オプション]->[コンテンツ]->[証明書]**を選択し、**[信頼されたルート証明機関]**タブを選択します。エクスポートしたファイルをインポートして、**[証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する]**を選択します。
2. (省略可能) HP Systems Insight Managerで、**[オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼証明書]**を選択し、インポートをクリックします。手順1でエクスポートしたファイルを探してインポートします。

注記:



HP Systems Insight Managerは、サーバ証明書と信頼証明書に対して同じキーストアを使用します。

3. HP Systems Insight Managerを開いて、**[オプション]->[セキュリティ]->[証明書]->[信頼証明書]**を選択し、**[信頼証明書を要求する]**オプションを有効にします。

マネジメントHTTPサーバを実行する管理対象サーバを設定する方法

HP Systems Insight Manager証明書のインポート

1. HP Systems Insight Managerサーバ証明書をHP Systems Insight Managerサーバからファイルにエクスポートします。詳細については、「サーバ証明書のエクスポート」を参照してください。
2. 証明書ファイルを、管理対象システムのファイルシステムにアクセス可能なファイル保存場所に保存します。
3. 管理対象システムにアクセスし、手順1で作成したHP Systems Insight Managerサーバ証明書を「メモ帳」で開きます。

4. **Begin Certificate**行と**End Certificate**行を含むファイルの内容全体を強調表示します。強調表示した証明書ファイルの内容をクリップボードにコピーします。
5. 管理対象システムのブラウザに戻り、**[HP Systems Insight Manager証明書データ]**ボックスを選択します。
6. 証明書ファイルの内容をこのボックスに貼り付け、ボックスの下の証明書の追加をクリックします。上部に3つのリンクのある確認ウィンドウが表示されます。
7. **[オプション]**をクリックし、**[信頼された証明書]**セクションまでスクロールします。追加したHP Systems Insight Manager証明書の**[信頼された証明書]**というリストが生成されており、サーバ名と、**[証明書の表示]**と**[証明書の削除]**という2つのリンクが表示されます。

HP Systems Insight Manager証明書の要求

適切なフィールドにHP Systems Insight Managerサーバ名を入力し、対応する証明書の取得ボタンを押します。管理対象システムは、直接HP Systems Insight Managerサーバに証明書のHTTP要求を送信します。

注記：これは、HTTP経由のセキュリティ保護されていない要求なので、悪意のある者が要求を傍受して、その要求への応答として偽の証明書を返す危険性があります。HP Systems Insight Manager証明書を入手する、より安全な方法の詳細については、「HP Systems Insight Manager証明書のインポート」を参照してください。

HP Systems Insight Managerの設定

システム識別

管理対象システムがシングル ログインとセキュア タスク実行をサポートしていることをHP Systems Insight Managerが認識するために、すべての管理対象システムに対して1回以上はシステム識別タスクを実行する必要があります。

信頼されたシステムの証明書

[信頼されたシステム証明書]ページ（**[オプション]**→**[セキュリティ]**→**[証明書]**→**[信頼証明書]**の順に選択）で**[信頼証明書を要求する]**を有効にしている場合は、HP Systems Insight Managerサーバに信頼させたい管理対象システムを表す証明書を、HP Systems Insight Managerの信頼されたシステム証明書リストにインポートしてください。管理対象デバイスの証明書については、その証明書を使用するか、該当する場合は、認証機関（CA）がシステム証明書の署名に使用した証明書を使用することができます。

注記:



[信頼証明書を要求する]を無効にする場合は、信頼されたシステム証明書リストが使用されないため、この項を省略できます。

システム証明書をHP Systems Insight Managerの信頼されたシステム証明書リストにインポートする前に、証明書を、DERまたはBase64符号化形式でファイルにエクスポートします。システム証明書は、次の方法で入手できます。

- Windowsで動作するシステム用にファイル システムにアクセスしている場合は、
c:\compaq\wbem\cert.pemファイル内の証明書を、Base64符号化形式で、HP Systems Insight

Managerがアクセス可能な場所にコピーするか、HP Systems Insight Managerがすでにそのファイルにアクセス可能であれば、そのファイルに直接アクセスします。

- システムにアクセスしているときにシステム証明書をエクスポートします。ブラウザのメニューから、**[ファイル]**->**[プロパティ]**の順に選択します。証明書をクリックします。**[詳細]**タブをクリックして、ファイルにコピーをクリックします。証明書を、Base64符号化X.509ファイルとしてエクスポートします。

CA証明書を入手する方法については、CAに問い合わせるか、証明書サーバソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。管理対象システムの証明書をHP Systems Insight Managerの信頼されたシステム証明書リストにインポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]**->**[セキュリティ]**->**[証明書]**->**[信頼証明書]**を選択し、インポートをクリックします。
2. **[信頼されたシステム証明書のインポート]**セクションが表示されます。
3. **[証明書のファイル名]**フィールドの横にある**参照**をクリックします。
[ファイルの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
4. インポートする証明書の場所に移動し、ファイル名を選択します。開くをクリックします。

証明書がインポートされます。

注記：クラスタで信頼証明書を設定する場合の詳細については、「クラスタ」を参照してください。

ブラウザの警告メッセージの管理

ブラウザ上に表示されるブラウザの警告メッセージを停止するには、以下を実行します。

1. ブラウザから、Internet Explorerを開いてhttps://managed_server:2381で管理対象サーバにアクセスします。
2. Internet Explorerの**[セキュリティの警告]**で、証明書の表示をクリックします。
3. 証明書を確認した後、証明書のインストールをクリックします。
4. 次へをクリックします。
5. 証明書をすべて次のストアに配置するをクリックします。
6. 参照をクリックします。
7. **[信頼されたルート証明機関]**を選択し、**OK**をクリックします。
8. 次へをクリックします。
9. 完了をクリックします。
10. **OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- CSRの作成
- CSRの提出
- CA-署名済み証明書のインポート
- サーバ証明書のエクスポート
- 管理対象システム

関連トピック

- サーバ証明書
- 信頼証明書
- ネットワークとセキュリティ
- エージェント設定のレプリケート タスクの作成
- OpenSSHのインストール
- SSHキーの管理

システム、クラスタ、イベントの監視

[システムおよびイベント]パネル内のツールを使用して、システム、クラスタ、およびイベントを監視することができます。これにより、システムとイベントを細かく調べて詳細情報を特定したり、システムを選択してからタスクを実行したりすることができます。このパネルから、[システム概要]ページ、[すべてのシステム]ページ、および[すべてのイベント]ページに迅速にアクセスすることができます。検索を[システム]または[イベント]の下プライベート収集に保存することもできます。詳細については、「収集の保存」を参照してください。

注記:



HP Systems Insight Manager 4.xからHP Systems Insight Manager 5.0にアップグレードした場合、[お気に入り]機能を使用していれば、[お気に入り]サブフォルダとその内容は、プライベート収集の下に移動しています。

収集について

収集は、HP Systems Insight Managerデータベース内の情報に基づいてシステムを収集にグループ分けします。収集を定義すると、結果を表示したり、収集をタスクに関連付けたりすることができます。編集した収集や編集していない収集は、別の名前の収集として保存することができます。

システム、クラスタ、またはイベントの論理収集を作成することによって、特定のイベント収集で表示されるシステム、クラスタ、またはイベントの数が少なくなります。たとえば、組織に5人のシステム管理者がいて、6棟の異なるビルに設置されている100台のシステムを担当する場合を想定します。各管理者用にそれぞれが担当するシステムだけを含む収集を作成したり、特定のビルに設置されているシステムだけを含む収集を各ビルごとに作成したりすることができます。

個別の収集または多数の選択条件を含む複合収集の実行には、多くのシステムリソースが必要です。個々のタスクのパフォーマンスの影響を最小にするためには、収集をできる限り単純にします。

関連プロシージャ

- クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのクラスタの削除
- クラスタ収集レポートの印刷
- イベントに関するコメントの入力
- ユーザへのイベントの割り当て
- 収集からのイベントを確認済みに変更
- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのイベントの削除
- イベント収集レポートの印刷
- イベント収集のプロパティの設定
- イベント収集の作成
- イベントの高度な検索の実行
- イベント収集の削除

- イベント収集の編集
- システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定
- システム収集またはクラスタ収集の作成
- システムの高度な検索の実行
- システム収集またはクラスタ収集の削除
- システム収集またはクラスタ収集の編集
- 基本検索の実行
- クラスタの高度な検索の実行
- 収集の保存
- システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのシステムの削除
- システム収集レポートの印刷
- 収集の保存

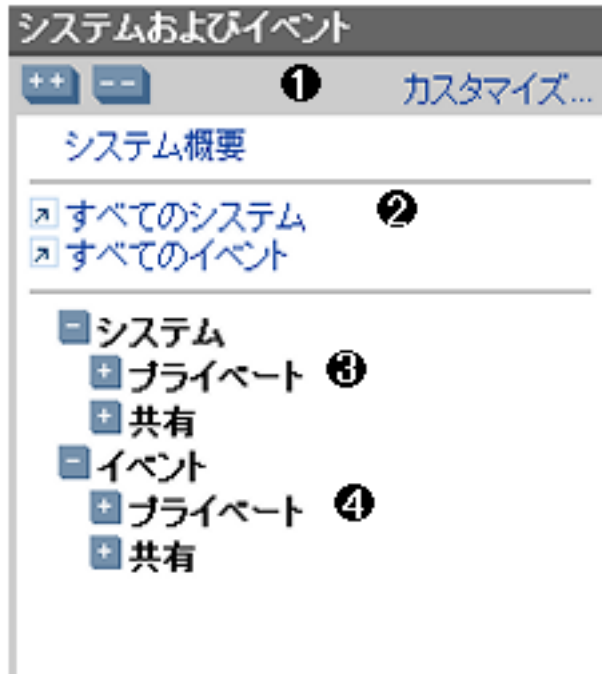
関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- クラスタ テーブル ビュー ページ
- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント収集のカスタマイズ
- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- システムとイベントの検索
- システム概要ページの表示
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート
- リファレンス
- デフォルト パブリック収集
- サービス通知イベント

[システムおよびイベント]パネルのナビゲート

[システムおよびイベント]パネルには、次の機能が含まれています。

1. ツリー コントロールおよびカスタマイズ
2. 概要
3. システム
4. イベント



収集を選択すると、その内容のビューが表示されます。[システムおよびイベント]パネルから、いくつかのタイプの収集ビューページを起動できます。下のリストでいずれかのページを選択して、使用可能ないくつかのタイプのビューの詳細を表示してください。

- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート
- ツリー ビューのナビゲート


[システムおよびイベント]パネルでは、[プライベート]収集と[共有]収集がデフォルトで作成されます。[共有]の収集は、すべての有効なHP Systems Insight Managerユーザが表示できます。ただし、これらの収集とその内容を編集または削除できるのは、完全な設定権があるユーザだけです。[プライベート]の収集は、その収集を作成したユーザだけが、表示、編集、または削除できます。収集は、[プライベート]または共有収集内に配置することができます。収集を[共有]に配置するには、完全な設定権を持っている必要があります。


同じ収集が[共有]と[プライベート]の両方に配置されている場合、完全な設定権を持っているすべてのユーザが、[共有]収集に保存されている収集を修正できます。いずれかの収集内で収集が修正されると、その変更はもう一方の収集にも反映されます。収集を作成したユーザのユーザ権限が完全な設定権から制限付き設定権に低下すると、そのユーザは、[共有]収集に配置された収集を修正できなくなります。


収集とその内容は、表示されないように設定することができます。使用されない収集が[システムおよびイベント]パネルに煩雑に表示されないようにしたい場合は、この設定を使用してください。詳細については、「システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定」および「イベント収集のプロパティの設定」を参照してください。


ツリー コントロールおよびカスタマイズ

[システムおよびイベント]パネルパネルには、ツリーのナビゲートに使用できるコントロールがあります。

 ツリーのすべてのブランチを展開します。

 ツリーのすべてのブランチを第1レベルのブランチに折り畳みます。

 ツリーのブランチを展開します。

 ツリーのすべてのブランチを折り畳みます。

[システムおよびイベント]パネルのカスタマイズリンクでは、必要に応じて[システムおよびイベント]パネル ツリーをカスタマイズできます。すべてのユーザは、自分の[システム]収集、[イベント]収集、および[お気に入り]収集をカスタマイズできますが、完全な設定権があるユーザのみが、パブリックの[システム]収集と[イベント]収集をカスタマイズできます。[収集のカスタマイズ]セクションを表示するには、[カスタマイズ]をクリックします。

概要

[システムおよびイベント]パネルには、次のような3つの概要収集があります。

- **[システム概要]**。[システム概要]ページが表示されます。詳細については、「システム概要 ページの表示」を参照してください。
- **[ヘルス ステータス]**。HP Systems Insight Managerによって検出されたすべてのシステムのヘルス ステータスが含まれます。システムは、ステータス状態とタイプによってグループ化されます。各列の番号は、この[ヘルス ステータス]収集に属するシステム ステータス収集のサブセットへのハイパーリンクです。
- **[未確認イベント ステータス]**。深刻度が、クリティカル、メジャー、マイナー、警告、正常、または情報になっている未確認イベントの数が表示されます。イベントは、深刻度とシステムタイプによって分類されます。各列の番号は、この[イベント ステータス]リストに属するイベントの詳細なリストへのハイパーリンクです。

いずれの表示も、次のシステム カテゴリを使用して並べ替えられます。

- **[サーバ]**。HP Insightマネジメント エージェントを使用するHP製サーバ。
- **[クラスタ]**。システム（通常はサーバ）のグループ。
- **[クライアント]**。ワークステーション、ポータブル、およびデスクトップ。
- **[ネットワーク]**。ルータ、スイッチ、リピータ、またはリモート アクセス製品。
- **[プリンタ]**。
- **[その他]**。リモートInsightボード、および、サーバ、クラスタ、クライアント、ネットワーク製品などに分類できないサードパーティ製システム（たとえば、ラック、エンクロージャ、リモート管理プロセッサなど）。

注記:

システム タイプ マネージャを使用すると、その他のサードパーティ製システムをこのシステム タイプに分類できます。詳細については、「システム タイプの管理」を参照してください。

- **[すべてのシステム]**。[すべてのシステム]ページが表示されます。システム テーブルビューページの詳細については、「システム テーブルビュー ページのナビゲート」を参照してください。
- **[すべてのイベント]**。[すべてのイベント]ページが表示されます。イベント テーブルビューページの詳細については、「イベント テーブルビュー ページのナビゲート」を参照してください。

システム

システム収集では、HP Systems Insight Managerデータベース内の情報に基づいて、システムが論理グループに分類されます。収集を定義すると、作業領域に結果を表示したり、収集を管理タスクに関連付けたりすることができます。

HP Systems Insight Managerが提供している収集を使用するだけでなく、自分の収集を作成、編集、または削除することができます。収集は、特定の命名規則に従う必要があります。収集の命名の詳細については、「収集命名規則」を参照してください。

システムの論理グループを作成することによって、特定のシステム リストで表示されるシステムの数が減ります。たとえば、組織に5人のシステム管理者がいて、6棟の異なるビルに設置されている100台のシステムを担当する場合を想定します。各管理者用にそれぞれが担当するシステムだけを含む収集を作成したり、特定のビルに設置されているシステムだけを含む収集を各ビルごとに作成したりすることができます。

個別のシステム選択または多数の選択条件を含む複合収集の実行には、多くのシステム リソースが必要です。個々のタスクのパフォーマンスの影響を最小にするためには、収集をできる限り単純にします。すべてのパブリック システム収集のリストについては、「デフォルト パブリック収集」を参照してください。

収集をグループ化して、作成した**[プライベート]**収集に含めることができます。ログインしたユーザの**[プライベート]**収集は、HP Systems Insight Managerによって内部的に実行されてステータスが生成されます。ユーザは、自分が作成した**[プライベート]**収集だけにアクセスすることができ、他のユーザが作成した**[プライベート]**収集にはアクセスできません。

イベント

イベント収集では、HP Systems Insight Managerデータベース内の情報に基づいてイベントが論理グループに分類されます。イベントの論理グループを作成することによって、特定のイベント収集で表示されるイベントの数が少なくなります。収集を定義すると、作業領域に結果を表示したり、収集を管理タスクに関連付けたりすることができます。

個別のシステム選択または多数の選択条件を含む複合収集の実行には、多くのシステム リソースが必要です。個々のタスクのパフォーマンスの影響を最小にするためには、収集をできる限り単純にします。すべての共有イベント収集のリストについては、「デフォルト パブリック収集」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- イベント収集のカスタマイズ

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- ツリー ビューのナビゲート
- システム概要ページの表示
- システム タイプ

システム概要ページの表示

[システムおよびイベント]パネルの[ステータス概要]をクリックすると、現在のシステムヘルスステータスと未確認イベントステータスを表示できます。このページは自動的に更新されませんが、ページ下部の[最終更新日]リンクをクリックするとデータを更新できます。

ヘルス ステータス

ヘルスステータステーブルには、HP Systems Insight Managerによって検出されたすべてのシステムのうち、参照権限があるシステムのヘルスステータスが含まれます。システムは、ステータス状態とタイプによってグループ化されます。各列の番号は、ステータス別システム収集に属するシステムステータス収集のサブセットへのハイパーリンクです。

未確認イベント ステータス

未確認イベントの現在のステータスも表示できます。未確認イベントステータステーブルに、参照権限があるシステムでの、イベント深刻度がクリティカル、メジャー、マイナー、警告、正常、または情報である未確認イベントの数が表示されます。イベントは、深刻度とシステムタイプによって分類されます。各列の番号は、このイベントステータス収集に属するイベントの詳細なイベント収集へのハイパーリンクです。

いずれの表示も、次のシステムカテゴリを使用して並べ替えられます。

- [サーバ]。HP Insightマネジメント エージェントがあるHP製サーバ
- [クラスタ]。システム（通常はサーバ）のグループで構成されたクラスタ
- [クライアント]。ワークステーション、ポータブル、およびデスクトップ
- [ネットワーク]。ルータ、スイッチ、リピータ、またはリモート アクセス製品
- [プリンタ]。
- [その他]。リモートInsightボード、および、サーバ、クラスタ、クライアント、プリンタ、ネットワーク製品などに分類できないサードパーティ製システム（たとえば、ラック、エンクロージャ、リモート管理プロセッサなど）

注記:



システム タイプ管理を使用すると、その他のサードパーティ製システムをこのシステム タイプに分類できます。システム タイプ管理の詳細については、「システム タイプの管理」を参照してください。

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント深刻度の種類
- システム タイプ

収集の保存

システム収集、イベント収集、またはクラスタ収集を新しい名前で保存する場合または指定した場所に保存する場合は、次の手順を実行します。

注記:



システム検索を行う場合、名前は70文字以内にしてください。重複する収集名を新しい収集に割り当てることはできないので、名前は一意にする必要があります。特殊文字は含めないでください。

収集を保存するには、次のように操作します。

1. [名前]フィールドに、収集の名前を入力します。
2. [保存場所]で、収集を保存する場所を選択します（いずれかの[共有]フォルダの[プライベート]フォルダで）。
3. 収集を保存するには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- イベントの高度な検索の実行
- クラスタの高度な検索の実行
- 基本検索の実行
- システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのシステムの削除
- システム収集レポートの印刷
- クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのクラスタの削除

- クラスタ収集レポートの印刷

関連トピック



- システムとイベントの検索
- 基本検索と高度な検索
- 検索条件
- システム テーブル ビュー ページ
- クラスタ テーブル ビュー ページ

システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ

[システムおよびイベント]パネルには、[システム]収集が含まれます。この収集には、システム、クラスタ、およびシステム機能の収集が含まれます。

収集は、プライベートまたは共有にすることができます。すべてのユーザは、共有収集を表示できます。ユーザが作成したプライベート収集は個人的なものであり、そのユーザのみが表示できます。HP Systems Insight Managerは、複数の共有収集が定義された状態で出荷されます。たとえば、[ステータス別システム]は、HP Systems Insight Managerとともに出荷されるデフォルト共有収集です。デフォルト共有収集の詳細については、「共有システム収集」を参照してください。

- システム収集には、共有とプライベートという、2つのアクセスレベルがあります。システム、クラスタ、およびシステム機能のデフォルトのシステム収集は、すべて共有です。デフォルト共有収集の詳細については、「共有システム収集」を参照してください。
- すべての有効なユーザは、自分のプライベート収集の表示と編集ができます。
- すべての有効なユーザは、共有収集を表示できますが、完全な設定権があるユーザは、共有収集の内容を修正できます。修正が完了したら、すべての有効なユーザは、変更内容を表示できます。
- [システム]収集からシステムまたはクラスタ収集名をクリックすると、その収集の現在のメンバが、ページの作業領域領域に表示されます。
- [システム]収集からクラスタ収集をクリックすると、選択したクラスタ収集の実行結果が、ページの作業領域領域に表示されます。クラスタ ビュー ページの詳細については、「クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート」を参照してください。

システム収集をカスタマイズするには、[システムおよびイベント]パネルのカスタマイズをクリックします。[収集のカスタマイズ]ページが表示されます。[表示]ドロップダウン リストで、[システム]を選択します。使用できるすべての[システム]が表示されます。収集が[システムおよびイベント]パネルに表示され、システム ステータスが[システムおよびイベント]パネルに表示される場合は、収集名を含むテーブルが表示されます。 をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を展開するか、 をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を折り畳みます。

[収集のカスタマイズ]ページでは、次のオプションを使用できます。

- 新規。新しいシステム収集またはクラスタ収集を作成します。完全な設定権がある場合は、新しい収集を共有収集として保存できます。完全な設定権がない場合は、新しい収集をプライベート収集としてのみ保存できます。システム リストの作成方法の詳細については、「システムの高度な検索の実行」を参照してください。

- **編集。**既存システム収集または既存クラスタ収集を編集します。詳細については、「システム収集またはクラスタ収集の編集」を参照してください。
- **削除。**既存システム収集または既存クラスタ収集を削除します。完全な設定権がある場合は、共有システム収集または共有クラスタ収集を削除できます。システム収集は、空の場合のみ、削除できます。既存の収集を削除するには、収集を強調表示して削除をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。削除を続けるには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。詳細については、「システム収集またはクラスタ収集の削除」を参照してください。
- **プロパティの設定。**ステータス表示フラグ、非表示フラグ、およびデフォルト ビューを設定します。詳細については、「システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- システム収集またはクラスタ収集の編集
- システム収集またはクラスタ収集の作成
- システム収集またはクラスタ収集の削除
- システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- デフォルト パブリック収集
- システム ステータス タイプ
- ソフトウェア ステータス タイプ

システム収集またはクラスタ収集の作成

新しいプライベートシステム収集またはクラスタ収集や新しい共有システム収集またはクラスタ収集を作成するには、次の手順を実行します。

注記:



完全な設定権があるユーザは、共有収集を作成できます。制限付き設定権があるユーザは、自分のプライベート収集のみを作成できます。ただし、共有収集の表示はできません。

新しいシステム収集またはクラスタ収集を作成するには、次のように操作します。

1. **[システムおよびイベント]**パネルでカスタマイズをクリックします。**[収集のカスタマイズ]**ページが表示されます。
2. **[表示]**ドロップダウン リストで、**[システム]**を選択します。使用できるすべてのシステム収集またはクラスタ収集が表示されます。
3. **新規**をクリックします。**[新規収集]**セクションが表示されます。
4. **[個別にメンバーを選択]**または**[条件によってメンバーを選択]**を選択します。

5. **[個別にメンバーを選択]**を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - a. **[次から選択:]**ドロップダウン ボックスから、個々の収集または収集メンバを選択します。

注記：ドロップダウン リストから収集を選択する場合、その収集の第1レベルのメンバは、**[有効なアイテム:]**ボックスに表示されます。
 - b. **[有効なアイテム:]**ボックスから、項目を強調表示し、**[>>]**をクリックして、収集内の項目を選択します。上向き矢印や下向き矢印をクリックして収集内の項目の位置を変更したり、削除をクリックして**[選択されたメンバー:]**ボックスから項目を削除したりすることができます。
 - c. 名前を付けて保存をクリックして収集を保存します。**[名前を付けて保存]**セクションが表示されます。または、キャンセルをクリックして、変更を保存せずに**[新規収集]**セクションを閉じます。収集の保存の詳細については、「収集の保存」を参照してください。
6. **[条件によってメンバーを選択]**を選択した場合は、**[新規]**セクションが表示されます。
 - a. **[検索対象]**ドロップダウン ボックスから、**[システム]**または**[クラスタ]**を選択します。
 - b. 収集の検索条件を入力します。クラスタ検索条件の詳細については、「クラスタの高度な検索の実行」を参照してください。
 - c. 表示をクリックして検索をすぐに実行するか、名前を付けて保存をクリックして収集を保存します。名前を付けて保存セクションが表示されます。収集の保存の詳細については、「収集の保存」を参照してください。または、キャンセルをクリックして、変更を保存せずに**[新規収集]**セクションを閉じます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から新しい収集を作成できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- システム収集またはクラスタ収集の編集
- システム収集またはクラスタ収集の削除
- システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

システム収集またはクラスタ収集の編集

システム収集またはクラスタ収集を編集するには、次の手順を実行します。

注記:



完全な設定権があるユーザは、共有収集を編集できます。制限付き設定権があるユーザは、自分のプライベート収集のみを編集できます。ただし、共有収集の表示はできません。

既存のシステム収集またはクラスタ収集を編集するには、次のように操作します。

1. **[システムおよびイベント]**パネルでカスタマイズをクリックします。**[収集のカスタマイズ]**ページが表示されます。
2. **[表示]**ドロップダウン リストで、**[システム]**を選択します。使用できるすべてのシステム収集またはクラスタ収集が表示されます。**++**をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を展開するか、**--**をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を折り畳みます。
3. 編集するシステム収集またはクラスタ収集を選択し、**編集**をクリックします。**[収集の編集]**セクションが表示されます。
4. システム条件またはクラスタ条件を変更します。クラスタ検索条件の詳細については、「クラスタの高度な検索の実行」を参照してください。
5. 検索をすぐに実行するには、**表示**をクリックします。編集内容を保存するには、**保存**をクリックします。変更内容をすべてキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から既存の収集を編集できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- システム収集またはクラスタ収集の作成
- システム収集またはクラスタ収集の削除
- システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- **[システムおよびイベント]**パネルのナビゲート

システム収集またはクラスタ収集の削除

システム収集またはクラスタ収集を削除するには、次の手順を実行します。

注記:



完全な設定権があるユーザは、共有収集を削除できます。制限付き設定権があるユーザは、自分のプライベート収集のみを削除できます。ただし、共有収集の表示はできません。

システム収集またはクラスタ収集を削除するには、次のように操作します。

1. **[システムおよびイベント]**パネルでカスタマイズをクリックします。**[収集のカスタマイズ]**ページが表示されます。
2. **[表示]**ドロップダウン リストで、**[システム]**を選択します。使用できるすべてのシステム収集またはクラスタ収集が表示されます。**++**をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を展開するか、**--**をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を折り畳みます。
3. 削除する収集を選択します。
4. 削除をクリックします。ダイアログ ボックスが表示されます。削除を続けるには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。選択された収集が空でないか、タスクによって使用されていると、エラー メッセージが表示されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から既存の収集を削除できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- システム収集またはクラスタ収集の編集
- システム収集またはクラスタ収集の作成
- システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定



関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- **[システムおよびイベント]**パネルのナビゲート

システム収集またはクラスタ収集のプロパティの設定

収集のプロパティを設定するには、次の手順を実行します。[システムおよびイベント]パネルで収集を表示するかしないか、システムまたはクラスタステータスを表示するかしないか、およびデフォルト ビューを選択することができます。

システムまたはクラスタ収集のプロパティを設定するには、次のように操作します。

1. [システムおよびイベント]パネルでカスタマイズをクリックします。[収集のカスタマイズ]ページが表示されます。
2. [表示]ドロップダウン リストで、[システム]を選択します。使用できるすべてのシステム収集またはクラスタ収集が表示されます。  をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を展開するか、  をクリックしてテーブル内のすべてのシステムおよびクラスタ収集を折り畳みます。
3. 収集を選択して、プロパティ設定をクリックします。[プロパティ設定]セクションが表示されます。
4. [表示]の下で、[はい、システムおよびイベントにアイテムを表示します]または[いいえ、システムおよびイベントにアイテムを表示しません]を選択します。使用されない収集がある場合は、[いいえ、システムおよびイベントにアイテムを表示しません]を選択して、それらが[システムおよびイベント]パネルに煩雑に表示されないようにすることができます。
5. [ステータスの表示]の下で、システム ヘルス ステータスを表示する場合は[はい、システムおよびイベントにアイテムを表示します]を選択し、パネルが煩雑にならないようにする場合は[いいえ、システムおよびイベントにアイテムを表示しません]を選択します。

注記：このオプションは、収集が属性によって定義されている場合にのみ使用できます。

注記：収集については、そのメンバの重要なステータスのほとんどが表示されます。収集を開くと、個々のメンバのステータスが表示されます。

注記：ステータスの表示ではシステム リソースが使用されるので、ステータスの表示は必要な収集に限定するようにしてください。

6. [デフォルト ビュー]フィールドで、ドロップダウン リストからデフォルト ビューを選択します。[ツリー ビュー]、[テーブル ビュー]、および[アイコン ビュー]から選択してください。各ビューの詳細については、「[システムおよびイベント]パネルのナビゲート」を参照してください。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から収集のプロパティを設定できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- システム収集またはクラスタ収集の編集
- システム収集またはクラスタ収集の作成

- システム収集またはクラスタ収集の削除

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

イベント収集のカスタマイズ

[システムおよびイベント]パネルには、[イベント]収集が含まれます。この収集には、異なるタイプのイベントの収集が含まれます。

収集は、プライベートまたは共有にすることができます。すべてのユーザは、共有リストを表示できます。ユーザが作成したプライベート収集は個人的なものであり、そのユーザのみが表示できます。HP Systems Insight Manager は、複数の共有収集が定義された状態で出荷されます。たとえば、[深刻度別イベント]は、HP Systems Insight Managerとともに出荷されるデフォルトパブリック収集です。デフォルトパブリック収集の詳細については、「共有イベント収集」を参照してください。

- イベント収集には、共有とプライベートという、2つのアクセスレベルがあります。デフォルトのイベント収集は、すべて共有です。
- すべての有効なユーザは、自分のイベント収集の表示と編集ができます。
- すべての有効なユーザは、共有収集を表示できますが、完全な設定権があるユーザのみが、共有収集の内容を修正できます。修正が完了したら、すべての有効なユーザは、変更内容を表示できます。
- [イベント]グループからイベント収集をクリックすると、選択したイベント収集の実行結果が、ページの作業領域領域に表示されます。イベントビューページの詳細については、「イベントテーブルビューページのナビゲート」を参照してください。

イベント収集をカスタマイズするには、[システムおよびイベント]パネルのカスタマイズをクリックします。[収集のカスタマイズ]ページが表示されます。[表示]ドロップダウンリストで、[イベント]を選択してください。使用できるすべての[イベント]が表示されます。++をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を展開するか、-をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を折り畳みます。

イベントの[収集のカスタマイズ]ページでは、次の5つのオプションを使用できます。

- **新規。**新しいイベント収集を作成します。完全な設定権がある場合は、新しい収集を共有イベント収集として保存できます。完全な設定権がない場合は、新しい収集をプライベート収集としてのみ保存できます。イベント収集の作成方法の詳細については、「イベントの高度な検索の実行」を参照してください。
- **編集。**既存のイベント収集を編集します。完全な設定権がある場合は、共有イベント収集を編集できます。詳細については、「イベント収集の編集」を参照してください。
- **削除。**既存のイベント収集を削除します。完全な設定権がある場合は、共有イベント収集を削除できます。既存の収集を削除するには、テーブル内の収集を強調表示して削除をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。削除を続けるには、OKをクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。詳細については、「イベント収集の削除」を参照してください。

- プロパティの設定。ステータス表示フラグ、非表示フラグ、およびデフォルト ビューを設定します。詳細については、「イベント収集のプロパティの設定」を参照してください。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から収集のプロパティを設定できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- イベント収集の編集
- イベント収集の作成
- イベント収集の削除
- イベント収集のプロパティの設定

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- デフォルト パブリック収集
- サービス通知イベント

イベント収集の作成

新しいイベント収集を作成するには、次の手順を実行します。

注記:



デフォルトの場合、新たに作成したすべての収集はプライベートになります。

注記:



完全な設定権があるユーザは、新しい共有イベント収集を作成できます。制限付き設定権があるユーザまたは設定権がないユーザは、自分の収集のみを作成できます。ただし、共有収集の表示はできません。

新しいイベント収集を作成するには、次のように操作します。

1. **[システムおよびイベント]**パネルでカスタマイズをクリックします。**[収集のカスタマイズ]**ページが表示されます。

2. **[表示]**ドロップダウン リストで、**[イベント]**を選択してください。使用できるすべてのイベント収集が表示されます。
3. 新規をクリックします。**[新規収集]**セクションが表示されます。
4. **[個別にメンバーを選択]**または**[条件によってメンバーを選択]**を選択します。
5. **[個別にメンバーを選択]**を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - a. **[次から選択:]**ドロップダウン ボックスから、個々の収集または収集メンバを選択します。

注記：ドロップダウン リストから収集を選択する場合、その収集の第1レベルのメンバは、**[有効なアイテム:]**ボックスに表示されます。
 - b. **[有効なアイテム:]**ボックスから、項目を強調表示し、**[>>]**をクリックして、収集内の項目を選択します。上向き矢印や下向き矢印をクリックして収集内の項目の位置を変更したり、削除をクリックして**[選択されたメンバー:]**ボックスから項目を削除したりすることができます。
 - c. 名前を付けて保存をクリックして収集を保存します。**[名前を付けて保存]**セクションが表示されます。または、キャンセルをクリックして、変更を保存せずに**[新規収集]**セクションを閉じます。収集の保存の詳細については、「収集の保存」を参照してください。
6. **[条件によってメンバーを選択]**を選択した場合は、**[新規]**セクションが表示されます。
 - a. **[検索対象]**ドロップダウン ボックスから、**[システム]**または**[クラスタ]**を選択します。
 - b. 収集の検索条件を入力します。イベント検索条件の詳細については、「イベントの高度な検索の実行」を参照してください。
 - c. 表示をクリックして検索をすぐに実行するか、名前を付けて保存をクリックして収集を保存します。名前を付けて保存セクションが表示されます。収集の保存の詳細については、「収集の保存」を参照してください。または、キャンセルをクリックして、変更を保存せずに**[新規収集]**セクションを閉じます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から新しい収集を作成できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- イベント収集の編集
- イベント収集の削除
- イベント収集のプロパティの設定

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- イベント収集のカスタマイズ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

イベント収集の編集



イベント収集を編集するには、次の手順を実行します。[イベント収集]セクションを使用すると、既存の収集のメンバを追加または削除したり、メンバの順番を変更したりすることができます。このセクションは、[新規収集]セクションとよく似ています。

注記:



完全な設定権があるユーザは、共有収集を編集できます。制限付き設定権があるユーザは、自分の収集のみを編集できます。

既存のイベント収集を編集するには、次のように操作します。

1. [システムおよびイベント]パネルでカスタマイズをクリックします。[収集のカスタマイズ]ページが表示されます。
2. [表示]ドロップダウン リストで、[イベント]を選択してください。使用できるすべてのイベント収集が表示されます。  をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を展開するか、  をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を折り畳みます。
3. 編集するイベント収集を選択し、編集をクリックします。[収集の編集]セクションが表示されます。
4. イベント条件を変更します。イベント検索条件の詳細については、「イベントの高度な検索の実行」を参照してください。
5. 検索をすぐに実行するには、表示をクリックします。編集内容を保存するには、保存をクリックします。変更内容をすべてキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から既存の収集を編集できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- イベント収集の作成
- イベント収集の削除
- イベント収集のプロパティの設定

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- イベント収集のカスタマイズ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

イベント収集の削除

イベント収集を削除するには、次の手順を実行します。

注記:



完全な設定権があるユーザは、共有収集を削除できます。制限付き設定権があるユーザまたは設定権がないユーザは、自分のプライベート収集のみを削除できます。ただし、共有収集の表示はできません。

イベント収集を削除するには、次のように操作します。

1. [システムおよびイベント]パネルでカスタマイズをクリックします。[収集のカスタマイズ]ページが表示されます。
2. [表示]ドロップダウン リストで、[イベント]を選択してください。使用できるすべてのイベント収集が表示されます。++ をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を展開するか、-- をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を折り畳みます。
3. 削除する収集を選択します。
4. 削除をクリックします。ダイアログ ボックスが表示されます。削除を続けるには、OK をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。選択された収集が空でないか、タスクによって使用されていると、エラー メッセージが表示されます。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection** コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から既存の収集を削除できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- イベント収集の編集
- イベント収集の作成
- イベント収集のプロパティの設定

関連トピック



- システム、クラスタ、イベントの監視

- イベント収集のカスタマイズ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

イベント収集のプロパティの設定

収集のプロパティを設定するには、次の手順を実行します。[システムおよびイベント]パネルで収集を表示するかしないか、およびデフォルト ビューを選択することを選択することができます。

イベント収集のプロパティを設定するには、次のように操作します。

1. [システムおよびイベント]パネルでカスタマイズをクリックします。[収集のカスタマイズ]ページが表示されます。
2. [表示]ドロップダウン リストで、[イベント]を選択してください。使用できるすべてのイベント収集が表示されます。  をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を展開するか、  をクリックしてテーブル内のすべてのイベント収集を折り畳みます。
3. 収集を選択して、プロパティ設定をクリックします。[プロパティ設定]セクションが表示されます。
4. [表示]の下で、[はい、システムおよびイベントにアイテムを表示します]または[いいえ、システムおよびイベントにアイテムを表示しません]を選択します。使用されない収集がある場合は、[いいえ、システムおよびイベントにアイテムを表示しません]を選択して、それらが[システムおよびイベント]パネルに煩雑に表示されないようにすることができます。
5. [デフォルト ビュー]フィールドで、ドロップダウン リストからデフォルト ビューを選択します。[ツリー ビュー]、[テーブル ビュー]、および[アイコン ビュー]から選択してください。各ビューの詳細については、「[システムおよびイベント]パネルのナビゲート」を参照してください。

コマンド ライン インタフェース

完全な設定権があるユーザ完全な設定権があるユーザは、**mxcollection**コマンドを使用してコマンド ライン インタフェース (CLI) から収集のプロパティを設定できます。

このコマンドの詳細が記載されているマンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- イベント収集の編集
- イベント収集の作成
- イベント収集の削除

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- イベント収集のカスタマイズ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

システム テーブル ビュー ページ

完全な設定権があるユーザは、すべての共有システム収集をシステム テーブル ビュー ページから管理できます。ユーザは、自分のプライベート収集をこのページから管理することもできます。ユーザは、以下を実行できます。

- リストの保存。 詳細については、「収集の保存」を参照してください。
- データベースからのシステムの削除。 削除するシステムを選択し、削除をクリックします。ダイアログ ボックスが表示されます。システムを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。
- システム収集結果の印刷。 収集結果を印刷するには、印刷をクリックします。[ファイル]>[印刷]を選択してください。
- ビューのカスタマイズ。 表示する列と表示順序をカスタマイズするには、カスタマイズをクリックします。詳細については、「システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ」を参照してください。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのシステムの削除
- システム収集レポートの印刷

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート
- システム ステータス タイプ
- ソフトウェア ステータス タイプ
- システム、クラスタ、イベントの監視

システム テーブル ビュー ページのナビゲート

システム テーブル ビュー ページは、共通条件を満たすシステムのリストであり、次のセクションに分割されています。

1. 結果表示
2. システム ヘルス ステータスの凡例
3. システム詳細情報
4. システム ビューの列
5. システム テーブル ビュー ページのボタン
6. ビューのカスタマイズ



このページでは、リスト、テーブル、またはツリーでのシステムの表示、システム収集の保存、システムの削除、システム収集の印刷ができます。

収集の結果が500メンバを超えると、最初の500項目が最初のページに表示され、その後は、後のページに500項目ずつ表示されます。あるページで選択されたシステムは、収集の別のページにナビゲートしても選択されたままになります。並べ替えのために列を選択すると、現在表示されているページの項目だけではなく、収集全体が並べ替えられます。

結果表示

このドロップダウン リストを使用して、結果を表形式で表示する[テーブル]、各システムの[H/W] (ハードウェア) ステータス アイコンと[システム名]のみを表示する[アイコン]、または各システムの[H/W]ステータス アイコンとシステム名をツリー形式で表示する[ツリー]を選択します。ツリー ビューの詳細については、「ツリー ビューのナビゲート」を参照してください。アイコン ビューの詳細については、「アイコン ビューのナビゲート」を参照してください。

システム ヘルス ステータスの凡例

凡例には、ステータスがクリティカル、メジャー、マイナー、正常、無効、不明になっている、ビュー内のシステム数が表示されます。システムのステータス タイプの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。

システム詳細情報

システムのシステムビューまたはピクチャービューにアクセスするには、[システム名]列のリンクをクリックします。ラックはラック ピクチャー ビュー ページに、エンクロージャはエン

クロージャ ピクチャー ビュー ページに、それぞれリンクしています。これらは、どちらもコンテナ ビューのタイプです。詳細については、「システム名」を参照してください。

システム テーブル ビュー ページは、以下のようなさまざまな方法で表示できます。

- **[ホーム]**ページには、ユーザが設定した収集の結果が表示されます（設定した場合）。デフォルトでは、この収集は[すべてのサーバ]です。
- **[システムおよびイベント]**パネルから**[システム概要]**をクリックし、リンクされている数字をクリックします。
- **[システムおよびイベント]**パネルから**[システム]**をクリックし、既存の収集をクリックします。

収集を選択すると、システム名、ソフトウェア ステータス、ハードウェア ステータス、システム タイプ、IPアドレス、製品モデル、および収集内で参照される条件に対応する列が表示されます。たとえば、メモリ状態を含めると、システム テーブル ビュー ページには**[メモリ]**列が含まれます。

システム ビューの列

列を並べ替えるには、列見出しをクリックして昇順か降順に並べ替えます。列名の上にカーソルを重ねると、列の簡潔な説明が表示されます。アイコン ビューを選択していると、列は使用できません。以下を参照してください。

- 選択
- システム名
- ヘルス ステータス
- 管理プロセッサ
- ソフトウェア ステータス
- ProLiant Essentials Performance Management Pack
- HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack
- HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack
- システム タイプ
- オペレーティング システム名
- システム アドレス
- 製品名

列のカスタマイズの詳細については、「システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ」を参照してください。

選択

システムを選択するには、この列のチェックボックスをオンにします。複数のシステムを選択できます。このオプションは、テーブル ビュー、ツリー ビュー、およびアイコン ビューで利用できます。表示するシステムをすべて選択または選択解除するには、列見出しのチェックボックスを選択します。

システム名

この列には、検出されたすべてのシステムの実際のシステム名が含まれます。システムは、単一システムまたはコンテナ内のシステムとして表示されます。カーソルをシステム名の上に置くと、フル システムドメイン ネーム サービス (DNS) 名が表示されます。これは、同じシステム名を共有する、複数のシステムを区別する場合に役立ちます。システム名リンクをクリックすると、**[システム ページ]**が表示されます。詳細については、「システム ページ」を参照し

てください。コンテナ(ラックまたはエンクロージャ)であるシステムをクリックすると、そのオブジェクトのピクチャービューが表示されます。詳細については、「ピクチャービューページのナビゲート」を参照してください。

[システム名]列には、システムと関連デバイスが表示されます。以下に、HP Systems Insight Managerで利用できる関係を示します。

- 管理プロセッサとサーバ
- サーバとエンクロージャ
- 管理プロセッサとエンクロージャ
- エンクロージャとラック
- スイッチとエンクロージャ
- システムとクラスタ

以下のシステム タイプはコンテナです。

- ラック
- エンクロージャ
- クラスタ

ラックとエンクロージャのサーバと管理プロセッサが検出かつ識別されると、システムと、システムが設置されているラックとエンクロージャが関連付けられます。この関係は、「システムタイプ」「コンテナ名」で「名前」を表示すると、システム テーブル ビュー ページの[システム名]列に表示されます。

[システム名]列でエンクロージャ名をクリックすると、そのエンクロージャ内で検出されたすべてのシステムのリストが表示されます。ラックとエンクロージャの両方のステータスは、常に[不明]です。

ブレード エンクロージャ内のスイッチが検出かつ識別されると、スイッチと、スイッチが設置されているエンクロージャが関連付けられます。この関係は、エンクロージャ「enclosure_name」で「switch_name」を表示すると、システム テーブル ビュー ページの[システム名]列に表示されます。[システムタイプ]列には、システムタイプとしてスイッチが表示されます。HP Systems Insight ManagerでHP ProLiant p-Classサーバ ブレードを正しく識別して管理するには、関連付けが正しく動作し、イベントの相互関連が正しく動作する条件を満たすために、HP Insightマネジメント エージェントのバージョン5.50以降をブレードにインストールする必要があります。

サーバブレードが同じラックまたはエンクロージャ内の別のシステムを通じて識別されると、iLOと、iLOが設置されているエンクロージャが関連付けられます。この関係は、エンクロージャ「enclosure_name」で先頭に「Server」を追加したシステム シリアル番号を表示すると、システム テーブル ビュー ページの[システム名]列に表示されます。たとえば、エンクロージャ「Encl4」内の「Server_C349KJP5D876」のようになります。これらのシステムについては、システム アドレス、製品名、およびオペレーティング システムは表示されません。

HP Serviceguard Managerを起動してHP Serviceguardクラスタに含まれるサーバを管理する場合は、以下の条件が満たされていることを確認してください。

- HP Serviceguard Managerがインストールされ、HP Systems Insight Managerに登録されていること

- 選択されたシステムがHP Serviceguardクラスタに含まれるHP-UXまたはLinuxサーバであること

ヘルス ステータス

ヘルス ステータス列（HSで示される）には、全体的なシステム ヘルス ステータスが表示されます。ステータスは、デフォルトのハードウェア ステータス ポーリング タスクによって判断されます。この列のステータス アイコンをクリックすると、**[HPマネジメント エージェント]** または**[HP Instant Tootools for Servers]**ページが表示されます。システムにWebエージェントまたはInstant Tootoolsがインストールされていない場合は、**[システム ページ]**が表示されます。詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。

表示されるコンテナシステムのハードウェア ステータス（Serviceguardや複合体など）は、コンテナ自体の実際のハードウェア ステータスです。クラスタの場合は、pingステータスです。

管理プロセッサ

管理プロセッサ列（MPで示される）には、システムに内蔵Lights-Outボード（iLO）が取り付けられている場合に、管理プロセッサのステータス アイコンが表示されます。そうでない場合は、情報アイコンが表示されます。ステータス アイコンをクリックすると、その管理プロセッサの**[システム ページ]**が表示されます。

ソフトウェア ステータス

ソフトウェア ステータス列（SWで示される）は、サーバ専用で、ソフトウェア更新の状況とその深刻度が表示されます。ソフトウェアのステータス タイプの詳細については、「ソフトウェア ステータス タイプ」を参照してください。

ステータスが不明の場合にステータスがクリックされると、HP Systems Insight Managerには**[バージョン コントロール]**ページが表示されます。

HPバージョン コントロール エージェントがシステムにインストールされている場合、そのシステムのソフトウェア ステータス アイコンをクリックすると、**[HPバージョン コントロール エージェントソフトウェア インベントリ]**ページが表示されます。システムにバージョン コントロール エージェントがインストールされていない場合、カーソルをステータス アイコンに重ねると、「VCエージェントが設定されていません」というメッセージが表示されます。

ProLiant Essentials Performance Management Pack

ProLiant Essentials Performance Management Pack（PMP）のステータス列（PFによって示される）には、システムで監視されているすべてのサブシステムの全体的なパフォーマンスが表示されます。この列のステータス アイコンをクリックすると、選択したシステムの**[ProLiant Essentials Performance Management Pack]**ページが表示され、さらに詳細なパフォーマンス情報が表示されます。

注記:



HP Systems Insight ManagerシステムにPMPがインストールされていない場合、システム テーブル ビュー ページにこの列は表示されません。

PMPがサーバを監視していない場合、ステータスは不明です。ステータスリンクをクリックすると、PMPでは、そのシステムを監視するライセンスの購入に関する情報のページが表示されるか、そのシステムではPMP監視がサポートされていないというメッセージが表示されます。

注記:



[PF]列では、[すべてのサーバ]リストから、すべてのシステムのステータスが表示されます。ステータスが何らかの理由で判定できなかった場合、ステータスは不明に設定されます。

HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack

Vulnerability and Patch Management Packの脆弱性情報は、HP Systems Insight Managerコンソールの[VPM]列に表示されます。最初は、この列に示されるアイコンによって、特定の行のターゲットシステムに関するVulnerability and Patch Management Pack適格情報が表示されます。ターゲットサーバにライセンスが付与され、脆弱性スキャンが実行されると、列には、ターゲットシステムで最後に実行された脆弱性スキャンの統合ステータスが表示されます（パッチステータスは列には表示されません）。アイコンをクリックすると、Vulnerability and Patch Management Packに関する[システムステータスの詳細情報]が表示されます。正常、マイナー、またはメジャーアイコンをクリックすると、最後に実行されたシステムのスキャンの結果にアクセスできる新しい情報ページが開きます。このページからは、新しいスキャンを実行することもできます。システムの「不明」アイコンをクリックすると、Vulnerability and Patch Management Packに関する可能性のある理由を示す説明ページが表示されます。

注記:



HP Systems Insight ManagerシステムにVulnerability and Patch Management Packがインストールされていない場合、システムテーブルビューページの[VPM]列に情報アイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、Vulnerability and Patch Management Packのインストール方法とライセンスの購入方法に関する情報が表示されます。

システムにライセンスが付与されていないか、まだシステムがVulnerability and Patch Management Packによってスキャンされていない場合は、情報アイコンが[VPM]列に表示されます。このアイコンをクリックすると、ターゲットシステムのライセンス取得の詳細情報と、HP Systems Insight Managerライセンスマネージャへのリンクが表示されるか、または脆弱性スキャンに関する情報と、ターゲットシステムでパッチ脆弱性をスキャンするためのリンクが表示されます。

注記：日本語OS上では、VPMの機能は現在サポートされていません。

HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack

HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) のステータス列([VMステータス]で示される)には、すべての仮想マシンホストおよび仮想マシンゲストの全体的なステータスが表示されます。[VMステータス]列のステータスアイコンをクリックすると、選択したシステムの[HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack]ページが表示され、仮想マシンのステータスに関する詳細情報が表示されます。

注記:

HP Systems Insight ManagerシステムにVMMがインストールされていない場合、[すべてのシステム]システム テーブルビュー ページにこの列は表示されません。同様に、HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Packがインストールされていない場合、HP Systems Insight Managerコンソールで**[VMステータス]**は更新されなくなります。

タイプがサーバであり、サブタイプが仮想マシン ホストまたは仮想マシン ゲストであるシステムの場合、HP Systems Insight Managerでは、**[VMステータス]**列に適切なステータス アイコンを埋め込みます。詳細については、「VMステータスの種類」を参照してください。

システム タイプ

この列には、サーバやデスクトップなど、システム タイプが表示されます。システム タイプが「非管理」の場合、Simple Network Management Protocol (SNMP)、Webベース エンタープライズ管理 (WBEM)、デスクトップ管理インタフェース (DMI)、SSH (Secure Shell) などの管理プロトコルがHP Systems Insight Managerで検知されなかったことを意味します。システム タイプが「不明」の場合、管理プロトコルは検知されたが、HP Systems Insight Managerの識別ルールには一致しないことを意味します。さまざまなシステム タイプの詳細については、「システム タイプ」を参照してください。

注記:

非管理対象システムは、システムと通信するための証明書が適切に設定されていないことを示す場合があります。HP Insightマネジメント エージェントがインストールされていることが分かっている場合は、使用されている証明書を確認してください。

オペレーティング システム名

オペレーティング システム列 ([OS名]で示される) には、システムのオペレーティング システムが表示されます。Serviceguardクラスタでは、この列には、クラスタがHP-UXタイプの場合は**[HP Serviceguard]**が表示され、クラスタがLinuxタイプの場合は**[HP Serviceguard for Linux]**が表示されます。仮想クラスタ システム列の**[OS名]**列の下に**[HP Serviceguard]**および**[HP Serviceguard for Linux]**は、実際のオペレーティング システム名とタイプを表していません。このフィールドは、クラスタを構成しているサーバが、それぞれ、HP-UXタイプかLinuxタイプかを示すために使用されます。

システム アドレス

この列には、HP Systems Insight Managerがシステムと通信するために使用するシステムのプライマリIPアドレスが表示されます。HP Serviceguardクラスタなどを含め、すべてのシステムがIPアドレスを持っているわけではありません。

製品名

この列には、システムの製品名が表示されます。

システム テーブル ビュー ページのボタン

システム テーブル ビュー ページの下部には、3つのボタンがあります。完全な設定権があるユーザが、このボタンを使用できます。ツールの使用時に個々のターゲット システムを選択した場合、これらのボタンは使用できません。

- 名前を付けて選択を保存。強調表示されている1つのシステムがあり、選択内容を新しい名前で保存する場合に、このボタンを使用します。変更内容は、ユーザごと、あるいは収集ごとに保存されます。詳細については、「収集の保存」を参照してください。
- 削除。このボタンは、1つ以上のシステムをデータベースから削除する場合に使用します。削除するシステムを選択し、削除をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。削除を続けるには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。詳細については、「データベースからのシステムの削除」を参照してください。

注記:



VMホストが削除されてもVMMコンソールからは依然としてそのホストにアクセスできますが、VMホストで実行できる操作は、HP Systems Insight Managerシステムが削除されているので無効です。VMMコンソールは、HP Systems Insight Managerのステータスを表示しつづけます。

- 印刷。レポートが表示されたら、ブラウザのメニューから[ファイル]>[印刷]をクリックし、レポートを印刷します。

注記:

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- [印刷]ダイアログ ボックスでは、[印刷の向き]を[横]に変更することができません（この問題の回避方法については、「トラブルシューティング」の印刷の問題を参照してください）。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルに印刷できません。
- 選択されたシステムに関する情報が印刷できず、システムのリスト全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、システム テーブル ビュー ページは印刷されません。



ユーザに適切な権限がない場合、ボタンは無効になります。ただし、印刷ボタンはどのユーザに対しても表示されます。

ビューのカスタマイズ

システム テーブル ビュー ページの右上には、カスタマイズ リンクがあります。表示する列と表示順序を決めるには、このリンクをクリックします。詳細については、「システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- 収集の保存
- データベースからのシステムの削除
- システム収集レポートの印刷

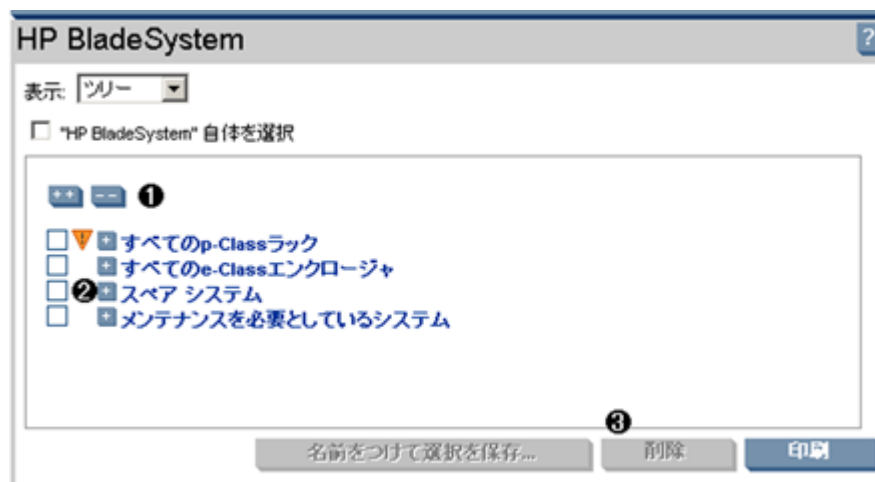
関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- システム テーブル ビュー ページ
- システム ステータス タイプ
- ソフトウェア ステータス タイプ
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート



ツリー ビューのナビゲート

[システムおよびイベント]パネルにおいて、またはシステム テーブル ビュー ページやイベント テーブル ビュー ページから、収集を選択すると、作業領域にツリー ビューが表示されます。ツリー ビューは、最初は折り畳まれています。システムは、複数のコンテナに存在する場合がありますので、複数の位置に表示されることがあります。ユーザは、参照権限があるシステムだけを表示できます。このため、ツリーに含まれる特定のシステムの参照権限がないと、そのブランチは表示されません。ツリー ビュー ページでは、以下のセクションを使用できます。

1. ツリー ビューの展開
2. ツリー ビューのステータス
3. ツリー ビューのボタン



ツリー ビューの展開

ブランチノードは、展開切り替えアイコンをクリックすると展開されます。ただし、システム名は、展開コントロールではなく、ドリルダウンです。ブランチが折り畳まれている場合、アイコンは、のように表示されます。クリックすると、ブランチが展開され、子システムが表示されて、アイコンは、に変わります。アイコンをもう一度クリックすると、ブランチが折り畳まれて、アイコンが元に戻ります。

注記:





展開状態は、ページ セッションの間だけ維持されます。ページを再ロードしたり、ページにナビゲートしなおしたりすると、ツリーが更新されます。これにより、新たに検出されたすべてのシステムがビューに確実に追加されます。

注記:



ツリー ブランチの展開は、[システムおよびイベント]パネルと作業領域では異なります。[システムおよびイベント]パネルでは、アイコンまたはブランチラベルをクリックするとブランチが展開されます。作業領域では、システム名をクリックするとドリルダウン機能が起動するので、アイコンをクリックすることでしかブランチを展開できません。

ブランチではページング機能が提供されます。ブランチが展開している場合、最初の100システムが表示されます。それ以上のシステムを表示するには、[次のページ]をクリックします。このリンクをクリックすると、残りのシステムが、最大100システム表示されます。次のページにシステムが1つだけ残っている場合は、単に、ページに、[次]リンクの代わりに追加されず。

各ツリー ビューの上部には、2つの展開ボタンが表示されます。ツリーのすべてのブランチを展開するには、をクリックします。ツリーのすべてのブランチを第1レベルのブランチに折り畳むには、をクリックします。システムの数が多すぎて、すべてのブランチを展開したページにロードできない場合は、ツリーに含まれるシステムが多すぎるために機能を実行できないことを示すポップアップ メッセージが表示されます。

ツリー ビューでの選択

次のチェック アイコンを使用すると、ツリー ビューの選択コントロールが順番に4つの状態に変化します。



最初の（初期）状態です。何も選択されていません。



2番目の状態です。コンテナと内容の両方が選択されています。内容がまだ展開されていない場合は、次のレベルの子項目が展開され、選択されていることが示されます。



3番目の状態です。すべての内容が再帰的に選択されています。子項目が展開され（まだ展開されていない場合）、選択されていることが示されます。次のレベルだけが展開されます。



4番目の状態です。コンテナだけが選択されています。

ツリー ビューのステータス

ツリー ビューは、各システムのステータス データを表示します。ステータス アイコンは、ツリー ビューの左側の、選択チェックボックスの横にあります。システムのステータスは不明の場合は、ステータス アイコンが表示されません。システムがコンテナの場合、ステータスは、コンテナ名の左に、コンテナに含まれるシステムの最も重要なステータスとして表示されます（コンテナのステータスを含みます）。コンテナ自体のステータスは、システム名の右に、システム タイプ ラベルとともに表示されます。

使用可能なドリルダウン

ツリー ビューには、システム名のハイパーリンクとステータス アイコンのドリルダウンが含まれています。システム名をクリックすると、そのシステムの[システム ページ]が表示されます。ステータス アイコンは、コンテナの左にあるステータス アイコンでなければ、そのシステムのステータスURLへのドリルダウン機能を備えています。ブランチのロールアップ ステータスをクリックすると、そのロールアップステータスに一致するそのブランチのすべてのシステムのテーブル ビューがロードされます。これにより、そのロールアップ ステータスの深刻度の原因となっているすべてのシステムが示されます。

収集の選択状態

ツリー ビューでは、収集とその収集のメンバを同時に選択することはできません。収集が選択されている場合は、メンバが表示されますが、その選択ボックスは無効になっています。収集の選択状態は、次のとおりです。



初期状態です。何も選択されていません。



収集自体は選択されていますが、収集の内容は無効になっています。



収集のメンバは選択されていますが、収集自体は選択されていません。

また、ツリーの上部にあるチェックボックスを使用すると、表示されている収集を選択することができます。チェックボックスを選択すると、収集の下すべてのチェックボックスの選択が解除され、無効になります。チェックボックスの選択を解除すると、収集の下チェックボックスが選択可能になります。

ツリー ビューのボタン

ツリー ビュー ページの下部には、3つのボタンがあります。完全な設定権があるユーザが、このボタンを使用できます。

- 名前を付けて選択を保存。選択されている1つのシステムまたはシステム グループがあり、選択内容を新しい名前で保存する場合に、このボタンを使用します。変更内容は、ユーザごとに保存されます。詳細については、「収集の保存」を参照してください。
- 削除。このボタンは、1つ以上のシステムをデータベースから削除する場合に使用します。削除するシステムを選択し、削除をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。削除を続けるには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。ツリー ビューが更新されます。詳細については、「データベースからのシステムの削除」を参照してください。

注記:



ツリー ビューからは、システムだけを削除できます。収集が選択されていると、削除ボタンが無効になります。収集は、[収集のカスタマイズ]ページから削除してください。収集の削除の詳細については、「システム収集またはクラスタ収集の削除」を参照してください。

注記:



VMホストが削除されてもVMMコンソールからは依然としてそのホストにアクセスできますが、VMホストで実行できる操作は、HP Systems Insight Managerシステムが削除されているので無効です。VMMコンソールは、HP Systems Insight Managerのステータスを表示しつづけます。

注記:



["<収集名>" 自体を選択] を選択することによって収集を選択すると、削除ボタンが無効になります。収集を削除するには、[収集のカスタマイズ]ページにアクセスします。詳しくは、「システム収集またはクラスタ収集の削除」か「イベント収集の削除」を参照してください。

- 印刷。印刷可能バージョンのツリーを表示するには、印刷をクリックします。ブラウザからツリーを印刷する場合は、[ファイル]>[印刷]を選択します。

ユーザに適切な権限がない場合、ボタンは無効になります。ただし、印刷ボタンはどのユーザに対しても表示されます。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート

アイコン ビューのナビゲート

アイコン ビューでは、検出されるすべてのシステムのシステム名が、各システムのシステムヘルスステータスとともに示されます。凡例には、ステータスがクリティカル、メジャー、マイナー、正常、無効、不明になっている、ビュー内のシステム数が表示されます。システムを選択するには、システム名の横のチェックボックスを選択します。複数のシステムを選択できます。収集全体を選択する場合は、「<収集名>」自体を選択チェックボックスを選択します。このページには、以下のセクションが含まれています。

1. 結果表示
2. システムヘルスステータスの凡例
3. アイコンビューのボタン



結果表示

このドロップダウンリストを使用して、結果を表形式で表示する[テーブル]、各システムの[H/W]（ハードウェア）ステータスアイコンと[システム名]のみを表示する[アイコン]、または各システムの[H/W]ステータスアイコンとシステム名をツリー形式で表示する[ツリー]を選択します。ツリービューの詳細については、「ツリービューのナビゲート」を参照してください。システムテーブルビューの詳細については、「システムテーブルビュー ページのナビゲート」を参照してください。

システムヘルスステータスの凡例

凡例には、ステータスがクリティカル、メジャー、マイナー、正常、無効、不明になっている、ビュー内のシステム数が表示されます。システムのステータスタイプの詳細については、「システムステータスタイプ」を参照してください。

アイコンビューのボタン

アイコンビューページの下部には、3つのボタンがあります。完全な設定権があるユーザが、このボタンを使用できます。

- 名前を付けて選択を保存。選択されている1つのシステムまたはシステムグループがあり、選択内容を新しい名前で保存する場合に、このボタンを使用します。変更内容は、ユーザごとに保存されます。詳細については、「収集の保存」を参照してください。
- 削除。このボタンは、1つ以上のシステムをデータベースから削除する場合に使用します。削除するシステムを選択し、削除をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。削除を続けるには、OKをクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。アイコンビューが更新されます。詳細については、「データベースからのシステムの削除」を参照してください。

注記:

VMホストが削除されてもVMMコンソールからは依然としてそのホストにアクセスできますが、VMホストで実行できる操作は、HP Systems Insight Managerシステムが削除されているので無効です。VMMコンソールは、HP Systems Insight Managerのステータスを表示しつづけます。

注記:

["<収集名>"自体を選択]を選択することによって収集を選択すると、削除ボタンが無効になります。収集を削除するには、[収集のカスタマイズ]ページにアクセスします。詳しくは、「システム収集またはクラスタ収集の削除」か「イベント収集の削除」を参照してください。

- 印刷。印刷可能バージョンのツリーを表示するには、印刷をクリックします。ブラウザからアイコン ビューを印刷する場合は、[ファイル]>[印刷]を選択します。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- ツリー ビューのナビゲート
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート

ピクチャー ビュー ページのナビゲート

システム テーブル ビュー ページの[システム名]列からコンテナを選択すると、[ピクチャー ビュー]ページが表示されます。表示されるコンテナ ビュー ページは、選択したコンテナのタイプによって決まります。たとえばラックを選択すると、[ラック ビュー]ページが表示されます。コンテナ収集ビューのタイプは、次のとおりです。

- ラック ビュー ページ
- エンクロージャ ビュー ページ

ラック ビュー ページ

ラックとエンクロージャのピクチャー ビュー ページには、ラック内またはエンクロージャ内で検出されたシステム（存在する場合）の図が含まれます。ラックのピクチャービュー、テーブル ビュー、またはアイコン ビューとともに、ラック名が表示されます。HP Systems Insight Managerにログインして、ビューに表示されるサーバの上にカーソルを重ねると、サーバ ブレード名、スロット番号、サーバが配置されているエンクロージャなど、そのサーバに関する情報が表示されます。サーバ名をクリックして、サーバに関する情報を表示することもできます。[システム ページ]が表示されます。

エンクロージャ ビュー ページ

エンクロージャのピクチャービューページには、エンクロージャ内で検出されたシステム（存在する場合）の図が含まれます。エンクロージャのピクチャー ビュー、テーブル ビュー、またはアイコン ビューとともに、エンクロージャ名が表示されます。HP Systems Insight Manager

にログインして、ビューに表示されるサーバの上にカーソルを重ねると、サーバブレード名、スロット番号、サーバが配置されているエンクロージャなど、そのサーバに関する情報が表示されます。サーバ名をクリックして、サーバに関する情報を表示することもできます。[システム ページ]が表示されます。

ラックとエンクロージャのピクチャー ビューには、以下のシステムが表示されます。

- デスクトップのサーバ
- インターコネクト スイッチ
- パワー サプライ エンクロージャ

また、エンクロージャのピクチャー ビューには、サーバやデスクトップが識別されず、相互接続スイッチが識別されていないスロットも表示されます。

ビューのカスタマイズ

ピクチャー ビュー ページの表示方法を変更できます。[表示方法]ドロップダウン ボックスの下向き矢印をクリックし、[テーブル]、[アイコン]、[図]のうちのいずれかを選択してください。ただし、システム テーブルビュー ページでラック名かエンクロージャ名をクリックして、ラックかエンクロージャを調べた後でテーブル表示またはアイコン表示に戻った場合は、ピクチャービューのみを使用できます。ラックまたはエンクロージャを調べると、そのラックかエンクロージャに関係するもののみに、システムが制限されます。この場合、別のビュータイプに切り替えたり、元に戻したりすることができます。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート

管理プロセッサについて

HP Systems Insight Managerでは、管理プロセッサの識別にHTTPとSNMPが使用されます。前バージョンのHP Systems Insight Managerは、SNMP識別だけを使用して管理プロセッサを識別し、そのステータスを取得していました。現在は、HTTP識別が最初に行われ、続いてSNMP識別が行われます。サーバに新しい管理プロセッサをインストールした場合は、サーバにWebエージェントを再インストールする必要があります。再インストールしないと、管理プロセッサが正しく識別されない場合があります。サーバと管理プロセッサの両方が検出され、識別されると、両者の関係が確立されます。管理プロセッサとサーバの関係は、サーバ「システム」で「管理プロセッサ」を表示することによって、システム テーブル ビュー ページの[システム名]列に表示されます。

SNMPステータス ポーリングでは、ホスト サーバのステータスが取得されます。HP Systems Insight Managerでは、次の管理プロセッサ製品を区別できます。

- リモートInsightボードPCI
- リモートInsightボードEISA
- リモートInsightボードLights-Out Edition (RLOE)

システム テーブル ビュー ページには、管理プロセッサに関する情報が表示されます。

- サーバ エントリの[MP]列には、[ステータス]アイコンが表示されます。アイコンのツールヒントには、管理プロセッサのステータスが表示されます。このアイコンをクリックすると、[リモートInsightホーム]ページが表示されます。
- 管理プロセッサ項目には、管理プロセッサが関連するサーバの名前が、サーバ「システム」の「管理プロセッサ」として表示されます。
- すべてのリモート管理プロセッサ項目の[システム タイプ]フィールドは[管理プロセッサ]を示し、[製品名]フィールドは[リモートInsightボード管理]を示します。

システム テーブル ビュー ページには、[MP]列があり、管理プロセッサのステータスが表示されます。7つの異なるステータス レベル（クリティカル、メジャー、マイナー、正常、警告、無効、および不明）があります。これらのステータスレベルアイコンは、ソフトウェアステータスで使用するステータス レベル アイコンと同じです。各ステータス タイプの詳細については、「ソフトウェア ステータス タイプ」を参照してください。

管理プロセッサ ステータス アイコンは、[リモートInsightホーム]ページを表示するために使用され、別のブラウザに表示されます。このページには、以下の情報が表示されます。

- 現在のユーザ
- サーバ名
- サーバの電源ステータス
- リモートInsightボードのIPアドレス
- リモートInsightボードの名前
- 最新のインテグレートド マネジメント ログ項目
- 最新のリモートInsightボード イベント ログ項目
- リモートInsightボードのマウス ケーブル

[システム名]列で管理プロセッサをクリックすると、その管理プロセッサの[システム ページ]が表示されます。詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。

サーバにリモートInsightボードが搭載されている場合、[システム ページ]には[管理プロセッサ]ボックスが表示されます。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート
- システム ページ
- システム タイプ

ラックとエンクロージャについて

HP Systems Insight Manager は、サーバ ブレード ラックとエンクロージャを検出し、識別します。

ラックとエンクロージャには、以下に示す2つの固有の検索条件があります。

- ラック
- エンクロージャ

この条件を使用して検索すると、選択したラックかエンクロージャに含まれるシステムのリストが返されます。上記の2つの条件以外のすべての条件では、ラックとエンクロージャ自体が返され、ラックやエンクロージャに含まれるシステムは返されません。たとえば、ラック **[Franklin 1]** の **[システム名]** 検索では、システム **[Franklin 1]** が返され、**[Franklin 1]** に含まれるシステムは返されません。

2つのデフォルト収集には、ラックとエンクロージャが関連しており、**[システム タイプ]** 収集の下にリストされます。

- すべてのラック
- すべてのエンクロージャ

システム テーブル ビュー ページでは、次の2つのフォーマットでラックが表示されます。

- 「ラック1」の「エンクロージャ1」
- 「ラック1」

いずれかのラックハイパーリンクをクリックすると、**[ピクチャー ビュー]** ページが表示されます。

システム テーブル ビュー ページの **[システム名]** 列でエンクロージャ名をクリックすると、そのエンクロージャ内で検出されたすべてのシステムのリストが表示されます。ラックとエンクロージャの両方のステータスは、常に**[不明]**です。

サーバがエンクロージャかラックの一部である場合は、**[ピクチャー ビュー]** ページが表示されます。このページには、エンクロージャ（および使用できる場合はラック）で検出されたシステムの図が表示されます。HP Systems Insight Managerにログインして、ビューに表示されるサーバの上にカーソルを重ねると、サーバブレード名、スロット番号、サーバが配置されているエンクロージャなど、そのサーバに関する情報が表示されます。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- ピクチャー ビュー ページのナビゲート

システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ

システム テーブル ビュー ページで表示する列と表示順序をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

システム テーブル ビュー ページをカスタマイズするには、次のように操作します。

1. システム テーブル ビュー ページでカスタマイズをクリックします。**[テーブル ビューのカスタマイズ]** ページが表示されます。
2. 表示する列を**[使用できる列]** ボックスで選択し、>>をクリックして、**[表示される列]** ボックスにその列を追加します。

3. 1つ以上の列を表示から削除するには、削除する列を[表示される列]ボックスから選択し、<<をクリックします。列が[使用できる列]ボックスに移動されます。
4. 特定の列で収集結果を並べ替えるには、[ソート]ドロップダウン リストから列を選択します。
5. [昇順]または[降順]を選択します。
6. すべてのシステム収集にカスタマイズを適用する場合は、[すべてのシステム テーブルビューに適用]を選択します。
7. 選択内容を保存し、システム テーブルビュー ページに戻るには、**OK**をクリックします。すべての変更内容をキャンセルしてシステム テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- データベースからのシステムの削除
- システム収集レポートの印刷

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート

データベースからのシステムの削除

1つ以上のシステムをHP Systems Insight Managerデータベースから削除するには、次の手順を実行します。

注記:



データベースから多くのシステムを一度に削除する場合、パフォーマンスに遅れが生じることがあります。

注記:



中央管理サーバ（CMS）は削除できません。

注記:



クラスタ メンバが含まれているクラスタは削除できません。クラスタ メンバが含まれているクラスタを削除するには、まず、[システムおよびイベント]パネルの[すべてのシステム]収集を選択して、システム テーブル ビュー ページにアクセスします。次に、クラスタとそのすべてのメンバを選択して、削除をクリックします。

システムを削除するには、次のように操作します。

1. システム テーブル ビュー ページの結果画面で、HP Systems Insight Managerデータベースから削除する1つ以上のシステムを選択します。
2. 削除をクリックします。「このシステムを削除しますか?」と確認するダイアログ ボックスが表示されます。
3. システムを削除するには、**OK**をクリックします。システムを削除せずにシステム テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

注記:



コンテナ（ラックなど）は、空の場合にのみ削除できます。ラックとそこに含まれるすべてのシステムを選択すると、エラーなしに動作します。

注記:



管理プロキシ（WMI Mapperプロキシ、SMI-Sプロバイダなど）を提供する一部のシステムは、依存システムもすべて削除されるまでは削除できません。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- システム収集レポートの印刷
- システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート

システム収集レポートの印刷

システム収集結果を印刷するには、次の手順を実行します。

システム収集結果レポートの表示と印刷を行うには、次のように操作します。

1. システム テーブル ビュー ページで印刷をクリックします。
印刷可能なウィンドウが表示されます。
2. レポートを印刷するには、印刷をクリックします。
3. レポートが表示されたら、ブラウザのメニューから[ファイル]>[印刷]をクリックし、レポートを印刷します。

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- [印刷]ダイアログ ボックスでは、[印刷の向き]を[横]に変更することができません。この問題の回避方法については、「印刷機能」を参照してください。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルへの印刷をキャンセルすることはできません。
- 選択されたシステムに関する情報が印刷できず、システムのリスト全体が印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、システム テーブル ビュー ページは印刷されません。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- データベースからのシステムの削除
- システム テーブル ビュー ページのカスタマイズ

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページのナビゲート

システム ステータス タイプ

HP Systems Insight Managerでは、次のヘルス ステータス タイプのうちいずれかがシステムの状態として表示されます。

❌ **[クリティカル]**。HP Systems Insight Manager が、システムとやり取りできなくなっています。このシステムは以前検出されていましたが、現在はpingできません。システムが停止しているか、電源が切れているか、ネットワークの問題のためにネットワーク経由でアクセスできません。

⚠ **[メジャー]**。このシステムに、ただちに処置が必要な重度の問題があります。HP Insight マネジメント エージェントを実行しているシステムの場合は、一部のコンポーネントで障害が発生しています。システムが正常に動作しておらず、データが消失している可能性があります。Insight マネージャ (Win32) では、このステータスは「障害」に分類されます。

⚠ **[マイナー]**。このシステムに、軽度の問題があります。Insight マネジメント エージェントを実行しているシステムの場合、一部のコンポーネントが故障していますがシステムはまだ機能しています。Insight マネージャ (Win32) では、このステータスは「劣化」に分類されます。

▲ **[警告]**。システムに潜在的な問題が存在するか、問題が発生する可能性のある状態になっています。

● **[正常]**。システムは正常に動作しており、アクセス可能です。

■ **[無効]**。システムは保留状態です。これにより、ステータスポーリング、識別、データ収集、および自動イベント処理からシステムを除外することができます。**[自動検出]**ページで、オプション**[内蔵Lights-Out管理プロセッサが検出されると、自動的にサーバブレードを検出します。]**を選択した場合、内蔵Lights-Out (iLO) を通じて検出された新規サーバ（たとえば、オペレーティングシステムもIPアドレスも分からない）は、システムがIPアドレスまたはオペレーティングシステムとともに検出されるまで、無効と表示されます。

❓ **[不明]**。中央管理サーバHP Systems Insight Managerは、SNMPまたはDMIを使用して、システムに関する管理情報を取得できません。管理関連情報は取得できませんが、システムに対してpingを実行できます。コミュニティ名またはセキュリティの設定が間違っている可能性があります。またはシステムに関連付けられていないIPアドレスの可能性もあります。

[ステータスなし]。システムの検出後、システムに対してポーリングタスクを実行していません。

① **[情報]**。システムの状態が変化しているところか、またはエラーではない状態が発生しています。

注記:



HP Insightマネジメント エージェント forサーバfor Windowsでは、「正常」、「劣化」、「障害」、「アクセス不能」という用語を継続して使用しています。**[マイナー]**ステータスと**[メジャー]**ステータスだけが、これらのエージェントを実行するシステムに関連付けられています。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ

WBEM動作ステータス タイプ

HP Systems Insight Managerは、ストレージやサーバの要素（ストレージ スイッチ ポートやメモリが取り付けられているメモリ スロットなど）のWBEM動作ステータスを報告します。利用できるステータスは次のとおりです。

- **✖ [Non-recoverable error]、[Lost communication]**。HP Systems Insight Managerが、要素とやり取りできなくなっています。
 - 「Non-recoverable」は、要素が故障しており、修復できないことを示しています。
 - 「Lost communication」は、要素が以前検出されていたが、現在は到達できないことを示しています。
- **▼ [PredictiveFailure]、[Error]、[Aborted]、[Supporting Entity in Error]**。このシステムに、ただちに処置が必要な重度の問題があります。

- 「Predictive Failure」は、要素が正常に動作しているが、近い将来に障害が発生する可能性があることを示しています。
- 「Error」は、要素がエラー状態になっていることを示しています。
- 「Aborted」は、要素の機能が突然停止したことを示しています。要素の設定を更新しなければならない可能性があります。
- 「Supporting Entity in Error」は、要素が正常に動作している可能性があるが、その要素が依存している要素がエラー状態になっていることを示しています。
- ⚠️ **[Degraded]、[Stressed]**。この要素に、軽度の問題があります。
 - 「Degraded」は、要素が最大限の性能で動作していないか、修復可能なエラーを報告している可能性があることを示しています。
 - 「Stressed」は、要素が正常に動作しているが、注意が必要であることを示しています。
- ✅ **[OK]**。要素は正常に動作しています。
- 🛑 **[In service]、[Stopped]**。要素は保留状態です。
 - 「In Service」は、要素が設定中であることを示しています。
 - 「Stopped」は、要素が停止したことを示しています。
- ❓ **[Unknown]、[No contact]**。要素に関する管理情報を取得できませんでした。
 - 「Unknown」は、要素のステータスを確認できないことを示しています。
 - 「No Contact」は、要素は存在するがHP SIMが一度も通信できなかったことを示しています。
- ⓘ **[Starting]、[Stopping]、[Dormant]、[Power Mode]、[Other]**。このステータスは、ポートに関する有益な情報を提供します。注意する必要はありません。
 - 「Starting」は、要素が起動したことを示しています。
 - 「Stopping」は、要素が停止したことを示しています。
 - 「Dormant」は、要素が非アクティブになっていることを示しています。
 - 「Other」は、追加の情報があるが、その情報が前に示したカテゴリに適合しないことを示しています。

関連トピック

- テープ ライブラリ 識別 タブ
- ストレージ スイッチ 識別 タブ

ソフトウェア ステータス タイプ

HP Systems Insight Managerでは、次のステータス タイプのうちいずれかがシステム ソフトウェアに含まれます。

- ▼ **[メジャー]**。このシステムには、重大なバグ修正を含む更新が提供されています。
- ⚠ **[マイナー]**。このシステムには、新しいハードウェア サポートやバグ修正を含む更新が提供されています。
- ✔ **[正常]**。システムのすべてのコンポーネントが、レポジトリと一致します。
- ☒ **[無効]**。システムが保留になっているため、ソフトウェア ステータスは利用できません。
- ℹ **[情報]**。中央管理サーバ (CMS) がシステムのHPバージョン コントロール エージェントに到達できないので、このシステムのステータスは不明です。
- ❓ **[不明]**。中央管理サーババージョン コントロール エージェントがバージョン コントロール レポジトリ マネージャとやり取りできません。

注記:

不明ステータスは、以下の状況で、サーバシステムの場合のみに表示されます。

- HPバージョン コントロール エージェントが管理対象サーバにインストールされていない場合。
- バージョン コントロール エージェントはサーバにインストールされているが、サーバとHP Systems Insight Managerの信頼関係が確立していない場合。
- ターゲット サーバ上のオペレーティングシステムがサポートされていない場合。サポートされているのは、WindowsおよびLinuxオペレーティングシステムです。
- ターゲット システムに正しいバージョンのエージェントがない場合。
- ターゲット サーバタイプのブランドがサポートされていない場合（サポートされているのは、HPまたはCompaqブランドのサーバのみです）。
- ターゲットシステムに、PMPによる監視のためのライセンスがない場合。ターゲット システムには、バージョン6.20かそれ以降のInsightマネジメントエージェントがインストールされなければなりません。
- ProLiant Essentials Performance Management Pack (PMP) が、システムについて、不確定のステータスをレポートする場合。



関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ

クラスタ テーブル ビュー ページ

クラスタ収集にアクセスするには、[システムおよびイベント]パネルパネルの[システム]をクリックします。完全な設定権があるユーザは、すべての共有クラスタ収集をクラスタ収集ビューから管理できます。ユーザは、自分のプライベート収集をこのページから管理することもできます。ユーザは、以下を実行できます。

- 収集の保存。 名前をつけて選択を保存をクラスタ テーブル ビュー ページからクリックします。
- クラスタの削除。 削除をクラスタ テーブル ビュー ページからクリックします。確認ボックスが表示されます。クラスタを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

注記:



クラスタ メンバが含まれているクラスタは削除できません。クラスタ メンバが含まれているクラスタを削除するには、まず、[システムおよびイベント]パネルの[すべてのシステム]収集を選択して、システム テーブル ビュー ページにアクセスします。次に、クラスタとそのすべてのメンバを選択して、削除をクリックします。

- クラスタ収集結果の印刷。 収集結果を印刷するには、印刷をクリックします。
- ビューのカスタマイズ。 表示する列と表示順序をカスタマイズするには、カスタマイズをクリックします。詳細については、「クラスタテーブルビューページのカスタマイズ」を参照してください。

関連プロシージャ

- クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのクラスタの削除
- クラスタ収集レポートの印刷
- 収集の保存

関連トピック

- クラスタ監視

クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート

クラスタ収集では、HP Systems Insight Managerデータベース内の情報に基づいて、クラスタが論理グループに分類されます。クラスタの論理グループを作成することによって、特定のクラスタ収集で表示されるクラスタの数が減ります。クラスタ監視は、クラスタ テーブル 表示 ページから、次の2つの方法で起動できます。

- [クラスタ名]列でクラスタの名前をクリック
- [クラスタ]列でクラスタ ステータス アイコンをクリック

注記:



クラスタ監視は、MSCSクラスタの情報（MSCSクラスタのグループ、リソースなど）を表示するMSCS専用ツールです。その他のすべてのクラスタ（HP Serviceguardクラスタを除く）については、**[クラスタ名]**列内のクラスタの名前または**[クラスタ]**列内のクラスタ ステータス アイコンをクリックすると、そのクラスタの**[システム ページ]**が表示されます。詳細については、「クラスタ名」および「クラスタ」を参照してください。

個別のメンバ選択または多数の検索条件を含む複合収集の実行には、多くのシステム リソースが必要です。個々のタスクのパフォーマンスの影響を最小にするためには、収集をできる限り単純にします。

注記:



すべてのユーザがすべてのクラスタを表示できるわけではありません。収集の結果は、収集を開始したユーザに割り当てられたクラスタによって異なります。それぞれのユーザは、完全な設定権があるユーザによって割り当てられたクラスタの表示のみが可能です。完全な設定権があるユーザは、ユーザ権限を使用して、管理対象クラスタを割り当てます。

クラスタ テーブル ビュー ページは、次のセクションに分かれています。

1. 表示
2. クラスタ ステータスの凡例
3. ビューのカスタマイズ
4. クラスタ収集の列
5. ボタン

詳細については、「新規認証の作成」を参照してください。

このページでは、新しい名前で収集を保存したり、1つ以上のクラスタを収集から削除したり、収集をカスタマイズしたり、クラスタ収集レポートを印刷したりすることができます。マルチユーザ環境では、一度にただ1人のユーザしか収集を編集できません。別のユーザが同じ収集を編集しようとする、[リスト編集警告]ボックスが表示されます。ユーザは、編集要求をキャンセルするか、収集を編集して新しい収集として保存することができます。

表示

このドロップダウン リストを使用して、結果を表形式で表示する[テーブル]、または収集に含まれるすべてのクラスタをツリー形式で表示する[ツリー]を選択します。ツリー ビューのナビゲーションの詳細については、「ツリー ビューのナビゲート」を参照してください。

クラスタ ステータスの凡例

ステータス凡例では、ステータスがクリティカル、メジャー、マイナー、正常、無効、不明になっているビュー内のクラスタ数が表示され、ビュー内のクラスタ数の合計も表示されます。

ビューのカスタマイズ

クラスタ テーブル ビュー ページの右上には、カスタマイズ リンクがあります。表示する列と表示順序を決めるには、このボタンをクリックします。詳細については、「クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ」を参照してください。

クラスタ収集の列

列を並べ替えるには、列見出しをクリックして昇順か降順に並べ替えます。列名の上にカーソルを重ねると、列の簡潔な説明が表示されます。列のカスタマイズの詳細については、「クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ」を参照してください。

- 選択
- クラスタ
- クラスタ名
- クラスタ アドレス
- クラスタ タイプ
- クラスタの詳細

選択

クラスタを選択するには、この列のチェックボックスをオンにします。1つ以上のクラスタを選択できます。このオプションは、テーブル ビューとツリー ビューの両方で利用できます。表示されるすべてのイベントを選択するには、イベントの列見出しのチェックボックスを選択します。

クラスタ

[クラスタ]列（クラスタステータスを表す）には、特定のクラスタごとのクラスタステータスアイコンが含まれます。このステータスは、すべてのクラスタメンバ、およびそのクラスタのクラスタ監視リソース（ディスク、CPUなど）で最も重大なステータスを反映します。このステータスは、システム テーブル ビュー ページに表示されるハードウェア ステータスやソフトウェア ステータスとは異なります。HP Serviceguardクラスタでは、クラスタ ステータスは不明に設定されます。Serviceguardクラスタ ステータスの正確な情報を表示するには、HP Serviceguard Managerを使用する必要があります。MSCSクラスタの場合、ステータスは、クラスタ監視に表示される最も重要なクラスタ ステータスです。このステータスは、HP Insight マネジメント エージェント（利用可能な場合）によって取得されるスレッシュホールド（CPU、ディスク）ステータスとクラスタ ノードのノード ステータスによって判定されます。その他のタイプのすべてのクラスタについては、ステータスは、Insightマネジメント エージェント（利用可能な場合）によって取得される最も重要なスレッシュホールド（CPU、ディスク）ステータスとクラスタ ノードのノード ステータスによって判定されます。

クラスタ名

[クラスタ名]列には、クラスタ名が含まれます。カーソルをクラスタ名の上に置くと、フル システムDNS名が表示されます。MSCSクラスタのクラスタ名をクリックすると、クラスタ監視 ページが表示されます。詳細については、「クラスタ監視」を参照してください。選択されたクラスタがHP Serviceguardクラスタの場合、クラスタ内のサーバを示す新しいクラスタ テーブル ビュー ページが表示されます。このリストから、サーバ名をクリックし、そのサーバの[システム ページ]にアクセスします。他のタイプのクラスタの場合は、そのクラスタの[システム ページ]が表示されます。詳細については、「クラスタ識別タブ」を参照してください。

クラスタ アドレス

[クラスタ アドレス]列には、クラスタのIPアドレスが含まれています。

注記:



HP Serviceguardクラスタは、IPアドレスを持っていません。このため、このタイプのクラスタについては、この列が空白になります。

クラスタ タイプ

[クラスタ タイプ]列には、クラスタのタイプが表示されます。サポートされているクラスタタイプには、以下のものが含まれます。

- MSCS
- OpenVMS
- UnixWare
- Novell NetWare
- Oracle RAC
- Tru64 UNIX
- HP Serviceguard

クラスタの詳細

[クラスタの詳細]列には、クラスタ タイプの説明が含まれます。HP Serviceguardクラスタには、**[HP Serviceguardクラスタ]**の説明が含まれます。

ボタン

このページの下部には、3つのボタンがあります。

- 名前を付けて選択を保存。クラスタが選択されている場合、選択内容を新しい名前で保存できます。変更内容は、ユーザごと、あるいは収集ごとに保存されます。詳細については、「収集の保存」を参照してください。
- 削除。このボタンは、クラスタをデータベースから削除する場合に使用します。データベースから削除するクラスタを選択し、削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。クラスタを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。詳細については、「データベースからのクラスタの削除」を参照してください。
- 印刷。レポートが表示されたら、ブラウザのメニューから[ファイル]>[印刷]をクリックし、レポートを印刷します。

注記:

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。



- [印刷]ダイアログ ボックスでは、[印刷の向き]を[横]に変更することができません(この問題の回避方法については、「印刷機能」の印刷の問題を参照してください)。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルに印刷できません。

- 選択されたクラスタに関する情報が印刷できず、クラスタのリスト全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、クラスタ テーブル ビュー ページは印刷されません。

ユーザに適切な権限がない場合、ボタンは無効になります。ただし、印刷ボタンはどのユーザに対しても表示されます。

関連プロシージャ

- クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのクラスタの削除
- 収集の保存
- クラスタ収集レポートの印刷

関連トピック

- クラスタ テーブル ビュー ページ
- クラスタ監視
- HP Serviceguard Managerの概要

クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ

クラスタ テーブル ビュー ページで、表示する列と表示順序をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

クラスタ テーブル ビュー ページをカスタマイズするには、次のように操作します。

1. クラスタ テーブル ビュー ページでカスタマイズをクリックします。[テーブル ビューのカスタマイズ]ページが表示されます。
2. 表示する列を[使用できる列]ボックスから選択し、>>をクリックして、[表示される列]ボックスにその列を追加します。
3. 1つ以上の列を表示から削除する場合は、削除する列を[表示される列]ボックスから選択し、<<をクリックします。列が[使用できる列]ボックスに移動し、表示されなくなります。
4. 特定の列でリストを並べ替えるには、[ソート]ドロップダウン リストから列を選択します。
5. [昇順]または[降順]を選択します。
6. すべてのクラスタ収集にカスタマイズを適用する場合は、[すべてのクラスタ テーブル ビューに適用]を選択します。
7. 選択内容を保存し、クラスタ テーブル ビュー ページに戻るには、**OK**をクリックします。すべての変更内容をキャンセルしてクラスタ テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- データベースからのクラスタの削除
- クラスタ収集レポートの印刷

関連トピック

- クラスタ テーブル ビュー ページ
- クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート

データベースからのクラスタの削除

1つ以上のクラスタをHP Systems Insight Managerデータベースから削除するには、次の手順を実行します。

注記:



HP Systems Insight Managerで定義されているクラスタ メンバが含まれているクラスタは削除できません。クラスタ メンバが含まれているクラスタを削除するには、まず、[システムおよびイベント]パネルの[すべてのシステム]収集を選択して、システム テーブル ビュー ページにアクセスします。次に、クラスタとそのすべてのメンバを選択して、削除をクリックします。

クラスタを削除するには、次のように操作します。

1. クラスタ テーブル ビュー ページの画面で、データベースから削除する1つ以上のクラスタをハイライトして選択します。
2. 削除をクリックします。「このシステムを削除しますか?」と確認するダイアログ ボックスが表示されます。
3. クラスタを削除するには、**OK**をクリックします。クラスタを削除せずにクラスタ テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- クラスタ収集レポートの印刷
- クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ

関連トピック

- クラスタ テーブル ビュー ページ
- クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート

クラスタ収集レポートの印刷

クラスタ収集レポートの表示と印刷を行うには、次の手順を実行します。

クラスタ収集結果レポートの表示と印刷を行うには、次のように操作します。

1. クラスタ テーブル ビュー ページから、レポートに含めるクラスタを選択します。
2. レポートを印刷するには、印刷をクリックします。
3. レポートが表示されたら、ブラウザのメニューから[ファイル]->[印刷]をクリックし、レポートを印刷します。

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- [印刷]ダイアログボックスでは、[印刷の向き]を[横]に変更することができません(この問題の回避方法については、「トラブルシューティング」の「印刷に関する問題」を参照してください)。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルに印刷できません。
- 選択されたクラスタに関する情報が印刷できず、クラスタのリスト全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、クラスタ テーブル ビュー ページは印刷されません。

関連プロシージャ

- クラスタ テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのクラスタの削除
- 収集の保存
- クラスタ収集レポートの印刷

関連トピック

- クラスタ テーブル ビュー ページ
- クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート

イベント テーブル ビュー ページ

[イベント]にアクセスするには、[システムおよびイベント]パネルの[イベント]をクリックします。完全な設定権があるユーザは、すべての共有イベント収集をイベント テーブル ビュー ページから管理できます。ユーザが、自分のプライベート イベント収集をこのページから管理することもできます。ユーザは、以下を実行できます。

- イベントを確認済みに変更。 クリアする1つ以上のイベントを選択し、確認済みをクリックします。
- イベントの削除。 削除する1つ以上のイベントを選択し、削除をクリックします。
- イベントの割り当て。 特定のユーザに割り当てる1つ以上のイベントを選択し、担当者をクリックします。
- イベントへのコメントの追加。 コメントを追加する1つ以上のイベントを選択し、コメントの入力をクリックします。
- イベント収集結果の印刷。 収集結果を印刷するには、印刷をクリックします。

- ビューのカスタマイズ。 表示する列と表示順序をカスタマイズするには、カスタマイズをクリックします。詳細については、「イベントテーブルビューページのカスタマイズ」を参照してください。

関連プロシージャ

- 収集からのイベントを確認済みに変更
- データベースからのイベントの削除
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベントに関するコメントの入力
- イベント収集レポートの印刷

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- システム、クラスタ、イベントの監視
- イベント深刻度の種類
- イベント詳細セクション

イベント テーブル ビュー ページのナビゲート

イベント テーブル ビュー ページは、共通条件を満たすイベントのリストです。たとえば、イベント テーブル ビュー ページから[イベント タイプ]を使用してイベント収集を開くと、同じイベントを生成しているシステムを表示できます。

イベント テーブル ビュー ページは、次のセクションに分かれています。

1. イベント ステータスの凡例
2. イベント収集の列
3. イベント詳細
4. イベント管理のボタン
5. ビューのカスタマイズ

すべてのイベント

イベントの詳細を表示する場合は、[イベント タイプ]の項目が表示されているのを確認したのち、目的のリンクをクリックしてください。

サマリー: 169 クリティカル ▼ 113 メジャー ▲ 37 マイナー ▲ 0 警告 ▲ 0 正常 ▲ 271 情報 合計: 590

1 ページを表示 (結果 1-500 / 590) 1/2

ステータス	イベント タイプ	システム名	イベント時刻	担当者	コメント
未確認	LSF Master Host	d38g3net.jp	05/06/28 15:07		
未確認	LSF MBATCHD Reconfig	d38g3net.jp	05/06/28 15:07		
未確認	Card Status Change	d38g3net.jp	05/06/28 15:07		
未確認	Service Condition Change	d38g3net.jp	05/06/28 15:07		
未確認	FibreChannel Device Status Change	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	EMUCDevice Manager Device Status Change	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	FibreChannel Device Status Change	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Generic Unregistered	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote Insight Battery Failed (9004)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Server Power Outage (9002)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight keyboard cable disconnected (9006)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Server Reset Detected (9001)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight/ Integrated LightsOut Unauthorized Login Attempts (9003)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight external power cable disconnected (9010)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight/ Integrated LightsOut Self Test Error (9005)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight/ Integrated LightsOut Interface Error (9006)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight mouse cable disconnected (9009)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	Remote insight Battery Disconnected (9007)	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	BusMonitorFallingThresholdTrap	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		
未確認	PortRxFramCongestionTrap	d38g3net.jp	05/06/28 15:06		

確認済み 削除 担当者... コメントの入力... 印刷

このページでは、イベントのクリア、イベントの削除、イベントの割り当て、イベントに関するコメントの入力、印刷可能レポートの表示を行うことができます。

イベント ステータスの凡例

凡例には、ビュー内の、ステータスがクリティカル、メジャー、マイナー、正常、情報であるイベントの数が表示されます。イベントのステータス タイプの詳細については、「イベント深刻度の種類」を参照してください。

イベント詳細

イベント収集は、以下の方法で表示できます。

- [システムおよびイベント]パネルからイベント収集をクリック
- [システム ステータス]パネルでイベント ステータス アイコンをクリック
- [システム ページ]から[イベント]リンクをクリック
- プライベート イベント収集をクリック
- [ステータス概要]ページの[未確認イベント]セクションでハイパーリンクをクリック

イベント収集は、権限に基づいてフィルタ処理されます。ユーザは、適切な権限があるシステムのイベントのみを表示できます。詳細については、「ユーザと認証」を参照してください。

HP Storage Essentialsがインストールされている場合は、このセクションのリンクから、HP Storage Essentialsの対応するイベント詳細を表示することができます。

イベント収集の列

特定の列で収集結果を並べ替えるには、列見出しをクリックして昇順か降順に並べ替えます。列名の上にカーソルを重ねると、列の簡潔な説明が表示されます。以下を参照してください。

- 選択
- 状態
- 深刻度
- イベント タイプ
- システム名
- イベント時刻
- 担当者
- コメント

選択

イベントを選択するには、この列のチェックボックスをオンにします。複数のイベントを選択できます。表示されるすべてのイベントの選択または選択解除を行うには、列見出しのチェックボックスを選択します。

状態

この列には、イベントが確認済み状態になっているかどうかが表示されます。イベントは、未確認状態から始まります。確認済み状態とは、ユーザがこのイベントに関心がなくなったことを表します。イベント状態には[進行中]も含まれます。[進行中]は、まだログに記録されていないイベント データがあることを示します。[進行中]状態のイベントは、削除することもクリアすることもできません。CMSを再起動すると、保留状態のイベントが未確認になります。

深刻度

この列にはイベント ステータス アイコンが表示され、イベントによって表現される問題の深刻度が表示されます。詳細については、「イベント深刻度の種類」を参照してください。

イベント タイプ

この列には、イベントのタイプが表示されます。イベント タイプの例としては、SNMPトラップ、ログイン障害、エージェント設定のレプリケート ツールのイベント タイプを挙げることができます。[イベントの詳細]セクションを表示するには、リストからイベント タイプを選択します。表示される情報は、イベントによって異なります。列のイベント タイプ全体が表示されない場合は、このフィールド上にカーソルを重ねます。ポップアップウィンドウに、イベント タイプ全体が表示されます。イベントの詳細については、「イベント詳細セクション」を参照してください。

システム名

この列には、イベントが発生したシステム名が表示されます。この列のリンクをクリックすると、選択されているシステムの[システム ページ]が表示されます。

ラックまたはエンクロージャ全体に影響するイベントが発生すると、そのラックまたはエンクロージャ内の複数のシステムが、そのイベントのトラップを生成する場合があります。これらのコンテナトラップは、ラックまたはエンクロージャトラップごとにイベントが1件のみログ

に記録されるようにフィルタリングされます。また、トラップのソースがサーバブレードまたは管理プロセッサの場合でも、HP Systems Insight Managerは、記録されるイベントのイベントソースと関連システムを、適宜、ラックまたはエンクロージャに設定します。ラックとエンクロージャの詳細については、「ラックとエンクロージャについて」を参照してください。

イベント時刻

この列には、CMSがこのイベントを受信したタイムスタンプ（日時を含む）が表示されます。クライアントがイベント時間（CMSの時間）とは異なるタイムゾーンにある場合、イベント時間はクライアントのタイムゾーンに変換されます。

担当者

イベントの権限をユーザに割り当てるには、ページの下部で担当者をクリックします。[担当者]セクションが表示されます。このセクションで、新しい担当者を選択して割り当てるか、既存の担当者を使用します。既存の担当者を使用する場合は、1つのユーザ名のみをリストから選択できます。ユーザ名には、システムで権限を持ったユーザやCMSにログイン可能なユーザの名前を指定する必要はありません。このフィールドは書式なしのテキストフィールドです。ユーザにイベントを割り当てる方法の詳細については、「ユーザへのイベントの割り当て」を参照してください。

コメント

この列には、このイベントのコメントが表示されます。コメントが入力されていない場合は空白です。列の幅より長いコメントは、切り取られます。必要な場合はイベントタイプをクリックし、コメント全体を表示します。コメントフィールドの上にカーソルを重ねると、ポップアップウィンドウにコメント全体が表示されます。詳細については、「イベントに関するコメントの入力」を参照してください。

イベント管理のボタン

このイベント テーブル ビュー ページの下部には、5つのボタンがあります。完全な設定権があるユーザのみが、このボタンを使用できます。このページをどこからアクセスしたかによっては、これらのボタンが表示されない場合もあります。たとえば、タスクを作成してターゲットを選択した場合、表がシステム名のみが表示され、ボタンは表示されません。

- **確認済み。**このボタンは、1つまたは複数のイベントをデータベースで確認済み状態にするために使用します。クリアするイベントを選択し、**確認済み**をクリックします。詳細については、「収集からのイベントを確認済みに変更」を参照してください。
- **削除。**このボタンは、1つ以上のイベントをデータベースから削除する場合に使用します。削除するイベントを選択し、削除をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。削除を続けるには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。詳細については、「データベースからのイベントの削除」を参照してください。
- **担当者。**このボタンは、イベントの権限を特定のユーザに割り当てる場合に使用します。詳細については、「ユーザへのイベントの割り当て」を参照してください。
- **コメントの入力。**1つ以上のイベントのコメントを入力するダイアログボックスが表示されます。詳細については、「イベントに関するコメントの入力」を参照してください。
- **印刷。**レポートが表示されたら、ブラウザのメニューから[ファイル]>[印刷]をクリックし、レポートを印刷します。

注記:

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。



- **[印刷]**ダイアログ ボックスでは、**[印刷の向き]**を**[横]**に変更することができません（この問題の回避方法については、「印刷機能」の印刷の問題を参照してください）。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルに印刷できません。
- 選択されたイベントに関する情報が印刷できず、イベントのリスト全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、イベント テーブルビュー ページは印刷されません。

ユーザに適切な権限がない場合、ボタンは無効になります。ただし、[印刷]ボタンはどのユーザに対しても表示されます。

ビューのカスタマイズ

イベント テーブル ビュー ページの右上には、カスタマイズ リンクがあります。表示する列と表示順序を決めるには、このリンクをクリックします。以下のページでは、カスタマイズ リンクは表示されません。

- [システム概要]
- [高度な検索]
- [イベント]タブの[システム ページ]
- ターゲットを選択した場合の[タスク]ページ

詳細については、「イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- 収集からのイベントを確認済みに変更
- データベースからのイベントの削除
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベントに関するコメントの入力
- イベント収集レポートの印刷

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- イベント深刻度の種類

イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ

イベント テーブル ビュー ページで、表示する列と表示順序をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

イベント テーブル ビュー ページをカスタマイズするには、次のように操作します。

1. イベント テーブル ビュー ページでカスタマイズをクリックします。[テーブル ビューのカスタマイズ]ページが表示されます。
2. 表示する列を[使用できる列]ボックスから選択し、>>をクリックして、[表示される列]ボックスにその列を追加します。
3. 列の表示方法を再編成するには、[表示される列]ボックスで列を選択し、上に移動か下に移動をクリックします。
4. 列を表示から削除するには、削除する列を[表示される列]ボックスから選択し、<<をクリックします。列が[使用できる列]ボックスに移動し、表示されなくなります。
5. 特定の列で収集を並べ替えるには、[ソート]ドロップダウン リストから列を選択します。
6. [昇順]または[降順]を選択します。
7. すべてのイベント収集にカスタマイズを適用する場合は、[すべてのイベント テーブル ビューに適用]を選択します。
8. 選択内容を保存し、イベント テーブル ビュー ページに戻るには、**OK**をクリックします。すべての変更内容をキャンセルしてイベント テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 収集からのイベントを確認済みに変更
- データベースからのイベントの削除
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベントに関するコメントの入力
- イベント収集レポートの印刷

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート

収集からのイベントを確認済みに変更

イベントをクリアするには、次の手順を実行します。完全な設定権があるユーザのみが、イベントをクリアできます。

イベントをクリアするには、次のように操作します。

1. イベント テーブル ビュー ページから、クリアするイベントを選択します。
2. クリアをクリックしてください。選択されたイベントについて、[ステータス]列に表示される状態が[未確認]から[確認済み]に変わります。

関連プロシージャ

- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- データベースからのイベントの削除
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベントに関するコメントの入力
- イベント収集レポートの印刷

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント詳細セクション

データベースからのイベントの削除

イベントを削除するには、次の手順を実行します。イベントを削除するには、完全な設定権が必要です。

保留イベント、検出されたシステム イベント、サービス イベントは削除できません。

イベントを削除するには、次のように操作します。

1. イベント テーブル ビュー ページから、削除するイベントを選択します。
2. 削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。
3. イベントを削除するには、**OK**をクリックします。イベント テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- 収集からのイベントを確認済みに変更
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベントに関するコメントの入力
- イベント収集レポートの印刷

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント詳細セクション

ユーザへのイベントの割り当て

1つのみまたは複数のイベントを1人以上のユーザに割り当てるには、次の手順を実行します。完全な設定権があるユーザのみが、共有収集からイベントを割り当てることができます。

注意:



選択されたイベントがすでに割り当てられていた場合、新しく割り当てる担当者を選択して**OK**をクリックすると、以前の割り当てが上書きされます。

注記:



[担当者]用に入力できる最大文字数は、50文字です。

ユーザにイベントを割り当てるには、次のように操作します。

1. イベント テーブル ビュー ページから、ユーザに割り当てるイベントを選択します。
2. 担当者をクリックします。[担当者]セクションが表示されます。
3. [新規担当者]または[現在の担当者]を選択します。[現在の担当者]を選択した場合は、下向き矢印をクリックし、ドロップダウン リストから担当者を選択します。
4. **OK**をクリックすると、データベースが更新されます。またはキャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- 収集からのイベントを確認済みに変更
- データベースからのイベントの削除
- イベントに関するコメントの入力
- イベント収集レポートの印刷
- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページ

イベントに関するコメントの入力

イベントにコメントを追加するには、次の手順を実行します。完全な設定権があるユーザのみが、イベントにコメントを追加できます。

注意:



コメントを追加するイベントを複数選択すると、データベース内の前のコメントはすべて置き換わります。

注記:



コメント用に入力できる最大文字数は、1,000文字です。

イベントにコメントを追加するには、次のように操作します。

1. イベント テーブル ビュー ページから、コメントを入力するイベントを選択します。
 2. コメントの入力をクリックします。【コメントの入力】セクションが表示されます。
 3. データベースを更新するには、**OK**をクリックします。イベント テーブル ビュー ページに戻るには、キャンセルをクリックします。
-

注記:



HP Systems Insight Managerでイベントに追加されるコメントは、HP Storage Essentialsには転送されません。

関連プロシージャ

- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- 収集からのイベントを確認済みに変更
- データベースからのイベントの削除
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベント収集レポートの印刷

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント詳細セクション

イベント収集レポートの印刷

イベント収集レポートの表示と印刷を行うには、次の手順を実行します。

イベント収集結果レポートの表示と印刷を行うには、次のように操作します。

1. イベント ビュー ページで印刷をクリックします。
印刷可能なウィンドウが表示されます。
2. レポートを印刷するには、印刷をクリックします。
3. レポートが表示されたら、ブラウザのメニューから【ファイル】->【印刷】をクリックし、レポートを印刷します。

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- **[印刷]**ダイアログ ボックスでは、**[印刷の向き]**を**[横]**に変更することができません。この問題の回避方法については、「印刷機能」を参照してください。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルへの印刷をキャンセルすることはできません。
- 選択されたイベントに関する情報が印刷できず、イベントのリスト全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、イベント テーブルビュー ページは印刷されません。

関連プロシージャ

- イベント テーブル ビュー ページのカスタマイズ
- 収集からのイベントを確認済みに変更
- データベースからのイベントの削除
- ユーザへのイベントの割り当て
- イベントに関するコメントの入力

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント詳細セクション

イベント深刻度の種類

HP Systems Insight Managerでは、イベントの深刻度が次のように報告されます。

❌ **[クリティカル]**。このタイプのイベントは、障害が発生しており、すぐに対処する必要があります。

⚠️ **[メジャー]**。このタイプのイベントは、差し迫った障害を表す。

⚠️ **[マイナー]**。このタイプのイベントは、さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータスを示す。

✅ **[正常]**。このイベントは問題ではない。

❓ **[不明]**。このタイプのイベントは、イベントの深刻度や問題が不明であることを示す。

⚠️ **[警告]**。現在、問題が発生する可能性のある状態になっていることを示す。

注記:



HP Systems Insight Manager 5.0では、WBEMイベントだけが「警告」にマッピングされます。

① **[情報]**。このタイプのイベントに注意する必要はなく、これらは、便利な情報として提供される。

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページ
- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート

イベント詳細セクション

はじめに

イベント テーブル ビュー ページの**[イベント タイプ]**列でリンクをクリックすると、**[イベントの詳細]**セクションが表示され、特定のイベントに関する詳細情報が提供されます。イベントは、SNMPトラップ、HyperText Transfer Protocol (HTTP) イベント、または内部で生成されるイベントから生成されます。

注記:



管理対象システムでWBEMイベントを予約している場合は、イベントがWebベース エンタープライズ管理 (WBEM) から生成されます。WBEMイベントの予約の詳細については、「WBEMイベントの予約」を参照してください。

注記:



検出されたシステムのイベントのみが追跡されます。自動検出の設定と実行の詳細については、「自動検出の設定」を参照してください。

イベント詳細

このセクションでは、イベントに関する以下の情報を識別します。

- **[イベント深刻度]**。イベントの深刻度が表示されます。
- **[確認ステータス]**。イベントが、確認済みか、未確認か、不明であるかが表示されます。
- **[イベント ソース]**。イベントのソースとなったシステムが表示されます。
- **[関連システム]**。イベントを生成したシステムが表示されます。

- **[関連システムのステータス]**。イベントを生成したシステムの現在のステータスが表示されます。システムのステータスが変化すると、このステータスが変化します。
- **[イベント時間]**。中央管理サーバ（CMS）がイベントを受信した時刻が表示されます。
- **[説明]**。イベントのソースまたはタイプを説明します。イベントは、SNMPトラップ、DMI表示、または内部生成メッセージです。システムの検出はイベントです。
- **[担当者]**。イベントが割り当てられたユーザが表示されます。
- **[コメント]**。ユーザが入力したコメントが表示されます。

イベント タイプによって、**[詳細]**ボックスに以下の情報が表示されます。

- エンクロージャ内のサーバ

エンクロージャイベントの場合、このセクションには、影響を受けたエンクロージャ内のすべてのサーバが表示されます。

- ラック内のエンクロージャ

ラックイベントの場合、このセクションには、影響を受けたラック内のすべてのエンクロージャが表示されます。

- トラップ詳細

- イベントの発生日時
- イベントの説明
- トラップ情報

- 検出されたシステムの詳細

- 検出日付

- イベント詳細

- ユーザ名
- ユーザがアクセスしているリモート システムのシステム名
- ユーザがアクセスしているシステムのIPアドレス

注記:



システム名とIPアドレスは、無許可ユーザアカウント変更イベントについては提供されません。このイベントは、HP Systems Insight Managerサーバによって内部的に生成されるイベントです。

- 詳細変更

- 現在のステータス変更のソース

- 前回の深刻度
- タスクの詳細
 - タスクの実行日時
 - タスクを実行したユーザ
 - タスクを実行したシステム
- ステータス変化の詳細
 - **[サブシステム名]**。メモリ、プロセッサ、ストレージなど
 - **[以前のサブシステム ステータス]**。イベント発生前のサブシステムのステータス
 - **[全体的なパフォーマンス ステータス]**。すべてのサブシステムを合わせた全体のステータス（サブシステムの最悪のステータス）
 - **[説明]**。

印刷可能フォーマットの詳細を表示するには、印刷可能な詳細の表示をクリックします。詳細を印刷するには、**[ファイル]>[印刷]**をクリックします。

関連トピック

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- イベント テーブル ビュー ページ

システムとイベントの検索

HP Systems Insight Managerでは、2種類の検索を実行できます。システム名で検索する基本検索および高度な検索です。

基本検索を実行するには、次のように操作します。

1. **[検索]**パネルで、システム名またはキーワードを入力します。
2. **検索**をクリックします。**[検索結果]**ページが表示されます。

高度な検索を実行するには、次のように操作します。

1. **[検索]**パネルで**[高度な検索]**をクリックします。
2. **[システム]**、**[イベント]**、**[クラスタ]**のいずれかを選択したのち、定義基準を選択します。
3. **表示**をクリックします。**[検索結果]**ページが表示されます。

関連プロシージャ

- 基本検索の実行
- 収集の保存
- システムの高度な検索の実行

- クラスタの高度な検索の実行
- イベントの高度な検索の実行

関連トピック

- 基本検索と高度な検索
- 検索条件

基本検索と高度な検索

基本検索

検索機能を使用すると、システムの詳細情報をその名前か共通システム属性から素早く取得できます。検索フィールドに入力できるのは、英数字、~、-、.、_、'、およびスペースだけです。指定したシステムを検索するには、表示をクリックします。

データベースに入っている、ターゲット名に類似した名前のシステムのリストが、**[検索結果]**に表示されます。システム名リストはハイパーリンクです。リスト内の名前をクリックすると、そのシステムの**[システム ページ]**が表示されます。

ターゲット システムに似たシステム名がデータベース内にない場合、**[検索結果]**には、条件を満たすエントリがないことが表示され、高度な検索によってもう一度検索するオプションが提供されます。

[高度な検索]

[高度な検索]ページにアクセスするには、**[検索]**パネルの**[高度な検索]**ハイパーリンクをクリックします。

[高度な検索]ページの最上部で、検索タイプ選択ボックスのさまざまなオプションを選択すると、システム検索、イベント検索、クラスタ検索を作成できます。次に、検索で使用する条件を指定できます。特定のボックスで選択を行うと、その後の選択ボックスで提供される値は、適切に更新されます。検索の実行結果は収集で表示されます。選択した条件は、収集として保存することもできるので、検索は後で再実行できます。保存した収集は、**[システム]**または**[イベント]**として**[システムおよびイベント]**パネルに保存されます。これらの収集は、プライベートまたは共有として保存することができます。

階層表示

一部の検索条件では、階層表示が必要です。階層条件の例として、オペレーティング システム、イベント タイプ、ソフトウェア/ファームウェアが挙げられます。

この場合、比較演算子選択ボックスは、特定ツリー レベルに適した日本語を含む選択ボックスに置き換えられます。最も複雑なケースは、ソフトウェア/ファームウェア条件です。ソフトウェア/ファームウェアを選択すると、一連の検索条件が、ツリー形式で下に追加されます。

- システム タイプ
- オペレーティング システム
- ソフトウェア/ファームウェア タイプ
- 名前

- バージョン

この場合、上位レベルの選択ボックスで選択を行うと、下位レベルのボックスで利用可能な選択肢は更新されます。

名前を付けて保存

名前を付けて保存をクリックすると、**[収集に名前をつけて保存]**セクションが表示されます。**[名前]**フィールドに検索の名前を入力し、保存場所を選択します。詳細については、「**収集の保存**」を参照してください。

表示

表示をクリックすると、検索結果が検索フレームの下に表示されます。この機能を使うと、検索結果を保存する前にプレビューしたり、検索結果は保存せずに検索だけを実行したりすることができます。

関連プロシージャ

- 基本検索の実行
- 収集の保存
- システムの高度な検索の実行
- クラスタの高度な検索の実行
- イベントの高度な検索の実行

関連トピック

- システムとイベントの検索

基本検索の実行

一致するシステム名と共通システム属性を指定し、基本システム検索を行うには、次の手順を実行します。

基本検索を実行するには、次のように操作します。

1. **[検索]**パネルで、システム名を入力します。
2. 検索をクリックします。**[検索結果]**ページが表示されます。このページでは、一致するシステム名と共通システム属性を指定して検索することができます。
3. **[検索結果]**ページから、**[再検索条件]**フィールドで同じシステム名を使用するか、システム名を変更します。
4. システム名を変更する場合は、**[を含む]**ボックスの下向き矢印をクリックし、**[システム名]**または**[一般的なシステム属性]**を選択します。

注記：一般的なシステム属性には、完全DNS名、デバイスホスト名、シリアル番号、オペレーティングシステム タイプ、オペレーティングシステム バージョン、オペレーティングシステムの説明、オペレーティングシステム名、製品モデル、システム タイプ、IPアドレスが含まれます。

5. 表示をクリックします。新しい**[検索結果]**が表示されます。
6. 検索結果が表示されたら、次の操作を実行できます。

- 検索結果を保存します。名前を付けて保存をクリックし、検索の名前を入力して収集の保存場所を選択します。詳細については、「収集の保存」を参照してください。検索結果を保存するには、**OK**をクリックします。**[検索結果]**ページに戻るには、キャンセルをクリックします。
- より高度な検索を実行します。詳細をクリックします。**[高度な検索]**ページが表示されます。高度な検索オプションの選択の詳細については、「基本検索と高度な検索」を参照してください。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- システムの高度な検索の実行
- イベントの高度な検索の実行
- クラスタの高度な検索の実行

関連トピック

- システムとイベントの検索
- 基本検索と高度な検索
- 検索条件

システムの高度な検索の実行

システムで高度な検索を行うには、次の手順を実行します。次の図は、システムの**[高度な検索]**ページを示しています。

システムを検索するには、次のように操作します。

1. **[検索]**パネルで**[高度な検索]**をクリックします。
2. **[検索対象]**ドロップダウン ボックスから**[システム]**を選択します。
3. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、検索条件を選択します。
4. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、比較演算子オプションを選択します。

注記：条件が異なると、比較演算子も異なります。比較演算子オプションは、選択した条件に従って変化します。たとえば、**[オペレーティング システム]**を条件として選択すると、使用できる比較演算子は、次、次の文字を含む、次の文字で始まる、次の文字で終わる

る、と等しい名前、次以外、を次の文字に含まない、次の文字で始まらない、次の文字で終わらない、と等しくない名前、になります。詳細については、「検索条件」を参照してください。

5. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。ドロップダウンリストから値を選択するか、必要な情報を入力ボックスに入力してください。
6. 別の条件を追加するには、追加をクリックします。システム検索をすぐに実行するには、表示をクリックします。検索を収集として保存するには、名前を付けて保存をクリックします。実行と名前を付けて保存の詳細については、「基本検索と高度な検索」を参照してください。

注記：表示または名前を付けて保存をクリックすると、条件は並べ替えられます。条件タイプが同じ場合はOR条件として、異なる場合はAND条件として、それぞれ設定されます。

7. 表示をクリックすると、結果が表示されます。結果の削除または印刷を選択できます。検索結果の削除の詳細については、「システム検索結果の削除」を参照してください。検索結果の印刷の詳細については、「システム検索結果の印刷」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム検索結果の削除
- システム検索結果の印刷
- 収集の保存
- イベントの高度な検索の実行
- クラスタの高度な検索の実行
- 基本検索の実行

関連トピック

- システムとイベントの検索
- 基本検索と高度な検索
- 検索条件

システム検索結果の削除

1つ以上のシステムを、保存する前にシステム検索から削除するには、次の手順を実行します。

注記:



リストから多くのシステムを削除する場合、パフォーマンスに遅れが生じることがあります。

検索ビューからシステムを削除するには、次のように操作します。

1. 検索を実行すると、検索結果が表示されます。
2. 検索から削除するシステムを選択し、削除をクリックします。「このシステムを削除しますか?」と確認するダイアログ ボックスが表示されます。

3. システムを削除するには、**OK**をクリックします。システムを削除せずに**[検索結果]**ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- システムの高度な検索の実行
- システム検索結果の印刷

関連トピック

- システムとイベントの検索

システム検索結果の印刷

システム検索結果を印刷するには、次の手順を実行します。

システム検索結果を印刷するには、次のように操作します。

1. 検索を実行すると、**[検索結果]**ページが表示されます。
2. 表示をクリックします。結果が表示されます。
3. **[印刷]**をクリックします。

結果が印刷されます。

注記： **[印刷]**ダイアログ ボックスは、隠すことができます。**[印刷]**ダイアログ ボックスを表示する場合は、Windowsのタスク バーを表示します。

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- **[印刷]**ダイアログ ボックスでは、**[印刷の向き]**を**[横]**に変更することができません。この問題の回避方法については、「印刷機能」を参照してください。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルへの印刷をキャンセルすることはできません。
- 選択されたシステムに関する情報が印刷できず、システムのリスト全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、システム検索結果は印刷されません。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- システム検索結果の削除

関連トピック

- システムの高度な検索の実行

イベントの高度な検索の実行

イベントを検索するには、次の手順を実行します。次の図は、イベントの[高度な検索]ページを示しています。

注記:



[システムおよびイベント]パネルから、[システム]->[イベント]->[共有]->[サービス イベント]->[すべてのHPサービス イベント]を選択することによって、任意のタイプを持つすべてのサービス イベントを素早く表示することができます。

イベントを検索するには、次のように操作します。

1. [検索]パネルで[高度な検索]をクリックします。
2. [検索対象]ドロップダウン ボックスから[イベント]を選択します。
3. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、検索条件を選択します。

注記：[イベント タイプ]を選択している場合、詳細については、「イベント タイプ条件」を参照してください。

4. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、比較演算子オプションを選択します。

注記：条件が異なると、比較演算子も異なります。比較演算子オプションは、選択した条件に従って変化します。たとえば、[オペレーティング システム]を条件として選択すると、使用できる比較演算子は、次、次の文字を含む、次の文字で始まる、次の文字で終わる、と等しい名前、次以外、を次の文字に含まない、次の文字で始まらない、次の文字で終わらない、と等しくない名前、になります。

5. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。ドロップダウン リストから値を選択するか、必要な情報を入力ボックスに入力してください。
6. 別の条件を追加するには、追加をクリックします。イベント検索をすぐに実行するには、表示をクリックします。検索をリストとして保存するには、名前を付けて保存をクリックします。実行と名前を付けて保存の詳細については、「基本検索と高度な検索」を参照してください。

7. 表示をクリックすると、結果が表示されます。結果の削除または印刷を選択できます。検索結果の削除の詳細については、「システム検索結果の削除」を参照してください。検索結果の印刷の詳細については、「システム検索結果の印刷」を参照してください。

注記：HTTPイベントによって作成された新しいイベント タイプを検索するには、イベント カテゴリごとにイベントを選択し、[およびタイプ名が]リストからイベント タイプを選択してください。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- イベント検索結果の削除
- イベント検索結果の印刷

関連トピック

- システムとイベントの検索
- 基本検索と高度な検索
- 検索条件

イベント検索結果の削除

1つ以上のイベントを、保存する前にイベント検索から削除するには、次の手順を実行します。

注記:



リストから多くのイベントを削除する場合、パフォーマンスに遅れが生じることがあります。

検索ビューからイベントを削除するには、次のように操作します。

1. 検索を実行すると、検索結果が表示されます。
2. 検索から削除するイベントを選択し、削除をクリックします。「このシステムを削除しますか?」と確認するダイアログ ボックスが表示されます。
3. イベントを削除するには、**OK**をクリックします。イベントを削除せずに[検索結果]ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- イベント検索結果の印刷

関連トピック

- システムとイベントの検索

イベント検索結果の印刷

イベント検索結果を印刷するには、次の手順を実行します。

イベント検索結果を印刷するには、次のように操作します。

1. 検索を実行すると、**[検索結果]**ページが表示されます。
2. 表示をクリックします。結果が表示されます。
3. **[印刷]**をクリックします。

結果が印刷されます。

注記：**[印刷]**ダイアログボックスは、隠すことができます。**[印刷]**ダイアログボックスを表示する場合は、Windowsのタスクバーを表示します。

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- **[印刷]**ダイアログボックスでは、**[印刷の向き]**を**[横]**に変更することができません。この問題の回避方法については、「印刷機能」を参照してください。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティングシステムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルへの印刷をキャンセルすることはできません。
- 選択されたイベントに関する情報が印刷できず、検索結果全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、イベント検索結果は印刷されません。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- イベント検索結果の削除

関連トピック

- イベントの高度な検索の実行

クラスタの高度な検索の実行

クラスタで検索するには、次の手順を実行します。次の図は、クラスタの**[高度な検索]**ページを示しています。

クラスタを検索するには、次のように操作します。

1. **[検索]**パネルで**[高度な検索]**をクリックします。
2. **[検索対象]**ドロップダウン ボックスから**[クラスタ]**を選択します。
3. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、検索条件を選択します。
4. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、比較演算子オプションを選択します。

注記：条件が異なると、比較演算子も異なります。比較演算子オプションは、選択した条件に従って変化します。
5. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。ドロップダウン リストから値を選択するか、必要な情報を入力ボックスに入力してください。
6. 別の条件を追加するには、追加をクリックします。クラスタ検索をすぐに実行するには、表示をクリックします。検索を収集として保存するには、名前を付けて保存をクリックします。実行と名前を付けて保存の詳細については、「基本検索と高度な検索」を参照してください。
7. 表示をクリックすると、結果が表示されます。結果の削除または印刷を選択できます。検索結果の削除の詳細については、「システム検索結果の削除」を参照してください。検索結果の印刷の詳細については、「システム検索結果の印刷」を参照してください。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- クラスタ検索結果の削除
- クラスタ検索結果の印刷

関連トピック

- システムとイベントの検索
- 基本検索と高度な検索
- 検索条件

クラスタ検索結果の削除

1つ以上のクラスタを、保存する前にクラスタ検索から削除するには、次の手順を実行します。

注記:



収集から多くのクラスタを削除する場合、パフォーマンスに遅れが生じることがあります。

注記:



クラスタ メンバが含まれているクラスタは削除できません。クラスタ メンバが含まれているクラスタを削除するには、まず、**[システムおよびイベント]**パネルの**[すべてのシステム]**収集を選択して、システム テーブル ビュー ページにアクセスします。次に、クラスタとそのすべてのメンバを選択して、削除をクリックします。

検索ビューからクラスタを削除するには、次のように操作します。

1. 検索を実行すると、検索結果が表示されます。
2. 検索から削除するクラスタを選択し、削除をクリックします。「このシステムを削除しますか?」と確認するダイアログ ボックスが表示されます。
3. システムを削除するには、**OK**をクリックします。クラスタを削除せずに**[検索結果]**ページに戻るには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- クラスタの高度な検索の実行
- クラスタ検索結果の印刷

関連トピック

- システムとイベントの検索

クラスタ検索結果の印刷

クラスタ検索結果を印刷するには、次の手順を実行します。

クラスタ検索結果を印刷するには、次のように操作します。

1. 検索を実行すると、**[検索結果]**ページが表示されます。
2. **表示**をクリックします。結果が表示されます。
3. **[印刷]**をクリックします。

結果が印刷されます。

注記: **[印刷]**ダイアログ ボックスは、隠すことができます。**[印刷]**ダイアログ ボックスを表示する場合は、Windowsのタスク バーを表示します。

以下の機能はHP Systems Insight Managerではサポートされていません。

- **[印刷]**ダイアログ ボックスでは、**[印刷の向き]**を**[横]**に変更することができません。この問題の回避方法については、「印刷機能」を参照してください。
- 印刷ジョブの実行開始後に印刷をキャンセルすることはできません。ただし、オペレーティング システムの印刷キューにアクセスし、印刷ジョブをキャンセルすることは可能です。
- ファイルへの印刷をキャンセルすることはできません。
- 選択されたクラスタに関する情報が印刷できず、検索結果全体のみが印刷可能です。
- 印刷要求の発行直後にブラウザを閉じた場合、クラスタ検索結果は印刷されません。

関連プロシージャ

- 収集の保存
- クラスタ検索結果の削除

関連トピック

- クラスタの高度な検索の実行

検索条件

収集の作成時には、多くの条件から選択することができます。実行するタスクは1つの収集に関連付けられますが、1つの収集には数多くの条件を含めることができます。

また、条件を含めないようにすることもできます。たとえば、タイプがサーバであるすべてのシステムを含め、特定のプロセッサタイプであるすべてのシステムを含めないようにすると、ネットワーク上のサーバのより排他的なサブセットが提供されます。このフィルタリングを実行するには、**[次]**比較演算子か**[次以外]**比較演算子を選択します。

より一般的に使われる条件としては、システム タイプ、IPアドレス、製品名、およびハードウェア ステータスがあります。それほど使用しない条件には、イベント タイプ（トラップ カテゴリ）、プロセッサ、管理プロトコル、メモリ範囲があります。イベント収集には、システム条件とイベント条件の両方が含まれます。イベント条件は、システム収集には適用されません。

複数の条件を選択する場合、システムは収集に含まれるシステムに対するすべての条件を満たす必要があります。たとえば、指定したIP範囲内のシステムのうち、RAMが32MB以上のシステムを選択した場合、収集は、指定したIP範囲にあるシステムであっても、RAMが32MB未満のシステムを返しません。

多数の個別システム選択または多数の異なる選択条件を含む複合収集は、実行するのにより多くのシステム リソースが必要です。タスクが収集に関連する場合、パフォーマンスに対する影響を最小限に抑えるため、できるだけ収集を簡略化してください。

システム リスト条件	検索対象
資産管理番号	システムの資産番号を示すユーザ定義フィールド
クラスタ メンバシップ	特定クラスタに属するシステム

一般属性	完全DNS名、システム ホスト名、シリアル番号、オペレーティング システム タイプ、オペレーティング システム バージョン、オペレーティング システムの説明、オペレーティング システム名、製品モデル、システム タイプ、IPアドレスなど、一般属性を含むシステム
連絡先	システム ステータス情報の連絡先を示すユーザ定義フィールド
エンクロージャ	特定のエンクロージャ名のセットごとにエンクロージャに含まれるシステム（エンクロージャ自体は含まれない）
ハードウェア ステータス	指定されたハードウェア ステータス タイプ（クリティカル、無効、メジャー、マイナー、正常、および不明）のシステム
IPアドレス	指定した範囲内のIPアドレスを持つシステム
設置場所	システムの物理的な位置を示すユーザ定義フィールド
管理プロトコル	HTTP、WBEM、DMI、SNMPの各プロトコルの1つまたは複数を実行するシステム
メモリ範囲	指定した範囲内のメモリを持つシステム（詳細については、「メモリ範囲の条件」を参照してください）
ネットワーク プロトコル	IPかIPX、またはその両方が実行されているシステム
オペレーティング システム	指定されたオペレーティング システムかバージョン番号、またはその両方を含むシステム
プロセッサ	指定されたプロセッサ タイプか速度、またはその両方を含むシステム
製品名	指定された製品名のシステム
ラック	特定のラック名のセットごとにラックに含まれるシステム（ラック自体は含まれない）
シリアル番号	システムのシリアル番号を示すユーザ定義フィールド
サーバの役割	特定のサーバの役割が設定されたシステム（詳細については、「サーバの役割の条件」を参照してください）
ソフトウェア/ファームウェア	特定のソフトウェアまたはファームウェアバージョンがインストールされているシステム（詳細については、「ソフトウェア/ファームウェアの条件」を参照してください）
システム名	特定のシステム名のセットを含むシステム
システム サブタイプ	HP Systems Insight Managerデータベース内の製品サブタイプ フィールドで検索可能（たとえば、パワー エンクロージャ、サーバ エンクロージャ、VMホストなど）

システム タイプ	標準のシステム タイプで識別されるシステム。システム タイプには、クラスタ、デスクトップ、エンクロージャ、管理プロセッサ、ハンドヘルド、プリンタ、リモート アクセス デバイス、リピータ、ルータ、サーバ、スイッチ、不明、ワークステーションなどがあります。
信頼ステータス	管理コンソールを信頼するWeb対応エージェントまたは信頼しないWeb対応エージェントを含むシステム
Webエージェント	特定のWebサーバまたはWebエージェントをインストールしたシステム
注記：上記のシステム収集条件は、 [高度な検索] ページでイベント収集条件として使用することもできます。	
イベント収集条件	検索対象
担当者	特定担当者が割り当てられているイベント（詳細については、「担当者条件」を参照してください）
確認ステータス	状態が、確認済み、未確認、確認中のうちいずれかになっているが、ページが自動イベント処理UIで開いているときに表示されないイベント（詳細については、「確認ステータスの条件」を参照してください）
イベント カテゴリ	特定イベント カテゴリに属するイベント
イベント時間	指定時間に発生したイベント、または特定の日数以上または以内に発生したイベントで、ページが自動イベント処理UIで開いているときに表示されないもの
イベント タイプ	タイプごとに（上記の）カテゴリによってグループ化されたイベントで、その表示は各カテゴリのイベント タイプによるカテゴリのツリー（詳細については、「イベント タイプ条件」を参照してください）
深刻度	指定した深刻度レベル（クリティカル、情報、メジャー、マイナー、正常、警告）を持つイベント
クラスタ収集条件	検索対象
クラスタ監視リソース	指定したクラスタ監視リソースを持つクラスタ
クラスタ名	特定クラスタ名に含まれるシステム
クラスタ タイプ	標準のクラスタタイプで識別されるクラスタ。クラスタ タイプの例としては、MSCSクラスタ、TruCluster Production Serverクラスタ、TruCluster Serverクラスタ、OpenVMSクラスタ、Oracle RACクラスタ、SCO UnixWare7 NonStopクラスタ、HP Serviceguardクラスタがあります。
IPアドレス	指定されたIPアドレスのクラスタ

ステータス タイプ	特定のクラスタ ステータス レベル（クリティカル、メジャー、マイナー、正常、および不明）を持つクラスタ
-----------	---

ソフトウェア/ファームウェアの条件

- レポジトリにアクセスできることを確認してください。詳細については、「バージョン コントロール」を参照してください。
- ProLiant Support Packと比較する場合、ProLiant Support Packで使用する比較演算子は、**[=]**のみです。また、HP Systems Insight Managerでは、ProLiant Support Packがシステムに実際にインストールされているかどうかを判断できず、ProLiant Support Packのすべてのコンポーネントがシステムにインストールされているかどうかしか判断できません。ProLiant Support Packのすべてのコンポーネントがリストに載っている場合に限って、システムはこの検索によって返されます。ProLiant Support Packのすべてのコンポーネントがシステムにインストールされていることは非常に少ないので、これは慎重に使用してください。
- この条件は、ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング タスクによって埋められたSQLデータベース テーブルから情報を取得します。このテーブルは、HP Systems Insight Managerのソフトウェア更新タスクまたはファームウェア更新タスクでソフトウェアがインストールされる場合も更新されます。したがって、HP Systems Insight Managerを使用せずにシステムにソフトウェアをインストールまたはアンインストールした場合、およびソフトウェア バージョン ステータス ポーリング タスクを最後に実行した後では、この検索は正しい結果を返さない場合があります。

確認ステータスの条件

ユーザは、以下のような特定のイベント ステータスの検索を実行できます。

- **[すべて]**。ステータスが、確認済み、未確認、確認中のいずれかになっているすべてのイベントを含みます。
- **[確認済み]**。確認済みのイベントを含みます。
- **[未確認]**。未確認のイベントを含みます。
- **[確認中]**。処理中のタスクからのイベントを含みます。これらのイベントは、イベントの完了後に、未確認ステータスになります。

サーバの役割の条件

サーバの役割条件は、システムかイベントの収集検索で、ユーザは1つ以上の役割の一致するサーバのリストを表示できます。サーバの役割は、HP Insightマネジメント エージェント5.4以上で利用できる、ユーザが設定する値です。条件を作成するには、**[高度な検索]**ページの**[条件]**ドロップダウン リストでサーバの役割を選択し、条件比較演算子オプションを選択します。

担当者条件

ユーザは、特定ユーザに割り当てられた特定イベントで検索できます。**[担当者]**収集条件を選択すると、結果はスクロール可能なユーザのリストとなり、その中から複数のユーザを選択できます。

注記:

ユーザが選択されていない場合、「これらのイベントについての割り当てがありません。」というエラーメッセージが表示されます。イベント テーブル ビュー ページから担当者を追加してください。

イベント カテゴリ条件

イベント タイプ条件

注記:

1つの検索では、イベント タイプ条件を1つだけ使用できます。

[イベント タイプ]条件を使用する場合は、比較条件を選択する必要があります。**[次]**または**[次以外]**を選択します。イベント カテゴリによって編成された、イベント タイプのツリー ビューが表示されます。次に、ツリーに含まれる**[タイプ]**ボックスで、検索するタイプを選択してください。カテゴリ全体を選択したり、**+**をクリックしてブランチを展開し、個々のカテゴリを選択したり、**-**をクリックしてブランチを折り畳んだりすることができます。別の条件を追加するには、追加をクリックします。検索をすぐに実行するには、表示をクリックします。検索を保存するには、名前を付けて保存をクリックします。名前を付けて保存の使用の詳細については、「収集の保存」を参照してください。

注記:

トラップの特定バージョン（たとえば、[Array Accelerator Bad Data (Version. 1)]）が選択可能な場合、すべてのバージョンを選択してください。一部の管理対象システムで新バージョンまたは旧バージョンのエージェントが動作している可能性があるためです。すべてのバージョンを選択すれば、イベント収集にすべてのバージョンのエージェントを含めることができます。

メモリ範囲の条件

収集に含めることができるシステムのメモリ範囲を設定できます。複数グループを、一度に1つ、以下の範囲から選択できます。

- **[指定量に等しいメモリ (=)]**。指定した量に等しいメモリを含むシステムが含まれます。
- **[指定量に等しくないメモリ (!=)]**。指定した量に等しくないメモリを含むシステムが含まれます。
- **[指定量より少ないメモリ (<)]**。指定した量未満のメモリを持つシステムが含まれます。

- [指定量以下のメモリ (<=)]。指定した量以下のメモリを含むシステムが含まれます。
- [指定量より多いメモリ (>)]。指定した量より多いメモリを持つシステムが含まれます。
- [指定量以上のメモリ (>=)]。指定した量以上のメモリを含むシステムが含まれます。
- [メモリ範囲 (が次の範囲内)]。指定した範囲のメモリを含むシステムが含まれます。

関連トピック

- システムとイベントの検索

リファレンス

[システム]と[イベント]の参照セクションには、すべてのシステム共有収集、イベント共有収集、クラスタ共有収集、非表示収集名など、リスト命名規則に関する情報が含まれています。

関連トピック

- 収集命名規則
- デフォルト パブリック収集

デフォルト パブリック収集

共有システム収集

すべてのユーザが、共有収集を表示できます。ただし、完全な設定権があるユーザのみが、共有収集の作成、編集、削除を実行できます。

次の共有デフォルト システム収集は、システム タイプによって分類されています。

- [すべてのシステム]。データベースに保存されている、検出されたすべてのシステムを含みます。
- [すべてのサーバ]。データベースに保存されている、検出されたすべてのサーバを含みます。
- [すべてのVSEリソース]。データベースに保存されている、検出されたすべてのVirtual Server Environment (VSE) リソースを含みます。

以下の項目は、[すべてのVSEリソース]に含まれます。

- [すべてのnPartitionサーバ]。複合体タイプを持つタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。
- [すべてのHP Integrity Virtual Machine]。サーバ タイプおよびHP Integrity仮想マシン ホスト サブタイプを持つタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。
- [すべてのVirtual Partitionサーバ]。サーバ タイプおよびHP仮想パーティション サーバ サブタイプを持つタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。
- [すべてのリソース パーティション]。リソース パーティション タイプを持つタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。

- **[すべての共有リソース ドメイン]**。共有リソース ドメイン タイプを持つタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。
- **[すべてのHP Serviceguardクラスタ]**。クラスタ タイプおよびHP Serviceguardサブタイプを持つタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。
- **[すべてのスタンドアロン サーバ]**。HP/9000またはIntegrityスタンドアロン システムであるタイプによって検出されるすべてのシステムを含みます。

- **[HP BladeSystem]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのブレードを含みます。

以下の項目は、**[HP BladeSystem]**に含まれます。

- **[すべてのp-Classラック]**。HP BladeSystem-Classサブタイプを搭載するすべてのラックを含みます。
- **[すべてのe-Classエンクロージャ]**。HP BladeSystem e-Class/CCIサブタイプを搭載するすべてのエンクロージャを含みます。
- **[スペア システム]**。HP ProLiant Essentials Automation Managerがインストールされている場合、この収集には、故障したブレード サーバのリカバリに利用できるスペア ブレード サーバが含まれます。詳細については、「HP ProLiant Essentials Automation Managerの概要」を参照してください。
- **[メンテナンスを必要としているシステム]**。HP ProLiant Essentials Automation Managerがインストールされている場合、この収集には、以前にHP ProLiant Essentials Automation Managerによって制御されており、現在メンテナンスを必要としている、故障したブレード サーバが含まれます。詳細については、「HP ProLiant Essentials Automation Managerの概要」を参照してください。

- **[ストレージ システム]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのストレージシステムを含みます。

以下の項目は、**[ストレージ システム]**に含まれます。

- **[すべてのストレージ システム]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのストレージ システムを含みます。
 - **[すべてのストレージ ホスト]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのストレージ ホストを含みます。
 - **[すべてのストレージ スイッチ]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのストレージ スイッチを含みます。
 - **[すべてのストレージ アレイ]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのストレージ アレイを含みます。
 - **[すべてのテープ ライブラリ]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのテープ ライブラリを含みます。
- **[すべてのラック]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのラックを含みます。

- **[すべてのエンクロージャ]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのエンクロージャを含みます。
- **[すべてのクライアント]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのクライアントを含みます。
- **[すべてのネットワーク デバイス]**。ルータ、スイッチ、リピータ、リモート アクセス システムなど、データベース内の検出されたすべてのネットワーク システムを含みます。
- **[すべてのプリンタ]**。データベースに保存されている、検出されたすべてのプリンタを含みます。
- **[すべての管理プロセッサ]**。データベースに保存されている、検出されたすべての管理プロセッサを含みます。

以下の収集は、システム ステータスによって分類されています。

- **[クリティカル システム]**。データベース内のクリティカル ステータスを持つすべてのシステムを含みます。
- **[メジャー システム]**。データベース内のメジャー ステータスを持つすべてのシステムを含みます。
- **[マイナー システム]**。データベース内のマイナー ステータスを持つすべてのシステムを含みます。
- **[正常システム]**。データベース内の正常ステータスを持つすべてのシステムを含みます。
- **[無効なシステム]**。データベース内の無効なステータスを持つすべてのシステムを含みます。

以下の収集は、オペレーティング システムによって分類されています。

- **[HP-UX]**。データベースに保存されている、HP-UXと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Microsoft Windows Server 2003]**。データベースに保存されている、Microsoft Windows Server 2004と同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Microsoft Windows 2000]**。データベースに保存されている、Microsoft Windows 2000と同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Microsoft Windows NT]**。データベースに保存されている、Microsoft Windows NTと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Novell NetWare]**。データベースに保存されている、Novell NetWareと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[SCO UNIX]**。データベースに保存されている、SCO UNIXと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Microsoft Windows XP]**。データベースに保存されている、Microsoft Windows XPと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Microsoft Windows 95、98、ME]**。データベースに保存されている、Microsoft Windows 95、98、またはMEと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。

- **[HP Tru64 UNIX]**。データベースに保存されている、HP True64 UNIXと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[HP OpenVMS]**。データベースに保存されている、HP OpenVMSと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Red Hat Linux]**。データベースに保存されている、Red Hat Linuxと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[SuSE Linux]**。データベースに保存されている、SuSE Linuxと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[Linux]**。データベースに保存されている、Linuxと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[HP NonStop Server]**。データベースに保存されている、HP NonStop Serverと同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。
- **[未展開]**。データベースに保存されている、未展開と同等のオペレーティング システムを搭載するすべてのシステムを含みます。

以下の収集は、タイプごとにクラスタによって分類されています。

- **[すべてのクラスタ]**。データベースに保存されているすべてのクラスタを含みます。
- **[MSCSクラスタ]**。データベースに保存されているすべてのMSCSクラスタを含みます。
- **[OpenVMSクラスタ]**。データベースに保存されているすべてのOpenVMSクラスタを含みます。
- **[HP TruCluster]**。データベースに保存されているすべてのHP TruClustersを含みます。
- **[HP Serviceguard]**。データベースに保存されているすべてのHP Serviceguardクラスタを含みます。

以下のデフォルト収集は、ステータスごとにクラスタによって分類されています。

- **[クリティカル クラスタ]**。データベース内のクリティカル ステータスを持つすべてのクラスタを含みます。
- **[メジャー クラスタ]**。データベース内のメジャー ステータスを持つすべてのクラスタを含みます。
- **[マイナー クラスタ]**。データベース内のマイナー ステータスを持つすべてのクラスタを含みます。
- **[正常クラスタ]**。データベース内の正常ステータスを持つすべてのクラスタを含みます。
- **[不明クラスタ]**。データベース内の不明ステータスを持つすべてのクラスタを含みます。

以下は、システム機能収集です。

- **[データ収集リスト]**。検出されたすべてのシステムを含み、データ収集の実行に使用されます。
- **[ステータス ポーリング リスト]**。検出されたすべてのシステムとその現在のステータスを含みます。

- **[サーバステータス ポーリング リスト]**。検出されたすべてのサーバ、クラスタ、管理プロセスと、その現在のステータスを含みます。
- **[非サーバステータス ポーリング リスト]**。検出されたすべての非サーバとその現在のステータスを含みます。

以下の収集は、HP Storage Essentialsがインストール済みの場合に追加されます。

- **[管理されたStorage Essentials]**。HP Storage Essentialsによって管理されるすべてのストレージシステムを含みます。

共有イベント収集

すべてのユーザが、共有イベント収集を表示できます。ただし、完全な設定権があるユーザのみが、共有収集の作成、編集、削除を実行できます。

以下の共有**[イベント]**は、イベント深刻度によって分類されています。

- **[すべてのイベント]**。システムで発生した、すべてのイベントが含まれます。イベントはデータベースに記録されています。
- **[重要なイベント]**。イベントの状態に関係なく、データベースのすべてのクリティカル イベントとメジャー イベントが含まれます。
- **[重要な未確認イベント]**。すべての未確認なクリティカル イベント、メジャー イベント、確認中のイベントが含まれます。
- **[情報イベント]**。イベントの状態に関係なく、データベースのすべての情報イベントが含まれます。

ログイン イベント収集は、次のとおりです。

- **[すべてのログインおよびログアウトイベント]**。完全な設定権があるユーザと、中央管理サーバ（CMS）で正しい権限を持つユーザは、ログインイベントとログアウト イベントを表示できます。しかし、完全な設定権があるユーザのみが、イベントの詳細を表示できます。
- **[すべてのログイン失敗イベント]**。完全な設定権があるユーザと、CMSで正しい権限を持つユーザは、エラー ログイン イベントを表示できます。しかし、完全な設定権があるユーザのみが、イベントの詳細を表示できます。

サービス イベント収集は、次のとおりです。

- **[すべてのHPサービス イベント]**。データベースに保存されている、イベント タイプがHP サービス イベントのすべてのサービス イベントが含まれます。

注記：サービス イベントは、ハードウェア メンテナンスなどの保守作業が必要であることを示します。該当する場合には、サービス イベントを開いて、推奨措置やコール ステータスを確認することができます。

注記：サービス イベントは、HPインスタント サポート エンタープライズ エディション（ISEE）およびOpen Service Event Manager（OSEM）から取得できます。サービス イベントをHP Systems Insight Managerに送信するようにこれらのツールを設定するには、HPのWebサイト<http://h18023.www1.hp.com/support/svctools/>（英語）にアクセスして、ISEEおよびOSEMのマニュアルと『How to change the HP SIM Host Name』を参照してください。さらに、これらのイベントを受信するためにサービス契約が必要な場合があります。

以下の収集は、HP Storage Essentialsがインストール済みの場合に追加されます。

- **[Storage Essentials]**。すべてのHP Storage Essentialsイベントが含まれます。

関連プロシージャ

- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- イベント収集のカスタマイズ

関連トピック

- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート
- システム テーブル ビュー ページ
- イベント テーブル ビュー ページ
- クラスタ テーブル ビュー ページ
- システム タイプ
- サービス通知イベント
- HP Storage Essentialsがインストールされている場合のHP Systems Insight Managerストレージ機能の変化

収集命名規則

[システム]や[イベント]に名前を付ける場合は、次のガイドラインに従ってください。

- プライベート収集を除いて、収集名はすべて一意である必要があります。
- [システム]、[イベント]、およびすべての共有収集という用語は、HP Systems Insight Managerで予約されています。収集名として、これらの用語を使用しないでください。
- 収集の名前に複数のスペース文字が入っている場合、1文字のスペース文字に圧縮されます。たとえば、次のようになります。

My Collectionという収集名は、**My Collection**として保存されます。

- 収集名に、次の記号を使用しないでください。< > " & ' _ + | % \ / ;
- 収集を保存すると、[システムおよびイベント]パネルの下に名前が表示されます。収集名はすべて一意である必要があります。
- すべての[システム]や共有収集の名前と一致する名前をプライベート収集に付けることはできませんが、セカンド ユーザのプライベート収集の名前と一致する名前を付けることはできます。
- プライベート収集を作成して名前の重複エラーが表示される場合は、その名前が他のユーザのプライベート収集に存在する可能性があります。

関連トピック

- システム、クラスタ、イベントの監視
- イベント テーブル ビュー ページ
- システム テーブル ビュー ページ

- クラスタ テーブル ビュー ページ
- リファレンス

ストレージ統合

HP Systems Insight Managerは、SNMPおよびSMI-Sストレージ デバイスを検出します。

- HP Systems Insight Manager環境でストレージ デバイスを使用する方法については、「SNMPを使用したストレージ統合」および「SMI-Sを使用したストレージ統合」を参照してください。
- ストレージ デバイスの検出手順については、「SNMPを使用したストレージ検出」、「SNMPを使用するストレージ検出について」（SNMPデバイスの場合）、および「ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定」（SMI-Sデバイスの場合）を参照してください。

関連トピック

- ストレージ システムの表示
- ストレージ システム レポートの表示
- ストレージ アレイ容量の表示
- HP Storage Essentialsがインストールされている場合のHP Systems Insight Managerストレージ機能の変化
- HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージ ソリューションとの併用

SMI-Sを使用したストレージ統合

ストレージ システムについて

ストレージ システムには、SANに接続されたファイバチャネル ディスク アレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト（ファイバチャネルホストバス アダプタ搭載）などがあります。HP Systems Insight Managerは、WBEM SMI-Sプロバイダを使用して、ストレージ システムからデータを検出し収集します。HP Systems Insight Managerの最新のデバイス サポート情報およびSMI-Sプロバイダの入手とインストールについては、HPのWebサイト <http://www.hp.com/go/hpsim/providers>（英語）を参照してください。

デフォルト収集 **[ストレージ システム]**は、**[システムおよびイベント]**パネルのツリー内の**[タイプ別システム]**の下にリストされます。**[ストレージ システム]**の下に表示される収集は、次のとおりです。

- **[すべてのストレージ システム]**。このカテゴリには、SMI-Sプロバイダを介して検出されたすべてのデバイスが含まれます。
- **[すべてのストレージ ホスト]**。ストレージ ホストとは、ホスト バス アダプタ（HBA）によって、ストレージ エリア ネットワーク（SAN）に接続されているサーバ、デスクトップ、またはワークステーションのことです。ストレージ ホストは、**[すべてのサーバ]**および**[すべてのシステム]**収集にも組み込まれます。
- **[すべてのストレージ スイッチ]**。ストレージ スイッチとは、SANに接続されているファイバチャネル スイッチのことです。ストレージ スイッチは、**[すべてのシステム]**および**[すべてのネットワーク デバイス]**収集にも組み込まれます。

- **[すべてのストレージ アレイ]**。ストレージ アレイとは、SANに接続するために、ファイバチャネル コントローラを使用するディスク アレイのことです。ストレージ アレイは、**[すべてのシステム]**収集にも組み込まれます。
- **[すべてのテープ ライブラリ]**。テープ ライブラリとは、SANに接続されているテープ ドライブのことです。テープ ライブラリは、**[すべてのシステム]**収集にも組み込まれます。

関連プロシージャ

- ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定
- ストレージ システム レポートの表示
- ストレージ システムの表示
- ストレージ アレイ容量の表示

関連トピック

- HP Storage Essentialsがインストールされている場合のHP Systems Insight Managerストレージ機能の変化

ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定

ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定

HP SIMとストレージ システムの通信を正しく設定するには、次のように操作します。

HP SIMを設定して、ストレージ システムを検出するようにする

HP Systems Insight Managerストレージ システムを検出および識別します。

ストレージ システムのデータを検出し、収集するには、次のように操作します。

1. ストレージ システムでSMI-Sプロバイダのインストールと設定が完了していることを確認します。SMI-Sプロバイダの入手とインストールについては、『[HP Systems Insight Manager インストール/ユーザ ガイド](#)』を参照してください。
2. 「グローバル プロトコル設定」ページの**[デフォルト WBEM設定]**セクションで、SMI CIMOMのユーザ名とパスワードを入力します。
3. 各SMI CIMOM IPアドレスを、**[システム自動検出]**タスクに追加するか、新しい検出タスクを作成します。手順については、「[検出タスクの編集](#)」および「[新規検出タスクの作成](#)」を参照してください。

ストレージ システムは、次の自動検出タスクが終わると検出されます。ストレージ システムをすぐに検出する場合は、検出タスクを実行してください。手順については、「[検出タスクの実行](#)」を参照してください。

WBEMイベントの予約

ストレージシステムのSMI-SプロバイダがWBEMイベントをサポートしており、イベントビューページにWBEMイベントを表示したい場合は、ストレージシステムについてのWBEMイベントを予約する必要があります。手順については、「[WBEMイベントの予約](#)」を参照してください。

関連プロシージャ

- グローバル プロトコル設定
- WBEMイベントの予約
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの実行
- 新規検出タスクの作成
- ストレージ システムの表示
- ストレージ システム レポートの表示

関連トピック

- SMI-Sを使用したストレージ統合

ストレージ システムの表示

HP Systems Insight Managerでは、収集および個々のストレージ システムのストレージ システム情報を表示できます。

ストレージ システム収集の表示

ストレージ システム収集を表示するには、次のように操作します。

1. [システムおよびイベント]パネルで、[システム]、[共有]、[タイプ別システム]、[ストレージ システム]の順に展開します。
2. 次のいずれかを選択します。
 - [すべてのストレージ システム]。
 - [すべてのストレージ ホスト]。
 - [すべてのストレージ スイッチ]。
 - [すべてのストレージ アレイ]。
 - [すべてのテープ ライブラリ]。

その収集のシステム テーブル ビュー ページが表示されます。詳細については、「システム テーブル ビュー ページのナビゲート」を参照してください。

個々のストレージ システムの表示

個々のストレージ システムを表示するには、次のように操作します。

1. [システムおよびイベント]パネルで、[システム]、[共有]、[タイプ別システム]、[ストレージ システム]の順に展開します。
2. 表示するシステムを含むストレージ システム収集を展開します。
3. 表示するストレージ システムの名前をクリックします。

そのシステムのシステム ページが表示されます。詳細については、「システム ページ」を参照してください。

関連プロシージャ

- ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定
- ストレージ システム レポートの表示
- ストレージ アレイ容量の表示

関連トピック

- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート
- SMI-Sを使用したストレージ統合

ストレージ システム レポートの表示

HP Systems Insight Managerは、定義済みストレージ システムレポートやカスタマイズされたストレージ レポートを提供します。

HP Storage Essentialsがインストールされている場合、HP Systems Insight Managerストレージ システム レポートには、データは表示されません。これは、HP Systems Insight ManagerとHP Storage Essentialsの2つソースから同じデータが収集されないようにするために、SMI-SデバイスからのHP Systems Insight Managerによるデータ収集が無効になっているからです。HP Storage Essentialsでのストレージ システム レポート機能については、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。

ストレージ システム レポートの各フィールドの詳細については、「レポート ビュー」を参照してください。

既存のストレージ システム レポート

次の定義済みレポートを使用できます。

- **ストレージ デバイス容量**—すべてのストレージ アレイは、ストレージ アレイの容量使用の詳細をレポートします。
- **ストレージ デバイス コントローラ**—すべてのストレージ アレイは、各ストレージ アレイ コントローラの、ステータス、ポート数、および使用中のポート数をレポートします。
- **ストレージ デバイス インベントリ**—すべてのストレージ アレイは、各ストレージ アレイの、ベンダ、ステータス、およびポート情報をレポートします。
- **ストレージ デバイス インベントリ**—すべてのストレージ ホストは、各ストレージ ホストの、ベンダ、ステータス、およびポート情報をレポートします。
- **ストレージ デバイス インベントリ**—すべてのストレージ スイッチは、各ストレージ スイッチの、ベンダ、ステータス、およびポート情報をレポートします。
- **ストレージ HBA**—すべてのストレージ ホストは、ストレージ ホストに取り付けられている各ホスト バス アダプタ (HBA) の、ベンダ、ステータス、およびポート情報をレポートします。
- **ストレージ 論理ユニット**—すべてのストレージ アレイは、すべてのストレージ アレイ上のすべてのLUNのLUN情報とステータスをレポートします。
- **ストレージ ポート**—すべてのストレージ アレイは、すべてのストレージ アレイのポート情報をレポートします。

- ストレージポート—すべてのストレージホストは、すべてのストレージホストHBAのポート情報をレポートします。
- ストレージポート—すべてのストレージスイッチは、すべてのストレージスイッチのポート情報をレポートします。

注記:



既存のレポートの表示手順については、「システムレポート」を参照してください。

カスタム レポート。

カスタム レポートの作成手順については、「レポートの追加」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム レポート
- レポートの追加

関連トピック

- レポート機能
- SMI-Sを使用したストレージ統合
- レポートの印刷
- リファレンス情報
- レポート ビュー


ストレージ アレイ容量の表示

HP Systems Insight Managerでは、ストレージ アレイの容量に関する情報を表示できます。

すべてのアレイのストレージ容量の表示

すべてのアレイのストレージ容量を確認するには、ストレージ デバイス容量—すべてのストレージ アレイ レポートを実行します。手順については、「システム レポート」を参照してください。

単一アレイのストレージ容量の表示

1. [システムおよびイベント]パネルで、[システム]、[共有]、[タイプ別システム]、[ストレージ システム]、[すべてのストレージ アレイ]の順に展開します。
2. ストレージ アレイを選択します。
3. [容量情報]の横の  をクリックします。

関連プロシージャ

- ストレージ システム レポートの表示
- ストレージ システムの表示

関連トピック

- SMI-Sを使用したストレージ統合
- ストレージ アレイ識別タブ

HP Storage Essentialsがインストールされている場合のHP Systems Insight Managerストレージ機能の変化

HP Storage Essentialsがインストールされている場合、HP Systems Insight Manager環境が次のように変わります。

- HP Storage Essentials項目が、[ツール]、[展開]、[診断]、[最適化診断]、[レポート]、[タスク&ログ]、および[オプション]メニューに追加されます。これらのメニュー項目について詳しくは、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。
- [管理されたStorage Essentials]という共有収集が、[システムおよびイベント]パネルに追加されます。
- ストレージ システムがHP Storage Essentialsで管理される場合、[識別]タブにはストレージ固有の情報は表示されません。また、[ツール&リンク]タブの、[HP Storage Essentials Pages]セクションに[SE System Properties]リンクが表示されます。このストレージ システムのHP Storage Essentialsデバイス ページを表示するには、[SE System Properties]リンクをクリックします。
- ストレージ ホストについては、HP Storage Essentialsは、[ツール&リンク]ページに、[System Application Discovery Settings]リンクを追加します。HP Storage Essentialsシステム アプリケーション検出の基本設定にアクセスするには、このリンクを使用してください。
- HP Systems Insight Managerストレージ システム レポートには、データは表示されません。これは、HP Systems Insight ManagerとHP Storage Essentialsの2つソースから同じデータが収集されないようにするために、SMI-SデバイスからのHP Systems Insight Managerによるデータ 収集が無効になっているからです。HP Storage Essentialsでのストレージ システム レポート機能については、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。
- HP Systems Insight Managerのデータ収集レポートのストレージ テーブルには、データは登録されません。これは、HP Systems Insight ManagerのSMI-Sデータ収集が無効になっているからです。
- HP Storage Essentialsで管理されるストレージ システムは、[管理されたStorage Essentials]のサブタイプを表示し、[SMI]サブタイプは表示しません。
- HP Systems Insight Managerは、ストレージ システムのSMI-Sプロバイダをポーリングすることにより、デバイスのヘルス ステータスを判定します。HP Storage Essentialsが、SMI-S以外の方法でストレージアレイ、ストレージスイッチ、またはテープライブラリを検出した場合、HP Systems Insight Managerは、デバイス のステータスを不明に設定します。
- HP Systems Insight Managerで編集されるシステム プロパティは、HP Storage Essentialsには転送されません。

- HP Storage Essentialsシステムに対しては、監視の停止/回復コマンドは無効になります。
- HP Storage Essentialsイベントは、次のように処理されます。
 - HP Storage Essentialsイベントは、すべてのストレージ システムの、[システム ページ]の[イベント]タブに表示されます。
 - **Storage Essentials**という収集が、[システムおよびイベント]パネルの[イベント]の下に共有収集のリストに追加されます。
 - HP Systems Insight Managerでイベントが確認されると、HP Storage Essentialsでも確認されます。
 - HP Systems Insight Managerでイベントを削除しても、HP Storage Essentialsではそのイベントは削除されません。
 - HP Storage Essentialsでイベントが確認されると、HP Systems Insight Managerでも確認されます。
 - HP Storage Essentialsでイベントを削除しても、HP Systems Insight Managerではそのイベントは削除されません。
 - HP Systems Insight Managerでイベントに追加されるコメントは、HP Storage Essentialsには転送されません。
 - [イベント詳細]セクションのリンクにより、HP Storage Essentialsの対応するイベント詳細を表示できます。
- [検出]ページの[自動]タブに、HP Storage Essentials検出プロセスのステータスが表示され、HP Storage Essentials検出ログへのリンクが提供されます。
- [検出]ページの[自動]タブの[一般設定]セクションには、HP Storage Essentialsグローバル アプリケーション設定コンフィギュレーション ページへのリンクが表示されます。
- HP Storage Essentialsがインストールされていると、Storage Essentialsツールのツールボックスが[ユーザおよび認証]ページの[ツールボックス]タブに追加されます。

注記:



HP Storage Essentialsの詳細については、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。

関連トピック

- SMI-Sを使用したストレージ統合
- HP Storage Essentialsの概要

SNMPを使用したストレージ統合

概要

ストレージ デバイスは、リアル タイム アクセス システムとバックアップ システムに分類できます。リアル タイム アクセス システムは、内部ディスク、冗長ディスク（RAID）、テープ ライブラリ、ストレージ エリア ネットワーク（SAN）、およびネットワーク接続ストレージ（NAS）にさらに分類できます。

ほとんどのデータ センタでは、次のようにシステムを組み合わせています。

- 小規模ビジネス ほぼ全体的に内部ディスク ドライブ
- 中規模ビジネス 内部ディスクとRAIDシステムのさまざまな組み合わせ
- 大規模ビジネス 内部ディスク、RAID、SANやNASのさまざまな組み合わせ
- エンタープライズ ビジネス ほとんどが大規模なSANかNASであり、RAIDと内部ディスクが存在することもある。

HP Systems Insight Managerは、監視対象のシステムの内部ディスク ドライブの情報を取得できます。HP Systems Insight Managerが、上記システムのそれぞれで管理と設定をアクティブに実行するという意味ではありません。

HP Systems Insight Managerは以下を実行できます。

- サーバに直接接続されているストレージ システムの検出と識別
- テープ ライブラリなど、ネットワーク上のストレージ システムの検出と識別
- HP StorageWorks Command Viewストレージ デバイス マネージャ システムの検出と識別
- ストレージ システム イベントを受信し、システムで動作しているCommandView経由で、またはテープ ライブラリ管理カードからイベントを生成したシステムに関連付けること
- イベントのコンテキストから、またはイベントを生成したCommandViewを実行しているシステムのコンテキストから、適切な管理アプリケーションをコンテキストに合わせて起動すること

ストレージ イベント

HP Systems Insight Managerにより、管理者は、インベントリの監視、ハードウェア リソース、およびシステムに影響するシステム ソフトウェアの設定と管理ができるようになります。

管理者は、HP Systems Insight Managerにより、ハードウェアステータスの完全な概要を確認できます。ストレージ イベントでは、ストレージ リソースの可用性に影響する可能性があって、システムとアプリケーションの可用性に影響することがある問題の存在について通知を受けることができます。HP Systems Insight Manager では、WBEMイベントやSNMPトラップにより、詳細イベント メッセージを受信します。このイベントでは、システム、および影響されるディスクが識別され、エラー番号が提供されて、詳細と問題の説明について調べることができるようになります。イベント詳細には、イベントを生成したCommand Viewサーバへのリンクも含まれます。HP Systems Insight Manager では、ディスクかRAIDサブシステムが、内部ストレージのドライブを管理するコントローラに関連付けられます。

ストレージ インベントリ詳細

HP Systems Insight Managerインベントリでは、内部ディスク ドライブから次の情報の取得と保存が行われます。

- ディスク
 - ディスク スロットの総数
 - 使用済みスロット数
 - スロットID
 - スロットのディスクのタイプ
 - ディスク メーカー
 - ディスク モデル
 - ディスク部品番号
 - ディスクの特性
 - ファームウェア バージョン
 - このディスクを管理するコントローラID
- コントローラ詳細
 - コントローラの総数
 - コントローラ タイプ
 - コントローラ メーカー
 - モデル番号
 - 部品番号
 - このカードが設置されているスロットID
 - ファームウェア バージョン
 - コントローラの特性
- RAID詳細
 - RAIDタイプ
 - RAID設定
- SANとNAS
 - ネットワーク アドレス

- メーカー
- モデル
- ISとMNHA
 - 部品番号
 - ディスクの総数
 - ディスク詳細
 - このシステムによってサービスされるサーバ

関連プロシージャ

- SNMPを使用したストレージ検出
- HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージ ソリューションとの併用

関連トピック

- システム ページ
- SNMPを使用するストレージ検出について
- システム ページ

SNMPを使用するストレージ検出について

検出と識別

HP Systems Insight Managerでは、LAN上のストレージ システム、および管理対象システムがデバイスで動作しているCommand Viewストレージ デバイス マネージャが検出されます。内部ディスクの場合、HP Systems Insight Managerインベントリ コンポーネントでは、インストールされているすべてのドライブ、ディスク メーカー、モデル、ディスク タイプ、ファームウェアバージョン、システム内におけるドライブの内部位置、管理に使用されているコントローラの詳細を識別できます。RAIDドライバの場合は、内部ドライブ用に収集される詳細に加えて、RAIDタイプ（1から5）とメーカーも検出されます。SANシステムの場合、HP Systems Insight Managerでは、SAN上のデバイスを管理しているCommand Viewサーバが検出されます。

HP Systems Insight Managerでは、ストレージ システムは、次のように表示されます。

- **内部ドライブ。** このシステムは、[プロパティ]ページ、およびインベントリ データベースにそれぞれのシステムのコンポーネントとして表示されます。
- **テープ ライブラリ。** このデバイスは、識別されて、[すべてのシステム]、[すべてのストレージ システム]、および[すべてのテープ ライブラリ]収集に組み込まれます。
- **SAN。** このデバイスのCommand Viewシステムが識別され、Command Viewシステムにサービスしているシステムの[システム ページ]の[ツール&リンク]タブから使用できるようになります。

注記:



HP Systems Insight Managerでは、SAN管理アプリケーションとNAS管理アプリケーションが検出され、ユーザは、このアプリケーションの起動時にシステム情報にアクセスできます。

関連プロシージャ

- SNMPを使用したストレージ検出
- HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージソリューションとの併用

関連トピック

- システム ページ

SNMPを使用したストレージ検出

HP Systems Insight Managerが、CommandViewを実行しているシステムを検出するプロセスには、以下が含まれます。

注記:



Command Viewへのリンクにアクセスするには、[ツール]->[システム情報]->[システム ページ]->[リンク]を選択します。

- ポート80 (http) のCV XP
- ポート4096 (http) のCV VA/SDM
- ポート4095 (http) のCV TL
- CommandView EVAの検出は、ポート2301か2381におけるHP StorageWorks Storage Management Applianceの検出にカプセル化されています。

HP Systems Insight Managerでは、Webサーバにアクセスできるようにする必要があります。

Command View/SDMを設定するには、次のように操作します。

1. HP Systems Insight Manager CMSが、CommandViewサーバ設定の安全IP範囲内にあることを確認します。
 - ホスト ベース。 CMSのIPアドレスは、.../sanmgr/hostagent/config/access.datに組み込まれています。
 - **Storage Area Manager**管理サーバ（該当する場合） CMSステーションのIPアドレスは、/sanmgr/managementserver/config/authorizedClients.datに含まれています。

2. Command Viewシステムの検出か再識別を行うには、検出を実行します。検出の実行の詳細については、「検出と識別」を参照してください。
3. 検出が完了したら、HP Systems Insight Managerでシステムをグループ化し、[システム ページ]からCommand Viewを起動できます。[システム ページ]の詳細については、「システム ページ」を参照してください。

EVA MIBをロードするには、**mxmib -a cpqhsv110v3.cfg**と入力します。

注記：MIBのロードが完了するまでには、数分かかることがあります。MIBの詳細については、「MIBの管理」を参照してください。

関連プロシージャ

- HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージ ソリューションとの併用

関連トピック

- システム ページ
- SNMPを使用するストレージ検出について
- 検出と識別

HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージ ソリューションとの併用

ストレージ イベントの表示

ストレージ イベントを表示する方法には、次の2つがあります。

- [ツール]->[システム情報]->[システム ページ]を選択します。
- システム テーブル ビュー ページの[システム名]列でシステム名をクリックします。

タイプ グループによるストレージの作成

ESLやMSLなど、テープ ライブラリのタイプのシステム用検索を作成したり、Command Viewシステムの各タイプのWebエージェント用検索を作成できます。

- **HP StorageWorks Command View SDM。** Webエージェント == HP StorageWorks Command View SDMの検索
- **HP StorageWorks Command View XP。** Webエージェント == HP StorageWorks Command View xpの検索
- **HP StorageWorks Command View ESL。** Webエージェント == HP StorageWorks Command View ESLの検索
- **HP StorageWorks Tape Libraries。** システム タイプ == ストレージ デバイスの検索
- **HP StorageWorks Management Appliance。** Webエージェント == Management module hp_OpenView_Storage_Management_ApplianceかWebエージェント == Management Module OpenSANManagerの検索

イベント収集と起動

イベントを受信するには、SNMPイベントをHP Systems Insight Manager CMSに送信するようにCommand Viewソフトウェアを設定する必要があります。

Command View SDMの場合：

Command ViewサーバのWindows NT 4.0でSNMPトラップの宛先を設定するには、次のように操作します。

1. **[スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[ネットワーク]>[サービス]>[SNMP設定]**を選択します。

[SNMP Serviceのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. **[トラップ]**をクリックします。
3. **public**などのコミュニティ名を入力します。
4. **追加**をクリックします。
5. ダイアログ ボックスの最下部で**追加**をクリックします。

[SNMP Service Configuration]ダイアログ ボックスが表示されます。

6. エンタープライズ管理ステーションのホスト名かIPアドレスを入力し、**追加**をクリックします。

SNMPトラップの宛先が追加されます。

7. 変更内容を保存してダイアログ ボックスを閉じるには、**OK**をクリックします。

SNMPトラップの宛先をWindows 2000で設定するには、次のように操作します。

1. **[スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[ネットワーク]>[サービス]>[SNMP設定]**をクリックします。

[SNMP Serviceのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. **[トラップ]**をクリックします。
3. **public**などのコミュニティ名を入力します。
4. **一覧に追加**をクリックします。
5. ダイアログ ボックスの最下部で**追加**をクリックします。

[SNMP Service Configuration]ダイアログ ボックスが表示されます。

6. エンタープライズ管理ステーションのホスト名かIPアドレスを入力し、**追加**をクリックします。

SNMPトラップの宛先が追加されます。

7. 変更内容を保存してダイアログ ボックスを閉じるには、**OK**をクリックします。

SNMPトラップの宛先をHP-UXで設定するには、次のように操作します。

1. テキスト エディタを使用し、次のファイルを開きます。

/etc/snmpd.conf

2. snmpd.confファイルの末尾に、次の情報を挿入します。

trap-dest: X.X.X.X

X.X.X.Xは、エンタープライズ管理ステーションのIPアドレスで置き換えてください。

3. snmpd.confファイルを保存して閉じます。
4. シェル コマンド プロンプトに以下を入力し、SNMPデーモンを停止します。

ps -ef | grep snmpd

kill -9 PID

PIDは、前のコマンドで返されたプロセスIDで置き換えてください。

5. シェル コマンド プロンプトに以下を入力し、SNMPデーモンを再起動します。

snmpd

CMSでEVA用にHSV MIBをロードするには、次のように操作します。

1. Windowsオペレーティング システムでコマンド プロンプトを開きます。\\Program Files\\HP\\System Insight manager\\mibsに移動します。MIBの詳細については、「MIBの登録」を参照してください。
2. **mxmib -a cpqhsv110v3.cfg**を実行します。

関連プロシージャ

- SNMPを使用したストレージ検出
- SNMPトラップの設定

関連トピック

- システム ページ

タスクの使用法

HP Systems Insight Managerでは、タスクをスケジュールして実行し、システムとイベントを管理できます。タスクは、HP Systems Insight Manager ツールを使用して実行するアクションです。タスク インスタンスは、実行されたタスクの単一インスタンスです。

ユーザは、以下を実行できます。

- 要件に応じたさまざまなタスクの作成
- タスクのスケジュール
- 作成したタスクの修正
- タスクの削除
- 実行中タスクの停止
- タスク ステータスの表示

次のいずれかを選択すると、タスク情報を確認できます。

- [タスク&ログ]>[スケジュールされたすべてのタスクの表示]

または

- [タスク&ログ]>[タスク結果の表示]

ユーザ権限

ユーザが表示できるタスクのリストは、ユーザの権限とアクセス レベルによって決まります。すべてのユーザは、自分が作成したタスクの編集、削除、表示ができます。完全な設定権があるユーザは、別のユーザが作成したタスクの編集、削除、表示ができます。

注記:



HP Systems Insight Managerには、システムが提供するタスクである、デフォルトのタスクがあります。このようなタスクは、無効にしたり、スケジュールを変更したりすることはできませんが、削除したり別のユーザに割り当て直したりすることはできません。HP Systems Insight Managerでは、監視しているシステムの全容を把握するためにこれらのタスクが必要です。

関連プロシージャ

- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- スケジュール済みタスクの実行
- タスクの停止
- タスク結果の削除
- レポートの印刷

- スケジュール済みタスクの編集
- スケジュール済みタスクの削除
- タスク結果の表示

関連トピック

- デフォルト ポーリング タスクについて
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート
- 時間フィルタの適用
- タスク ステータス タイプ

デフォルト ポーリング タスクについて

ポーリング タスクでは、関連する収集に含まれるシステムのヘルス ステータスが追跡されます。システムがいつオフラインになるか、またはハードウェアのパフォーマンスがいつ低下するかを判断するためには、ハードウェア ステータス ポーリングを定期的に行う必要があります。特定システムのポーリング タスクをカスタマイズして、スケジュールした時刻に実行できます。また、特定の要件に合わせて、さまざまな収集で、新しいポーリング タスクを作成することもできます。

データ収集タスクは、他のポーリング タスクに付属しています。データ収集では、より具体的なシステム情報（資産データなど）が検出されます。

イベントの受信に基づいてポーリング タスクが実行されるように設定することができます。イベント ポーリング タスクは、イベント収集に関連付けられます。たとえば、システムからトラップを受信したときのハードウェア ステータス ポーリング タスクを設定することができます。

イベント収集での変化の結果として実行されるようにポーリング タスクを設定すると、ポーリング タスクは、その収集に一致するイベントを生成するすべてのシステムに適用されます。

注記:



イベント収集に基づくポーリング タスクを定期的にスケジュールすることはお勧めできません。このようなタスクは、関連する収集でイベントが発生するたびに、一連のシステムで実行されます。

注記:



デフォルト タスクを削除または無効化する場合は、同等の結果が得られるタスクと必ず置き換えてください。たとえば、ハードウェア ステータス ポーリング タスクを削除すると、システムは検出されつづけますが、そのステータスは更新されません。日単位デバイス識別タスクを削除すると、システムの管理における変化を検出できなくなります。

以下のデフォルト ポーリング タスクは、[スケジュールされたすべてのタスクの表示]ページで利用できます。

- 隔週データ収集
- 日単位デバイス識別
- ハードウェア ステータス ポーリング - 非サーバ
- ハードウェア ステータス ポーリング - サーバ
- ハードウェア ステータス ポーリング - Systems no Longer Disabled
- 初期データ収集
- 初期ハードウェア ステータス ポーリング
- ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング
- ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング - Systems no Longer Disabled

隔週データ収集

隔週データ収集タスクは、[データ収集リスト]収集に含まれるすべてのシステムで実行されます。デフォルトのスケジュールは、隔週の土曜日の正午に実行されるように設定されています。

日単位デバイス識別

ネットワークシステムなどのシステムに関する情報を識別するには、日単位デバイス識別を使用します。このタスクは、デフォルトでは1日に1回実行され、情報がデータベースに保存されます。以下の情報が識別されます。

- 管理対象システムでのシングル ログインおよびセキュア タスク実行（STE）のサポートの判定
- システムの管理プロトコル タイプ（HTTP、SNMP、DMI、WBEM）
- システムのタイプおよびサブタイプ（サーバ、ストレージ、スイッチ、ルータなど）
- システムの製品名
- オペレーティング システムの名前およびバージョン
- システムで動作しているWebエージェント
- システムで動作しているWebベース ソフトウェア（プリンタ管理ソフトウェアなど）
- 管理プロセッサとのシステム関係（システムとそのリモートInsightボードなど）
- ストレージ プロキシおよび関連ストレージ システム
- Wake On LAN情報

ハードウェア ステータス ポーリング - 非サーバ

このタスクは、管理プロトコル（SNMP、WBEMなど）によって、タイプがサーバ、クラスタ、または管理プロセッサではないシステムのステータス情報を収集します。このタスクは、デフォルトで、スタートアップ時と、その後は10分に1回ポーリングを実行します。

注記:



500を超えるシステムを検出する場合は、間隔をデフォルトの10分間から増やすことをおすすめします。たとえば、1000システムごとに15分の間隔を設定してください。

ハードウェア ステータス ポーリング - サーバ

このタスクは、タイプがサーバ、クラスタ、または管理プロセッサのSNMPシステムのステータス情報を収集します。このタスクは、デフォルトで、スタートアップ時と、その後は5分に1回ポーリングを実行します。

注記:



500を超えるシステムを検出する場合は、間隔をデフォルトの5分間から増やすことをおすすめします。たとえば、1000システムごとに10分の間隔を設定してください。

ハードウェア ステータス ポーリング - Systems no Longer Disabled

このタスクは、システムが無効状態から有効状態に変わったときに実行されます。このタスクを使用すると、システムの予定メンテナンス期間が無効に設定された後に最新のステータス情報を入手することができます。

初期データ収集

このタスクは、WBEM、DMI、またはSNMPが動作する多数のシステムから静的情報（シリアル番号、モデル番号など）を収集します。このタスクは、新規システムがデータ収集と一致すると実行されるようにデフォルトで設定されています。収集されるデータの種類の詳細については、「リファレンス情報」を参照してください。

初期ハードウェア ステータス ポーリング

このタスクは、新しく検出されたシステムでハードウェア ステータス ポーリングを実行します。このため、定期的なタスクが実行されるまで待たなくても、システムが有効なステータスを持つことができます。

ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング

これは、ソフトウェア バージョンの更新ステータスを判定するタスクで、7日ごとに実行するように設定されており、デフォルトでは水曜日の深夜12時に実行されます。このタスクは、編集することができます。また、いつでも手動で実行できます。

詳細については、「ソフトウェア ステータス ポーリング」を参照してください。

ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング - Systems no Longer Disabled

このタスクは、システムが無効状態から有効状態に変わったときにソフトウェア バージョン ツールを実行します。これにより、HP Systems Insight Managerでは、システムにロードされているソフトウェアのステータスが最新の状態に保たれます。

詳細については、「ソフトウェア ステータス ポーリング」を参照してください。

関連プロシージャ

- タスクの作成
- スケジュール済みタスクの実行
- スケジュール済みタスクの編集
- レポートの印刷
- スケジュール済みタスクの実行
- スケジュール済みタスクの編集

関連トピック

- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

タスクの作成

特定のシステムまたはイベントでツールを実行するタスクを作成します。

注記:



複数のユーザが同時に1つのタスクにアクセスした場合は、タスクを最後に編集したユーザの変更内容が保存されます。たとえば、ユーザ1およびユーザ2がHP Systems Insight Managerに完全な設定権でサイン インし、ユーザ1が編集集中のタスクをユーザ2が削除しようとしているとします。ユーザ1が編集されたタスクを保存しようとする、そのタスクはシステム上ではオブジェクトを表していないというメッセージが表示されます。ユーザ1は、編集されたタスクを保存できません。

タスクを作成するには、次のように操作します。

1. メニューからツールを選択します。[ターゲット システムの選択]ページが表示されます。

注記：ツールを選択する前にターゲットを選択すると、[ターゲット システムの確認]ページが表示されます。

2. ターゲットを追加するには、まず、ドロップダウンボックスからグループを選択します。これにより、選択したグループの内容が表示され、ターゲットとして選択できるようになります。また、収集自体を選択するには、["収集"自体を選択]チェックボックスを選択します。ここで、「収集」は、選択した収集の名前です。

注記：["収集"自体を選択]を選択すると、収集内のすべてのシステムに対してタスクを実行する場合に、全体的なパフォーマンスが向上します。

3. 適用をクリックします。ターゲットが、[ターゲット システムの確認]セクションに表示されます。

注記：選択したターゲットに、ツールとの互換性がない場合は、問題の簡潔な説明が[ツール起動OK?]カラムに表示されます。ターゲットを削除するには、ターゲットのチェックボックスを選択して、ターゲットの削除をクリックします。

4. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ターゲットの追加をクリックして、ターゲットを[ターゲット システム リスト]に追加します。
 - ターゲットを削除するには、ターゲットのチェックボックスを選択して、ターゲットの削除をクリックします。
 - 次へをクリックして、ツール パラメータを指定し、タスクをスケジュールします。
5. ツールパラメータを指定します。ツールのパラメータが必要でない場合は、次へは、スケジュールとすぐに実行ボタンに置き換わります。スケジュールオプションは、ツールをスケジュールできる場合に限って表示されます。
6. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 戻るをクリックすると、前画面に戻ります。
 - タスクの実行タイミングをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。スケジュール オプションの詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
 - タスクをすぐに実行するには、すぐに実行をクリックします。

コマンド ライン インタフェース

ツールをすぐに実行するには、**mxexec**コマンドを、タスクを後で実行するようにスケジュールするには、**mxtask**コマンドを実行します。これらのタスクはコマンドラインインタフェース（CLI）から実行します。このコマンドの詳細については、コマンドラインに**man mxexec**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを表示するか、Windowsのコマンド ライン ヘルプを参照してください。マニュアルページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

デフォルトのツール

- クラスタ監視。 詳細については、「クラスタ監視」を参照してください。
- キーの収集。 詳細については、「キーの収集」を参照してください。
- コマンドライン ツール。 詳細については、「コマンドライン ツール」を参照してください。
- データ収集。 詳細については、「データ収集」を参照してください。
- イベントの削除。 このツールは特定のイベント収集からイベントを削除する場合に使用します。
- キーの展開。 詳細については、「キーのインストール」を参照してください。
- デバイスのping。 詳細については、「デバイスのping」を参照してください。
- ディスクスレッシュホールド、設定。 詳細については、「ディスクスレッシュホールドの設定」を参照してください。
- DMIアクセス、設定。 詳細については、「DMIアクセスの設定」を参照してください。
- ハードウェア ステータス ポーリング。 ターゲット システムでサポートされているプロトコルに基づいてハードウェア ステータスを収集します。
- システムの識別。 詳細については、「識別」を参照してください。
- **ProLiant Support Pack**の初期インストール。 詳細については、「初期ProLiant Support Packのインストール」を参照してください。
- ソフトウェアとファームウェアのインストール。 詳細については、「ソフトウェアとファームウェアのインストール」を参照してください。
- キーの管理。 詳細については、「キーの管理」を参照してください。
- 管理情報ベース（MIB）、管理。 詳細については、「MIBの管理」を参照してください。
- 管理プロセッサ ツール。 詳細については、「管理プロセッサ ツール」を参照してください。
- **OpenSSH**、インストールおよび展開。 詳細については、「RDPを使用したOpenSSHの複数システムへのインストール」を参照してください。
- **Performance Management Pack (PMP)** ツール。 詳細については、「PMPツール」を参照してください。
- プログラム/スクリプト起動。 詳細については、「カスタム コマンド」を参照してください。
- プロパティ ページ。 詳細については、「プロパティ ページ」を参照してください。
- エージェント設定のレプリケート。 詳細については、「エージェント設定のレプリケート タスクの作成」を参照してください。

- スナップショット レポート機能。 詳細については、「スナップショット比較レポート」を参照してください。
- **RPM**パッケージ マネージャ ツール。 詳細については、「RPMパッケージ マネージャ」を参照してください。
- **Server Migration Pack**。 詳細については、「Server Migration Pack」を参照してください。
- 単一システム プロトコル設定。 詳細については、「システムまたはシステム グループのプロトコル設定」を参照してください。
- **SNMP**アクセス、設定。 詳細については、「SNMPアクセスの設定」を参照してください。
- ソフトウェア ステータス ポーリング。 詳細については、「ソフトウェア ステータス ポーリング」を参照してください。
- ストレージ ソリューション統合。 詳細については、「SNMPを使用したストレージ統合」を参照してください。
- **System Management Homepage**。 詳細については、「System Management Homepage」を参照してください。
- システム ページ。 詳細については、「システム ページ」を参照してください。
- システム プロパティ、設定。 詳細については、「システム プロパティ」を参照してください。
- バージョン コントロール エージェント。 詳細については、「バージョン コントロール エージェントへのアクセス」および「バージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス」を参照してください。
- **Virtual Machine Management Pack (VMM)**。 詳細については、「Virtual Machine Management Pack」を参照してください。
- **Webmin**。 詳細については、「Webminの概要」を参照してください。

関連トピック

- タスクの使用法
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

[スケジュールされたすべてのタスクの表示]ページには、定期的に行うようにスケジュールされたタスクや、イベント基準に基づいたタスクが表示されます。スケジュールされたタスクには、[スケジュールなし]というスケジュールも含まれることがあります。このタスクは、リストされますが、ユーザが手動で実行するときに限って実行されます。

タスク情報を表示するには、[タスク&ログ]>[スケジュールされたすべてのタスクの表示]を選択します。タスクを選択するには、タスク行をクリックします。以下を参照してください。

- 「すぐに実行」
- 「編集」
- 「削除」
- 「タスク結果の表示」

注記:



複数のユーザが同時に1つのタスクにアクセスした場合は、タスクを最後に編集したユーザの変更内容が保存されます。たとえば、ユーザ1およびユーザ2がHP Systems Insight Managerに完全な設定権でサイン インし、ユーザ1が編集集中のタスクをユーザ2が削除しようとしているとします。ユーザ1が編集されたタスクを保存しようとする、そのタスクはシステム上ではオブジェクトを表していないというメッセージが表示されます。ユーザ1は、編集されたタスクを保存できません。

ユーザ権限

ユーザが表示できるタスクのリストは、ユーザの権限とアクセス レベルによって決まります。すべてのユーザは、自分が作成したタスクの編集、削除、表示ができます。完全な設定権があるユーザは、別のユーザが作成したタスクの編集、削除、表示ができます。

すぐに実行

タスクを実行し、タスク インスタンスを開始します。定義済みタスクを実行すると、特定システム イベントで特定ツールが実行されます。ツール メニューから、**[タスク&ログ]>[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。タスクを選択し、**すぐに実行**をクリックします。詳細については、「スケジュール済みタスクの実行」を参照してください。

編集

編集するタスクを選択してください。以前設定したタスク情報が表示されます。タスクを作成するのと同じ手順を実行してください。ツール メニューから、**[タスク&ログ]>[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。タスクを選択し、**編集**をクリックします。詳細については、「スケジュール済みタスクの編集」を参照してください。

削除

削除するタスクを選択してください。タスクを削除すると、**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページとシステムからタスクが削除されます。タスクを削除すると、関連タスク インスタンスも削除されます。ツール メニューから、**[タスク&ログ]>[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。タスクを選択し、**削除**をクリックします。詳細については、「スケジュール済みタスクの削除」を参照してください。

タスク結果の表示

表示するタスクを選択します。**[スケジュールされたすべてのタスク]**の下に**[タスク結果]**が表示されます。タスクのスケジュール、タスクで使用されるツール、タスクで実行されるコマ

ドなどの情報が表示されます。[タスク結果]には、タスクによって作成されたタスク インスタンスのリストも表示されます。タスク インスタンスの下には、概要ステータス、ターゲット システム リスト、ターゲット詳細が表示されます。

詳細については、「タスク結果の表示」を参照してください。

関連トピック

- タスクの使用法
- タスク ステータス タイプ

タスクのスケジュール設定

タスクのスケジュールに使用できるオプションは、使用したツールと選択したターゲット システムのタイプによって変化します。タスクをスケジュールするには、タスクに一意の名前を付ける必要があります。すべてのツールがスケジュールできるわけではありません。

タスクをスケジュールするには、次のように操作します。

1. メニューからツールを選択し、スケジュールボタンが表示されるよう手順に従い、このボタンをクリックします。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
2. [タスク名]フィールドにタスクの一意の名前を入力します。
3. [いつこのタスクを実行しますか?]セクションで、次のオプションのうちのいずれかを選択します。
 - **[定期的]**。分、時、日、週、月単位で、実行間隔を選択します。定期的スケジュールでは、特定日時のみで実行したり、設定した回数だけ実行したりするようにタスクを設定できます。時間フィルタを適用し、その日の何時にスケジュール済みタスクを実行するかを指定することもできます。フィルタの詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
 - **[1回]**。タスクを実行する日時を指定します。
 - **[新しいシステムやイベントがリストの条件に適合する場合]**。このオプションは、ユーザが[すべてのシステムまたはイベント]をターゲットに選択した場合にのみ有効です。新しいシステムやイベントがリスト条件を満たす場合に限り、タスクが実行されます。このタイプのスケジュールに、時間フィルタを適用することもできます。フィルタの詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
 - **[システムやイベントがリストの条件に適合しない場合]**。このオプションは、先のオプションとほとんど同じですが、[すべてのシステムまたはイベント]がリスト条件を満たさなくなった場合にのみタスクが実行される点だけが異なります。このタイプのスケジュールには、時間フィルタを適用できます。フィルタの詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
 - **[スケジュールなし]**。このオプションは、適切な権限を持つユーザが手動で実行する場合に限りタスクが実行されるように指定します。このタスクが自動的に実行されることはありません。タスクは、[スケジュールされたすべてのタスク]ページまたはコマンドライン インタフェース (CLI) から手動で実行できます。
4. [さらに]で、次のオプションのうちのいずれかを選択します。

- **[中央管理サーバ開始時]**。このオプションは、中央管理サーバ（CMS）が起動した時点でタスクを実行する場合に選択します。
 - **[すぐに実行]**。このオプションは、タスクを保存した直後にタスクを実行する場合に選択します。
 - **[このタスクを無効にする]**。このオプションは、タスクを一時的に無効にする場合に選択します。このタスクは、**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページで、**[無効]**と表示されます。
5. スケジュール オプションを選択したら、**[スケジュールの調整:]**セクションでスケジュールを調整します。使用できるオプションは、手順3で選択したスケジュール オプションによって変化します。
 6. 完了をクリックすると、**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページが表示されます。前のページに戻るには、**戻る**をクリックします。**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページの詳細については、「すべてのスケジュール済みタスクページのナビゲート」を参照してください。

[スケジュールされたすべてのタスク]の表示

すべてのスケジュール済みタスクを表示するには、**[タスク&ログ]**→**[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。

ユーザが表示できるタスクのリストは、ユーザの権限とアクセスレベルによって決まります。すべてのユーザは、自分が作成したタスクの編集、削除、表示ができます。完全な設定権があるユーザは、別のユーザが作成したタスクの編集、削除、表示ができます。

関連プロシージャ

- スケジュール済みタスクの実行
- タスク結果の表示
- タスク結果の削除
- レポートの印刷
- スケジュール済みタスクの編集

関連トピック

- 時間フィルタの適用
- タスクの使用法

スケジュール済みタスクの実行

タスクを実行し、タスクインスタンスを開始します。スケジュール済みタスクを実行すると、特定のシステムまたはイベント上で特定のツールが実行されます。

スケジュール済みタスクを実行するには、次のように操作します。

1. ツールメニューから、**[タスク&ログ]**→**[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。**[スケジュールされたすべてのタスク]**が作業領域に表示されます。
2. リストからタスクを選択し、**すぐに実行**をクリックします。

注記：タスクのタスクインスタンスが実行中である場合、すぐに実行ボタンは無効になります。

コマンド ライン インタフェース

ツールをすぐに実行するには、**mxexec**コマンドを、タスクを後で実行するようにスケジュールするには、**mxtask**コマンドを実行します。これらのタスクはコマンド ライン インタフェース (CLI) から実行します。このコマンドの詳細については、コマンドラインに**man mxexec**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを表示するか、Windowsのコマンド ライン ヘルプを参照してください。マニュアルページへのアクセス方法の詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- スケジュール済みタスクの編集
- スケジュール済みタスクの削除
- レポートの印刷
- タスク結果の表示
- タスクの停止

関連トピック

- タスクの使用法
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

スケジュール済みタスクの編集

スケジュール済みタスクを編集して、ツールパラメータの変更、時刻の設定、無効にされているタスクの再有効化、またはターゲットシステムの修正を行います。

スケジュール済みタスクを編集するには、次のように操作します。

1. **[タスク&ログ]>[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページが表示されます。
2. 編集するタスクを**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページから選択します。
3. **編集**をクリックします。

以前設定したタスク情報が表示されます。タスクを作成するのと同じ手順を実行してください。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。

タスクにはスケジュールが関連しているので、**[タスクのスケジュール]**にアクセスする必要があります。新しいタスクを作成するときのように**すぐに実行ボタン**が表示されません。完全な設定権があるユーザは、タスクのオーナーも変更できます。

新しいオーナーにツールや1つまたは複数の選択されたターゲットのアクセス権がない場合は、ユーザがタスクを編集または保存しようとする、エラーメッセージが表示されます。

4. タスクを編集したら、完了をクリックします。このタスクは保存され、**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページに表示されます。

5. タスクをすぐに実行するには、**[タスクのスケジュール]**ページですぐに**実行**チェックボックスを選択してから完了をクリックします。

関連プロシージャ

- スケジュール済みタスクの実行
- スケジュール済みタスクの削除
- レポートの印刷
- タスク結果の表示
- タスクの停止

関連トピック

- タスクの使用法
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

スケジュール済みタスクの削除

タスクを削除すると、**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページとシステムから、タスクおよびそれに関連するタスク インスタンスが削除されます。

注意:



タスクを削除すると、タスクがデータベースから完全に削除され、復元できなくなります。

注記:



配布済みのシステムまたはデフォルトのタスクは削除できません。

スケジュール済みタスクを削除するには、次のように操作します。

1. **[タスク&ログ]**→**[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**を選択します。
2. **[スケジュールされたすべてのタスク]**リストからタスクを選択します。
3. 削除をクリックします。

注記：タスクのタスク インスタンスが実行中である場合は、実行中タスク インスタンスを停止してからタスクを削除するように指示するメッセージが表示されます。

関連トピック

- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート
- タスクのスケジュール設定

タスク結果の表示

システム上で実行されたタスクと関連結果のログを確認するには、**[タスク結果]**、**[タスク インスタンスの結果]**、および**[ターゲットの詳細]**を表示します。タスクインスタンスのレポートも印刷できます。

タスク結果の表示

[タスク結果]ページにタスク結果が表示されます。タスクの開始および終了時刻、タスクで使用されるツール、およびタスクで実行されるコマンドなどの情報が表示されます。

1. **[タスク&ログ]>[タスク結果の表示]**を選択します。
2. タスクインスタンスの停止か削除を行うには、**[タスク結果の表示]**ページからタスクインスタンスを選択します。
3. 停止または削除をクリックします。

[タスク結果]ページには、すべてのタスクによって作成されたタスク インスタンスのリストが表示されます。

タスク インスタンス結果の表示

[タスク結果の表示]ページで、タスクインスタンスのリストから行を選択してタスクインスタンスを選択します。

[タスク インスタンス]セクションに、次の情報が表示されます。

- **[ステータス]**。タスクのステータスが表示されます。
- **[ID]**。タスクのジョブID番号が表示されます。
- **[タスク名]**。実行されたタスク名が表示されます。
- **[ツール]**。使用されたツール名が表示されます。
- **[オーナー]**。タスクを現時点で所有しているユーザ名が表示されます。
- **[コマンド]**。タスクの実行時に使用されたコマンドが表示されます。
- **[概要ステータス]**。このフィールドには、概要ステータスが表示され、そのステータスは特定のタスクに限ったステータスであることが示されます。詳細については、「タスクステータス タイプ」を参照してください。
- **[ターゲット]**。タスクの実行対象とするために選択したターゲット収集または個々のシステムの名前が表示されます。カスタム コマンドまたはマルチシステム対応（MSA）ツールを実行する場合、このフィールドには中央管理サーバ（CMS）システム名が表示されます。MSAコマンドを使用する場合、コマンドはCMSに存在し、実際にはCMSからリモートシステムまたはシステムのリストに対して実行されます。このため、このタイプのコマンドのターゲットは、常に、CMSとして表示されます。
- **[実行者]**。タスクが実行されたときのユーザ コンテキストが表示されます。
- **[開始時刻]**。タスクが開始された時刻が表示されます。

- **[終了時刻]**。タスクが終了されたかキャンセルされた時刻が表示されます。
- **[経過時間]**。タスクの実行にかかった時間が表示されます。

注記:



タスク インスタンスのリストは、ユーザの権限とアクセス レベルに基づいて決まります。完全な設定権があるユーザは、システムが認識するすべてのタスク インスタンスを表示できます。

ターゲット詳細の表示

注記:



このセクションは、単一システム対応（SSA）ツールについてのみ表示されます。

[タスク インスタンスの結果]セクションから、**[概要ステータス]**の下テーブルのターゲット システムを選択します。

[ターゲットの詳細]セクションに、次の情報が表示されます。

- **[ステータス]**。ターゲットのステータスが表示されます。
- **[終了コード]**。実行可能プログラムが正常かエラーかを表します。一般に、戻り値がゼロか正である場合、実行可能プログラムは正常に実行されました。負の値が返された場合、実行可能プログラムはエラーです。
- **[ターゲット名]**。ターゲット名が表示されます。
- **[標準出力]**。出力テキスト情報が表示されます。
- **[標準エラー]**。実行可能プログラムでエラーが発生したかどうかに関する情報が表示されます。
- **[コピー済みファイル]タブ**。コピー中のファイル、またはターゲット システムにコピーされたファイルが表示されます。このタブは、ターゲット システムに対するファイル コピーを実行しないツールについては表示されません。

印刷可能なレポートの表示

現在選択しているターゲット システムのレポート、またはタスク インスタンスに関連しているすべてのターゲット システムのレポートを印刷できます。

レポートを印刷するには、次のように操作します。

1. 印刷可能なレポートの表示をクリックします。

[オプション メッセージ]ボックスが表示され、現在選択しているターゲット システムのみを含むレポート、またはタスク インスタンスに関連するすべてのターゲット システムを含むレポートを生成するかどうか、質問されます。このオプションは、タスク インスタンスに対して複数のターゲットが存在する場合にのみ表示されます。

2. 印刷するレポートを選択します。
3. 印刷をクリックしてレポートを印刷するか、ウィンドウを閉じて[タスク結果の表示]ページに戻ります。

関連プロシージャ

- スケジュール済みタスクの実行
- スケジュール済みタスクの削除
- レポートの印刷
- スケジュール済みタスクの編集
- タスクの停止

関連トピック

- タスクの使用法
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

レポートの印刷

現在選択しているターゲット システムのレポート、またはタスク インスタンスに関連しているすべてのターゲット システムのレポートを印刷できます。複数のターゲット システムが含まれていないタスク インスタンスの場合は、現在選択しているターゲット システムかすべてのターゲット システムのレポートを表示するかどうかをユーザに質問せずに、レポートが作成されます。

レポートを印刷するには、次のように操作します。

1. [タスク&ログ]>[タスク結果の表示]を選択します。
2. 印刷可能なレポートの表示をクリックします。

[印刷レポートの質問]が表示され、現在選択しているターゲット システムのみを含むレポート、またはタスク インスタンスに関連する、すべてのターゲット システムを含むレポートを生成するかどうか質問されます。

3. 印刷するレポートを選択します。
4. レポートを印刷するには、**OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- スケジュール済みタスクの実行
- スケジュール済みタスクの削除
- スケジュール済みタスクの編集
- タスク結果の表示
- タスクの停止

関連トピック

- タスクの使用法
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

タスク結果リスト

[タスク結果]リストには、システムが認識しているタスク インスタンスのリストが表示されます。表示された各タスク インスタンスには、一意のジョブID、タスクの名前、オーナー、ステータス、経過時間、タスクの開始時刻と終了時刻が表示されます。[タスク結果]リストには、実行されたスケジュール済みタスクのステータス情報と、スケジュールなしの実行可能なタスクの情報がリストされます。[タスク結果]リストを使用してタスク インスタンスの結果の停止、削除、表示ができます。

タスク情報を表示するには、[タスク&ログ]>[タスク結果の表示]を選択します。タスクの行をクリックし、次のオプションのうちいずれかを選択してください。

- **停止**。実行中のタスク インスタンスを停止する場合は、**停止**をクリックします。詳細については、「タスクの停止」を参照してください。
- **削除**。タスク インスタンスを選択し、**削除**をクリックします。詳細については、「タスク結果の削除」を参照してください。

注記：タスク インスタンスが現在実行中である場合は、タスク インスタンスを停止してから削除するように指示するメッセージが表示されます。

タスク インスタンスの結果は、[タスク結果]リストの下に表示されます。

[タスク インスタンスの結果]セクションに、次の情報が表示されます。

- **[ステータス]**。タスクのステータスが表示されます。異なるステータス タイプの詳細については、「タスク ステータス タイプ」を参照してください。
- **[ID]**。タスクのジョブID番号が表示されます。
- **[タスク名]**。実行されたタスク名が表示されます。
- **[ツール]**。使用されたツール名が表示されます。
- **[オーナー]**。タスクを現時点で所有しているユーザ名が表示されます。
- **[コマンド]**。タスクの実行時に使用されたコマンドが表示されます。
- **[ターゲット]**。タスクの実行対象とするために選択したターゲット収集または個々のシステムの名前が表示されます。カスタム コマンドまたはマルチシステム対応（MSA）ツールを実行する場合、このフィールドには中央管理サーバ（CMS）システム名が表示されます。MSAコマンドを使用する場合、コマンドはCMSに存在し、実際にはCMSからリモートシステムまたはシステムのリストに対して実行されます。このため、このタイプのコマンドのターゲットは、常に、CMSとして表示されます。
- **[実行者]**。タスクが実行されたときのユーザ コンテキストが表示されます。
- **[開始時刻]**。タスクが開始された時刻が表示されます。
- **[終了時刻]**。タスクが終了した時刻が表示されます。

- [経過時間]。タスクの実行に要した時間が表示されます。

タスク インスタンスのリストは、ユーザの権限とアクセス レベルに基づいて決まります。完全な設定権があるユーザは、システムが認識するすべてのタスク インスタンスを表示できます。

関連トピック

- タスクの作成
- タスクの使用法

タスクの停止

実行中のタスク インスタンスを停止する手順は次のとおりです。

タスク インスタンスを停止するには、次のように操作します。

1. [タスク&ログ]>[タスク結果の表示]を選択し、タスク インスタンスを[タスク結果]のリストから選択します。
2. 停止をクリックします。タスク インスタンスが終了状態である場合、停止が表示されず。タスクを停止できる場合は、選択したタスク インスタンスをキャンセルするか停止するかを質問するダイアログが表示されます。タスクを停止できることをツールが知らせない場合は、タスク インスタンスのキャンセルを確認するようにユーザに要求するダイアログが表示されます。「タスクの停止」では進行中のすべてのタスクの中断が試みられますが、「キャンセル」では最初から待機中のシステムが停止され、実行中または進行中のコマンドは完了されます。

関連プロシージャ

- スケジュール済みタスクの実行
- スケジュール済みタスクの編集
- スケジュール済みタスクの削除
- レポートの印刷
- タスク結果の表示

関連トピック

- タスクのスケジュール設定
- タスク結果リスト
- すべてのスケジュール済みタスク ページのナビゲート

タスク結果の削除

[タスク結果]ページからタスク インスタンスを削除する場合は、以下の手順で行います。

注記:

HP Systems Insight Managerからユーザを削除すると、このユーザに所属するすべてのタスクも削除されます。

インスタンスを削除するには次のように操作します。

1. [タスク&ログ]>[タスク結果の表示]を選択します。
テーブルからタスクを選択します。
2. 削除をクリックします。タスク インスタンスがデータベースから削除されます。

注記：タスク インスタンスが実行中である場合は、実行中のタスク インスタンスを停止してからタスクを削除するように指示するメッセージが表示されます。

コマンド ライン インタフェース

ツールをすぐに実行し、タスクを後で実行するようにスケジュールするには、**mxtask** コマンドを実行します。これらのタスクはコマンド ライン インタフェース (CLI) から実行します。このコマンドの詳細については、コマンドラインに **man mxtask** と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを表示するか、Windowsのコマンドラインヘルプを参照してください。マニュアルページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- タスクの作成
- タスクの停止

関連トピック

- タスクの使用法

時間フィルタの適用

タスクを実行すべきタイミングとタスクを実行すべきでないタイミングを決めるには、時間フィルタをタスクに適用します。時間フィルタの作成、コピー、編集、削除を実行できます。

どのユーザも時間フィルタを作成でき、すべてのユーザが、作成された時間フィルタにアクセスできます。

1. [ツール]メニューからツールを選択し、スケジュールボタンが表示されるよう手順に従い、このボタンをクリックします。詳細については、「タスクの作成」および「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
2. 時間フィルタをタスクに適用するには、[時間フィルタの使用:]チェックボックスをオンにします。

3. フィルタの管理をクリックします。[タスクのスケジュール]セクションの下に[時間フィルタの管理]セクションが表示されます。次の4つのオプションが使用できます。
 - **新規**。新しい時間フィルタを作成するには、[時間フィルタの管理]ボックスから新規をクリックします。新しい時間フィルタには、デフォルトの名前[新しい時間フィルタ X]が付いています。ここで「X」は、時間フィルタ名を一意にする数値です。新しい時間フィルタを保存する場合は、**OK**または**適用**をクリックします。新しい時間フィルタの変更をキャンセルする場合は、キャンセルをクリックします。
 - **編集**。ユーザが作成した時間フィルタは編集できます。時間フィルタの名前は変更できません。時間フィルタの名前を変更する必要がある場合は、時間フィルタをコピーしてから名前を変更します。**OK**または**適用**をクリックすると、時間フィルタの変更内容が保存されます。編集する時間フィルタが1つ以上のタスクで使用されている場合は、「編集すると、その時間フィルタを現在使用しているタスクに望ましくない影響が出る」という意味のメッセージが表示されます。この問題を解決するには、時間フィルタの名前を変更します。
 - **コピー**。すべてのユーザが、時間フィルタをコピーできます。コピーした時間フィルタは、名前に数値「X」が付いた状態で表示されます。「X」は、時間フィルタ名を一意にする数値です。時間フィルタの変更内容を保存するには、**OK**または**適用**をクリックします。
 - **削除**。ユーザは、他のユーザによって作成された時間フィルタを削除できます。削除する時間フィルタを選択し、削除をクリックしてください。削除する時間フィルタが1つ以上のタスクによって使用されている場合は、「1つ以上のタスクによって使用されているため、今は削除できない」という意味のメッセージが表示されます。






時間フィルタは、その時間フィルタを作成したユーザの時間帯で作成したり表示したりすることができます。たとえば、デフォルトで使用する時間フィルタを営業時間帯（午前8時から午後5時）にし、中央管理サーバ（CMS）と同じ標準時間帯でフィルタを表示する場合は、このフィルタが表示される時間は午前8時から午後5時の間になります。しかし、CMSが東部標準時（EST）にあり、太平洋標準時（PST）にいるユーザがこれを参照する場合は、時間フィルタの表示時間は午前5時から午後2時に変わります。また、インストールで作成された時間フィルタは、CMSの時間帯を使用します。




関連トピック

- タスクの使用法
- タスクのスケジュール設定

タスク ステータス タイプ

HP Systems Insight Managerでは、次のようなタスクの概要ステータスが報告されます。

-  **[障害]**。タスク インスタンスに障害が発生しており、直ちに対処する必要があります。
-  **[停止]**。タスク インスタンスが停止しています。
-  **[キャンセル]**。タスクが完了する前にタスク インスタンスがキャンセルされています。
-  **[完了]**。タスク インスタンスは正常に完了しています。
-  **[実行中]**。タスク インスタンスは問題なく動作しています。

-  [コピー中]。タスク インスタンスは問題なくコピーを実行しています。
-  [待機中]。タスク インスタンスは完了していないか、保留中です。
-  [スキップ]。タスク インスタンスにサポートされていないシステムが含まれているか、システムが無効にされた状態になっています。

注記：ツールがシステムをサポートしていない場合（WindowsツールをLinuxシステムで実行する場合など）、タスク ステータスは[スキップ]になり、ツールはそのシステムで実行されません。一部のシステムがツール フィルタに適合しなくても、システムの集合体に対してタスクを作成することができます。タスクを実行すると、ツール フィルタは、その時点で適用されます。これは、UIで少数のシステムを選択するときに「システムはLinux OSではありません」のようなエラー メッセージを示すターゲット選択確認画面が表示されることとは異なります。[スキップ]は、システムが無効になっているときに、そのシステムに対してポーリング ツール（ステータス ポーリングやデータ収集など）を実行する場合にも表示されます。

関連トピック

- タスクの使用法

デフォルト ツールの使用法

HP Systems Insight Managerには、数多くの強力なツールが用意されています。

- **クラスタ監視。** マルチシステムMSCSクラスタの監視と管理を行う機能が追加されます。
- **コマンドラインツール。** コマンドラインツールは、分散タスクファシリティ（DTF）の一部であり、HP Systems Insight Managerで利用可能なツールのうちの1つです。
- **カスタム コマンド。** ユーザが、アプリケーションやスクリプトを起動するカスタム コマンド ツールを作成して、管理できるようにします。
- **デバイスのping。** 1台以上のシステムに対してpingを実行できます。
- **ディスク スレッシュホールド。** 監視対象ノードのディスク利用状況の正常範囲、マイナー範囲、メジャー範囲が定義されます。ディスクスレッシュホールドの設定と削除に使用します。
- **DMIアクセス。** HP Systems Insight Manager 中央管理サーバ（CMS）を、選択された、DMIがインストールされているHP-UXシステム上のイベント ターゲットとして設定できます。
- **HP ProLiant Essentials Server Migration Pack（SMP）。** HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack（VMM）の機能を拡張して、統合P2Vマシン（physical-to-virtual）およびV2Vマシン（virtual-to-virtual）移行機能を提供します。

注記：このソフトウェアは、英語版のみ提供されています。また日本語OSへのインストールはサポートされていません。
- **ProLiant Support Packの初期インストール。** ユーザが管理対象システムにソフトウェアをインストールできるようにします。
- **ライセンス。** Windowsプラットフォームでのキー配布、調整、レポートなど、HP Systems Insight Managerからライセンス キーを管理できます。
- **管理プロセッサ ツール。** 管理プロセッサが検出されると使用可能になるツールは、system power、system locator、new user、modify user、delete user、LAN access、LDAP settings、iLO control、firmware update、およびdeploying SSH public keysです。
- **管理情報ベース（MIB）ツール。** MIBの管理に使用できるツールは、compiling MIBs、editing MIBs、registering and unregistering MIBs、およびviewing MIBsです。
- **OpenSSHのインストール。** 中央管理サーバ（CMS）から実行し、対象となるWindowsシステムにOpenSSHサービスをインストールしてから、**mxagentconfig**コマンドを実行して設定を完了します。
- **Performance Management Pack（PMP）。** 監視対象サーバのパフォーマンスの監視と分析をリアルタイムで行い、記録されたデータ セッションをPMPレポジトリから直接表示できます。
- **Process Resource Manager（PRM）ツール。** HPのProcess Resource Manager（PRM）を使用すると、システム管理者は、ビジネスが必要としているところに適切な量のシステム リソースを正確に集中させることができます。
- **プロパティ ページ。** 完全な設定権があるユーザは、WBEMシステムのプロパティページを表示できます。このページには、ネットワーク上にあるターゲット システムに関する

説明に役立つWBEMプロパティ、システムのステータスの調査に役立つWBEMプロパティ、およびWBEMプロパティに基づくターゲット システムのインベントリが含まれます。

- **エージェント設定のレプリケート。** HP Systems Insight Managerにより、Webエージェントの設定をソース システムから取得して任意に編集し、Webエージェントを通して1台以上のターゲット システムに、その設定をリモートで配布できます。
 - **Serviceguardクラスタ。** HP Serviceguard Managerを実行してクラスタ情報を表示するメカニズムを提供します。
 - **SNMPアクセス。** HP Systems Insight Manager 中央管理サーバ（CMS）を、選択されたHP-UXシステム上のトラップ ターゲットとして設定できます。
 - **System Management Homepage。** システムにインストールされている管理ソフトウェアとユーティリティのステータスが表示されます。
 - **システム ページ。** システムの一般情報、システムのステータス、システムに関連するURLのリストなど、ある特定のシステムに関連するすべての情報が表示されます。
 - **バージョン コントロール。** HP Insightマネジメント エージェント（HPバージョン コントロールレポジトリ マネージャ、HPバージョン コントロール エージェント、その他のエージェント）を使用し、ソフトウェア更新、および関連タスクを容易に実行できます。
 - **HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack** HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Packエージェントを、ターゲットVMホストにインストールできます。
- 注記：現在Vulnerability and Patch Management Packは、日本語OSへのインストールはサポートされていません。
- **Webmin。** UNIXのシステム管理用のWebベース インタフェースです。Linux環境でも使用できます。HP Systems Insight Managerを使用すると、ユーザ アカウント、Apache、DNS、ファイル共有などを設定できます。

関連プロシージャ

- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- ツールの削除と回復
- 新規Web起動ツール
- 新規X Windowツール
- ディスク スレッシュホールドの設定
- キーの収集
- キーのインストール
- キーの管理
- ファイルからのキーの追加
- キーの個別追加
- キー データベースの内容の表示
- キー詳細の表示
- 管理プロセッサ ユーザの削除
- 管理プロセッサへのSSHパブリック キー展開
- 管理プロセッサ ユーザの編集

- 管理プロセッサ ファームウェアのアップグレード
- 管理プロセッサのiLO制御の設定
- 管理プロセッサLANアクセスの設定
- 管理プロセッサのLDAPの設定
- 管理プロセッサの新しいユーザの作成
- 管理プロセッサのシステム ロケータ オプションの設定
- 管理プロセッサのシステム電源オプションの設定
- MIBのコンパイル
- MIBの編集
- MIBの登録
- MIBの登録解除
- MIBの表示
- 新規カスタム コマンドの作成
- カスタム コマンドの管理
- プロパティ ページ
- 初期ProLiant Support Packのインストール
- RDPを使用したOpenSSHの複数システムへのインストール
- OpenSSHのインストール
- エージェント設定のレプリケート タスクの作成
- SNMPを使用したストレージ検出
- HP Systems Insight ManagerのSNMPストレージ ソリューションとの併用
- RPMのインストール
- RPMのクエリ
- RPMのアンインストール
- RPMの確認
- System Management Homepageへのアクセス
- 単一システムのシステム プロパティの編集
- 単一システムのシステム監視の停止と回復
- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- バージョン コントロール エージェントへのアクセス
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス
- VMMエージェントのインストール
- VMMへのアクセス
- VMホストのライセンス

関連トピック

- コマンド ライン ツール
- カスタム コマンド
- クラスタ監視
- デバイスのping
- ディスク スレッシュホールド
- DMIアクセスの設定
- SNMPを使用したストレージ統合
- ライセンス マネージャ
- 管理プロセッサ ツール
- MIBの管理
- パートナー アプリケーション
- PMPツール
- Process Resource Managerの概要
- エージェント設定のレプリケート - リファレンス
- RPMパッケージ マネージャ
- HP Serviceguard Managerの概要

- Server Migration Pack
- SNMPアクセスの設定
- System Management Homepage
- システム ページ
- バージョン コントロール
- Virtual Machine Management Pack
- Webminの概要

クラスタ監視

クラスタ モニタにより、MSCSクラスタを監視できます。

クラスタ監視ページにアクセスするには、以下のいずれかの手順を実行します。

1. [ツール]->[システム情報]->[クラスタ監視]を選択します。

注記： MSCSクラスタが検出されていない場合、[クラスタ監視]はメニューに表示されません。

2. ターゲットMSCSクラスタを選択して、**すぐに実行**をクリックします。ターゲット クラスタの選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。

または

1. [システムおよびイベント]パネルの下にある[システム]を展開してクラスタ収集を選択し、クラスタを見つけます。

適切なクラスタ収集テーブルが、作業領域に表示されます。

注記： アクセス権限があるMSCSクラスタのみが、クラスタ テーブル ビュー ページに表示されます。

2. [クラスタ名]列で、MSCSクラスタの名前をクリックします。

または

クラスタ テーブル ビュー ページの[CS]列のMSCSクラスタ ステータス アイコンをクリックします。

このクラスタの[クラスタ監視]ページが表示されます。

[クラスタ監視]ページには、4つのタブがあります。

注記:



どのタブにも、[問題情報]セクションがあり、そのタブで報告されているあらゆる問題の詳細情報が表示されます。たとえば、[クラスタ]タブでは、クラスタのステータスが正常以外である場合に、そのステータス情報がこのセクションに表示されます。

注記:



各タブには、[最終更新日]フィールドもあり、そのタブの情報が最後に更新された時間が表示されます。

-
- クラスタ。 クラスタのステータス、名前、IPアドレス、フォーラムなどのクラスタ情報があります。
 - ノード。 ノードのステータス、名前、IPアドレスなどのノード情報があります。
 - ネットワーク。 ネットワークのステータス、名前、マスク、状態、役割、説明などのネットワーク情報があります。
 - リソース。 ステータス、名前、IPアドレス、状態、グループ、所有者ノード、タイプ、リソースのドライブなどの、クラスタについてのMSCSリソース情報があります。

関連トピック

- クラスタ監視のクラスタ タブ
- クラスタ監視のノード タブ
- クラスタ監視のネットワーク タブ
- クラスタ監視のリソース タブ

クラスタ リソース設定の指定

環境に合わせてクラスタ監視リソースをカスタマイズするには、クラスタレベルのリソース設定を指定します。

注記:



クラスタ監視のどのドロップダウン ボックスでも、キーボードで英数字を入力したり、矢印キーでオプションを強調表示するときは、項目を選択するために必ず**Enter**キーを押してください。

クラスタ リソース設定を指定するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[クラスタ監視]>[クラスタ リソースの設定]を選択します。[クラスタ監視 - クラスタ リソースの設定]ページが表示されます。
2. [クラスタ タイプ]リストから[すべて (MSCS)]を選択して、MSCSクラスタを設定します。
3. [リソース]リストから[MSCS]を選択します。
4. [ポーリング]を選択して、ポーリング率を設定します。

注記：[ポーリング]は5分以上に設定することをおすすめします。

5. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- ノード リソース設定の指定

関連トピック

- クラスタ テーブル ビュー ページ
- クラスタ監視

ノード リソース設定の指定

環境に合わせてクラスタ監視をカスタマイズするには、ノードレベルのリソース設定を指定します。

ノード リソース設定を指定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**→**[クラスタ監視]**→**[ノード リソースの設定]**を選択します。**[クラスタ監視 - ノード リソースの設定]**ページが表示されます。
2. ページ最上部の**[クラスタ]**リストからクラスタを選択します。すべてのクラスタで同じようにリソースを設定するには、**[すべて]**を選択します。CPU利用率やディスク容量のポーリング率を設定するには、クラスタ選択を**[すべて]**に設定する必要があります。
3. **[ノード]**リストからノードを選択します。選択したクラスタのすべてのノードに同じリソースを設定するには、**[すべて]**を選択します。手順1のクラスタと同様、一部のリソース属性は、すべてのノードに対して一度しか設定できないので、すべてのクラスタとノードを選択する必要があります。特定のリソース属性のヘルプを表示するには、個々の属性の説明を参照してください。
4. リソースの設定可能パラメータのボタンを表示するには、**[リソース]**リストからリソースを選択します。
5. 適切なリソース オプションを指定します。

注記：[ポーリング]は5分以上に設定することをおすすめします。

注記：[クラスタ]リストから**[すべて]**を選択し、[リソース]リストから**[CPU]**か**[ディスク]**を選択した場合、ポーリング値かスレッシュOLD値を設定できます。**[ポーリング]**を選択して値を設定してから**[スレッシュOLD]**を選択して値を設定し、**[ポーリング]**を再び選択すると、新しいポーリング値が表示されます。**OK**をいつクリックしたかに関係なく、ポーリング値かスレッシュOLD値の設定後は、この値が保存され、元の値にはリセットされません。これは、スレッシュOLDの設定時にも当てはまります。

6. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- クラスタ リソース設定の指定

関連トピック

- クラスタ テーブル ビュー ページ

- クラスタ監視

クラスタ監視のクラスタ タブ

クラスタ監視の[クラスタ]タブは、MSCSクラスタについての次の情報を表示します。

- **ステータス。** クラスタのステータスを表示します。クラスタのステータスには、クリティカル、メジャー、マイナー、正常、および不明があります。ステータス タイプの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。
- **名前。** クラスタの名前またはエイリアス。
- **IPアドレス。** クラスタのエイリアスのIPアドレス。
- **ウォールム。** 重要なクラスタデータを保持し、すべてのノードが最新のデータベース変更にアクセスできることを保証するリソース。

カラム見出しをクリックすると、[クラスタ]タブ上の情報を並べ替えることができます。これによって、昇順か降順で列が並び替わります。

[問題情報]セクションには、クラスタの、正常以外のステータスについての詳細情報が表示されます。

関連トピック

- クラスタ監視
- クラスタ監視のノード タブ
- クラスタ監視のネットワーク タブ
- クラスタ監視のリソース タブ
- システム ステータス タイプ

クラスタ監視のノード タブ

クラスタ監視の[ノード]タブは、MSCSクラスタについての次の情報を表示します。

- **ステータス。** ノードのステータスを表示します。ノードのステータスには、クリティカル、メジャー、マイナー、正常、障害、および不明があります。ノードのステータス タイプの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。
- **名前。** ノード名。
- **IPアドレス。** ノードのIPアドレス。

カラム見出しをクリックすると、[ノード]タブ上の情報を並べ替えることができます。これによって、昇順か降順で列が並び替わります。

[問題情報]セクションには、ノードの、正常以外のステータスについての詳細情報が表示されます。

関連トピック

- クラスタ監視
- クラスタ監視のクラスタ タブ
- クラスタ監視のネットワーク タブ

- クラスタ監視のリソース タブ
- システム ステータス タイプ

クラスタ監視のネットワーク タブ

クラスタ監視の[ネットワーク]タブは、MSCSクラスタについての次の情報を表示します。

- ステータス。 ネットワークのステータスを表示します。ネットワークのステータスには、クリティカル、メジャー、マイナー、正常、無効および不明があります。ネットワーク ステータス タイプの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。
- 名前。 ノード間の内部通信を伝達し、クラスタ リソースに対するクライアント アクセスを提供するサーバ クラスタ オブジェクト。
- マスク。 クラスタ内の各ネットワークに関連付けられたサブネット マスク。
- 状態。 ネットワークの状態。正常（ネットワークの状態は、オンラインか使用可能です）。劣化（ネットワークがパーティション分割されています）。障害（ネットワークの状態がオフラインです）。その他（エラーが発生して、ネットワークの正確な状態を判断できないか、ネットワークの状態が使用不可能です）。
- 役割。 ネットワーク名がクラスタで果たす役割。クラスタのネットワーク名、クラスタのコンピュータ システムのネットワーク名、クラスタのグループのネットワーク名。
- 説明。 ネットワークの説明

カラム見出しをクリックすると、[ネットワーク]タブ上の情報を並べ替えることができます。これによって、昇順か降順で列が並び替わります。

[問題情報]セクションには、ネットワークの、正常以外のステータスについての詳細情報が表示されます。

関連トピック

- クラスタ監視
- クラスタ監視のクラスタ タブ
- クラスタ監視のノード タブ
- クラスタ監視のリソース タブ
- システム ステータス タイプ

クラスタ監視のリソース タブ

クラスタ監視の[リソース]タブは、MSCSクラスタについての次の情報を表示します。

- ステータス。 リソースのステータスを表示します。リソースのステータスには、クリティカル、メジャー、監視、正常、および不明があります。ネットワーク ステータス タイプの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。
- 名前。 ノードが所有したり、オンラインにしたり、オフラインにしたり、ノード間で移動したり、サーバ クラスタ オブジェクトとして管理したりできる物理要素または論理要素。
- IP。 クラスタのIPアドレス。

- **状態。** リソースの状態。正常（リソースの状態はオンラインです）。劣化（リソースの状態は、使用不可、オフライン、オンライン保留、オフライン保留のうちいずれかです）。障害（リソースの状態は障害です）。その他（リソースの状態を判断できません）。

- **グループ。** 単一のサーバ クラスタ オブジェクトとして管理されるリソースの集合。

注記：グループ リソースにアクセスするには、グループにネットワーク名と、関連するIPアドレスを割り当てる必要があります。グループは、クラスタ内の任意のノードが所有でき、負荷の均一化やその他の管理目的で、完全な設定権があるユーザが移動できます。障害が発生すると、グループ全体がフェールオーバーされ、クラスタ ソフトウェアがすべてのグループ リソースとデータをクラスタ内の別のノードに転送するよう指示します。転送された（フェールオーバーされた）グループのリソースとデータは、別のノードへ移動された後でも、同じネットワーク名とIPアドレスでアクセスできます。

- **オーナーノード。** リソースが常駐するノード。
- **タイプ。** 類似した特徴を持つリソースを分類し、管理するために使用するサーバ クラスタ オブジェクト。
- **ドライブ。** リソースが存在するディスクまたはドライブ。

[最終更新日]フィールドには、タブ上の情報の最後に更新された日時が表示されます。**[問題情報]**セクションには、報告されているあらゆるリソースの問題についての詳細情報が表示されます。

[問題情報]セクションには、リソースの、正常以外のステータスについての詳細情報が表示されます。

関連トピック

- クラスタ監視
- クラスタ監視のクラスタ タブ
- クラスタ監視のノード タブ
- クラスタ監視のリソース タブ
- システム ステータス タイプ

MSCSステータス

MSCSステータスの監視

HP Systems Insight Managerは、各監視対象Windowsクラスタ上のMSCS（Microsoft Clustering Service）のステータスを監視し、クラスタ監視にクラスタ属性として表示します。クラスタ監視は、クラスタ テーブル ビュー ページの**[CS]**列にクラスタ ステータスを提供します。クラスタ監視は、設定された間隔でクラスタをポーリングして、ステータス値を取得します。

MSCSリソースの設定については、「クラスタ監視のポーリング率」を参照してください。

[クラスタ監視 - クラスタ リソースの設定]ページにアクセスするには、（**[オプション]**->**[クラスタ監視]**->**[クラスタ リソースの設定]**）をクリックします。

注記:



完全な設定権があるユーザのみが、ポーリング値を変更できます。

関連トピック

- クラスタ監視
- クラスタ監視リソース

クラスタ監視リソース

HP Systems Insight Managerは、次のようなクラスタ監視リソースをサポートします。

- ディスク
- CPU
- システム

システム リソースは、クラスタ メンバのシステム ヘルスを監視します。

ディスクおよびCPUリソースは、それぞれ、ディスク容量およびCPUの利用率を監視します。クラスタのそれぞれのノードには、マイナー スレッシュホールドとメジャー スレッシュホールドを設定できます。このスレッシュホールドに達すると、クラスタ監視は、HP Systems Insight Managerイベントを生成します。イベントにより、HP Systems Insight Managerオプションで設定したように、関連するEmail通知とポケベル通知がトリガされます。

クラスタ監視の状態

注記:



クラスタのすべてのノードがダウンしている場合、クラスタ状態は[その他]になります。

次の表では、リストごとに状態カテゴリについて説明します。

リスト	正常	劣化	障害	その他
ノード	ノードのステータスは、アクティブなクラスタメンバです。	ノードステータスはダウンです。クラスタの改善か再結合を試しており、クラスタのアクティブメンバとして動作していますが、リソースやリソースグループをホストできません。または、アップしていますが、クラスタアクティビティが一時停止しています。	ノードステータスはダウンです。または、クラスタの編成か再結合を試しています。	ノードステータスは使用不可能であり、判断できません。
ネットワーク	ネットワークの状態は、オンラインか使用可能です。	ネットワークの状態はパーティション分割です。	ネットワークの状態はオフラインです。	ネットワークの状態により、エラーが発生したことが示されています。ネットワークの正確な状態を判断できず、ネットワークの状態は使用不可能です。
リソース	リソースの状態はオンラインです。	リソースの状態は、使用不可、オフライン、オンライン保留、またはオフライン保留のうちのいずれかです。	リソースの状態は障害です。	リソースの状態は不明です。

注記:

Microsoft Cluster Serviceの詳細については、Microsoftのマニュアルを参照してください。

関連トピック

- クラスタ監視

クラスタ監視のリソースおよび関連設定

注記:



クラスタ監視は、MSCSクラスタのみを対象としますが、クラスタ監視のCPUおよびディスクスレッシュホールド機能は、クラスタノードがHP Insightマネジメントエージェントを実行していれば、どのクラスタでも使用できます。

このバージョンのHP Systems Insight Managerには、次のノードレベル クラスタ監視 リソース、および関連設定が含まれます。

- CPU（「クラスタ監視のポーリング率」または「クラスタ監視のリソース スレッシュホールド」を参照）
- ディスク（クラスタについては、「クラスタ監視のポーリング率」または「クラスタ監視のリソース スレッシュホールド」を参照）
- システム（ノードについては、「クラスタ監視のポーリング率」を参照）

注記:



CPUの利用率データについては、「クラスタ監視リソース」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム収集またはクラスタ収集のカスタマイズ
- クラスタの高度な検索の実行

関連トピック

- クラスタ監視
- システムとイベントの検索
- クラスタ監視リソース
- クラスタ テーブル ビュー ページ
- [システムおよびイベント]パネルのナビゲート

クラスタ監視のポーリング率

ポーリング率

注記:



すべてのクラスタのすべてのノードに、1つのポーリング率（間隔）のみを指定できます。別々のノードに別々のポーリング率を指定できないので、[クラスタ]ドロップダウンリストと[ノード]ドロップダウンリストの両方で[すべて]を選択した場合に限り、設定ページにポーリング フィールドが表示されます。

CPUポーリング率

CPUポーリング率は、クラスタ監視が、監視対象ノードの該当するHP Insightマネジメント エージェントからレポートされるCPU利用率をチェックする頻度を指定します。

CPUポーリング率は、クラスタ監視のノードリソース設定を行って、調整してください。ノードリソース設定の詳細については、「ノードリソース設定の指定」を参照してください。

ディスク ポーリング率

ディスク ポーリング率は、クラスタ監視が、監視対象ノードの該当するHP Insightマネジメント エージェントからレポートされる空きディスク容量をチェックする頻度を指定します。

ディスク ポーリング率は、クラスタ監視のノードリソース設定を行って、調整してください。ノードリソース設定の詳細については、「ノードリソース設定の指定」を参照してください。

MSCSステータスのポーリング率

入力するポーリング率は、クラスタ監視が、監視対象クラスタのMSCSのステータスをチェックする頻度を指定します。

ステータス ポーリング率は、クラスタ監視のクラスタ リソース設定を行って、調整してください。クラスタ リソース設定の詳細については、「クラスタ リソース設定の指定」を参照してください。

システム ステータスのポーリング率

システム ポーリング率は、クラスタ監視が、監視対象ノードの該当するHP Insightマネジメント エージェントからレポートされるノード ステータスをチェックする頻度を指定します。

システムはノードレベルの属性なので、ポーリング率を調整するには、クラスタ監視のノードリソース リソース設定を行います。ポーリング率は、リソースのグローバル属性なので、すべてのクラスタのすべてのノードに1つのポーリング間隔しか指定できません。ポーリングフィールドは、[クラスタ]ドロップダウン リストと[ノード]ドロップダウン リストで[すべて]を選択した場合に限って、設定ページに表示されます。

関連プロシージャ

- クラスタ リソース設定の指定
- ノード リソース設定の指定

関連トピック

- クラスタ監視

クラスタ監視のリソース スレッシュホールド

スレッシュホールドの概要

クラスタリソースは、スレッシュホールドを使用してHP Systems Insight Managerイベントをトリガします。ディスクリソースではディスク容量のスレッシュホールドを設定し、CPUリソースではCPU利用状況のスレッシュホールドを設定します。

ディスク容量スレッシュホールド

ディスクリソースは、ディスク容量データを収集します。スレッシュホールドが設定されている[クラスタ監視 - ノード リソースの設定]ページにアクセスするには、[オプション]>[クラスタ監視]>[ノード リソースの設定]を選択します。

[選択したリソースの設定]セクションに入力したスレッシュホールド値により、監視対象ノードのディスク利用率の正常範囲、マイナー範囲、およびメジャー範囲が定義されます。

ディスクごとに、4つのスレッシュホールドがペアになっています。各マイナー スレッシュホールドと各メジャー スレッシュホールドは、対応するリセット スレッシュホールドに関連します。利用率は、メジャー スレッシュホールド値以上になるとメジャー範囲になり、メジャー リセット値以下になるまでメジャー範囲に留まります。マイナーとメジャーのリセット スレッシュホールドは、同じように動作します。

クラスタの各ノードのディスクごとに異なるスレッシュホールドを指定できます。

ディスク容量スレッシュホールドの設定方法については、「ノード リソース設定の指定」を参照してください。

CPU利用状況スレッシュホールド

CPUリソースは、特定のノードのCPU利用率データを収集します。スレッシュホールドが設定されている[クラスタ監視 - ノード リソースの設定]ページにアクセスするには、[オプション]>[クラスタ監視]>[ノード リソースの設定]を選択します。

[選択したリソースの設定]セクションに入力したスレッシュホールド値により、選択したノードのCPU利用率の正常範囲、マイナー範囲、およびメジャー範囲が定義されます。

CPUごとに、4つのスレッシュホールドがペアになっています。各マイナー スレッシュホールドと各メジャー スレッシュホールドは、対応するリセット スレッシュホールドに関連します。利用率は、メジャー スレッシュホールド値以上になるとメジャー範囲になり、メジャー リセット値以下になるまでメジャー範囲に留まります。マイナーとメジャーのリセット スレッシュホールドは、同じように動作します。

クラスタの各ノードのCPUごとに異なるスレッシュホールドを指定できます。

CPUスレッシュホールドの設定方法については、「クラスタ リソース設定の指定」を参照してください。

関連トピック

- クラスタ監視

コマンド ライン ツール

基本的なUNIXコマンドとWindowsコマンドを1台以上のシステムでリモートで実行するには、コマンド ライン インタフェース (CLI) ツールを使用します。

注記:



それぞれのコマンドの詳細については、コマンド ツールをインストールしているHP-UXシステムとLinuxシステムの関連マンページ、またはWindowsのコマンド ライン ヘルプを参照してください。

注記:



lsと**df**など、HP-UXとLinuxで提供されるコマンド ライン ツールは、デフォルトではrootユーザの権限で実行されます。セキュリティを確保するために、特定ユーザとしてコマンド ライン ツールを実行させ、意図していない機能をユーザに許可することを防止しなければならないことがあります。

コマンド ライン ツールを起動するには、次のように操作します。

1. LinuxまたはUNIXのコマンド ライン ツールの場合、[ツール]->[コマンド ライン ツール]->[UNIX/Linux]を選択します。

または

Windowsのコマンド ライン ツールの場合、[ツール]->[コマンド ライン ツール]->[Windows]を選択します。
2. 実行するコマンド ライン ツールを選択し、手順に従ってツールを起動します。手順で支援が必要な場合は、「タスクの作成」を参照してください。
3. すぐに実行をクリックします。ツールが起動されます。

コマンド ライン インタフェース

コマンド ライン インタフェースから1つ以上のシステムでコマンド ツールを起動するには、**mxexec**コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、関連マンページを参照してください。マンページへのアクセスの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連トピック

- コマンド ライン インタフェース コマンドの使用

- タスクの使用法
- タスク結果の表示

新規コマンド ライン ツールの作成

注記:



これらのツールは、HP-UXおよびLinux 中央管理サーバ CMSシステムでのみ利用できます。Windows CMSでは利用できません。

新しいコマンド ライン ツールは、分散タスク ファシリティ (DTF) の一部であり、HP Systems Insight Managerで利用可能なツールのうちの1つです。完全な設定権があるユーザは、新しいコマンド ライン ツールを作成できます。[コマンド ライン ツール]メニューには、作成されたツールが表示されます。表示されたツールをスケジュールすることもできます。

使用できる新しいツールには、以下のものがあります。

- 新しいコマンド ライン ツール。 [ツール]->[コマンド ライン ツール]->[新規コマンド ライン ツール]->[新規コマンド ライン ツール]を選択します。[新規コマンド ライン ツール]ページが表示されます。
- 新しいコピー ファイル ツール。 必要に応じて、スクリプトをコピーし実行するツールを作成するために使用します。[ツール]->[コマンド ライン ツール]->[新規コマンド ライン ツール]->[新規ファイル コピー ツール]を選択します。[新規ファイル コピー ツール]ページが表示されます。
- 新しいX Windowsツール。 [ツール]->[コマンド ライン ツール]->[新規コマンド ライン ツール]->[新規X Windowツール]を選択します。[新規X Windowツール]ページが表示されます。

関連プロシージャ

- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- ツールの削除と回復
- 新規Web起動ツール
- 新規X Windowツール

関連トピック

- コマンド ライン ツール リファレンス
- コマンド ライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例

新規コマンド ライン ツール

このツールを使用して、ターゲット システム上実行される簡単なコマンド ライン ツールを作成します。このツールは、一時的なXMLツール定義ファイルを/var/tmpの下に作成し、コマンド **mxtool -af file**を使用してロードします。この操作は、必要なフィールドにデータを入力するだけで行えます。

警告！



このツールをrootユーザの権限で実行するように定義した場合は、コマンドの定義方法や機能によっては、このツールを実行する権限のあるすべてのユーザが管理対象システムにアクセスできるようになる場合があります。それ以外の場合は、ツールは、HP Systems Insight Manager ユーザの権限で実行され、**mxagentconfig**コマンドを使用して、そのユーザのSSHパブリックキーが管理対象システム上で設定される必要があります。

新しいコマンドライン ツールを作成するには、次のように操作します。

1. [ツール]>[コマンドライン ツール]>[新規コマンドライン ツール]>[新規コマンドライン ツール]を選択します。[新規コマンドライン ツール]ページが表示されます。
2. [パラメータ]で、標準のツールパラメータを使用して情報を追加します。必要なフィールドは次のとおりです。
 - ツール名
 - ツール コマンド（必要に応じて、パラメータ）
3. すぐに実行をクリックして、新しいツールの作成タスクをすぐに実行するか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

追加情報

追加情報は、次の各セクションで提供されています。

- 「ツールのタイプ」
- 「パラメータ化された文字列」
- 「ツール フィルタ」
- 「バージョン番号」
- 「その他の要件」
- 「文書型定義」

関連プロシージャ

- 新規コピー ファイル ツール
- ツールの削除と回復
- 新規Web起動ツール
- 新規X Windowツール

関連トピック

- コマンドライン ツール
- コマンドライン ツール リファレンス

- コマンド ライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例

新規コピー ファイル ツール

スクリプトをターゲット システムにコピーし、必要に応じて、このスクリプトを実行させるコマンド ライン ツールを作成するには、新しいコピー ファイル ツールを使用します。

このツールは、ファイルを各システムにコピーし、コマンド（スクリプトの場合はそのファイル）を実行するコマンド ライン ツールを作成します。コピーするファイルのソースパスとターゲット パスが異なる必要があることに注意してください。

このツールは、一時的なXMLツール定義ファイルを/var/tmpの下に作成し、コマンド**mxtool -af file**を使用してロードします。この操作は、必要なフィールドにデータを入力するだけで行えます。

警告！



このツールをrootユーザの権限で実行するように定義した場合は、コマンドの定義方法や機能によっては、このツールを実行する権限のあるすべてのユーザが管理対象システムにアクセスできるようになる場合があります。それ以外の場合は、ツールは、HP Systems Insight Manager ユーザの権限で実行され、**mxagentconfig**コマンドを使用して、そのユーザのSSHパブリック キーが管理対象システム上で設定される必要があります。

新しいコピー ファイル ツールを作成するには、次のように操作します。

1. [ツール]>[コマンド ライン ツール]>[新規コマンド ライン ツール]>[新規ファイル コピー ツール]を選択します。[新規ファイル コピー ツール]ページが表示されます。
2. [パラメータ]で、標準のツール パラメータを使用して情報を追加します。必要なフィールドは次のとおりです。
 - ツール名の入力
 - 中央管理サーバ上のソースパスの入力
 - 管理対象システム上のターゲット パスの入力
 - コマンドの入力

パラメータの入力例については、コピー ファイル ツールの作成例を参照してください。

3. すぐに実行をクリックしてタスクをすぐに実行するか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

追加情報

追加情報は、次の各セクションで提供されています。

- 「ツールのタイプ」
- 「パラメータ化された文字列」

- 「ツール フィルタ」
- 「バージョン番号」
- 「その他の要件」
- 「文書型定義」

コピー ファイル ツールの作成例

次に、スクリプト ファイル（myScript）をターゲット システムにコピーして、そのスクリプトを実行する手順の例を示します。

1. [ツール名の入力]フィールドに、**My Script**など、新しいツールの名前を入力します。
2. [中央管理サーバ上のソース パスの入力]フィールドに、たとえば、次のように入力します。/home/user name/myScript.
3. [管理対象システム上のターゲット パスの入力]に、ツールを保存するパスを入力します。
例：/tmp/myScript
4. [コマンドの入力]フィールドに、管理対象システム上でツールを実行するコマンドを入力します。例：sh/rmp/myScript

関連プロシージャ

- 新規コマンド ライン ツール
- ツールの削除と回復
- 新規Web起動ツール
- 新規X Windowツール

関連トピック

- コマンド ライン ツール
- コマンド ライン ツール リファレンス
- コマンド ライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例

新規X Windowツール

このツールを使用して、ターゲット システム上実行されるX Windowコマンド ライン ツールを作成します。このツールは、一時的なXMLツール定義ファイルを/var/tmpの下に作成し、コマンド**mxtool -af file**を使用してロードします。この操作は、必要なフィールドにデータを入力するだけで行えます。

警告！



このツールをrootユーザの権限で実行するように定義した場合は、コマンドの定義方法や機能によっては、このツールを実行する権限のあるすべてのユーザが管理対象システムにアクセスできるようになる場合があります。それ以外の場合は、ツールは、HP Systems Insight Manager ユーザの権限で実行され、**mxagentconfig**コマンドを使用して、そのユーザのSSHパブリック キーが管理対象システム上で設定される必要があります。

1. [ツール]>[コマンドライン ツール]>[新規コマンドライン ツール]>[新規**X Window**ツール]を選択します。[新規**X Window**ツール]ページが表示されます。
2. [パラメータ]で、標準のツール パラメータを使用して情報を追加します。必要なフィールドは次のとおりです。
 - ツール名
 - ツール コマンド（必要に応じて、パラメータを指定）
3. **すぐに実行**をクリックしてタスクをすぐに実行するか、**スケジュール**をクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

追加情報

追加情報は、次の各セクションで提供されています。

- 「ツールのタイプ」
- 「パラメータ化された文字列」
- 「ツール フィルタ」
- 「バージョン番号」
- 「その他の要件」
- 「文書型定義」

関連プロシージャ

- 新規コマンドライン ツール
- ツールの削除と回復
- 新規Web起動ツール
- 新規コピー ファイル ツール

関連トピック

- コマンドライン ツール
- コマンドライン ツール リファレンス
- コマンドライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例

コマンドライン ツール リファレンス

ツールのタイプ

HP Systems Insight Managerのツールには、5つの基本タイプ（単一システム対応（SSA）ツール、マルチシステム対応（MSA）ツール、Web起動対応（WLA）ツール）があります。

SSAツールは、ターゲット システム上で実行され、ターゲット システム環境にのみ対応します。このため、SSAツールを実行する場合は、分散タスク ファシリティ（DTF）がツール情報を各HP Systems Insight Managerエージェントに送信してツールを実行します。SSAツールには、**ls**、**cat**、**cp**など、一般的なUNIXコマンドをラップするツールがあります。

MSAツールは、中央のシステム上（場合によっては、中央管理サーバ（CMS））上で実行され、ターゲット システムのリストの処理方法を認識しています。MSAツールには、HP-UXシステム上のIgnite-UXの機能をラップするツールなどがあります。

WLAツールは、通常、ブラウザ内で実行されるツールで、URL（universal resource location）で指定されます。

パラメータ化された文字列

ツールを正しく作成するために、ツール開発者は、URLとコマンド ラインの形成方法を理解する必要があります。ツール開発者は、パラメータ化された文字列を使用することにより、ツール定義ファイル（TDEF）作成の際に使用できるオプションの機能を大幅に強化できます。

パラメータ化された文字列は、置換フィールドのある文字列で、標準Cライブラリにある有名なprintf()関数で使用するフォーマット文字列と似ています。これらのフィールドは、（ツールパラメータ属性で定義されているとおり）実行時にユーザが入力した値、タスクコントローラの提供する標準のタスクプロパティ、選択されたターゲットシステムまたはシステムグループに関連する値、またはグローバル ツール プロパティ ファイルから取得されたプロパティ値で置き換えることができます。これによって、非常に具体的なURLまたはコマンド ラインを生成することが可能になります。

パラメータ化された文字列の置換テーブル

次のパラメータは、グローバル属性値の置換を提供します。

パラメータ	説明
%t	実行されているタスクのタスクID。
%u	このツールを実行するユーザの名前。
%e	このツールを実行するユーザ権限の名前。
%s	このツールを実行するコアCMSの管理サーバホスト名。
%#	（#は正の整数）リスト インデックス位置（%1、%2、%3などのように1ずつ増える）として提供される番号（#）が示すパラメータを、ユーザ入力値に置き換えてください。
%y	SOAPログオン トークン。SOAP single sign-on Webアプリケーションで使用します。

次のパラメータは、現在選択されているターゲットの置換を提供します。

パラメータ	説明
%f	ターゲット システム（%xtグルが文字列内にある場合はシステム グループ）のデータベース名。
%n	ネットワーク名（ホスト名、IPアドレス、IPXアドレス、またはシステム名の順）
%a	ネットワーク アドレス（IPアドレス、またはIPXアドレスの順）

パラメータ	説明
%l	システムリンクの設定で指定されたフォーマットでのリンク名（名前、IPアドレス、または完全DNS名）
%p	このターゲットのWBEMプロキシのIPアドレス。<ip address>:<port#></port#></ip>の形式。
%g	ターゲット システム（%xトグルが文字列内にある場合はシステム グループ）のデータベースGUID。
%b	ターゲット システムのシステム タイプ。
%c	ターゲット システムのシステムsupタイプ。
%r% (rt[.attribute]%)	パラメータ"rt"に指定されているリレーションタイプのある関連システムで置換します。有効なリレーションシップ タイプ文字列は、device_associationsテーブルのassociationTypeNumber列に格納されているものです。[.attribute]が指定されている場合は、指名されたシステム属性の1つがシステムに返されます。また、ネットワーク名などの一般属性（.a）も有効です。たとえば、サーバの管理プロセッサのIPアドレスを取得するには、%r{MgmtProcToServer.a%}を使用し、通信を取得するには、%r{MgmtProcToServer.Contact%}を使用してください。関連システム属性が省略されると、各システムに対して、ネットワーク名とIPアドレスが返されます。ネットワーク名とIPアドレスは、"network name ip address"という形式で返されます。複数のノードが返される場合は、カンマで区切られます。なお、リレーションシップ タイプ"MgmtProcToServer"を使用して、すべての管理プロセッサ リレーションシップ タイプに対する関連システム情報を返すことができます。
%([attribute]%)	ターゲット システムの指名された属性の値。

次のパラメータは、選択されているターゲット システムを複数サポートするために繰り返しを提供します。

パラメータ	説明
%(... %)	繰り返しパターン（現在の選択が存在する場合にのみ繰り返します）。現在ターゲットの選択が存在しない場合は、拡張内の区切り文字の間のテキストが削除されます。これによって、テキストがオプションとなり、ターゲット選択リストに依存するようになります。
%i	選択インデックス（1から始まる）。

パラメータ	説明
%z	何も置換しません。選択インデックスを次の整数に増加させ、参照されるターゲット システムを選択されたターゲット リスト内の次のターゲットに移動します。
% <... >	暗号化されたテキスト（他のすべてのパラメータが置換された後に暗号化します）。
%%	置換語に、コマンド/URLに%を保持することを可能にします。

ツール フィルタ

ツール フィルタは、ツールの記述者が、選択したシステム上でツールを実行するかどうかを制御できるようにする機能です。ほとんどのツールは、正常な動作が一部のプラットフォームのみで提供されているコマンドに依存するという点でプラットフォーム依存です。たとえば、**bdf** ツールは、**bdf** コマンドに依存します。このコマンドは、HP-UXプラットフォームで提供されますが、Linuxプラットフォームではその名前では使用できません。ツールは、フィルタ要件を満たすシステムが1台以上検出されている場合にのみ、**[ツール]**メニューに表示される必要があります。検出されたシステムは、フィルタ要件を満たす必要があり、すべてのフィルタ要件に合格した場合のみ実行されます。そのためには、ツールは、システム フィルタ式に、動作可能なすべてのシステムがもつ必要のあるシステム属性を指定します。

ツールが動作するために必要なシステム属性は、次の形式をもつシステム フィルタ式によって指定されます。

```
<system-filter name="attribute-name" operator="eq"
value="attribute-value" />
または
<system-filter name="attribute-name" operator="ge"
value="attribute-value" />
または
<system-filter name="attribute-name" operator="lt"
value="attribute-value" />
または
<system-filter name="attribute-name" operator="ct"
value="attribute-value" />
または
<system-filter name="attribute-name" operator="neq"
value="attribute-value" />
または
<system-filter name="attribute-name" operator="nct"
value="attribute-value" />
```

eq演算子は、ツールの動作可能なシステムは指定された属性値と完全に同じ属性値をもつ必要があることを指定します。この演算子は、システム フィルタ式で使用可能なあらゆる属性名に適用されます。ge演算子は、ツールの動作可能なシステムは指定されている属性値以上の値をもつ必要があることを指定します。lt属性とge属性は、リビジョン属性、特にOSタイプフィル

タ内のOSRevision属性、およびProtocolタイプフィルタのすべての属性でのみ使用できます。これらの属性の値は、数値または文字列で指定できます。ct演算子は、ツールの動作可能なシステムは指定された値を含む属性をもつ必要があることを指定します。neq演算子は、ツールの動作可能なシステムは指定された属性値と完全に同じ属性値をもってはならないことを指定します。この演算子は、システム フィルタ式で使用可能なあらゆる属性名に適用されます。nct演算子は、ツールの動作可能なシステムは指定された値を含む属性をもってはならないことを指定しますシステムでは、フィルタ式が指定できる数値の属性に、OSRevisionとProtocol Support属性を含みます。これらは、バージョン番号ですバージョン番号に指定できる値とその比較方法は、以下の「バージョン番号」の項に説明されています。attribute-nameは、以下の表にある値の1つ、またはシステムのProtocolSupport属性からのプロトコル名です。attribute-valueは、attribute-nameに対して存在するシステム属性値の1つです

属性値は、Distributed Task Force (DMTF) の共通情報モデル (CIM) に基づいています。通常、これらの値はシステム認証プロセス中に定義されます。このプロセスは、WBEMとSNMPを使用してシステム属性を決定します。このリリースでは、有効なOSName値は、HP-UXとLinuxです。HP-UXのOSName値については、OSRelease属性値の最初のアルファベット フィールドが削除されます（たとえば、B.11.11は11.11として格納されます）。

システム フィルタ式は、includeフィルタ式の一部として使用されます。includeフィルタ式には3つのタイプがあり、それぞれ、異なったカテゴリの属性名でのフィルタが可能です。

カテゴリ	フィルタ タイプ	可能な属性名
オペレーティング システム	os	OSName、OSVendor、OS Revision
ハードウェア	hardware	DeviceType、DeviceSubType、Model
プロトコル サポート	protocol	HTTPを除く任意のプロトコル名
その他	other	あらかじめ定義されているシステム属性については、mxsystem (1M) (mxsystem(1M) [man/mxsystem.1m.html]) またはmxsystem (4) (mxsystem(4) [man/mxsystem.4.html]) を参照してください。あらかじめ定義されている任意のシステム属性または任意のカスタムシステム属性が該当する可能性があります。

includeフィルタには、可能な属性名を使用した1つまたは複数のシステム フィルタ式が含まれています。たとえば、osフィルタでは、次のように構成することができます。

```
<include-filter type="os">
  <system-filter name="OSName"
    operator="eq" value="LINUX" />
  <system-filter name="OSVendor"
    operator="eq" value="RedHat" />
  <system-filter name="OSRevision"
    operator="ge" value="7.2" />
```

```
</include-filter>
```

includeフィルタは、可能なすべての属性をすべて含む必要はありません。複数の属性が含まれる時は、条件はともに論理ANDになります。属性は、includeフィルタ内に複数回出てきてはいけません。ただし、バージョン番号をもつ属性は、片方の演算子がlt、もう一方の演算子がgeの場合は、2回指定することができます。次に例を示します。

```
<include-filter type="protocol">
  <system-filter name="WBEM"
    operator="lt" value="2.6" />
  <system-filter name="WBEM"
    operator="ge" value="2.4" />
</include-filter>
```

これは、ツールが、WBEMプロトコルバージョン2.4以上で2.6未満をサポートするシステムの任意の集合に対して表示されるべきであることを指定します。

ツールに異なるタイプのincludeフィルタが複数ある場合は、条件はともに論理ANDになります。オペレーティングシステムとハードウェア依存の両方をもつツールは、次のフィルタを使用できます。

```
<include-filter type="os">
  <system-filter name="OSName"
    operator="eq" value="LINUX" />
</include-filter>
<include-filter type="hardware">
  <system-filter name="DeviceSubType"
    operator="eq" value="HPVectra" />
</include-filter>
```

ツールに同じタイプのincludeフィルタが複数ある場合は、条件はともに論理ORになります。2つ異なったオペレーティングシステム上で使用可能なツールは、次のように指定できます。

```
<include-filter type="os">
  <system-filter name="OSName"
    operator="eq" value="LINUX" />
</include-filter>
<include-filter type="os">
  <system-filter name="OSName"
    operator="eq" value="HPUX" />
```

```
</include-filter>
```

このツールは、LinuxまたはHP-UXのいずれかを使用するシステムのあらゆる収集で表示されます。

ツールフィルタは、選択されたシステム上に定義された値をもつフィルタされる属性に依存します。"os"フィルタタイプでは、フィルタされる属性がシステムに対して定義されていない場合は、そのシステムはそのフィルタに必要とされる値をもつと見なされます。したがって、ツールフィルタによって指定されたos属性をもたないシステムは、ツールを実行できると見なされます。ハードウェアフィルタタイプでは、Model属性の場合にこれが当てはまります。しかし、DeviceType属性およびDeviceSubType属性では、ツールフィルタは、選択されたシステム上の既知の値に対してのみ適用されます。プロトコルフィルタタイプでは、演算子を適用する前にプロトコルがシステム上に存在する必要があります。すなわち、neq演算子およびnct演算子も、システムがそのプロトコルをもつかどうかに依存します。その他のフィルタも、演算子を適用する前にフィルタされる属性がシステム上に存在する必要があるという点でプロトコルフィルタのように動作します。ツールがその他のフィルタおよびプロトコルフィルタまたはそのいずれかを使用する場合は、ツールがGUIに表示されるためには、少なくとも1つのシステムがフィルタ可能な属性を含む必要があります。

バージョン番号

OSRevisionおよびProtocol Supportシステム属性は、可能であれば、バージョン番号として解釈される値をもちます。バージョン番号は、ピリオド(.)文字で区切られた、負ではない一連の十進数です。バージョン番号を比較するときは、次のルールが使用されます。

- 左端の数字の組は、最も重要です。したがって、1.0は0.1より大きくなります。
- 数字の左にある0は、無視されます。したがって、003は3と同じです。
- 2つ並んだピリオド文字は、0を区切っているものと解釈されます。したがって、1.0.3と1..3は等しくなります。
- 最初にピリオド文字がある場合は、前に0があるものと解釈されます。したがって.9と0.9は等しくなります。
- 数字の右にある0は、無視されます。したがって、1.0.0は1と同じです。

その他の要件

SSAコマンド ツールには、実行文 (execStmt) かファイルコピー文 (copyStmt) またはその両方が含まれる必要があります。実行文のみが指定された場合は、コマンドが実行される前にファイルはコピーされません。ファイルコピー文のみが指定された場合は、ファイルがコピーされた後、コマンドは実行されません。両方が指定された場合は、まず、ファイルがコピーされ、次にコマンドが実行されます。

MSAコマンド ツールは、コマンドと、そのコマンドが動作するシステムを指定する必要があります。

ツール名は、1文字以上、256文字以下の長さでなければなりません。名前の1文字目は、アルファベットである必要があります。2文字目以降の文字には、文字、数字、スペース、または"-",".","(",")","_"のいずれかの文字を使用できます。

Web起動対応ツールは、メインURLを指定する必要があります。

ファイル コピー ペアを指定するときは、単一のツール定義内の各ファイルコピー ペアに対するコピー先ファイル パスが固有なければなりません。複数のコピー元ファイル パスに対して同じコピー先ファイル パスを指定すると、ファイル解析エラーになります。

存在しない、または読み出せないファイルである場合は、そのファイルをコピーするツールの実行時にエラーが発生します。コピー元ファイルパスは、ツールの作成時や修正時にはチェックされませんが、ツールの実行時には存在する必要があります。

ログ要素が真に設定されている場合、ツールの実行による標準出力および標準エラー出力は、CMS (CMS) ログファイルの/var/opt/mx/logs/mx.logに記録されます。ログ要素が偽に設定されている場合は、開始および終了時間やタスク ステータスなどの要約タスク ログ情報だけが記録されます。

文書型定義

文書型定義 (DTD) ファイルは、XMLファイルの制約を定義します。これらの制約には、XML ファイル内の有効な要素タグ、属性、および要素の濃度が含まれます。ツールDTDファイルは、toolist.dtdという名前で、次の段落に含まれます。マンページのフォーマットによって、DTDの内容はファイル内と同じに表示されないことがあることに注意してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
```

```
<!-- The tool-list element can contain zero or more of either  
ssa-command-tool elements, msa-command-tool elements,  
web-launch-tool elements, automation-tool elements or  
app-launch-tool elements.-->
```

```
<!ELEMENT tool-list ( ssa-command-tool |  
msa-command-tool |  
web-launch-tool |  
automation-tool |  
app-launch-tool )* >
```

```
<!-- The ssa-command-tool element specifies a single-system aware  
tool.The ssa-command-tool element can optionally specify a  
category element, a description element, a comment element, an  
owner element, a default-target element, an execute-as-user  
element, a job-display-handler element, a toolbox-enabled  
element, zero or more toolbox elements, zero or more  
include-filter elements, or zero or more env-variable elements.  
(NOTE:The role-enabled and role elements are deprecated  
elements and should not be used with this product.These  
are provided for backward compatibility with previous  
products.The toolbox-enabled element and the toolbox  
element should be used in their stead.)
```

```
If more than one of these elements are specified, the element  
must appear in the order as listed in this definition.The  
ssa-command-tool element must contain an ssa-block element.The  
ssa-block element must appear after the previously described  
optional elements, if any of the optional elements are  
specified.Following the ssa-block element, one can specify zero
```

or more attribute elements.-->

```
<!ELEMENT ssa-command-tool (category?, description?, comment?,
owner?, default-target?, execute-as-user?,
job-display-handler?,
toolbox-enabled?, toolbox*,
role-enabled?, role*,
include-filter*, env-variable*,
ssa-block, attribute* ) >
```

<!-- In addition to the previously described elements, the ssa-command-tool element specifies the following attributes. The name attribute specifies the tool name and must be specified in the ssa-command-tool element. The visible attribute specifies whether the tool is visible for running. By default tools are visible. The max-targets attribute specifies the maximum number of targets against which a tool can run. The revision attribute allows a tool author to specify a revision for the tool. Note that this is for information only. The job-log attribute specifies whether the results of the command will be kept in this system's job log. This attribute applies only to tools when they are run as scheduled tasks, not when they are run as "run now" tasks. When job-log="true" the job and target status for the tool will be kept for a relatively lengthy system-defined period in the database after the job completes. When job-log="false" only the last completed copy of the job and target status for the task will be kept in the cache for a much shorter period of time, and will not be written to the database. Job logging is enabled by default. The schedulable attribute specifies whether the tool can be run as a schedulable task. When scheduled="false" the tool can only run as a "run now" task. Tools are scheduled by default. The GUID attribute specifies a globally unique identifier (GUID) for the tool. Because the system generates a GUID for a tool during the add operation, this field should only be specified during a modify operation. The accepts-targets attribute specifies whether the tool accepts targets for execution. The accepts-targets attribute is true by default. -->

```
<!--LIST ssa-command-tool name      CDATA  #REQUIRED
visible  (true | false) "true"
max-targets NMTOKEN #IMPLIED
revision  CDATA  #IMPLIED
job-log   (true | false) "true"
schedulable (true | false) "true"
guid      NMTOKEN #IMPLIED
accepts-targets (true | false) "true" >
```

<!-- The ssa-block specifies the elements specific to a single-system aware tool. The ssa-block can specify a command or copy-block or both. Only one command should be specified but up to 16 multiple copy-blocks can be specified. After the command and/or copy-blocks, one can specify the parameters for the command and/or copy-block. -->

<!ELEMENT ssa-block ((command | copy-block)+, parameter*) >

<!-- The copy-block specifies a source file path and a destination file path for a copy operation. --> -->

<!ELEMENT copy-block (source, destination)+ >

<!-- The source element specifies the source file path for a copy operation. -->

<!ELEMENT source (#PCDATA) >

<!-- The destination element specifies the destination file path for a copy operation. -->

<!ELEMENT destination (#PCDATA) >

<!-- The msa-command-tool element specifies a multiple-system aware tool. The msa-command-tool element can optionally specify a category element, a description element, a comment element, an owner element, a default-target element, an execute-as-user element, a job-display-handler element, a toolbox-enabled element, zero or more toolbox elements, zero or more include-filter elements, or zero or more env-variable elements. (NOTE: The role-enabled and role elements are deprecated elements and should not be used with this product. These are provided for backward compatibility with previous products. The toolbox-enabled element and the toolbox element should be used in their stead.)

If more than one of these elements are specified, the element must appear in the order as listed in this definition. The msa-command-tool element must contain an msa-block element. The msa-block element must appear after the previously described optional elements, if any of the optional elements are specified. Following the msa-block element, one can specify zero or more attribute elements.-->

<!ELEMENT msa-command-tool (category?, description?, comment?, owner?, default-target?, execute-as-user?, job-display-handler?, toolbox-enabled?, toolbox*, role-enabled?, role*, include-filter*, env-variable*, msa-block, attribute*) >

<!-- In addition to the previously described elements, the msa-command-tool element specifies the following attributes. The name attribute specifies the tool name and must be specified in the msa-command-tool element. The visible attribute specifies whether the tool is visible for running. By default tools are visible. The max-targets attribute specifies the maximum number of targets against which a tool can run. The revision attribute allows a tool author to specify a revision for the tool. Note that this is for information only. The job-log attribute

specifies whether the results of the command will be kept in this systems job log. When job-log="true" the job and target status for the tool will be kept for a relatively lengthy system-defined period in the database after the job completes. When job-log="false" only the last completed copy of the job and target status for the tool will be kept in the cache for a much shorter period of time, and will not be written to the database. Job logging is enabled by default. The schedulable attribute specifies whether the tool can be run as a scheduled task. When schedulable="false" the tool can only run as a "run now" task. Tools are schedulable by default. The guid attribute specifies a globally unique identifier (GUID) for the tool. Because the system generates a GUID for a tool during the add operation, this field should only be specified during a modify operation. The accepts-targets attribute specifies whether the tool accepts targets for execution. The accepts-targets attribute is true by default. -->

```
<!ATTLIST msa-command-tool name      CDATA      #REQUIRED
visible      (true | false) "true"
max-targets  NMTOKEN #IMPLIED
revision     CDATA      #IMPLIED
job-log      (true | false) "true"
schedulable  (true | false) "true"
guid         NMTOKEN #IMPLIED
accepts-targets (true | false) "true" >
```

<!-- The msa-block specifies the elements specific to a multiple-system aware (MSA) tool. The msa-block can specify an MSA command, the parameters for the command and an execution system on which the command executes. -->

```
<!ELEMENT msa-block ( command, parameter*, execution-node ) >
```

<!-- The command element specifies the command for an SSA or an MSA tool. If the command accepts parameters, it must be specified as a parameterized string. -->

```
<!ELEMENT command ( #PCDATA ) >
```

<!-- The command element can have two attributes. The command-type attribute specifies whether the command is an x-window, stdout, restart, launch, or an unknown command type. The default command type is stdout. The log attribute specifies whether the results of the command will be output to this system's audit log. When log="true" the stdout and stderr results of the command will be output to the system's audit log. Command output is not logged by default. -->

```
<!ATTLIST command command-type (x-window |
stdout |
restart |
launch |
unknown) "stdout"
```

log (true | false) "false" >

<!-- The execution-system element specifies the system on which an MSA tool will execute. -->

<!ELEMENT execution-system (#PCDATA) >

<!-- The web-launch-tool element specifies a web launch tool. The web-launch-tool element can optionally specify a category element, a description element, a comment element, an owner element, a default-target element, an execute-as-user element, a job-display-handler element, a toolbox-enabled element, zero or more toolbox elements, zero or more include-filter elements, or zero or more env-variable elements.

(NOTE: The role-enabled and role elements are deprecated elements and should not be used with this product. These are provided for backward compatibility with previous products. The toolbox-enabled element and the toolbox element should be used in their stead.)

If more than one of these elements are specified, the element must appear in the order as listed in this definition. The web-launch-tool element must contain a web-block element. The web-block element must appear after the previously described optional elements, if any of the optional elements are specified. Following the web-block element, one can specify zero or more attribute elements.-->

<!ELEMENT web-launch-tool (category?, description?, comment?, owner?, default-target?, execute-as-user?, job-display-handler?, toolbox-enabled?, toolbox*, role-enabled?, role*, include-filter*, web-block, attribute*) >

<!-- In addition to the previously described elements, the web-launch-tool element specifies the following attributes. The name attribute specifies the tool name and must be specified in the web-launch-tool element. The visible attribute specifies whether the tool is visible for running. By default tools are visible. The max-targets attribute specifies the maximum number of targets against which a tool can run. The revision attribute allows a tool author to specify a revision for the tool. Note that this is for information only. The job-log attribute specifies whether the results of the command will be kept in this system's job log. When job-log="true" the job and target status for the tool will be kept for a relatively lengthy system-defined period in the database after the job completes. When job-log="false" only the last completed copy of the job and target status for the tool will be kept in the cache for a much shorter period of time, and will not be written to the database. Job logging is enabled by default. The schedulable attribute specifies whether the tool can be run as a scheduled task. When schedulable="false" the tool can only run as a "run now" task. Tools are schedulable by default. The guid attribute specifies a

globally unique identifier (GUID) for the tool. Because the system generates a GUID for a tool during the add operation, this field should only be specified during a modify operation. -->

```
<!ATTLIST web-launch-tool name    CDATA #REQUIRED
visible    (true | false) "true"
max-targets NMTOKEN #IMPLIED
revision    NMTOKEN #IMPLIED
job-log     (true | false) "true"
schedulable (true | false) "true"
guid        NMTOKEN #IMPLIED >
```

<!-- The web-block specifies the elements specific to a web launch tool. The web-block must specify a main-url element. Optionally, the web-block can specify a side-url element, a status-url element, and a current-url element. Additionally, the web-block can specify the parameters for the URLs. Finally, the web-block can optionally specify a target format to describe how targets are passed to a web launch aware tool. -->

```
<!ELEMENT web-block (main-url, (side-url?, status-url?, current-url?),
parameter*, target-format? ) >
```

<!-- In addition to the above elements, the web-block element has one attribute. The accepts-targets attribute specifies whether the web launch tool accepts targets for execution. The accepts-targets attribute is true by default. -->

```
<!ATTLIST web-block accepts-targets (true | false) "true">
```

<!-- The main-url specifies the URL to launch the tool. If the URL accepts parameters, the URL must be specified as a parameterized string. -->

```
<!ELEMENT main-url ( #PCDATA ) >
```

<!-- The status-url specifies a URL at which one might find the status of this web launch tool during execution. -->

```
<!ELEMENT status-url ( #PCDATA ) >
```

<!-- The current-url specifies the current URL. -->

```
<!ELEMENT current-url ( #PCDATA ) >
```

<!-- The side-url specifies a set-aside URL. -->

```
<!ELEMENT side-url ( #PCDATA ) >
```

<!-- The target-format defines the format of targets in a web launch tool and is specified as a parameterized string. -->

```
<!ELEMENT target-format ( #PCDATA ) >
```

<!-- The automation tool performs an action on the CMS which involves accessing the target systems. The automation-tool element can optionally specify a category element, a menu-category element, a description element, a comment element, an owner element, a default-target element, an execute-as-user element, a job-display-handler element, a default-parameter element, a role-enabled element, zero or more role elements, zero or more include-filter elements, or zero or more env-variable elements. If more than one of these elements are specified, the element must appear in the order as listed in this definition. The automation-tool element must contain an automation-block element. The automation-block element must appear after the previously described optional elements, if any of the optional elements are specified. Following the automation-block element, one can specify zero or more attribute elements. -->

```
<!ELEMENT automation-tool (category?, description?, comment?, owner?,
default-target?, execute-as-user?,
job-display-handler?,
toolbox-enabled?, toolbox*,
role-enabled?, role*,
include-filter*, automation-block,
attribute* ) >
```

<!-- In addition to the previously described elements, the automation-tool element specifies the following attributes. The name attribute specifies the tool name and must be specified in the automation-tool element. The visible attribute specifies whether the tool is visible for running. By default tools are visible. The max-targets attribute specifies the maximum number of targets against which a tool can run. The revision attribute allows a tool author to specify a revision for the tool. Note that this is for information only. The job-log attribute specifies whether the results of the command will be kept in this systems job log. When job-log="true" the job and target status for the tool will be kept for a relatively lengthy system-defined period in the database after the job completes. When job-log="false" only the last completed copy of the job and target status for the tool will be kept in the cache for a much shorter period of time, and will not be written to the database. Job logging is enabled by default. The schedulable attribute specifies whether the tool can be run as a scheduled task. When schedulable="false" the tool can only run as a "run now" task. Tools are schedulable by default. The guid attribute specifies a globally unique identifier (GUID) for the tool. Because the system generates a GUID for a tool during the add operation, this field should only be specified during a modify operation. The accepts-targets attribute specifies whether the tool accepts targets for execution. The accepts-targets attribute is true by default. -->

```
!ATTLIST automation-tool name      CDATA  #REQUIRED
visible      (true | false) "true"
max-targets  NMTOKEN #IMPLIED
```

```

revision CDATA #IMPLIED
job-log (true | false) "true"
schedulable (true | false) "true"
guid NMTOKEN #IMPLIED
accepts-targets (true | false) "true" >

```

<!-- The automation-block specifies the elements specific to an automation tool. The automation-block must specify a message-id. -->

```
<!ELEMENT automation-block (message-id) >
```

<!-- The message-id is the internal string representation of the message sent by the Automation engine to cause the tool to run. -->

```
<!ELEMENT message-id ( #PCDATA ) >
```

<!-- The app-launch-tool element specifies an application launch tool. The app-launch-tool element can optionally specify a category element, a menu-category element, a description element, a comment element, an owner element, a default-target element, an execute-as-user element, a job-display-handler element, a default-parameter element, a role-enabled element, zero or more role elements, zero or more include-filter elements, or zero or more env-variable elements. If more than one of these elements are specified, the element must appear in the order as listed in this definition. The app-launch-tool element must contain an app-launch-block element. The app-launch-block element must appear after the previously described optional elements, if any of the optional elements are specified. Following the app-launch-block element, one can specify zero or more attribute elements. -->

```

<!ELEMENT app-launch-tool (category?, description?, comment?, owner?,
default-target?, execute-as-user?,
job-display-handler?,
role-enabled?, role*,
toolbox-enabled?, toolbox*,
include-filter*, env-variable*,
app-launch-block, attribute* ) >

```

<!-- In addition to the previously described elements, the app-launch-tool element specifies the following attributes. The name attribute specifies the tool name and must be specified in the app-launch-tool element. The visible attribute specifies whether the tool is visible for running. By default tools are visible. The max-targets attribute specifies the maximum number of targets against which a tool can run. The revision attribute allows a tool author to specify a revision for the tool. Note that this is for information only. The job-log attribute specifies whether the results of the command will be kept in this system's job log. When job-log="true" the job and target status the tool will be kept for a relatively lengthy system-defined period in the database after the job completes. When

job-log="false" only the last completed copy of the job and target status for the tool will be kept in the cache for a much shorter period of time, and will not be written to the database. Job logging is enabled by default. The schedulable attribute specifies whether the tool can be run as a scheduled task. When schedulable="false" the tool can only run as a "run now" task. Tools are schedulable by default. The guid attribute specifies a globally unique identifier (GUID) for the tool. Because the system generates a GUID for a tool during the add operation, this field should only be specified during a modify operation. The accepts-targets attribute specifies whether the tool accepts targets for execution. The accepts-targets attribute is true by default. -->

```
<!ATTLIST app-launch-tool name      CDATA  #REQUIRED
visible    (true | false) "true"
max-targets NMTOKEN #IMPLIED
revision   CDATA  #IMPLIED
job-log    (true | false) "true"
schedulable (true | false) "true"
guid       NMTOKEN #IMPLIED
accepts-targets (true | false) "true" >
```

<!-- The app-launch-block specifies the elements specific to an application launch tool. The app-launch-block specifies a required command element. -->

```
<!ELEMENT app-launch-block (command, app-parameters?) >
```

<!-- In addition to the previously described elements, the app-launch-block element specifies the following attribute. The alert-driven attribute specifies whether the alert list or the system list is used to determine the target systems to run the tool on. -->

```
<!ATTLIST app-launch-block alert-driven (true | false) "false" >
```

<!-- The app-parameters element is an application parameters definition string whose value is a string -->

```
<!ELEMENT app-parameters ( #PCDATA ) >
```

<!-- The env-variable element is an environment variable definition string whose value is a string -->

```
<!ELEMENT env-variable ( #PCDATA ) >
```

<!-- In addition to the previously described elements, the env-variable element specifies the following attribute. The name attribute specifies the name of the environment variable.-->

```
<!ATTLIST env-variable name CDATA #REQUIRED >
```

<!-- The owner element specifies the tool owner. When the owner field

is specified, the tool is only associated with the All Tools toolbox. When the owner field is not specified, tool is enabled in all of its associated toolboxes. When a limited-rights user adds or modifies a tool, the owner field contains the name of the limited-rights user. Only a full-rights user can add or modify a tool without the owner specified. ->

<!ELEMENT owner (#PCDATA) >

!- The comment field specifies additional information about the tool. It is usually more verbose than the description. ->

<!ELEMENT comment (#PCDATA) >

<!- The parameter element specifies the first to the tenth parameter of a tool. ->

<!ELEMENT parameter EMPTY >

<!- The parameter element has three attributes. The index attribute specifies which argument in a parameterized string this parameter substitutes. Parameters can be indexed from 1 to 10 with a default index of 1. Tools cannot contain parameters with duplicate indexes. If more than one parameter in a tool definition contains the same index, only the first parameter added to the tool with the duplicate index remains in the tool. The prompt attribute provides information about the parameter that can be displayed in a GUI for assistance. The required attribute specifies whether this parameter must be specified when the tool is executed. By default, parameters are not required. The private attribute specifies whether this parameter is encoded and stored securely. By default, parameters are not private. ->

```
<!ATTLIST parameter index (1|2|3|4|5|6|7|8|9|10) "1"
prompt CDATA #REQUIRED
required (true|false) "false"
private (true|false) "false" >
```

<!- The toolbox-enabled element specifies whether the toolboxes associated with a tool are enabled. ->

<!ELEMENT toolbox-enabled EMPTY >

<!- The toolbox-enabled element has one attribute. The value attribute specifies whether the tool within the toolboxes is enabled. This allows a full-rights user to explicitly disable the tools in a toolbox though the tool is always enabled in the All Tools toolbox. By default, the tool is enabled in all the toolboxes that it is in. If a tool is disabled within a toolbox, it cannot be executed. ->

```
<!ATTLIST toolbox-enabled value (true|false) "true">
```

<!- The role-enabled element specifies whether the roles associated with a tool are enabled. This is an obsolete element. The

toolbox-enabled element should be used instead.-->

<!ELEMENT role-enabled EMPTY >

<!-- See description of toolbox-enabled element attributes. -->

<!ATTLIST role-enabled value (true|false) "true">

<!-- The default-target element specifies a target on which the tool can run if no targets are specified at run time. One can specify a system, &cms2; to run on the &cms2; by default, or ALL to run on all authorized systems by default. -->

<!ELEMENT default-target (#PCDATA) >

<!-- The category element specifies the category with which to associate the tool. By default, tools are associated with the "Local Tools" category. -->

<!ELEMENT category (#PCDATA) >

<!-- The description element specifies a simple description of the tool. To specify more verbose information such as how to run the tool, use the comment element. -->

<!ELEMENT description (#PCDATA) >

<!-- For SSA and MSA command tools, the execute-as-user element specifies the user name that the tool runs as or under whose account the tool runs on the target systems. For Web-launch tools the execute-as-user is passed to the URL for its use. -->

<!ELEMENT execute-as-user (#PCDATA) >

<!-- The job display handler element specifies the fully-qualified name of a class implementing the JobDisplayHandler interface, used to display the results of a job created by running this tool. -->

<!ELEMENT job-display-handler (#PCDATA) >

<!-- The toolbox element specifies a toolbox to associate with the tool. To run a tool the user must be authorized with one of the specified toolboxes. -->

<!ELEMENT toolbox EMPTY >

<!-- The toolbox element has one attribute to specify the toolbox name. -->

<!ATTLIST toolbox toolbox-name CDATA #REQUIRED >

<!-- The role element specifies a role to associate with the tool. To run a tool the user must be authorized with one of the specified

roles.This element is obsolete.The toolbox element should be used instead. -->

<!ELEMENT role EMPTY >

<!-- See the toolbox element attribute description. -->

<!ATTLIST role role-name CDATA #REQUIRED >

<!-- The include-filter element specifies system attributes against which to filter a tool for execution.A specified include-filter element must contain one or more system-filter elements.When filtering a tool each include-filter block is OR'd together to get the final filter result.Each system-filter element within an include-filter block is AND'd together. -->

<!ELEMENT include-filter (system-filter)+ >

<!-- The include-filter elements has one attribute.The type attribute specifies the type of include filter to execute.Four types are currently recognized.Three of them are os (operating system), hardware, protocol filtering.The fourth type is called other which will allow all other system attributes to be filtered upon.-->

<!ATTLIST include-filter type (os | hardware | protocol | other) "os" >

<!-- The system-filter element is an empty element that contains attributes used to specify the system attributes against which to filter a tool for execution. -->

<!ELEMENT system-filter EMPTY >

<!-- The system-filter element is specified with three attributes.The name attribute specifies the system attribute name to filter against.The operator attribute specifies whether to filter against an equal value, a less than value, a greater than or equal value, a contains value, a not equals value or a not contains value.The operator name is case-insensitive.The value attribute specifies the value of the system attribute to filter against. -->

<!ATTLIST system-filter name CDATA #REQUIRED
operator (EQ | GE | LT | CT | NEQ | NCT |
eq | ge | lt | ct | neq | nct |
Eq | Ge | Lt | Ct | Neq | Nct |
eQ | gE | lT | cT | nEQ | nCT) "EQ"
value CDATA #REQUIRED >

<!-- The attribute element specifies the name value pairs that comprise client attributes.The client attribute name is specified using the name attribute and the client attribute value is specified as the PCDATA of the element. -->

<!ELEMENT attribute (#PCDATA) >

<!ATTLIST attribute name CDATA #REQUIRED >

関連プロシージャ

- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- ツールの削除と回復
- 新規Web起動ツール
- 新規X Windowツール

関連トピック

- コマンド ライン ツール

コマンド ライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例

Web対応ツールとコマンド ライン ツールのURLストリングは、http://またはhttps://で始まる、絶対URLで提供する必要があります。例：

https://%n:1188/kcweb/ https://%!:2381/

一方、常に中央管理サーバ（CMS）上で実行されるWeb起動対応ツールとコマンド ライン ツールのURLは、/で始まる相対URLでなければなりません。例：

/propertypages/Identify.jsp?device=%n

URLには、複数の選択項目を置換して組み込むことができます。置換プロセスでは、選択インデックスが使用され、最新の選択項目を追跡します。選択インデックスは、最初、1に設定されます。選択されたターゲットシステムのリストの最初の選択項目は、URL内で%zパラメータが検出されるまでは、最新のままです（ただし、後で説明する繰り返しブロックには、例外があります）。%zパラメータが検出されると、リスト内の次の選択項目が最新となり、選択インデックスが1つ増えます。例：

http://server/app/doi.jsp?name=%n%z&addr=%a

この例では、doi.jspページは、nameパラメータに割り当てられた最初の選択済みシステムのネットワーク名およびaddrパラメータに割り当てられた2番目の選択済みターゲットのIPアドレスで起動されます。

繰り返しブロック コンストラクト%(...%)を使用すれば、任意の数の選択済みターゲットを置換できます。選択リストがすべて検索されるまで、繰り返しブロックの区切り文字の内側にあるものが繰り返されます。最初に検索されるのは、その時点で最新の選択項目と選択インデックスです。例：

https://%{deploy.server%}/deploy/deployimage.jsp? device1=%n%z%(&device%i=%n%z%)

注記:



%iパラメータの使用置換プロセスで、最新の選択インデックス（1、2、3など）がこのパラメータで置換されます。

注記:



繰り返し句の最後に到達し、%zパラメータを検出していない場合は、選択インデックスおよび最新の選択が自動的に1つ増え、置換フェーズでの無限ループを防止します。

上記の例で、2つの選択済みターゲット システムがある場合、拡張されるURLストリングは次のようになります。

```
https://deploy.hp.com:280/deploy/deployimage.jsp?  
device1=nodea.hp.com&device2=nodeb.hp.com
```

上記の例で、選択済みターゲット システムが1つだけの場合は、拡張されるURLストリングは次のようになります。

```
https://deploy.hp.com:280/deploy/deployimage.jsp? device1=nodea.hp.com
```

繰り返しブロックに移動した際に最新の選択がないため、置換プロセスでは、繰り返しブロック全体が削除されます。

関連プロシージャ

- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- 新規Web起動ツール
- 新規X Windowツール
- ツールの削除と回復

関連トピック

- コマンド ライン ツール
- 新規コマンド ライン ツールの作成

カスタム コマンド

カスタム コマンドは、プログラムまたはスクリプトを起動するツールです。たとえば、メモ帳を起動するカスタム コマンドを作成します。

カスタム コマンドでは環境変数の使用が必要になります。環境変数は、起動したアプリケーションが期待どおりに実行するために渡されるパラメータです。詳細については、「カスタム コマンド用の環境変数」を参照してください。起動コマンド文字列には、アプリケーション用

のシステム変数とユーザ定義変数が含まれます。たとえば、メールサーバのステータスをチェックするスクリプトを実行する環境変数を引き渡すことができます。

作成するカスタム コマンドは、[ツール]>[カスタム コマンド]メニュー オプションの下に表示されます。

複数のスケジューリング オプションがあります。スケジュール オプションの詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

重要:



このアプリケーションは、HP Systems Insight Managerに提供されるセキュリティ コンテキストで実行できるようにする必要があります（デフォルトはローカル システムです）。

- 新しいカスタム コマンド [ツール]>[カスタム コマンド]>[新しいカスタム コマンド]を選択します。[新しいカスタム コマンド]ページが表示されます。
- カスタム コマンドの管理 [ツール]>[カスタム コマンド]>[カスタム コマンドの管理]を選択します。[カスタム コマンドの管理]ページが表示されます。
- 新しい**Web**起動ツール。 [ツール]>[カスタム コマンド]>[新規**Web**起動ツール]を選択します。[新規**Web**起動ツール]ページが表示されます。このツールは、LinuxおよびHP-UXシステムのみで使用可能です。
- ツールの削除 [オプション]>[ツールの削除]を選択します。[ツールの削除]ページが表示されます。

関連プロシージャ

- 新規カスタム コマンドの作成
- カスタム コマンドの管理

関連トピック

- カスタム コマンド用の環境変数

新規カスタム コマンドの作成

HP Systems Insight Managerを実行しているサーバ上のアプリケーションを起動するには、[新しいカスタム コマンド]を使用します。

カスタム コマンドを作成するには、次のように操作します。

1. [ツール]>[カスタム コマンド]>[新しいカスタム コマンド]を選択します。[新しいカスタム コマンド]ページが表示されます。
2. [名前]フィールドにコマンド名を入力します。

重要：カスタム コマンド名は、1文字以上、256文字以下の長さでなければなりません。名前の1文字目は、アルファベットである必要があります。2文字目以降の文字には、文字、数字、スペース、または"-",".","(",")","_"のいずれかの文字を使用できます。

3. **[説明]**フィールドで、このアプリケーションに必要な説明を入力します。
4. **[コメント]**フィールドで、このアプリケーションのコメントを入力します。
5. **[コマンド（実行可能パスおよびファイル名）]**フィールドに、HP Systems Insight Manager コンソールのルートからのフル パス、およびアプリケーションのファイル名を入力します。次に例を示します。

c:\custom code\romflash.bat

6. **[パラメータ]**フィールドで、このアプリケーションに必要なコマンドラインパラメータを入力します。

パラメータ置換は、パラメータ化された文字列に定義されているとおりにサポートされません。詳細については、「パラメータ化された文字列」を参照してください。

7. **[環境変数]**の**[変数名]**と**[値]**を入力します。各変数と値を入力したら、追加をクリックします。前に設定した変数をクリアするには、変数を選択して、削除をクリックします。環境変数については、「カスタム コマンド用の環境変数」を参照してください。
8. カスタム コマンド情報の入力が終わったら、**OK**をクリックします。新しいコマンドが**[カスタム コマンド]**メニューに追加されます。

注記:



新しいカスタム コマンド ツールには、**[ツール]>[カスタム コマンド]>[アプリケーション起動ツール]**を選択することによってアクセスできます。

関連プロシージャ

- カスタム コマンドの管理

関連トピック

- カスタム コマンド

カスタム コマンドの管理

[カスタム コマンドの管理]ページには、作成したすべてのカスタム コマンド ツールが表示されます。ツール名、説明、コマンド、パラメータが表示されます。作成したすべてのツールを表示するには、**[ツール]>[カスタム コマンド]>[カスタム ツールの管理]**を選択します。

カスタム コマンドの管理に使用できるオプションは次のとおりです。

- 「新規」
- 「編集」
- 「すぐに実行/スケジュール」
- 「削除」

新規

新しいコマンドを作成するには、新規を選択します。詳細については、「新規カスタム コマンドの作成」を参照してください。

編集

コマンドの横のチェックボックスを選択し、編集するコマンドを選択します。編集をクリックします。[カスタム コマンドの編集の詳細]セクションが表示されます。すべてのフィールドを編集し、環境変数の追加と削除を行うことができます。変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。変更内容を破棄するには、キャンセルをクリックします。

すぐに実行/スケジュール

ツールの横のチェックボックスを選択して、すぐに実行するかスケジュールするツールを選択し、すぐに実行/スケジュールをクリックします。

詳細については、「タスクのスケジュール設定」か「スケジュール済みタスクの実行」を参照してください。

削除

削除するコマンドを選択します。コマンドを削除すると、[カスタム コマンドの管理]ページとシステムからコマンドが削除されます。

注記:



削除するコマンドがタスクに関連している場合は、コマンドに関連するタスクのリストを含む警告が表示されます。

関連プロシージャ

- 新規カスタム コマンドの作成

関連トピック

- カスタム コマンド

カスタム コマンド用の環境変数

注記:



ユーザが定義した変数に、HP Systems Insight Manager環境変数と同じ名前が付いている場合、HP Systems Insight Manager環境変数により、ユーザ定義変数が上書きされます。

ツールの設定によって起動されるアプリケーションに、次の環境変数が渡されます。

NOTICELABEL。通知のタイプであり、検出されたシステム、その他のHP Systems Insight Manager サーバレベルの通知、通知の原因となったトラップのタイプのいずれかを含む、短い文字列です。

NOTICESTATE。HP Systems Insight Managerの内部で使用される値であり、通知がクリアされているかどうかを表します。

NOTICEPLAINTEXT。通知を説明するプレーン テキスト。通知の詳細情報が含まれます（確認中、確認済み、未確認のいずれか）。

NOTICERAWDATA。通知の生データは、文字列として渡されます。これは、パイプ文字「|」で区切られた変数の集合で、単純な構文解析ルールに便利です。

NOTICESEVERITYSTR。通知の深刻度の長い説明。クリティカル、情報、メジャー、マイナー、不明、警告、および正常のうちの1つ。

NOTICESEVERITY。NOTICESEVERITYSTRの整数値。

- 0、不明
- 1、正常
- 2、警告
- 3、マイナー
- 4、メジャー
- 5、クリティカル
- 100、情報

NOTICEQUERYNAME。通知の生成方法を基に収集名を表示します。この値は、以下のうちの1つです。

- This system or event meets the following search criteria: +QueryName;
- This system or event now meets the following search criteria: +QueryName;
- This system or event no longer meets the following search criteria: +QueryName;

DEVICENAME。通知の原因となったシステムの名前

DEVICEIPXADDRESSCOUNT。このシステムにマップされるIPXアドレスの数

DEVICEIPADDRESSCOUNT。このシステムにマップされるIPアドレスの数

DEVICEIPADDRESS%d。%dは、カウントに基づいた、実IPアドレスを表す整数になります。例:

IF, DEVICEIPADDRESSCOUNT = 2

Then, DEVICEIPADDRESS0 = 111.111.111.111

DEVICEIPADDRESS1 = 222.222.222.222

DEVICEIPXADDRESS%d。%dは、カウントに基づいた、実IPXアドレスを参照する整数になります。

DEVICEMACADDRESSCOUNT。システムで収集されたMACアドレスの数（データ収集タスクは、この情報が提供される前に実行されている必要があります）

DEVICEMACADDRESS%d。%dはMACアドレス カウントに基づいて実際のMACアドレス環境変数を参照する整数。例：

IF, DEVICEMACADDRESSCOUNT = 2

Then, DEVICEMACADDRESS0=00:80:5F:7F:B0:81

DEVICEMACADDRESS1=00:80:C7:29:EF:B6

GENERICTRAPID。これがイベント ベースのリストでSNMPトラップから生成される場合は、受信したトラップのSNMP一般トラップIDに設定されます

SPECIFICTRAPID。これがイベント ベースのリストでSNMPトラップから生成される場合は、受信したトラップのSNMP固有のトラップIDに設定されます

Path。サービスが動作しているコンテキストからのPath環境変数の値

SystemRoot。サービスが動作しているコンテキストからのSystemRoot環境変数の値

Windir。サービスが動作しているコンテキストからのWindir環境変数の値

COMPUTERNAME。サービスが動作しているコンテキストからのCOMPUTERNAME環境変数の値

関連プロシージャ

- カスタム コマンドの管理
- 新規カスタム コマンドの作成

関連トピック

- カスタム コマンド

新規Web起動ツール

注記:



このツールは、LinuxおよびHP-UXシステムのみで使用可能です。

このツールを使用して、WebアプリケーションまたはWebサイトを統合するツールを作成します。すべてのツールは、自動的に別のウィンドウに起動されます。たとえば、HPのWebサイトへのパスを追加するには、次のURLを追加します。http://hp.com選択されているシステム上のサイトへのリンクを追加するには、**[ターゲット%nを認める]**の下に「**Yes**」と入力して、たとえば次のようなURLを入力します。https://%n:2381ツールの起動時に、ターゲット システムが

「%n」に置き換えられます。これにより、ターゲット システムのSystem Management Homepageが起動されます。このツールは、一時的なXMLツール定義ファイルを/var/tmpの下に作成し、コマンド**mxtool -af file**を使用してロードします。この操作は、必要なフィールドにデータを入力するだけで行えます。

新しいWeb起動ツールを作成するには、次のように操作します。

1. [ツール]>[カスタム コマンド]>[新規Web起動ツール]を選択します。[新規Web起動ツール]ページが表示されます。
2. [パラメータ]で、標準のツール パラメータを使用して情報を追加します。必要なフィールドは次のとおりです。
 - ツール名
 - 起動するサイトまたはアプリケーションへのURL。
 - ターゲット選択%を認める（yesまたはno）
3. すぐに実行をクリックしてタスクをすぐに実行するか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

追加情報

追加情報は、次の各セクションで提供されています。

- 「ツールのタイプ」
- 「パラメータ化された文字列」
- 「ツール フィルタ」
- 「バージョン番号」
- 「その他の要件」
- 「文書型定義」

関連プロシージャ

- 新規カスタム コマンドの作成
- カスタム コマンドの管理
- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- ツールの削除と回復
- 新規X Windowツール

関連トピック

- カスタム コマンド
- カスタム コマンド用の環境変数
- コマンド ライン ツール
- コマンド ライン ツール リファレンス
- コマンド ライン ツールでのパラメータ化された文字列の使用例

DMIアクセスの設定

[設定]>**DMI**アクセスツールを使用すると、選択された、DMIがインストールされているHP-UXシステム上の、イベントターゲットとして、HP Systems Insight Manager中央管理サーバ（CMS）を設定できます。これにより、HP Systems Insight Manager CMSサーバ名が、選択されている各システム上の/var/dmi/dmiMachinesに追加されます。

関連プロシージャ

- SNMPアクセスの設定

SNMPアクセスの設定

[設定]>**SNMP**アクセスツールは、HP Systems Insight Manager 中央管理サーバ（CMS）を、選択されたHP-UXシステム上のトラップ ターゲットとして設定できます。このような設定をすると、選択した各システム上の/etc/SnmpAgent.d/snmpd.confファイルにHP Systems Insight Manager CMSサーバ名が追加されます。

トラップをCMSに送信するようにSNMPを設定するには、次のように操作します。

1. /etc/SnmpAgent.d/snmpd.confファイル内に、trapdestという、CMSの完全ホスト名またはIPアドレスを追加します。

trap-dest:hostname_or_ip_address

2. 次のコマンドを使用して、SNMPマスタ エージェントとすべてのサブエージェントを停止します。

/sbin/init.d/SnmpMaster stop

3. 次のコマンドを使用して、SNMPマスタ エージェントとすべてのサブエージェントを再起動します。

/usr/sbin/snmpd

関連プロシージャ

- DMIアクセスの設定

デバイスのping

個別システムか複数のシステムをpingするには、pingツールを使用しますシステムをpingするには、[診断]>**[Ping]**を選択します。**[Ping]**ウィンドウが表示されます。ターゲット システムを選択し、すぐに実行をクリックしてタスクを実行します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。

IPアドレスか、IPXアドレスがシステムにない場合、要求は実行できません。複数のIPアドレスやIPXアドレスがシステムにある場合は、各IPアドレスの結果が、結果ページに1行で表示されます。右上のステータスには、「選択したシステムをPingしています」と表示されます。リストのすべてのシステムがpingされると、ステータスは「Pingが完了しました」に変化し、完了時のタイムスタンプが表示されます。

ping結果は、別のウィンドウに表示されます。pingの応答の例を以下に示します。

- 応答がありました。pingは正常に実行され、pingされたシステムからの応答がありました。
- 要求がタイムアウトしました。pingは実行されましたが、pingされたシステムからの応答はありませんでした。
- システムはIP/IPXアドレスを使用していません。システムに関連するIPアドレスかIPXアドレスがありません。pingを実行できません。
- システムが未選択。システムが選択されていません。

pingが成功すれば、再試行は行いません。pingが失敗した場合にだけ再試行してください。ping結果は、[タスク結果]ページかシステムビューページのシステムステータスに影響しません。

ディスク スレッシュホールド

ディスク スレッシュホールドの設定

ディスクスレッシュホールドを設定するタスクは、HP Systems Insight Managerで実行できます。関連リストのシステムにディスクスレッシュホールドを設定するには、このタスクを使用します。このスレッシュホールドは、ターゲットシステム上のすべてのディスクボリュームに設定されます。

ディスク スレッシュホールドを設定するには、[設定]->[ディスク スレッシュホールド]->[ディスク スレッシュホールドの設定]を選択します。[ディスク スレッシュホールドの設定]ウィンドウが表示されます。ターゲットシステムを選択するには、「タスクの作成」を参照してください。ディスクスレッシュホールド設定を指定するには、「ディスク スレッシュホールドの設定」を参照してください。

スレッシュホールド設定におけるガイドライン

- スレッシュホールドを保存する場合、無効なスレッシュホールドは削除されます。[ディスク利用率のクリティカル スレッシュホールド]は、99%より高くならず、警告スレッシュホールドに3%を加えた値より低くなりません。したがって、警告スレッシュホールドが85%の場合、クリティカル スレッシュホールドの有効な範囲は88%から99%になります。
- [ディスク利用率のクリティカル リセット スレッシュホールド]がリセット値より低くなってから、スレッシュホールドを再び準備してください。この設定によって、変数がスレッシュホールド値に近くなった場合に、複数回スレッシュホールドが送信されることを防ぎます。
- [ディスク利用率の警告スレッシュホールド]は、クリティカルスレッシュホールドより低くします。警告スレッシュホールドは、警告スレッシュホールドが再準備される前にリセット値以下になっている必要があります。この設定によって、変数がスレッシュホールド値に近くなった場合に、複数回スレッシュホールドが送信されることを防ぎます。値とリセット値の差異の最小値は、2%またはそれ以上でなければなりません。
- スレッシュホールドを保存する場合、無効なスレッシュホールドは削除されます。[ディスク利用率の警告リセット スレッシュホールド]を、クリティカル スレッシュホールドから3%を差し引いた値より高くすることはできません。たとえば、クリティカル スレッシュホールドが95%の場合、スレッシュホールドの有効な範囲は6%から92%になります。
- [エージェントのポーリング間隔]の値は、秒単位のポーリング間隔であり、現在の値がスレッシュホールドを超えているかどうかをエージェントがチェックする頻度を決めます。一般的な値は120秒です。

ディスク スレッシュホルドの削除

ディスク スレッシュホルドを削除するタスクも、HP Systems Insight Managerで実行できます。関連リストのシステムからディスク スレッシュホルドを削除するには、このタスクを使用します。このタスクでは、HP Systems Insight Managerによって設定されるディスク スレッシュホルド、またはHP Insightマネジメント エージェントの直接参照によって設定されるディスク スレッシュホルドだけが削除されます。ディスク スレッシュホルドを含むInsightマネージャ（WIN32）によって設定されたスレッシュホルドは、このタスクでは削除されません。

ディスク スレッシュホルドを削除するには、**[設定]>[ディスク スレッシュホルド]>[すべてのディスク スレッシュホルドの削除]**を選択します。**[すべてのディスク スレッシュホルドの削除]**ウィンドウが表示されます。ターゲットシステムの選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。ターゲットシステムを選択したら、スケジュールをクリックしてタスクの実行タイミングをスケジュールするか、すぐに実行をクリックしてタスクをすぐに実行します。**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページが表示されます。

関連プロシージャ

- ディスク スレッシュホルドの設定
- タスクのスケジュール設定

ディスク スレッシュホルドの設定

システム特性を指定を使用して、タスクで使用するシステムリストを作成するか、既存システム リストを使用できます。サポートされているシステムで設定するディスク スレッシュホルドを指定してください。

ディスク スレッシュホルドを設定するには、次のように操作します。

1. **[設定]>ディスク スレッシュホルド>ディスク スレッシュホルドの設定**を選択します。**[ディスク スレッシュホルドの設定]**ウィンドウが表示されます。
2. ターゲット システムを選択し、次へをクリックします。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. **[サポートされているシステム上でのディスク スレッシュホルドの設定を指定します。]**セクションでは、次の情報を入力します。

- [ディスク利用率のクリティカル スレッシュホルド（％）]
- [ディスク利用率のクリティカル リセット スレッシュホルド（％）]
- [ディスク利用率の警告スレッシュホルド（％）]
- [ディスク利用率の警告リセット スレッシュホルド（％）]
- [エージェントのポーリング間隔(秒)]

このパラメータ設定に関するガイドラインについては、「ディスク スレッシュホルド」を参照してください。

4. 戻るをクリックすると、前のページに戻ります。タスクの実行タイミングをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。タスクのスケジュール設定の詳細について

は、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。タスクをすぐに実行するには、すぐに実行をクリックします。[タスク結果]ページが表示されます。

関連プロシージャ

- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定

関連トピック

- ディスク スレッシュホールド

月単位ですべてのディスク スレッシュホールドを削除するタスクの作成

次の例では、すべてのディスク スレッシュホールドをHP Systems Insight Managerデータベースから月単位で削除するタスクをセットアップするための手順を紹介します。

タスクの作成

1. [設定]>ディスク スレッシュホールド->すべてのディスク スレッシュホールドの削除を選択します。[すべてのディスク スレッシュホールドの削除]ページが表示されます。
2. [次のリストから選択してターゲットを追加]ドロップダウン リストで、[すべてのサーバ]を選択します。
3. ["すべてのサーバ"自体を選択]チェックボックスを選択します。
4. 適用をクリックします。
5. スケジュールをクリックします。
6. [タスク名]フィールドに、**Delete Disk Thresholds Monthly**などのタスク名を入力します。
7. [いつこのタスクを実行しますか?]セクションで、[定期的]を選択します。
8. [スケジュールの調整]セクションで、[次の間隔毎]を選択し、タスクの実行日を入力します。
9. 完了をクリックします。

関連プロシージャ

- ディスク スレッシュホールドの設定
- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- スケジュール済みタスクの実行

関連トピック

- ディスク スレッシュホールド

ライセンス マネージャ

ライセンス マネージャは、ProLiant Essentialsベースのライセンスのサポートを提供します。このサポートには、ライセンス キー配布、調整、レポートなどが含まれます。

注記:



ライセンス マネージャを実行するには、中央管理サーバ（CMS）（設定するには、[オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[ユーザ]を選択）と[すべてのツール]ツールボックス（設定するには、[オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[認証]を選択）の完全な設定権がユーザに必要です。

詳細については、「ユーザおよびユーザ グループ」および「ツールボックス」を参照してください。

ライセンス キーの収集とインストールは、HP Systems Insight Managerが認識している、指定したターゲットシステムに対して、または、そこから実行できます。製品によっては、キーは指定されたシステムに送られます。別の製品では、単にライセンス マネージャのデータベースがライセンス情報は更新されます。ライセンス キー データベースは、確認することができます。新しいキーの追加は、ファイルから個別に、または一括して行うことができます。ライセンス マネージャには、自動的に収集される、内蔵Lights-Out (iLO) システムに関するライセンス情報も表示されます。ライセンス マネージャは、キーをiLOにインストールすることはできません。このため、iLOホストマシンにインストールされたキーは、iLOによって認識されません。

ライセンス メニューでは、次のオプションを使用できます。

- **キーの管理。** [展開]->[ライセンス マネージャ]->[キーの管理]を選択してください。この操作により、[ライセンス マネージャ]が認識しているライセンス キーとその割り当てが表示され、キーを個別か一括で追加したり、特定キーの用途の詳細を表示したりすることができます。
- **キーの収集。** [展開]->[ライセンス マネージャ]->[キーの収集]を選択してください。キーの収集元になる、1つ以上のターゲットシステムを選択します。ターゲット選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
- **キーの展開。** [展開]->[ライセンス マネージャ]->[キーのインストール]を選択します。インストール先となる、1つ以上のターゲット システム、およびインストールする1つ以上のライセンス キーをライセンス マネージャ データベースから選択します。ターゲット選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。インストールする、1つ以上のキーを選択してください。iLOにキーを配信するメカニズムは存在しないため、iLOキーは含まれていません。

ライセンス マネージャのキーのインストールおよびキーの収集機能は、製品により異なりますが、ライセンス マネージャ データベース上で直接実行されるかまたは、ターゲット システム上のWindowsレジストリで実行されます。ProLiant Essentials Performance Management Pack (PMP) の以前のバージョンは該当しませんが、HP Systems Insight Managerプラグインのすべてのキー情報は、ライセンス マネージャによってHP Systems Insight Managerデータベースで維持されます。一部の製品では、ライセンス対象システム上のWindowsレジストリのライセンス構造内で維持する必要があります。ライセンス マネージャは、DCOMを使用して、リモートシステムからのキーのインストールとキー情報収集を行います。PMPの最新バージョンでは、

キーをCMSのWindowsレジストリに格納する必要があります。PMPのキーをCMS以外のシステムから、インストールおよび収集することはできません。

指定されたシステムに対する認証証明書は、指定されたシステムにキーが送られている場合にのみ必要になります。特定ターゲットでWBEM認証証明書が提供されている場合は、その証明書が使用されます。詳細については、「システムまたはシステムグループのプロトコル設定」を参照してください。特定証明書が提供されていない場合は、グローバル証明書として提供されている、Web-Based Enterprise Services (WBEM) 証明書のそれぞれのセットが使用されます。詳細については、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。証明書が提供されていない場合は、HP Systems Insight Managerサーバのデフォルト証明書で接続が試されます。リモート レジストリ サービスが起動されていて、キーの収集がインストールの候補ターゲット システムで動作している必要があります。

関連プロシージャ

- キーの収集
- キーのインストール
- キーの管理
- 自動検出の設定

関連トピック

- システム ライセンス情報レポート
- キーについて

キーについて

ライセンス キーは、3つまでの製品の使用を認証するために符号化されます。このため、同じキーは、そのキーによってライセンスされる製品ごとに1回ずつ、合計3回まで同じシステムに割り当てられたデータベースに表示されることがあります。キーによって許可される使用ユーザ数は、そのキーによって認証されるそれぞれの製品に完全に適用されます。使用ユーザ数5と製品2つを認証するキーでは、2つの製品それぞれに使用ユーザ数5が認証されます。

使用できるライセンスは、次の8種類です。

- **無料フレキシブル数量。** ProLiant Essentials製品は、1つの無料永久ライセンスとともに出荷されることがあります。このキー タイプは、その無料ライセンスを具体化したものです。このライセンスによって許可される使用ユーザ数は、製品と製品チームによって決まります。このタイプのキーを、ユーザがライセンス マネージャのデータベースに入力することができません。このキーをデータベースに挿入できるのは、その製品のみです。
- **フレキシブル数量。** このライセンスでは、50,000までの購入済み使用ユーザ数で、完全な無制限の機能が時間無制限に提供されます。
- **暗証キー契約。** このライセンスでは、完全な無制限の機能が時間無制限で提供されます。このライセンスは、使用ユーザ数の予想される上限（50,000まで）を表します。
- **デモ（使用ユーザと時間）。** このライセンスでは、限られた時間、特定使用ユーザ数で、完全な無制限の機能が提供されます。このライセンスでは、このキーで製品が動作する日数が決まっています。日数は、初めて使用した日から起算されます。このキーでは、製品の複数のインスタンスを実行することを許可できます。デモ キーでは、255までの使用ユーザ数を最大255日間認証できます。

- デモ。このライセンスでは、完全な無制限の機能が一定の期間だけ提供されます。このライセンスでは、このキーで製品が動作する日数が決まっています。日数は、初めて使用した日から起算されます。このキーでは、製品の複数のインスタンスを実行することを許可できます。デモ キーでは、最大65535日間の使用を認証できます。
- 評価。このライセンスでは、完全な無制限の機能が提供されます。これは、特別な状況で配布されます。
- 個別。このライセンスでは、完全な無制限の機能が提供されます。これは、内蔵Lights-Out (iLO) 製品の単一使用キーを表します。
- サブスクリプション。このライセンスでは、時間に制限のある、完全な機能を提供します。このキーは、指定された期間だけ無制限の機能を使用可能、または同じ期間中に限られた使用ユーザ数での使用を示すことができます。
- 無制限。このライセンスでは、完全な無制限の機能が提供されます。これは、内蔵Lights-Out (iLO) 製品の単一使用キーを表します。

関連プロシージャ

- ライセンス マネージャ
- キーの収集
- キーの管理

関連トピック

- キー データベースの内容の表示
- キー詳細の表示

キーの収集

キー収集機能は、選択したシステムからライセンス キーを収集します。キーが選択したシステムに直接格納されている場合は（詳細については、特定の製品情報を参照してください）、中央管理サーバ（CMS）と選択したマシンでは、Microsoft Windowsオペレーティングシステムのいずれかが動作している必要があります。現在では、多くの製品（ほとんどの場合、HP Systems Insight Managerプラグイン）キー情報をライセンス マネージャのデータベースのみに格納しています。これらの例では、CMSや選択したシステムのオペレーティングシステムに制限はありません。ステータス行に、選択したシステムからキーを収集する必要のある時刻と現在の状況ではそれは不可能であることが表示されます。

[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーの収集]を選択します。[キーの収集]ウィンドウが表示されます。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- キーのインストール
- キーの管理

キーの収集結果

[収集結果]ページに、以下の情報が表示されます。

- **[システム名]**。この列には、タスクを実行したシステムの名前が表示されます。
- **[キー]**。この列には、ターゲット システムから受信したキーが表示されます。そのシステムから取得した製品、キー、およびシステムごとに1行が表示されます。
- **[製品]**。この列には、このキーの使用に関連する製品の名前が表示されます。
- **[応答ステータス]**。この列には、システムの応答ステータスが表示されます。[キーの収集]タスクが正常に実行されると、キーが正常に収集されたことを表すメッセージが表示されます。

エラーが発生した場合は、エラー メッセージが表示されます。エラー メッセージには、以下が含まれます。

ローカルのオペレーティング システムとリモートの選択したシステムがWindowsを実行しておらず、ライセンス マネージャが、選択したシステムからキー情報を直接収集しようとしている場合は、次のメッセージが含まれます。「このノードに直接格納されたキーを収集できません。HP Systems Insight Managerホストと指定されたシステムは、Microsoft Windowsを実行している必要があります。」

- 「このシステムにライセンス情報がありません。」
- 「HP Systems Insight Managerがローカルで管理しているこのノードには、キーがありません。」
- 「このノードに直接保存されているキーを収集できません。」 HP Systems Insight Managerホストと指定されたシステムは、Microsoft Windowsを実行している必要があります。
- 「ターゲット システムは接続アクセスを拒否しました。このシステムのWBEMアクセス証明書を指定してください。」
- 「ターゲット システムは接続アクセスを拒否しました。このシステムのWBEMアクセス証明書を提供してください。または、参照されているIPC\$アカウントがロックアウトされています。」指定された証明書、およびターゲット システムとの現在の接続で使用されている証明書の間に矛盾があります。ターゲット が動作しているドメインの外に、指定された証明書が存在している可能性もあります。
- 「このタイプのシステムからキーを収集することはできません。」このタイプのシステム用の製品がありません。選択されたターゲット が、サーバ、デスクトップ、ノートブック、そのようなシステムのその他のタイプになっていません。

次のエラー メッセージは、ライセンス マネージャの問題がターゲット システムで発生したことを表します。

注記：次のエラーが発生することは、ほとんどありません。

- 「ターゲット システム上でのライセンス情報エラー」。ターゲット で見つかったキー情報に、フォーマットやその他の詳細のエラーがあります。
- 「ライセンス情報収集中のエラー」。このターゲット で、収集プロセスがエラーになりました。電源の切断、ネットワークからの切断などにより、システムがオフラインになっている可能性があります。
- 「このシステムへの接続に失敗しました」。ネットワークパスが見つからないなどのエラーが考えられます。このシステムが、ライセンス情報の要求に応答しませんでした。電源の

切断、ネットワークからの切断などにより、システムがオフラインになっている可能性があります。

- 「指定されたシステムはデータベースに存在しません」。HP Systems Insight Managerデータベースのシステム情報が、別のプロセスで削除されています。
- 「ターゲット ノード リストが空白です。」キー収集のためのターゲット システム名のリストは空白ではありません。別のユーザが同じシステムをデータベースから削除したことによる不一致の可能性が考えられます。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- キーの収集
- キーのインストール
- キーの管理

キーのインストール

キーのインストール機能は、選択したシステムにライセンス キーをインストールします。ライセンス マネージャの外にキーを格納する必要のある製品では、中央管理サーバ（CMS）と選択したシステムのオペレーティングシステムがWindowsのいずれかを実行している必要があります。それ以外の場合は、制限はありません。矛盾があると、インストールが通知します。

[キーのインストール]にアクセスするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーのインストール]**を選択します。**[キーのインストール]**ウィンドウが表示されます。
2. インストール先となる、1つ以上のターゲット システム、およびインストールする1つ以上のライセンス キーをライセンス マネージャ データベースから選択します。ターゲット 選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。ProLiant Essentials Performance Management Pack（PMP）の現在のバージョンでは、すべてのキーをCMSにインストールする必要があります。
3. 次へをクリックします。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- キーの選択
- キーのインストール結果
- キーについて

キーの選択

1. [インストールするキーの選択]セクションには、該当するキーで使用ユーザの制限に達していないものだけが表示されます。たとえば、使用ユーザに制限のないキーや期限が切れていないBETAキーなどが表示されます。内蔵Lights-Out（iLO）キーは表示されません。**[キーの選択]**テーブルには、以下の列があります。

- **[製品]**。ライセンス供与された製品の名前。

- **[バージョン]**。ライセンスが有効であるソフトウェアのバージョン。新しいバージョンは古いバージョンをサポートしますが、古いバージョンは新しいバージョンをサポートしません。たとえば、バージョン2ではバージョン1ソフトウェアがサポートされますが、バージョン1ではバージョン2ソフトウェアはサポートされません。
 - **[ライセンス タイプ]**。使用できるライセンスは、6種類です（詳細については、「キーについて」を参照してください）。
 - **[最大使用ユーザ数]**。このキーによって使用が認証されるライセンスの総数。
 - **[使用ユーザ数]**。使用されているライセンス数。
 - **[最大日数]**。このキーによって使用が許可される日数（使用期限があるキーのみ）。BETAタイプのキーの場合は、キーが発行されてからの日数です。他のキー タイプの場合は、キーが最初に使用されてからの日数を意味します。
 - **[キー スtring]**。ライセンス キー
2. **すぐに実行をクリックします。**インストール操作を中止するには、メニューから別のアクションを選択します。

注記:



提供されるキーのリストには、以下は含まれません。

- 内蔵Lights-Out (iLO) のキー
- 完全に予約されている特定のキー

関連トピック

- キーのインストール結果
- ライセンス マネージャ
- キーのインストール結果
- キーの収集
- キーの管理

キーのインストール結果

次の情報が、**[デプロイメント結果]**ページに表示されます。

一部のキーでは、1個から3個のさまざまな製品の使用が認証されるので、1つのキーが、認証する製品ごとに1回ずつ、最高3回までインストールされることがあります。ユーザは、インストールされるキーによって認証される製品を指定できません。キーがインストールされて、キーがライセンス供与するすべての製品が有効になります。そのシステムで製品が使用されていない場合、認証は利用されず、ユーザはその結果としてペナルティを受けません。ライセンス マネージャには、iLO（内蔵Lights-Out）システムに関する情報が表示されますが、iLOシステムでは、このツールによるキーインストールが現在サポートされていないので、そのシステムにライセンス キーを直接インストールすることはできません。

注記:

選択したシステムに物理的にキーを配布する必要がある場合や中央管理サーバ（CMS）または選択したシステムがWindowsを実行していない場合などでは、次のステータス メッセージが表示されます。「このキーはインストールできません。このプロジェクトにキーをインストールするには、HP Systems Insight Managerホストおよび指定されたシステムは、Microsoft Windowsを実行している必要があります。」

注記：それぞれのキー インストールでは、システム、キー、および製品ごとに1行が表示されます。

- **[システム名]**。この列には、タスクを実行したシステムの名前が表示されます。
- **[キー]**。この列には、ターゲット システムにインストールされたキーが表示されます。
- **[製品]**。このキーのインストールに関連する製品の名前です。
- **[応答ステータス]**。この列には、システムの応答ステータスが表示されます。キーのインストール タスクが、特定のターゲット システムとキーで正常に実行された場合は、「キーのインストールに成功しました」というメッセージが表示されます。

キーのインストール タスクがエラーになった場合は、エラー メッセージが表示されます。

キーが選択したシステムに直接送られる必要がある場合の、エラーメッセージには、以下が含まれます。

- 「ターゲット システムはMicrosoft Windowsが実行されていません」。ターゲット ノードでは、Windowsオペレーティング システムのいずれかが動作している必要があります。
- 「ターゲット システムは接続アクセスを拒否しました」。このシステムのWBEMアクセス証明書を指定してください。デフォルトの証明書や指定された証明書では、このターゲットにアクセスできません。
- 「ターゲット システムは接続アクセスを拒否しました。このシステムのWBEMアクセス証明書を提供してください」。指定された証明書、およびターゲット システムとの現在の接続で使用されている証明書の間に矛盾があります。または、ターゲットが動作しているドメイン（または信頼関係）の外部に、指定された証明書があります。
- 「このシステムにキーをインストールできません」。このタイプのシステム用の製品がありません。ターゲットが、サーバ、デスクトップ、ノートブック、その他該当するシステムになっていません。
- 「ターゲット システムのライセンス情報書き込み権限が拒否されました」。ターゲット システムのレジストリにリモートからアクセスできません。すべての候補ターゲットでは、「リモート レジストリ サービス」が動作している必要があります。この場合は、単純なチェックで済みます。
 - telnet hostname（ターゲット ホストに接続）
 - net start（リモート レジストリ サービスがすでに動作しているかどうかを確認）
 - リモート レジストリ サービスのnet start（必要に応じてレジストリ サービスを起動）

注記：どのようなインストール状況でも以下のエラーが表示されることがありますが、多くはありません。

- 「指定されたシステムはデータベースに存在しません」。HP Systems Insight Managerデータベースのノード情報が、別のプロセスで削除されました。
- 「キーの作成認証に失敗しました」。このターゲット システムにキーをインストールするとき、問題が発生しました。キーを要求するアプリケーションやシステムに、キーの直接適用が必要な場合があります。
- 「このフォーマットでのキーのインストールはサポートされていません」。キーインストールで、ProLiant Essentialsキーのみのサポートが意図されています。ライセンス マネージャでは、外部キーを表示できますが、インストールできません。
- 「キーが選択されていません」。以前選択したキーが存在しません。このエラーが発生することは、ほとんどありません。
- 「キー スtringが無効です」。選択されたキーが無効です。以前確認されたキーが破壊されたことになるので、このエラーが発生することはほとんどありません。
- 「このシステムにライセンス情報をインストール中に問題発生」。電源の切断、ネットワークからの切断などにより、システムがオフラインになっている可能性があります。そうでない場合は、未知の異常イベントが発生しています。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- キーの選択
- キーの収集

キーの管理

キーの管理機能では、選択したサーバと内蔵Lights-Out (iLO) 管理プロセッサのライセンスキーを管理できます。管理できるキーには、iLO製品とProLiant Essentials製品のProLiant Essentialsキー、および外部ライセンススキームで動作する、選択した製品が含まれます。キーとキー伝送は、ユーザの直接入力とユーザ制御のキー収集プロセスから、および検出と識別 (iLOのみ) を含む自動プロセスとその他の自動的な方法から発生できます。

[キーの管理]ページには、ProLiant Essentialsライセンス キー データベース内に含まれるキーの全リストが項目の表形式で表示されます。特定のキーを選択すると、[キーの管理]にそのキーの使用方法についての詳細な情報が表示されます。

[キーの管理]ページにアクセスするには、[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーの管理]を選択します。[キーの管理]ウィンドウが表示されます。

次のオプションが提供されます。

- 「キー詳細の表示」概要テーブルからキーを選択し、その利用状況の詳細を調べます。
- 「キーの個別追加」それぞれのキーを入力し、キー詳細を表示してデータベースにキーを追加します。

- 「ファイルからのキーの追加」特殊フォーマットのキー ファイルを選択し、キー ファイルの内容を表示して、データベースにキーを追加します。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- ファイルからのキーの追加
- キーの個別追加
- キー詳細の表示
- キーの収集
- キーのインストール

キー データベースの内容の表示

HP Systems Insight Managerでは、特定のProLiant Essentialsライセンス キーデータベースの内容を表示できます。

ProLiant Essentialsライセンス キー データベースの内容を表示するには、[キーの管理]ページにアクセスします。[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーの管理]を選択してください。

ライセンス マネージャが認識しているすべてのキーが、[キーの管理]ページに表示されます。適切な列見出しをダブルクリックすると、その列のエントリに基づいてリストを並べ替えることができます。表示される列は次のとおりです。

- **[製品]**。ライセンス供与された製品の名前。
- **[バージョン]**。ライセンスが有効であるソフトウェアのバージョン。高いバージョンでは低いバージョンがサポートされますが、低いバージョンでは高いバージョンがサポートされません。たとえば、バージョン2のキーでは、バージョン1の製品を実行できます。バージョン1の製品を操作できるキーでは、バージョン2のソフトウェア製品を実行できません。
- **[ライセンス タイプ]**。使用できるライセンスは、6種類です（詳細については、「キーについて」を参照してください）。
- **[最大使用ユーザ数]**。キーによって許可されるライセンスの総数。
- **[使用ユーザ数]**。使用中のライセンス数。
- **[最大日数]**。このキーによって使用が認証される総日数。使用期限があるキーのみが対象です。BETAキー タイプの場合、キーが発行されてからの日数を意味します。他のキー タイプの場合、キーが最初に使用されてからの日数を意味します。
- **[キー スtring]**。ライセンス キー スtring。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- ファイルからのキーの追加
- キー詳細の表示
- キーの収集
- キーのインストール

ファイルからのキーの追加

HP Systems Insight Managerでは、1つまたは複数のキーをデータベースに追加できます。キーは、key拡張子の付いたXMLファイルに定義されます。必要に応じて、これらのファイルを作成することができます。フォーマットは、次のような形式になります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<KEYLIST>
<KEY>
<KEYSTRING>A2345-1B345-12C45-123D5-123E5</KEYSTRING>
<PRODUCTNAME1>SMP</PRODUCTNAME1>
<PRODUCTVERSION1>v1.0</PRODUCTVERSION1>
<KEYDISP1>3</KEYDISP1>
</KEY>
</KEYLIST>
```

ユーザ作成のファイルでは、最小限のフォーマットは次のとおりです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<KEYLIST>
<KEY>
<KEYSTRING>A2345-1B345-12C45-123D5-123E5</KEYSTRING>
</KEY>
</KEYLIST>
```

キーを使用して、ファイル内にエンコードする各キーに対してタグシーケンスが繰り返されています。

特殊フォーマットのキー ファイルから1つ以上の新しいキーをデータベースに追加するには、次のように操作します。

1. **[キーの管理]**ページにアクセスし、**[展開]**->**[ライセンス マネージャ]**->**[キーの管理]**を選択します。
2. ファイルからのキーの追加をクリックします。
ページの最下部に**[ページからのキーの追加]**セクションが表示されます。
3. **[ファイル名とパスの指定]**フィールドにフルパスとファイル名を入力します。
または
参照をクリックします。

- a. **【ファイルの選択】**ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. 追加するキー コードを含むキー ファイルにナビゲートします。
 - c. ファイルを特定したら、**開く**をクリックします。
4. **【ファイル名とパスの指定】**フル パスとファイル名が表示されたら、**【開く】**をクリックしてファイルを開きます。キー ファイルの内容が表示されます。
 5. データベースにすべてのキーを追加するには、**【キーの追加】**をクリックします。何らかの理由でキーが無効である場合、そのキーのエラーが報告され、そのキーはデータベースに追加されません。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- キーの個別追加
- キーの収集
- キーのインストール

キーの個別追加

HP Systems Insight Managerでは、キーをデータベースに個別に追加できます。

データベースにキーを個別に追加するには、次のように操作します。

1. **【展開】**>**【ライセンス マネージャ】**>**【キーの管理】**を選択します。
2. キーの追加をクリックします。

【新しいキーの追加】ページが表示されます。

3. 5つのフィールドにそれぞれの文字（1フィールドに5文字）を入力し、キーを入力します。左端のボックスからキー コード入力を始めると、現行フィールドがいっぱいになった時点で、カーソルが次のフィールドに自動的に進みます。

または

5つの入力フィールドにキーを貼り付けてキーを入力します。たとえば、Emailのテキストとしてキー を受信した場合は、貼り付けることができます。

4. キー スtring全体を強調表示し、**Ctrl + C**キーを押してコピーします。
5. 入力ボックスになっている5つのフィールドのいずれかにカーソルを配置し、**Ctrl + V**キーを押してライセンス キーを貼り付けます。右クリックして貼り付けることもできます。

5つのフィールドそれぞれに5文字が入力された状態で、ライセンス キーが表示されます。

注記： 完全なキーを貼り付ける場合は、5文字の5つのグループがハイフン（-）で区切られた形式でキーが提供される必要があります。たとえば
#####-#####-#####-#####-#####という形式です。フィールドの文字とハイフンの間に空白はありません。

6. **開く**をクリックして、キーの詳細を表示します。

7. データベースに新しいキーを追加するには、**[キーの追加]**をクリックします。キーが無効であり、そのキーがデータベースに追加されない場合は、エラーメッセージが表示されません。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- ファイルからのキーの追加
- キーの収集
- キーのインストール

キー詳細の表示

HP Systems Insight Managerでは、特定のキーについて、ライセンス詳細情報を表示できます。**[キーの管理]**ページにアクセスしてください。アクセスするには、**[展開]**->**[ライセンス マネージャ]**->**[キーの管理]**を選択します。

特定キーの使用に関する詳細を表示するには、目的のキーを選択します。

- **[システム名]**。このキーのインスタンスを含むシステムの名前。キーは使用されていないことがあります。
- **[システム タイプ]**。HP Systems Insight Managerによって定義された、指定されたサーバのシステム タイプ。たとえばサーバ。
- **[使用ユーザ数]**。選択したキーに関連する使用ユーザの合計数。
- **[最大日数]**。このキーによって使用が認証される総日数。使用期限があるキーのみが対象です。BETAキー タイプの場合、キーが発行されてからの日数を意味します。他のキー タイプの場合、キーが最初に使用されてからの日数を意味します。
- **[ステータス]**。指定したシステムにおける、このキーの使用ステータス。

ステータス メッセージには、以下が含まれます。

- OK。キーは有効であり、適合しています。
- キーは使用されていません。キーは有効ですが、使用されていません。
- すべてライセンスされています。このターゲットでライセンス キーが完全に使用されています。このため、別の場所でも使用されると、全体で使用過剰になることがあります。
- ライセンスが使用超過しています。このターゲットで、ライセンス キーが使用過剰になっています。
- ライセンスの試用期間が過ぎています。時間制限キーの時間制限を超えました（時間制限が設定されているキーの場合）。
- ライセンスの使用可能期間が過ぎています。時間制限キーの時間制限を超えました（時間制限が設定されているキーの場合）。
- ライセンスのサブスクリプション期間が過ぎています。サブスクリプション キーの期限が過ぎています。

- 無効なライセンス認証です。このターゲットシステムで保存されているキー情報が無効です。
- 不正デバイスホストです。このキーが見つかったターゲットのシリアル番号が、このマシンから取得したキー情報に含まれるシリアル番号と一致しません。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- ファイルからのキーの追加
- キーの収集
- キーのインストール

システム ライセンス情報レポート

システム ライセンス情報レポート機能を使うと、内蔵Lights-Out (iLO) システムのProLiant Essentialsライセンス情報をすばやく効率的に追跡できます。このレポート機能は、ライセンスキーに基づいて、ProLiant Essentials製品の利用状況についてもレポートします。

iLO製品はライセンス要求に応答するように設定する必要があります。設定ページは、適切な[システム ページ]を選択することによって表示でき、[ツール&リンク]をクリックしてから、iLOを示すリンクをクリックします。iLOで、[Administration]>[SNMP]>[Insight Manager Settings]を選択します。ページの下部にある、[Configure Insight Manager Integration]セクションを探します。[The Level of Data Returned]は、[Medium]または[High]に設定する必要があります。[The Level of Data Returned]を [Low] に設定した場合は、システムがレポートされます。ただし、ライセンスステータスは判定できず、このステータスに使用不可というメッセージが示されます。[The Level of Data Returned]を[None]に設定した場合は、ライセンス レコードはありません。

iLOシステムが管理サーバのデータベースから削除された場合は、このシステム用に保存されたiLOのライセンス情報も同時に削除されます。サーバやデスクトップなどの他のすべてのシステムについては、ライセンス情報が削除されることはありません。

iLOのレポートでは、[製品バージョン]フィールドが空白になっている場合があります。[ライセンス キー]フィールドは、iLOに有効なライセンスがあっても空白になっている場合があります（[The Level of Data Returned]を [Low] に設定した場合）。iLO製品は、[ライセンス タイプ]フィールドが空白でない場合に、ライセンスが付与されていると見なされます。[使用ライセンス数]フィールドはその特定のシステムの持つライセンス キーの合計使用数です。ProLiant Essentialsのライセンスでは、特定のキーによってライセンス対象項目の同時使用数が決まります。[使用ライセンス数]は、該当するシステムの該当するキーの使用数を反映します。

注記:



システム ライセンス情報レポートを実行する前に、検出を実行して、iLOシステムからライセンス情報を取得します。あるいは、[ライセンス マネージャ - キーの管理]概要テーブルでiLOのキーを参照できる場合があります。詳細については、「自動検出の設定」を参照してください。

注記:



iLO製品の場合、**[製品バージョン]**フィールドが空白になります。

レポートされるライセンス情報は、HP Systems Insight Managerが認識するすべてのシステムのライセンス マネージャ（キーを収集済み）から収集されます。

完全な設定権があるユーザのみが、ライセンス キーにアクセスできます。設定権が制限されているユーザや設定権がないユーザは、レポート実行時にこの列を表示できません。設定権が制限されているユーザや設定権がないユーザは、レポート設定の作成時に、**[ライセンス キー]**列の表示や選択を実行できません。

システム ライセンス情報レポート

システム ライセンス情報レポートは、ライセンスの詳細と配布の概要を示したものです。

- システム名
- ライセンス キー
- 購入済みライセンス数
- 使用中のライセンス数
- キー バージョン
- 製品名
- 製品バージョン
- ライセンス タイプ
- ライセンスの日付
- ライセンスの有効期限（DEMOキーのみ）
- ステータス

それぞれのフィールドの詳細については、「レポート ビュー」、R_DeviceLicenseInfoを参照してください。

アップグレード結果

アップグレード中に、すべてのレポートの設定が検証され、これらのレポート内のiLOライセンス レポート項目は新規のシステム ライセンス情報レポートの項目にマッピングされます。ライセンス キーのiLOレポート項目が古いデータベースのレポート設定から検出されると、このレポート設定が新規データベースにコピーされ、レポート設定が新しいライセンス キーを参照するようになります。同時に、**[ライセンス購入数]**と**[製品名]**のレポート項目がコピー先のレポート設定に挿入されます。

関連プロシージャ

- システム レポート
- キーの収集
- キーのインストール
- キーの管理

関連トピック

- レポート機能
- レポート ビュー
- システム レポート

ProLiant Essentialsアプリケーションを使用したライセンス付与

選択したターゲットにその製品を使用するためのライセンスがない場合、**[ライセンスされていないシステムへのライセンス（オプション）]**ページが表示されます。ライセンスがないターゲットまたはデモ キーでライセンスされたターゲットだけが表示されます。

このページは、メニューから直接アクセスできません。特定の製品に固有の1ページまたは複数ページが順に表示されます。このページを使用するすべての製品が、同じページを共有します。したがって、その製品でもページのフォーマットと操作は同じです。

このページから次の4つのボタンを使用できます。

戻る。 戻るをクリックすると、前のページに戻ります。

キーの追加。 HP Systems Insight Managerに認識されていない追加のライセンスを使用できる場合は、これらのライセンスのキーを追加できます。キー文字列がわかっている場合は、キーの追加をクリックし、**[キーストリングの指定]**フィールドにキーを入力して、**OK**をクリックします。この製品に適用できるライセンス キーだけが受け入れられて追加されます。他の製品キーを追加する場合は、ライセンス マネージャ、キーの管理を使用します（**[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーの管理]**）。

ライセンスの適用。 使用できるライセンスがある場合は、ライセンスされていないターゲットを選択し、**ライセンスの適用**をクリックします。使用期限があるデモ キーの形でライセンス付与されているターゲットも表示されます。これらのキーを選択することもできますが、ライセンスを取得しなおすには、PAIDキーを使用する必要があります。すべてのターゲットにライセンスが適用されると、このシーケンスでこのページは表示されません。まだライセンスされていないターゲットがある場合、またはデモ キーでライセンスされているターゲットがある場合、このページが再表示されて、ライセンスされていないターゲットのオリジナルの一覧を表示し、現在ライセンスされているターゲット システムとライセンスされていないターゲット システムを示します。デモ キーを使用してライセンスされたターゲットのライセンスを選択すると、ターゲットは永続的なキーで再ライセンスされます（キーがある場合）。再ライセンスの時点で不十分なライセンスが残っている場合、デモ ライセンスが有効のままとなります。ライセンスを使用するときには、フル ライセンス（製品に含まれるライセンスも含む）が最初に使用されます。これらのライセンスをすべて使用した後にまだライセンスのないシステムがある場合、製品が許容すれば、いっぱいまで使用されていないデモ キーが使用されます。最後に、他のユーザが製品と共に使用するために他のターゲットにライセンスを適用する場合があるため、使用できるライセンスと同数のターゲットを選択できますが、一部のターゲットでライセンス適用に失敗する場合があります。その場合には、メッセージで通知されます。

次へ。これらのライセンスされていないターゲットにライセンスを適用したくない場合や、これらのターゲットの一部にライセンスを適用した後で、（選択したターゲットの少なくとも1つにライセンスが適用されていれば）直接次へをクリックして、続けることができます。選択したターゲットにライセンスを適用されているものがない場合は、次へボタンが表示されます。

ライセンスの追加が完了すると、キーによってライセンスを有効にすることにより、使用できるライセンスの数が増えます。これで追加のライセンスを使用できます。

注記:



すべてまたは一部の選択したターゲットがデモ キーを使用してライセンスを適用されている場合は、それらのターゲットは、非ライセンス テーブルに、デモ キーを使用したライセンスというステータスで表示されます。ここで、それらのターゲットのいずれかを選択して、完全なキーで再ライセンスすることができます。デモ キーや評価キーを使用してシステムを再ライセンスすることは認められません。

関連トピック

- ライセンス マネージャ
- キーについて

管理プロセッサ ツール

管理プロセッサを検出すると、新しいメニュー項目が表示されます。

- システム電源。このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 内蔵Lights-Out (iLO) システムの電源オプションを制御できます。このツールにアクセスするには、**[ツール]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[システム電源]**の順に選択します。
- システム ロケータ。このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムの識別LEDを制御できます。このツールにアクセスするには、**[ツール]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[システム ロケータ]**の順に選択します。
- 新規ユーザ。このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLO システムに新しいユーザアカウントを追加できます。このツールにアクセスするには、**[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[新規ユーザ]**の順に選択します。
- ユーザの編集。このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムの既存のユーザアカウントを変更できます。このツールにアクセスするには、**[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[ユーザの編集]**の順に選択します。
- ユーザの削除。このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムの既存のユーザアカウントを削除できます。このツールにアクセスするには、**[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[ユーザの削除]**の順に選択します。

- **LANアクセス。** このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムのLANアクセス設定を変更できます。このツールにアクセスするには、**[設定]->[管理プロセッサ]->[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]->[LANアクセス]**の順に選択します。
- **LDAP設定。** このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムのLDAPサービスを設定できます。このツールにアクセスするには、**[設定]->[管理プロセッサ]->[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]->[LDAP設定]**の順に選択します。
- **iLOコントロール。** このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムで内部制御処理を実行できます。このツールにアクセスするには、**[設定]->[管理プロセッサ]->[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]->[iLOコントロール]**の順に選択します。
- **ファームウェアアップグレード** このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムのFTP経由でのファームウェアのアップグレードを実行できます。このツールにアクセスするには、**[設定]->[管理プロセッサ]->[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]->[ファームウェア アップグレード]**の順に選択します。
- **SSHパブリック キーの展開。** このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLOシステムにHP Systems Insight Manager SSHパブリック キーをインストールできます。このツールにアクセスするには、**[設定]->[管理プロセッサ]->[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]->[SSHパブリック キーの展開]**の順に選択します。

関連プロシージャ

- 管理プロセッサの新しいユーザの作成
- 管理プロセッサ ユーザの編集
- 管理プロセッサ ユーザの削除
- 管理プロセッサLANアクセスの設定
- 管理プロセッサのLDAPの設定
- 管理プロセッサのiLO制御の設定
- 管理プロセッサ ファームウェアのアップグレード
- 管理プロセッサへのSSHパブリック キー展開

管理プロセッサのシステム電源オプションの設定

このツールを使用すると、関連付けられたHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out (iLO) システムを介して、1台以上のサーバの電源を制御できます。

システム電源制御を設定するには、次のように操作します。

1. **[ツール]->[管理プロセッサ]->[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]->[システム電源]**の順に選択します。**[システム電源]**ページが表示されます。
2. ターゲットシステムを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:アクションの選択]**ページが表示されます。
3. **[システム電源管理]**の下で、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - パワー サイクル
 - 電源オン
 - 電源オフ

- グレースフル シャットダウン（HP9000を除く）

4. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。スケジュールをクリックすると、別の機会に実行されるようにタスクをスケジュールできます。また、**戻る**をクリックすると、前の**[システム電源]**ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- 管理プロセッサのシステム ロケータ オプションの設定

管理プロセッサのシステム ロケータ オプションの設定

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out（iLO）システムのシステム識別LEDを制御できます。

システム識別LEDを制御するには、次のように操作します。

1. **[ツール]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[システム ロケータ]**の順に選択します。**[システム ロケータ]**ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:アクションの選択]**ページが表示されます。
3. **[システム ロケータ/ユニット識別LED]**の下で、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - オン
 - オフ
4. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。スケジュールをクリックすると、別の機会に実行されるようにタスクをスケジュールできます。また、**戻る**をクリックすると、前の**[システム電源]**ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- 管理プロセッサのシステム電源オプションの設定

管理プロセッサの新しいユーザの作成

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 内蔵Lights-Out（iLO）システムに新しいユーザ アカウントを追加できます。

新しいユーザを作成するには、次のように操作します。

1. **[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[新しいユーザ]**の順に選択します。**[新しいユーザ]**ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:アクションの選択]**ページが表示されます。

3. **[新しいユーザ アカウントのプロパティを入力]**の下に、以下の情報を入力します。
 - **ログインID。** (必須) iLOにログインする際に使用する必要のある名前です。ログインIDの最大長は25文字です。
 - **パスワード。** (必須) iLOにログインする際に入力する必要のあるパスワードです。パスワードは6~24文字で設定してください。
 - **パスワード(確認)。** (必須) 確認のためにもう一度パスワードを入力します。
 - **ユーザ名。** (必須) iLOのユーザ リストに表示される名前です。ログイン名と同じである必要はありません。ユーザ名の最大長は25文字です。
4. **[アクセス権]**の下で、そのユーザの1つまたは複数のアクセス権を選択します。通常、新しいユーザには、コンソール アクセス権を付与します。
 - コンソール アクセス
 - 電源アクセス
 - マネジメント プロセッサ設定
 - ユーザ管理
5. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。戻るをクリックすると、前の**[新規ユーザ]**ページに戻ります。

関連プロシージャ

- 管理プロセッサのシステム ロケータ オプションの設定

管理プロセッサ ユーザの編集

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out (iLO) システムの既存のユーザ アカウントを編集できます。

ユーザを編集するには、次のように操作します。

1. **[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[ユーザの編集]**の順に選択します。**[ユーザの編集]**ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:既存のユーザ アカウントを編集するためのプロパティの入力]**ページが表示されます。
3. **[修正したユーザ アカウントのログイン名を入力:]**の下に、変更するログイン**ID**を入力します。
4. **[このユーザ アカウントの修正するプロパティを選択:]**の下で、変更する属性を選択し、適切な情報を入力します。以下の属性から選択してください。
 - **パスワード。** パスワードを変更する場合は、確認のために**[パスワード(確認)]** フィールドにもパスワードを入力してください。

- ユーザ名。 ユーザ名を使用するには、このフィールドを選択します。ユーザ名を、ログイン名と一致させる必要はありません。ユーザ名の最大長は25文字です。
 - アクセス権。 アクセス権を変更する場合は、コンソール アクセス、電源アクセス、マネジメント プロセッサ設定、およびユーザ管理から選択してください。アカウントのすべてのアクセス権を排除したい場合は、[アクセス権]チェックボックスを選択し、[コンソール アクセス]、[電源アクセス]、マネジメント プロセッサ設定、および[ユーザ管理]チェックボックスの選択を解除してください。
5. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。戻るをクリックすると、前の[ユーザの編集]ページに戻ります。

関連プロシージャ

- 管理プロセッサの新しいユーザの作成
- 管理プロセッサ ユーザの削除

管理プロセッサ ユーザの削除

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out (iLO) システムの既存のユーザ アカウントを削除できます。

ユーザを削除するには、次のように操作します。

1. [設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[ユーザの削除]の順に選択します。[ユーザの削除]ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。[ステップ2:既存のユーザ アカウントを削除するためのプロパティの入力]ページが表示されます。
3. 削除するログインIDを入力します。
4. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。戻るをクリックすると、前の[ユーザの削除]ページに戻ります。

注記:

HP Systems Insight Managerは、管理プロセッサ ツールの実行に、Adminアカウントを使用します。このアカウントがiLOから削除されている場合は、ツールの実行方法を設定しなないと、ツールがそのシステムのiLOにアクセスできません。



異なるiLOアカウントでのHP Systems Insight Managerのツールの実行方法を設定するには、次のように操作します。

1. iLOでのツールの実行に使用されるユーザ アカウントを選択します。このユーザ アカウントは、すべての管理対象iLOに存在し、iLOに関するすべての権限を持っている必要があります。
2. 中央管理サーバ (CMS) のツール ディレクトリに移動し、MpTools.xmlを編集します。

3. XMLファイルで各<**execute-as-user**>行を確認して、Adminを手順1で指定したユーザ アカウントに変更します。
4. **mxtool -m -f MpTools.xml -x force**を実行します。
5. CMSで、**mxagentconfig**またはDeploy SSH Public Keyツールを実行して、このユーザ アカウントの認証キーを各管理対象iLOにコピーします。SSHパブリック キーのインストールの詳細については、「管理プロセッサへのSSHパブリック キー展開」を参照してください。

関連プロシージャ

- 管理プロセッサの新しいユーザの作成
- 管理プロセッサ ユーザの編集

管理プロセッサLANアクセスの設定

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out (iLO) システムのLANアクセス設定を変更できます。

LANアクセス設定を変更するには、次のように操作します。

1. **[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[LANアクセス]**の順に選択します。**[LANアクセス]**ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:LANアクセス設定の入力]**ページが表示されます。
3. **[構成する設定およびその値を選択してください]**の下で、以下の項目を選択します。
 - **Telnetアクセス。** Telnetアクセスの有効または無効を選択します。この設定は、IP設定や、管理プロセッサがLAN経由でアップグレードを実行する機能には影響しません。
 - **Web SSL。** Web SSLの有効または無効を選択します。
 - **Webコンソール ポート。** このオプションを選択する場合は、有効なポート番号を入力する必要があります。有効なポート番号は、23および2000～2400です。
 - **IPMI over LANアクセス。** IPMI over LANアクセスの有効または無効を選択します。
4. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。スケジュールをクリックすると、タスクの実行をスケジュール設定できます。**戻る**をクリックすると、前の**[LANアクセス]**ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

管理プロセッサのLDAPの設定

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out (iLO) システムのLDAPサービスを設定できます。

LDAPサービスを設定するには、次のように操作します。

1. **[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[LDAP設定]**の順に選択します。**[LDAP設定]**ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:LDAPディレクトリ設定の入力]**ページが表示されます。
3. **[構成する設定およびその値を選択してください]**の下で、以下の項目を選択します。
 - ローカル ユーザ アカウント。 ローカルiLOユーザ アカウントへのアクセスの有効または無効を選択します。ローカル ユーザ アカウントが有効になっていると、ユーザは、ローカルに保存されているユーザ証明書を使用してiLOにログインできます。ローカル ユーザ アカウントが無効になっていると、ユーザアクセスは、有効なディレクトリ証明書のみで制限されます。
 - ディレクトリ認証。 選択されたiLOでのディレクトリ サポートをアクティブまたは非アクティブにするために有効または無効を選択します。ディレクトリ認証が有効になっており、適切に設定されている場合、ユーザは、ディレクトリ証明書を使用してiLOにログインできます。無効になっている場合、ユーザ証明書のディレクトリによる認証は行われません。
 - ディレクトリ サーバIPアドレス。 ディレクトリ サーバのIPアドレスを入力します。
 - ディレクトリ サーバLDAPポート。 サーバ上の安全なLDAPサービスのLDAPを入力します。このポートのデフォルト値は、636です。
 - 識別名 このiLOインスタンスがディレクトリ ツリーでリストされる場所を指定します。次に例を示します。cn=MP Server.ou=Management Devices.o=hp
 - ユーザ検索コンテキスト1。 iLOにアクセスするために入力されるログイン名に適用されるユーザ名コンテキストです。
 - ユーザ検索コンテキスト2。 iLOにアクセスするために入力されるログイン名に適用されるユーザ名コンテキストです。
 - ユーザ検索コンテキスト3。 iLOにアクセスするために入力されるログイン名に適用されるユーザ名コンテキストです。
4. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。スケジュールをクリックすると、タスクの実行をスケジュール設定できます。**戻る**をクリックすると、前の**[LDAP設定]**ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

管理プロセッサのiLO制御の設定

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000内蔵Lights-Out (iLO) システムの内部制御処理を実行できます。

内部制御処理を実行するには、次のように操作します。

1. **[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[iLOコントロール]**の順に選択します。**[iLOコントロール]**ページが表示されます。

2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。[ステップ2:ひとつ以上のアクションを選択]ページが表示されます。
3. 表示される次のオプションの一方または両方を選択します。
 - イベント ログのクリア。 システム イベント ログを消去します。
 - マネジメント プロセッサ リセット。 iLOをリセットします。
4. タスクをすぐに実行するには、すぐに実行をクリックします。スケジュールをクリックすると、タスクの実行をスケジュール設定できます。戻るをクリックすると、前の[iLOコントロール]ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

管理プロセッサ ファームウェアのアップグレード

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 iLO（内蔵Lights-Out）システムのFTP経由でのファームウェアのアップグレードを実行できます。アップグレードは、選択したすべてのiLOで同時に実行されます。

ファームウェアのアップグレードを開始するには、次のように操作します。

1. [設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[ファームウェア アップグレード]の順に選択します。[ファームウェア アップグレード]ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。[ステップ2:ファームウェア アップグレードパラメータの指定]ページが表示されます。
3. 次の情報を入力します。
 - ソースIP。 FTPサーバのIPアドレスを入力する必要があります。
 - ファイルパス。 アップグレードファイルが保存されているディレクトリ（FTPサーバ上）のパスです。
 - ログインID。 FTPサーバへのログインに使用するログインIDです。
 - パスワード。 FTPサーバにログインするためのパスワードです。
4. タスクをすぐに実行するには、すぐに実行をクリックします。[スケジュール]をクリックすると、タスクの実行をスケジュール設定できます。戻るをクリックすると、前の[ファームウェア アップグレード]ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

管理プロセッサへのSSHパブリック キー展開

このツールを使用すると、1つまたは複数のHP IntegrityおよびHP 9000 内蔵Lights-Out (iLO) システムにHP Systems Insight Manager SSHパブリック キーをインストールできます。このツールを実行する前に、ターゲットiLOでSSHを有効にして、iLOでSSHキーを生成しておく必要があります。このツールは、初期インストールの後または中央管理サーバ（CMS）のパブリック

キーを変更した後に必ず一度実行してください。これは、すべての管理プロセッサ ツールの実行要件です。

このツールは、HP Systems Insight Manager CMSで管理者権限を持つアカウントから実行する必要があります。

HP Systems Insight ManagerのSSHパブリック キーをインストールするには、次のように操作します。

1. **[設定]>[管理プロセッサ]>[HP IntegrityおよびHP 9000 iLO]>[SSHパブリック キーの展開]**の順に選択します。**[SSHパブリック キーの展開]**ページが表示されます。
2. ターゲット管理プロセッサを選択し、次へをクリックします。ターゲット選択については、「タスクの作成」を参照してください。**[ステップ2:ログイン証明書の入力]**ページが表示されます。
3. ターゲットiLOの管理者アカウントの証明書を入力します。
 - ユーザ名。 管理対象iLOの管理者アカウントです。通常は、Adminアカウントです。
 - パスワード。 管理対象iLOの管理者アカウント パスワードです。
 - パスワード（確認）。 パスワードを確認します。
4. タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。スケジュールをクリックすると、タスクの実行をスケジュール設定できます。戻るをクリックすると、前の**[SSHパブリック キーの展開]**ページに戻ります。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

MIBの管理

管理情報ベース（MIB）は、ネットワークのシステムの特定情報を正しく解釈できるようにする情報が含まれているファイルであり、ネットワークのアクティビティをより正確に表示できます。この機能を利用するには、MIBをHP Systems Insight Managerに登録する必要があります。詳細については、「MIBの登録」を参照してください。

このMIBには豊富な管理インフラストラクチャがあり、HPはその製品にこのインフラストラクチャを組み込んでいます。HP MIBは、HP Systems Insight Managerデータベースにすでに登録されています。Windows CMSでは、ディレクトリ\hp\system insight manager\mibsにMIBが存在します。UNIX CMSでは、opt\mx\mibsにあります。HP以外のシステムがネットワークにある場合は、システムに付属のMIBを登録できます。MIBの登録については、「MIBの登録」を参照してください。登録すると、MIBが正しく識別され、トラップを正しく解釈して、ネットワークのアクティビティをより正確に表示できるようになります。サードパーティ製MIBの最新バージョンを登録してください。

関連プロシージャ

- MIBの登録
- MIBの登録解除
- MIBのコンパイル
- MIBの編集

MIBの表示

管理情報ベース（MIB）をHP Systems Insight Manager データベースに登録したら、**mxmib -l** や**mxmib -t**など、その他の**mxmib**オプションを使用し、データベースに追加されているすべてのMIB、および特定MIBに関連しているすべてのトラップを表示できます。[SNMPトラップの設定]（[オプション]->[イベント]->[SNMPトラップの設定]）を使用し、データベースに含まれる、すべての登録済みMIBと関連トラップを表示することもできます。この画面では、イベントタイプ、説明、トラップ処理の有効化、カテゴリ、深刻度を修正し、ネットワークで収集した情報をさらにカスタマイズできます。MIBの編集については、「MIBの編集」を参照してください。

警告！



登録したMIBファイルの名前変更、別のディレクトリへの移動、削除はしないでください。

注記:



登録したとおりにMIBファイルをリストするには、MIBファイルがMIBディレクトリに常駐する必要があります。

注記:



下記のHP Systems Insight Managerディレクトリは、デフォルト ディレクトリです。ただし、ディレクトリは、HP Systems Insight Managerのインストール中に指定したディレクトリによって変化します。

Windowsオペレーティング システムでMIBを表示するには、次のように操作します。

1. MIBディレクトリc:/program files/hp/systems insight manager/mibsに移動します。
2. ASCIIエディタでMIBを開きます。
3. Windowsコマンド ラインに**write cpqhost.mib**と入力します。

Linux/HP-UXオペレーティング システムでMIBを表示するには、次のように操作します。

1. **cd opt/mx/mibs**と入力します。
2. 登録済みMIBを表示するには、**mxmib -l**を実行します。
3. シェル プロンプトに**vi file.mib**と入力します。

関連プロシージャ

- MIBの登録
- MIBの登録解除
- MIBのコンパイル
- MIBの編集
- SNMPトラップの設定

関連トピック

- MIBの管理

MIBの編集

HP MIB設定ファイル（.cfg）は、次のようなトラップ固有の情報で編集できます。

- タイプ。タイプは、実際のトラップ名の単純な形式です。この名前が、システムを的確に記述していない場合は、このタイプを変更します。
- 深刻度。一部のベンダは、すべての深刻度レベルにデフォルトの「情報」を使用しています。この深刻度を、ユーザの判断した問題の深刻度を反映するレベルに変更してください。または、使用している環境では、クリティカルなステータスではないことが明確にわかっている、トラップ メッセージのメジャーまたはクリティカルな深刻度を変更できます。このようなステータスがあてはまるかどうかは、ユーザが判断します。HP Systems Insight Managerに対する有効なオプションは、以下のものだけです。クリティカル、メジャー、マイナー、警告、および情報
- MSG_FORMATTER。ポケベルやEmailに送信することがある、拡張メッセージの作成に使用するメッセージ フォーマット文字列です。この文字列は、REVやMIBで修正できます。
- トラップ処理有効。デフォルトの場合は、すべてのトラップが有効です。トラップ処理を使用すると、メッセージの量を制御できます。不要な通知メッセージや、修正されていないイベントについて繰り返されるトラップメッセージなどの意味のないメッセージをシャットオフしてください。
- 説明。説明は、ベンダによって提供されます。より具体的な指示、正確な参考資料、Web サイト参照で置き換えてください。
- カテゴリ。カテゴリ リストには、HP Systems Insight Managerカテゴリ タイプと未割り当てがリストされます。

.cfgファイルを編集するには、次のように操作します。

1. 次のようにMIBディレクトリに移動します。
 - Windowsオペレーティング システムの場合は、\program files\hp\systems insight manager\mibsに移動します。
 - Linux/HP-UXオペレーティング システムの場合は、\opt\mx\mibsに移動します。
2. **mcompile** mylib.mibを実行して、.cfgファイルを作成します。
3. .cfgファイルが作成されたら、任意のエディタを使用して.cfgファイルを編集します。

HP Systems Insight Managerでトラップ固有の情報を編集するには、次のように操作します。

1. HP Systems Insight Managerから、**[オプション]**->**[イベント]**->**[SNMPトラップの設定]**を選択します。

[SNMPトラップの設定]ページが表示されます。

2. MIB名を選択します。
3. MIB内で編集するトラップを選択します。
4. ファイルを変更内容で編集し、**OK**をクリックします。変更内容が保存されます。

注記：**[SNMPトラップの設定]**で行った変更は、HP Systems Insight Managerデータベースにのみ保存されます。**.cfg**ファイルとMIBファイルは影響されません。

関連プロシージャ

- MIBの表示
- MIBのコンパイル
- MIBの登録解除

関連トピック

- MIBの管理

MIBのコンパイル

ユーザは、**mcompile**コマンドによって、SNMP MIBファイルを、中間フォーマット（.cfg）ファイルにコンパイルできます。このファイルは、**mxmib**ユーティリティによって登録してHP Systems Insight Managerで使用できます。

次のヒントを参考にしてください。

- コンパイルするMIBファイルに、別のMIBからのインポートが含まれている場合は、コンパイルするMIBファイルと同じディレクトリに、インポートするMIBファイルも配置する必要があります。
- MIBファイルのコメント行は、「-」で始まり、改行または「-」で終わります。行全体に「-」が含まれるMIBに注意してください。この行はコメントを意図したものです。ただし、余分なダッシュと最初のセットの「-」が打ち消しあっています。

次に例を示します。

- xyzでは、xyzがコメントになります。

ところが

-- xyzとなっていれば、結果的にxyzのコメントは解除されます。

- **mcompile**では、行のモジュールの末尾にENDキーワードが期待されます。MIBファイルのENDキーワードの後に新しい行があることを確認してください。
- **mcompile**では、標準データ型の再定義が許可されていません。コンパイルするMIBにこのような再定義が含まれている場合は、コメントにしてから**mcompile**を実行してください。

MIBをにコンパイルするには、次のように操作します。

1. MS-DOS®ウィンドウかUNIXシェルを開きます。
2. **mcompile**を実行して、SNMP MIBファイルを中間フォーマット（.cfg）にコンパイルします。

mcompileでは、**-d**オプションが認識されます。このオプションでは、指定したディレクトリに変更し、MIBファイルの特定と処理が行われます。中間（.cfg）ファイルは、MIBファイルと同じディレクトリに常に配置されます。デフォルトの場合、**mcompile**では、現行ディレクトリでMIBファイルが検索されます。

次に例を示します。

```
cd mibsdir
```

```
mcompile mymib.mib
```

または

MIBディレクトリで実行していない場合は、次のようになります。

```
mcompile -d mibsdir mymib.mib
```

3. HP Systems Insight ManagerにMIBを登録するには、**mxmibl**を実行します。

関連プロシージャ

- MIBの登録
- MIBの登録解除
- MIBの表示
- MIBの編集

関連トピック

- MIBの管理

MIBの登録

HP Systems Insight Managerには、HP MIBが付属しており、インストール時に登録されます。その他に、多くのコンパイル済みMIBが、.cfgファイルの形式で組み込まれています。このMIBは、便利なときに登録できます。多くのこのような.cfgファイルは編集されています。対応するMIBを再コンパイルすると、この編集内容は失われます。

ユーザが登録したMIBも含め、現在登録されているMIBのリストを表示するには、次のように操作します。

- Windowsでは、コマンドラインで、**dir "c:\program files\hp\systems insight manager\MIBs*.MIB"**と入力します。
- UNIXでは、コマンドラインで、**ls /opt/mx/mibs/*.mib**と入力します。

HP Systems Insight Managerのインストール時にプリロードされ、登録されるMIBを表示するには、次のように操作します。

- Windowsでは、コマンドラインで、**type c:\program files\hp\systems insight manager\MIBs\ cfglist?.list**と入力します。
- UNIXでは、コマンドラインで、**cat /opt/mx/mibs/cfglist*.list**と入力します。

注記:



これらは、インストール ディレクトリです。HP Systems Insight Managerのインストール時にインストールディレクトリを変更した場合は、このままではなく、これらのコマンドが実際のパスを参照するように入力してください。

HP MIBは、コマンドライン インタフェース (CLI) を使用して登録できます。このCLIは、Windows、Linux、およびHP-UXなどすべてのCMSタイプで同じです。

注記:



MIBを登録する際、MIBに対して必ず**mcompile**を実行しなければならないわけではありません。特に、そのMIBに対応する.cfgファイルが既にある場合は不要です。.cfgファイルが存在する場合に、MIBに対して**mcompile**を実行すると、新しい.cfgファイルが生成され、古い.cfgファイルが上書きされるため、そのファイルで行った変更は無効になります。既存の.cfgファイルがある場合は、新しいMIBが提供されている場合を除いて、.cfgファイルを編集して変更を行うことをおすすめします。

この.cfgファイルは、**mxmib -a**または**mxmib -f**コマンドを使用して、HP Systems Insight Manager データベースに登録できます。

MIBをHP Systems Insight Managerに登録するには、次のように操作します。

1. MS-DOSウィンドウかUNIXシェルを開きます。
2. 任意のエディタを使用し、登録する.cfgファイルのリストを含むファイルを作成します。.cfgは一行に1つずつ入力してください。
3. **mxmib -f cfglist.list**を実行して、MIBのリストをHP Systems Insight Managerに読み込みます。MIBがHP Systems Insight Managerに登録されたら、**mxmib**を使用して、MIBをリストしたり、HP Systems Insight Managerから削除したりすることができます。

注記: **mxmib -a mymib.cfg**を使用し、1つのMIBに登録することもできます。

注記: 登録する.cfgファイルは、MIBディレクトリに存在する必要があります。

関連プロシージャ

- MIBの表示
- MIBのコンパイル
- MIBの登録解除
- MIBの編集

関連トピック

- MIBの管理
- サービス通知イベント

MIBの登録解除

HP MIBは、コマンド ラインを使用して登録解除できます。コマンド ライン インタフェース (CLI) は、Windows、Linux、HP-UXなど、すべてのCMSタイプで同じです。

HP Systems Insight Managerから登録解除するには、次のように操作します。

1. MS-DOSウィンドウかUNIXシェルを開きます。
2. HP Systems Insight ManagerのMIBを登録解除するには、**mxmib -d file.mib**を実行します。

関連プロシージャ

- MIBの表示
- MIBのコンパイル
- MIBの登録
- MIBの編集

関連トピック

- MIBの管理
- サービス通知イベント

OpenSSHのインストール

HP Systems Insight Managerのカスタム コマンドとコマンド ライン ツールは、それぞれの管理対象システムでSecure Shell(SSH) がインストールされて設定されていないと、適切に動作しません。SSHの詳細、およびSSHが使用されているHP Systems Insight Managerの機能については、『[Secure Shell \(SSH\) in HP Systems Insight Manager](#)』を参照してください。

OpenSSHのインストールは、中央管理サーバ (CMS) から実行し、ターゲットWindowsシステムにOpenSSHサービスをインストールしてから**mxagentconfig**コマンドを実行して設定を完了します。

注記:



OpenSSHインストール タスクが正常に動作するように、必ず、Administratorとしてログインしてください。他のユーザとしてログインしている場合は、ユーザ名に非ASCII文字が含まれていないことを確認してください。

OpenSSHインストール オプションでOpenSSHをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[OpenSSHのインストール]**を選択します。**[OpenSSHのインストール]**ウィンドウが表示されます。

2. ターゲット システムを選択します。ターゲット システム選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
 3. 次へをクリックします。
 4. **【ターゲット システムに管理者アカウントの証明書を入力します。】**セクションで以下を実行します。
 - a. **【ユーザ名】**フィールドに、Windows管理者のユーザ名を入力します。
 - b. **【パスワード】**フィールドに、前の手順で入力したWindowsユーザ名の管理者パスワードを入力します。
 - c. **【パスワード】**フィールドに入力したものと同一Windows管理者パスワードを**【パスワード (確認)】**フィールドに再び入力します。
 - d. **【ドメイン】**フィールドに、Windowsドメインを入力します。

注記：ターゲット システムの管理者アカウントがローカル アカウントである場合は、**【ドメイン】**フィールドは空のままにします。
 5. インストールをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。インストールをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。インストールのスケジュール設定については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
- すぐに実行をクリックした場合は、**【タスク結果】**ページが表示されます。**【タスク結果】**ページの詳細については、「タスク結果の表示」を参照してください。

関連プロシージャ

- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- タスク結果の表示
- 初期ProLiant Support Packのインストール
- RDPを使用したOpenSSHの複数システムへのインストール
- CLIを介したOpenSSHタスクの作成

RDPを使用したOpenSSHの複数システムへのインストール

Rapid Deployment Pack (RDP) を使用してターゲット サーバにOpenSSHをインストールした後で、HP Systems Insight Managerパブリック キーをターゲット システムにコピーできます。

RDPを使用したOpenSSHのインストール

1. OpenSSHインストール コンポーネントをインストール サーバにコピーします。
2. 新しいジョブを作成します。
3. **【追加】>>【ファイルのコピー】**を選択し、**【ファイルのコピー】**タスクを追加します。
4. **【ファイルのコピー】**ラジオ ボタンが選択されていることを確認します。

5. OpenSSHインストーラがあるフォルダの完全パスを[コピー元のパス:]に入力します。たとえば、OpenSSH_3.7.1p1-1.exeがフォルダC:\temp\OpenSSHに保存されている場合は、コピー元のパスをC:\temp\OpenSSH\OpenSSH_3.7.1p1-1.exeのように入力します。
6. ターゲット サーバにおける、このファイルのコピー先の場所を[コピー先のパス:]に入力します。たとえば、ターゲット サーバのC:\temp\OpenSSHフォルダにこのファイルをコピーする場合は、コピー先フォルダのパスをC:\temp\OpenSSH\OpenSSH_3.7.1p1-1.exeのように入力します。
7. 完了をクリックします。
8. [追加]>>[スクリプトの実行]をクリックし、[スクリプトの実行]タスクをジョブに追加します。
9. [このスクリプトを実行する]ラジオ ボタンが選択されていることを確認します。
10. [このスクリプトを実行する]の下に、以下を入力します。
C:\temp\OpenSSH\OpenSSH_3.7.1p1-1.exe /SILENT /NORESTART
11. [どのようなOSでこのスクリプトを実行させますか?]セクションで、Windowsラジオ ボタンを選択します。
12. 完了をクリックします。
13. このイベントをドラッグし、OpenSSHをインストールするシステム上にドロップします。

HP Systems Insight Managerからターゲット システムへのパブリック キーのコピー

OpenSSHをインストールしたら、別のスクリプトを作成し、dfsshkey.pubファイル（パブリック キー）をHP Systems Insight Managerサーバからターゲット システムの管理者ユーザのホーム ディレクトリにある.sshディレクトリにコピーします。

1. .dfSshKey.pubファイルをHP Systems Insight Managerの..\Program Files\HP\System Insight Manager\config\sshtools\フォルダからインストール サーバのローカル フォルダにコピーし、.dfSshKey.pubの名前をauthorized_keys2に変更します。
 - a. 新しいジョブを作成します。
 - b. [追加]>>[スクリプトの実行]をクリックし、[スクリプトの実行]タスクをジョブに追加します。
 - c. [このスクリプトを実行する]ラジオ ボタンが選択されていることを確認します。
 - d. [このスクリプトを実行する]の下のボックスに、次のコマンドを入力します（管理者のホーム ディレクトリがC:\Documents and Settings\Administratorであると仮定しています）。

cd C:\Documents and Settings\Administrator

mkdir .ssh

cd .ssh

del * /q

- e. **【どのようなOSでこのスクリプトを実行させますか？】**セクションで、Windowsラジオボタンを選択します。
 - f. authorized_keys2ファイルがある場所の完全なパスを**【コピー元のパス：】**として入力します。たとえば、authorized_keys2がフォルダC:\temp\OpenSSHにある場合、コピー元のパスをC:\temp\OpenSSH\authorized_keys2のように入力します。
 - g. ターゲット サーバにおける、このファイルのコピー先の場所を**【コピー先のパス：】**に入力します。たとえば、管理者のホーム ディレクトリがC:\Documents and Settings\Administratorである場合は、コピー先のパスをC:\Documents and Settings\Administrator\.ssh\authorized_keys2のように入力します。
 - h. 完了をクリックします。
 - i. **【追加】>>【スクリプトの実行】**をクリックし、**【スクリプトの実行】**タスクをジョブに追加します。
 - j. **【このスクリプトを実行する】**ラジオ ボタンが選択されていることを確認します。
 - k. **【このスクリプトを実行する】**の下に、以下のコマンドを入力します。

net stop opensshd

net start opensshd
 - l. **【どのようなOSでこのスクリプトを実行させますか？】**セクションで、Windowsラジオボタンを選択します。
 - m. 完了をクリックします。
2. このイベントをドラッグし、OpenSSHを設定するターゲット システム上にドロップします。

関連プロシージャ

- OpenSSHのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール
- CLIを介したOpenSSHタスクの作成

CLIを介したOpenSSHタスクの作成

mxtask コマンドを使用し、コマンド ラインを介してOpenSSHタスクを作成する場合は、以下の2つの方法で実行してください

- コマンド ラインを介してすべてのパラメータを入力
- XMLファイルを介してすべてのパラメータを入力

注記:



XMLファイルから作成されたタスクは、タスク リストから表示した際は無効になっています。コマンド ラインから作成されたタスクは、タスク リストから表示した際でも無効になっていません。

OpenSSHタスクの作成

1. 情報を正しく入力する方法を参照する場合は、既存のOpenSSHタスクをエクスポートします。
 - a. OpenSSHタスクを作成します。詳細については、「OpenSSHのインストール」を参照してください。
 - b. タスクを**SSH**タスクとして保存します。
2. コマンド ラインから、次のコマンドを実行します。

mxtask -lf "SSH Task" > ssh.xml

これで、ssh.xmlファイルには、コマンド ラインからOpenSSHタスクを作成するのに必要なフォーマットが含まれます。以下にファイル例を挙げます。

```
<?xml version="1.0" encoding="windows-1252"?>
<task-list>
<task name="Install OpenSSH 1" type="manual"
owner="admin" state="enabled">
<toolname>Install OpenSSH</toolname>
<queryname></queryname>
<scheduleinfo />
<timefilter />
<toolparams>
<?xml version="1.0"?>
<XeObject
className="com.hp.mx.portal.taskandjob.
OpenSSHInstall.MxOpenSSHInstallCommandToolParameters"
classVersion="1.0">
<Property name="driveLetter">
<Simple>C:</Simple>
</Property>
<Property name="path">
<Simple>C:\Program Files\HP\System Insight Manager\
```



```
openssh\1118786323238</Simple>
</Property>
<Property name="component">
<Simple>CP005309.EXE</Simple>
</Property>
<Property name="username">
<Simple>administrator</Simple>
</Property>
<Property name="password">
<Simple></Simple>
</Property>
<Property name="domain">
<Simple></Simple>
</Property>
</XeObject>
</toolparams>
</task>
</task-list>>
```

タスク作成時にユーザがGUIから3つのパラメータのみを要求された場合でも、OpenSSHタスクでは、6つのパラメータが使用されます。最初の3つのパラメータは、以下の例のように設定する必要があります。次に例を示します。

- **driveLetter** HP Systems Insight Managerがインストールされているドライブに設定する必要があります。
- **path** opensshディレクトリのフルパス\dir name に設定する必要があります。
ここで、dir nameは、ユーザが選択した名前です。
- **component** CP005309.EXEに設定する必要があります。
- **username** ターゲット システムの管理者権限を持つユーザ アカウントです。
- **password** 「username」で指定した、管理者アカウントのパスワードです。
- **domain** 管理者ユーザのドメインです（管理者ユーザがターゲット システムのローカルアカウントの場合は、空白のままにします）。

XMLファイルを使用したコマンド ラインからのOpenSSHタスクの作成

次のコマンドを実行します。

```
mxtask -cf ssh.xml
```

XMLファイルを使用しない場合の、コマンド ラインからのOpenSSHタスクの作成

次のコマンドを実行します。

```
mxtask -c taskname -q queryname -w schedule -t  
toolname -A toolparams
```

ここで、tasknameは、ユーザがタスクに付けた名前です。querynameは、既存収集の名前です。scheduleは、**Tmanual**です。toolnameは、ツール（OpenSSHをインストールするもの）です。toolparamsは、上にリストされています。

次に例を示します。

```
mxtask -c "ssh1" -q "All Systems" -w Tmanual -t "Install OpenSSH"  
-A "<?xml version="1.0"?>  
<XeObjectclassName="com.hp.mx.portal.taskandjob.  
OpenSSHInstall.MxOpenSSHInstallCommandToolParameters"  
classVersion="1.0">  
<Property name="driveLetter">  
<Simple>C:</Simple>  
</Property>  
<Property name="path">  
<Simple>C:\hpsim\target\windows\stage\sim\openssh\  
1079128853916</Simple>  
</Property>  
<Property name="component">  
<Simple>CP005309.EXE</Simple>  
</Property>  
</Property name="username">  
<Simple>user1</Simple>  
</Property>  
</Property name="password">  
<Simple>password</Simple>  
</Property>  
<Property name="domain">  
<Simple>openview</Simple>  
</Property>  
</XeObject">
```

関連プロシージャ

- OpenSSHのインストール

- RDPを使用したOpenSSHの複数システムへのインストール

PMPツール

HP Systems Insight Manager **[最適化]**メニューでは、次の2つのPerformance Management Pack (PMP) ツールを使用できます。

注記:



これらのオプションは、Windowsシステムでのみ利用できます。HP-UXまたはLinuxシステムでは利用できません。

- オンライン分析。 監視対象サーバのパフォーマンスをリアルタイムで監視して分析できます。監視対象サーバのパフォーマンス ステータスとインベントリ、およびサーバごとのプロセッサ、メモリ、ストレージ、ネットワーク接続、およびホスト バス ノードに関する詳細情報用に、直感的なインタフェースが用意されています。

オンライン分析にアクセスするには、**[最適化]>Performance Management Pack** オンライン分析を選択してください。

または

[すべてのシステム]リスト ページから**[PF]**列のアイコンをクリックし、監視対象サーバを選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

https://middle_tier:2381/pmp/help/Server_Status.htmにアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\htm\help\Server_Status.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

- オフライン分析 PMPレポジトリから、直接、記録されたデータセッションを見ることができます。

オフライン分析にアクセスするには、**[最適化]>Performance Management Pack** オフライン分析を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

https://middle_tier:2381/pmptools/help/Offline Analysis.htmにアクセスします。ここで、middle_tierには、HP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\PMPTools\htm\help\Offline Analysis.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18004.www1.hp.com/products/servers/proliantessentials/valuepack/pmp/index.html> (英語)にある資料を参照してください。

関連トピック

- PMP管理オプション
- PMPレポートのオプション

ツールの削除と回復

ツールの削除

ツールの削除ツールは、HP Systems Insight Managerのすべてのユーザのメニューからツールを削除します。ツール名が、ツール定義ファイルの名前と一致する必要があります。

警告！



このツールは、HP提供のツールを含む、任意のツールを削除できます。

HP Systems Insight Managerからツールを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[ツールの削除]を選択します。[ツールの削除]ページが表示されます。
2. [パラメータ]で、標準のツール パラメータを使用して情報を追加します。[ツール名]が唯一の必須フィールドです。
3. すぐに実行をクリックしてタスクをすぐに実行するか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

コマンド ラインを使用してツールを削除するには、次のように入力します。

`mxtool -r -t badtool`

ここで、badtoolは、削除するツールの名前です。詳細については、mxtool(1M) [man/mxtool.1m.html]を参照してください。

ツールの復旧

コマンド ラインを使用してツールを復旧するには、次のように入力します。

`mxtool -a -f /home/user1/defs/mytooldef`

ここで、/home/user1/defs/は、ツールを回復するユーザのフォルダです。mytooldefは、回復するツールです。詳細については、mxtool(1M) [man/mxtool.1m.html]を参照してください。

関連プロシージャ

- 新規コマンド ライン ツール
- 新規コピー ファイル ツール
- 新規Web起動ツール

- 新規X Windowツール

関連トピック

- コマンド ライン ツール
- コマンド ライン ツール リファレンス

エージェント設定のレプリケート

エージェント設定のレプリケートでは、ソースシステム設定をタスク設定中に編集して、ターゲットシステムかシステム グループにコピーできます。

エージェント設定のレプリケートにアクセスするには、**[設定]>エージェント設定のレプリケート**を選択します。ターゲットシステムの選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。次へをクリックすると、**[ソースシステムの選択]**ページが表示されます。ソースシステムを選択してください。詳細については、「エージェント設定のレプリケート タスクの作成」を参照してください。

関連プロシージャ

- エージェント設定のレプリケート タスクの作成

関連トピック

- エージェント設定のレプリケート - リファレンス
- セキュア タスク実行について
- 証明書のレプリケート

エージェント設定のレプリケート タスクの作成

エージェント設定のレプリケート ツールは、HP Systems Insight Managerにより、Webエージェントの設定をソースシステムから取得して任意に編集し、Webエージェントを通して1台以上のターゲットシステムに、その設定をリモートで配布できます。

エージェント設定のレプリケートタスクを設定する場合は、設定のベースにするシステム（ソースシステム）を選択します。

エージェント設定のレプリケート タスクを作成するには、次のように操作します。

1. **[設定]>エージェント設定のレプリケート**を選択します。**[エージェント設定のレプリケート]**ウィンドウが表示されます。
2. ターゲットシステムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。
4. 次の2つのうちどちらかの方法を選択し、ソース システムを選択します。
 - **[システム名がわかっています]**。このオプションを選択したら、システム名をボックスに入力します。次へをクリックします。

- **[リストからシステムを選択します]**。このオプションを選択したら、エージェント設定のレプリケートをサポートする、認識されているシステムのリストからターゲット システムを選択します。次へをクリックします。

注記：ソース システムを使用できない場合は、エラーについて通知するメッセージが表示されます。**[ソース システムの選択]**ページから別のシステムを選択します。

注記：システムの信頼関係が正しく設定されていない場合は、エラー メッセージが表示されます。詳細については、「エージェント設定のレプリケート・リファレンス」を参照してください。

[ソース構成設定を選択]ページが表示されます。パラメータが選択されていない状態で、ソース システム設定が表示されます。

5. 必要に応じて、希望の設定を選択します。それぞれのパラメータを個別に選択できます。続行するには少なくとも1つを選択しなければなりません。**[設定する前にターゲット システムを省電力モードで起動する。]**を選択することもできます。詳細については、「エージェント設定のレプリケート・リファレンス」を参照してください。
6. タスクを実行するには、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - タスクの実行タイミングをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
 - タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。**[タスク結果]**ページが表示されます。詳細については、「タスク結果リスト」を参照してください。
 - 戻るをクリックすると、前のページに戻ります。

注記：エージェント設定のレプリケート タスクでは、セキュア タスク実行 (STE) 機能を使用されます。詳細については、「セキュア タスク実行について」を参照してください。

関連プロシージャ

- タスクのスケジュール設定

関連トピック

- 証明書のレプリケート
- エージェント設定のレプリケート・リファレンス
- セキュア タスク実行について

エージェント設定のレプリケート - リファレンス

信頼関係の決定

ソース システムをリストから選択すると、管理サーバ、および選択したシステムの間に信頼関係が存在するかどうか、信頼列に表示されます。そのシステムに信頼関係を設定していない場合、信頼列には**[いいえ]**と表示されます。

信頼関係の変更

システムの信頼関係を変更するには、適切な行の設定をクリックします。関連システムのHTTPサーバ設定ページが[System Management Homepage]が表示されます。

Wake On LAN (WOL) 機能

Wake on LAN (WOL) は、ACPI (Advanced Configuration Power Interface) スタンバイ モードになっているか電源が切れているターゲットシステムに電源を入れるためにHP Systems Insight Managerが使用する機能です。エージェント設定のレプリケート機能では、オプションでWOL機能を使用し、低電力モードになっているターゲットシステムに電源を入れて設定できるようにします。システムがWOL対応NICを搭載しているか、オペレーティングシステムがACPIをサポートしている場合、リモート ウェイクアップが動作します。サーバでリモート ウェイクアップ機能がサポートされているかどうかを確認するには、ターゲットProLiantサーバのマニュアルを参照してください。

エージェント設定のレプリケート イベント

エージェント設定のレプリケート タスクのステータスを表示するには、エージェント設定のレプリケート イベントを使用します。これには、エージェント設定のレプリケートタスクの実行が正常かどうかが反映されます。これは、対応するエージェント設定のレプリケートタスクのジョブ詳細にログ記録されます。

関連プロシージャ

- エージェント設定のレプリケート タスクの作成

関連トピック

- エージェント設定のレプリケート
- セキュア タスク実行について
- 証明書のレプリケート

RPMパッケージ マネージャ

RPMパッケージ マネージャ (RPM) は、強力なコマンド ライン駆動パッケージ管理システムで、コンピュータ ソフトウェア パッケージのインストール、アンインストール、確認、クエリ、更新が可能です。各ソフトウェアパッケージは、バージョン、説明などのパッケージについての情報とファイルのアーカイブから構成されています。また、関連するアプリケーション プログラム インタフェース (API) もあり、上級開発者がコマンドラインへのシェルアウトをバイパスしたり、ネイティブコーディング言語内からのそのようなトランザクションを管理することができます。RPMは、[展開]を使用してHP Systems Insight Managerに組み込まれています。

HP Systems Insight Manager内のBPMで使用できる手順は次のとおりです。

- パッケージのインストール。 詳細については、「RPMのインストール」を参照してください。
- パッケージのクエリ。 詳細については、「RPMのクエリ」を参照してください。
- パッケージのアンインストール。 詳細については、「RPMのアンインストール」を参照してください。

- パッケージの確認。 詳細については、「RPMの確認」を参照してください。

関連プロシージャ

- RPMのインストール
- RPMのクエリ
- RPMのアンインストール
- RPMの確認

RPMのインストール

このツールを使用して、RPMパッケージ マネージャ（RPM）を複数のLinuxシステムにインストールします。

RPMをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[RPMパッケージ マネージャ]>[パッケージのインストール]**を選択します。
2. ターゲット システムを選択します。ターゲット システム選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。**[ステップ2:パラメータの指定]**ページが表示されます。
4. パラメータ**[インストール オプション]**パッケージ ファイルを入力します。
5. **すぐに実行**をクリックしツールを実行するか、**戻る**をクリックして前の画面に戻るか、**スケジュール**をクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- RPMのクエリ
- RPMのアンインストール
- RPMの確認

関連トピック

- RPMパッケージ マネージャ

RPMのアンインストール

このツールを使用して、RPMパッケージ マネージャ（RPM）を複数のLinuxシステムからアンインストールします。

RPMをアンインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[RPMパッケージ マネージャ]>[パッケージのアンインストール]**を選択します。
2. ターゲット システムを選択します。ターゲット システム選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。**[ステップ2:パラメータの指定]**ページが表示されます。
4. パラメータ**[削除オプション]**パッケージ名を入力します。

5. **すぐに実行をクリックしツールを実行するか、戻るをクリックして前の画面に戻るか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。**タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- RPMのクエリ
- RPMのインストール
- RPMの確認

関連トピック

- RPMパッケージ マネージャ

RPMのクエリ

このオプションを使用して、インストールされているRPMパッケージ マネージャ（RPM）をリストします。複数のLinuxシステム上で実行することができます。

RPMパッケージ バージョンをクエリするには、以下のようにします。

1. **[展開]>[RPMパッケージ マネージャ]>[パッケージのクエリ]**を選択します。
2. ターゲット システムを選択します。ターゲット システム選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。**[ステップ2:パラメータの指定]**ページが表示されます。
4. パラメータ**[クエリ オプション]**パッケージ名を入力します。
5. **すぐに実行をクリックしツールを実行するか、戻るをクリックして前の画面に戻るか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。**タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- RPMのインストール
- RPMのアンインストール
- RPMの確認

関連トピック

- RPMパッケージ マネージャ

RPMの確認

このオプションを使用すると、インストールされており複数のLinuxシステムで動作するRPMパッケージ マネージャ（RPM）を確認することができます。

RPMを確認するには、次のように操作します。

1. **[展開]>[RPMパッケージ マネージャ]>[パッケージのインストール]**を選択します。

2. ターゲット システムを選択します。ターゲット システム選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。[ステップ2:パラメータの指定]ページが表示されます。
4. パラメータ[選択オプション]パッケージ名を入力します。
5. すぐに実行をクリックしツールを実行するか、戻るをクリックして前の画面に戻るか、スケジュールをクリックしてタスクをスケジュールします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- RPMのクエリ
- RPMのインストール
- RPMのアンインストール

関連トピック

- RPMパッケージ マネージャ

Server Migration Pack

HP ProLiant Essentials Server Migration Pack (SMP) は、HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) の機能を拡張して、統合P2Vマシン (physical-to-virtual) およびV2Vマシン (virtual-to-virtual) 移行機能を提供します。SMPによってサーバの統合プロセスが簡単になるので、管理者はその他の優先事項に集中できます。これは、HP Systems Insight Managerと統合されており、[内蔵コンソール]の1つとして、HP Systems Insight Manager [ツール]メニュー項目にリストされます。このオプションを選択すると、ユーザの権限に応じて[**Server Migration Pack**]ページが新しいブラウザ画面に表示されます。このメニュー項目にアクセスするには、管理者の設定権が必要です。

[**Server Migration Pack**]ページが表示されたら、[**Upload the required drivers and OS binaries**]をクリックして、必要なすべてのバイナリ ファイルがサーバにロードされていることを確認します。次に、[**Migration Options**]で選択したオプションに基づいて、P2VまたはV2Vを実行できます。

SMPは、Virtual Machine Management Packの同等のバージョンとともに動作する関連製品です。

注記：このソフトウェアは、英語版のみ提供されています。また日本語OSへのインストールはサポートされていません。

SMPのライセンス設定

SMPは、HP ProLiant Essential製品ライセンスを使用します。P2VおよびV2Vマイグレーションを1回行うたびに、1つのライセンスが使用されます。

SMPライセンスを追加するには、次のように操作します。

1. [キーの管理]ページにアクセスするには、[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーの管理]を選択します。[キーの管理]ウィンドウが表示されます。

2. キーの追加をクリックします。詳細については、「キーの個別追加」を参照してください。

注記：このソフトウェアは英語版のみ提供されています。また日本語OSへのインストールはサポートされていません。

関連プロシージャ

- Server Migration Packへのアクセス
- キーの個別追加

Server Migration Packへのアクセス

物理マシンから仮想マシンへ（P2V）および仮想マシンから仮想マシンへ（V2V）のマイグレーションを実行するには、少なくとも1つのHP ProLiant Essentials Server Migration Pack（SMP）ライセンスが必要です。

SMPにアクセスするには、次のように操作します。

1. [ツール]->[内蔵コンソール]->[**Server Migration Pack**]を選択します。[**Server Migration Pack**]ページが表示されます。
2. P2VまたはV2Vマイグレーションを実行するには、[**Migration Options**]を選択します。

注記：このソフトウェアは、英語版のみ提供されています。また日本語OSへのインストールはサポートされていません。

関連トピック

- Server Migration Pack

System Management Homepage

HP Systems Insight Managerでは、システムのSystem Management Homepageにアクセスできます。System Management Homepageは、集中した表示であり、HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアとユーティリティで生成された管理情報と設定データを提供します。HP Webベース エージェントおよび管理ユーティリティからデータを集約することにより、System Management Homepageは、個々のサーバのハードウェアの障害やステータスの監視、パフォーマンス データ、システム スレッシュホールド、診断およびソフトウェアのバージョン コントロールを行うための使いやすい共通インタフェースを提供します。

System Management Homepageは、WindowsおよびLinuxオペレーティング システムにインストールできます。IA-32上では、セットアップウィザードによってSystem Management Homepageがインストールされ、システム上のすべてのWebエージェントで使用されるセキュリティ オプションを設定できるようになります。Linux Itaniumプロセッサ ファミリ（IPF）では、System Management Homepageはデフォルトの設定で、Red Hatパッケージ マネージャ（RPM）パッケージによりインストールして、**smhconfig**ツールで設定できます。

System Management Homepageのエージェント設定のレプリケート機能では、参照システムのHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアから設定データのセットをHP Systems Insight Managerで取得し、1つ以上のターゲット システムにその設定データを配布できます。一部のSystem Management Homepageパラメータも、HP Systems Insight Managerで複製できま

す。エージェント設定のレプリケートの詳細については、「エージェント設定のレプリケートタスクの作成」を参照してください。

関連プロシージャ

- System Management Homepageへのアクセス

関連トピック

- システム ページ

System Management Homepageへのアクセス

System Management Homepageにアクセスするには、次のように操作します。

1. [ツール]->[システム情報]->[**System Management Homepage**]を選択します。
2. ターゲットシステムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。System Management Homepageが表示されます。

関連プロシージャ

- エージェント設定のレプリケート タスクの作成
- バージョン コントロール エージェントへのアクセス
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス

関連トピック

- システム ページ
- System Management Homepage

システム ページ

[システム ページ]は、特定のシステムに関する情報を表示するために使用されます。このページに表示される情報は、次のとおりです。

- [識別]タブ。一般システムとステータスの情報が表示されます。
- [ツール&リンク]タブ。[システム マネジメント]ページへのリンク、HP Systems Insight Managerページへのリンク、およびその他の便利なリンクが表示されます。
- [イベント タブ]。システムのイベント テーブル ビュー ページが表示されます。

[システム ページ]にアクセスする方法には、次の2種類があります。

- [ツール]->[システム情報]->[システム ページ]を選択します。ターゲットシステムを選択します。
- システム テーブル ビュー ページの[システム名]列でシステム名をクリックします。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ
- ツール&リンク タブ

- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート
- サーバ識別タブ
- クラスタ識別タブ
- 複合体識別タブ
- パーティション識別タブ
- テープ ライブラリ識別タブ
- ストレージ スイッチ識別タブ
- ストレージ ホスト識別タブ
- ストレージ アレイ識別タブ

サーバ識別タブ

【識別】タブでは、ステータス アイコンにより、データベースに保存されている、全体的なヘルス ステータスが表示されます。システムがサスペンド状態になっている場合、ハードウェア ステータス アイコンおよびソフトウェア ステータス アイコンの代わりに、無効アイコンが表示されます。**【ステータス情報】**セクションにはシステムステータスに関する詳細情報が表示されます。

【識別】ページは、次のセクションに分かれています。

- 「システム ステータス」
- 「詳細情報」
- 「識別」
- 「製品説明」
- 「連絡先情報」
- 「資産情報」
- 「管理プロセッサ」
- 「関連情報」

システム ステータス

このセクションには、以下の情報が含まれます。

- **【ヘルス ステータス】**。 システムの全体的なステータスです。この情報は、Webベース エンタープライズ管理 (WBEM) Simple Network Management Protocol (SNMP)、および デスクトップ管理インタフェース (DMI) のステータス ポーリング タスク、またはこれらすべてから取得されます。ping (ICMPまたはTCP到達可能性テスト) は、常に実行されます。**【ヘルス ステータス】**リンクをクリックすると、System Management Homepage (SMH) が存在する場合にはSMHにアクセスし、SMHが存在しない場合には**【プロパティ ページ ステータス】**ページにアクセスします。どちらも存在しない場合、**【ヘルス ステータス】**リンクは表示されません。
- **【管理プロセッサ ステータス】**。 管理プロセッサ ステータスは、使用可能な場合、管理プロセッサのWebサーバにリンクします。
- **【ソフトウェア ステータス】**。 ソフトウェア ステータス アイコンは、使用可能な場合、システム ソフトウェア バージョン コントロール エージェントにリンクします。
- **【無効なステータス】**。 サスペンド状態にあるシステムでは、システム テーブル ビュー ページの**【HW】**および**【SW】**列に無効アイコンが表示されます。

注記:



システムが現在、サスペンド モードにある場合、[システム ページ]の[システム ステータス]には、[次の時間までシステムの監視は保留されます]というメッセージとともに、監視が回復される予定の日付と時刻が表示されます。

パートナー アプリケーションについては、それぞれのステータスを中央管理サーバ（CMS）に登録しておくことができます。その場合、これらのステータスは[ヘルス ステータス]の下と、システム テーブル表示ページのステータス列に表示されます。たとえば、**[System Security Vulnerability Status]**は、Vulnerability and Patch Management Packに関するシステム ステータスについての詳細情報にリンクします。

システムのステータス タイプの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。

詳細情報

このセクションには、システムに関するさらに詳細な情報が表示され、このシステムで使用可能なすべてのシステム情報ツールが表示されます。リンクには、以下のものがあります。



- **[System Management Homepage]**。 SMHが使用可能な場合は、これを起動します。
- **[プロパティ]**。 [プロパティ]ページが使用可能な場合は、これを起動します。
- **[Partition Manager View]**。 Partition Managerが使用可能な場合は、これを起動します。
- **[Virtual Manager Host View]**。 Virtual Manager Host View（VMM）が使用可能な場合は、これを起動します。

識別

このセクションは、[システム ページ]に初めてアクセスしたときは必ず展開されます。

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

重要:



DMI識別は、WindowsベースおよびHP-UXベースの中央管理サーバ（CMS）のインストールでのみサポートされています。また、同種のオペレーティング システムしか識別できません。たとえば、WindowsベースのCMSはWindowsベース

のDMIシステムだけを、HP-UXベースのCMSはHP-UXベースのDMIシステムだけを、それぞれ識別できます。

このセクションには次の項目が含まれています。

- **[アドレス]**。 そのシステムについて検出されたIPアドレス、IPXアドレス、またはその両方。
- **[優先システム名]**。 システムに表示される名前。デフォルトはDNSからホスト名（使用可能な場合）。[ツール&リンク]タブの[システム プロパティの編集]リンクを使用して変更することができます。
- **[ネットワーク名]**。 完全に限定したDNS名（使用可能な場合）。IPアドレスによるDNSの逆引きが有効になっており、正引きと一致する必要があります。
- **[UUID]**。 システム上のエージェントまたはその他の装置からの固有ID。
- **[シリアル番号]**。 システムのシリアル番号。

デバイス名が「orphan_nnn」になる理由

オーファン システムとして説明されているシステムは、IPアドレスと名前の両方が、別のシステムに再割り当てされたことをHP Systems Insight Managerが検出したシステムです。この再割り当ては、DHCPアドレス割り当ての変更とシステムの名前変更が同時に行われて発生することがあります。ただし、最も一般的な原因は、Altirisのようなドライブイメージ生成ソフトウェアを使用することです。システムのイメージ生成では、識別するために、WebエージェントとHP Systems Insight Managerで、グローバル ユニーク識別子が使用されます。Windowsシステムでは、イメージを作成する前にレジストリからHKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Compaq\CIMAgent\GUIDレジストリ キー エントリを削除すると、この問題を防止できます。イメージが生成済みのシステムの場合は、基本エージェントを停止し、キーを削除してから、エージェントを再起動します。新たに検出することによって、問題が訂正されます。古い「ORPHAN」システムをHP Systems Insight Managerシステムリストから削除してください。

製品説明

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、以下の情報が含まれます。

- **[製品ID]**。 ID番号。サーバのシリアル番号に追加すると、HPサポートがHP製システムを特定できるようになります。
- **[システム タイプ]**。 識別によって返される基本的なシステム タイプ。
- **[システム サブタイプ]**。 識別によって返されるシステム サブタイプ。
- **[製品モデル]**。 メーカーが定義した製品のモデル（名前）。

- **[ハードウェアの説明]**。 **[システム プロパティの編集]**ページから取得したハードウェアの説明。
- **[OS名]**。 システムの長いオペレーティング システム名。オペレーティング システムベースのシステム収集でフィルタリングに使用されます。
- **[ツール フィルタリング用OS]**。 短いオペレーティング システム名。ツール フィルタリング定義ファイルに使用されます。
- **[OS説明]**。 オペレーティング システムの詳細説明。サービス バック情報などです。
- **[OSバージョン]**。 オペレーティング システムの数値表現。
- **[管理プロトコル]**。 システムの識別を試みた際に応答した管理プロトコル。

注記：より多くのプロトコルが予想される場合は、**[システム プロトコル設定]**ページで設定されている証明書を検証してください。
- **[サーバの役割]**。 ユーザが設定可能なProLiantエージェントからのサーバの役割。System Management Homepageから設定できます。
- **[コメント]**。 SNMPまたはその他のエージェントからユーザが設定可能なコメント。
- **[実行されているアプリケーション]**。 システム上で稼動しているすべてのアプリケーションのリスト。

連絡先情報

このセクションには、以下の情報が含まれます。

- **[場所]**。 システムの物理位置でエージェントからユーザ設定が可能なフィールド。
- **[連絡先]**。 エージェントからユーザ設定が可能なシステムの連絡先。

注記：連絡先および製品説明のセクションにある多くのフィールドは、CMSの**[システム プロパティの編集]**ページからローカルで上書きすることができます。詳細については、「単一システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。

資産情報

このセクションには、**[資産管理番号]**（システムの資産管理番号）が含まれています。

管理プロセッサ

このセクションは、管理プロセッサが使用可能な場合にのみ表示されます。項目は、次のとおりです。

- **[名前]**。 システムを管理するために使用される管理プロセッサの表示名（優先名）。
- **[アドレス]**。 システムを管理するために使用される管理プロセッサのIPアドレス。
- **[モデル]**。 このシステムの管理プロセッサのモデル名。

関連情報

このセクションには、以下の情報が含まれます。

- **[エンクロージャ名]**。 システムがエンクロージャ内にある場合、エンクロージャの名前。p-Classサーバ ブレードなどです。
- **[ラック名]**。 エンクロージャが検出可能なラック内にある場合、ラック名。
- **[スロット]**。 エンクロージャ内でシステムの位置するスロット番号。
- **[サーバ寸法]**。 使用可能な場合、システムの寸法（mm単位）。

関連トピック

- システム ページ
- ツール&リンク タブ
- イベント テーブル ビュー ページのナビゲート

クラスタ識別タブ

クラスタ プロバイダのタイプとバージョンによって、すべてのプロパティが同時に使用できない場合があります。プロパティに値が設定されていない場合、そのプロパティはこのページに表示されません。このページはMSCSクラスタを除くすべてのクラスタに対応しています。MSCSクラスタは、クラスタ監視を使用して管理されています。詳細については、「クラスタ監視」を参照してください。

ヘルス ステータス

[ヘルス ステータス]の下各リンクは、クラスタ メンバの[システム ページ]にリンクします。クラスタ ステータスは、そのクラスタに追加されているクラスタ メンバのステータスを組み合わせたものです。最も深刻なステータスが表示されます。



識別

- **[アドレス]**。 クラスタのIPアドレス。
- **[優先システム名]**。 システムに表示される名前。デフォルトはDNSからホスト名（使用可能な場合）。[ツール&リンク]タブの[システム プロパティの編集]リンクを使用して変更することができます。
- **[ネットワーク名]**。 完全に限定したDNS名（使用可能な場合）。IPアドレスによるDNSの逆引きが有効になっており、正引きと一致する必要があります。

製品説明

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

-
- **クラスタ名**。 クラスタの名前。
 - **[システム タイプ]**。 識別によって返される基本的なシステム タイプ。

- **[クラスタ タイプ]**。 識別によって返される基本的なクラスタ タイプ。
- **[製品モデル]**。 メーカーが定義した製品のモデル（名前）。
- **[OS名]**。 システムの長いオペレーティング システム名。オペレーティング システムベースのシステム収集でフィルタリングに使用されます。
- **[ツール フィルタリング用OS]**。 短いオペレーティング システム名。ツール フィルタリング定義ファイルに使用されます。
- **[管理プロトコル]**。 システムの識別を試みた際に応答した管理プロトコル。

注記：より多くのプロトコルが予想される場合は、**[システム プロトコル設定]**ページで設定されている証明書を検証してください。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ

複合体識別タブ

複合体はコンテナ タイプ システムの1つで、nPartitionを含むものです。複合体システムが選択されている場合、**[システム ページ]**には詳細情報にアクセスするためのリンクが追加されています。ここでは、複合体特有のリンクについて説明します。タブの詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。

ヘルス ステータス

[ヘルス ステータス]の下各リンクは、パーティションの**[システム ページ]**にリンクします。複合体のヘルス ステータスは、その複合体に追加されている各パーティションのヘルス ステータスをすべて組み合わせたものです。最も深刻なステータスが表示されます。

製品説明

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、次の情報が含まれています。

- **[コンプレックス名]**。 識別によって返される複合体の名前。
- **[製品名]**。 メーカーが定義した製品名。
- **[シリアル番号]**。 識別によって返される複合体のシリアル番号。
- **[製品番号 - 現在]**。
- **[製品番号 - オリジナル]**。

- [コンプレックス プロファイル リビジョン]。
- [アクティブ サービス プロセッサ ロケーション]。

コンポーネントの概要

iCODに追加されている複合体のみに表示される情報

- [コンピュータ キャビネット]。
- [I/Oキャビネット]。
- [nPartitions]。 HPサーバのパーティション。セル（CPUとメモリを含む）のグループとI/Oシャーシ（I/Oシステムを含む）からなる。
- [ライセンスされたセル]。
- [未ライセンスiCODセル]。
- [ライセンスされたプロセッサ]。
- [未ライセンスiCODプロセッサ]。
- [DIMM]。 メモリ チップを実装したデュアル インライン メモリ モジュール。
- [ライセンスされたメモリ]。
- [未ライセンスiCODメモリ]。
- [シャーシ]。
- [I/Oカード]。
- [iCOD]。
- [iCODバランス]。

iCODに追加されていない複合体のみに表示される情報

- [コンピュータ キャビネット]。
- [I/Oキャビネット]。
- [nPartitions]。
- [Cells]。
- [CPU]。
- [DIMMs]。
- [Memory (GB)]。
- [I/O Chassis]。
- [I/O Cards]。

- [iCOD]。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- パーティション識別タブ

パーティション識別タブ

パーティション用のシステム ページは、サーバのシステム ページのレイアウトと共通しています。ただし、クラスタメンバの[システム ページ]は、パーティションのみに当てはまる固有の情報のみを含めるように拡張されています。

次のセクションには、パーティション固有の情報のみが含まれます。タブの詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。

識別



[識別]セクションは、[システム ページ]に初めてアクセスしたときは必ず展開されます。このセクションには次の項目が含まれています。

- [nPartition名]。
- [nPartition番号]。
- [ホスト名]。

製品説明

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

- [CPUアーキテクチャ]。
- [Cell互換性]。
- [ファームウェア リビジョン]。
- [プライマリ ブート パス]。
- [HA代替ブート パス]。
- [代替ブート パス]

コンポーネントの概要

- [アクティブなCell]。

- [インアクティブなCell]。
- [インアクティブなプロセッサ]。
- [インアクティブなプロセッサ]。
- [ライセンスされたプロセッサ数]。

Instand Capacityに参加しているパーティションのみに使用可能。

- [DIMM]。
- [メモリ]。
- [I/Oシャーシ]。
- [I/Oカード]。

関連情報

- [コンプレックス名]。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- 複合体識別タブ

ストレージ ホスト識別タブ

ストレージ ホストとは、ホスト バス アダプタ (HBA) によって、ストレージ エリア ネットワーク (SAN) に接続されているサーバ、デスクトップ、またはワークステーションのことです。ストレージ ホストが選択されている場合、[システム ページ]には詳細情報にアクセスするためのリンクが追加されています。ここでは、ストレージ ホスト特有のリンクについて説明します。HP SIMは、各HBAのSMI-Sプロバイダによって供給されるデータを表示します。HBAのSMI-Sプロバイダが特定のプロパティについてデータを供給していない場合、そのプロパティはこのページに表示されません。タブの詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。



[ホスト バス アダプタ]セクションには、最後に実行されたデータ収集タスクの日付、時刻、経過時間が表示されます。データを更新したい場合は、[最終更新日]リンクをクリックして、データ収集タスクをスケジュールするか、実行します。データ収集タスクについて詳しくは、「データ収集」を参照してください。

このホストがHP Storage Essentialsで管理される場合、[ホスト バス アダプタ]および[LUN]の各セクションはこのページに表示されません。また、[ツール&リンク]タブの、[Storage Essentials Pages]セクションに[SE System Properties]リンクが表示されます。このストレージ ホストのHP Storage Essentialsデバイス ページを表示するには、[SE System Properties]リンクをクリックします。

製品説明

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

「サーバ識別タブ」の[製品説明]情報のほかに、このセクションには以下の情報が含まれています。

[システム サブタイプ]。 ストレージ システムは、次のサブタイプを使用します。

- [ストレージ]。ストレージ インフラストラクチャの一部として識別されるシステム。
- [SMI]。SMI-Sプロバイダを介して検出されるシステム。
- [管理された**Storage Essentials**]。HP Storage Essentialsによって管理されるシステム。

注記:





システムがHP Storage Essentialsによって管理される場合は、[SMI]タブタイプは表示しません。

ホスト バス アダプタ

注記:




このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、インストールされているファイバ チャネルHBAが表示されます。

- [要素名]。 HBAの名前。
- [WWN]。 HBAのノード ワールド ワイド名。

注記:





をクリックすると、HBAプロパティおよびポートの情報が表示されます。

プロパティ

注記:





このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

-
- **[製品名]**。 HBAの製品名（モデル番号など）。
 - **[製品ベンダ]**。 HBAのベンダ。
 - **[製品識別番号]**。 HBAの固有の識別名（シリアル番号など）。
 - **[製品バージョン]**。 HBAの製品バージョン。
 - **[ドライババージョン]**。 インストールされているHBAのドライバのバージョン。
 - **[ドライバ製造元]**。 HBAドライバの製造元。
 - **[ファームウェアバージョン]**。 インストールされているHBAファームウェアのバージョン。
 - **[ファームウェア製造元]**。 HBAファームウェアの製造元。
 - **[BIOS/FCodeバージョン]**。 インストールされているBIOS/FCodeのバージョン。
 - **[BIOS/FCode製造元]**。 BIOS/FCodeの製造元。

ポート

注記:





このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

-
- **[要素名]**。 ポート番号。
 - **[WWN]**。 ポートのワールド ワイド名。
 - **[ポート タイプ]**。 ポートの種類。詳細については、「ポート タイプ」を参照してください。

LUN

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、ホストによって使用されているLUNがリストされます。

注記:



ここには、ホストのLUNのうち、そのLUNが存在しているストレージ アレイのSMI-Sプロバイダによってレポートされ、かつそのレポートで使用されている[名前]プロパティがHBAのSMI-Sプロバイダで使用されている[名前]プロパティと同じであるものだけが表示されます。この2つの条件が満たされない場合、LUNは表示されません。

-
- **[LUN名]**。 選択したホストによって使用されているLUNの名前。
 - **[LUN番号]**。 ストレージホストがこのLUN（このポートから見た場合）の認識に使用している番号。
 - **[ストレージデバイス]**。 リストされたLUNを含んでいるストレージ デバイスの名前。ストレージ デバイス名をクリックすると、そのストレージ デバイスの[システム ページ]が表示されます。
 - **[HBA名]**。 このホストをLUNに接続しているHBAの名前です。
 - **Port WWN** このホストをLUNに接続しているポートのポート番号です。
 - **[LUNサイズ]**。 LUNの使用可能なサイズ。
 - **[RAIDレベル]**。 LUNのRAIDレベル。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- ポート タイプ
- データ収集

ストレージ スイッチ識別タブ

ストレージ スイッチとは、ストレージ エリア ネットワーク（SAN）に接続されているファイバチャネル スイッチのことです。ストレージ スイッチが選択されている場合、[システム ページ]には詳細情報にアクセスするためのリンクが追加されています。ここでは、ストレージ スイッチ特有のリンクについて説明します。HP SIMは、該当するスイッチのSMI-Sプロバイダに

よって供給されるデータを表示します。SMI-Sプロバイダが特定のプロパティについてデータを供給していない場合、そのプロパティはこのページに表示されません。タブの詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。

[ポートおよびステータス概要]セクションには、最後に実行されたデータ収集タスクの日付、時刻、経過時間が表示されます。データを更新したい場合は、**[最終更新日]**リンクをクリックして、データ収集タスクをスケジュールするか、実行します。データ収集タスクについて詳しくは、「データ収集」を参照してください。

このスイッチがHP Storage Essentialsで管理される場合、**[ポート]**および**[概要ステータス]**の各セクションはこのページに表示されません。また、**[ツール&リンク]**タブの、**[Storage Essentials Pages]**セクションに**[SE System Properties]**リンクが表示されます。このストレージスイッチのHP Storage Essentialsデバイス ページを表示するには、**[SE System Properties]**リンクをクリックします。

製品説明

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

「サーバ識別タブ」の[製品概要]情報のほかに、このセクションには以下の情報が含まれる場合があります。

- **[システム サブタイプ]**。 ストレージ システムは、次のサブタイプを使用します。
 - **[ストレージ]**。ストレージ インフラストラクチャの一部として識別されるシステム。
 - **[SMI]**。SMI-Sプロバイダを介して検出されるシステム。
 - **[管理されたStorage Essentials]**。HP Storage Essentialsによって管理されるシステム。

注記:



システムがHP Storage Essentialsによって管理される場合は、**[SMI]**サブタイプは表示しません。

-
- **[製品名]**。 スイッチの製品名（モデル番号など）。
 - **[製品ベンダ]**。 スイッチのベンダ。
 - **[製品識別番号]**。 スイッチの固有の識別名（シリアル番号など）。
 - **[製品バージョン]**。 スイッチの製品バージョン。
 - **[ファームウェアバージョン]**。 インストールされているファームウェアのバージョン。

- **[ファームウェア製造元]**。 ファームウェアの製造元。
- **[BIOS/FCodeバージョン]**。 インストールされているBIOS/FCodeのバージョン。
- **[BIOS/FCode製造元]**。 BIOS/FCodeの製造元。
- **[管理プロキシ]**。 WBEMなどの管理プロトコルを介してスイッチを管理しているサーバ。
- **[ソフトウェア バージョン]**。 このシステムにインストールされているソフトウェアのバージョン。
- **[ソフトウェア製造元]**。 このシステムにインストールされているソフトウェアの製造元。

注記:



ベンダによっては、ファームウェアの詳細を、**[ファームウェア バージョン]**と**[ファームウェア製造元]**フィールドではなく、**[ソフトウェア バージョン]**と**[ソフトウェア製造元]**の各フィールドに入力します。これらのフィールドは、システムに関連するあらゆるソフトウェアについてのデータを表示する可能性があります。

ポート

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

-
- **[ポート番号]**。 ポート番号。
 - **[WWN]**。 ポートのワールド ワイド名。
 - **[ポート タイプ]**。 ポートの種類。ポートの種類の詳細については、「ポート タイプ」を参照してください。
 - **[ステータス]**。 ポートのWBEM動作ステータス。WBEMステータスの詳細については、「WBEM動作ステータス タイプ」を参照してください。

概要ステータス

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、[ポート]セクションのステータス情報の概要が表示されます。

- **[ステータス]**。 WBEM動作ステータス。WBEMステータスの詳細については、「WBEM動作ステータス タイプ」を参照してください。
- **[カウント]**。 リストされたステータスになっているポートの数。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- WBEM動作ステータス タイプ
- ポート タイプ
- データ収集

ストレージ アレイ識別タブ

ストレージ アレイとは、ストレージ エリア ネットワーク (SAN) に接続するために、ファイバチャネル コントローラを使用するディスク アレイのことです。ストレージ アレイが選択されている場合、[システム ページ]には詳細情報にアクセスするためのリンクが追加されています。ここでは、ストレージ アレイ特有のリンクについて説明します。HP SIMは、該当するアレイのSMI-Sプロバイダによって供給されるデータを表示します。SMI-Sプロバイダが特定のプロパティについてデータを供給していない場合、そのプロパティはこのページに表示されません。タブの詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。

[ポート]、[ストレージ ボリューム]、[容量情報] の各セクションには、最後に実行されたデータ収集タスクの日付、時刻、経過時間が表示されます。データを更新したい場合は、**[最終更新日]**リンクをクリックして、データ収集タスクをスケジュールするか、実行します。データ収集タスクについて詳しくは、「データ収集」を参照してください。

ストレージ アレイがHP Storage Essentialsで管理される場合、[ポート]、[ストレージ ボリューム]、および[容量情報]の各セクションはこのページに表示されません。また、[ツール&リンク]タブの、**[HP Storage Essentials Pages]**セクションに**[SE System Properties]**リンクが表示されます。このストレージ アレイのHP Storage Essentialsデバイス ページを表示するには、**[SE System Properties]**リンクをクリックします。

製品説明

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

「サーバ識別タブ」の[製品説明]情報のほかに、このセクションには以下の情報が含まれています。

- **[システム サブタイプ]**。 ストレージ システムは、次のサブタイプを使用します。
 - **[ストレージ]**。ストレージ インフラストラクチャの一部として識別されるシステム。
 - **[SMI]**。SMI-Sプロバイダを介して検出されるシステム。

- **[管理されたStorage Essentials]**。HP Storage Essentialsによって管理されるシステム。

注記:



システムがHP Storage Essentialsによって管理される場合は、**[SMI]**サブタイプは表示しません。

- **[製品名]**。 アレイの製品名（モデル番号など）。
- **[製品ベンダ]**。 ストレージ アレイのベンダ。
- **[製品識別番号]**。 ストレージ アレイの固有の識別名（シリアル番号など）。
- **[製品バージョン]**。 アレイの製品バージョン。
- **[ファームウェアバージョン]**。 インストールされているファームウェアのバージョン。
- **[ファームウェア製造元]**。 ファームウェアの製造元。
- **[BIOS/FCodeバージョン]**。 インストールされているBIOS/FCodeのバージョン。
- **[BIOS/FCode製造元]**。 BIOS/FCodeの製造元。
- **[管理プロキシ]**。 WBEMなどの管理プロトコルを介して選択したアレイを管理しているサーバ。
- **[ソフトウェアバージョン]**。 このシステムにインストールされているソフトウェアのバージョン。
- **[ソフトウェア製造元]**。 このシステムにインストールされているソフトウェアの製造元。

注記:



ベンダによっては、ファームウェアの詳細を、**[ファームウェアバージョン]**と**[ファームウェア製造元]**フィールドではなく、**[ソフトウェアバージョン]**と**[ソフトウェア製造元]**の各フィールドに入力します。これらのフィールドは、システムに関連するあらゆるソフトウェアについてのデータを表示する可能性があります。

注記:





このストレージ アレイがHP Storage Essentialsによって管理される場合、**[製品名]**、**[製品ベンダ]**、**[製品識別番号]**、および**[製品バージョン]**にデータが表示されません。

ポート

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。


HP Systems Insight Managerがこのアレイのポートを管理するコントローラを検出した場合は、それらは、[ポート]テーブルに展開可能要素として表示されます。コントローラが検出されない場合は、テーブルはポートの詳細のみを表示します。

コントローラ詳細

- [要素名]。 コントローラの名前。
- [LUNカウント]。 このコントローラを介している接続の数。

注記:



をクリックすると、特定のポートの詳細が表示されます。



ポート詳細

- [要素名]。 [ポート名]。
- [WWN]。 ポートのワールド ワイド名。
- [ポート タイプ]。 ポートの種類。ポートの種類の詳細については、「ポート タイプ」を参照してください。
- [LUNカウント]。 このポートを介している接続の数。

ストレージ ボリューム

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、アレイのストレージ ボリュームが表示されます。ストレージ ボリュームとは、アレイ上の論理ボリューム（LUNなど）です。

- **[LUN名]**。 ストレージ ボリューム名。
- **[参照可能ホスト]**。 ストレージ ボリュームが、リストされているホストにアクセス可能。
- **[ブロック サイズ]**。 ストレージ ボリュームのブロック サイズ（バイト単位）。
- **[ブロック数]**。 ストレージ ボリューム上の合計ブロック数。
- **[合計サイズ]**。 ストレージ ボリュームの合計サイズ。
- **[RAIDレベル]**。 ストレージ ボリュームのRAIDレベル。通常、この値は、該当するアレイのSMI-Sプロバイダによって供給されます。SMI-Sプロバイダが値を供給していない場合、HP Systems Insight Managerが、パッケージ二重化とデータ二重化に基づいてRAIDレベルを算出します。



パッケージ二重化	データ二重化	RAIDレベル
0	1	RAID 0
1	1	RAID 5
1	2	RAID 1
2	1	RAID 6
2	2	RAID 15/51

RAID値がHP Systems Insight Managerによって算出された場合は、RAID値にアスタリスクが追加されます。例：**RAID 5***

容量情報

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

容量情報テーブルは、ストレージ アレイの使用可能な容量の階層を**[メトリック]**列に、対応するディスク容量の値を**[サイズ]**列にリストしたものです。各メトリックごとに、ディスク容量の値が**[Percentage of Raw Capacity]**列のアレイのRaw容量のパーセンテージで示されます。アレイの合計容量を表す**[Raw Capacity]**は、**[Un-Allocated]**領域と**[Carved for LUNs]**領域に分けられます。LUNに分割された領域は、さらに**[RAID Overhead]**、**[Usable bytes assigned to Ports]**、および**[Bytes not yet assigned to Ports]**に分けられます。

容量情報テーブル内の容量は、テーブルの下に表示される円グラフではパーセンテージで表示されています。テーブル内に**[Undetermined]**と表示される値がある場合、円グラフは表示されません。

- **[Un-Allocated]**。 アレイ上の、まだ構成されていないストレージ容量の合計。
- **[Carved for LUNs]**。 アレイ上の、構成済みのストレージ容量の合計（RAIDオーバーヘッドを含みます）。たとえば、RAID1（ミラーリング）のストレージボリュームに100GB

が割り当てられている場合、50GBはエンド ユーザの使用可能容量であり、50GBはRAID オーバーヘッドであるとみなされ、100GBがLUNに分割済みであるとされます。

- **RAID Overhead** アレイ上の、冗長化機能を実現するために使用されているために直接は使用されないストレージ容量の合計。
- **[Usable bytes assigned to Ports]**。 アレイ上の、構成済みで使用可能なストレージ容量で、1つまたは複数のポートを介して接続されている容量。
- **[Usable bytes not yet assigned to Ports]**。 アレイ上の、構成済みで使用可能なストレージ容量で、ポートを介して接続されていない容量。このストレージをポートに割り当てれば、ユーザがこのストレージにアクセスできるようになります。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- ポート タイプ
- データ収集

テープ ライブラリ識別タブ

テープライブラリとは、ストレージエリア ネットワーク（SAN）に接続されているテープ デバイスのことです。テープライブラリが選択されている場合、**[システム ページ]**には詳細情報にアクセスするためのリンクが追加されています。ここでは、テープライブラリ特有のリンクについて説明します。HP SIMは、テープライブラリのSMI-Sプロバイダによって供給されるデータを表示します。SMI-Sプロバイダが特定のプロパティについてデータを供給していない場合、そのプロパティはこのページに表示されません。タブの詳細については、「サーバ識別タブ」を参照してください。

[ポート]、**[メディア アクセス デバイス]**、**[チェンジャー デバイス]** の各セクションには、最後に実行されたデータ収集タスクの日付、時刻、経過時間が表示されます。データを更新したい場合は、**[最終更新日]**リンクをクリックして、データ収集タスクをスケジュールするか、実行します。データ収集タスクについて詳しくは、「データ収集」を参照してください。

テープライブラリがHP Storage Essentialsで管理される場合、**[ポート]**、**[メディア アクセス デバイス]**、および**[チェンジャー デバイス]**の各セクションはこのページに表示されません。また、**[ツール&リンク]**タブの、**[HP Storage Essentials Pages]**セクションに**[SE System Properties]**リンクが表示されます。このテープドライブのHP Storage Essentialsデバイス ページを表示するには、**[SE System Properties]**リンクをクリックします。

製品説明

注記:



このセクションは、**+**をクリックすると展開され、**-**をクリックすると折り畳まれます。

「サーバ識別タブ」の[製品概要]情報のほかに、このセクションには以下の情報が含まれる場合があります。

- [システム サブタイプ]。 ストレージ システムは、次のサブタイプを使用します。
 - [ストレージ]。ストレージ インフラストラクチャの一部として識別されるシステム。
 - [SMI]。SMI-Sプロバイダを介して検出されるシステム。
 - [管理された**Storage Essentials**]。HP Storage Essentialsによって管理されるシステム。

注記:



システムがHP Storage Essentialsによって管理される場合は、[SMI]サブタイプは表示しません。

-
- [製品名]。 テープ ライブラリの製品名（モデル番号など）。
 - [製品ベンダ]。 テープ ライブラリのベンダ。
 - [製品識別番号]。 テープ ライブラリの固有の識別名（シリアル番号など）。
 - [製品バージョン]。 テープ ライブラリの製品バージョン。
 - [ファームウェア バージョン]。 インストールされているファームウェアのバージョン。
 - [ファームウェア製造元]。 ファームウェアの製造元。
 - [BIOS/FCodeバージョン]。 インストールされているBIOS/FCodeのバージョン。
 - [BIOS/FCode製造元]。 BIOS/FCodeの製造元。
 - [管理プロキシ]。 WBEMなどの管理プロトコルを介して選択したテープ ライブラリを管理しているサーバ。
 - [ソフトウェア バージョン]。 このシステムにインストールされているソフトウェアのバージョン。
 - [ソフトウェア製造元]。 このシステムにインストールされているソフトウェアの製造元。

注記:





ベンダによっては、ファームウェアの詳細を、[ファームウェア バージョン]と[ファームウェア製造元]フィールドではなく、[ソフトウェア バージョン]と[ソフトウェア製造元]の各フィールドに入力します。これらのフィールドは、システムに関連するあらゆるソフトウェアについてのデータを表示する可能性があります。

ポート

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。



このセクションには、テープ ライブラリのファイバ チャネル ポートが表示されます。

- **[要素名]**。 そのポートの、ユーザが利用しやすい名前。
- **[WWN]**。 ポートのワールド ワイド名。
- **[ポート タイプ]**。 ポートの種類。ポートの種類の詳細については、「ポート タイプ」を参照してください。

メディア アクセス デバイス

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。



このセクションには、テープ ライブラリのストレージ メディア（データ カートリッジやディスク ドライブなど）が表示されます。

- **[名前]**。 ストレージ メディアの名前。
- **[ステータス]**。 メディア アクセス デバイスのWBEM動作ステータス。WBEMステータスの詳細については、「WBEM動作ステータス タイプ」を参照してください。

チェンジャ デバイス

注記:



このセクションは、をクリックすると展開され、をクリックすると折り畳まれます。

このセクションには、テープ ライブラリのチェンジャ デバイス（テープ ドライブのロボット機構など）が表示されます。

- **[名前]**。 チェンジャ デバイスの名前。

- **[ステータス]**。チェンジャ デバイスのWBEM動作ステータス。WBEMステータスの詳細については、「WBEM動作ステータス タイプ」を参照してください。

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- WBEM動作ステータス タイプ
- ポート タイプ
- データ収集

ポート タイプ

HP Systems Insight Managerには、ストレージ システムのポートの種類が表示されます。この値がストレージ システムのSMI-Sプロバイダによって提供される場合、ポート リンク テクノロジとポートの種類が表示されます。

表示されるポート リンク テクノロジには、**[不明]**、**[その他]**、**[Ethernet]**、**[IB]**、**[FC]**、**[FDDI]**、**[ATM]**、**[Token Ring]**、**[Frame Relay]**、**[Infrared]**、**[BlueTooth]**、および**[Wireless LAN]**があります。

ポートの種類は、次のうちいずれかである場合に表示されます。

- **[N-Port]**。ノード ポート。
- **[NL-Port]**。ファイバ チャネル アービトレーテッド ループ (FC-AL) をサポートするノード ポート。
- **[E-Port]**。ファブリック エlement (FCスイッチなど) を接続する拡張ポート。
- **[F-Port]**。ファブリック (Element) ポート。
- **[FL-Port]**。FC-ALをサポートするファブリック (Element) ポート。
- **[B-Port]**。ブリッジ。
- **[G-Port]**。一般的なポート。
- **[その他]**。これまでに説明した分類のいずれにも該当しないポートの種類。

関連トピック

- テープ ライブラリ識別タブ
- ストレージ スイッチ識別タブ
- ストレージ ホスト識別タブ
- ストレージ アレイ識別タブ

ツール&リンク タブ

表示できるシステム リンクは、検出設定、エージェントとプロトコルの正しいインストール、およびシステムを調べるポーリング タスクに依存します。**[ツール&リンク]**ページには以下が含まれます。

- システム マネジメント ページ

- システムWebアプリケーション ページ
- HP Systems Insight Managerページ
- Storage Essentials Pages

注記:



DNS設定によっては、リンクを正常に動作させるために、IPアドレスまたは完全修飾DNS名のいずれかを使用する必要がある場合があります。詳細については、「システム リンクの設定」を参照してください。

システム マネジメント ページ

このセクションには、システムのHTTP Web管理によって提供されるリンクが含まれます。このリンクは、システム管理とステータス用です。システムにInsightマネジメント エージェントがない場合、このセクションは表示されません。使用可能なリンクには、以下が含まれます。

- **HPバージョン コントロール エージェント**
- **HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ**
- **Insightマネジメント エージェント**

システムWebアプリケーション ページ

このセクションには、システムがホストするWebアプリケーションのリストが含まれます。使用可能なリンクには、以下が含まれます。

- **[VMware Management Interface]**
- **[Default Web Server]**
- **HP Systems Insight Manager**

HP Systems Insight Managerページ

このセクションには、HP Systems Insight Managerによって生成されるリンクが含まれます。使用可能なリンクには、以下が含まれます。

- **[データ収集レポート]**リンクでは、個別のレポート結果ウィンドウにシステムのデータ収集レポートが表示されます。

注記:



HP Systems Insight Managerのデータ収集レポートのストレージ テーブルには、データは登録されません。これは、HP Systems Insight ManagerのSMI-Sデータ収集が無効になっているからです。

- **[システム プロトコル設定]**リンクでは、**[プロトコル設定]**が表示され、この個別システムのみのプロトコルを設定できます。
- **[システム プロパティの編集]**リンクでは、完全な設定権があるユーザがシステム ページによって、1つのシステムのシステム プロパティの一部を再設定できます。このリンクは、完全な設定権があるユーザのみに表示されます。

複数のシステムのシステム プロパティの設定については、「複数システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。

- **[監視の停止/回復]**リンクにより、監視の停止時間を設定できます。これにより、HP Systems Insight Managerのステータス ポーリング、識別、データ収集、および自動イベント処理からシステムを除外できます。停止時間の長さは、事前設定により、5分、15分、1時間、および1日単位で設定できます。停止機能は、無期限に設定することもできます。完全な設定権があるユーザのみが、このリンクを使用できます。

複数のシステムの監視の停止または回復については、「複数システムのシステム監視の停止と回復」を参照してください。

Storage Essentials Pages

このセクションは、HP Storage Essentialsがインストール済みの場合に追加されます。追加されるリンクの詳細については、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。

関連プロシージャ

- 単一システムのシステム プロパティの編集
- 単一システムのシステム監視の停止と回復
- 複数システムのシステム プロパティの編集
- 複数システムのシステム監視の停止と回復

関連トピック

- システム ページ
- 単一システムのシステム プロパティの編集
- 単一システムのシステム監視の停止と回復

バージョン コントロール

HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャとHPバージョン コントロール エージェントは、Web対応のHP Insightマネジメント エージェントです。HP Systems Insight Managerでは、Insightマネジメント エージェントなどを使用し、ソフトウェア更新と関連タスクを実行します。

一般に、HP Insightマネジメント エージェント4.0以上がWeb対応であり、起動時に、そのHP Systems Insight Managerと直接通信するサーバ、ワークステーション、デスクトップ、およびポータブルの詳細なサブシステム ステータスと障害情報を提供します。Web対応エージェントには、ブラウザを通して直接、またはHP Systems Insight Managerからアクセスできます。

HP Systems Insight Managerには、次のバージョン コントロール ツールがあります。

- ソフトウェアとファームウェアのインストール。[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[ソフトウェアおよびファームウェアのインストール]を選択します。
- 初期**ProLiant Support Pack**インストール。[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[初期**ProLiant Support Pack**インストール]を選択します。

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール

- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- エージェント設定のレプリケート タスクの作成
- バージョン コントロール エージェントについて
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて
- 統合について
- 多重システム管理について
- ソフトウェア レポジトリについて

バージョン コントロール エージェントについて

HPバージョン コントロール エージェントは、システムにインストールするHP Insightマネジメント エージェントです。これを使用すると、そのシステムにインストールされたHP製ソフトウェアとファームウェアを確認できるようになります。HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャによって管理されるレポジトリをポイントするようにバージョン コントロール エージェントを設定でき、バージョンを簡単に比較したり、バージョン コントロール エージェントがインストールされているシステムにレポジトリからソフトウェアを更新したりすることができます。

バージョン コントロール エージェントでは、バージョン コントロール機能とシステム更新機能が1つのHP製システムに提供されます。バージョン コントロール エージェントでは、ローカル システムにインストールされている各コンポーネントを各コンポーネントかバージョン コントロール レポジトリ マネージャにリストされている特定ProLiantまたはIntegrity Support Packと比較し、システム ソフトウェアのステータスを判断します。システム ソフトウェア ステータス アイコンの横にあるインストール アイコンをクリックし、個別コンポーネントかProLiantまたはIntegrity Support Pack全体を更新することもできます。

バージョン コントロール レポジトリ マネージャとバージョン コントロール エージェントは、ProLiant Essentials Foundation Packの標準のシングルサーバ管理ツールであるSystem Management Homepageに統合されています。ProLiant Essentials Foundation Packの一部であるHP Systems Insight Managerは、バージョン コントロール レポジトリ マネージャとバージョン コントロール エージェントを使用して、ソフトウェアのバージョン管理、更新、および関連するタスクを容易にします。

バージョン コントロール エージェントは、WindowsおよびLinuxオペレーティングシステムで使用できます。System Management Homepageの一部として統合されたコンポーネントで、バージョン コントロール エージェントがインストールされたシステムの使用できるソフトウェアインベントリを表示するように設計されています。バージョン コントロール エージェントはまた、バージョン コントロール レポジトリ マネージャによって管理されるレポジトリからシステム ソフトウェアのインストール、比較、および更新を管理します。

管理者またはオペレータ権限を持つユーザは、バージョン コントロール エージェントにアクセスしてシステムのソフトウェアインベントリを手動で管理できます。コンポーネントのインストールおよび設定作業は、システムのログ ファイルに記録されます。HPバージョン コントロール エージェントは、ソフトウェアのインストールなどの作業をログに記録します。ただし、バージョン コントロール エージェントの外側で行なわれたインストールは、このログに表示されません。

バージョン コントロール エージェントによって、選択したHPの機器にインストールされたソフトウェア、利用可能な更新、およびインストールされたソフトウェアが、選択したレポジトリにある最新の更新に基づいているかどうかが表示されます。バージョン コントロール エー

ジェントのブラウザ インタフェースを使用して、システム上のHP製ソフトウェアをリモートから追加または更新できます。

HP Systems Insight Managerのエージェント設定のレプリケート機能を使用すると、複数のサーバをバージョン コントロール エージェントの設定によって更新できます。エージェント設定のレプリケート機能の詳細については、HP Systems Insight Managerのオンライン ヘルプ システムを参照してください。

バージョン コントロール エージェントによって、以下のタスクを実行できます。

- 現在インストールされているソフトウェアを表示する。
- ソフトウェア更新取得の参照ポイントとしてバージョン コントロール レポジトリ マネージャを選択する。
- ProLiantまたはIntegrity Support Packを管理対象ベースラインとして選択する。
- バージョン コントロールレポジトリに存在するProLiantまたはIntegrity Support Packもしくは個別ソフトウェア コンポーネントをバージョンコントロールレポジトリからインストールする。
- ProLiantまたはIntegrity Support Packもしくは個別ソフトウェア コンポーネントをバージョンコントロールレポジトリからインストールする。
- インストールされているソフトウェア インベントリおよびソフトウェア ステータスを印刷する。
- バージョン コントロール エージェント ログを管理する。

システムのソフトウェア インベントリを保守する他に、バージョン コントロール エージェントはHP Systems Insight Managerに統合されています。この統合により、管理者は、エージェントのソフトウェア更新機能を利用できるようになります。

その他のリソース

その他のリソースについては、<http://www.hp.com/servers/manage>（英語）にアクセスしてください。

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- バージョン コントロール
- 統合について
- 多重システム管理について
- ソフトウェア レポジトリについて

バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて

HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャは、HP製ソフトウェアおよびファームウェア コンポーネントのディレクトリを管理するHP Insightマネジメント エージェントです。バージョン コントロール レポジトリ マネージャは、HPバージョン コントロール エージェントなしで、ローカル マシンにロードできるソフトウェアとファームウェアのリストを提供するために使用できます。バージョン コントロール レポジトリ マネージャは、ProLiant Essentials Foundation Packの一部です。

バージョン コントロール レポジトリ マネージャは、インストールされているHP製ソフトウェアおよびファームウェアを管理するためにHP製の各管理対象システムにインストールされるバージョン コントロール エージェントとともに1対多構成で使用するよう設計されています。HP Systems Insight Managerをバージョン コントロール レポジトリ マネージャおよびバージョン コントロール エージェントとともに使用することにより、企業全体のHP ProLiantおよびIntegrityシステムのHP製ソフトウェアおよびファームウェアを管理できます。単体でも、HP ProLiantおよびIntegrityシステムに関して、ProLiantおよびIntegrity Support Packのレポジトリや個々のソフトウェアおよびファームウェアのカタログ作成と管理に使用できます。

注記:



HPバージョン コントロール エージェントを使用して、HP ProLiantおよびIntegrity Support Packやコンポーネントをローカル マシンにインストールできますが、バージョン コントロール エージェントがリモート サーバにインストールされていて、バージョン コントロール エージェントを使用してインストールが開始されない、リモート サーバにソフトウェアをインストールできません。

バージョン コントロール レポジトリ マネージャによって、以下のタスクを実行できます。

- ProLiant Support Packまたはコンポーネント詳細など、レポジトリの内容を表示する。
- 自動更新を設定し、新しいProLiantソフトウェアが使用可能になった時点で、HPから自動的に配信する。
- **Support Pack**のアップロード機能を使用し、CDやその他のメディアからレポジトリにProLiant Support Packをアップロードする。
- HP ProLiantおよびHP Integrity Support Packを作成する。
- HP ProLiantおよびHP Integrity Support Packならびにコンポーネントを削除する。
- HP ProLiantおよびHP Integrity Support Packならびにコンポーネントを別のレポジトリにコピーする。
- 設定を要求するフラグが付いた、レポジトリ内のコンポーネントを設定する。
- 今すぐにHP.comからアップデートする。
- レポジトリを再スキャンしてカタログを再構築する。
- ログを管理する。
- 選択したコンポーネントをローカル（ブラウザ クライアント）システムにインストールする。

その他のリソース

その他のリソースについては、<http://www.hp.com/servers/manage>（英語）にアクセスしてください。

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- バージョン コントロール
- 統合について
- 多重システム管理について
- ソフトウェア レポジトリについて

統合について

ソフトウェアのバージョンと更新の場合、HP Systems Insight Managerは、バージョン コントロール レポジトリ マネージャとバージョン コントロール エージェントに依存します。これらのアプリケーションを使用して、HP Systems Insight Managerは、すべての管理対象ProLiantサーバまたはIntegrityサーバのソフトウェア ステータスを単一ビューで表示し、それらのサーバのソフトウェアやファームウェアを強力なクエリおよびタスク機能によって更新することができます。また、更新が必要なシステムだけを更新するなど、あらかじめ設定された条件に基づいて更新を特定のサーバ グループに適用することができます。

HP Systems Insight Managerのソフトウェア更新機能を利用するには、以下の条件を満たしていることを確認してください。

- ネットワーク上のすべての管理対象サーバに、バージョン コントロール エージェントがインストールされ、レポジトリを使用するように設定されている
- 使用するすべてのレポジトリにバージョン コントロール レポジトリ マネージャがインストールされている
- オプションでバージョン コントロール レポジトリ マネージャの自動更新機能を使用してすべてのレポジトリをHPからの最新のソフトウェアで自動的に更新することができる

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- バージョン コントロール
- バージョン コントロール エージェントについて
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて

ソフトウェア レポジトリについて

単一または複数のレポジトリからバージョン コントロール レポジトリ マネージャを使用してProLiant Support Packとコンポーネントを更新すると、時間が節約され、分散システムでのソフトウェアのメンテナンスと更新手順が標準化されます。

さまざまなオペレーティングシステム プラットフォームで管理性と柔軟性を最大化するため、作成される各レポジトリは以下の条件に適合する必要があります。

- 書き込みアクセス権があるローカル ドライブに配置されていること
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャで自動的に更新すること

レポジトリを作成したら、ターゲットHPシステム上で更新する前に、ProLiant Support Packとコンポーネントをレポジトリに入れる必要があります。バージョン コントロール レポジトリ マネージャの自動更新機能を使用すると、レポジトリを最も簡単に効率的に更新できます。バージョン コントロール レポジトリ マネージャの自動更新機能では、レポジトリの自動入力をスケジュールできます。ただし、レポジトリは以下の方法で更新できます。

- バージョン コントロール レポジトリ マネージャの自動更新機能

- SmartStart CDやその他のアクセス可能なメディアからProLiant Support Packをコピーできるようにする、バージョンコントロール レポジトリ マネージャのアップロードProLiant Support Pack機能。
- <http://www.hp.com>（英語）からレポジトリにソフトウェアを手動でダウンロード

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- バージョン コントロール
- 統合について
- バージョン コントロール エージェントについて
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて

多重システム管理について

HP Systems Insight Managerのソフトウェア更新機能は、以下のとおりです。

- **初期ProLiant Support Packインストール。**最新のProLiant Support Packを指定したバージョン コントロール レポジトリ マネージャからインストールすることができます。これは、HPバージョン コントロール エージェントを実行していないターゲット システム専用です。Windowsシステムでのみ使用できる機能です。バージョン コントロール エージェントが管理対象システムにすでにインストールされている場合は、更新するソフトウェアおよびファームウェアのインストールタスクを使用することができます。
- **ソフトウェアおよびファームウェアのインストール。**HP Systems Insight Managerによって管理されているHP製システムでは、ProLiant Support Packとコンポーネントを自動的に更新できます。ターゲットシステムでは、バージョン コントロール エージェントがインストールされている必要があります。
- **ソフトウェアとファームウェアを含むシステムによる検索。**この検索基準では、特定ソフトウェア バージョンかファームウェア バージョンを含むシステムのリストの作成と表示を高速に実行できます。たとえば、完全な設定権があるユーザは、定義したバージョン以下のHP Insightマネジメント エージェントを含むHP製システムをすべて特定して表示できます。次にソフトウェアおよびファームウェアのインストール タスクで検索を使用して、システムのInsightマネジメント エージェントを最新バージョンに更新します。
- **ソフトウェア バージョン ステータス ポーリング。**ソフトウェアとファームウェアのアップグレード ステータスは、ターゲット システムのバージョン コントロール エージェントから取得します。ソフトウェアとファームウェアのインベントリも、このタスク中にシステムから取得します。
- **エージェント設定のレプリケート。**この機能では、HP Systems Insight Managerを使用して、ソース デバイスからWebエージェントの構成設定を取得し、それをWebエージェントによって1つ以上のターゲット デバイスに配布します。

このすべてのシステム ソフトウェア管理拡張機能は、HP Systems Insight ManagerにHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャとHPバージョン コントロール エージェントを厳密に統合して実現されています。

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- バージョン コントロール
- 統合について
- ソフトウェア レポジトリについて
- 証明書のレプリケート

バージョン コントロール エージェントへのアクセス

Webブラウザを使用して任意のネットワーク クライアントからHPバージョン コントロール エージェントのグラフィカル ユーザインタフェース (GUI) にアクセスします。サポートされているブラウザについては、『バージョン コントロール インストール ガイド』を参照してください。

重要:



HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャがまだ設定されていない場合、システム上に現在インストールされている項目のソフトウェアとファームウェアのインベントリだけが[ホーム]ページに表示されます。バージョン コントロール エージェントが完全に機能するように設定されている必要があります。

重要:



Windowsオペレーティング システムの場合、インベントリ データを取得するには、HP Insightマネジメント エージェント5.40以降をインストールする必要があります。Linuxオペレーティング システムの場合、インベントリ データを取得するには、HPサーバ管理アプリケーションとエージェント (hpsasm RPM) 7.00以降をインストールする必要があります。バージョン コントロール エージェント バージョン コントロール エージェントと同じHP ProLiantおよびIntegrity Support Packに含まれている現在のバージョンをインストールすることをおすすめします。

注記:



Insightマネジメント エージェントがインストールされていない場合、バージョン コントロール エージェントによってソフトウェア インベントリを収集できません。ただし、バージョンコントロール エージェントをソフトウェアのインストールに使用することはできます。

注記:



System Management Homepageで定義されている管理者またはオペレータの権限のあるログイン アカウントは、バージョン コントロール エージェントのすべての機能にアクセスできます。

バージョン コントロール エージェントへのログイン

バージョン コントロール エージェントにログインするには、次のように操作します。

1. バージョン コントロール エージェントのすべての機能にアクセスするためには、**管理者** または **オペレータ** レベルのアクセス権を持ったアカウントで System Management Homepage にログインする必要があります。
2. **<https://hostname:2381>** に移動します。**[匿名アクセス]** が無効になっている場合、**[ログイン]** ページが表示されます。**[匿名アクセス]** が有効になっている場合、**System Management Homepage** ページが表示されます。
3. ログインしたら、ブラウザのアドレス フィールドに **<https://hostname:2381/vcagent>** と入力してバージョン コントロール エージェントを直接参照するか、**[インテグレートッド エージェント]** の下の System Management Homepage から HP バージョン コントロール エージェント リンクをクリックするか、**[ホーム]** タブの **[バージョン コントロール]** ステータス ボックスをクリックして、新しいブラウザ ウィンドウ内にバージョン コントロール エージェントを開きます。バージョン コントロール エージェント ページが表示されます。

関連プロシージャ

- バージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス

関連トピック

- システム ページ
- System Management Homepage

バージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス

HP バージョン コントロール レポジトリ マネージャにアクセスする方法には、次の2種類があります。

- HP Systems Insight Manager からバージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャへの直接アクセス

HP Systems Insight Manager からバージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス

HP Systems Insight Manager からバージョン コントロール レポジトリ マネージャにアクセスするには、次のように操作します。

1. [ツール]>[システム情報]>[**System Management Homepage**]を選択します。
2. ターゲットシステムを選択して、**すぐに実行**をクリックします。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。System Management Homepageが表示されます。
3. [ターゲットシステムの確認]ページから**すぐに実行**をクリックします。
4. System Management Homepageから、**HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ**リンクをクリックします。[バージョン コントロール レポジトリ マネージャホーム]ページが表示されます。

または

System Management Homepageから、[ツール]を選択し、**HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ**リンクをクリックします。

インプレースのバージョン コントロール レポジトリ マネージャへのアクセス

バージョン コントロール レポジトリ マネージャがインストールされたシステムで、**<http://hostname:2381/vcrepository>**に移動します。[バージョン コントロール レポジトリ マネージャ **Home**]ページが表示されます。

関連プロシージャ

- バージョン コントロール エージェントへのアクセス

関連トピック

- システム ページ
- System Management Homepage

バージョン コントロール ステータス アイコン

注記:



HPバージョン コントロール エージェントにアクセスするには、[ソフトウェア ステータス]アイコンをクリックします。バージョン コントロール エージェントにアクセスできない場合は、そのシステムでバージョン コントロール エージェントが信頼関係を設定する方法について説明するヘルプが表示されます。


注記:



HP-UX以外のすべてのシステムには、[ソフトウェア ステータス]アイコンがあります。




バージョン コントロール ステータス

ステータスは、インストールされているバージョンとレポジトリ内のバージョンの比較に基づいています。





-  **[情報]**。[情報]ステータス アイコンが表示される理由はいくつかあります。
 - バージョン コントロール エージェントにHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャが設定されていない。
 - 設定されているバージョン コントロール レポジトリ マネージャがアクセス不能であるか、HTTP要求に応答できない（システムまたはサービスがダウンしている、パスワードが変更された、など）。
 - バージョン コントロール エージェントがシステム上で検出できない、またはバージョン コントロール エージェントと通信できない。

リファレンス サポート パックが設定されていない場合のステータス値




注記：ステータスは、設定済みのレポジトリ内のコンポーネントの最新バージョンのもので

-  **[正常]**。インストールされているソフトウェア バージョンは、バージョン コントロール レポジトリ マネージャと同じバージョンであるか、その最新バージョンよりも新しいバージョンです。
-  **[マイナー]**。レポジトリには、バグ修正または新しいハードウェア サポートを含む可能性のあるこのコンポーネントのバージョンが含まれます。このバージョンに関する情報を確認し、この更新をただしく適用することをおすすめします。
-  **[メジャー]**。この更新には、重大なバグ修正が含まれています。できるだけ早くこの更新を適用することをおすすめします。

リファレンス サポート パックは設定されているが、[正確な一致の設定]が選択されていない場合のステータス値

-  **[不明]**。バージョン コントロール エージェントに設定されているリファレンス サポート パックは、設定済みのバージョンコントロールレポジトリ マネージャでは無効になっています。
-  **[正常]**。インストールされているソフトウェア バージョンは、リファレンス サポート パックのバージョンと同じバージョンであるか、新しいバージョンです。
-  **[マイナー]**。この更新にはバグ修正または新しいハードウェア サポートが含まれています。このバージョンに関する情報を確認し、この更新をただしく適用することをおすすめします。
-  **[メジャー]**。この更新には、重大なバグ修正が含まれています。できるだけ早くこの更新を適用することをおすすめします。

リファレンス サポート パックは設定されているが、[正確な一致]が選択されている場合のステータス値

-  [不明]バージョン コントロール エージェントに設定されているリファレンス サポート バックは、設定済みのバージョンコントロールレポジトリ マネージャでは無効になっています。
-  [正常]。インストールされているソフトウェア バージョンは、リファレンス サポート バックのバージョンと同じバージョンであるか、新しいバージョンです。
-  [メジャー]。インストールされているバージョンはリファレンス サポート バックの同一項目のバージョンと一致せず、バージョン コントロール エージェントの設定は[正確な一致]と予想されています。

ソフトウェアの全体的なステータスが、項目が現在のものでないことを示している場合は、利用できる更新があるソフトウェアまたはファームウェアを確認し、項目の説明を読んで、更新がサーバに適切かどうかを判断してください。

レポジトリがすでに設定されていて、リファレンス サポート バックが設定されていない場合、ステータスはインストール済みのソフトウェアまたはファームウェアのバージョンと、設定されたレポジトリから利用できる最新のコンポーネントとの比較に基づいて判断されます。

レポジトリとリファレンス サポート バックが設定されている場合、ステータスはインストール済みのソフトウェアまたはファームウェアのバージョンと、リファレンス サポート バック内のソフトウェアまたはファームウェアのバージョンの比較に基づいて判断されます。

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 初期ProLiant Support Packのインストール

関連トピック

- バージョン コントロール エージェントについて
- バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて

ソフトウェアとファームウェアのインストール

管理対象サーバを最新ソフトウェアで更新するため、HP Systems Insight Managerでは、HPバージョン コントロール エージェントとHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャを使用するソフトウェア更新機能が提供されます。

HP Systems Insight Managerによる自動ソフトウェア更新には、次の制約があります。

- 更新は、バージョン コントロール エージェントをインストールしてHP Systems Insight Managerサーバを信頼するProLiantサーバのみで実行できます。バージョン コントロール エージェントを実行するサードパーティ製システムでは、ソフトウェアおよびファームウェアのインストール機能を使用できません。

注記：信頼関係の詳細については、「信頼証明書」を参照してください。信頼関係を確立したら、[最終更新日]をクリックし、信頼の表示を更新します。

- 更新には、ProLiant Support Packかコンポーネントのバージョン5.3以上が必要です。ソフトウェアおよびファームウェアのインストール機能は、サードパーティ製ソフトウェアをサポートしていません。


- 更新は、Linuxオペレーティング システム、Windows NT 4.0オペレーティング システム、Windows 2000オペレーティング システム、Windows Server 2003オペレーティング システムでサポートされています。



- CMSでは更新できません。

ソフトウェアとファームウェアをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[ソフトウェアおよびファームウェアのインストール]**を選択します。**[ソフトウェアおよびファームウェアのインストール]**ウィンドウが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。
4. **[バージョン コントロール レポジトリの選択]**で、カタログの取得元のレポジトリを選択します。

注記：このセクションには、現行ユーザ名に権限があるシステムのみが表示されます。

5. **[選択したバージョン コントロール レポジトリの内容]**で、 アイコンをクリックして展開し、選択したバージョン コントロール レポジトリの内容を表示します。

注記：ツリーを展開してすべての内容を表示するには、**[選択したバージョン コントロール レポジトリの内容]**セクションの左上にある アイコンをクリックします。 アイコンをクリックすると、リストを縮小できます。

インストールするコンポーネントを選択します。

6. 次へをクリックします。
[インストール オプションの選択]セクションが表示されます。
7. 項目が、リストの順序でインストールされます。項目の順序を変更するには、次のように操作します。
 - a. 順序を変更する項目を選択し、項目の順位を上げるには上に**移動**をクリックします。
または
 - b. 項目の順位を下げるには、下に**移動**をクリックします。
8. 現在インストールしているバージョンより古いソフトウェアをインストールする場合は、**[必要な場合は強制的にダウンロードします。]**を選択します。このオプションは、デフォルトで無効になっています。
9. システムをフル電源にしてからインストールする場合は、**[インストールする前に、フル電源でシステムを起動します。]**を選択します。このオプションを選択しないと、システムがフル電源で動作していないため、インストールを試してもエラーになることがあります。

注記：システムをフル電源にするには、ターゲット システムでMagic Pocket技術がサポートされている必要があります。

これを選択すると、ターゲット システムがフル電源になってからインストールが選択されます。

10. デフォルトでは、**[正常にインストールした後、必要な場合は、システムを再起動します。]**が選択されています。インストール後にリブートしない場合は、このオプションの選択を解除します。しかし、正常タスク ステータスには、更新を完了するためにリブートが必要であることが表示されます。
11. 更新の実行時刻を設定するには、スケジュールをクリックします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。前画面に戻るには、戻るをクリックします。ソフトウェアをすぐにインストールするには、すぐに実行をクリックします。

スケジュールをクリックすると、**[タスクのスケジュール]**セクションが表示されます。

スイッチへのファームウェアのインストール

スイッチにファームウェアをインストールする場合は、以下を確認してください。

- HP製スイッチ ファームウェアの更新時は、スイッチ デバイスおよび単一のスイッチ ファームウェア コンポーネントのみを選択します。
- スイッチ ファームウェア イメージ バージョンとスイッチ ファームウェア ブート イメージが一致することを確認します。
- 一部の古いスイッチ コンポーネントでは、ログ ファイルが生成されません。スイッチ更新ステータスは、ProLiant Interconnect Switch Upgradeツールを使用して検索できます。このツールは、ソフトウェアやファームウェアをスイッチ デバイスにインストールするタスクの一環として自動的にインストールされます。

関連プロシージャ

- タスクのスケジュール設定
- タスク結果リスト

関連トピック

- バージョン コントロール
- 証明書のレプリケート

初期ProLiant Support Packのインストール

初期ProLiant Support Packインストール プロセスでは、HP Insightマネジメント エージェント、とくにHPバージョン コントロール エージェントをインストールしていなくても、ProLiant Support PackをWindowsシステムにインストールできます。このプロセスでは、HP Systems Insight Managerから信頼証明書を使用し、目的のHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャを使用するようにシステムを設定することもできます。

注記:



初期ProLiant Support Packインストール機能は、Windows 中央管理サーバでのみサポートされます。

ターゲット システムは、Windowsシステムである必要があります。HP Systems Insight Manager のソフトウェアおよびファームウェアのインストール機能では、レポジトリを含むサーバにHP バージョン コントロール レポジトリ マネージャがインストールされている必要があります。バージョン コントロール レポジトリ マネージャは、この手順ではインストールされません。バージョン コントロール レポジトリ マネージャのインストールの詳細については、http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HPバージョン コントロール インストール ガイド』を参照してください。

注記:



ProLiant Support Packをインストールするには、Windows管理者権限が必要です。

注記:



ソフトウェアおよびファームウェアのインストールおよびバージョン コントロール エージェントタスクは、正しく設定されたバージョン コントロール エージェントが動作するシステムでのみ使用可能です。初期ProLiant Support Packタスクを実行すると、バージョン コントロール エージェントを速く簡単にインストールすることができます。

注記:



ProLiant Support Packの詳細については、HPのWebサイト <http://h18013.www1.hp.com/manage/psp.html>（英語）にある『HP ProLiant Support Packおよび展開ユーティリティ ユーザ ガイド』を参照してください。

ProLiant Support Packをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[初期ProLiant Support Packインストール]**を選択します。**[初期ProLiant Support Packインストール]** ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの使用法」を参照してください。
3. 次へをクリックします。

4. **[Windowsログイン認証情報の入力]**ページで、以下を実行します。
 - a. **[ユーザ名]**フィールドに、ターゲット システムのWindows管理者のユーザ名を入力します。
 - b. **[パスワード]**フィールドに、前の手順で入力したWindowsユーザ名の管理者パスワードを入力します。
 - c. **[パスワード]**フィールドに入力したものと同一Windows管理者パスワードを**[パスワード（確認）]**フィールドに再び入力します。
 - d. **[ドメイン]**フィールドに、Windowsドメインを入力します。




注記：システムがドメインの一部でない場合は、このフィールドを空白にしておくことができます。

5. 次へをクリックします。**[Windows Support Packの選択]**ページが表示されます。
6. **[バージョン コントロール レポジトリの選択]**で、カタログの取得元のソース レポジトリシステムを選択します。

表示されるフィールドは次のとおりです。

- **[名前]**。システム名が表示されます。
- **[ステータス]**。システムのステータスが表示されます。
- **[製品名]**。製品名が表示されます。
- **[信頼済み]**。システムの信頼関係が設定されているかどうかが表示されます。信頼関係を設定するには、**[設定]**をクリックします。詳細については、「信頼証明書」を参照してください。

注記：このセクションには、現行ユーザ名に権限があるシステムが表示されます。システムを表示する権限が現行ユーザにない場合は、システムの権限がユーザにないことを示すメッセージが表示されます。

7. **[インストールするSupport Packを選択してください。]**で、インストールするSupport Packを選択します。アイコンをクリックして展開し、選択したバージョン コントロール レポジトリの内容を表示します。
- 注記：システム ソフトウェア ベースラインを展開してすべての内容を表示するには、**[インストールするSupport Packを選択してください。]**セクションの左上にあるをクリックします。アイコンをクリックすると、リストを縮小できます。
8. OpenSSHをターゲット システムにインストールする場合は**[SSH（Secure Shell）のインストールと初期化を行います。]**を選択します。このオプションは、デフォルトで無効になっています。
 9. （省略可能）現在インストールしているバージョンより古いProLiant Support Packをインストールする場合は、**[必要な場合は強制的にダウンロードします。]**を選択します。このオプションは、デフォルトで無効になっています。
 10. デフォルトでは、**[正常にインストールした後、必要な場合は、システムを再起動します。]**が選択されています。インストール後にリブートしない場合は、このオプションの選択を

解除します。ただし、新しいProLiant Support Packを使用できるようにするには、システムをリブートする必要があります。

11. 次へをクリックします。**[Support Packの設定]**ページが表示されます。

- ProLiant Support Pack 7.10以下を選択した場合は、**Support Pack**のコンフィギュレーションが表示されます。次に例を示します。

注記：7.10より前のProLiant Support Packを選択する場合は、以下の例のとおりではありません。

7.10 Support Packを設定するには、次のように操作します。

- a. **Support Pack**の設定をクリックして、選択したSupport PackでHPバージョン コントロール エージェントを設定します。バージョン コントロール エージェント **[セットアップ]**ページが表示されます。

注記：バージョン コントロール エージェントが既に設定されている場合は、この手順を省略できます。
- b. **[コンピュータ名]**フィールドに、バージョン コントロール レポジトリ マネージャをインストールしたシステムの名前を入力します。
- c. **[管理者パスワード]**フィールドに、入力したシステムの関連パスワードを入力します。
- d. 保存をクリックして設定を保存します。設定を破棄して**[バージョン コントロール エージェント セットアップ]**ページを閉じる場合は、キャンセルをクリックしてください。
- e. 次へをクリックします。**[Support Packのダウンロード]**ページが表示されます。
- f. support packがダウンロードされたら、スケジュールをクリックして、実行する初期ProLiant Support Packインストールに対するスケジュール済みタスクを作成するか、**すぐに実行**をクリックしてタスクを直ちに実行します。

ProLiant Support Pack7.20以上を選択した場合は、以下のオプションが表示されます。

- ターゲット システムに既にSupport Packがインストールされている場合、**System Management Homepage**の設定をクリックして、Support PackがSystem Management Homepageと信頼関係を確立するように設定します。**[HPシステム マネジメント ホームページ コンポーネント設定ウィザードへようこそ]**ページが表示されます。

注記：Support Packが既に設定されている場合は、この手順を省略できます。

注記：信頼関係の設定方法については、「信頼証明書」を参照してください。信頼関係を確立したら、**[最終更新日]**をクリックし、信頼のステータスを更新します。

System Management Homepageを設定するには、次のように操作します。

- a. **[HPシステム マネジメント ホームページ コンポーネント設定ウィザードへようこそ]**ページから、次へをクリックします。**[オペレーティング システム グループ]**ページが表示されます。
- b. **[グループ名]**フィールドに、割り当てるオペレーティングシステム グループの名前を入力します。たとえば**vcadmin**と入力します。

- c. **[操作レベル]**フィールドで、新しいグループに適切なレベルをドロップダウンリストから選択します。

注記：デフォルトの管理者グループは、常に管理者アクセス権があります。

- d. 追加をクリックしてグループを割り当てます。新しいグループが、割り当てられたオペレーティング システム グループの下に表示されます。

注記：オペレーティング システム グループ当たり最大5個のエントリを追加することができます。

- e. 次へをクリックします。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。

- f. ローカルおよび匿名アクセスによって、適切な設定を選択し、以下を含めることができます。

- ☐ **匿名アクセス** 匿名アクセスは、デフォルトで無効になっています。**[匿名アクセス]**を有効にすると、ユーザがログインせずにSystem Management Homepageにアクセスできるようになります。匿名アクセスを許可するには、このオプションを選択します。

注意：匿名アクセスの使用はおすすめしません。

- ☐ **ローカル アクセス** ローカル アクセスは、デフォルトで無効になっています。これを有効にすると、認証を求められることなくSystem Management Homepageにローカルでアクセスすることができます。すなわち、管理者が選択されている場合は、ローカル コンソールにアクセスできるあらゆるユーザが、フル アクセスを許可されることになります。匿名が選択された場合は、あらゆるローカル ユーザが、ユーザ名とパスワードを要求されることなく、セキュリティ保護されていないページだけにアクセスを許可されます。ローカル アクセスを許可するには、このオプションを選択します。

注意：管理サーバソフトウェアが有効にしないかぎり、ローカル アクセスの使用はおすすめしません。

- g. 次へをクリックします。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。

- h. 信頼モードオプションを使用すると、システムが必要とするセキュリティを選択することができます。他よりも高レベルのセキュリティが必要になる場合があります。したがって、以下のセキュリティ オプションが与えられています。

- ☐ **証明書による信頼** 信頼証明書のあるHP Systems Insight Managerサーバからのみ設定変更を許可するには、System Management Homepageを設定します。このモードでは、証明書による認証を提供する、提出されたサーバが必要です。このモードは最もセキュリティの高い方法になります。証明書のデータを必要とし、デジタル署名を確認してからアクセスを許可するからです。リモートでの設定変更を可能にしたい場合は、**[証明書による信頼]**を選択したままにし、さらにいずれの証明書もインポートしないようにして信頼システムのリストを空のままにしておきます。

注記:



このオプションはより安全であるため、このオプションを使用することを強くおすすめします。

証明書によって信頼するには、次のように操作します。

1. **[証明書による信頼]**を選択して、次へをクリックします。
 2. **[証明書名]**フィールドで、一覧をクリックして証明書ファイルを選択します。証明書ファイルが選択されたら、証明書データが画面に表示されます。
 3. 追加をクリックします。証明書が証明書ファイルの下に表示されます。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
 4. 次へをクリックします。**[IPバインド]**ページが表示されます。
- **名前による信頼** HP Systems Insight Managerの名前が**[名前による信頼]**フィールドに指定されているサーバからの特定の設定変更だけを受け入れるようSystem Management Homepageが設定されます。名前による信頼オプションは、簡単に設定することができます。たとえば、2つの別々の部門に2つの異なる管理者グループがある安全なネットワークの場合に名前による信頼オプションを使用できます。これにより、あるグループが間違っシステムにソフトウェアをインストールすることを防止できます。このオプションは、提出されたHP Systems Insight Managerサーバ名だけを確認します。

注記:



他のオプションより安全であるため、証明書による信頼オプションを使用することを強くおすすめします。

サーバ名オプションは、次の条件を満たす必要があります。

- 各サーバ名が64文字未満である
- サーバ名リスト全体の長さが1,024文字である
- サーバ名に、~ ' ! @ # \$ % ^ & * () + = \ " : ' < > ? , | のような特殊文字が含まれていない
- サーバ名がセミコロンで区切られている

名前によって信頼するには、次のように操作します。

1. **[名前による信頼]**を選択して、次へをクリックします。

2. **[信頼されたサーバ名]**フィールドで、信頼するサーバ名を入力します。
 3. 追加をクリックします。信頼済みシステム名が信頼されたサーバリストの下に表示されます。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
 4. 次へをクリックします。**[IPバインド]**ページが表示されます。
- **すべて信頼** あらゆるシステムからの特定の設定変更を受け入れるよう System Management Homepageが設定されます。

注記:



他のオプションより安全であるため、証明書による信頼オプションを使用することを強くおすすめします。

すべてのサーバを信頼するには、次のように操作します。

1. **[すべて信頼]**を選択します。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
 2. 次へをクリックします。**[IPバインド]**ページが表示されます。
- i. IPバインディングは、System Management Homepageが要求を受け入れるIPアドレスを指定し、処理されるネットおよびサブネット要求についての制御を行います。

管理者は、**[IPバインド]**ページに指定されたアドレスに対してのみバインドするよう System Management Homepageを設定することができます。最大で5つのサブネットIPアドレスとネットマスクを定義することができます。

サーバのIPアドレスは、マスクの適用後に入力されたIPバインディング アドレスのいずれかに一致する場合に、バインドされます。

注記:



System Management Homepageは、常に、127.0.0.1にバインドされます。IPバインディングが有効でサブネット/マスクペアが設定されていない場合は、System Management Homepageは、127.0.0.1に対してのみ使用可能です。IPバインディングが有効でない場合は、すべてのアドレスにバインドします。

IPバインディングを設定するには、次のように操作します。

1. **IPバインド**を選択します。**[IPバインド]**ページが表示されます。
2. IPアドレスを入力します。
3. ネットマスクを入力します。
4. **追加**をクリックします。IPバインディングの設定が保存され、**[IPバインドリスト]**の下に表示されます。
5. **次へ**をクリックします。**[IP限定ログイン]**ページが表示されます。

- j. IP限定ログインは、System Management HomepageがシステムのIPアドレスに基づいてログイン アクセスを制限できるようにします。

アドレス制限は、インストール時に設定するか、管理者が**[IP限定ログイン]**ページから設定することができます。

- ☐ IPアドレスが除外されている場合は、内包ボックスにあって除外されません。
- ☐ IPアドレスが包含リストに含まれる場合、それらのIPアドレスのみがログイン アクセスを許可されます。ただし、localhostの場合を除きます。
- ☐ IPアドレスが包含リストにない場合、ログイン アクセスは、除外リストにないあらゆるIPアドレスに対して許可されます。

IPアドレスを含めたり除外したりするには、次のように操作します。

1. **[開始]**フィールドから、含めるまたは除外するIPアドレスを入力します。**[開始]**フィールドに開始のIPアドレスを入力するか、**[終了]**フィールドに終わりのIPアドレスを入力することによって、IPアドレス範囲を入力することができます。
2. **[種類]**フィールドから、包括または除外を選択します。
3. **追加**をクリックしてIPアドレスまたはIPアドレス範囲を下の**[包括するリスト]**または**[除外リスト]**に追加します。
4. **保存**をクリックします。System Management Homepageシステムに対する**[HP System Management Homepageログイン]**ページが表示されます。System Management Homepageの詳細については、http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP System Management Homepage製品概要』を参照してください。

- **バージョン コントロール エージェントの設定**をクリックして、選択したSupport PackでHPバージョン コントロール エージェントを設定します。

注記：バージョン コントロール エージェントが既に設定されている場合は、この手順を省略できます。

バージョン コントロール エージェントを設定するには、次のように操作します。

- a. **[コンピュータ名]**フィールドに、バージョン コントロール レポジトリ マネージャをインストールしたシステムの名前を入力します。
 - b. **[ログイン アカウント]**フィールドに、指定したシステム上のバージョン コントロール レポジトリ マネージャへの接続に使用するログイン名を入力します。
 - c. **[ログイン パスワード]**フィールドに、指定したログイン名に対応したパスワードを入力します。
 - d. 保存をクリックして設定を保存します。設定を破棄して**[バージョン コントロール エージェントセットアップ]**ページを閉じる場合は、キャンセルをクリックしてください。
 - e. 次へをクリックします。
12. HP Systems Insight Managerに戻り、次へをクリックして、ProLiant Support Packのダウンロードを開始します。**[Support Packのダウンロード]**ページが表示されます。
 13. support packがダウンロードされたら、スケジュールをクリックして、実行する初期ProLiant Support Packインストールに対するスケジュール済みタスクを作成するか、すぐに実行をクリックしてタスクを直ちに実行します。

関連プロシージャ

- ソフトウェアとファームウェアのインストール
- 管理対象システム

関連トピック

- バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて

Virtual Machine Management Pack

HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) では、Microsoft社製のVirtual Server、VMwareのGSXやESXなどの仮想マシンの集中管理と制御を可能にします。VMMを使用すると、すべての仮想マシンおよび仮想マシン (VM) ホストを単一コンソールから管理できます。このコンソールは、HP Systems Insight Managerと統合されており、**[内蔵コンソール]**の1つとして、HP Systems Insight Manager **[ツール]**メニュー項目にリストされます。このオプションを選択すると、ユーザの権限に応じて**[Virtual Machine Management Pack]**ページが新しいブラウザ画面に表示されます。このメニュー項目にアクセスするには、完全な設定権または制限付き設定権が必要です。

[Virtual Machine Management]ページが表示されると、VMホストとVMゲストのツリーが左側のウィンドウに表示されます。左側のウィンドウのツリーからシステムを選択すると、選択したシステムに関する情報が右側のウィンドウに表示されます。

VMMは、次の2つの主要なインストール済みコンポーネントからなります。VMMサービスとVMMエージェントです。VMMサービスは、サポートされているWindowsプラットフォーム上のHP Systems Insight Manager中央管理サーバ (CMS) にインストールされる必要があります。VMMの機能は、次のとおりです。

- ユーザ インタフェースを提供する。

- HP Systems Insight Managerとのインタフェースとなる。
- VMware ESXおよびWindows VMホストにインストールされているVMMエージェントに、ライセンスが与えられているVMホストでVM管理動作を実行させる。

VMホスト上のVMMエージェントには、中央コンソールから、VM制御動作（開始、停止、一時停止など）を実行させたり、VMホスト間でVMをコピーまたは移動させたりすることができます。

HP Systems Insight Managerは、VMMによって、識別プロセスでVMホストを認識することができます。HP Systems Insight Managerは、システムをサーバと認識すると、そのシステムがVMホストかどうかを判断します。そのシステムがVMホストであることをVMMがHP Systems Insight Managerに示すと、HP Systems Insight Managerは、システム サブタイプを**VMHost**（仮想マシンホスト）に設定します。

関連プロシージャ

- VMMへのアクセス
- VMホストのライセンス
- VMMエージェントのインストール
- VMMの登録
- VMMの登録解除
- VMMのアップグレード

関連トピック

- VMステータスの種類

VMホストのライセンス

このツールは、ターゲット仮想マシン（VM）ホスト上にライセンスを適用するために使用します。ライセンスは、**[ライセンス ウィザード]**ページから追加して適用できます。**[Virtual Machine Management Pack]**ページで仮想マシンを管理するには、VMホストにライセンスを適用する必要があります。ライセンスを適用する前に管理対象ホストをVMホストとして識別する必要があります。これには、VMホストとして識別されるサーバ上にHP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack（VMM）エージェントをインストールする必要があります。この機能を実行するには、完全な設定権が必要です。

VMホストにライセンスを適用するには、次のように操作します。

1. **[展開]>[ライセンス マネージャ]>[キーのインストール]**を選択します。**[ライセンス ウィザード]**が表示されます。
2. ライセンスを適用するターゲットVMホストを選択します。
3. 次へをクリックします。
4. キーの追加またはファイルからのキーの追加をクリックしてライセンス キーを追加します。
5. ライセンスの適用をクリックして、選択したライセンスを選択したターゲットVMホストにインストールします。
6. ターゲットVMホストにライセンスをインストールしたら、次へをクリックします。

7. **すぐに実行**をクリックします。システムの識別ツールが起動されます。

関連プロシージャ

- VMMへのアクセス
- VMMエージェントのインストール

関連トピック

- Virtual Machine Management Pack
- VMステータスの種類

VMMエージェントのインストール

このツールは、HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) エージェントをターゲット仮想マシン (VM) ホスト上にインストールするために使用します。エージェントをインストールする複数のVMホストを選択できます。このエージェントは、HP Systems Insight Managerが、HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) サーバによって、サーバがVMホストかどうかを識別することを可能にします。

この手順を実行するには、制限付き設定権または完全な設定権が必要です。

注記:



OpenSSHをWindowsサーバにインストールしないと、VMMエージェントを中央管理サーバ (CMS) からインストールすることはできません。OpenSSHのインストールについては、「OpenSSHのインストール」を参照してください。

Windowsエージェントをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[Virtual Machine Management Pack]>[Windowsエージェントのインストール]**を選択します。**[Windowsエージェントのインストール]**ページが表示されます。
2. VMMエージェントをインストールするターゲットVMホストを選択します。
3. **すぐに実行**をクリックして、選択したターゲットへのWindowsエージェントのインストールを開始します。

Linuxエージェントをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[Virtual Machine Management Pack]>[Linuxエージェントのインストール]**を選択します。**[Linuxエージェントのインストール]**ページが表示されます。
2. HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management PackエージェントをインストールするターゲットVMホストを選択します。
3. **すぐに実行**をクリックして、選択したターゲットへのLinuxエージェントのインストールを開始します。

注記:



VMware ESX ServerホストはVMM Linuxエージェントを使用します。

関連プロシージャ

- VMMへのアクセス
- VMホストのライセンス

関連トピック

- Virtual Machine Management Pack
- VMステータスの種類

VMMへのアクセス

HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) では、Microsoft社製のVirtual Server、VMwareのGSXやESXなどの仮想マシンの集中管理と制御を可能にします。これは、HP Systems Insight Managerと統合されており、**[内蔵コンソール]**の1つとして、HP Systems Insight Manager **[ツール]**メニュー項目にリストされます。このオプションを選択すると、ユーザの権限に応じて**[Virtual Machine Management Pack]**ページが新しいブラウザ画面に表示されます。このメニュー項目にアクセスするには、完全な設定権または制限付き設定権が必要です。

[Virtual Machine Management]ページが表示されると、VMホストとVMゲストのツリーが左側のウィンドウに表示されます。左側のウィンドウのツリーからシステムを選択すると、選択したシステムに関する情報が右側のウィンドウに表示されます。

HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Packにアクセスするには、次のように操作します。

1. **[ツール]->[内蔵コンソール]->[Virtual Machine Management Pack]**の順に選択します。**[Virtual Machine Management]**ページが表示されます。
2. ツリーから任意のターゲットVMホストを選択して、そのVMに関する情報を表示します。

関連プロシージャ

- VMMエージェントのインストール
- VMホストのライセンス

関連トピック

- VMステータスの種類

VMMの登録

このツールは、仮想マシン（VM）ホストとHP Systems Insight ManagerおよびHP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack（VMM）コンソール間の通信を確立します。登録が完了すると、HP Systems Insight ManagerおよびVMMコンソールにVMホストが表示されます。VMホストのステータスは[VM]列に表示されます。

VMホストを登録するには、次のように操作します。

1. **[設定]->[Virtual Machine Management Pack]->[Virtual Machineホストの登録]**を選択します。
2. システムの隣にあるチェックボックスを選択して、登録するターゲットVMホストを選択します。
3. **選択の適用**をクリックします。
4. 正しいターゲット ホストがリストに表示されていることを確認し、ターゲット ホストを選択しなおす必要がある場合は、**ターゲットの変更**をクリックします。
5. **次へ**をクリックします。
6. ホストをすぐに登録するには、**すぐに実行**をクリックします。

関連プロシージャ

- VMMの登録解除

関連トピック

- Virtual Machine Management Pack
- VMステータスの種類

VMMの登録解除

このツールは、仮想マシン ホストとHP Systems Insight ManagerおよびHP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack（VMM）コンソール間の通信を切断します。仮想マシン（VM）ホストを登録解除すると、HP Systems Insight ManagerおよびVMMコンソールは、このVMホストを認識したりこのVMホストと通信したりすることはできません。

VMホストを登録解除するには、次のように操作します。

1. **[設定]->[Virtual Machine Management Pack]->[Virtual Machineホストの登録解除]**を選択します。
2. システムの隣にあるチェックボックスを選択して、登録解除するターゲットVMホストを選択します。
3. **選択の適用**をクリックします。
4. 正しいターゲット ホストがリストに表示されていることを確認し、ターゲット ホストを選択しなおす必要がある場合は、**ターゲットの変更**をクリックします。
5. **次へ**をクリックします。

6. ホストをすぐに登録解除するには、すぐに実行をクリックします。

関連プロシージャ

- VMMの登録

関連トピック

- Virtual Machine Management Pack
- VMステータスの種類

VMMのアップグレード





このツールは、以前に管理されていた仮想マシン（VM）ホストを対象に、ユーザの操作なしで、HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack（VMM）エージェントをすべて前バージョンから現在のバージョンにアップグレードするために使用します。このメニューは、前バージョンのVMMが存在することがインストールによって検知されたときに表示されます。アップグレードが必要な場合は、[タスク結果]ページが表示されます。アップグレードをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。アップグレードをすぐに実行するには、すぐに実行をクリックします。

関連トピック


- Virtual Machine Management Pack
- VMステータスの種類






VMステータスの種類

HP Systems Insight Managerでは、仮想マシン（VM）ホストは、次のステータス タイプのうちいずれかを含みます。

アイコン	ステータス
	VMホストはライセンス済みで、現在VMMと通信しています。
	VMホストはライセンス済みですが、現在VMMと通信していません。
	VMMエージェントがサーバにインストールされていますが、サーバがVMホストではありません。
	VMMエージェントがVMホストにインストールされていますが、ホストのライセンスが付与されていません。
アイコンなし	VMMエージェントがこのサーバにインストールされていません。

VMゲストは、次のステータス タイプのうちいずれかを含みます。

アイコン	ステータス
	VMゲストがライセンス済みのVMホストに関連づけられており、ゲストが起動しています。

アイコン	ステータス
	VMホストはライセンス済みですが、現在VMMと通信していません。
	VMゲストがライセンス済みのVMホストに関連づけられていますが、ホストがVMMと通信していません。
	VMゲストは、対応を必要とする状態です。
	VMゲストがライセンス済みのVMホストに関連づけられていますが、ゲストが起動していません。
	VMゲストがライセンス済みのVMホストに関連づけられていません。

HP Systems Insight Manager内のいずれかのリンクをクリックすると、システムについての追加情報が表示されます。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページ

WBEMベース ツール

HP Systems Insight Managerでは、以下のような複数のWBEMベース ツールを使用できます。

- プロパティ ページ
- システム障害管理

注記：システム障害管理がインストールされていない場合、HP Systems Insight Managerは、WBEM表示を認識または理解できません。

- WBEMプロバイダ

関連トピック

- プロパティ ページ
- システム障害管理の概要
- WBEMプロバイダの概要

プロパティ ページ

[オプション]->プロトコル設定->グローバル プロトコル設定で入力するWebベース エンタープライズ管理（WBEM）の名前とパスワードのペアでは、[プロパティ]ページに表示されるデータ量も制御されます。rootの名前とパスワードのペアを使用できない場合は、ターゲット システムのプロバイダがrootアクセスを要求しているので、多くのプロパティが省略されます。[プロパティ]ページは、リモート ターゲットシステム（HP-UX、Linux IPF、Linux IA32、Windows およびDec Alpha）のWBEMプロパティの表示に使用します。このページには、次の2つの方法でアクセスできます。

- [識別]タブの[システム]ページから[プロパティ]をクリックします。ターゲット システムの[プロパティ]ページが表示されます。

- **[ツール]>[システム情報]>[プロパティ]**を選択します。ここでターゲット システムを選択し、**すぐに実行**をクリックしてください。ターゲット システムの**[プロパティ]**ページが表示されます。

[プロパティ]ページは**[システム ページ]**または**[ツール]**メニューから呼び出すと、新しいウィンドウで開きます。**[プロパティ]**ページには、次の3つのタブが含まれます。

- **[識別]**。ネットワークのターゲット システムについて説明するWBEMプロパティが表示されます。このプロパティには、場所、ローカル タイム、オペレーティング システムの特性、所有者情報など、物理的な側面が含まれます。
- **[ステータス]**。システムのステータスの判断に役立つWBEMプロパティが表示されます。最低でも、メモリ ステータスとプロセス ステータスを判断できます。ターゲット システムのWBEMインストールによっては、すべての主要コンピュータ サブシステムのステータスを判断できることがあります。各コンポーネントのステータス アイコンは、各ステータス プロパティの横に表示されます。表示できるハードウェアのステータス アイコンの詳細については、「システム ステータス タイプ」を参照してください。
- **[設定]**。WBEMプロパティに基づいて、ターゲット システムのインベントリが表示されます。最低でも、このインベントリにはオペレーティング システム情報が含まれますが、CPU、ディスク ドライブ、ファイル システム、マザーボード、ソフトウェア インストール、ネットワークに関する情報も含まれることがあります。

注記:



[プロパティ]ページに表示される日時は、ターゲット システムの時刻を表します。

システム障害管理の概要

システム障害管理は、高度なハードウェア フォールト テクノロジのスイートで、ハードウェアを障害から保護し、予測情報と解決策を報告します。システム障害管理は、バージョン2アップデート2を実行するHP 9000システムとHP-UX 11iバージョン2アップデート2を実行するIntegrityサーバに対して使用可能です。

システム障害管理は、業界標準のWebベース エンタープライズ管理（WBEM）を使用して、HP Systems Insight Managerと統合します。

HP Systems Insight Managerとの統合のような標準準拠のシステム管理アプリケーション間の統合は、HP 9000システムとHP Integrityサーバの繁栄について全体的かつ幅広い視点を提供します。

システム障害管理は、業界標準のデスクトップ管理タスクフォース（DMTF）WBEMを使用して、高度なシステム レベル監視機能を提供し、システムの運用を妨げる可能性のある障害からハードウェアを保護します。

また、システム障害管理は、予測情報と解決策の報告に対する通知スレッシュホルドの設定を考慮します。設定可能なスレッシュホルドによって、システム管理者は、希望の可用性サービスレベルに合わせて通知をカスタマイズすることができます。

システム障害管理には、情報を収集して判断材料の1つとして使うプロバイダが含まれており、業界標準のインタフェース（すなわち、HTTP上のXMLを介したCIM仕様）を通してネットワーク管理アプリケーションにそれを配布します。

CPU Instance Providerは、HP 9000サーバの中央プロセッサについての情報を収集します。

Memory Instance Providerは、HP 9000サーバのメモリ構成についての情報を収集します。

EMS Wrapper Providerは、ハードウェア イベントをEvent Monitoring System（EMS）ハードウェア監視から、WBEMと互換性のある形式に変換します。

システム障害管理は、システム障害管理がインストールされたシステムを選択し、[ツール]->[システム情報]->[システム ページ]を選択すれば、HP Systems Insight Managerで使用可能です。

システム障害管理の詳細については、HPのWebサイト
<http://www.hp.com/products1/unix/operating/SysFaultMgmt.html>（英語）を参照してください。

WBEMプロバイダの概要

HP WBEM Management Providersを使用すると、システム設定とステータスをリモートで監視することができます。Management Providersは、使用されているシステムについての情報を報告します。情報は、Webベース エンタープライズ管理（WBEM）業界標準プロトコルを使用して提供されます。HP Systems Insight Managerを使用した中央管理サーバ（CMS）は、情報を収集、整理し、レポートで示します。それによって、システムの使用を監視し、問題をトラブルシューティングすることができるようになります。

管理プロバイダ パッケージには、HP WBEM Servicesパッケージに組み込まれる一連のプロバイダ モジュールが含まれています。プロバイダは、ハードウェアとオペレーティング システムについての追加情報を提供することで、HP WBEM Servicesパッケージの基本機能を拡張します。

プロバイダパッケージは、WBEMの照会に対して、次のカテゴリの情報を提供することができます。詳細については、別途用意されている『HP WBEM Provider Data Sheets』を参照してください。

- 電源装置：名前、ID、説明、ステータス、および可用性。
- ディスクSMARTセンサ：システム、ステータス（オンライン、障害/アサート、不明）。
- ディスク ドライブ：ID、機能、サイズ、ブロック サイズ。
- ディスクパーティション、論理システム、論理ディスク：ID、ブート可能、およびタイプ。
- 物理メモリ：説明、バンク レベル、容量、およびメモリ タイプ。
- 物理メモリ統計情報：シングル ビット エラー、ダブル ビット エラー、および事前障害予測インジケータ。
- ネットワーク アダプタ：アドレス、速度、最大速度、デュプレックス インジケータ、および受信済みならびに転送済みオクレット数。
- PCIシステム：ID、ベンダ、猶予時間、および待機時間。
- 物理メディア：名前、ホット スワップ機能、容量、メーカー、モデル、シリアル番号、バージョン、およびその他の情報。

- SCSIコントローラ：ID、名前、説明、およびプロトコル。

HP WBEM Providersは、<http://www.hp.com/jp/hpsim/>のLinuxリンクから入手可能です。その他のHP装置およびオペレーティング システム用のWBEM Providersも、別途入手可能です。

WBEMは、SNMPネットワーク管理プロトコルを置き換えるものです。WBEM providersは、管理対象システムについての情報を公開するSNMPエージェントと似た役割を実行します。HP Integrityサーバは、HP SNMPエージェントを使用してリモートから管理することもできます。HP SNMPエージェントは、別途、<http://www.hp.com/jp/hpsim/>から入手することができます。

注意:



HP WBEM Providersの現在のリリースは、HP Insightマネジメント エージェントと共存できません。この制限は、将来のリリースでなくなる予定です。Insightマネジメント エージェントは、SNMPを使用して管理される製品マシンにインストールして、HP WBEM Providersは、WBEMの評価のためにのみインストールすることをおすすめします。

WBEM Providers for Linuxの詳細については、HPのWebサイト
<http://h20293.www2.hp.com/portal/swdepot/displayProductInfo.do?productNumber=WBEMINUX>
(英語)を参照してください。

利用可能なMSAツール

HP Systems Insight Managerで利用できるMSAツールのリストは、次のとおりです。

- Deploy SSH Public Key
- Ignite-UX Console
- Ignite-UX Restricted Console
- Create or Modify Recovery Archive
- Create or Modify Tape Recovery Archive
- Install or Recover System
- PostgreSQL DB Backup
- Install Software
- Remove Software
- Software Distributor Job Browser
- Copy Depot Software
- Remove Depot Software
- SD Job Browser

- Subscribe to WBEM Events
- Install WLM Configuration
- Retrieve WLM Configuration
- Syntax Check on the Systems Insight Manager Server Configuration
- Syntax Check Configuration
- Install OpenSSH
- Initial ProLiant Support Pack Install
- Install Software and Firmware

パートナー アプリケーション

HP Systems Insight Managerパートナー アプリケーションは、プラグイン ツールまたはTDEFファイルのいずれかとして、HPシステムのカバー範囲を広げ、HPサーバのライフサイクル管理機能を改善します。

注記:



ツールに関する情報を探しても、このページに記載されていないか、このヘルプシステムで参照されていない場合は、カスタム ツールであるか、HP以外の企業によって提供されたツールである可能性があります。管理者に問い合わせてください。

HP Integrity Essentialsプラグイン

カテゴリ	HP製品	HP-UX	Linux	Windows	OpenVMS
設定管理	Availability Manager				X
	イベント監視サービス	X			
	HP-UX Bastille	X			
	HP-UX Webmin-based Admin	X			
	内蔵Lights-Out	X	X	X	X
	Partition Manager	X	X	X	X
	HP Serviceguard Manager	X	X		
	System Management Homepage/SAM	X	X	X	X
ソフトウェアのインストール	Ignite-UX	X			
	Linux Enabled Kit		X		
	Patch Assessment Tool	X			
	セキュリティ パッチ チェック	X			
	Smartsetup CD			X	
	Software Distributor-UX	X			
	Software Package Builder	X			
	VMS Loader				X

カテゴリ	HP製品	HP-UX	Linux	Windows	OpenVMS
仮想化および自動管理	Class Scheduler				X
	Global Workload Manager	X	X		
	HP-UX Workload Manager	X			
	OpenView GlancePlus	X	X		
	OpenView Performance Agent	X	X	X	X
	Process Resource Manager	X			

HP ProLiant Essentialsプラグイン

カテゴリ	HP製品	HP-UX	Linux	Windows	OpenVMS
設定管理	内蔵Lights-Out Advanced Pack				X
	Intelligent Networking Pack	X			
	Performance Management Pack	X			
	ラックおよび電源管理	X			
ソフトウェアのインストール	HP BladeSystem Integrated Manager	X			
	Insightマネジメント エージェント		X		
	Rapid Deployment Pack	X			
	SmartsetupCD	X			
	Vulnerability and Patch Management Pack			X	
	WBEM Providers for Linux	X			
仮想化および自動管理	Automation Pack				X
	Server Migration Pack	X	X		
	Virtual Machine Management Pack	X			
	Workload Management Pack	X	X		

HP Storage Essentialsプラグイン

カテゴリ	HP製品
アプリケーション ストレージ管理	Oracle Viewer Exchange Viewer Sybase Viewer SQL Viewer File System Viewer
設定管理	Storage Essentials Enterprise Edition Provisioning Manager Chargeback Manager HP StorageWorks Command View XP HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition HP StorageWorks Command View SDM HP StorageWorks Command View EVA HP StorageWorks Command View SDM HP StorageWorks Command View TL HP StorageWorks MSA アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ Smartアレイ コントローラ HP StorageWorks VA HP StorageWorks TL
レポート機能	Global Reporter Report Designer

HPインフラストラクチャ リソース管理プラグイン

ソフトウェア カテゴリ	HP製品	管理対象システム
クライアント管理ソフトウェア	HP Client Manager Web-Based Enterprise Services (WEBES)	HPビジネス デスクトップ、ワークステーション、ノートブック、およびタブレットPC

ソフトウェア カテゴリ	HP製品	管理対象システム
情報ライフサイクル管理ソフトウェア	HP OpenView Storage Data Protector	HPおよび異機種ストレージ
電源管理ソフトウェア	Rack and Power Manager	HPブランドのUPS製品と環境監視製品
プリンタ管理ソフトウェア	Web JetAdmin	HP管理がサポートされているプリンタおよびHP以外のネットワーク周辺機器
サービス分析およびリモートサポート	インスタント サポート エンタープライズ エディション (ISEE)	Open Systems Event Management (OSEM)
ストレージ リソース管理ソフトウェア	HP Storage Essentials HP StorageWorks Command View EVA HP StorageWorks Command View XP HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ HP StorageWorks Command View SDM HP StorageWorks Command View TL	HPおよび異機種ストレージ HP StorageWorks EVA HP StorageWorks XP HP StorageWorks MSA、Smart アレイ コントローラ HP StorageWorks VA HP StorageWorks TL

関連トピック

- タスクの使用法
- タスク結果の表示
- アレイ コンフィギュレーション ユーティリティの概要
- HP BladeSystemの概要
- HP Client Managerの概要
- イベント監視サービスの概要
- GlancePlusの概要
- Ignite-UXの概要
- HP Integrity Essentialsの概要
- HP OpenView Storage Area Managementの概要
- HP OpenView Storage Data Protectorの概要
- HP OpenView Storage Management Applianceの概要
- HP OpenView Storage Operations Managerの概要
- Partition Managerの概要
- HP ProLiant Essentials Automation Managerの概要
- HP ProLiant Essentialsアプリケーション
- Software Distributorの概要
- HP Storage Essentialsの概要

- HP StorageWorks EVAの概要
- HP StorageWorks Command View SDMの概要
- HP StorageWorks Command View Tape Libraryの概要
- HP StorageWorks Command View XPの概要
- HP StorageWorks Command View XP Advanced Editionの概要
- HP StorageWorks Modular Storage Array 1000の概要
- システム障害管理の概要
- ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Packの概要
- HP Virtual Server Environmentの概要
- WBEMプロバイダの概要
- Web JetAdminの概要
- PMPツール
- Process Resource Managerの概要
- RPMパッケージ マネージャ
- セキュリティ パッチ チェックの概要
- HP Serviceguard Managerの概要
- Server Migration Pack
- Virtual Machine Management Pack
- Webminの概要
- Workload Managerの概要

HP Integrity Essentialsの概要

HP Integrity Essentialsは、HP Systems Insight Manager用のオプションのプラグインです。このプラグインは、共通のセキュリティおよび設定管理の利点を享受しつつ、強力なライフサイクル機能を追加することを可能にします。

HP Systems Insight ManagerとHP Integrity Essentialsは、以下の動作するHP Integrityサーバ環境の統一的な管理によってITインフラストラクチャの制御に役立ちます。

- HP-UX 11i
- Windows
- Linux
- OpenVMS

HP Integrity Essentials for HP-UX 11i

HP Integrity Essentialsは、HP-UX 11iを含む複数のオペレーティング システムに対して完全なIntegrityサーバ管理を実現するモジュール式の統合システム管理ソフトウェアを提供します。

ソフトウェアのインストール

- Ignite-UXの迅速なインストール
- Software Distributor-UXがHP-UX用のソフトウェアを配布
- Software Package BuilderによってHP-UXを簡単に更新
- セキュリティ パッチ チェックおよびPatch Assessment Toolがシステムのセキュリティを向上

設定管理

- System Management Homepage/System Administration Managerによる基本的なHP-UX管理
- Partition Managerがハード パーティションを作成および管理
- HP-UX Bastilleによるセキュリティ強化/ロックダウン
- HP-UX webmin-based Adminによってオープン ソース ツールのプラグインが可能
- Serviceguard ManagerがServiceguardクラスタを管理

負荷管理

- Process resource managerによる負荷管理
- Secure Resource Partitionsによる安全なアプリケーション スタック
- HP-UX Workload Managerによる、Virtual Server Environment用のインテリジェント ポリシー エンジン
- Global Workload Managerによる、マルチシステムVirtual Server Environment用のインテリジェント ポリシー エンジン
- OpenView GlancePlusおよびPerformance Agentによるパフォーマンス監視

リモート サーバ管理

- エントリ レベルのIntegrityサーバ用の内蔵Lights-Out (iLO)
- ミッドレンジおよびハイエンドIntegrityサーバ用の管理プロセス

HP Integrity Essentials for Windows

インストールおよび設定

- Integrity Essentials Foundation Pack for Windows。Windows Server 2003で動作するHP Integrity サーバの設置、設定、管理を行う完全なツールセット
- Smart Setup CD。簡単なサーバ設定と最新のHPドライバ、ファームウェア ユーティリティ、および管理資産を収録
- Partition Manager。ハード パーティション (nPars) を作成および管理
- System Management Homepage (HP Insightマネジメント エージェントs)。個々のサーバの統合ビューを提供
- HPバージョン コントロール エージェントおよびHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ。簡単なシステム ソフトウェア メンテナンス
- NIC Configuration Utility。HPネットワーク インタフェース コントローラを設定および監視

リモート サーバ管理

- エントリ レベルのIntegrityサーバ用の内蔵Lights-Out (iLO)

- ミッドレンジおよびハイエンドIntegrityサーバ用の管理プロセッサ

Linuxで動作するHP Integrityサーバ

中央管理

HP Systems Insight Managerは、HPの統一サーバ/ストレージ管理戦略の基盤です。HP Integrity、HP ProLiantおよびHP 9000サーバをサポートする、複数オペレーティング システムのハードウェアレベル管理製品です。HP Systems Insight Managerは、拡張が簡単で、HP Integrity Essentialsなどのその他のHP管理製品と付加価値プラグインを組み込みます。

OpenView HPのエンタープライズレベルの管理ソリューションSystem Management Homepage (Insightマネジメント エージェントs) は、個々のサーバの統合ビューを提供します。

HP Integrity Essentialsは、Linuxを含む複数のオペレーティング システムに対して完全なIntegrityサーバ管理を実現するモジュール式の統合システム管理ソフトウェアを提供します。

HP Integrity Essentials for Linux

インストールおよび設定

SystemImagerを含むEnablement Kit for Linuxは、互換性のある最新のHPドライバ、ファームウェア、ユーティリティ、Insightマネジメント エージェントのすべてを配布します。また、オペレーティング システムのインストールを管理します。

Partition Managerはハードパーティション (nPars) を作成および管理。Serviceguard ManagerはServiceguardクラスタを管理。

負荷管理

Global Workload Managerによる、マルチシステムVirtual Server Environment用のインテリジェント ポリシー エンジン

リモート サーバ管理

エントリ レベルのIntegrityサーバ用の内蔵Lights-Out (iLO)

ミッドレンジおよびハイエンドIntegrityサーバ用の管理プロセッサ

OpenVMSで動作するHP Integrityサーバ

中央管理

HP Systems Insight Managerは、HPの統一サーバ/ストレージ管理戦略の基盤です。HP IntegrityおよびHP 9000サーバをサポートする、複数オペレーティング システムのハードウェアレベル管理製品です。HP Systems Insight Managerは、拡張が簡単で、HP Integrity Essentialsなどのその他のHP管理製品と付加価値プラグインを組み込みます。

OpenView、OpenView Operations Agentを含むHPのエンタープライズレベルの管理ソリューションは、OpenView Operationsからのシームレスな管理を実現します。

HP Integrity Essentialsは、OpenVMSを含む複数のオペレーティング システムに対して完全な Integrityサーバ管理を実現するモジュール式の統合システム管理ソフトウェアを提供します。

HP Integrity Essentials for OpenVMS

設定管理

Availability ManagerはOpenVMS用のリアルタイムのパフォーマンス監視。Insightマネジメント エージェントはSystems Insight Managerを有効化。Partition Managerはハード パーティション (nPars) を作成および管理

負荷管理

Class Schedulerはリソース管理用。OpenView Performance Agentはパフォーマンス監視用

リモート サーバ管理

エントリ レベルのIntegrityサーバ用の内蔵Lights-Out (iLO)。ミッドレンジおよびハイエンド Integrityサーバ用の管理プロセス

関連トピック

- パートナー アプリケーション
- HP BladeSystemの概要
- イベント監視サービスの概要
- GlancePlusの概要
- Ignite-UXの概要
- Partition Managerの概要
- Process Resource Managerの概要
- セキュリティ パッチ チェックの概要
- HP Serviceguard Managerの概要
- Software Distributorの概要
- Webminの概要
- Workload Managerの概要

イベント監視サービスの概要

イベント監視サービス (EMS) は、エンタープライズ環境のHP製品に対するリアルタイムの監視とエラー検出を容易にするように設計されたシステム監視アプリケーションです。このフレームワークは、ハードウェア システムとシステム リソースの集中管理を可能にし、ハードウェアの障害やシステム ステータスを即時に通知します。

HP EMSは、リダンダント リソースの消失の検出に役立つ情報をレポートすることで、single point of failure (単一機器の障害がシステム全体の障害となること) を明らかにし、データとアプリケーションの可用性に対する脅威を軽減します。HP EMSの機能は、システム コンポーネント、ストレージ、およびネットワークインタフェースなど、システム全体をカバーします。

HP Systems Insight Managerのイベント監視サービスにアクセスするには、**[診断]->Event Monitoring Service**を選択します。

詳細については、HPのWebサイト<http://docs.hp.com/en/B7612-90015/ch01s01.html> (英語) にある資料を参照してください。

GlancePlusの概要

HP OpenView GlancePlus Pakにより、単一の製品でシステムの可用性とパフォーマンスを管理することができます。これは、以下を含む統合製品です。

- HP OpenView GlancePlus
- HP OpenView Performance Agent

統合製品として、GlancePlus Pakには、GlancePlusのリアルタイム診断機能と、Performance Agentの時系列データ収集機能が含まれています。Performance agentは、他の可用性およびパフォーマンス管理製品とともに使用し、統合されたリアルタイムおよび時系列パフォーマンス管理ソリューションを提供します。

GlancePlus Pakを使用すると、システムのパフォーマンスと可用性の幅広い問題を扱うことができ、システムとシステム上のアプリケーションを最大限に活用することができます。

GlancePlus Pakにアクセスするには、[ツール]>**performance monitors**の順に選択します。

詳細については、HPのWebサイト

<http://www.managementsoftware.hp.com/products/gppak2k/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

Ignite-UXの概要

Ignite-UXは、（多くは大規模の）システム インストールおよび展開を行うためのHP-UXシステム管理者のニーズに対応します。この製品は、標準のシステム構成を作成して再使用する手段を提供します。標準のシステム構成をアーカイブし、そのアーカイブを使用してシステムを複製することができ、プロセスを迅速化するという利点を享受することができます。また、インストール後のカスタマイズも可能で、対話型と無人の両方の動作モードに対応しています。

注記:



HP-UXシステムのみで使用可能です。

Ignite-UXがインストールされると、[展開]>**Ignite-UX**を選択することで、HP Systems Insight Manager内でその機能にアクセスすることができます。

Ignite-UXの詳細については、HPのWebサイト<http://docs.hp.com/en/IUX/>（英語）にある資料を参照してください。

Partition Managerの概要

Partition Managerにより、システム管理者は、便利なグラフィカル ユーザインタフェースを使用してHPサーバシステム上のnPartitionを設定および管理できるようになります。Partition Managerを使用すると、コマンドやパラメータを覚える手間をかけず、複雑な設定タスクを行うことができます。nPartition、セル、I/Oシャーシ、またはその他のコンポーネントをグラフィカル表示から選択し、メニューから動作を選択します。

HP Systems Insight Managerによって、ユーザは以下を実行できます。

- nPartitionの修正
- nPartitionの表示と修正
- Remove複合体の表示と修正

HP Systems Insight Manager内のPartition Managerの機能にアクセスするには、[ツール]>**Partition Manager**を選択してください。

詳細については、HPのWebサイト<http://docs.hp.com/en/PARMGR2/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

セキュリティ パッチ チェックの概要

セキュリティ パッチ チェックは、システムのセキュリティ情報の適用状況を分析するツールです。この製品は、前回実行されたパッチ、アップデート、削除、またはユーザによって記録された手動操作によって、修正されていないセキュリティの脆弱性に対する対策を推奨します。対応には、アップデート、ソフトウェアの削除、手動操作が含まれることがあります。セキュリティ パッチ チェック ソフトウェア ツールを使用することは、システムのセキュリティを効率的に向上することに役立ちますが、システムのセキュリティを保証するものではありません。

セキュリティ パッチ チェックの機能と利点は、次のとおりです。

- インストールまたは適用されていない、適用可能な推奨されるセキュリティ対策のレポートを生成

システムから行われていないセキュリティパッチ、アップデート、または手動動作をチェックするプロセスの自動化を補助

分析されているシステム上の警告のあるパッチについて警告

パッチカタログを取得してセキュリティパッチチェックを実行することを可能にすることによってHP Systems Insight Managerと統合

HP Systems Insight Manager内のセキュリティ パッチ チェックの機能にアクセスするには、[設定]>セキュリティを選択してください。

HP Serviceguard Managerの概要

Serviceguardクラスタは、SNMPで識別と関連付けが行われ、HP Systems Insight Managerで登録されている場合は、HP Serviceguard Managerを実行してクラスタの情報を表示するメカニズムを提供します。

注記:



SNMPとWBEM Serviceguardクラスタの両方に対応したエージェントがシステムにインストールされていて、事前にHP Systems Insight Manager 4.xを実行したことがある場合は、WBEMを介してServiceguardクラスタ情報を取得させるために、検出を再実行する必要があります。

HP Serviceguard Managerには、複数の方法でアクセスできます。

- システム テーブル ビュー ページから、HP Serviceguardクラスタであるシステムを選択します。HP Systems Insight Managerは、クラスタに属する最初のシステムをデータベースから検索し、そのシステムでServiceguard Managerが起動されます。
- システム テーブル ビュー ページから、クラスタ メンバのあるコンテナ システムをクリックします。クラスタ メンバがServiceguard Managerに渡されます。また、コンテナ システムが含まれる行を選択して、**[ツール]->[内蔵コンソール]->[HP Serviceguard Manager]**を選択することで、メニューからServiceguard Managerを起動することもできます。
- システム テーブル ビュー ページから、クラスタ ノードをクリックします。クラスタ ノードがServiceguard Managerに渡されます。また、コンテナ システムが含まれる行を選択して、**[ツール]->[内蔵コンソール]->[HP Serviceguard Manager]**を選択することで、メニューからServiceguard Managerを起動することもできます。
- **[ツール]->[内蔵コンソール]->[HP Serviceguard Manager]**を選択し、**[HP Serviceguard Manager]**ページにアクセスします。**[HP Serviceguard Manager]**ページが表示されます。

注記:



HP Systems Insight Manager (HP SIM) 5.0より前のHP Serviceguard Managerを使用していない場合は、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/softwaredepot> (英語) から最新バージョンをダウンロードすることができます。 **HP**

Serviceguard Managerをクリックします。HP Serviceguard Managerをインストールすると、HP SIMを認識し自動的に登録します。HP Service Manager 4.02を前のバージョンのHP SIMといっしょに使っていた場合は、HP SIMを5.0にアップグレードしても、ツールHP Serviceguard Manager 4.02は使用可能です。

関連トピック

- システム テーブル ビュー ページのナビゲート
- クラスタ テーブル ビュー ページのナビゲート

Software Distributorの概要

Software Distributor (SD) は、HP-UX管理ツール セットで、HP-UXオペレーティング システムとレイヤード ソフトウェア アプリケーションの配布と管理に使用されます。SDは、HP-UXの一部として配布されます。別途ダウンロードする必要はありません。

SDは、ユーザと連動して動作します。システム管理者は、SDを使用してHP PA-RISCおよびItanium®ベースのシステム上のソフトウェアを管理します。ソフトウェアパッケージ業者は、SDを使用して、ソフトウェアの構成、標準化、および顧客への配布を行います。HP-UXパートナーは、SDを主要ツールとして使用して、エンタープライズおよびテクニカル デスクトップ用の完全なソリューションを構築し、テストします。

注記:



HP-UXシステムのみで使用可能です。

HP Systems Insight ManagerからSDにアクセスするには、**[展開]>Software Distributor**を選択します。

SDのログを表示するには、**[タスク&ログ]>Software Distributorエージェント ログの表示**および**[タスク&ログ]>Software Distributorデーモン ログの表示**を選択します。

詳細については、HPのWebサイト<http://www.docs.hp.com/en/SD/>（英語）にある資料を参照してください。

Webminの概要

Webminは、UNIXのシステム管理用のWebベース インタフェースです。Linux環境でも使用できます。HP Systems Insight Managerを使用すると、ユーザ アカウント、Apache、DNS、ファイル共有などを設定できます。Webminは、ミニサーバと、システム ファイル（/etc/inetd.conf and /etc/passwdなど）を直接更新する多数のコモン ゲートウェイ インタフェース（CGI）プログラムで構成されています。WebサーバとすべてのCGIプログラムは、Perl 5で書かれており、外部モジュールを使用しません。つまり、PerlバイナリさえあればWebminを実行できます。

Webminは、モジュール（PhotoShopプラグインなど）の概念をサポートしているため、任意の目的のために独自のWebminモジュールを開発して配布し、しかも任意のライセンス（General Public License（GPL）、商用、またはシェアウェア）のもとで配布することができます。

HP Systems Insight ManagerのWebminにアクセスするには、**[ツール]>[内蔵コンソール]>[Webmin]**を選択します。**[Webmin]**ウィンドウが表示されます。ターゲット システムを選択し、すぐに実行をクリックします。

Workload Managerの概要

HP-UX Workload Manager（HP-UX WLM）は、優先順位をつけられたサービス レベル目標（SLO）に基づいた自動CPUリソース割り当てとアプリケーション パフォーマンス管理を提供するリソース管理ツールです。また、実メモリとディスク帯域幅割り当てを、設定内の決まったレベルに設定することができます。

HP Systems Insight Manager内で利用できる機能は次のとおりです。

- Workload Managerコンソール
- WLM設定のアクティブ化
- WLMの有効化
- WLM設定のインストール
- WLMの再起動

- WLMの停止
- シンタックス チェック設定
- HP SIM設定でのシンタックス チェック
- 統計ログ ファイルの切り取り
- Workload Managerログ ファイルの表示
- Workload Manager統計ログ ファイルの表示
- GUIからWorkload Managerを起動

HP Systems Insight Manager内のWorkload Manager機能にアクセスするには、**[最適化]>[Workload Manager]**、**[タスク&ログ]>[Workload Managerログ ファイル]**、および**[タスク&ログ]>[Workload Manager Statisticsログ ファイル]**を選択します。

詳細については、HPのWebサイト

<http://www.hp.com/products1/unix/operating/wlm/overview.html>（英語）を参照してください。

HP OpenView Storage Data Protectorの概要

HP OpenView Storage Data Protectorは、ディスクおよびテープの両方からバックアップおよびリカバリを管理するソフトウェアで、最大限のデータ保護を実現し継続的な業務を可能にします。このソフトウェアは、各種の技術を統合してバックアップおよびリカバリ時間を短縮することによって、バックアップおよびリカバリ動作を簡素化し集中化させるように設計されています。その機能は、オンライン バックアップ、オープン ファイル バックアップ、インスタント リカバリやゼロダウンタイム バックアップにまでわたります。その実績のある業界最先端のインスタント リカバリ機能とその他複数の統合されたディザスタ リカバリ代替機能は、ほとんどの複雑な企業の要件を満たし、重要なデータを分単位で復旧させます。

Data Protectorは、最速のインストール、日常的なタスクの自動化、および使いやすい機能によって、複雑なバックアップおよびリカバリ手順の使用を簡素化します。信頼性と、単一サーバ環境から最大規模の分散エンタープライズインフラストラクチャへの拡張にまで対応するスケーラビリティを保ちつつ、複雑さを軽減する理想的なソリューションで、幅広いオペレーティング システム、アプリケーション、ドライブ、ライブラリ、およびディスク ドライブと互換性があります。

また、オフライン ストレージ メディアの追跡と管理も可能です。リムーバブル ストレージ メディアの追跡と管理を自動化することによって、メディア操作の生産性を最大化し、データの可用性を向上させます。メディア操作によって、お客様は、リムーバブル ストレージ メディアの全ライフサイクルを管理することができます。リカバリ時間を短縮し、データ消失による財務およびビジネス リスクを軽減し、人為的エラーを最小限にします。

HP OpenView Storage Data Protectorは、アプリケーションのインストール後のみ、**[システム ページ]**の**[ツール&リンク]**タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。**[システム ページ]**へのアクセスについては、「**ツール&リンク タブ**」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/storage/software/dataprotector/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

HP OpenView Storage Area Managementの概要

HP OpenView Storage Area Managerソフトウェアは、ストレージ リソースとインフラストラクチャの管理を簡素化し自動化します。Storage Area Managerには、次の5つの機能モジュールから構成されるモジュール式ビルディング ブロック アーキテクチャがあります。Storage Node Manager、Storage Builder、Storage Optimizer、Storage Accountant、およびStorage Allocatorの5つです。中央コンソールから、ストレージおよびストレージ サービスの可用性、パフォーマンス、使用率、コスト、拡張を、選択的に監視、管理、最適化および計画することができます。また、Storage Area Managerは、OracleおよびMicrosoft Exchangeアプリケーションに関連した容量の管理と計画も可能にします。

これによって、管理効率が向上し、管理対象ストレージのコストが削減されます。Storage Area Managerは、ストレージ ユーティリティの作成を可能にし、ストレージ サービス レベルの定義、監視、および測定に役立ちます。ストレージおよびアプリケーションの管理と制御を可能にし、アダプティブ エンタープライズをサポートします。サードパーティ製レポート ツールとエンタープライズ マネジメント ツールとの統合によって、統合されたITサービスの実現を支援します。Storage Management Initiative-Specifications (SMI-S) ベース システムに対するStorage Area Managerのサポートは、複雑さを軽減して異機種環境の選択肢を増やししながら投資を保護します。

HP OpenView Storage Area Managerは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/storage/software/sam/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

HP OpenView Storage Management Applianceの概要

HP OpenView Storage Management Applianceは、SANに対する、アプライアンスベースの集中化した監視と管理ソリューションです。ファブリックに直接接続されるため、ホスト コンピュータを介さずにデータ バス外で管理機能を実行し、コンピュータとストレージ システム間の独立したデータ転送を可能にします。

Storage Management Applianceは、ストレージ管理の繰り返し作業をポリシーベースで自動化することによって、管理効率を向上させつつSANの可用性とパフォーマンスを最適化します。直感的なWebベースのインタフェースとストレージ管理集約ポイントを提供し、ユーザは、任意の場所や時間に、ストレージを構成、設定、映像化、監視、および提供することができます。Storage Management Applianceには、エレメント マネージャ（HSG用）が含まれており、HP OpenView Storage Operations Managerをサポートします。この組み合わせられたソリューションは、ネットワーク ストレージ インフラストラクチャ内におけるマルチベンダ プラットフォーム間の幅広いエンタープライズ ストレージ リソース管理の基盤に加えて、SAN上のEnterprise Virtual ArrayおよびEMA/MAアレイを集中管理する使いやすいツールを実現します。

Storage Management Applianceは、一般的なウイルス保護、バックアップ、システム管理、およびUPSソフトウェア製品と、HPからの各種追加負荷価値ストレージ管理アプリケーションをサポートします。

● ストレージ管理用の自動集中化アプライアンス

HP OpenView Storage Management Applianceは、SANおよびその他のネットワーク ストレージ システムを管理および監視するための自動集中化ポイントを提供します。Storage

Management Applianceは、SANファブリックに直接接続するように設計され、ホスト コンピュータを介さずに管理機能を実行します。

- SANの可用性とパフォーマンスを最適化

Storage Management Applianceは、戦略的にSANのデータ パスの外に置かれることで、動作中かどうかにかかわらず、コンピュータとストレージ システム間を独立してデータ転送することを可能にします。Storage Management Applianceは、SANの管理効率を向上させつつSANの可用性とパフォーマンスを最適化します。

- ストレージ管理用のWebベースのインタフェース

Storage Management Applianceに付属のHP OpenView Storage Management Applianceソフトウェアは、集中ストレージ管理のためのWebベースの集約およびエントリ ポイントを提供します。この直感的なインタフェースによって、ユーザは、SAN上の単一のナビゲーション ポイントから、ストレージを構成、設定、映像化、および監視することができます。Storage Management Applianceソフトウェアは、さまざまな付加価値HPストレージ管理アプリケーションの起動サイトを提供し、SAN上のストレージ コンポーネントを直接管理するためのナビゲーション リンクも提供します。

- エlement マネージャ（HSG用）

この使いやすい、グラフィカルなストレージ コンフィギュレーションおよび監視ツールは、ネットワークおよびマルチベンダ プラットフォーム間のストレージ管理を集中化します。HP OpenView Storage Management Applianceに付属のエlement マネージャ（HSG用）は、ストレージ管理作業を削減し、スイッチ ファイバ チャネルSAN間ではポイント アンド クリックだけの作業で済むようにします。この製品は、MIBイベント ログ付きのSNMPエージェントを介した、フィールド交換可能ユニット（FRU）レベルの障害検出および通知とともに、HP StorageWorks HSG80/60ストレージ システムの簡単な設定を提供します。この新しいバージョンでは、Storage Networking Industry AssociationのStorage Management Initiative Specification（SMI-S）のプロバイダを発表し、エンタープライズ ネットワーク ストレージ インフラストラクチャ内でより強力なマルチベンダ管理を可能にします。

HP OpenView Storage Management Applianceは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/sanworks/managementappliance/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

HP OpenView Storage Operations Managerの概要

HP OpenView Storage Operations Managerは、広範で効率的なEVAおよびSAN管理ソリューションで、HP OpenView Storage Area ManagerスイートからCommand View EVAとStorage Node Managerの能力を結合して1つにしたものです。Storage Operations Managerは、単一のSANや分散異機種インプリメンテーション間でHP StorageWorks EVAを識別、設定、監視、および管理します。また、そのシステム検出技術は、中央コンソールから、ネットワーク ストレージ（SANおよびNAS）、直接接続ストレージ、およびそれらのインフラストラクチャを含む、他の異機種ストレージ システムを自動的に識別および視覚的に監視します。Storage Operations Managerソリューションによって、HP OpenView Storage Area Manager（SAM）の基盤と中核サービスがインストールされ、管理者が、簡単にソリューションを拡張して、EVA、ディスク、テープ、直接接続、およびネットワーク ストレージ インフラストラクチャに

対するパフォーマンス管理、使用率、コスト、および拡張管理をオプションとして含めることができます。HP OpenView SAMソフトウェアは、リソース使用率を最適化し、管理者の効率を向上し、管理対象ストレージの維持管理費を削減します。

HP OpenView Storage Operations Managerは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/storage/software/som/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

Process Resource Managerの概要

HPのProcess Resource Manager（PRM）を使用すると、システム管理者は、ビジネスが必要としているところに適切な量のシステム リソースを正確に集中させることができます。この強力なリソース管理ツールは、HP UNIXオペレーティング システム（HP-UX）への追加機能として動作します。PRMが有効になっていると、ユーザまたはアプリケーションのグループに対して、システムのCPUの総処理時間、利用可能な実メモリ リソース、および論理ボリューム管理（LVM）システムへのディスク帯域幅の指定された分量の割り当てが保証されます。

PRMは、システム負荷のピーク時（CPU使用率、メモリ使用率、またはディスク帯域幅使用率が100%の状態）に各プロセスが使用するリソースの量を制御するためのリソース管理ツールです。PRMを使用すると、プロセス グループで利用できるシステム リソースの割り当てが、PRMグループの使用を通じて一定の下限值以上に維持されます。

PRMグループとはユーザとアプリケーションの集まりのことであり、各PRMグループには特定量のCPU、メモリ、およびディスク帯域幅が割り当てられます。PRMグループにはFSS PRMグループとPSET PRMグループの2種類があります。FSS PRMグループは従来のPRMグループであり、そのCPU使用権はシェアで指定されます。このグループは、システムのデフォルト プロセッサセット（PSET）内でHP-UXカーネルに組み込まれたフェアシェアスケジューラ（FSS）を使用します。一方、PSET PRMグループのCPU使用権は、システム プロセッサのサブセット（PSET）を割り当てることで指定されます。PSET内の各プロセスには、HP-UX標準のスケジューラを通じて、割り当てられたCPUのCPU時間が均等に割り当てられます。

PRMを使用する目的

- クリティカル ユーザおよびアプリケーションの応答時間を改善する。
- ユーザが期待するパフォーマンスを設定し、管理する。
- 費用負担に基づいて共有サーバを割り当てる。
- Serviceguardクラスタのアプリケーション パッケージに対し、フェールオーバーの発生時にアクティブになる待機システム上に十分なリソースを保証する。
- クリティカル ユーザまたはアプリケーションに、十分なCPU、メモリ、およびディスク帯域幅のリソースを確実に割り当てる。

クリティカル アプリケーションを実行することもあるユーザは、別のときに、さほど重要でない作業に従事していることもあります。これらのさほど重要でない作業が、ユーザのPRMグループ内で、使用可能なCPU時間や実メモリに関してクリティカル アプリケーションと競合する可能性があります。このような理由から、アプリケーションを異なるPRMグループに分けるか、ユーザ用に別のグループを作成することが有益な場合がよくあります。

クリティカル アプリケーションを専用のPRMグループに割り当てて、このアプリケーションがリソースを必要な分だけ確実に得られるようにすることができます。

- 負荷の高い時間帯には、優先順位の比較的低いユーザやアプリケーションが使用するCPU、実メモリ、およびディスク帯域幅の各リソースの量を制限する。

たとえば、ユーザが出社して仕事を始めるときや昼食から戻ったときにメール プログラムがディスク帯域幅を大量に専有する場合があります。したがって、mailのようなアプリケーションをリソース割り当ての小さいPRMグループに割り当てて、システムの負荷の高い時間帯にmailが使用するリソースの量を制限することができます。

- ユーザまたはアプリケーションごとにリソース使用量を監視する。

ユーザまたはアプリケーションのグループをそれぞれ別のPRMグループに割り当てることによって、ユーザまたはアプリケーションが使用しているリソースをトラッキングできます。

HP Systems Insight ManagerからのProcess Resource Managerへのアクセス

[最適化]>[**Process Resource Manager**]を選択します。次の3つのオプションを使用できます。

- Process Resource Managerコンソール
- リソース使用状況の表示
- リソース アベイラビリティのリスト
- GUIからのPRMの起動

PRMの詳細については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/prm>（英語）を参照してください。

HP ProLiant Essentialsアプリケーション

HP ProLiant Essentialsには、ProLiantサーバの管理を補助するソフトウェアが含まれています。ここに列挙したアプリケーションは、HP Systems Insight Managerのパートナー アプリケーションと考えられ、いずれもHP Systems Insight Managerのインストールで自動的に使用可能になるか、HPのWebサイトからダウンロードすることができます。

関連トピック

- HP ProLiant Essentials Automation Managerの概要
- PMPツール
- ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Packの概要
- アレイ コンフィギュレーション ユーティリティの概要
- Virtual Machine Management Pack
- Server Migration Pack
- 管理プロセッサ ツール
- HP OpenView Storage Area Managementの概要
- HP OpenView Storage Data Protectorの概要
- HP OpenView Storage Management Applianceの概要
- HP OpenView Storage Operations Managerの概要

- Web JetAdminの概要
- HP Client Managerの概要

アレイ コンフィギュレーション ユーティリティの概要

Smartアレイ コントローラ用のアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ (ACU) ソフトウェアとStorageWorks Enclosure 4x00ファミリ製品を使用すると、ディスク ドライブ アレイの設定と拡張を簡単に行うことができます。この使いやすいWebベース ツールでは、設定ウィザードによってアレイ コントローラのセットアップを行い、数分で使用可能な状態にすることができます。また、ACUは機能が豊富であり、ローカルまたはリモートでのアレイ コントローラの設定、既存の構成へのディスク ドライブの追加、ディスク ドライブ アレイの完全な再構成といった、多くの機能を備えています。さらに、オンライン容量拡張、論理ドライブ容量拡大、RAIDレベル移行などの革新的な機能により、ストレージ ニーズの変化に合わせてアレイの構成や設定を変更することができます。

HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティは、[システム ページ]の[ツール&リンク] タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18000.www1.hp.com/products/servers/proliantstorage/software-management/acumatrix/index.html> (英語) を参照してください。

HP ProLiant Essentials Automation Managerの概要

HP ProLiant Essentials Automation Managerは、ウィザードを使用したプロビジョニングおよびインストール プロセスを使用して、HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerのポリシーベースのエンド ツー エンド プロビジョニングを可能にします。また、ユーザの構築したポリシーを使用して自動サーバ ブレード リカバリを可能にします。

HP ProLiant Essentials Automation Managerは、HP Systems Insight ManagerのHP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerと統合します。これによって、HPブレード、スイッチ、エンクロージャ、およびラックを含む、すべてのHPブレード コンポーネントを管理するための統合されたビューが提供されます。また、HP ProLiant Essentials Automation Managerは、HP ProLiant Essentials Rapid Deployment Pack - Windows Editionとも統合します。これによって、HPとAltiris社のソフトウェアが組み合わせられ、サーバ ソフトウェアのインストールとプロビジョニングが自動化されます。

HP ProLiant Essentials Automation ManagerとHP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerは、使いやすいインストールとメンテナンスを可能にするHP Systems Insight Manager 4.2および5.0に対するプラグイン製品です。これらの製品は、HP Systems Insight Manager 中央管理サーバ上にインストールされ実行されます。

HP ProLiant Essentials Automation Managerには、次の機能があります。

- グループ メンバシップに基づいた自動インストールによるエンド ツー エンド プロビジョニング
- 収集に基づいた自動プロビジョニング
- 障害通知に基づいたサーバ復元

インストールされたら、以下を選択することによって、HP Systems Insight Manager内でHP ProLiant Essentials Automation Managerが使用可能になります。

- [ツール]>**Automation and Options>Automation Settings>Manage Automation。**

または

- [ツール]>**Automation and Options>Automation Settings>Pending Automation Actions。**

詳細については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/proliantessentials/automation>（英語）にある『HP ProLiant Essentials Automation Manager』および『[HP ProLiant Essentials Automation Manager Management Guide](#)』を参照してください。

関連トピック

- パートナー アプリケーション
- HP BladeSystemの概要

HP BladeSystemの概要

HPは、HP BladeSystem Integrated ManagerをHP Systems Insight Manager内のコンポーネントとして配布し、効率のよい管理アクセスをHP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerに提供します。HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerは、ブレード コンピュータ ノード、データおよびストレージ ネットワークへの統合接続、ならびに共有電源サブシステムで構成されます。HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager統合管理環境を使用すると、ユーザは、ご使用のHPブレード環境（ブレード サーバ/デスクトップ、エンクロージャ インフラストラクチャ、ラック、統合スイッチなど）を階層型ツリー ビューによって素早く操作することができます。これにより、個々のブレード システムまたはブレード システム グループを簡単に設定し、展開し、管理することができます。また、ブレード システムの論理グループを迅速にセットアップし、簡単な管理と制御を実現することができます。さらに、HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager統合管理環境は、ProLiant Essential Value PackやHP Systems Insight Managerへのサードパーティ製プラグインを含む、拡張するHP Systems Insight Manager環境内でシームレスに動作します。HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerのバージョン 2.0は、HP Systems Insight Manager5.0に自動的にインストールされます。HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerは、自動生成される対話式的ブレード システム ラック ビューなど、ブレードを管理するためのHP Systems Insight Managerの最新の先端機能に基づいています。

HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Managerは、[ツール]>[内蔵コンソール]>[**HP BladeSystem**]を選択してアクセスすることができます。

詳細については、HPのWebサイト
<http://h18004.www1.hp.com/products/servers/management/bsme/index.html>（英語）または『[HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager Management Guide](#)』を参照してください。

HP Client Managerの概要

HP Client Managerは、以下を提供するすべてのHPクライアント管理ソリューションの基盤です。

- Altiris社提供の他のHPクライアント管理ソリューション用のインフラストラクチャ、データ レポジトリ、およびWebベースのコンソール

- 高いソフトウェア生産性を実現する、タスクベースのユーザ インタフェース、優れた QuickStart画面、効率のよいセットアップおよびインストール
- HPビジネス デスクトップ、ノートブック、ワークステーションのサポート
- HP Systems Insight Managerコンソールからのクライアント ハードウェア管理のためのHP Systems Insight Managerとの統合
- 電源がオフの場合でもHPのPCをリモートで管理するためのWake on LAN (WOL) を設定可能
- HPおよびCompaqクライアントに対する、スケーラブルなWebベースのハードウェアおよびBIOS管理
- コンポーネント レベルまでの完全なハードウェア インベントリ
- ハードウェア変更通知
- クライアント ヘルス監視および事前予防診断
- 更新管理 (インテリジェントsoftpaq配布/BIOSフラッシュ)

HP Client Managerは、[ツール]>内蔵コンソール **HP Client Manager Console** のHP Systems Insight Managerからダウンロードし、インストールすることで使用可能になります。

詳細については、HPのWebサイトhttp://h18000.www1.hp.com/im/client_mgr.html (英語) にある資料を参照してください。

ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Packの概要

HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Packを使用して、ソフトウェアのセキュリティの脆弱性を利用するハッカー、ワーム、およびトロイの木馬を抑え、HP Systems Insight Managerに統合されている、必要な機能をすべて備えた脆弱性評価およびパッチ管理ツールです。サーバの可用性に影響を及ぼす可能性のある問題の予防的識別と解決を簡素化して、中央の単一コンソールに統合します。

Vulnerability and Patch Management Packは、幅広い脆弱性評価と脆弱性の改善を促進する高度なパッチ管理機能を実現し、悪用のリスクを低減します。

Vulnerability and Patch Management Packは、システム テーブル ビュー ページの**VPM**の列から入手することができます。詳細については、「システム テーブル ビュー ページのナビゲート」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/proliantessentials/vpm> (英語) にある資料を参照してください。

HP Virtual Server Environmentの概要

HP Virtual Server Environmentは、サーバ環境の機能と柔軟性を向上させる、完全に統合された補完的なコンポーネントを数多く網羅しています。

主要なHP Virtual Server Environmentアプリケーションは、次のとおりです。

- **HP-UX Workload Manager (HP-UX WLM)** HPのWorkload Manager製品は、インテリジェント ポリシー エンジンで、仮想サーバリソースをとりまとめ、高いサーバ利用率を保ちつつ、最も優先順位の高いアプリケーションがピーク時に必要なリソースに確実にアクセスできるようにします。HP-UX Workload Managerは、HP-UX 11iに対して使用可能です。
- **HP Global Workload Manager (HP gWLM)** HP Global Workload Manager (gWLM) は、マルチシステム、マルチOSのWorkload Managerで、HP Virtual Server Environment用のインテリジェント ポリシー エンジンとして機能します。複数のHP-UX 11iまたはLinuxサーバ間で自動負荷管理ポリシーの配備を簡素化し、集中監視およびレポートを提供してサーバの利用率を向上させ、サービスレベルを維持します。HP Global Workload Managerは、HP-UX 11iとLinuxに対して使用可能です。
- **HP Systems Insight Manager (HP Systems Insight Manager)** HP Systems Insight Managerは、Insightマネージャ7、HP Tootools、およびHP Servicecontrol Managerの長所を組み合わせることによって、すべてのHPシステムに対してハードウェア障害、資産、および構成の管理を実現します。HP Systems Insight Managerは、拡張が簡単で、高速なインストール、負荷に対するパフォーマンス管理、およびIntegrityおよびHP 9000システムに対するパーティション管理を実現します。

詳細については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/vse>（英語）にある『HP Virtual Server Environment』（英語）にある資料を参照してください。

Web JetAdminの概要

HP Web Jetadminは、各種HPおよびHP以外のネットワーク周辺機器を標準のWebブラウザのみを使ってリモートでインストール、設定、および管理するための簡単な周辺機器管理ソフトウェアです。問題がユーザの生産性に影響を与える前に、その問題を事前に解決するために使用することができます。

HP Web Jetadminは、[ツール]->[内蔵コンソール]->[WebJet Admin]のHP Systems Insight Managerからダウンロードし、登録することで使用可能になります。

詳細については、HPのWebサイト
http://h10010.www1.hp.com/wwpc/pscmisc/vac/us/en/sm/network_software/wjareport_overview.html
（英語）にある資料を参照してください。

HP Storage Essentialsの概要

HP Storage Essentialsは、付加価値プラグインのスイートで、SAN管理、ストレージ リソース管理、プロビジョニング、およびアプリケーションインフラストラクチャ監視を含む、高度な異機種ストレージ管理機能を提供します。HP Storage Essentialsには、中核製品と、以下のモジュールが含まれています。

- **Enterprise Edition**。オープン異機種SAN管理用のメイン コンソール
注記： Enterprise Editionは、他のモジュールにアクセスするために必要です。
- **Provisioning Manager**。異機種ホスト-アレイ パス プロビジョニング ウィザード
- **Chargeback Manager**。資産ベースの配賦管理。多段階割当。
- **Oracle Viewer**。Oracleデータベースの可用性とパフォーマンスの表示。

- **Exchange Viewer**。Exchangeデータベースの可用性とパフォーマンスの表示。
- **Sybase Viewer**。Sybaseデータベースの可用性とパフォーマンスの表示。
- **File System Viewer**。ファイル システム監視 - 無駄なスペースの再利用
- **Global Reporter**。複数のHP Storage Essentials Serverインスタンスのロールアップ レポート
- **Report Designer**。ストレージ インフラストラクチャについてのお客様のレポートを開発

Storage Essentialsは、J2EE、SMI-S、WBEM、WMIなどの最新の業界標準を使用します。これによって、ストレージ管理インフラストラクチャが拡張可能であり、HPの技術とサードパーティの技術の両方をサポートすることが保証され、したがって、ニーズに合った技術を使用するとともに特定ベンダーに囲い込まれることを防ぐことができます。

HP Storage Essentialsは、HP Systems Insight Managerで、**[ツール]**、**[展開]**、**[診断]**、**[最適化診断]**、**[レポート]**、**[タスク&ログ]**、**[オプション]**メニューから使用可能です。このメニュー項目の詳細については、HP Storage Essentialsのマニュアルを参照してください。

HP Storage EssentialsがインストールされたときにHP Systems Insight Managerで生じる変更内容については、「HP Storage Essentialsがインストールされている場合のHP Systems Insight Managerストレージ機能の変化」を参照してください。

関連トピック

- HP StorageWorks EVAの概要
- HP StorageWorks Command View SDMの概要
- HP StorageWorks Command View Tape Libraryの概要
- HP StorageWorks Command View XPの概要
- HP StorageWorks Command View XP Advanced Editionの概要
- HP StorageWorks Modular Storage Array 1000の概要

HP StorageWorks Command View XPの概要

HP StorageWorks Command View XPは、XPディスク アレイのWebベースの集中管理を提供します。この製品は、グローバルなチーム メンバでの共同作業を可能にすることで、遠隔地に移動する必要をなくし、管理者の効率を向上させます。

グラフィカル マッピングおよびファイバチャネル診断機能によって、HPストレージのパフォーマンスの支障になる状態を早期に警告し、データが常に使用可能であることを確実にします。さらに、Command Viewには、SNMPスクリプトが含まれており、主要なネットワーク管理フレームワークへの統合が容易になっています。

HP StorageWorks Command View XPは、**[システム ページ]**の**[ツール&リンク]**タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。**[システム ページ]**へのアクセスについては、「**ツール&リンク タブ**」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

http://www.hp.com/products1/storage/products/disk_arrays/xpstoragesw/commandview/index.html
(英語)にある資料を参照してください。

HP StorageWorks Command View XP Advanced Editionの概要

HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition for XP disk arraysは、Command View XPの最高の機能と、ウィザードベースの使いやすいモジュールを組み合わせたものです。この製品は、Storage Essentialsなどのより高レベルの管理ユーティリティにシームレスに統合します。また、XPディスク アレイを集中的に管理、設定、提供、監視することができます。

HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition for XP disk arraysは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

HP StorageWorks Command View SDMの概要

HP StorageWorks Command View SDMは、付加価値ソフトウェア ソリューションが起動できる共通のユーザインタフェースを介した集中管理プラットフォームとして機能します。Command Viewのスケラビリティは、単一のアレイから複数のアレイまですべて単一の管理コンソールから管理できる範囲にわたっています。Command View SDMでは、お客様は、GUI、CLI、Webブラウザの中からユーザ インタフェースを選択することができます。Command View SDMには、ネットワーク管理フレームワークへのイベント/トラップ通知機能があり、管理対象のストレージ環境におけるあらゆる変更内容をネットワーク管理者が認識することができます。また、お客様は、HP Systems Insight Managerとリンクし、ストレージ環境およびサーバ環境の最初の統合を実現することができます。Command View SDMは、台頭しつつあるSMI-Sストレージ標準をサポートし、基本的な管理機能の手動統合を実現します。

Command Viewは、より高度な管理フレームワーク（SAN管理用のOpenView Storage Area Manager、OpenView Network Node Manager、CA Unicenter TNG、BMC Patrol、Tivoli NetViewなど）と統合されてきました。これらの統合によって、HPストレージデバイスをお客様のネットワーク管理コンソールから管理できることで、ネットワーク管理者の地位が向上します。

HP StorageWorks Command View SDMは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

http://www.hp.com/products1/storage/products/disk_arrays/modular/commandview/index.html（英語）にある資料を参照してください。

HP StorageWorks Command View Tape Libraryの概要

HP StorageWorks Command View Tape Library Softwareは、HP Extended Tape Library Architecture（ETLA）の新たな段階を示す製品であり、HP Adaptive Infrastructure戦略の主要コンポーネントです。このソフトウェアは、「自己対応」（自動管理、自動メンテナンス、継続的可用性）と「ネットワーク対応」（耐障害性、安全性、適合性）の機能をもつテープライブラリを提供します。HPテープ ライブラリは、エンタープライズSAN環境に必要な信頼性、相互運用性、および高機能性を備えています。

HP StorageWorks Command View Tape Library Softwareは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/storageworks/tlarchitecture/index.html>（英語）を参照してください。

HP StorageWorks EVAの概要

HP StorageWorks Command View EVA v4.0は、広範なソフトウェア スイートで、パフォーマンスが高いHP StorageWorks Enterprise Virtual Array（EVA）ファミリのストレージ アレイ製品を簡素化、強化、および最大限に活用するように設計されています。

Command View EVAは、HP StorageWorks Enterprise Virtual Arrayのユーザを補完し、シンプルさを妥協なく提供します。この製品は、ストレージ管理者に、すべてのEnterprise Virtual Array 管理要件に対する単一のストレージ管理ソリューションを提供します。ストレージ管理を自動化および集約するので、考慮を必要とする手順が少なくなり、管理する上での作業も少なくなります。容量の拡張も簡単です。アプリケーションのダウンタイムなしで変化するビジネス要件に迅速に対応するために、LUNを簡単かつ動的に拡張でき、物理ドライブをオンラインで追加することができます。論理ユニット番号(LUN) およびRAIDグループの簡単で高速な設定を提供。ミッション クリティカルなアプリケーションには、HPインスタント サポート エンタープライズ エディションおよびHPソリューションのサポートを使用して事前予防リモート サービスを活用し、継続的なEVA稼動時間を確実にすることができます。

HP StorageWorks Command View EVAは、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/storage/software/cmdvieweva/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

HP StorageWorks Modular Storage Array 1000の概要

The HP StorageWorks Modular Smart Array 1000（MSA1000）は、エントリ レベルからミッドレンジ向けのストレージ エリア ネットワーク（SAN）用の2Gbファイバ チャネル ストレージシステムです。SAN配備の複雑さとリスクを軽減するように設計されています。この強力ながら使いやすい管理ソフトウェアは、部門および遠隔地のSANに理想的です。2つのドライブ エンクロージャと新しい300GBのドライブを追加することで、最大42台のドライブを制御し、12TBの容量を実現できます。すべての設定、管理、パーティション分割とライセンス付与ソフトウェアは、無償で標準装備されます。

HP固有のオプションの内蔵8ポートSANスイッチまたは3ポート ハブは、SAN環境を構築する費用対効果の高いスペースをとらない方法を提供します。MSA1000は、Windows（32ビットおよび64ビット）、NetWare、Linux（32ビットおよび64ビット）の各オペレーティングシステムをサポートします。また、Tru64 UNIX、OpenVMS、HP-UXの各オペレーティングシステムもサポートします。

HP StorageWorks Modular Smart Array 1000は、[システム ページ]の[ツール&リンク]タブからHP Systems Insight Managerを介して入手することができます。[システム ページ]へのアクセスについては、「ツール&リンク タブ」を参照してください。

詳細については、HPのWebサイト

<http://h18006.www1.hp.com/products/storageworks/msa1000/index.html>（英語）にある資料を参照してください。

レポート機能

ProLiant Essentials Performance Management Packレポート機能

PMPレポートは、Windowsシステム上のHP Systems Insight Managerによって利用できます。詳細については、「PMPレポートのオプション」を参照してください。

システム情報レポート オプションを表示するには、次のように操作します。

[レポート]->[Performance Management Packレポート]->[静的分析レポート]を選択します。

システム情報レポート機能

HP Systems Insight Managerのシステム情報レポート機能では、レポートを生成できます。レポートの生成に加えて、ユーザ定義レポート構成を作成したり、レポート構成の編集、コピー、削除を行ったりすることができます。HP Systems Insight Managerにアクセスできるすべてのユーザがレポートを生成できます。

システム情報レポート機能では、次のオプションを使用できます。

- レポートの管理。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。
- レポートの実行。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。実行するレポートを選択します。レポートのフォーマットを、**HTML**、**XML**、または**CSV**から選択します。レポートの実行をクリックします。
- 新しいレポートの作成。 [レポート]->[新規レポート]を選択します。[新規レポート]ウィンドウが表示されます。
- [レポートの管理]ページを使用した新規レポートの作成。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。新規をクリックします。[新規レポート]セクションが表示されます。
- レポートの編集。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。編集するレポートを選択して、編集をクリックします。[レポートの編集]セクションが表示されます。
- レポートのコピー。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。コピーするレポートを選択して、コピーをクリックします。[レポートのコピー]セクションが表示されます。
- **HTML**フォーマットによるレポートの実行。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。HTMLフォーマットで実行するレポートを選択して、[**HTML**]->[レポートの実行]を選択します。
- **XML**フォーマットによるレポートの実行。 [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。XMLフォーマットで実行するレポートを選択して、[**XML**]->[レポートの実行]を選択します。

- **CSVフォーマットによるレポートの実行とダウンロード。** [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。CSV（Comma Separated Value）フォーマットで実行またはダウンロードするレポートを選択して、[CSV]->[レポートの実行]を選択します。
- **SQLクエリの表示。** [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。SQLの詳細情報を表示するレポートを選択して[レポートの実行]->[SQLクエリの表示]を選択します。
- **レポートの削除。** [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。削除するレポートを選択して、削除をクリックします。

スナップショット比較。

スナップショット比較によって、最大4つのシステム（同じオペレーティング システム）を相互に比較したり、単一のシステムをそれ自体と比較して時間の経過による変化を調べたりすることができます。詳細については、「スナップショット比較レポート」を参照してください。

スナップショット比較機能では、次のオプションを使用できます。

スナップショット比較を表示するには、[レポート]->[スナップショットの比較]を選択します。[スナップショットの比較]ウィンドウが表示されます。ターゲット システムを選択し、次へをクリックします。

関連プロシージャ

- システム レポート
- レポートの追加
- レポートの編集
- レポートのコピー
- スナップショット比較レポート
- PMPレポートのオプション

関連トピック

- システム ライセンス情報レポート
- クラスタ収集レポートの印刷
- イベント収集レポートの印刷
- レポートの印刷
- リファレンス情報
- レポート ビュー
- ユーザおよびユーザ グループ レポート
- ツールボックス レポート
- 認証レポート

システム レポート

生成されるレポートには、以下が表示されます。

- レポート名
- 関連するシステム収集

注記:



レポートを実行するために選択した収集がない場合は表示されません。

● レポート実行日時

レポートは、次のフォーマットで実行できます。

- **HTML**（表示に推奨）。HTMLフォーマットでレポートが表示されます。
 - **XML**。XMLフォーマットでレポートが表示されます。
 - **CSV**。CSVフォーマットでレポートが表示されます。
-

注記:



デフォルトでは、[システム名]に基づいて並べ替えられます。

注記:



昇順か降順で並べ替えるには、カラム見出しをクリックします。

注記:



HP Systems Insight Managerホームページの[管理]セクションで[インベントリ レポートの管理]リンクをクリックして、[レポートの管理]ページにアクセスすることもできます。

HTMLフォーマットによる既存のレポートの実行

レポートの表示には、HTMLフォーマットを使用することをおすすめします。

HTMLフォーマットでレポートを実行するには、次のように操作します。

1. [レポート]>[レポートの管理].
2. 表示するレポートを選択します。

3. [レポートを生成するフォーマット]で、**[HTML（参照時の推奨）]**を選択します。
4. レポートの実行をクリックします。レポートが表示されます。

HTMLレポートでは、**[SQLクエリの実行]**を実行できます。詳細については、「SQLの実行」を参照してください。

並べ替え順序の選択

レポート機能を使うと[レポート結果]ページに表示されたデータの並べ替えができます。

- 昇順の並べ替え 並べ替える列見出しを1回クリックします。データは、アルファベットの昇順で並べ替えられます。
- 降順の並べ替え 並べ替える列見出しを2回クリックします。データは、アルファベットの降順で並べ替えられます。

XMLフォーマットによる既存のレポートの表示

1. [レポート名]で、表示するレポートを選択します。
2. [レポートを生成するフォーマット]で、**[XML]**を選択します。
3. レポートの実行をクリックします。XMLレポートが表示されます。

CSVフォーマットによる既存のレポートの表示

1. [レポート]>[レポートの管理]
2. [レポート名]で、表示するレポートを選択します。
3. [レポートを生成するフォーマット]で、**[CSV]**を選択します。
4. レポートの実行をクリックします。ブラウザシステムに、CSVファイルに関連付けられたアプリケーションがない場合、CSVファイルはブラウザウィンドウに表示されます。ブラウザシステムに、CSVファイルに関連付けられたアプリケーションがある場合、CSVファイルは指定したアプリケーションで表示されます。

Excelなどのアプリケーションがインストールされ、CSVファイルの拡張子はそのアプリケーションに関連付けられているブラウザシステムで、Internet Explorerを使用する場合は、**[名前を付けて保存]**ダイアログボックスが表示されます。保存をクリックします。

5. ファイル名を入力し、**[ファイルの種類]**フィールドのドロップダウン リストから、ファイルを保存するフォーマットを選択します。保存をクリックします。

ファイルが保存されます。

既存レポートの印刷

[レポート結果]ページで、ブラウザから**[ファイル]>[印刷]**を選択します。

コマンド ライン インタフェース

このタスクをコマンド ライン インタフェース (CLI) から実行するには、**mxreport** コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに **man mxreport** と入力して HP-UX または Linux のマンページを参照してください。コマンドとマンページのリンクの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- レポートの追加
- レポートの編集
- レポートのコピー

関連トピック

- レポート機能

レポートの追加

レポート設定を保存して後で使用したり、1 回限りのレポートを生成したりすることができます。

注記:



レポート設定は、指定した基準でデータベーステーブルからデータを取得し、指定したフォーマットでレポートに入れるユーザ定義の優先設定です。レポート設定を保存すると、後日、そのレポート設定を使用して稼動データからレポートを生成できます。



レポート設定の作成、保存、編集、コピー、削除を行うには、完全または制限付き設定権が必要です。また、ライセンス キーの表示にも、完全な設定権が必要です。設定権がないユーザは、認証されたレポート設定の実行だけが可能となります。

[レポート]>[レポートの管理]>[新規]を選択し、新しいレポートを作成することもできます。

完全な設定権があるユーザ1が、レポートとプライベート収集を生成した場合、完全な設定権があるユーザ2は、ユーザ1が作成したレポート設定とプライベート収集を使用してレポートを生成できます。ユーザ2は、レポート設定の編集、保存、コピー、削除を実行できますが、ユーザ1が作成したプライベート収集を削除することはできません。

新しいレポートの追加

1. [レポート]>[新規レポート]を選択します。[新規レポート]ウィンドウが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。

3. 次へをクリックします。[パラメータの指定]セクションが表示されます。
 - a. [レポート名]フィールドに、新しいレポートの名前を入力します。
 - b. [レポートに表示する項目の選択]セクションで、レポートに含めるすべてのカテゴリか項目を選択します。 アイコンをクリックしてカテゴリを展開し特定の項目を選択したり、 アイコンをクリックしてカテゴリを折りたたむことができます。
 - c. レポートに組み込む項目をすべて選択したら、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - [すべてのシステムを同じテーブルに表示] このオプションでは、[レポートに表示する項目の選択]セクションで選択したすべてのカテゴリと項目がレポートに表示されます。選択したカテゴリはテーブルとして表示され、選択したデータ項目はレポートの列見出しとして表示されます。すべてのシステムは同じテーブルで表示されます。
 - [各システムを別のテーブルに表示] このオプションでは、[レポートに表示する項目の選択]セクションで選択したすべてのカテゴリと項目がレポートに表示されます。選択したカテゴリはテーブルとして表示され、選択したすべてのデータ項目は列見出しとして表示されます。それぞれのシステムは、それぞれのテーブルで表示されます。
4. [レポートを生成するフォーマット]で、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **HTML**（表示に推奨）。HTMLフォーマットでレポートが表示されます。
 - **XML**。XMLフォーマットでレポートが表示されます。
 - **CSV**。CSVフォーマットでレポートが表示されます。
5. レポート設定を保存するには、レポートの保存をクリックします。レポートがすでに存在する場合は、[レポートの上書き]メッセージが表示されます。既存のレポートを上書きしない場合は、キャンセルをクリックします。
6. レポートの実行をクリックします。

新しいレポートが表示され、以下の機能を使用できるようになります。

 - SQLクエリの表示。

並べ替え順序の選択

レポート機能を使うと[レポートの結果]ページに表示するデータの並べ替えができます。

- **昇順の並べ替え** 並べ替える列見出しを1回クリックします。データは、アルファベットの昇順で並べ替えられます。
- **降順の並べ替え** 並べ替える列見出しを2回クリックします。データは、アルファベットの降順で並べ替えられます。

レポートの印刷

[レポート結果]ページで、ブラウザから[ファイル]->[印刷]を選択します。

コマンド ライン インタフェース

このタスクをコマンド ライン インタフェース (CLI) から実行するには、**mxreport**コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに**man mxreport**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを参照してください。コマンドとマニュアルページのリンクの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム レポート
- レポートの編集
- レポートのコピー

関連トピック

- レポート機能

レポートの編集

HP Systems Insight Managerでは、既存のレポート設定の編集ができます。更新したレポート設定は、既存レポート設定に上書き保存したり、新しいレポート設定として保存したりすることができます。

注記:





レポート設定の作成、保存、編集、コピー、削除を行うには、完全な設定権が制限付きの設定権が必要です。また、ライセンス キーの表示にも、完全な設定権が必要です。設定権がないユーザは、レポート設定の編集はできません。

HP Systems Insight Managerホーム ページの[管理]セクションから[インベントリ レポートの管理]リンクをクリックすると、[レポートの管理]ページにアクセスすることもできます。

既存レポートを編集するには、次のように操作します。

1. [レポート]->[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。
2. 編集するレポートを選択し、編集をクリックします。[レポートの編集]セクションが表示されます。
3. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
4. 次へをクリックします。[パラメータの指定]セクションが表示されます。

- a. **【レポートに表示する項目の選択】**セクションで、レポートに含めるすべてのカテゴリが項目を選択します。アイコンをクリックしてカテゴリを展開し特定の項目を選択したり、アイコンをクリックしてカテゴリを折りたたむことができます。
- b. レポートに組み込む項目をすべて選択したら、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - **【すべてのシステムを同じテーブルに表示】** このオプションでは、**【レポートに表示する項目の選択】**セクションで選択したすべてのカテゴリと項目がレポートに表示されます。選択したカテゴリはテーブルとして表示され、選択したデータ項目はレポートの列見出しとして表示されます。すべてのシステムは同じテーブルで表示されます。
 - **【各システムを別のテーブルに表示】** このオプションでは、**【レポートに表示する項目の選択】**セクションで選択したすべてのカテゴリと項目がレポートに表示されます。選択したカテゴリはテーブルとして表示され、選択したすべてのデータ項目は列見出しとして表示されます。それぞれのシステムは、それぞれのテーブルで表示されます。
5. **【レポートの生成を実行するフォーマット（フォーマットはレポートに保存されません）:】**で、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **HTML**（表示に推奨）。HTMLフォーマットでレポートが表示されます。
 - **XML**。XMLフォーマットでレポートが表示されます。
 - **CSV**。CSVフォーマットでレポートが表示されます。
6. 既存レポート設定に上書き保存するには、レポートの保存をクリックします。
 注記：既存のレポートを新たな名前を付けて保存するには、**【レポート名】**フィールドに新しいレポート名を入力し、レポートの保存をクリックします。新たにレポートが保存され、**【レポートの管理】**ページのレポートのリストに名前が追加されます。
 レポートを保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。保存するには、**OK**をクリックします。中止するには、キャンセルをクリックします。レポートがすでに存在する場合は、**【レポートの上書き】**メッセージが表示されます。既存のレポートを上書きしない場合は、キャンセルをクリックします。
7. レポートを表示するには、レポートの実行をクリックします。ターゲット選択ページに戻るには、戻るをクリックします。レポート作成プロセスを中止するには、キャンセルをクリックします。

コマンド ライン インタフェース

このタスクをコマンド ライン インタフェース（CLI）から実行するには、**mxreport**コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに**man mxreport**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを参照してください。コマンドとマニュアルページのリンクの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- レポートの追加
- SQLの表示
- システム レポート

関連トピック

- レポート機能

レポートのコピー

HP Systems Insight Managerでは、既存のレポート設定からレポート設定をコピーできます。新たにコピーした設定を編集すると、新しいレポートを作成できます。

注記:



レポート設定をコピーするには、完全な設定権か制限付き設定権でHP Systems Insight Managerにログインする必要があります。完全な設定権か制限付き設定権でログインしないと、コピー操作を実行できません。

注記:



HP Systems Insight Managerホームページの[管理]セクションで[インベントリ レポートの管理]リンクをクリックして、[レポートの管理]ページにアクセスすることもできます。

レポート設定をコピーするには、次のように操作します。

1. [レポート]>[レポートの管理]を選択します。[レポートの管理]ウィンドウが表示されます。
2. コピーするレポートを選択し、コピーをクリックします。[レポートのコピー]セクションが表示されます。
3. [レポート名]フィールドに、新しいレポート設定の名前を入力します。
4. **OK**をクリックします。

[レポートのコピー]セクションが閉じ、コピーされたレポート設定が[レポートの管理]セクションに表示されます。

コマンド ライン インタフェース

このタスクをコマンド ライン インタフェース (CLI) から実行するには、**mxreport**コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに**man mxreport**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを参照してください。コマンドとマニュアルページのリンクの詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- システム レポート
- レポートの追加
- レポートの編集
- SQLの表示
- スナップショット比較レポート

関連トピック

- レポート機能

SQLの表示

レポートのSQL詳細を表示できます。**[SQLクエリ]**ページには、レポートを生成するために使用されたすべてのSQLクエリの詳細が表示されます。

SQLクエリを表示するには、次のように操作します。

1. **[レポート]>[レポートの管理]**を選択します。**[レポートの管理]**ウィンドウが表示されます。
2. SQL詳細情報を表示するレポートを選択します。
3. **[SQLクエリの表示]**リンクをクリックします。

[SQLクエリ]ページが表示されます。

関連プロシージャ

- システム レポート

関連トピック

- レポート機能

レポート ビュー

レポートは、次のデータベースビューを使用して、レポートを生成します。

データベース ビュー

HP Systems Insight Managerには、複数のデータベース ビューが組み込まれています。これらのビューは、HP Systems Insight Managerでのレポート生成に使用できます。使用できるビューは次のとおりです。

R_ArrayControllers	R_Batteries	R_CellularSysParComplex
R_CellularSysPartition	R_CellularSysParIOChassis	R_CPU
R_DIMMSlots	R_InstalledBoards	R_Inventory
R_lockdownStatus	R_LogicalDisks	R_NetworkInterface
R_OperatingSystem	R_PhysicalDisks	R_PowerSupply
R_Process	R_Racks	R_Software

R_deviceLicenseInfo	R_StorageDeviceInventory	R_StorageDeviceControllers
R_StorageHostBusAdapters	R_StoragePorts	R_StorageLogicalUnits
R_StorageDeviceCapacity	R_UnixOSDetails	R_UnixLogicalMemory
R_UnixIODevices	R_UnixIPRoute	R_HPUXFileSystem
R_HPUXVolumeGroup	R_HPUXLogicalVolume	R_HPUXLogicalVolume
R_HPUXNetworkDetails	R_HPUXKernelParam	R_HPUXSoftwareBundle
R_HPUXSoftwareProduct		

R_ArrayControllers

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
BoardName	ボード名
Model	コントローラ モデル
Version	コントローラの製品リビジョン番号
FirmwareRev	ボードのファームウェア リビジョン
SerialNumber	コントローラのシリアル番号
SlotNumber	システム内のスロット番号
SnapshotID	スナップショットID
Tag	タグ

R_Batteries

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
SerialNumber	シリアル番号
AssetNumber	資産タグ番号
SnapshotID	スナップショットID
Tag	タグ

R_CellularSysParComplex

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
ComplexName	複合体の名前
ComputeCabinets	複合したコンピュート キャビネット数
IOCabinets	複合したIOXキャビネット数
SnapshotID	スナップショットID

R_CellularSysPartition

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
PartitionName	パーティションの名前
IPAddress	IPアドレス
TotalCPUCore	パーティション内のCPUの数
InstalledCells	パーティションにインストールされたセルの数
PoweredonCells	パーティション内の電源の入っているセルの数
CoreCell	パーティション内のコア セルの cpqSeCellTablePtrのインデックス
CoreCellCabinet	キャビネット内のコア セルのcpqSeCellTablePtr のインデックス
HasInterleaveMemory	設定されている場合は、パーティション内に設 定されているインターリーブ メモリが存在す る
SnapshotID	スナップショットID

R_CellularSysParIOChassis

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
PartitionName	パーティションの名前
CabinetNumber	I/Oシャーシが属するキャビネット
IOBayNumber	キャビネット内の、I/Oシャーシが存在するベ イ
IOChassisNumber	ベイ全体で一意的I/Oシャーシ番号
SnapshotID	スナップショットID

R_CPU

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
CPUType	CPUのタイプ
CPU Speed	CPU速度
SlotNumber	システム内のスロット番号
SnapshotID	スナップショットID
FirmwareID	プロセッサ ファームウェアID
ProcessorLoad	プロセッサの負荷

カラム名	説明
ProcessorAllocated	プロセッサのステータス：1は割り当て済み、0は未割り当て
Location	64ビット インテル® プラットフォーム システムの位置（その他のシステムではすべて空白）
CellNumber	セル番号
ArchitectureRevision	アーキテクチャ リビジョン
FirmwareRevision	ファームウェア リビジョン
DataWidth	データ幅

R_DIMMSlots

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
FormFactor	インストールされているメモリ モジュールのタイプ
MemorySize	メモリ サイズ (KB)
PartNumber	メモリ モジュールの製造元製品番号
SerialNumber	メモリ モジュールのシリアル番号
SlotNumber	システム内のスロット番号
MemoryType	メモリ タイプ
MemoryTech	インストールされているメモリ モジュールの技術タイプ
Location	64ビット インテル® プラットフォーム システムの位置（その他のシステムではすべて空白）
SnapshotID	スナップショットID
LocationID	ロケーションID
Description	説明
BankLabel	バンク ラベル
Tag	タグ

R_InstalledBoards

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
BoardName	ボード名（PCI SCSIコントローラなど）
BoardModel	ボード モデル
BoardRevision	ボード リビジョン
BoardFirmware	ボード ファームウェア
BoardSerial	ボードのシリアル番号

カラム名	説明
Slot	システム内のスロット番号
SnapshotID	スナップショットID
Location	64ビット インテル®プラットフォーム システムの位置（その他のシステムではすべて空白）
Tag	タグ

R_Inventory

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
ProductName	製品名
ProductID	製品ID
MemorySize	メモリ サイズ
ROMVersion	ROMバージョン
SerialNumber	シリアル番号
AssetTag	資産タグ
OSName	オペレーティング システム名
IPAddress	IPアドレス
IPLongValue	10進IPアドレス
OSVendor	オペレーティング システム ベンダ
SnapshotID	スナップショットID
DeviceOwner	システムの所有者
Location	システムの位置
ProductType	システムのタイプ（サーバ、クライアント、ワークステーションなど）
DeviceStatus	システムのハードウェア ステータス
DeviceBootTime	システムのブート アップ時間
ProductSubType	製品サブタイプ
ProductTypeStr	製品タイプ
ServerRole	サーバの役割
IPXAddress	IPXアドレス

R_lockdownStatus

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
LastScanName	最後に実施された脆弱性スキャンの名前
LastScanDate	最後に実施された脆弱性スキャンの日付

カラム名	説明
LastVulChk	最後に実施されたスキャンで使用された脆弱性DATファイル
Critical	最後に実施されたスキャンで検出されたクリティカル レベルの脆弱性の数
Major	最後に実施されたスキャンで検出されたメジャー レベルの脆弱性の数
Minor	最後に実施されたスキャンで検出されたマイナー レベルの脆弱性の数
LPatchDate	最後のパッチ イベントの日時
PatchRqd	必要なパッチの数（総数）
PatchMiss	含まれていないパッチの数（総数）
Warning	最後に実施されたスキャンで検出された脆弱性警告の数
SnapshotID	スナップショットID

R_LogicalDisks

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
Description	どの論理ドライブか（c:[FAT]など）
SizeMB	論理ドライブのサイズ（MB）
UsedMB	使用済みスペースのサイズ（MB）
UsedPercent	使用済みスペースの比率（％）
SnapshotID	スナップショットID

R_NetworkInterface

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
Description	説明
MacAddress	MACアドレス
IPAddress	IPアドレス
InputErrors	入力エラー
OutputErrors	出力エラー
Speed	インタフェース速度（ビット/秒）
Duplex	アダプタの二重ステータス
FullDuplex	アダプタが全二重モードで動作していることを表すフラグ
InterfaceName	インタフェース名

カラム名	説明
SubnetMask	サブネット マスク
BroadcastAddress	ブロードキャスト アドレス
InterfaceState	論理システムの状態が、有効（3）、無効（4）、その他（1）、不明（2）のうちどれになっているかを示すステータス情報
DHCPEnabled	DHCPが有効であるかどうか
IPLongValue	10進IPアドレス
SnapshotID	スナップショットID
OperationalStatus	動作ステータス
ProtocolType	プロトコル タイプ
MaxDataSize	最大データ サイズ
PortType	ポート タイプ

R_OperatingSystem

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
Description	オペレーティング システム タイプの説明
Version	オペレーティング システムのバージョン番号
SubDesc	追加説明（Service Pack、リビジョン情報など）
OSType	オペレーティング システム タイプ（Windows 2000など）
SnapshotID	スナップショットID
OSVendor	オペレーティング システム ベンダ

R_PhysicalDisks

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
DeviceType	システム タイプ（SCSIディスクなど）
DriveModel	ドライブ モデル
DriveSize	ドライブ サイズ
DriveFirmware	ドライブ ファームウェア
TransferMode	ATAドライブの転送モード
DriveSerial	ドライブのシリアル番号
DriveVendor	ドライブのベンダ（HPなど）
Slot	システム内のスロット番号
DriveLoc	ポートに接続されたドライブの番号

カラム名	説明
DrivePort	ポート
DriveChassis	ファイバ チャネル接続のドライブだけが表示され、物理ドライブを含むシャーシ名を示す。
DriveServiceTime	物理ドライブがシステム ドライバで動作していた合計時間
HardReadErrors	ドライブで起きた読み取りエラーで、物理ドライブのエラー訂正コード（ECC）アルゴリズムまたは再試行により復旧できなかったエラー数
HardWriteErrors	物理ドライブによって復旧できなかった書き込みエラー数
DeviceID	デバイスID
SnapshotID	スナップショットID

R_PowerSupply

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
DeviceID	システムID
ModelName	モデル名
SerialNumber	シリアル番号
FirmwareRev	ファームウェア リビジョン
ConditionVal	条件値
MaxCapacity	最大容量（W）
UsedCapacity	使用済み容量（W）
RedundancyState	電源装置の二重化状態
Status	フォールトトレラント電源装置システムのステータス
Condition	この電源装置の条件
SnapshotID	スナップショットID
Description	説明

R_Racks

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
RackName	ラックの名前
EnclosureName	エンクロージャの名前
Name	名前
SerialNumber	シリアル番号

カラム名	説明
Model	モデル名
Type	タイプ
SlotNumber	スロット番号
SnapshotID	スナップショットID

R_Software

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
SnapshotID	スナップショットID
Description	ソフトウェアの説明（サーバ エージェント サービス、ストレージ エージェント サービス など）
Version	バージョン番号
Executable	実行ファイルの名前
TypeValue	タイプ値
Status	ソフトウェア ステータス
Date_	ソフトウェア項目の日付
Type	ソフトウェアのタイプ（エージェント、アプリケーション、ドライバなど）

R_deviceLicenseInfo

カラム名	説明
deviceKey	システム キー
numberLicPurchased	このキーで購入されたライセンス数
numberLicUsed	このライセンス キーを使用している実際のライセンス数とシステム
keyVer	使用中のキーのバージョン
Lickey	ユーザが入力したキー（内蔵Lights-Out（iLO）応答をHP Systems Insight Managerのライセンス情報要求に制限している場合は、この列が空白になることがあります。ライセンス キーを表示する権限がない場合には、この列は表示されません）
licType	システム上のライセンスのタイプ
licDate	ライセンスを適用した日付
productName	製品名
productVer	この製品のバージョン（ブランクになることもあります）
expirationDate	製品の有効期限の日付

カラム名	説明
collectDate	HP Systems Insight Managerが収集を最後に実行した日付
DeviceName	システム キーに関連付けられたシステム名
licStatus	ライセンス ステータス
SnapShotID	スナップショットID

R_StorageDeviceInventory

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの一意の名前
ControllerName	コントローラの名前
WorldWideName	World wide name (WWN) またはIPアドレス
Vendor	製品の供給元の名前
Model	一般的に使用されている製品名
ProductRevision	製品バージョン情報
FirmwareVersion	ソフトウェアに関するバージョン情報
SerialNumber	シリアル番号などの製品ID
Status	システム ステータス
PortCount	システムの総ポート数
PortUtilized	このシステムの、どこかに接続されているポートの数
SnapshotID	スナップショットID

R_StorageDeviceControllers

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	ストレージ アレイの一意の名前
ControllerName	コントローラのわかりやすい名前
WorldWideName	WWN
Vendor	ベンダ
Model	モデル
ProductRevision	製品バージョン情報
FirmwareVersion	ソフトウェアに関するバージョン情報
SerialNumber	シリアル番号などの製品ID
Status	コントローラ ステータス
PortCount	このシステムの総ポート数
PortUtilized	このシステムの、どこかに接続されているポートの数

カラム名	説明
SnapshotID	スナップショットID

R_StorageHostBusAdapters

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	ホストの名前
HBAName	ホスト バス アダプタ (HBA) のわかりやすい名前
WorldWideName	HBAのノードWWN
Vendor	ベンダ
Model	HBAのモデル
Status	HBAのステータス
ProductRevision	製品バージョン情報
DriverVersion	HBAのドライババージョン
FirmwareVersion	HBAのファームウェアバージョン
FCode_BIOSVersion	HBAのFCode/Biosバージョン
SerialNumber	シリアル番号などの製品ID
PortCount	このシステムの総ポート数
PortUtilized	このシステムで使用されているポートの数
SnapshotID	スナップショットID

R_StoragePorts

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	SANホスト、インターコネクト システム、またはストレージ システムの名前
PortName	ポートのわかりやすい名前
Number	ポート番号
WorldWideName	HBAのWWN
ControllerHBAName	親デバイスの名前 (ホスト システム上のポートの場合は、HBAが該当します)
Status	ポートのステータス
Type	FC-GSポートのタイプ
Speed	確立されているリンクの速度 (bps単位)
MaxSpeed	ポートの最大速度 (bps単位)
SnapshotID	スナップショットID

R_StorageLogicalUnits

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	ストレージ システムの一意の名前
LUNName	論理ユニット番号（LUN）のわかりやすい名前
ID	VPD
Status	LUNのステータス
ExtentStatus	LUNの追加のステータス情報
LUNSize	LUNの容量（バイト単位）。
RAIDLevel	StorageSetting修飾子に基づく解釈で、RAIDレベルを判断してください。
StoragePool	このLUNの作成元のストレージ プールの名前
SnapshotID	スナップショットID

R_StorageDeviceCapacity

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	ストレージ システムの名前
ID	ストレージ システムの一意のID
rawcapacity	ストレージアレイの合計容量（バイト単位）。
unallocated	LUNの作成に使用されていないアレイの総容量
carved	LUNの作成に使用されている総容量（LUNがミラーリングされている場合、この値はLUNに使用される総容量であり、イニシエータが使用可能な容量ではありません）
presented	ポートに割り当てられている使用可能な総バイト数
unpresented	LUNの作成に使用されているがポートには割り当てられていない使用可能なバイト数
overhead	冗長化に使われる、オーバーヘッド バイト数
snapshotId	スナップショットID

R_Process

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
ID	ID
Name	プロセスの名前
State	プロセスの状態
Priority	プロセスの優先順位

カラム名	説明
SnapshotID	スナップショットID

R_UnixOSDetails

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
OSName	オペレーティング システムの名前
OSVersion	オペレーティング システムのバージョン
Capability	オペレーティング システムの機能
SystemUptime	システムのブート アップ時間
NumUsers	ユーザ数
NumProcesses	プロセス数
MaxProcesses	最大プロセス数
TimeZone	システムの日時
SnapshotID	スナップショットID

R_UnixLogicalMemory

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
SwapSpaceName	スワップ スペース名
SwapType	スワップ タイプ
SwapSpaceSize	スワップ スペース サイズ
SwapSpaceMinSize	スワップ スペースの最小サイズ
SwapSpaceMaxSize	スワップ スペースの最大サイズ
SwapSpaceReservedSize	スワップ スペースの予約サイズ
SnapshotID	スナップショットID

R_UnixIODevices

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
DeviceType	システム タイプ
DeviceDescription	システムの説明
DeviceIdentifier	システムの識別子
DeviceStatus	システム ステータス
DeviceErrors	システム エラー

カラム名	説明
HardwarePath	ハードウェアパス
HardwareType	ハードウェアタイプ
DeviceClass	システムクラス
AssociatedDriver	システムドライバ
SnapshotID	スナップショットID

R_UnixIPRoute

カラム名	説明
DeviceKey	システムキー
DeviceName	システムの名前
RouteDestination	ルート説明
RouteMask	ルートマスク
RouteGateway	ルートゲートウェイ
SnapshotID	スナップショットID

R_UnixSensors

カラム名	説明
DeviceKey	システムキー
DeviceName	システムの名前
SensorName	センサ名
SensorID	センサID
SensorType	センサタイプ
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUXFileSystem

カラム名	説明
DeviceKey	システムキー
DeviceName	システムの名前
MountPointName	マウントポイント名
MountSpecialDeviceName	マウント特殊システム名
RemoteMountPointName	リモートマウントポイント名
FileSystemType	ファイルシステムタイプ
FileSystemAccess	ファイルシステムアクセス
FileSystemBootable	ファイルシステムブート可能
TotalNodes	合計inode数
FreeNodes	空きinode数
DataCapacity	データ容量

カラム名	説明
FreeCapacity	空き容量
MinFreeSpace	最低空き容量
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUXVolumeGroup

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
VolumeGroupName	ボリューム グループ名
AccessPermission	アクセス許可
Status	ステータス
ExtentSize	物理拡張サイズ
Capacity	ボリューム グループの容量
Allocation	ボリューム グループの割り当て
FreeSpace	空き容量
MaxNumPhysicalVol	物理ボリュームの最大数
MaxNumPhysicalExtent	物理拡張の最大数
NumDefinedPhysicalVol	定義済み物理ボリューム数
NumActivePhysicalVol	アクティブ物理ボリューム数
MaxNumLogicalVol	論理ボリュームの最大数
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUXLogicalVolume

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
LogicalVolName	論理ボリューム名
AccessPermission	アクセス許可
Status	論理ボリューム ステータス
ExtentSize	論理拡張サイズ
Capacity	論理ボリューム容量
SchedulePolicy	スケジュール ポリシー
AllocationPolicy	割り当てポリシー
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUPhysicalVolume

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
PhysicalVolName	物理ボリューム名
Status	物理ボリューム ステータス
ExtentSize	物理拡張サイズ
Capacity	物理ボリューム容量
AllocatedPhysicalExtent	割り当て済み物理拡張
FreePhysicalExtent	空き物理拡張
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUNetworkDetails

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
DomainName	ドメインの名前
Search	検索リスト
ServerIPAddress	サーバのIPアドレス
ServerType	不明 (0)、その他 (1)、なし (2)、マスタサーバ (3)、スレーブ サーバ (4) のいずれかを示すサーバ タイプ
ServerWaitFlag	サーバ待機フラグ
ServerAddress	サーバ アドレス
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUNKernelParam

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
ParameterName	パラメータ名
ParameterValue	パラメータ値
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUSoftwareBundle

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前

カラム名	説明
BundleName	バンドル名
VendorTag	ベンダ タグ
Architecture	アーキテクチャ
Revision	リビジョン
Caption	キャプション
ModificationTime	修正時刻
Size_	サイズ
LayoutVersion	レイアウト バージョン
OSName	オペレーティング システム名
OSRelease	オペレーティング システム リリース
IsPatch	Isパッチ
InstallSource	インストール ソース
InstallDate	インストール日付
SnapshotID	スナップショットID

R_HPUXSoftwareProduct

カラム名	説明
DeviceKey	システム キー
DeviceName	システムの名前
Specification	製品ソフトウェア仕様
ProductName	製品名
Architecture	アーキテクチャ
Revision	リビジョン
VendorTag	ベンダ タグ
Caption	製品キャプション
ModificationTime	修正時刻
Size_	サイズ
OSName	オペレーティング システム名
OSRelease	オペレーティング システム リリース
IsPatch	ISパッチ
InstallSource	インストール ソース
InstallDate	インストール日付
SnapshotID	スナップショットID

関連トピック

- レポート機能
- スナップショット比較レポート

スナップショット比較レポート

スナップショット比較によって、最大4つのシステム（同じオペレーティング システム）を相互に比較したり、単一のシステムをそれ自体と比較して時間の経過による変化を調べたりすることができます。スナップショット データの比較など、単一システムの時系列変動解析を行うには、そのシステムの2セット以上のスナップショット データを用意し、**[ステップ2: スナップショットの選択]**ページで、**[新規データセットを追加（時系列変動解析用）]**を選択する必要があります。スナップショット データの収集には、**[オプション]->[データ収集]**を使用します。

スナップショット比較を実行するには、次のように操作します。

1. **[レポート]->[スナップショットの比較]**を選択します。**[スナップショットの比較]**ウィンドウが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。ターゲット選択ページに戻るには、戻るをクリックします。

[スナップショットの比較]ページで、システムのスナップショットを2つから4つ選択します。

次のような警告メッセージが表示される可能性があります。

- 一部のシステムOSタイプは不明です。
- 複数のオペレーティング システム タイプが選択されています。
- 1つのオペレーティング システム タイプ比較だけがサポートされています。
- 1つのターゲットを選択した場合は、最低2つのスナップショットが、このターゲットで必要になります。スナップショット比較を行うには、2つから4つのスナップショットを選択する必要があります。
- 複数のターゲットを選択した場合は、システムごとに1つのスナップショットを選択できます。

スナップショット比較を実行するには、選択したターゲット システムのオペレーティング システムが同じでなければなりません。

4. 次へをクリックします。
5. **[カテゴリおよびベースラインの選択]**ページで、スナップショット比較に含めるカテゴリを選択します。**[カテゴリ名]**列にはカテゴリが、**[説明]**列にはカテゴリの簡潔な説明が表示されます。
6. **[スナップショット比較ベースラインを選択してください]**セクションで、比較する項目を選択します。
7. レポートの実行をクリックします。**[スナップショットの比較]**ページに戻るには、戻るをクリックします。
8. レポートを表示するには、**[テキスト レポートを表示するには、リンクをクリックしてください]**の下の**[テキスト出力]**をクリックしてください。

関連プロシージャ

- システム レポート
- レポートの追加
- レポートの編集

関連トピック

- レポート機能

PMPレポートのオプション

HP Systems Insight Managerを介して使用可能なPerformance Management Pack (PMP) レポートには、次の3種類があります。

注記:



PMP レポートは、Windowsシステムでのみ利用できます。HP-UXまたはLinuxシステムでは利用できません。

-
- 静的分析レポート プロセッサ、メモリ、ネットワーク接続、ストレージ、ホストバスなどのサーバ コンポーネントの設定に関する情報を表示します。

静的分析レポートにアクセスするには、[レポート]>[Performance Management Pack レポート]>[静的分析レポート]を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

http://middle_tier:2381/pmptools/help/StaticAnalysisReport.htmにアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\PMPTools\htm\help\StaticAnalysisReport.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

- システム概要レポート サーバがボトルネック状態に陥ってからの経過時間のパーセント表示と、サーバの各コンポーネントの全体におけるパフォーマンス稼働率をサーバの詳細設定情報とともに表示します。

システム概要レポートにアクセスするには、[レポート]>[Performance Management Pack レポート]>[システム概要レポート]を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

http://middle_tier::2381/pmptools/help/SystemSummaryReport.htmにアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\PMPTools\htm\help\SystemSummaryReport.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

- **CSVファイル生成** すべてのサーバコンポーネントについて、PMPのレポジトリからログに記録されたデータを詳細表示します。このとき、デスクトップ分析またはツールのレポートへのインポート用に値を.csv形式で表示します。

CSVファイル生成を使用するには、[レポート]>[**Performance Management Pack**レポート]>[**CSVファイル生成**]を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

http://middle_tier:2381/pmptools/help/CSVFileGenerator.htmにアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリProgram Files\HP\Performance Management Pack\PMPTools\htm\help\CSVFileGenerator.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

関連トピック

- PMPツール
- PMP管理オプション

システムとイベントの管理

完全な設定権があるユーザが、HP Systems Insight Managerを管理できます。HP Systems Insight Managerの管理には、次の作業が含まれます。

- ファーストタイム ウィザードを使用した基本設定
- 自動検出および手動検出の設定と実行
- システムの識別
- hostsファイルとテンプレート ファイルの管理
- SNMPおよびデスクトップ管理インタフェース（DMI）のルールを作成、編集、および削除することによる、システム タイプの管理
- グローバル システム プロトコル設定とシングル システム プロトコル設定の指定
- ステータス ポーリング タスクの設定と実行
- 「タスクの作成と編集」、「イベントの削除」、および「Email、モデム、イベント フィルタ、SNMPトラップ、ステータス変化イベントの設定」による自動イベント処理の設定
- クラスタ設定とシステム設定の指定
- データ収集タスクの実行
- ホーム ページ オプションのカスタマイズ
- 高度な検索、およびソフトウェアとファームウェアのインストールのようなタスクに適合した、デフォルトHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャの選択と保守
- ツールボックスの管理
- 認証の管理
- ユーザの管理
- 監査ログの監視
- サーバ証明書を作成、編集、エクスポート、インポート、および同期化
- 信頼されたシステム証明書の作成、削除、エクスポート、およびインポート
- 管理対象システムのセットアップ
- 複数のシステムを対象としたシステムの優先順位の設定
- 複数システムを対象としたシステム監視の停止または回復
- HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャの指定
- HP Systems Insight ManagerからのPerformance Management Pack（PMP）管理ツールの実行
- Windows、HP-UX、およびLinuxの各システムでのHP Systems Insight Managerデータベースのバックアップと復元
- セキュリティの設定
- システム タイプ管理による識別の修正
- システム キーの管理

注記:



[オプション]メニューにアクセスしてHP Systems Insight Manager管理タスクを実行するには、システムに対して完全な設定権があるユーザでなければなりません。

関連プロシージャ

- 監査ログの表示
- 監査ログ ファイルの設定
- 新規ユーザの作成
- 新規ツールボックスの作成

- 新規ユーザ グループの作成
- 新規認証の作成
- 認証の更新
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの編集
- ツールボックスの編集
- ユーザ アカウントおよびユーザ グループの削除
- ツールボックスの削除
- 認証の削除
- ユーザおよびユーザ グループ レポート
- ツールボックス レポート
- 認証レポート
- サーバ証明書のエクスポート
- サーバ証明書の編集
- サーバ証明書の作成
- サーバ証明書のインポート
- 信頼証明書の削除
- 信頼証明書のエクスポート
- 信頼証明書のインポート
- 信頼証明書の要求
- クラスタ リソース設定の指定
- ノード リソース設定の指定
- データ収集タスクの作成
- 自動検出の設定
- システムの手動追加
- 検出タスクの無効化または有効化
- 新規検出タスクの作成
- 検出タスクの編集
- 検出タスクの削除
- 検出タスクの実行
- 検出一般設定の指定
- データベースへのhosts ファイルのシステムの追加
- hosts ファイルの削除
- hosts ファイルの編集
- 新規hosts ファイルの作成
- 新規検出テンプレート ファイルの作成
- 検出テンプレートの編集
- 検出テンプレートの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- イベント フィルタの設定
- SNMPトラップの設定
- ステータス変更イベントの設定
- WBEMイベント
- 管理対象システム
- バージョン コントロール レポジトリ
- PMP管理オプション
- グローバル プロトコル設定
- システムまたはシステム グループのプロトコル設定
- 単一システムのプロトコル設定
- WMI Mapperプロキシの追加
- WMI Mapperプロキシの編集
- WMI Mapperプロキシの削除

- HP-UX/Linux
- Windows
- ログイン イベントの設定
- システム リンクの設定
- タイムアウト オプションの設定
- ハードウェア ステータス ポーリング
- ソフトウェア ステータス ポーリング
- 新規STMルールの作成
- STMルールの編集
- STMルールの削除
- 複数システムのシステム プロパティの編集
- 複数システムのシステム監視の停止と回復
- バージョン コントロール レポジトリ
- PMP管理オプション

関連トピック

- ユーザと認証
- 監査ログ
- サーバ証明書
- データ収集
- 検出と識別
- イベント
- 検出フィルタ
- 識別
- プロトコル
- WMI Mapperプロキシ
- ネットワークとセキュリティ
- ログインについて
- セキュア タスク実行について
- ステータス ポーリング
- システム タイプの管理
- SSHバイパス プロパティの設定

イベント

管理イベントには、以下が含まれます。

- 自動イベント処理。 自動イベント処理タスクを管理し、新しい自動イベント処理タスクを作成し、Emailおよびモデム設定を指定することができます。
- タスクの管理。 定義の表示、タスク結果のコピー、編集、または表示、および既存の自動イベント処理タスクの無効化/有効化または削除を行うことができます。また、新しい自動イベント処理タスクを作成することもできます。[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[タスクの管理]を選択します。

詳細については、「イベント処理タスクの管理」を参照してください。
- 新しいタスクの作成。 新しい自動イベント処理タスクを作成できます。[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[新規タスク]を選択します。

- **Email設定。** イベント アクションによりEmailを送信する際に必要なさまざまなEmail設定をセットアップできます。**[Email設定]**ページにアクセスする方法には、次の2種類があります。

- **[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[Emailの設定]**を選択。
- HP Systems Insight Manager紹介ページの**[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]**セクションで**[email]**をクリック。

- **モデム設定。** 完全な設定権があるユーザのみが、この機能を使用できます。また、この機能は、Windowsシステム専用です。

[ポケベル用モデムの設定]ページにアクセスする方法には、次の2種類があります。

- **[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[モデムの設定]**をクリック。
- HP Systems Insight Manager紹介ページの**[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]**セクションで**[ポケベル通知]**をクリック。

- **イベントを確認済みに変更。** **[オプション]->[イベント]->[イベントの確認]**を選択します。確認済みに変更するターゲット イベントを選択し、**確認済み**をクリックします。詳細については、「イベントの確認」を参照してください。
- **イベントの削除。** **[オプション]->[イベント]->[イベントの削除]**を選択します。ターゲットを選択して**[タスク結果]**ページが表示されたら、削除するイベントを選択して削除をクリックします。イベントがデータベースから削除されます。詳細については、「イベントの削除」を参照してください。
- **イベント フィルタ設定。** **[オプション]->[イベント]->[イベント フィルタの設定]**を選択します。

HP Systems Insight Manager紹介ページの**[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]**セクションで**[自動イベント処理]**をクリックし、**[自動イベント処理]**ページにアクセスして既存ルールの編集や削除ができます。詳細については、「イベント フィルタの設定」を参照してください。

- **SNMPトラップ設定。** **[オプション]->[イベント]->[SNMPトラップの設定]**を選択します。

詳細については、「SNMPトラップの設定」を参照してください。

- **ステータス変化イベント設定。** **[オプション]->[ステータス変更イベントの設定]**を選択します。

詳細については、「ステータス変更イベントの設定」を参照してください。

- **WBEMイベントの予約。** **[オプション]->[WBEMイベントの登録]**を選択します。

詳細については、「WBEMイベントの予約」を参照してください。

- **WBEMイベントの予約解除。** **[オプション]->[WBEMイベントの登録取り消し]**を選択します。

詳細については、「WBEMイベントの予約解除」を参照してください。

関連プロシージャ

- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理

- イベント フィルタの設定
- SNMPトラップの設定
- ステータス変更イベントの設定
- イベントの削除
- イベントの確認

関連トピック

- イベント管理について
- イベント処理タスクの管理
- Email通知に基づく ポケベル タスクの作成
- Emailメッセージの例
- Email通知に基づく ポケベル タスクの作成

イベント管理について

管理イベントには、以下が含まれます。

- 自動イベント処理。
- イベントの削除
- イベント フィルタ設定
- SNMPトラップ設定
- ステータス変化イベント設定

自動イベント処理。

自動イベント処理では、イベントを受信したときにHP Systems Insight Managerが実行するアクションを定義できます。この機能を利用するユーザには、完全な設定権が必要です。

自動イベント処理では、次の4つのオプションを使用できます。

- **[新規タスク]**。新しい自動イベント処理タスクの作成に使用します。
- **[タスクの管理]**。既存の自動イベント処理タスクの管理に使用します。
- **[Emailの設定]**。Emailを送信してユーザに問題を警告する場合に使用します。Emailシステムの要件は異なるので、次の情報の必要性をEmail管理者に確認してください。
 - mail.company.comなど、送信メール サーバのSMTPホスト名。このサーバは、メールメッセージをHP Systems Insight Managerから受信し、受信者に転送を始めます。
 - 管理サーバのEmailアドレス名。このアドレスは、HP Systems Insight Managerから送信されたEmailの[差出人]フィールドに表示されます。ユーザは、システム名にすることができます。送信者として、server@domain.comという形式でフルドメインアドレスを入力します。

注記:



メッセージを受信する前に有効な差出人ユーザが必要となるEmailシステムがあります。このため、有効なEmailアカウントを使用することをおすすめします。

- **[モデムの設定（Windowsのみ）]**。完全な設定権があるユーザが、この機能を使用できます。

英数字ポケベル用にモデムを設定します。HP Systems Insight Managerサーバからポケベル通知を送信するには、まずサーバ上でモデムを設定します。HP Systems Insight Managerにおいてモデムを設定するには、ポケベル通知の送信にモデムが使用するCOMポートを確認してください。

HP Systems Insight Manager紹介ページの**[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]**セクションで**[自動イベント処理]**をクリックし、**[自動イベント処理]**ページにアクセスして既存ルールの編集や削除ができます。

イベントの削除

このタスクは、データベースからタスクを削除する場合に使用します。

注記:



イベント表示ページからイベントを削除することもできます。詳細については、「イベント収集のカスタマイズ」を参照してください。

イベント フィルタ設定

イベント フィルタは、検出されたシステムから受信したSNMPトラップをフィルタ処理する方法です。デフォルト設定では、検出されたすべてのシステムから、すべての登録済みSNMPトラップが受け入れられます。表示するトラップの深刻度を指定し、IPアドレス範囲を使用してトラップを受信の受信や無視を行うシステムのサブネットを作成できます。たとえば、イベントフィルタリングを使用して、通知のみのトラップを無視することができます。完全な設定権があるユーザが、この機能を使用できます。MIBのコンパイルの詳細については、「MIBの管理」を参照してください。

イベントをフィルタ処理するオプション

イベントには、登録イベントと未登録イベントがあります。登録イベントは、検出されたシステムからHP Systems Insight Managerが認識するSNMPトラップです。未登録イベントは、検出されているが、システム情報がHP Systems Insight Manager MIBデータベースの一部でないシステムからのトラップです。深刻度レベルを持つのは、登録イベントだけです。イベントの深刻度タイプの詳細については、「イベント深刻度の種類」を参照してください。

トラップを受け入れたり破棄したりするためのIP範囲を指定できます。システムまたは範囲を1行につき1つ入力するか、または複数の範囲とシステムをセミコロン (;) で区切って入力します。

SNMP拡張を使用して、トラップをフィルタすることもできます。

SNMPトラップ設定

完全な設定権があるユーザが、この機能を使用して、登録MIBのトラップ詳細の表示や編集を行います。

SNMPトラップでは、ネットワークのニーズに合わせてトラップメッセージを調整できます。トラップメッセージは、暗号的であり、記述が乏しく、理解しにくいものであることがあります。このMIB情報は、データベースの表示内で変更できます。また、MIBの.cfgファイルを変更することもできます。HPでは、実際のMIBを修正しないことをおすすめします。MIBの編集の詳細については、「MIBの編集」を参照してください。

ステータス変化イベント設定

ハードウェアステータスが変化したとき、システムのステータス変化イベントを送信するための設定を指定するページです。

関連プロシージャ

- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- イベント フィルタの設定
- SNMPトラップの設定
- ステータス変更イベントの設定

関連トピック

- イベント
- Emailメッセージの例
- Email通知に基づくポケベル タスクの作成

指定するイベントおよびシステム属性を使用した新しい自動イベント処理タスクの作成

既存のイベント収集を使用して、または指定できるイベントおよびシステム属性を使用して、自動イベント処理タスクを作成します。

自動イベント処理タスクの作成

着信イベントを自動的に処理するための新しいタスクを作成するには、[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[新規タスク]を選択します。

次のいずれかのオプションを選択します。

- [存在するイベント収集から]。この作業は、以下の5つのステップで構成されます。
 - タスク名の選択
 - 既存のイベント収集の選択
 - アクションの選択
 - 時間フィルタの選択
 - 概要の表示

- **[イベントおよび指定するシステム プロパティから]**。この作業は、以下の6つのステップで構成されます。
 - タスク名の選択
 - イベントの選択
 - システムの選択
 - アクションの選択
 - 時間フィルタの選択
 - 概要の表示

関連プロシージャ

- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- イベント フィルタの設定
- SNMPトラップの設定
- ステータス変更イベントの設定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

イベント処理タスクの管理

自動イベント処理タスクの作成、編集、コピー、定義の表示、タスク結果の表示、有効化/無効化、または削除を行う場合には、次の手順を実行します。

注意:



自動イベント処理タスクを削除すると、タスクは永久に削除され、復元できなくなります。

自動イベント処理タスクを管理するには、次のように操作します。

1. **[オブション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[タスクの管理]**を選択します。**[自動イベント処理 - タスクの管理]**ページが表示されます。
2. タスクを選択します。
3. 次のいずれかをクリックします。

- 新しい自動イベント処理タスクを作成するには、**新規**をクリックします。詳細については、「これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成」を参照してください。
- タスクを編集するには、**編集**をクリックします。編集ウィザードが表示されます。これは、新しい自動イベント処理タスクを作成するページに似ていますが、フィールドにはタスクの現行設定値が入力されます。タスク オーナーを割り当て直すフィールドも使用できます。詳細については、「自動イベント処理タスクの編集」を参照してください。
- 既存のタスクの設定詳細を複製するには、**コピー**をクリックします。タスク リストの下に、**[タスクのコピー]**ページが表示されます。**[タスク名]**ボックスに新しいタスクの名前を入力します。**OK**をクリックすると、新しい独立したタスクが作成されます。詳細については、「自動イベント処理タスクのコピー」を参照してください。
- タスクを表示するには、**定義の表示**をクリックします。タスク名、イベント、システム条件、アクション、モデム設定、Email設定など、選択したタスク全体の設定が表示されます。詳細については、「タスク定義の表示」を参照してください。
- タスクの結果をクリックして、リストの下で、選択したタスクのタスク結果の詳細を表示します。詳細については、「イベント タスク結果の表示」を参照してください。
- タスクを無効にするには、**無効**をクリックします。詳細については、「自動イベント処理タスクの有効化または無効化」を参照してください。
- タスクを削除するには、**削除**をクリックします。確認ボックスが表示されます。削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。詳細については、「イベントの削除」を参照してください。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクの編集
- 自動イベント処理タスクのコピー
- タスク定義の表示
- イベント タスク結果の表示
- 自動イベント処理タスクの有効化または無効化
- イベントの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成

新しい自動イベント処理タスクを作成し、特定のイベントへの応答を定義するには、次の手順を実行します。

注記:



自動イベント処理タスクについては、選択できるサーバの最大数は100です。

新しいタスクを定義するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[イベント]>[自動イベント処理]>[新規タスク]を選択します。[自動イベント処理] - [新規タスク]ページが表示されます。
2. [イベントおよび指定するシステム プロパティから]を選択します。
3. [名前の選択]が強調表示されます。[タスク名]ボックスにタスクの名前を入力します。
4. 次へをクリックします。[ステップ2, 存在するイベント収集の選択]ページが表示されます。
5. タスクを定義する、イベントの検索条件を選択します。

- リスト条件
- 比較オプション
- 選択した条件が比較オプションの値

検索条件をさらに追加するには、追加をクリックします。

イベント検索の詳細については、「イベントの高度な検索の実行」を参照してください。

6. 情報を入力したら、次へをクリックして次のステップに進むか、戻るをクリックして前のステップに戻ります。[ステップ3, システムの選択]が表示されます。
7. ドロップダウン メニューから、タスクを定義するためのシステム条件を選択します。
 - リスト条件
 - 比較オプション
 - 選択した条件が比較オプションの値
8. 条件をさらに追加するには、追加をクリックします。「イベントの高度な検索の実行」を参照してください。
9. 情報を入力したら、次へをクリックして次のステップに進むか、戻るをクリックして前のステップに戻ります。[ステップ4, アクションの選択]ページが表示されます。

10. 以下から選択します。

● ポケベル通知の送信（Windowsのみ）

[>>]をクリックし、ユーザのドロップダウン リストから、ポケベル メッセージを受け取るユーザを追加します。ポケベル メッセージを受け取るユーザのリストからユーザを削除するには、[<<]をクリックします。ユーザのポケベル番号は、[ユーザおよび認証]ページで設定します。詳細については、「新規ユーザの作成」を参照してください。[ユーザ]リストのユーザ名がアクティブでない場合は、そのユーザのポケベル情報が設定されていません。ポケベルで通知するユーザのリストにこのユーザを追加できますが、[ユーザおよび認証]ページでポケベル情報を指定するまで、このユーザにはポケベル メッセージは送信されません。

● Emailの送信

通知を受信するEmailアドレスのリストを[宛先]フィールドに入力します（各エントリはカンマで区切ります）。

[CC]フィールドに、Emailのコピーを受信する必要があるEmailアドレスを入力します（各エントリはカンマで区切ります）。

[件名]フィールドに、Emailの件名を入力します。

[メッセージ フォーマット]フィールドで、受信者のエンコーディング優先順位に応じて次のフォーマットのいずれかを選択します。

- [標準]。デフォルトのメッセージフォーマットでテキスト形式のEmailメッセージが受信者に送信されます。
- [ポケベル/SMS]。同じ情報がポケベル メッセージ フォーマットで受信者に送信されます。
- [HTML]。[HTMLイベント詳細]ページに似たEmailメッセージが受信者へ送信されます。

[エンコーディング]フィールドで、次のフォーマットのいずれかを選択します。

- 西ヨーロッパ言語（ISO-8859-1）
- Unicode（UTF-8）
- 日本語（ISO-2022-JP）
- 日本語（シフトJIS）
- 日本語（EUC）

● カスタム コマンドの実行

[コマンド]ドロップダウン リストからカスタム コマンドを選択します。カスタム コマンドは、[ツール]>[カスタム コマンド]>新しいカスタム コマンドオプションで作成されます。詳細については、「新規カスタム コマンドの作成」を参照してください。

● 割り当て

タスクの割り当てを受ける人の名前を入力します。受信時に、イベントがこのユーザに割り当てられます。

- SNMP トラップとして送信

システム名かIPアドレスを[名前またはIP]テキストフィールドに入力して[>>]をクリックし、[トラップ受信者]ボックスに追加します。

受信者を削除する場合は、[トラップ受信者]ボックスで名前を強調表示した後で、削除をクリックします。削除する受信者にスクロールするには、上向き矢印と下向き矢印を使用します。

- システム ログへの書き込み

Windows NTシステムとWindows XPシステムでは、イベントの詳細がアプリケーションログに書き込まれ、イベントログの[ソース]列は記録されたイベントの[HP Systems Insight Manager]としてリストされます。LinuxシステムとHP-UXシステムでは、イベントの詳細がシステム ログに記録されます。このログは通常、Linuxでは/var/log/messagesファイルに、HP-UXでは/var/adm/syslog/syslog.logファイルにあります。

- イベントを確認済みに変更

受け取ったイベントは、タスク実行時に選択した条件に基づいてクリアされます。

11. 選択したら、次へをクリックして次のステップに進むか、戻るをクリックして前のステップに戻ります。[ステップ5, 時間フィルタの選択]が表示されます。
12. 時間フィルタを使用する場合は、チェックボックスを選択して、ドロップダウンリストからオプションを選択します。
 - a. ユーザ定義フィルタを設定する場合は、フィルタの管理をクリックします。詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
 - b. [時間フィルタの表示]ボックスを選択します。[時間フィルタ]ポップアップ ウィンドウに、選択した時間が表示されます。

[時間フィルタの使用]チェックボックスが選択されていない場合、選択した条件と一致するイベントが受信されると、必ず、アクションが起動されます。

[時間フィルタの使用]チェックボックスが選択されている場合、選択した時間フィルタが指定する範囲内でイベントが発生したときにだけ、アクションが起動されます。
 - c. 情報を入力したら、次へをクリックして次のステップに進むか、戻るをクリックして前のステップに戻ります。[ステップ6, 概要のレビュー]ページが表示され、[タスク名]、[イベント]、および[アクション]情報が表示されます。ポケベル オプションやEmailオプションを選択した場合は、モデム設定とEmail設定が、設定を変更するボタンとともに表示されます。
13. モデム設定を編集するには、モデム設定の編集をクリックします。SMTP設定を編集するには、Email設定の編集をクリックします。詳しくは、「モデム設定の指定」か「SNMPトラップの設定」を参照してください。

注記：イベントおよびシステム条件は、ページの下部に表示されます。この情報は、非常に複雑で長い場合があります。このため、すべての条件を確認するためにスクロールしなければならないことがあります。

14. 新しいタスクを作成するには、終了をクリックします。前のステップに戻るには、戻るをクリックします。

関連プロシージャ

- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- Email設定の指定
- イベント フィルタの設定
- モデム設定の指定
- ステータス変更イベントの設定
- SNMPトラップの設定
- WBEMイベント

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- 指定するイベントおよびシステム属性を使用した新しい自動イベント処理タスクの作成
- Emailメッセージの例

既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成

新しい自動イベント処理タスクを作成し、特定のイベントへの応答を定義するには、次の手順を実行します。

注記:



前バージョンのHP Systems Insight Managerでは、自動イベント処理タスクについて選択できるサーバの最大数は100でした。HP Systems Insight Manager 5.0では、制限はありません。

新しいタスクを定義するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[イベント]>[自動イベント処理]>[新規タスク]を選択します。[自動イベント処理] - [新規タスク]ページが表示されます。
2. [存在するイベント収集から]を選択します。[ステップ1, 名前の選択]が表示されます。
3. [タスク名]ボックスにタスクの名前を入力します。
4. 次へをクリックします。[ステップ2, 存在するイベント収集の選択]ページが表示されます。
5. ドロップダウンボックスからイベント収集を選択します。このステップにより、イベント収集とその関連システム収集を選択できるようになります。表示をクリックして、イベントおよびシステム収集の条件を読み取り専用ビューで確認します。戻るをクリックして前のステップに戻るか、次へをクリックして次のステップに進みます。[ステップ3, アクションの選択]ページが表示されます。

6. このタスクのアクションを選択します。以下から選択します。

● ポケベル通知の送信（Windowsのみ）

[>>]をクリックし、ユーザのドロップダウン リストから、ポケベル メッセージを受け取るユーザを追加します。ポケベル メッセージを受け取るユーザのリストからユーザを削除するには、[<<]をクリックします。ユーザのポケベル番号は、[ユーザおよび認証]ページで設定します。詳細については、「新規ユーザの作成」を参照してください。[ユーザ]リストのユーザ名がアクティブでない場合は、そのユーザのポケベル情報が設定されていません。ポケベルで通知するユーザのリストにこのユーザを追加できますが、[ユーザおよび認証]ページでポケベル情報を指定するまで、このユーザにはポケベル メッセージは送信されません。

● Emailの送信

[宛先]フィールドに、通知を受信するEmailアドレスのリストを入力します。

[CC]フィールドに、Emailのコピーを受信する必要があるEmailアドレスを入力します(各アドレスをカンマで区切ります)。

[件名]フィールドに、Emailの件名を入力します。

[メッセージ フォーマット]フィールドで、受信者のエンコーディング優先順位に応じて次のフォーマットのいずれかを選択します。

- [標準]。デフォルトのメッセージフォーマットでテキスト形式のEmailメッセージが受信者に送信されます。
- [ポケベル/SMS]。同じ情報がポケベル メッセージ フォーマットで受信者に送信されます。
- [HTML]。[HTMLイベント詳細]ページに似たEmailメッセージが受信者へ送信されます。

[エンコーディング]フィールドで、次のフォーマットのいずれかを選択します。

- 西ヨーロッパ言語（ISO-8859-1）
- Unicode（UTF-8）
- 日本語（ISO-2022-JP）
- 日本語（シフトJIS）
- 日本語（EUC）

● カスタム コマンドの実行

[コマンド]ドロップダウン リストからカスタム コマンドを選択します。カスタム コマンドは、[ツール]>[カスタム コマンド]>新しいカスタム コマンドオプションで作成されます。詳細については、「新規カスタム コマンドの作成」を参照してください。

● 割り当て

タスクの割り当てを受ける人の名前を入力します。受信時に、イベントがこのユーザに割り当てられます。

● SNMP トラップとして送信

システム名かIPアドレスを[名前またはIP]テキスト フィールドに入力して[>>]をクリックし、[トラップ受信者]ボックスに追加します。

受信者を削除する場合は、[トラップ受信者]ボックスで名前を強調表示した後で、削除をクリックします。削除する受信者にスクロールするには、上向き矢印と下向き矢印を使用します。

● システム ログへの書き込み

Windows NTシステムとWindows XPシステムでは、イベントの詳細がアプリケーション ログに書き込まれ、イベント ログの[ソース]列は記録されたイベントの[**HP Systems Insight Manager**]としてリストされます。LinuxシステムとHP-UXシステムでは、イベントの詳細がシステム ログに記録されます。このログは通常、Linuxでは/var/log/messagesファイルに、HP-UXでは/var/adm/syslog/syslog.logファイルにあります。

● イベントを確認済みに変更

受け取ったイベントは、タスク実行時に選択した条件に基づいてクリアされます。

7. 選択したら、次へをクリックして次のステップに進むか、戻るをクリックして前のステップに戻ります。[ステップ4, 時間フィルタの選択]ページが表示されます。
8. 時間フィルタを使用する場合は、[時間フィルタの使用]チェックボックスを選択して、ドロップダウン リストからオプションを選択します。
 - a. ユーザ定義フィルタを設定する場合は、フィルタの管理をクリックします。詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
 - b. [時間フィルタの表示]をクリックします。[時間フィルタ]ポップアップウィンドウに、選択した時間が表示されます。

[時間フィルタの使用]チェックボックスが選択されていない場合、選択した条件と一致するイベントが受信されると、必ず、アクションが起動されます。

[時間フィルタの使用]チェックボックスが選択されている場合、選択した時間フィルタが指定する範囲内でイベントが発生したときにだけ、アクションが起動されます。
 - c. 情報を入力したら、次へをクリックして次のステップに進むか、戻るをクリックして前のステップに戻ります。[ステップ5, 概要のレビュー]ページが表示され、[タスク名]、[イベント収集]、[イベント]、および [アクション]情報が表示されます。ポケベル オプションやEmailオプションを選択した場合は、モデム設定とEmail設定が、設定を変更するボタンとともに表示されます。
9. モデム設定を編集するには、モデム設定の編集をクリックします。SMTP設定を編集するには、**Email設定の編集**をクリックします。詳しくは、「モデム設定の指定」か「SNMPトラップの設定」を参照してください。
10. 新しいタスクを作成するには、終了をクリックします。前のステップに戻るには、戻るをクリックします。

関連プロシージャ

- 指定するイベントおよびシステム属性を使用した新しい自動イベント処理タスクの作成
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- Email設定の指定
- イベント フィルタの設定
- モデム設定の指定
- ステータス変更イベントの設定
- SNMPトラップの設定
- WBEMイベント

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

自動イベント処理タスクの編集

1. [オプション]>[イベント]>[自動イベント処理]を選択します。[自動イベント処理 - タスクの管理]ページが表示されます。
2. 編集するタスクを選択し、編集をクリックします。[タスクの編集]セクションが表示されます。
3. タスク設定を編集するには、すべての手順を実行してください。

各手順の詳細については、「既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成」および「これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成」を参照してください。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクのコピー
- タスク定義の表示
- イベント タスク結果の表示
- 自動イベント処理タスクの有効化または無効化
- イベントの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

自動イベント処理タスクのコピー

既存のタスクの設定詳細を複製する手順は次のとおりです。

タスクをコピーするには、次のように操作します。

1. **[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]**を選択します。**[自動イベント処理 - タスクの管理]**ページが表示されます。
2. コピーするタスクを選択し、コピーをクリックします。**[タスクのコピー]**セクションが表示されます。
3. **[タスク名]**フィールドに新しいタスクの名前を入力します。
4. **OK**をクリックします。タスクが新しい名前でコピーされ、自動イベント処理タスクのリストに追加されます。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクの編集
- タスク定義の表示
- イベント タスク結果の表示
- 自動イベント処理タスクの有効化または無効化
- イベントの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

タスク定義の表示

選択されたタスクのタスク設定全体を表示するには、次の手順を実行します。これらの設定オプションは、タスクの作成時に設定されています。

1. **[オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]**を選択します。**[自動イベント処理 - タスクの管理]**ページが表示されます。
2. タスクを選択し、**定義の表示**をクリックします。**[定義の表示]**セクションに、次の情報が表示されます。
 - **タスク名。** タスクの作成時にタスクに付けられた名前です。
 - **イベント収集。** タスクの作成時に選択されたイベント収集です。
 - **イベント。** タスクに設定されているイベント検索条件です。
 - **システム。** タスクに選択されているシステム収集です。
 - **アクション。** Emailの送信やシステム ログへの書き込みなど、タスクの作成時に選択されたアクションです。
 - **Email設定。** タスクの作成時に設定されたEmail設定です。

各設定の詳細については、「既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成」および「これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成」を参照してください。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクの編集
- 自動イベント処理タスクのコピー
- イベント タスク結果の表示
- 自動イベント処理タスクの有効化または無効化
- イベントの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

イベント タスク結果の表示

1. [オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]を選択します。[自動イベント処理 - タスクの管理]ページが表示されます。
2. タスク結果を表示するタスクを選択し、タスク結果をクリックします。[タスクの詳細]セクションが表示されます。

表示される詳細については、「タスク結果リスト」を参照してください。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクの編集
- 自動イベント処理タスクのコピー
- タスク定義の表示
- 自動イベント処理タスクの有効化または無効化
- イベントの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

自動イベント処理タスクの有効化または無効化

注記:



このオプションは、Insightマネージャ7からインポートされた通知タスクの場合に、特に便利です。インポートされた通知タスクは、無効にされた状態でHP Systems Insight Managerにインポートされます。このようなタスクを編集し、設定が正しいかどうかを確認した後、有効をクリックして有効に設定できます。

注記:



タスクが現在有効か無効かによって、ボタンのラベルが変更されます。

1. [オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[タスクの管理]を選択します。[自動イベント処理 - タスクの管理]ページが表示されます。
2. 有効か無効に設定するタスクを選択します。
3. 有効なタスクを無効にする場合は、無効をクリックします。無効なタスクを有効にする場合は、有効をクリックします。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクの編集
- 自動イベント処理タスクのコピー
- タスク定義の表示
- イベント タスク結果の表示
- イベントの削除
- Email設定の指定
- モデム設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

Email設定の指定

SMTPホストと中央管理サーバEmailを設定するには、この手順を実行します。

Email用にSMTP設定を指定するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[イベント]>[自動イベント処理]>[Emailの設定]を選択します。[Emailの設定]ページが表示されます。
2. [SMTPホスト]ボックスにSMTPホストを指定します。
3. Email通知の送信時に管理サーバが使用するEmail送信元アドレスを[送信者のEmailアドレス]ボックスに指定します。
4. SMTPサーバを認証するには、[サーバには認証が必要です]チェックボックスを選択します。
5. [アカウント名]ボックスで、アカウント名を指定します。
6. [パスワード]ボックスで、パスワードを指定します。
7. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。

注記:



入力したパスワードが間違っていると、該当する受信者にEmail通知が送信されません。

関連プロシージャ

- イベント処理タスクの管理
- 指定するイベントおよびシステム属性を使用した新しい自動イベント処理タスクの作成
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- イベント フィルタの設定
- モデム設定の指定
- ステータス変更イベントの設定
- SNMPトラップの設定
- WBEMイベント

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例
- Email通知に基づく ポケベル タスクの作成

モデム設定の指定

モデムがポケベル メッセージの送信に使用するCOMポートを指定するには、次の手順を実行します。

注記:



モデム設定は、Windowsのみで指定できます。

ポケベル用にモデム設定を指定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[イベント]>[自動イベント処理]>[モデムの設定]**を選択します。**[モデムの設定]**ページが表示されます。
2. **[COMポート]**ドロップダウン ボックスで下向き矢印をクリックし、適切なCOMポートを選択します。詳細については、モデムのマニュアルを参照してください。
3. 設定を保存するには、**OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- 自動イベント処理タスクの編集
- 自動イベント処理タスクのコピー
- タスク定義の表示
- イベント タスク結果の表示
- 自動イベント処理タスクの有効化または無効化
- イベントの削除
- Email設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

イベントの確認

1. **[オプション]>[イベント]>[イベントの確認]**を選択します。**[イベントの確認]**ページが表示されます。
2. ターゲット イベントを選択します。ターゲット選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 適用をクリックします。
4. **すぐに実行**をクリックしてイベントをすぐに確認済みに変更し、**[タスク結果]**ページを表示するか、**スケジュール**をクリックして削除をスケジュールします。タスクを実行するスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

注記:



HP Systems Insight Managerでイベントが確認されると、HP Storage Essentialsでも確認されます。

HP Storage Essentialsでイベントが確認されると、HP Systems Insight Managerでも確認されます。

関連プロシージャ

- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- イベント フィルタの設定
- SNMPトラップの設定
- ステータス変更イベントの設定
- イベントの削除

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例
- サービス通知イベント

イベントの削除

1. [オプション]>[イベント]>[イベントの削除]を選択します。[イベントの削除]ページが表示されます。
2. ターゲット イベントを選択します。ターゲット選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 適用をクリックします。
4. （省略可能）削除するイベントを追加するには、ターゲットの追加をクリックします。削除プロセスからイベントを削除するには、ターゲットの削除をクリックします。
5. すぐに実行をクリックしてイベントをすぐに削除し、[タスク結果]ページを表示するか、スケジュールをクリックして削除をスケジュールします。タスクを実行するスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

注記:



HP Systems Insight Managerでイベントを削除しても、HP Storage Essentialsではそのイベントは削除されません。

HP Storage Essentialsでイベントを削除しても、HP Systems Insight Managerではそのイベントは削除されません。

関連プロシージャ

- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理
- イベント フィルタの設定
- SNMPトラップの設定
- ステータス変更イベントの設定
- イベントの確認

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例
- サービス通知イベント

イベント フィルタの設定

登録済みのSNMPトラップに対してイベント フィルタ設定を指定するには、次の手順を実行します。

イベント フィルタを設定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]->[イベント]->[イベント フィルタの設定]**を選択します。**[イベント フィルタの設定]**ページが表示されます。
2. 未登録イベントを受け入れるには、**[未登録イベントを受け付ける]**を選択します。未登録イベントを受け入れない場合は、このボックスの選択を解除します。
3. 特定深刻度の登録イベント、または複数の深刻度の登録イベントを受け入れるには、**[深刻度付きの登録イベントを受け付ける]**を選択します。
4. 受け入れる深刻度を選択します。使用可能オプションは、クリティカル、メジャー、マイナー、警告、および情報です。
5. **[検出したシステムから以下のIP範囲を受け付ける:]**ボックスに受け入れるIPアドレスの範囲を入力します。
6. **[検出したシステムから以下のIP範囲を除外する:]**ボックスにIP範囲を入力し、特定のシステムからのトラップを破棄します（省略可能）。

注記： IPアドレスの範囲が1台のシステムを1行に1つ入力します。複数の範囲やシステムはセミコロン（;）で区切ります。また、アスタリスク（*）を入力すると、全範囲のトラップを受け入れたり削除することができます。

7. 設定を受け入れるには、**OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- イベント処理タスクの管理
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- Email設定の指定
- モデム設定の指定
- ステータス変更イベントの設定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- MIBの管理

SNMPトラップの設定

SNMPトラップに関連して、ユーザが変更可能な属性の表示と編集を行うには、次の手順を実行します。

SNMPトラップを設定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]**→**[イベント]**→**[SNMPトラップの設定]**を選択します。**[SNMPトラップの設定]**ページが表示されます。
2. **[MIB名]**ドロップダウン リストからMIB名を選択します。
3. **[トラップ名]**ドロップダウン リストからトラップ名を選択します。**[イベント タイプ]**と**[説明]**は、選択したトラップ名によって変わります。
4. （省略可能）**[イベント タイプ]**を変更します。
5. （省略可能）**[説明]**を編集します。
6. **[トラップ処理有効]**ボックスで**[はい]**か**[いいえ]**を選択します。
7. **[カテゴリ]**ドロップダウン リストからカテゴリを選択します。
8. **[深刻度]**ドロップダウン リストから深刻度を選択します。使用可能オプションは、情報、マイナー、メジャー、クリティカルです。
9. 設定を保存するには、**OK**をクリックします。

SNMPトラップ フィールド

フィールド名	説明
MIB名	ドロップダウン リストからMIB名を選択します。残りのすべてのフィールドは、選択したMIB名に従って変化します。
トラップ名	[MIB名] フィールドでMIB名を選択すると、デフォルトのトラップ名が入力されます。ドロップダウン リストで別のトラップ名を選択すると、これを変更できます。

フィールド名	説明
イベント タイプ	タイプは、実際のトラップ名を考慮した形式です。この名前が、システムを的確に記述していない場合は、このタイプを変更します。
説明	説明は、ベンダによって提供されます。より具体的な指示、正確な参考資料、Webサイト参照で置き換えてください。
トラップ処理有効	ほとんどのトラップは有効になっています。トラップ処理を使用すると、メッセージの量を制御できます。不要な情報メッセージや、未対応イベントについて繰り返されるトラップメッセージなどの、無用なメッセージをオフに切り替えてください。
カテゴリ	カテゴリ リストには、HP Systems Insight Managerカテゴリ タイプと未割り当てがリストされます。
深刻度	一部のベンダは、すべての深刻度レベルにデフォルトの「情報」を使用しています。この深刻度を、ユーザの判断した問題の深刻度を反映するレベルに変更してください。または、使用している環境では、クリティカルなステータスではないことが明確にわかっている、トラップメッセージのメジャーまたはクリティカルな深刻度を変更できます。このようなステータスが当てはまるかどうかは、ユーザが判断します。HP Systems Insight Managerで有効なオプションは、クリティカル、メジャー、マイナー、情報、および未割り当てのみです。

関連プロシージャ

- Email設定の指定
- イベント フィルタの設定
- モデム設定の指定
- イベント処理タスクの管理
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- ステータス変更イベントの設定
- WBEMイベント

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例
- MIBの管理

ステータス変更イベントの設定

ハードウェアステータスが、クリティカル（到達不能）な状態から変化したか、クリティカルな状態に変化したときにシステムのステータス変更イベントを送信することを設定するには、次の手順を実行します。

ステータス変更イベント設定を指定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[イベント]>[ステータス変更イベントの設定]**を選択します。**[ステータス変更イベントの設定]**ページが表示されます。
2. このページでは、2つのオプションを使用できます。どちらか一方か両方のオプションを選択してください。
 - **[システムステータス変更イベントの作成を有効にする。]**。このオプションでは、ハードウェアステータスポーリングタスクのpingでシステムに到達できない場合に、システム到達不能イベントが送信されます。このオプションを有効にすると、システムが到達可能に戻ったとき、システム到達可能イベントが作成されます。
 - **[システムにアクセス可能な時、アクセス不能なシステムステータス変更イベントを自動的に消去します。]**。このオプションを有効にすると、到達不能だったシステムが応答を始めたとき、以前の到達不能イベントがクリア状態でマークされます。
3. 変更内容を適用するには、**OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- イベント処理タスクの管理
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- Email設定の指定
- イベントフィルタの設定
- モデム設定の指定
- SNMPトラップの設定
- WBEMイベント

関連トピック

- イベント
- イベント管理について
- Emailメッセージの例

WBEMイベント

HP Systems Insight Managerでは、グラフィカルユーザインタフェース（GUI）を介して、Webベースエンタープライズ管理（WBEM）イベントの予約と予約解除ができます。また、コマンドラインインタフェース（CLI）からも、WBEMイベントの予約と予約解除ができます。WBEMイベントをサポートしているシステムについてWBEMイベントを予約しないと、発生するどのWBEMイベントもイベントビューページに表示されません。

中央管理サーバ（CMS）上にOpenSSHをインストールおよび設定し、SSHのキーを有効化しておく必要があります。詳細については、「OpenSSHのインストール」を参照してください。

WBEMイベントは、HP-UX、Linux、およびSMI-Sデバイス（ストレージ、スイッチ、テープライブラリなど）で動作します。HP-UXおよびLinuxシステムについてのWBEMイベントを使用するには、管理対象システムにWBEMサービス2.0をインストールしておく必要があります。各管理対象システムには、正しいイベントプロバイダ（例：HP-UX上のEMSラップイベントプロバイダ）をインストールする必要があります。WBEMサービスとプロバイダのインストールの詳細については、「管理対象システム」を参照してください。HP-UXシステムとLinuxシステムで**mxwbemsub**コマンドを使用する場合、root権限が必要です。OpenSSHは、メニュー

ツールの実行時にのみ使用されます。**mxwbemsub**をコマンドラインで実行する場合、OpenSSHは必要ではありません。

WBEMイベントを受信するポートを設定する場合は、globalsettings.propsファイルと**WBEM_indications Listener_Port**プロパティを編集します。ポートのデフォルト値は、50004です（**WBEM_indications Listener_Port=50004**）。このポートが使用できない場合は、ファイルを編集し、適切な値を割り当てます。HP Systems Insight Managerが実行中の場合は、サービスを停止し、再起動すると、新しいポートにアクセスできます。WBEMイベントの予約がデフォルトのポート設定で設定された場合、それを削除し、再度追加すると、WBEMイベントがCMSに送信された際に新しいポートが使用されます。

WBEMイベントの予約と予約解除ができます。これらのオプションにアクセスするには、[オプション]->[イベント]->[WBEMイベントの登録]および[オプション]->[イベント]->[WBEMイベントの登録取り消し]を選択します。

関連プロシージャ

- WBEMイベントの予約

関連トピック

- WBEMイベント
- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- タスク結果リスト

WBEMイベントの予約

1. [オプション]->[イベント]->[WBEMイベントの登録]を選択します。[ステップ1:ターゲットシステムの選択]ページが表示されます。
2. ターゲットシステムを選択し、適用をクリックします。[ステップ1:ターゲットシステムの確認]ページが表示されます。
3. 次へをクリックします。[ステップ2:タスクの確認]ページが表示され、前の手順で作成したタスクの詳細情報が表示されます。
4. [すぐに実行]をクリックしてターゲットシステムにWBEMイベントを予約します。[タスク結果]ページが表示されます。

関連プロシージャ

- WBEMイベントの予約

関連トピック

- WBEMイベント
- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- タスク結果リスト

WBEMイベントの予約解除

1. [オプション]>[イベント]>[WBEMイベントの登録取り消し]を選択します。[ステップ1: ターゲット システムの確認]ページに、WBEMイベントが予約されたすべてのターゲットが表示されます。
2. ターゲットのWBEMイベントの予約を解除したくない場合は、ターゲットの横にあるチェックボックスを選択して、[ターゲットの削除]をクリックします。
3. 次へをクリックします。[ステップ2:タスクの確認]ページが表示され、前の手順で作成したタスクの詳細情報が表示されます。
4. [すぐに実行]をクリックしてターゲット システムのWBEMイベントの予約を解除します。[タスク結果]ページが表示されます。

タスクを後で実行するようスケジュールする場合は、**すぐに実行**をクリックしないで、**スケジュール**をクリックします。詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

注記:



mxwbemsub コマンドを使用すると、CLIを介して、予約をリストしたり、他の場所へ移動したりすることも可能です。詳細については、「コマンド ライン インタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連プロシージャ

- WBEMイベントの予約

関連トピック

- WBEMイベント
- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- タスク結果リスト

Emailメッセージの例

HP Systems Insight Managerから送信可能なEmailメッセージには、次の3種類があります。

- [標準]
- [ポケベル/SMS]
- [HTML]

各メッセージの詳細については、「これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成」を参照してください。

標準Emailメッセージの例

From: Doe, John
Sent: Wednesday, April 28, 2004 5:04 PM
To: Doe, Jane
Cc: Smith, Jim; Jones, Beth
Subject: System A: Storage System side panel is removed (Ver. 3):
Standard E-mail format

Event Name: Storage System side panel is removed (Ver. 3)
Event originator: System A
Event Severity: Major
Event received: 28-Apr-2004, 17:03:47

Event description: Storage System side panel is removed. The side panel status has been set to removed. The storage system's side panel is not in a properly installed state. This situation may result in improper cooling of the drives in the storage system due to air flow changes caused by the missing side panel.
User Action: Replace the storage system side panel.

Status: sidePanelRemoved

ポケベル/SMSメッセージの例

From: Doe, John
Sent: Wednesday, April 28, 2004 5:04 PM
To: Doe, Jane
Cc: Smith, Jim; Jones, Beth
Subject: System A: Storage System side panel is removed (Ver. 3):
Pager SMS Format E-mail testing

System A, Storage System side panel is removed (Ver. 3),Status: sidePanelRemoved

HTMLメッセージの例

From: Doe, John
Sent: Wednesday, April 28, 2004 5:04 PM
To: Doe, Jane
Cc: Smith, Jim; Jones, Beth
Subject: qaunit1: Storage System side panel is removed (Ver. 3):
HTML Format E-mail testing

イベントの識別および詳細

イベント識別度	メジャー
確認ステータス	未確認
イベントソース	132.1.102
関連システム	132.1.102
関連システムのステータス	正常
イベント時間	27-Apr-2005, 11:16:26 CDT
説明	Generic trap.
担当者	
コメント	

トラップの詳細

変数の説明	値
An administratively-assigned name for this managed node. By convention, this is the node's fully-qualified domain name.	DL38G3NET.JPN
The Trap Flags. This is a collection of flags used during trap delivery. Each bit has the following meaning: Bit 5-31: RESERVED; Always 0. Bit 2-4: Trap Condition 0= Not used (for backward compatibility) 1= Condition unknown or N/A 2= Condition ok 3= Condition degraded 4= Condition failed 5-7= reserved Bit 1: Client IP address type 0= static entry 1= DHCP entry Bit 0: Agent Type 0= Server 1= Client NOTE: bit 31 is the most significant bit, bit 0 is the least significant.	0
Data for the generic trap.	

ここで、quanit1は、システム名です。

関連プロシージャ

- イベント処理タスクの管理
- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- イベント フィルタの設定
- モデム設定の指定
- Email設定の指定

関連トピック

- イベント
- イベント管理について

サービス通知イベント

HPのサービス分析ツールであるWeb-Based Enterprise Services (WEBES) およびOpen Service Event Manager (OSEM) は、分析により保守可能なイベントがあると判断したら、特別なSNMPトラップを使用して、HP Systems Insight Managerに対するサービス通知を生成します。

この機能は、WEBES v4.4.1以上およびOSEM v1.3以上でサポートされており、バージョン4.0以上のHP Systems Insight Managerに含まれています。

これらのツールのダウンロードとインストール手順については、以下のURLにアクセスしてください。 <http://h18023.www1.hp.com/support/svctools/>

OSEMは、バージョン7.2以上の『Management CD』にも収録されています。

インスタント サポート エンタープライズ エディション (ISEE) をインストールすると、WEBES および OSEM のサービス通知は、リモートで発生したサポートの必要な事項についてのステータス情報も提供します。

ISEE のダウンロードと追加情報については、<http://www.hp.com/jp/isee> にアクセスして確認してください。

設定とセットアップ

サービス通知を正しく機能させるための、HP Systems Insight Manager での特別なセットアップはありません。それは、サービス管理情報ベース (MIB) が HP Systems Insight Manager キットに含まれており、通常のインストール時にコンパイルされるからです。

サービストラップが、通常、デフォルトで localhost に送信されるため、WEBES または OSEM が HP Systems Insight Manager と同じシステム上にインストールされている場合、特別なセットアップは不要です。WEBES または OSEM が HP Systems Insight Manager とは別のシステム上にインストールされている場合、『OSEM Installation Guide』の『How to Change the HP SIM Host Name』セクションで説明する手順を実行する必要があります。

WEBES の場合、オペレーティング システムのコマンド ラインから、**desta snmp** と入力してください。

サービストラップの送信先システムを入力するように指示されるので、WEBES と HP Systems Insight Manager が同じシステム上にあるかどうかとは関係なく、HP Systems Insight Manager のシステム名を入力してください。

HP Systems Insight Manager による、サービストラップ通知の処理

HP Systems Insight Manager は、WEBES または OSEM からサービストラップ通知を受け取ると、他の管理イベントとほぼ同じ方法で処理します。

これらのイベントを表示する方法は、1 つではありません。まず、特別な操作を必要としない方法として、**[すべてのイベント]**での表示があります。また、**[高度な検索]**機能を使用してイベント収集で表示することもできます。HP Systems Insight Manager 4.x では、**[高度な検索]**を使用して、イベント カテゴリ名が**[HP サービス イベント]**、タイプ名が**[すべて]**のイベントを検索する必要があります。HP Systems Insight Manager 5.0 では、この作業は、**[すべての HP サービス イベント]**によってデフォルトで実行されます。**[すべての HP サービス イベント]**には、**[システムおよびイベント]**パネルパネルで**[イベント]**→**[共有]**→**[すべての HP サービス イベント]**を選択することによってアクセスできます。

イベント テーブル ビュー ページでは、**[イベント タイプ]**は、**[レポート済みサービス]**として表示されます。**[システム名]**および**[イベント時刻]**は、故障したシステムまたはサブシステムおよびエラーの報告時刻を示します。**[深刻度]**は、メジャーとなります。これは、分析がメンテナンスが必要と判断した場合にのみサービス通知が送信されるからであり、また、サービストラップには Insight マネジメント エージェントが送信する SNMP トラップのような元のイベントに含まれる情報以外の情報が含まれるからでもあります。

サービストラップ通知の詳細

サービス通知の詳細を表示するには、イベント テーブル ビュー ページで、テーブルの**[イベント タイプ]**の下で、表示したい**[レポート済みサービス]**を選択して、サービストラップを表示します。

サービストラップは、次のような複数の種類の情報で構成されます。

- イベントID、ステータス、説明など基本トラップ情報
- 故障したシステムの属性を示すソース情報と、エラー発生時刻
- WEBESまたはOSEMイベント分析へのURLリンク。このリンクをクリックするとWEBESまたはOSEMのイベントビューアが表示され、そのイベントに関する詳細な分析とトラブルシューティング情報を見ることができます。
- ISEEクライアントへのURLリンク。そのイベントのコールステータスが表示されます。

注記:



このリンクは、ISEEがインストールされ、ISEEクライアントからステータス情報を正常に受け取っている場合にのみ利用できます。

-
- 推奨される処置。問題を解決するために実行すべき保守作業についての情報を提供します。故障位置、システムID、部品コールアウトなどの情報を含む可能性があります。

注記:



この機能は、HP Systems Insight Manager 5.0以上に付属のサービスMIBでのみ利用できます。また、OSEM v1.3.6またはWEBES v4.4.1が送信したサービストラップについてののみ利用できます。

-
- お客様による修理手順（利用できる場合）へのURLリンク。お客様が推奨処置を実行するのに役立つ指示書やビデオを提供します。

注記：この機能は、HP Systems Insight Manager 5.0以上に付属のサービスMIBでのみ利用できます。また、OSEM v1.3.6またはWEBES v4.4.1が送信したサービストラップについてののみ利用できます。

サービストラップとMIBタイプに関する情報

HP Systems Insight Manager 5.0には、サービスMIBの新しいバージョンが含まれ、OSEM 1.3.6およびWEBES v4.4.1が送信する高度なサービストラップをサポートします。OSEM 1.3.6については、OSEMの内部設定の「HP Systems Insight Manager trap revision」にアクセスして、新しいトラップタイプを生成するように設定する必要があります。WEBES 4.4.1は、デフォルトで新しいトラップを送信します。

新しいMIBはコンパイルして、HP Systems Insight Manager 4.xの古いバージョンに組み込むことができ、古いバージョンと新しいバージョンのサービストラップを認識します。最新バージョンのサービスMIBを入手するには、HPのWebサイト <http://h18023.www1.hp.com/support/svctools/>（英語）にアクセスして、**[WEBES]**または**[OSEM]**の下にある**[download service MIB]**を選択します。HP Systems Insight Managerに新しいサービスMIBを登録するには、HP Systems Insight Managerを実行するシステム上で次のように操作します。

1. MS-DOSウィンドウかUNIXシェルを開きます。

2. ディレクトリを、MIBを含むディレクトリに変更します。
 - **Windows**の場合：
`c:\program files\hp\systems insight manager\mibs`
 - **Linux**の場合：
`/opt/mx/mibs`
3. **mxmib -d cpqservice.mib**を実行して、古いサービスMIBの登録を解除します。
4. 古いcpqservice.mibおよびcpqservice.cfgを削除します。
5. 新しいcpqservice.mibをmibsディレクトリにコピーします。
6. **mcompile cpqservice.mib**を実行して、新しいサービスMIBを.cfgフォーマットにコンパイルします。
7. **mxmib -a cpqservice.cfg**を実行して、新しいサービスMIBを登録します。

関連プロシージャ

- MIBの登録
- MIBの登録解除

関連トピック

- デフォルト パブリック収集

イベント タスクの例

ポートフォリオを含めたい可能性のあるさまざまなイベント タスクの例を以下に示します。

- 確認済みサーバイベントの削除。 この例は、イベント収集の作成方法と、確認済みサーバイベントを削除するタスクの作成およびスケジュール設定手順を示します。
- 情報イベントの削除。 この例は、イベント収集の作成方法と、設定されたスケジュールに関する情報イベントを削除するタスクの作成およびスケジュール設定手順を示します。
- システムのステータスがクリティカルになった場合の**Email**送信。 この例は、イベント収集の作成方法と、システムのステータスがクリティカルになった場合にEmailを送信する自動イベント処理タスクの作成およびスケジュール設定手順を示します。
- ポケベル通知タスクの作成。 この例は、システムのステータスがクリティカル、メジャー、またはマイナーになった場合にポケベル通知を送信する自動イベント処理タスクの作成方法を示します。

関連プロシージャ

- すべての確認済みイベント削除タスクの作成
- 30日以前のイベント削除タスクの作成
- Email通知に基づくポケベル タスクの作成
- システムがクリティカルな状態になったときEmailを送信するタスクの作成

Email通知に基づくポケベル タスクの作成

中央管理サーバ（CMS）がクリティカル、メジャー、またはマイナーなイベントを受信したときに、BlackBerry、携帯電話（SMSなど）、その他のポケベル通知インタフェース アプリケーションに転送可能なEmailをHP Systems Insight Managerで送信できるようにする、通知タスクを設定することができます。

重要:



時間フィルタを使用する場合は、オンコール スタイルのEmailまたはポケベル通知を使用することができます。ある人物には日中の営業時間内に通知し、もう1人には夜間に通知する場合は、2種類のタスクを作成し、時間フィルタを適切に設定します。

注記:



これと同様のタスク設定をポケベルのタスクに適用すると、HP Systems Insight Managerサーバのモデムが、BlackBerryまたは英数字表示のポケベルを経由して、ポケベル通知を出すことができるように設定できます。

注記:



ポケベル通知は、WindowsベースのCMSでのみサポートされています。

注記:



日本国内では、ポケベル通知機能はサポートされていません。

タスクを作成するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[イベント]>[自動イベント処理]>[新規タスク]を選択します。[自動イベント処理] - [新規タスク]ページが表示されます。
2. [イベントおよび指定するシステム プロパティから]または[存在するイベント収集から]を選択します。以下の手順を実行してタスクを作成します。
3. [タスク名]フィールドに、「**Email** - ポケベル通知タスク用重要イベント」などのタスクの名前を入力します。

4. 次へをクリックします。[イベントの選択]セクションが表示されます。イベント基準の選択については、「イベントの高度な検索の実行」を参照してください。
5. 新しいイベント収集を作成する場合は、最初の選択ボックス（基準の選択）から、[深刻度]を選択します。それ以外の場合は、すべてのイベント収集のリストが表示されます。
6. 2番目の選択ボックス（比較の選択）から、[次]を選択します。
7. 3番目の選択ボックス（値の選択）から、[クリティカル]を選択します。
8. 追加をクリックして、「メジャー」と「マイナー」の2つの深刻度をタスクに追加します。
9. 3番目の選択ボックスで、5から6の手順を繰り返します。[メジャー]および[マイナー]を選択してください。
10. 次へをクリックします。[システムの選択]セクションが表示されます。システムの選択基準については、「システムの高度な検索の実行」を参照してください。
11. 最初の選択ボックス（基準の選択）から、[システム名]を選択します。
12. 2番目の選択ボックス（比較の選択）から、[次]を選択します。
13. 3番目の選択ボックス（値の選択）から、[すべて]を選択します。
14. 次へをクリックします。[アクションの選択]セクションが表示されます。
15. [Emailの送信]を選択します。
16. [送信先]フィールドに、通知を送信するEmailアドレスを入力します（複数のアドレスを指定するとグループに通知することができます）。[CC]アドレスを追加すると管理者またはスーパーバイザにも通知することができます。
17. [件名:]フィールドに、「**HP Systems Insight Managerイベント**」などの件名を入力します。
18. [メッセージ フォーマット]セクションで、[ポケベル/SMS]オプションに変更します。これで、HP Systems Insight Managerでのポケベル通知タスクと同様のフォーマットで圧縮したEmailが送信されます。この方法は、BlackBerryまたは携帯電話などのハードウェアに警告を送信する場合（またはTAPIが使用できず、Emailからポケベルへの転送通知サービスを利用しているとき）には、理想的な方法です。
19. 次へをクリックします。[時間フィルタの選択]セクションが表示されます。
20. 24時間中いつでもEmailを受信する場合を除いて、[時間フィルタの使用]と[夜および週末]を選択します。24時間中いつでも受信する場合は[時間フィルタの使用]をクリアします。フィルタの詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
21. 次へをクリックします。[概要のレビュー]が表示されます。
22. 戻るをクリックして内容を変更するか、終了をクリックしてタスクを保存します。

関連プロシージャ

- これから指定するイベントおよびシステム属性による新規イベント処理タスクの作成
- 既存のイベント収集による自動イベント処理タスクの作成
- イベント処理タスクの管理

- タスクのスケジュール設定
- 時間フィルタの適用

すべての確認済みイベント削除タスクの作成

以下の例は、すべての確認済みサーバ イベントをHP Systems Insight Managerデータベースから削除するタスクの作成方法を示します。これはユーザの管理ポートフォリオに加えると便利なタスクです。確認済みイベントを日常的に削除しておく、データベースから不必要なエントリがなくなり、システムのパフォーマンスが向上します。

次のように、このタスクには2つのセグメントがあります。

- 削除するイベントを含むイベント収集の作成
- すべての確認済みサーバ イベントを削除するタスクの作成およびスケジュール設定とタスクの実行

イベント収集の作成

1. **[検索]**パネルで**[高度な検索]**をクリックします。**[高度な検索]**ページが表示されます。
2. **[検索対象]**ドロップダウン ボックスから**[イベント]**を選択します。
3. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、**[確認ステータス]**を選択します。
4. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、**[次]**を選択します。
5. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。**[確認済み]**を選択します。
6. 追加をクリックして、システム タイプ条件を追加します。
7. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、**[システム タイプ]**を選択します。
8. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、**[次]**を選択します。
9. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。**[サーバ]**を選択します。
10. （省略可能）検索結果を表示するには、**表示**をクリックします。
11. 名前を付けて保存をクリックしてイベント収集を保存します。
12. **[名前]**フィールドに、**[確認済みイベントの削除]**などの収集名を入力します。
13. **[保存場所]**で、**[深刻度別イベント]**への収集の保存を選択して、他のユーザが収集を利用できるようにします。
14. 収集を保存するには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

タスクの作成およびスケジュール設定

1. [オプション]>[イベント]>[イベントの削除]を選択します。[イベントの削除]ページが表示されます。
2. [確認済みイベントの削除]収集を選択します。["確認済みイベントの削除"自体を選択]チェックボックスを選択します。
3. 適用をクリックします。
4. スケジュールをクリックします。
5. [タスク名]ボックスで、タスクに[確認済みイベントの削除タスク]などの名前を付けます。
6. [スケジュールの調整]セクションで、使用したいスケジュール オプションを選択します。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
7. 完了をクリックします。この時点でタスクがスケジュール設定され、[スケジュールされたすべてのタスク]ページが表示されます。

このタスクを任意の時間に実行するには、[タスク&ログ]>[タスク結果の表示]を選択します。テーブルから[確認済みイベントの削除タスク]を選択し、すぐに実行をクリックします。詳細については、「スケジュール済みタスクの実行」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- 収集の保存
- データベースからのイベントの削除

関連トピック

- ツリー ビューのナビゲート

30日以前のイベント削除タスクの作成

一連の条件に基づいてイベントを削除するには、このタスクを使用します。たとえば、6週間以上前のすべての情報イベントを削除する「Delete Informational Events」というタスクを作成することができます。

注記:



セキュリティ イベントを削除するには、完全な設定権が必要です。

収集の作成

1. [検索]パネルで[高度な検索]をクリックします。[高度な検索]ページが表示されます。

2. **[検索対象]**ドロップダウン ボックスから**[イベント]**を選択します。
3. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、**[深刻度]**を選択します。
4. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、**[次]**を選択します。
5. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。**[情報]**を選択します。
6. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。**[正常]**を選択します。
7. 追加をクリックして「正常」深刻度を選択します。
8. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、**[深刻度]**を選択します。
9. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、**[次]**を選択します。
10. 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。**[正常]**を選択します。
11. 追加をクリックして「正常」深刻度を選択します。
12. 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、**[イベント時間]**を選択します。
13. 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、**[が次より古い]**を選択して**[30日]**を選択します。
14. （省略可能）検索結果を表示するには、**表示**をクリックします。
15. 名前を付けて保存をクリックしてイベント収集を保存します。
16. **[名前]**フィールドに、**[不要なイベントの削除]**などの収集名を入力します。
17. **[保存場所]**で、**[深刻度別イベント]**への収集の保存を選択して、他のユーザが収集を利用できるようにします。
18. 収集を保存するには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

タスクのスケジュール設定

1. **[オプション]**>**[イベント]**>**[イベントの削除]**を選択します。**[イベントの削除]**ページが表示されます。
2. **[不要なイベントの削除]**収集を選択します。**["不要なイベントの削除"自体を選択]**チェックボックスを選択します。
3. **適用**をクリックします。
4. **スケジュール**をクリックします。
5. **[タスク名]**ボックスで、タスクに**[不要なイベントの削除タスク]**などの名前を付けます。
6. **[スケジュールの調整]**セクションで、**[次の間隔毎 [1週] 曜日 [土] 時間 [0 : 00]]**を選択するか、タスクを実行したい日時を選択します。

- 完了をクリックします。この時点でタスクがスケジュール設定され、[スケジュールされたすべてのタスク]ページが表示されます。

このタスクを任意の時間に実行するには、[タスク&ログ]->[タスク結果の表示]を選択します。テーブルから[不要なイベントの削除タスク]を選択し、**すぐに実行**をクリックします。詳細については、「スケジュール済みタスクの実行」を参照してください。

関連プロシージャ

- イベントの高度な検索の実行
- タスクの作成
- タスクのスケジュール設定
- イベントの削除
- 収集の保存
- スケジュール済みタスクの実行

関連トピック

- ツリー ビューのナビゲート

システムがクリティカルな状態になったときEmailを送信するタスクの作成

以下の手順により、検出されたシステムのステータスがクリティカルになったときに実行される自動イベント処理タスクを設定することができます。

注記:



自動イベント処理タスクについては、選択できるサーバの最大数は100です。

収集の作成

- [検索]パネルで[高度な検索]をクリックします。[高度な検索]ページが表示されます。
- [検索対象]ドロップダウン ボックスから[イベント]を選択します。
- 第1選択ボックス（条件選択）で下向き矢印をクリックし、[深刻度]を選択します。
- 第2選択ボックス（比較演算子選択）で下向き矢印をクリックし、[次]を選択します。
- 第3選択ボックス（値選択）には、条件と比較演算子の特定の組み合わせに使用できる値が表示されます。[クリティカル]を選択します。
- （省略可能）検索結果を表示するには、表示をクリックします。
- 名前を付けて保存をクリックしてイベント収集を保存します。
- [名前]フィールドに、[Critical Events]などの収集名を入力します。

9. [保存場所]で、[深刻度別イベント]への収集の保存を選択して、他のユーザが収集を利用できるようにします。
10. 収集を保存するには、**OK**をクリックします。操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

Emailを送信するためのHP Systems Insight Managerの設定

1. [オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[Emailの設定]を選択します。[Emailの設定]ページが表示されます。
2. [SMTPホスト]ボックスにSMTPホストを指定します。
3. Email通知の送信時に管理サーバが使用するEmail送信元アドレスを[送信者のEmailアドレス]ボックスに指定します。
4. SMTPサーバを認証するには、[サーバには認証が必要です]チェックボックスを選択します。
5. [アカウント名]ボックスで、アカウント名を指定します。
6. [パスワード]ボックスで、パスワードを指定します。
7. 変更内容を保存するには、**OK**をクリックします。

ステータス変更イベントの設定

1. [オプション]->[イベント]->[ステータス変更イベントの設定]を選択します。[ステータス変更イベントの設定]ページが表示されます。
2. [システム ステータス変更イベントの作成を有効にする。]を選択します。このオプションでは、ハードウェア ステータス ポーリング タスクのpingでシステムに到達できない場合に、システム到達不能イベントが送信されます。このオプションを有効にすると、システムが到達可能に戻ったとき、システム到達可能イベントが作成されます。
3. 変更内容を適用するには、**OK**をクリックします。

タスクの作成

1. [オプション]->[イベント]->[自動イベント処理]->[新規タスク]を選択します。[自動イベント処理] - [新規タスク]ページが表示されます。
2. [存在するイベント収集から]を選択します。新しいタスクを定義するには、5つのステップを実行します。
3. 存在するイベント収集を使用する場合、オプション選択後、新規タスクを定義するために以下の5つのステップを完了する必要があります。[ステップ1, 名前の選択]が強調表示されます。[タスク名]ボックスに、[Send E-mail for Critical Status]などのタスクの名前を入力してください。
4. 次へをクリックします。[ステップ2, 存在するイベント収集の選択]ページが表示されます。
5. ドロップダウン ボックスから[Critical Events]収集を選択します。
6. [Emailの送信]を選択します。

- **[宛先]**フィールドに、通知を受信するEmailアドレスのリストを入力します。

[CC]フィールドに、Emailのコピーを受信する必要があるEmailアドレスを入力します(各アドレスをカンマで区切ります)。

[件名]フィールドに、Emailの件名を入力します。

[メッセージ フォーマット]フィールドで、受信者のエンコーディング優先順位に応じて次のフォーマットのいずれかを選択します。

- **[標準]**。デフォルトのメッセージフォーマットでテキスト形式のEmailメッセージが受信者に送信されます。
- **[ポケベル/SMS]**。同じ情報がポケベル メッセージ フォーマットで受信者に送信されます。
- **[HTML]**。 **[HTMLイベント詳細]**ページに似たEmailメッセージが受信者へ送信されます。

[エンコーディング]フィールドで、次のフォーマットのいずれかを選択します。

- 西ヨーロッパ言語 (**ISO-8859-1**)
- **Unicode (UTF-8)**
- 日本語 (**ISO-2022-JP**)
- 日本語 (シフト **JIS**)
- 日本語 (**EUC**)

7. 選択したら、次へをクリックします。
8. **[ステップ4, 時間フィルタの選択]**が表示されます。時間フィルタを使用する場合は、**[時間フィルタの使用]**チェックボックスを選択して、ドロップダウン リストからオプションを選択します。

ユーザ定義フィルタを設定する場合は、**フィルタの管理**をクリックします。詳細については、「時間フィルタの適用」を参照してください。
9. 情報を入力したら、次へをクリックします。
10. 次へをクリックすると、**[ステップ5, 概要のレビュー]**ページが表示され、**[タスク名]**、**[イベント収集]**、**[イベント]**、および**[アクション]**情報が表示されます。Email設定を編集する必要がある場合、SMTP設定を編集するには、**Email設定の編集**をクリックします。詳細については、「SNMPトラップの設定」を参照してください。
11. 新しいタスクを作成するには、**終了**をクリックします。

関連プロシージャ

- イベント処理タスクの管理
- Email設定の指定
- イベント フィルタの設定

ステータス ポーリング

ポーリング タスクでは、システム リストに載っているシステムのシステム ヘルス ステータスが追跡されます。SNMPトラップやその他のイベントが管理コンソールに正しく届かない場合、システムが正常な状態になっているかどうかを簡単に調べることができます。システムがいつオフラインになるか、またはパフォーマンスがいつ低下するかを判断するためには、システムのステータス ポーリングを連続して行う必要があります。特定システムのポーリング タスクをカスタマイズして、スケジュールした時刻に実行できます。また、特定の要件に合わせて、さまざまなシステム リストやイベント リストで、新しいポーリング タスクを作成することもできます。

注記:



DMIステータス ポーリングは、Windows 中央管理サーバとターゲット システムでのみサポートされます。

デフォルトのポーリング タスクは、次の2つです。

- **ソフトウェア ステータス ポーリング。** ソフトウェア バージョン更新ステータスを判断するには、ソフトウェア ステータス ポーリングを使用します。このタスクは7日ごとに実行するように設定されており、デフォルトでは水曜日の深夜12時に実行されます。このタスクは、編集していつでも実行できます。このタスクでは、以下が実行されます。

- ソフトウェアとファームウェアのインベントリをシステムから取得
- ソフトウェアとファームウェアの更新ステータスを判断
- データベースでバージョンを並び替えます。

ソフトウェア ステータス ポーリングを利用するには、[オプション]>[ステータス ポーリング]>[ソフトウェア ステータス ポーリング]を選択します。

- **ハードウェア ステータス ポーリング。** システム ステータスの追跡調査に使用します。次の2種類のハードウェア ステータス ポーリング タスクがあります。
- **[ハードウェア ステータス ポーリング -非サーバ]**。タイプが、サーバ、クラスタ、または管理プロセッサではないターゲットシステムのステータス情報を収集する場合に使用します。このタスクは、デフォルトで、スタートアップ時と、その後は10分に1回ポーリングを実行しますが、ステータス変更イベントを送信しません。
- **[ハードウェア ステータス ポーリング -サーバ]**。タイプが、サーバ、クラスタ、または管理プロセッサのSNMPシステムのステータス情報を収集する場合に、使用します。このタスクは、デフォルトで、スタートアップ時とその後は5分ごとにポーリングを実行し、イベントに基づいて通知タスクを設定できるステータス変更イベントを送信します。

ハードウェア ステータス ポーリングを利用するには、[オプション]>[ステータス ポーリング]>[ハードウェア ステータス ポーリング]を選択します。

関連プロシージャ

- ハードウェア ステータス ポーリング
- ソフトウェア ステータス ポーリング

関連トピック

- デフォルト ポーリング タスクについて

ソフトウェア ステータス ポーリング

次の例は、管理対象システムのソフトウェアが最新かどうかを調べるソフトウェアバージョンステータス ポーリング タスクを作成する方法を説明しています。このタスクでは、すべてのサーバリストがデフォルト リストとして使用されます。

注記:



HP Systems Insight Managerをインストールしたとき、このタスクの1つのインスタンスがデフォルトで作成されます。このタスクは週ごとに実行されます。このタスクは、削除されていた場合にのみ作成します。

ソフトウェア ステータス ポーリング タスクを作成するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[ステータス ポーリング]>[ソフトウェア ステータス ポーリング]を選択します。
2. [すべてのシステム]収集からターゲットシステムを選択します。デフォルトでは、[すべてのシステム]が選択されています。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. タスクをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

関連プロシージャ

- ハードウェア ステータス ポーリング

関連トピック

- ステータス ポーリング
- デフォルト ポーリング タスクについて

ハードウェア ステータス ポーリング

HP Systems Insight Managerでは、定義済みハードウェア ステータス ポーリング タスクでシステムヘルスステータスが追跡されます。このタスクでは、さまざまなプロトコルでハードウェアステータスの更新がポーリングされます。以下では、ハードウェア ステータス ポーリングを使用してシステムをポーリングするタスクの設定方法について説明します。

注記:



HP Systems Insight Managerをインストールしたとき、このタスクの1つのインスタンスがデフォルトで作成されます。新しいシステムやイベントが検索条件に適合する場合、そのインスタンスが実行されます。このタスクは、削除されていた場合にのみ作成します。

ハードウェア ステータス ポーリング タスクを作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[ステータス ポーリング]>[ハードウェア ステータス ポーリング]**を選択します。
2. ターゲットシステムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。**[プロトコル設定の選択]**セクションが表示されます。
4. 以下のプロトコルから選択します。

- DMI

注記：DMIは、Windowsシステムでのみ使用できます。

- HTTP
- SNMP
- WBEM

注記：デフォルトでは、すべてのプロトコルが選択されています。すべてのプロトコルが選択されていないと、スケジュールボタンとすぐに実行ボタンは無効になります。

5. **[タイムアウト（秒）]**を選択します。
 - デフォルトの使用（現在は「4」）
 - **[カスタムを使用]**。タイムアウトの最大値は120秒、最小値は1秒です。
6. 再試行回数を選択します。
 - デフォルトの使用（現在は「1」）
 - **[カスタムを使用]**。再試行回数の最大値は10回、最小値は0回です。
7. タスクを実行するには、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - **スケジュール**。タスクの実行タイミングをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
 - **すぐに実行**。タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。**[タスク結果ページ]**が表示されます。「タスク結果リスト」を参照してください。

- 戻る。戻るをクリックすると、前のページに戻ります。

関連プロシージャ

- ソフトウェア ステータス ポーリング

関連トピック

- ステータス ポーリング
- デフォルト ポーリング タスクについて

WMI Mapperプロキシ

WMI Mapperプロキシとは、WMI用の設定のことです。WMI Mapperは、クライアントCIM/XML WBEM要求を受信し、その要求をWindows Management Instrumentation(WMI) 要求に変換します。WMI結果は、CIM/XML形式に変換されて、クライアントに返されます。検出と識別タスクでは、WMI Mapperプロキシ リストのプロキシが使用されて、システムがWMI対応システムであるかどうかを検出されます。システムがWMI対応である場合は、特定プロキシに基づいて、そのシステムの識別情報が返されます。

WMI Mapperプロキシ機能では、以下が可能です。

- **WMI Mapperプロキシの追加。** [オプション]>[プロトコル設定]>[WMI Mapperプロキシ]>[新規]を選択します。[WMI Mapperプロキシの追加]セクションが表示されます。
- **WMI Mapperプロキシの編集。** [オプション]>[プロトコル設定]>[WMI Mapperプロキシ]を選択します。編集するプロキシを選択し、[編集]をクリックします。[WMI Mapperプロキシの編集]セクションが表示されます。
- **WMI Mapperプロキシの削除。** [オプション]>[プロトコル設定]>[WMI Mapperプロキシ]を選択します。削除するシステムを選択し、削除をクリックします。確認ボックスが表示されます。システムを削除するには、**OK**をクリックします。削除をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

注記:



列見出しをクリックし、列を並び替えます。

関連プロシージャ

- WMI Mapperプロキシの追加
- WMI Mapperプロキシの編集
- WMI Mapperプロキシの削除

関連トピック

- プロトコル

WMI Mapperプロキシの追加

HP Systems Insight Managerでは、WMI Mapperプロキシを追加して、HP Systems Insight Managerの新しいプロキシを定義できます。

注記:



Windows Management Instrumentation (WMI) Mapperプロキシの追加、編集、削除を行うには、完全な設定権が必要です。

WMI Mapperプロキシを追加するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[プロトコル設定]>[WMI Mapperプロキシ]>[新規]**を選択します。**[WMI Mapperプロキシの追加]**セクションが表示されます。
2. **[ホスト]**フィールドに、WMI Mapperプロキシの完全DNS名またはWMI MapperプロキシのIPアドレスを入力します。
3. **[ポート番号]**フィールドに、ポート番号を入力します。WMI Mapperプロキシは、このポート番号を使用して、WMIクライアントとやり取りします。
4. **[WMI Mapperプロキシの追加]**セクションを保存して閉じる場合は、**OK**をクリックします。**[WMI Mapperプロキシの追加]**セクションを閉じないで保存する場合は、**適用**をクリックします。保存操作を中止するには、**キャンセル**をクリックします。

関連プロシージャ

- WMI Mapperプロキシの編集
- WMI Mapperプロキシの削除

関連トピック

- WMI Mapperプロキシ

WMI Mapperプロキシの編集

プロキシ情報を更新するには、Windows Management Instrumentation (WMI) Mapperプロキシを編集します。プロキシは、1つずつしか編集できません。

注記:



WMI Mapperプロキシの追加、変更、削除を行うには、完全な設定権が必要です。

WMI Mapperプロキシを編集するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[プロトコル設定]>[WMI Mapperプロキシ]を選択します。
2. 編集するプロキシを選択し、編集をクリックします。[WMI Mapperプロキシの編集]セクションが表示されます。
3. [ポート番号]フィールドで、ポート番号を変更します。WMI Mapperプロキシは、このポート番号を使用して、WMIクライアントとやり取りします。
4. 保存するには**OK**をクリックします。編集操作を中止するには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- WMI Mapperプロキシの追加
- WMI Mapperプロキシの削除

関連トピック

- WMI Mapperプロキシ

WMI Mapperプロキシの削除

HP Systems Insight Managerでは、Windows Management Instrumentation (WMI) Mapperプロキシを削除できます。削除オプションでは、選択したすべてのプロキシを削除できます。1つ以上のプロキシを選択した場合に限って、削除機能を使用できます。

注意:



1つ以上のWMI Mapperプロキシを削除すると、永久に削除され、プロキシを復元することはできません。

注記:



WMI Mapperプロキシの追加、変更、削除を行うには、完全な設定権が必要です。

WMI Mapperプロキシを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[プロトコル設定]>[WMI Mapperプロキシ]を選択します。
2. 削除するシステムを選択します。
注記：列見出しをクリックし、列で並び替えます。
3. 削除をクリックします。

WMI Mapperプロキシの削除を確認するように要求するメッセージが表示されます。

4. WMI Mapperプロキシの削除を確定するには、**OK**をクリックします。削除操作をキャンセルするには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- WMI Mapperプロキシの追加
- WMI Mapperプロキシの編集

関連トピック

- WMI Mapperプロキシ

プロトコル

プロトコル設定は、グローバルに指定してすべてのシステムに適用したり、個別システムまたはシステム グループに指定したりすることができます。

グローバルにプロトコル設定を指定するには、次のいずれかの方法で[グローバル プロトコルの設定]ページにアクセスします。

- [オプション]>[プロトコル設定]>[グローバル プロトコル設定]を選択します。
- HP Systems Insight Manager紹介ページの[インストールを完了するために以下をすぐに実行してください]セクションで[プロトコル設定]をクリックします。
- [自動検出 - 一般設定]ページの[検出の設定]セクションで[グローバル プロトコル設定]をクリックします。

単一システムかシステム グループでプロトコル設定を指定するには、次の方法で[システム プロトコル設定]ページにアクセスします。

- [すべてのシステム]ページで、希望のシステムの[システム名]ホットリンクをクリックして、システムの[システム ページ]にアクセスしてから、[ツール&リンク]タブ ページの[システム プロトコル設定]ホットリンクをクリックします。
- [オプション]>[プロトコル設定]>[システム プロトコル設定]を選択します。プロトコル設定を指定する単一システムを選択してください。

単一システムのプロトコル設定を指定するには、[ツール]>[システム情報]>[システム ページ]を選択して[システム プロトコル設定]ページにアクセスし、ターゲット システムを選択します。すぐに実行をクリックして[リンク]>[システム プロトコル設定]を選択します。

関連プロシージャ

- グローバル プロトコル設定
- システムまたはシステム グループのプロトコル設定
- 単一システムのプロトコル設定

関連トピック

- グローバル プロトコル

グローバル プロトコル設定

デフォルトのシステム全体のプロトコル設定を設定するには、グローバル プロトコルを設定します。このデフォルトは、新しく検出された、すべてのシステムに適用されます。パスワードとコミュニティ名では、1つの文字列が機能するまで、デフォルト リストが繰り返されます。最も頻繁に使用するパスワードかコミュニティ名をリストの先頭に配置することをおすすめします。

注記:



次の手順では、すべてのセクションは省略可能ですが、システムを適切に管理するために設定することを強くおすすめします。

注記:



[自動検出 - 一般設定]ページから[グローバル プロトコル設定]ページにアクセスした場合は、ページ最上部の[自動検出]をクリックして[自動検出 - 一般設定]ページに戻ることができます。その他の場合は、このオプションを使用できません。

グローバル管理プロトコル設定を設定するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[プロトコル設定]>[グローバル プロトコル設定]を選択します。[グローバル プロトコルの設定]ページが表示されます。
2. [デフォルト **ping** (ICMP) 設定]セクションで、[システム到達性 (**ping**) チェックに **ICMP** プロトコルを使用]か[システム到達性 (**ping**) チェックに **TCP** プロトコルを使用。ポート番号:**80**]を選択します。[システム到達性 (**ping**) チェックに **ICMP** プロトコルを使用]がデフォルトで、推奨設定です。

[システム到達性 (**ping**) チェックに **TCP** プロトコルを使用。ポート番号:**80**]企業ネットワークでICMPを無効に設定している場合や、会社の方針としてシステム ファイアウォール ソフトウェアによってICMPリクエストを破棄することを義務付けている場合。たとえば、Windows XPにはこの機能が組み込まれており、自動的に検出されません。このオプションによって、HP Systems Insight Managerを実行し、すべての使用可能なシステムに対してpingを実行できます。

注記：このオプションは、IPベースのシステムにのみ適用され、HP Systems Insight Managerのすべてのシステムの管理に使用されるグローバルでシステム全体に対する設定として利用できます。これは、自動検出、ハードウェア ステータス ポーリング、pingツール、およびシステムの可用性を確認する必要があるその他のツールで使用します。このオプションは、単一システム ベースでは使用できません。

注記：[システム到達性 (**ping**) チェックに **TCP** プロトコルを使用。ポート番号:**80**]を選択した場合、HP Systems Insight Managerが現在のシステムに接続リクエストを実行しようとした場合でも、このオプションを動作させるために特別なソフトウェアを追加する必要はありません。たとえば、Webサーバをポート80で実行する必要はありません。一部のネットワークシステムではTCPリクエストに応答しない場合があります。これは通常、ローエンドのネットワーク機器で見られます。必要に応じて、手作業で追加を行うことが可能

です。ただし、ハードウェア ステータス ポーリングの実行中は、システムはクリティカルと表示されます。

3. また、[デフォルト **ping (ICMP) 設定**]セクションでも、[デフォルト タイムアウト]と[デフォルト再試行]を設定します。WANかサテライト リンクで管理するシステムがある場合は、再試行回数を最低でも1回設定し、タイムアウトを長くしてください（たとえば5秒）。LANの場合は、タイムアウトを短くできます。これは、単一システム ベース上で設定できます。単一システムのプロトコル設定の詳細については、「システムまたはシステム グループのプロトコル設定」を参照してください。

4. [デフォルト **WBEM設定**]セクションで、[**WBEM有効**]チェックボックスを選択し、Web ベース エンタープライズ管理 (WBEM) リクエストが送信されるように設定します。デフォルトでは有効に設定されています。必要に応じて、デフォルトのユーザ名とパスワードを入力します。ネットワークにストレージ システムが含まれている場合は、このセクションで、各SMI CIMOMのユーザ名とパスワードを入力します。認証プロセスでは、正常な応答があるまで、このユーザ名とパスワードのペアが試されます。そのシステムのその後のWBEM要求では、正常に回答したユーザ名とパスワードが使用されます。Windows ベース システムの場合は、`domainname\username`のように、ユーザ名にドメイン名を含めます。

注記：rootとadministratorのパスワードを先にリストし、次にユーザとゲストのパスワードをリストするという順序で、ユーザ名とパスワードのペアを並べると、検索時間が短くなります。

5. [デフォルト **HTTP設定**]セクションで、Webベース エージェントやその他のHTTPポート スキャンの認証が必要な場合、[**HTTPおよびHTTPSを有効**]を選択します。システムを適切に管理かつ検出するために、このオプションを有効のままにしておくことをおすすめします。
6. [デフォルト **SNMP設定**]セクションで、[**SNMP有効**]チェックボックスを選択（この設定がデフォルト）して、[デフォルト タイムアウト]と[デフォルト再試行]を設定します。WANかサテライト リンクで管理するシステムがある場合は、再試行回数を最低でも1回設定し、タイムアウトを長くしてください（たとえば5秒）。LANの場合は、タイムアウトを短くできます。これは、単一システム ベース上で設定できます。
7. [デフォルト書込みコミュニティ名]を入力します。この値では、大文字と小文字が区別されます。このオプションを設定する必要があるツールは、それほどありません。コミュニティ名では、大文字と小文字を区別します。
8. [読み込みコミュニティ名]を入力します。この値では、大文字と小文字が区別されます。必要な数だけ入力してください。認証プロセスでは、正常な応答を取得するまで、それぞれのコミュニティを使用して、システムとの通信が試されます。その後のSNMP要求では、正常な応答があったコミュニティ名が使用されます。
9. [デフォルト **DMI設定**]セクションで、[**DMI有効**]チェックボックスを選択（この設定がデフォルト）して、デスクトップ管理インタフェース (DMI) 識別の実行を有効にします。DMIは、一部の旧式デスクトップ、HP-UXサーバ、および一部のサードパーティ製サーバの管理に使用します。これらの種類のシステムを管理する必要がない場合、DMIを無効に設定し、検出パフォーマンスを改善することが可能です。

注記：Linuxシステムでは、現在のところ、DMIはサポートされていないため、ユーザ インタフェースには表示されません。

注記：DMIが無効に設定されている場合で、システム タイプや製品名が正しくないシステムがある場合は、DMIを再度有効に設定してください。

注記：DMI識別は、WindowsベースおよびHP-UXベースの中央管理サーバ（CMS）のインストールでのみサポートされています。また、同種のオペレーティングシステムしか識別できません。たとえば、WindowsベースのCMSはWindowsベースのDMIシステムだけを、HP-UXベースのCMSはHP-UXベースのDMIシステムだけを、それぞれ識別できます。

10. 設定を受け入れるには、**OK**をクリックします。

[検出]ページからこのページにアクセスした場合は、変更を行った後、[自動検出]をクリックして、[検出]ページに戻ります。

関連トピック

- プロトコル
- グローバル プロトコル

システムまたはシステム グループのプロトコル設定

個別システムまたは類似システムのグループで設定を微調整するには、単一システム プロトコル設定を指定します。一部のシステムがLANでアクセスされ、その他のシステムがWANでアクセスされる場合は、このオプションがとくに便利です。WANでアクセスされるシステムは、タイムアウトを長く、再試行回数を多く設定する必要があります。

注記:



このツールを初めて使用するときに収集を選択した場合は、ページの最上部で収集リンクをクリックできます。ポップアップ ウィンドウに、選択した収集のすべてのシステムが表示されます。このウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。単一システムを選択した場合、このリンクは表示されません。

単一システム、または類似システムのグループでプロトコル設定を指定するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[プロトコル設定]>[システム プロトコル設定]を選択します。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。
4. [Ping (ICMP) 設定]セクションで、[このプロトコルの値を更新します]を選択して、ICMP 設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。
5. [Ping (ICMP) 設定]セクションで、次のうちいずれかを選択します。
 - [グローバル デフォルトを使用]
 - [下で指定した値を使用]。[タイムアウト（秒）]と[再試行]を入力します。
6. [WBEM設定]セクションで、[このプロトコルの値を更新します]を選択して、WBEM設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。

7. **[WBEM設定]**セクションで、次のうちいずれかを選択します。

- **[グローバル デフォルトを使用]**
- **[下で指定した値を使用]**。[ポート#]、[ユーザ名]（Windowsベースのシステムの場合は、domainname/usernameのように、ドメイン名をユーザ名に組み込む必要がある）、[パスワード]、および[パスワードの確認]を入力します。

必要な数だけ入力してください。

注記：[ポート#]は、該当する場合、特定のセットについて、ブランクにすることができません。

8. **[SNMP設定]**セクションで、**[このプロトコルの値を更新します]**を選択して、SNMP設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。

9. **[SNMP設定]**セクションで、次のうちいずれかを選択します。

- **[グローバル デフォルトを使用]**
- **[下で指定した値を使用]**。[タイムアウト（秒）]、[再試行]、[読み込みコミュニティ名]、および[書き込みコミュニティ名]を入力します。

10. **[SSH設定]**セクションで、次のうちいずれかを選択します。

- **[適用なし]**。
- **[下で指定した値を使用]**。[ユーザ名]、[パスワード]、および[パスワードの確認]を入力します。

注記:



Secure Shell（SSH）ターゲット サーバがパブリック キー認証をサポートしていない場合、このセクションに情報を入力する必要があります。

11. **[識別設定]**セクションでは、**[システム識別を実行（推奨）]**がデフォルトで選択されます。システムの識別を実行しない場合は、このボックスの選択を解除してください。

12. 変更内容を保存せずに前画面に戻るには、**戻る**をクリックします。タスクをスケジュールするには、**スケジュール**をクリックします。タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。タスクのスケジュール設定の詳細については、「タスクのスケジュール設定」を参照してください。

注記：スケジュールボタンおよびすぐに実行ボタンが無効になっている場合は、赤色の太字で表示されているエラーメッセージを探して、問題のあるすべてのエントリを修正すると、これらのボタンを使用できるようになります。

関連プロシージャ

- グローバル プロトコル設定

- 単一システムのプロトコル設定

関連トピック

- プロトコル
- グローバル プロトコル

単一システムのプロトコル設定

個別システムの設定を微調整するには、単一システムのプロトコル設定を指定します。

単一システムのプロトコル設定を指定するには、次のように操作します。

1. [ツール]->[システム情報]->[システム ページ]を選択します。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. すぐに実行をクリックします。[システム ページ]が表示されます。
4. [ツール&リンク]タブを選択します。
5. [HP Systems Insight Managerページ]の下で、[システム プロトコル設定]をクリックします。[システム プロトコル設定]ページが表示されます。
6. [Ping (ICMP) 設定]セクションで、[このプロトコルの値を更新します]を選択して、ICMP 設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。
7. [Ping (ICMP) 設定]セクションで、次のうちいずれかを選択します。
 - [グローバル デフォルトを使用]
 - [下で指定した値を使用]。[タイムアウト（秒）]と[再試行]を入力します。
8. [WBEM設定]セクションで、[このプロトコルの値を更新します]を選択して、WBEM設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。
9. [WBEM設定]セクションで、次のうちいずれかを選択します。
 - [グローバル デフォルトを使用]
 - [下で指定した値を使用]。[ポート#]、[ユーザ名]（Windowsベースのシステムの場合は、`domainname/username`のように、ドメイン名をユーザ名に組み込む必要がある）、[パスワード]、および[パスワードの確認]を入力します。

必要な数だけ入力してください。

注記：[ポート#]は、該当する場合、特定のセットについて、ブランクにすることができません。
10. [SNMP設定]セクションで、[このプロトコルの値を更新します]を選択して、SNMP設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。

11. **[SNMP設定]**セクションで、次のうちいずれかを選択します。
 - **[グローバル デフォルトを使用]**
 - **[下で指定した値を使用]**。**[タイムアウト（秒）]**、**[再試行]**、**[読み込みコミュニティ名]**、および**[書き込みコミュニティ名]**を入力します。
12. **[SSH設定]**セクションで、**[このプロトコルの値を更新します]**を選択して、SSH設定の更新を有効にします。これが選択されていないと、設定は更新されません。デフォルトでは無効になっています。
13. **[SSH設定]**セクションで、次のうちいずれかを選択します。
 - **[適用なし]**。
 - **[下で指定した値を使用]**。**[ユーザ名]**、**[パスワード]**、および**[パスワードの確認]**を入力します。

注記： Secure Shell（SSH）ターゲット サーバがパブリック キー認証をサポートしていない場合、このセクションに情報を入力する必要があります。
14. **[識別設定]**セクションでは、**[システム識別を実行（推奨）]**がデフォルトで選択されます。システムの識別を実行しない場合は、このボックスの選択を解除してください。
15. 設定を保存するには、**OK**をクリックします。変更内容を保存せずに、システムの**[システム ページ]**に戻るには、**[システム ページに戻る]**をクリックします。

注記:

OKボタンが無効になっている場合、赤色ボールド体のエラー メッセージを探して、問題のあるエントリをすべて修正してください。この操作を行えば、ボタンは有効になります。

関連プロシージャ

- システムまたはシステム グループのプロトコル設定
- グローバル プロトコル設定

関連トピック

- プロトコル
- グローバル プロトコル

グローバル プロトコル

本来、ネットワーク管理は複雑な作業ですが、標準なしで行うと複雑さは一層増します。複数の管理ツールを購入した組織を考えてみましょう。個々のツールの管理方法が対象となるハードウェア製品またはソフトウェア製品に応じて異なっている場合、この組織ではこれらの異なるツールを対象に、ネットワーク管理者のトレーニングおよび管理を行わなければなりません。

ん。このプロセスは、コストがかかるだけでなく非効率的でもあります。この問題に対処するため、標準化委員会が、ネットワーク管理用のプロトコルを開発しました。

HP Systems Insight Managerは、多くのさまざまな管理プロトコル標準を利用するように設計されています。このため、HP Systems Insight Managerを使用すると、広い範囲の管理可能デバイスの管理をサポートできます。

SNMP

国際的なインターネットワークの標準化組織であるIETF（Internet Engineering Task Force）によって、管理プロトコル、SNMPが定義されました。SNMPは、市場において支配的なシェアを得るまでに成長し、今日では20,000を超えるさまざまな製品をサポートしています。SNMPのルーツは、インターネットコミュニティです。大規模で国際的なTCP/IPネットワークの複雑さが、ネットワーク上のデバイスを管理する、標準的な方法の開発の誘因となりました。

SNMPフレームワーク内で、管理可能なネットワーク デバイス（ルータ、ブリッジ、サーバなど）には、マネジメント エージェントと呼ばれるソフトウェア コンポーネントが含まれます。このエージェントは、ネットワーク要素のさまざまなサブシステムを監視し、この情報を管理情報ベース（MIB）に格納します。このエージェントにより、デバイスはトラップを生成でき、HP Systems Insight Managerを実行している、トラップ宛先サーバに送信するように設定できます。概念的に、MIBはデータベースであり、SNMPプロトコルを使用して管理アプリケーションによって読み書きできます。MIBには、次の2種類があります。

- **インターネット管理MIB。** これらのMIBは、インターネット コミュニティによって標準化されています。MIBには、MIB-IIやRMONなどがあり、インターネット プロトコルを実装している広範囲のネットワーク機器全体で共通する中核オブジェクトを表します。これらのオブジェクトの例としては、TCP/IPやEthernetネットワーク インタフェースなどのネットワーク システムがあります。
- **ベンダMIB。** これらのMIBは、個々のベンダ製品または製品ラインに固有のオブジェクトを表します。500を超えるベンダと組織で、独自のベンダMIBが作成されています。HP は、システム ハードウェアのSNMP管理を可能にするMIBを開発した最初のパーソナル コンピュータ会社です。

SNMPは、属性に対する読み取りおよび書き込み（**GET**と**SET**）の両方のコマンドをサポートしています。ベンダによっては、権限を持たない人間がネットワーク要素の重要なパラメータを変更する可能性を考えて、**SET**コマンドをサポートしていません。HP Systems Insight Managerでは、SNMP **GET**コマンドのみを主に使用します。

SNMPは、インターネットと長く関連しているため、TCP/IPと関連し、Ethernetネットワーク上でデバイスを監視するために使用されます。ただし、IPXなどのその他のプロトコル上でSNMPを使用できます。たとえば、HP Systems Insight Managerアプリケーションは、IPXおよびIP上のSNMPをサポートしています。

SNMP自体は、その初期から、SNMP V2cとSNMP V3というように更新されてきました。HP Systems Insight Managerでは、元のV1に準拠したエージェント、およびv1 MIBとv2 MIBのコンパイルがサポートされます。SNMPでは、UDPポート161を使用してシステムを監視し、ポート162でトラップを受信します。

システム間では、SNMP通信により、システムに関する情報が収集されます。HP Systems Insight Managerは、指定されたSNMP再試行回数に基づいてSNMP通信を試し、正常にやり取りできるようになったとき、または再試行回数を越えたときに停止します。HP Systems Insight Managerは、タイムアウト期間に基づいて、再試行する間にSNMP応答を待機します。最後に、システムで指定されているコミュニティ名、および、HP Systems Insight Managerのシステムで指定されているコミュニティ名が一致する場合に限って、HP Systems Insight ManagerはSNMPを介し

で通信できます。「public」は一般的に使用されるデフォルトのコミュニティ名です。ただし、セキュリティ要件で必要となるコミュニティ名を指定することができます。

注記:



SNMPでシステムを管理するには、管理対象システムのコミュニティ名、およびシステムのHP Systems Insight Managerコミュニティ名が一致する必要があります。一部のSNMP管理エージェントは、IPアドレスのフィルタ処理も実行できます。HP Systems Insight ManagerのIPアドレスが、特定SNMPエージェントの「許可」リストに載っていることを確認してください。

DMI

1992年に設立された、主要なPC産業ベンダと企業からなるDesktop Management Task Force (DMTF)は、デスクトップハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントを管理する方法を指定する、プラットフォームに依存しない共通のプロセスを確立しました。HPは、DMTFの実行委員会のメンバーであり、デスクトップ管理インタフェース (DMI) ソフトウェアと管理情報フォーマット (MIF) 言語という、DMTFの2つのテクノロジーを定義するために協力しました。DMIソフトウェアは、デスクトップ常駐管理プログラム、管理可能ハードウェア、およびコンピュータ上のソフトウェアコンポーネントの間をつなぐものとして機能します。DMIは、デスクトップからの情報入手に、最も一般的に使用されていますが、一部のHP製サーバとワークステーションでは、DMIがサポートされています。

HTTP

HP Systems Insight Managerは、管理情報の伝達に業界標準のHTTPプロトコル (Webに情報を転送するために使用されるプロトコル) も利用しています。多くのシステムでは、ある種の設定「ホームページ」がサポートされており、HTTPプロトコルや安全なHTTPSプロトコルでサポートされています。HP Systems Insight Managerは、**[グローバル プロトコル設定]** ページで有効になっている場合、システムで実行されているHTTPSサーバの検出を試みます。詳細については、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。

WBEM

Webベースエンタープライズ管理 (WBEM) は、最新管理プロトコルのうちの1つです。このプロトコルでは、DMTFによって定義された、業界標準の共通情報モデル (CIM) が利用されます。HP Systems Insight Managerは、WBEMプロトコルを直接使用してシステムとやり取りしたり、WMI Mapperプロキシを使用してWindows WMIシステムとやり取りしたりすることができます。HP Systems Insight Managerは、WBEMを使用して、ストレージシステムSMI-S WBEMプロバイダと通信します。HPは、WBEM事業に対して努力を続けてきました。WBEMは、HP、Microsoft、Intel、BMC、Cisco、およびこれ以外の120のプラットフォーム、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトウェアの供給元によってサポートされている事業です。

WBEMを有効にすると、管理コンソールでは、WBEMがサポートされている、すべてのシステムから情報を取得できます。WBEMを動作させるには、特定システムの正しいユーザ名とパスワードを指定する必要があります。WBEMによって、より多くのサーバとストレージの管理可能データセットを収集して、**[システム ページ]** やレポートに表示することができます。WBEMが存在すると、**[プロパティ]** ページを使用できるようになり、WBEMイベントがイベント収集に表示されるようになります。HTTPを有効にしないと、HP Systems Insight ManagerはシステムのWebベース機能を検出できません。

注記:

HP Systems Insight Managerは、ユーザ提供のWBEM名とパスワードのペアが保護されることを保証するために、WBEM over HTTPSをサポートしています。

関連プロシージャ

- グローバル プロトコル設定
- システムまたはシステム グループのプロトコル設定

関連トピック

- プロトコル
- WMI Mapperプロキシ

データ収集

データ収集は、レポート機能で利用できるデータを収集するために使用されます。このデータを収集してデータベースに保存する方法は、2つあります。一方では、最新のデータだけを維持して、レポート機能を実行したり、スナップショット比較を使用して異なるシステムと相互に比較したりすることができます。もう一方では、長期にわたって収集したすべてのデータを保存し、スナップショット比較を使用して単一のシステムの傾向を調べることができます。

データ収集では、SNMP、デスクトップ管理インタフェース (DMI)、Webベース エンタープライズ管理 (WBEM) プロトコルのうちいずれか、またはこの3つの組み合わせを使用して情報を収集します。これにより、システムに関する包括的な情報を確保できます。一般的に、DMIは、Windowsベースのデスクトップコンピュータとラップトップコンピュータ、およびHP-UXシステムに装備されています。SNMPは、Windowsベースのサーバ、Linuxシステム、その他のネットワーク システムに装備されており、Windowsベースのデスクトップ コンピュータの情報を収集できます。WBEMプロトコルは、アレイ、テープ ライブラリ、ファイバ チャネル スイッチ、HBAなどのストレージ システムからデータを収集するために使用されます。データは、SNIA (Storage Networking Industry Association) のSMI-S (Storage Management Initiative Specification) に対応するSMI-Sプロバイダを備えたすべてのストレージシステムから収集できます。SMI-Sプロバイダの詳細については、『[HP Systems Insight Managerインストール/ユーザガイド](#)』を参照してください。

HP Systems Insight Managerでデータ収集が初めて実行された後は、特定のシステムのデータ収集タスクをスケジュールし、さまざまなスケジュールでタスクを実行できます。HP Systems Insight Managerに組み込まれている、デフォルトの初期データ収集タスクと隔週データ収集タスクの他に、特定の管理対象システムをターゲットにした、新しいデータ収集タスクを設定できます。**[既存データセットを上書き (詳細解析用)]** (Insightマネージャ7の単一インスタンスデータ収集タスク) でスケジュールリングする場合は、週に1回 (小規模ネットワーク) から月に1回 (大規模ネットワーク) で実行すれば十分です。**[新規データセットを追加 (時系列変動解析用)]** (Insightマネージャ7のデータ履歴収集タスク) でスケジュールリングする場合は、より頻繁に実行するように設定してください。データベースのストレージ領域が消費されることに気をつけて、最も重要なシステムでは1時間に1回くらい実行します。

データ収集タスクを作成するには、ツールバーから、**[オプション]->[データ収集]**を選択します。

注記:

前述の装置プロトコルからデータを収集する[データ収集]を有効にするには、グローバルか特定の対象システムで、対応するプロトコルを有効にして、適切なプロトコル設定を指定する必要があります。グローバル プロトコル設定の詳細については、「グローバル プロトコル設定」を参照してください。単一システムプロトコル設定の詳細については、「システムまたはシステム グループのプロトコル設定」を参照してください。

注記:

DMI対応のHP-UXシステムからDMIデータを収集できるようにするには、HP Systems Insight Managerを実行しているサーバの名前を、対象システムの/var/dmi/dmimachinesファイルに追加します。

注記:

WMI対応システムからWindows Management Instrumentation (WMI) データを収集できるようにするには、[オプション]->[プロトコル設定]->[WMI Mapper プロキシ]で、WMI Mapperプロキシの設定と指定を行う必要があります。WMI Mapperプロキシの設定の詳細については、「WMI Mapperプロキシの追加」を参照してください。

新規データセットを追加（時系列変動解析用）

[新規データセットを追加（時系列変動解析用）]オプションでは、傾向情報が別個の履歴エントリに維持されます。この履歴に基づく傾向分析は、傾向と利用率の分析に使用できます。これは、時間が推移するとレコードの内容が変わるためです。データ収集によって集められた情報はスナップショット比較とレポートで利用され、システム収集の条件として利用することもできます。[新規データセットを追加（時系列変動解析用）]では、システムの履歴を詳述するデータが収集されます。問題のあるシステムや問題のある利用時間を追跡する際は、[新規データセットを追加（時系列変動解析用）]を慎重かつ控えめに使用してください。過度の使用は、格納データが大量に作成される事態を招く可能性があるため避けてください。

注意:

標準のデータ収集タスクを削除する場合は、同等の結果が得られるタスクと必ず置き換えてください。たとえばデータ収集タスクを削除すると、履歴を解析する機能やレポート テーブルの情報を更新する機能が使えなくなります。レポートに新しいデータを表示するには、更新する必要があります。

既存データセットを上書き（詳細解析用）

[既存データセットを上書き（詳細解析用）]オプションでは、以前に収集した情報が上書きされます。[既存データセットを上書き（詳細解析用）]は、現時点のスナップショットとして使用できます。古いデータが現在の値で上書きされるからです。

現在のデータセット レポートは、[システム ページ]から表示できます。[システム ページ]には、収集でシステムを選択するとアクセスできます。[システム ページ]の詳細については、「システム ページ」を参照してください。

データ収集を実行すると、相当のネットワーク リソースが消費されることに注意してください。適切なスケジュールが必要になることがあります。

重要:



同一のステータス ポーリング タスクまたはデータ収集タスクに対して複数のインスタンスがある場合、これらは同時には実行されません。

初期データ収集

初期データ収集タスクは、DMI、SNMP、またはWBEMを実行している多数のシステムから情報を収集する場合に使用されます。たとえば、シリアル番号やモデル番号などの情報を収集するために使用します。このタスクは、検索条件に合う新規システムやイベントが検出されると実行されるよう、デフォルトで設定されています。データが収集されたら、システム テーブル ビュー ページから選択して、システムのデータ収集レポートを表示できます。これによって、[システム ページ]が表示されます。ここで、[ツール&リンク]タブから[データ収集レポート]リンクを選択できます。その他のレポート フォーマットは、レポート ツールから使用できます。レポート機能の詳細については、「レポート機能」を参照してください。

隔週データ収集

隔週データ収集タスクでは、システム デフォルト収集のすべてのシステムで[既存データセットを上書き（詳細解析用）]オプションが実行されます。デフォルト スケジュールでは、2週間ごとの土曜日の午前12時に実行されます。データが収集されたら、システム テーブル ビュー ページから選択して、システムのデータ収集レポートを表示できます。この操作により、[システム ページ]が表示されます。ここで、[ツール&リンク]タブを選択し、[データ収集]をクリックします。

関連プロシージャ

- データ収集タスクの作成

関連トピック

- 検出と識別
- プロトコル
- リファレンス情報
- システム ページ
- レポート機能

データ収集タスクの作成

データ収集は、レポート機能で利用できるデータを収集するために使用されます。このデータを収集する方法は、2つあります。一方では、詳細なデータを収集して、レポートや、スナップショット比較による他のシステムとの比較に使用することができます。もう一方では、詳細ではない代わりに長期にわたるデータを収集することができます。後者のデータを使用すると、スナップショット比較によって単一のシステムの傾向を調べることができます。

データ収集タスクを作成するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[データ収集]**を選択します。**[データ収集]**ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。
4. 次のうちいずれかを選択し、データの保存方法を指定します。
 - **既存データセットを上書き（詳細解析用）**。ある時点でのネットワークスナップショットを提供します。
 - **新規データセットを追加（時系列変動解析用）**。傾向分析と利用状況分析を提供します。
5. タスクを実行するには、次のオプションのうちいずれかを選択します。
 - **タスクの実行タイミングをスケジュールするには**、スケジュールをクリックします。「タスクのスケジュール設定」を参照してください。
 - **タスクをすぐに実行するには**、**すぐに実行**をクリックします。**[タスク結果ページ]**が表示されます。「タスク結果リスト」を参照してください。
 - **戻る**をクリックすると、前のページに戻ります。
6. 完了をクリックします。

[スケジュールされたすべてのタスク]ページで目的のデータ収集タスクを選択すると、タスクの結果を表示できます。**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページの詳細については、「タスク結果リスト」を参照してください。

コマンド ライン インタフェース

このタスクをコマンド ライン インタフェースから実行するには、**mxtask**コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、コマンド ラインに**mxtask**と入力してHP-UXまたはLinuxのマニュアルページを表示するか、Windowsのコマンド ライン ヘルプを参照してください。マニュアルページへのアクセスの詳細については、「コマンドラインインタフェース コマンドの使用」を参照してください。

関連トピック

- データ収集
- リファレンス情報

システム プロパティ

システム プロパティの設定ツールにより、単一システムや複数システムのシステム プロパティを設定できます。

注記:



HP Systems Insight Managerで編集されるシステム プロパティは、HP Storage Essentialsには転送されません。

システム プロパティの設定には、次の2つの方法があります。

- 単一システムのシステム プロパティを編集する。 [システム ページ]の[ツール&リンク]タブを選択し、[システム プロパティの編集]リンクをクリックします。
- 複数のシステムのシステム プロパティを設定する。 [オプション]->[システム プロパティ]->[システム プロパティの設定]を選択します。

監視の停止/回復ツールを使用すると、単一システムまたは複数システムの監視を停止できます。これにより、HP Systems Insight Managerのステータス ポーリング、識別、データ収集、および自動イベント処理からシステムを除外できます。中断時間の長さは、事前設定により、5分、15分、1時間、および1日単位で設定できます。停止ツールは、無期限に設定することもできます。設定の変更はすぐに有効になります。システムの新しい設定を表示するには、[システム ページ]の[識別]をクリックします。このツールで行った変更は以前の設定を上書きします。停止したシステムは、HP Systems Insight Manager全体で無効アイコンで表示されます。

監視を停止または回復する方法には、次の2つがあります。

- 単一システムの監視を停止または回復する。 [システム ページ]の[ツール&リンク]タブを選択し、[監視の停止/回復]リンクをクリックします。
- 複数システムの監視を停止または回復する。 [オプション]->[システム プロパティ]->[監視の停止/回復]を選択します。

注記:



このツールにアクセスするには、完全な設定権が必要です。

関連プロシージャ

- 単一システムのシステム プロパティの編集
- 複数システムのシステム プロパティの編集
- 単一システムのシステム監視の停止と回復
- 複数システムのシステム監視の停止と回復

関連トピック

- システム ページ

単一システムのシステム プロパティの編集

[システム プロパティの編集]リンクでは、完全な設定権があるユーザが、以下のセクションからなる[システム ページ]によって、1つのシステムのシステム プロパティを再設定できます。

- 識別 このセクションには、次の情報が含まれています。
 - **[優先システム名]**。 このプロパティにより、HP Systems Insight Managerユーザ インタフェース内でのシステム（CMSを含む）の表示方法を指定できます。デフォルト名に戻すボタンにより、表示された名前は、最初にHP Systems Insight Managerによって検出された名前に戻ります。

注記:



[優先システム名]を変更すると、このシステムを名前で参照しているすべてのリストが動作しなくなること、および新しい名前を使用しているシステムが次に検出されたときに、このシステム名がホスト名（DNS名）に戻されることを示す警告メッセージが表示されます。

- **[検出プロセスがこのシステム名を変更しない]**。 選択すると、設定されたシステム名が検出によって上書きされなくなります。
- **[シリアル番号]**。 システムのシリアル番号です。この後に説明するチェックボックスの設定に関わらず、ユーザが入力した値は識別によって上書きされます。検出によって設定された場合、このフィールドは読み取り専用です。
- 製品説明 すべてのプロパティを設定できます。
 - **[システム タイプ]**。システムのシステム タイプです。下向き矢印をクリックし、適切なシステム タイプを選択してください。
 - **[システム サブタイプ]**。システムのシステム サブタイプです。下向き矢印をクリックし、適切なシステム サブタイプを選択してください。最大8種類のシステム サブタイプを入力できます。
 - **[製品モデル]**。自由形式フィールドで、システム モデル番号を入力できます。
 - **[ハードウェア詳細]**。自由形式フィールドで、ハードウェアについての説明です。
 - **[オペレーティング システム詳細]**。システムで動作しているオペレーティング システムの名前です（該当する場合）。
 - **[ツール フィルタリング用オペレーション システム]**。ツール フィルタリング用のオペレーティング システムです。下向き矢印をクリックし、オペレーティング システム（HP Unix、Linux、Novell、Tru64 Unix、またはWindows）を選択してください。
 - **[オペレーティング システム バージョン]**。自由形式フィールドで、オペレーティング システムのバージョンです。
- 連絡先情報
 - **[連絡先]**。 自由形式フィールドで、システムの連絡担当者です。

- **[場所]**。 自由形式フィールドで、システムの物理位置です。
- **[資産情報]**。 システムの資産管理番号です。データ収集プロセスによって取得されます。
 - **[資産管理番号]**。 システムの資産管理番号です。データ収集プロセスによって取得されます。
- 検出、識別、データ収集プロセスがこれらのシステム プロパティを変更しない 選択すると、プロパティ値が検出、識別、およびデータ収集によって上書きされなくなります。ただし、選択を解除すると、検出、識別、およびデータ収集プロセスによってプロパティが上書きまたは消去される場合があります。この処理の例外は、シリアル番号です。シリアル番号は、このチェックボックスの設定にかかわらず、識別によって取得されたシリアル番号で上書きされます。

注記:



このチェックボックスの選択を解除して**OK**をクリックすると、HP Systems Insight Managerは何らかの変更が行われていないかをチェックします。変更が行われている場合は、変更内容が次の検出によって上書きされる可能性があることを示す警告メッセージが表示されます。検出によって変更内容が上書きされないようにするには、このチェックボックスを選択しておきます。

システム プロパティを再設定するには、次のように操作します。

1. **[システム]**ページから、**[ツール&リンク]**タブを選択します。
2. **[システム プロパティの編集]**リンクをクリックして、個別のシステムのシステム プロパティを再設定します。**[システム プロパティの設定]**ページが表示されます。
3. 必要なフィールドをすべて編集します。

注記：[シリアル番号]フィールドが検出によって設定された場合は編集できません。

4. 属性値の変更を適用する場合は、**OK**をクリックします。すべての変更を取り消すには、**キャンセル**をクリックします。**OK**または**キャンセル**をクリックすると、**[ツール&リンク]**タブに戻ります。

注記:



システム プロパティを変更すると、収集結果に影響する場合があります。システムの**[優先システム名]**を変更すると、ユーザが作成した名前別システム収集に影響があります。システム タイプを変更すると、タイプ別システム収集に影響があります。

複数のシステムのシステム プロパティの設定については、「複数システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。

関連プロシージャ

- 複数システムのシステム プロパティの編集

関連トピック

- システム ページ
- ツール&リンク タブ
- 複数システムのシステム プロパティの編集

複数システムのシステム プロパティの編集

このツールを使用すると、複数のシステムのシステム プロパティを同時に編集できます。複数のシステムを対象とする[システム プロパティの設定]ページは、単一のシステムを対象とする[システム プロパティの編集]ページとよく似ています。ただし、このページでは、各プロパティの横にチェックボックスが表示されます。このチェックボックスにより、ツール実行時に設定するプロパティを選択できます。チェックされたプロパティだけが、ターゲットシステムのプロパティとして保存されます。プロパティを選択しても値を空白にすると、そのプロパティは、システムに対して設定されません。すべてのプロパティが、オプションです。

注記:



このツールは、HP Storage Essentialsによって管理されているシステムには影響しません。

注記:



このツールは、単一システムで使用できます。ただし、[システム ページ]で利用できるプロパティの一部は、このオプションの選択時には使用できません。たとえば、シリアル番号は、[システム ページ]では利用できますが、ここでは使用できません。

複数のシステムについて、システムプロパティを編集するには、次のように操作してください。

1. [オプション]>[システム プロパティ]>[システム プロパティの設定]を選択します。[システム プロパティの設定]ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。
4. [識別]の下で、[デフォルトのシステム名に戻す]を選択して、HP Systems Insight Manager で表示される名前を、ホスト（DNS）名に変更します。
5. [製品詳細]で、設定するプロパティを選択します。プロパティは、以下のとおりです。

- **システム タイプ。** システムのシステム タイプです。下向き矢印をクリックし、適切なシステム タイプを選択してください。
 - **システム サブタイプ 1～8。** システムのシステム サブタイプです。下向き矢印をクリックし、適切なシステム サブタイプを選択してください。最大8つの異なるシステム サブタイプを入力できます。
 - **製品モデル。** 自由形式フィールドで、システム モデル番号を入力できます。
 - **ハードウェア詳細。** 自由形式フィールドで、ハードウェアについての説明です。
 - **オペレーティング システム詳細。** システムで動作しているオペレーティング システムの名前です（該当する場合）。
 - **ツール フィルタリング用オペレーティング システム。** ツール フィルタリング用のオペレーティング システムです。下向き矢印をクリックし、オペレーティング システム（HP Unix、Linux、Novell、Tru64 Unix、またはWindows）を選択してください。
 - **オペレーティング システムのバージョン。** 自由形式フィールドで、オペレーティング システムのバージョンです。
6. **[資産情報]**の下で、**[資産管理番号:]**を選択し、システムの資産番号を入力します。
7. **[連絡先情報]**で、以下から選択します。
- **連絡先。** 自由形式フィールドで、システムの連絡担当者です。
 - **場所。** 自由形式フィールドで、システムの物理位置です。
8. **[システム プロパティ ロック]**の下で、以下から選択します。
- **ロック - 検出および識別プロセスによるシステム プロパティの変更を防ぎます。** ターゲット システムの属性ロック設定が設定され、検出および識別によるプロパティの上書きを防止します。
 - **アンロック - 検出および識別プロセスによるシステム プロパティの変更を許可します。** ターゲット システムの属性ロック設定がクリアされ、検出および識別によるプロパティの上書きを可能にします。
 - **無視 - ターゲット システムのロック プロパティを設定しません。** ターゲット システムの現在の属性ロック設定が、維持されます。
9. 別のターゲット システムを選択する場合は、**戻る**をクリックします。タスクをスケジュールするには、**スケジュール**をクリックします。タスクをすぐに実行するには、**すぐに実行**をクリックします。

単一システムのシステム プロパティの設定については、「単一システムのシステム プロパティの編集」を参照してください。

関連プロシージャ

- 単一システムのシステム プロパティの編集

関連トピック

- システム ページ
- ツール&リンク タブ

単一システムのシステム監視の停止と回復

[監視の停止/回復]リンクにより、監視の停止時間を設定できます。HP Storage Essentialsシステムに対しては、監視の停止/回復コマンドは無効になります。

注記:



この機能にアクセスするには、完全な設定権が必要です。

単一システムの監視を停止または回復するには、次のように操作します。

1. [ツール]>[システム情報]>[システム ページ]を選択します。[システム ページ]が表示されます。

注記：システム テーブル ビュー ページの[システム名]列でシステム名を選択することによって、[システム ページ]にアクセスすることもできます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. [ツール&リンク]タブを選択します。
4. [監視の停止/回復]リンクをクリックします。[監視の停止/回復]ページが表示されます。
5. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [このシステムの監視を有効にする]。 今後 システムの監視を停止させたくない場合は、このオプションを選択します。
 - [このシステムの監視を無期限に停止する]。 システムの監視を一定の期間だけ停止したい場合は、このオプションを選択します。下向き矢印をクリックし、オプションを選択して、時間を選択してください。
 - [このシステムの監視を無期限に停止する]。 設定が変更されるまでシステムの監視を停止する場合は、このオプションを選択します。
6. 変更を適用する場合は、**OK**をクリックします。変更を破棄する場合はキャンセルをクリックしてください。**OK**またはキャンセルをクリックすると、[ツール&リンク]タブに戻ります。

複数のシステムの監視の停止または回復については、「複数システムのシステム監視の停止と回復」を参照してください。

関連プロシージャ

- 複数システムのシステム プロパティの編集

関連トピック

- システム ページ
- 複数システムのシステム監視の停止と回復

複数システムのシステム監視の停止と回復

監視の停止/回復ツールにより、複数のシステムの監視の中断時間を設定できます。HP Storage Essentialsシステムに対しては、監視の停止/回復ツールは無効になります。

注記:



この機能にアクセスするには、完全な設定権が必要です。

複数のシステムの監視を停止または回復するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[システム プロパティ]>[監視の停止/回復]を選択します。[監視の停止/回復]ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの作成」を参照してください。
3. 次へをクリックします。システムを追加するには、ターゲットの追加をクリックします。システムを削除するには、ターゲットを選択してターゲットの削除をクリックします。
4. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ターゲット システムの監視を有効化。 ターゲット システムの監視を停止したくない場合は、このオプションを選択します。
 - ターゲット システムの監視を次の間停止する。 設定した時間が経過するまで、ターゲット システムの監視を停止したい場合は、このオプションを選択します。下向き矢印をクリックし、オプションを選択して、時間を選択してください。
 - ターゲット システムの監視を無期限に停止する。 新たに設定し直すまで、ターゲット システムの監視を停止する場合は、このオプションを選択します。
5. 別のターゲット システムを選択する場合は、戻るをクリックします。タスクをスケジュールするには、スケジュールをクリックします。タスクをすぐに実行するには、すぐに実行をクリックします。

単一システムの監視の停止または回復については、「単一システムのシステム監視の停止と回復」を参照してください。

関連プロシージャ

- 単一システムのシステム監視の停止と回復

関連トピック

- システム ページ
- サーバ識別タブ
- ツール&リンク タブ


バージョン コントロール レポジトリ



HP Systems Insight Managerでは、HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャを指定できます。バージョン コントロール レポジトリ マネージャには、最新ProLiant Support Packが保存されるため、最新ソフトウェアを使用できるようになります。

バージョン コントロール レポジトリを指定するには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[バージョン コントロール レポジトリ]**を選択します。**[バージョン コントロール レポジトリ]**ページが表示されます。
2. **[デフォルト バージョン コントロール レポジトリの選択]**で、バージョン コントロール レポジトリ マネージャがインストールされているシステムを選択します。

注記：バージョン コントロール レポジトリ マネージャがインストールされているシステムを信頼する必要があります。信頼関係の詳細については、「信頼証明書」を参照してください。信頼関係を確立したら、**[最終更新日]**をクリックし、**[信頼済み]**列を**[はい]**に更新します。

3. **[選択したバージョン コントロール レポジトリの内容]**で、 アイコンをクリックして展開し、選択したバージョン コントロール レポジトリの内容を表示します。

注記：ツリーを展開してすべての内容を表示するには、**[選択したバージョン コントロール レポジトリの内容]**セクションの右上にある アイコンをクリックします。 アイコンをクリックすると、リストを縮小できます。

注記：昇順か降順で列を並び替えるには、列の見出しをクリックします。

注記：このセクションには、現行ユーザに権限があるシステムが表示されます。HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャを含むシステムを表示する権限が現行ユーザにない場合、システムは、**[デフォルト バージョン コントロール レポジトリの選択]**セクションに表示されません。バージョン コントロール レポジトリ マネージャを実行しているシステムが検出されていない場合は、レポジトリが検出されなかったことを示すメッセージが表示されます。

4. 変更内容を適用するには、**OK**をクリックします。レポジトリ設定が正常に保存されたかどうかを示すメッセージが表示されます。
5. **OK**をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。

関連トピック

- バージョン コントロール

- バージョン コントロール レポジトリ マネージャについて
- バージョン コントロール エージェントについて

PMP管理オプション

次の3つのPerformance Management Pack（PMP）管理ツールがHP Systems Insight Managerを通じて利用できます。

- **[ライセンス]**。 サーバへのライセンス適用とPMPへのライセンスの追加を行うことができます。

[ライセンス]にアクセスするには、**[オプション]**->**[Performance Management Packオプション]**->**[ライセンス]**を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

http://middle_tier:2381/pmp/help/License_Administration.htmにアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\PMP\htm\help\License_Administration.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

- **[設定]**。 選択されたサーバのパフォーマンス監視と、監視されているサーバの監視パラメータの変更を、行うことができます。

[設定]にアクセスするには、**[オプション]**->**[Performance Management Packオプション]**->**[設定]**を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

http://middle_tier:2381/pmp/help/Monitoring_Administration.htmにアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\PMP\htm\help\Monitoring_Administration.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

- **[手動ログパージ]**。 PMPレポジトリから、不要なログデータや過去のログデータを削除します。

[手動ログパージ]にアクセスするには、**[オプション]**->**[Performance Management Packオプション]**->**[手動ログパージ]**を選択します。

このオプションのヘルプを表示するには、

http://middle_tier:2381/pmptools/help/ManualLogPurge.htm にアクセスします。ここで、middle_tierにはHP Systems Insight ManagerとPMPがインストールされているサーバの名前かIPアドレスを指定します。または、PMPディレクトリ\Program Files\HP\Performance Management Pack\PMPTools\htm\help\ManualLogPurge.htmにアクセスします。ここで、PMPディレクトリには、PMPがインストールされているサーバ上のPMPディレクトリを指定します。

関連トピック

- PMPツール
- PMPレポートのオプション

管理対象システム

概要

管理対象システムの設定には、必要な管理エージェントのインストール、およびHP Systems Insight Managerソフトウェアとやり取りするためのサポート プロトコルの設定が含まれます。以下のステップは、中央管理サーバ（CMS）にHP Systems Insight Managerがインストールされ、ファーストタイム ウィザードが完了していることを前提としています。

注記:



管理対象システムのセットアップを開始する前に、検出を実行しておく必要があります。詳細については、「検出タスクの実行」を参照してください。自動検出の設定は、ファーストタイム ウィザードに含まれています。

管理対象システムをセットアップする手順は、次のように、大きく2つに分かれます。

1. 以下の必要な管理対象システム ソフトウェアおよびオプションの管理対象システム ソフトウェアのインストール
 - 「WindowsシステムへのProLiant Support Packの初期インストール」
 - 「LinuxシステムへのProLiantまたはIntegrity Support Packの初期インストール」
 - 「HP-UXシステムへの必要なソフトウェアのインストール」
2. 以下の管理対象システム ソフトウェアの設定
 - 「CMSからのエージェントの設定および修復機能の実行」

必要な管理対象システム ソフトウェアおよびオプションの管理対象システム ソフトウェアのインストール

エージェントの設定および修復機能を使用して管理対象システムを設定するには、管理対象システムにバージョン コントロール エージェントがインストールされている必要があります。

WindowsシステムへのProLiant Support Packの初期インストール

Windowsシステムの場合、HP Systems Insight Managerの初期**ProLiant Support Pack**インストール機能を使用して、すべての管理対象システムを対象にあらかじめ設定したコンポーネントを含む最新のProLiant Support Packをインストールします。

ProLiant Support Packを初めてインストールする場合、初期ProLiant Support Packインストールプロセスでは、HP Insightマネジメント エージェント、とくにHPバージョン コントロール エージェントをインストールしていなくても、ProLiant Support PackをWindowsシステムにインストールできます。このプロセスでは、HP Systems Insight Managerから信頼証明書を使用し、目的のHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャを使用するようにシステムを設定する

こともできます。初期ProLiant Support Packインストール ツールを実行したら、ソフトウェアおよびファームウェアのインストールツールを使用してシステムを更新できます。

HP Systems Insight Managerのソフトウェアおよびファームウェアのインストール機能では、レポジトリを含むサーバにHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャがインストールされている必要があります。バージョン コントロール レポジトリ マネージャは、この手順ではインストールされません。バージョン コントロール レポジトリ マネージャのインストールの詳細については、http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HPバージョン コントロール インストール ガイド』を参照してください。

注記:



ProLiant Support Packをインストールするには、ターゲット システムでWindows 管理者権限が必要です。

注記:



ソフトウェアおよびファームウェアのインストールとバージョン コントロール エージェント機能は、初期ProLiant Support Packインストールを実行した後でのみ使用できるようになります。

注記:



ProLiant Support Packの詳細については、<http://h18013.www1.hp.com/manage/psp.html>（英語）の『HP ProLiant Support Packおよび展開ユーティリティ ユーザ ガイド』を参照してください。

ProLiant Support Packをインストールするには、次のように操作します。

1. **[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[初期ProLiant Support Packインストール]**を選択します。**[初期ProLiant Support Packインストール]** ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。詳細については、「タスクの使用法」を参照してください。
3. 次へをクリックします。
4. **[Windowsログイン認証情報の入力]**ページで、以下を実行します。
 - a. **[ユーザ名]**フィールドに、ターゲット システムのWindows管理者のユーザ名を入力します。
 - b. **[パスワード]**フィールドに、前の手順で入力したWindowsユーザ名の管理者パスワードを入力します。

- c. **[パスワード]**フィールドに入力したものと同一Windows管理者パスワードを**[パスワード (確認)]**フィールドに再び入力します。
- d. **[ドメイン]**フィールドに、Windowsドメインを入力します。


注記：システムがドメインの一部でない場合は、このフィールドを空白にしておくことができます。



5. 次へをクリックします。**[Windows Support Packの選択]**ページが表示されます。
6. **[バージョン コントロール レポジトリの選択]**で、カタログの取得元のソース レポジトリシステムを選択します。

表示されるフィールドは次のとおりです。

- **[名前]**。システム名が表示されます。
- **[ステータス]**。システムのステータスが表示されます。
- **[製品名]**。製品名が表示されます。
- **[信頼済み]**。システムの信頼関係が設定されているかどうかが表示されます。信頼関係を設定するには、**[設定]**をクリックします。詳細については、「信頼証明書」を参照してください。

注記：このセクションには、現行ユーザ名に権限があるシステムが表示されます。システムを表示する権限が現行ユーザにない場合は、システムの権限がユーザにないことを示すメッセージが表示されます。

7. **[インストールするSupport Packを選択してください。]**で、インストールするSupport Packを選択します。アイコンをクリックして展開し、選択したバージョン コントロール レポジトリの内容を表示します。

注記：システム ソフトウェア ベースラインを展開してすべての内容を表示するには、**[インストールするSupport Packを選択してください。]**セクションの左上にあるをクリックします。アイコンをクリックすると、リストを縮小できます。

8. OpenSSHをターゲット システムにインストールする場合は**[SSH (Secure Shell) のインストールと初期化を行います。]**を選択します。このオプションは、デフォルトで無効になっています。
9. (省略可能) 現在インストールしているバージョンより古いProLiant Support Packをインストールする場合は、**[強制ダウングレードまたは同じバージョンを再インストールします。]**を選択します。このオプションは、デフォルトで無効になっています。
10. デフォルトでは、**[正常にインストールした後、必要な場合は、システムを再起動します。]**が選択されています。インストール後にリポートしない場合は、このオプションの選択を解除します。ただし、新しいProLiant Support Packを使用できるようにするには、システムをリポートする必要があります。

11. 次へをクリックします。**[Support Packの設定]**ページが表示されます。

- ProLiant Support Pack 7.10以下を選択した場合は、**Support Pack**のコンフィギュレーションが表示されます。次に例を示します。

注記：7.10より前のProLiant Support Packを選択する場合は、以下の例のとおりではありません。

7.10 Support Packを設定するには、次のように操作します。

- a. **Support Pack**の設定をクリックして、選択したSupport PackでHPバージョン コントロール エージェントを設定します。バージョン コントロール エージェント **[セットアップ]**ページが表示されます。

注記：バージョン コントロール エージェントが既に設定されている場合は、この手順を省略できます。

- b. **[コンピュータ名]**フィールドに、バージョン コントロール レポジトリ マネージャをインストールしたシステムの名前を入力します。
- c. **[管理者パスワード]**フィールドに、指定したログイン名に対応したパスワードを入力します。
- d. 保存をクリックして設定を保存します。設定を破棄して**[バージョン コントロール エージェント セットアップ]**ページを閉じる場合は、キャンセルをクリックしてください。
- e. 次へをクリックします。**[Support Packのダウンロード]**ページが表示されます。
- f. Support Packがダウンロードされたら、スケジュールをクリックして、実行する初期ProLiant Support Packインストールに対するスケジュール済みタスクを作成するか、**すぐに実行**をクリックしてタスクを直ちに実行します。

ProLiant Support Pack 7.20以上を選択した場合は、以下のオプションが表示されます。

- ターゲット システムに既にSupport Packがインストールされている場合、**System Management Homepage**の設定をクリックして、Support PackがSystem Management Homepageと信頼関係を確立するように設定します。

注記：Support Packが既に設定されている場合は、この手順を省略できます。

注記：信頼関係の設定方法については、「信頼証明書」を参照してください。信頼関係を確立したら、**[最終更新日]**をクリックし、信頼のステータスを更新します。

System Management Homepageを設定するには、次のように操作します。

- a. **[HPシステム マネジメント ホームページ コンポーネント設定ウィザードへようこそ]**ページから、次へをクリックします。**[オペレーティング システム グループ]**ページが表示されます。
- b. **[グループ名]**フィールドに、割り当てるオペレーティングシステム グループの名前を入力します。たとえば**vcadmin**と入力します。
- c. **[操作レベル]**フィールドで、新しいグループに適切なレベルをドロップダウン リストから選択します。

注記：デフォルトの管理者グループは、常に管理者アクセス権があります。

- d. 追加をクリックしてグループを割り当てます。新しいグループが、割り当てられたオペレーティング システム グループの下に表示されます。

注記：オペレーティング システム グループあたり最大5個のエントリを追加することができます。

- e. 次へをクリックします。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
- f. ローカルおよび匿名アクセスによって、適切な設定を選択し、以下を含めることができます。
 - **匿名アクセス** 匿名アクセスは、デフォルトで無効になっています。匿名アクセスを有効にすると、ユーザがログインせずにSystem Management Homepageにアクセスできるようになります。匿名アクセスを許可するには、このオプションを選択します。

注意：匿名アクセスの使用はおすすめしません。

- **ローカル アクセス** ローカル アクセスは、デフォルトで無効になっています。これを有効にすると、認証を求められることなくSystem Management Homepageにローカルでアクセスすることができます。すなわち、管理者が選択されている場合は、ローカル コンソールにアクセスできるあらゆるユーザが、フル アクセスを許可されることになります。匿名が選択された場合は、あらゆるローカル ユーザが、ユーザ名とパスワードを要求されることなく、セキュリティ保護されていないページだけにアクセスを許可されます。ローカル アクセスを許可するには、このオプションを選択します。

注意：管理サーバソフトウェアが有効にしないかぎり、ローカル アクセスの使用はおすすめしません。

- g. 次へをクリックします。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
- h. 信頼モードオプションを使用すると、システムが必要とするセキュリティを選択することができます。他よりも高レベルのセキュリティが必要になる場合があります。したがって、以下のセキュリティ オプションが与えられています。
 - **証明書による信頼** 信頼証明書のあるHP Systems Insight Managerサーバからのみ設定変更を許可するには、System Management Homepageを設定します。このモードでは、証明書による認証を提供する、提出されたサーバが必要です。このモードは最もセキュリティの高い方法になります。証明書のデータを必要とし、デジタル署名を確認してからアクセスを許可するからです。リモートでの設定変更を可能にしない場合は、**[証明書による信頼]**を選択したままにし、さらにいずれの証明書もインポートしないようにして信頼システムのリストを空のままにしておきます。

注記:



このオプションはより安全であるため、このオプションを使用することを強くおすすめします。

証明書によって信頼するには、次のように操作します。

1. **[証明書による信頼]**を選択して、次へをクリックします。
 2. **[証明書名]**フィールドで、一覧をクリックして証明書ファイルを選択します。証明書ファイルが選択されたら、証明書データが画面に表示されます。
 3. 追加をクリックします。証明書が証明書ファイルの下に表示されます。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
 4. 次へをクリックします。**[IPバインド]**ページが表示されます。
- **名前による信頼** HP Systems Insight Managerの名前が**[名前による信頼]**フィールドに指定されているサーバからの特定の設定変更だけを受け入れるようSystem Management Homepageが設定されます。名前による信頼オプションは、簡単に設定することができます。たとえば、2つの別々の部門に2つの異なる管理者グループがある安全なネットワークの場合に名前による信頼オプションを使用できます。これにより、あるグループが間違ったシステムにソフトウェアをインストールすることを防止できます。このオプションは、提出されたHP Systems Insight Managerサーバ名だけを確認します。

注記:



他のオプションより安全であるため、証明書による信頼オプションを使用することを強くおすすめします。

サーバ名オプションは、次の条件を満たす必要があります。

- 各サーバ名が64文字未満である
- サーバ名リスト全体の長さが1,024文字である
- サーバ名に、~'!@#\$%^&*()+=\":'<>?,|のような特殊文字が含まれていない
- サーバ名がセミコロンで区切られている

名前によって信頼するには、次のように操作します。

1. **[名前による信頼]**を選択して、次へをクリックします。
2. **[信頼されたサーバ名]**フィールドで、信頼するサーバ名を入力します。
3. 追加をクリックします。信頼済みシステム名が信頼されたサーバリストの下に表示されます。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
4. 次へをクリックします。**[IPバインド]**ページが表示されます。

- **すべて信頼** あらゆるシステムからの特定の設定変更を受け入れるよう System Management Homepageが設定されます。

注記:



他のオプションより安全であるため、証明書による信頼オプションを使用することを強くおすすめします。

すべてのサーバを信頼するには、次のように操作します。

1. **[すべて信頼]**を選択します。保存をクリックしてこの時点までの変更内容を保存するか、キャンセルをクリックして変更内容を破棄し、ウィザードを終了します。
 2. 次へをクリックします。**[IPバインド]**ページが表示されます。
- i. IPバインディングは、System Management Homepageが要求を受け入れるIPアドレスを指定し、処理されるネットおよびサブネット要求にについての制御を行います。

管理者は、**[IPバインド]**ページに指定されたアドレスに対してのみバインドするようSystem Management Homepageを設定することができます。最大で5つのサブネットIPアドレスとネットマスクを定義することができます。

サーバのIPアドレスは、マスクの適用後に入力されたIPバインディング アドレスのいずれかに一致する場合に、バインドされます。

注記:



System Management Homepageは、常に、127.0.0.1にバインドされます。IPバインディングが有効でサブネット/マスク ペアが設定されていない場合は、System Management Homepageは、127.0.0.1に対してのみ使用可能です。IPバインディングが有効でない場合は、すべてのアドレスにバインドします。

IPバインディングを設定するには、次のように操作します。

1. **[IPバインド]**を選択します。**[IPバインド]**ページが表示されます。
2. IPアドレスを入力します。
3. ネットマスクを入力します。
4. 追加をクリックします。IPバインディングの設定が保存され、**[IPバインドリスト]**の下に表示されます。

5. 次へをクリックします。**[IP限定ログイン]**ページが表示されます。

- j. IP限定ログインは、System Management HomepageがシステムのIPアドレスに基づいてログイン アクセスを制限できるようにします。

アドレス制限は、インストール時に設定するか、管理者が**[IP限定ログイン]**ページから設定することができます。

- IPアドレスが除外されている場合は、内包ボックスにあっても除外されません。
- IPアドレスが包含リストに含まれる場合、それらのIPアドレスのみがログイン アクセスを許可されます。ただし、localhostの場合を除きます。
- IPアドレスが包含リストにない場合、ログイン アクセスは、除外リストにないあらゆるIPアドレスに対して許可されます。

IPアドレスを含めたり除外したりするには、次のように操作します。

1. **[開始]**フィールドから、含めるまたは除外するIPアドレスを入力します。
[開始]フィールドに開始のIPアドレスを入力するか、**[終了]**フィールドに終わりのIPアドレスを入力することによって、IPアドレス範囲を入力することができます。
2. **[種類]**フィールドから、包括または除外を選択します。
3. 追加をクリックしてIPアドレスまたはIPアドレス範囲を下の**[包括するリスト]**または**[除外リスト]**に追加します。
4. 保存をクリックします。System Management Homepageシステムに対する**[HP System Management Homepageログイン]**ページが表示されます。System Management Homepageの詳細については、http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにある『HP System Management Homepage製品概要』を参照してください。

- バージョン コントロール エージェントの設定をクリックして、選択したSupport PackでHPバージョン コントロール エージェントを設定します。

注記：バージョン コントロール エージェントが既に設定されている場合は、この手順を省略できます。

バージョン コントロール エージェントを設定するには、次のように操作します。

- a. **[コンピュータ名]**フィールドに、バージョン コントロール レポジトリ マネージャをインストールしたシステムの名前を入力します。
- b. **[ログインアカウント]**フィールドに、指定したシステム上のバージョン コントロール レポジトリ マネージャへの接続に使用するログイン名を入力します。
- c. **[ログイン パスワード]**フィールドに、指定したログイン名に対応したパスワードを入力します。

- d. 保存をクリックして設定を保存します。設定を破棄して[バージョン コントロール エージェントセットアップ]ページを閉じる場合は、キャンセルをクリックしてください。
 - e. 次へをクリックします。
12. HP Systems Insight Managerに戻り、次へをクリックして、ProLiant Support Packのダウンロードを開始します。**[Support Packのダウンロード]**ページが表示されます。
 13. Support Packがダウンロードされたら、スケジュールをクリックして、実行する初期ProLiant Support Packインストールに対するスケジュール済みタスクを作成するか、すぐに実行をクリックしてタスクを直ちに実行します。

LinuxシステムへのProLiantまたはIntegrity Support Packの初期インストール

- Linuxシステムの場合は、Linux展開ユーティリティを使用して、ローカルシステムを対象にあらかじめ設定したコンポーネントを含む最新のサポート パックをインストールします。Linux展開ユーティリティを使用した、サポート パックのインストールの詳細については、<http://www.hp.com/servers/psp>（英語）を参照してください。

HP-UXシステムへの必要なソフトウェアのインストール

1. HP-UX用の基本管理対象システム ソフトウェアに関する理解

HP-UXの場合、HP Systems Insight Managerの最も重要な機能が動作するには、以下のソフトウェア（推奨最小バージョンが示されています）が必要です。このソフトウェアは、最新のHP-UX 11i v2オペレーティング システムの一部としてデフォルトでインストールされますが、HP-UX 11i v1または前のバージョンのHP-UX 11i v2のシステムではインストールまたは更新しなければならない場合があります。

- T1471AA A.04.00 HP-UX Secure Shell
- B8465BA A.02.00.05 HP WBEM Services for HP-UX

このWBEM Servicesバンドルには、HP SIMプロパティ ページに表示される基本システム装置と、HP SIMインベントリ機能による収集サポート機能およびレポート機能が含まれています。プロパティ、インベントリ、およびイベントに関してSIMを最大限に活用するには、以下のソフトウェアをインストールして、HP-UX 11i v2サーバで利用できるようにする必要があります。

- LVMProvider R11.23 CIM/WBEM Provider for LVM
- WBEMP-LAN-00 B.11.23 LAN Provider for Ethernet/LAN Interfaces
- SysFaultMgmt A.02.00 HP-UX System Fault Management

次のソフトウェア（HP-UX用のSystem Management Homepage）は、現在、WindowsおよびLinuxサーバで提供されるものと同じレベルの機能をサポートしていません。現時点では、最新バージョンのPartition Managerをサポートするためだけに必要です。

- SysMgmtWeb A.2.2 HP-UX Web Based System Management User Interfaces

2. 管理対象システム ソフトウェアがインストールされていることの確認

最低限必要なソフトウェアがインストールされていることを確認するには、リモートシステムにログインして、次のコマンドを実行します。

\$ swlist -l bundle T1471AA B8465AA

オプションのプロバイダとSystem Management Homepageがインストールされていることを確認するには、次のようなコマンドを実行します。

\$ swlist -l bundle LVMPProvider WBEMP-LAN-00 SysFaultMgmt

3. 管理対象システム ソフトウェアの取得およびインストール

SecureShellおよびWBEMバンドルは、HP-UX Operating Environment and Application Releaseメディアに収録されており、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/softwaredepot>（英語）（英語）からダウンロードできるHP Systems Insight Manager HP-UXデポにも含まれています。

WBEMプロバイダについては、いくつかのものがHP-UX Operating Environment and Application Releaseメディアに収録されています。さらに、LVMPproviderおよびSysFaultMgmtは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/softwaredepot>（英語）において、「provider」でキーワード検索することによって入手できます。

OnlineDiagバンドルがコンピュータにインストールされていることを確認してください。

OnlineDiagバンドルがインストールされていることを確認するには、次のコマンドを入力します。

swlist | grep OnlineDiag

OnlineDiagバンドルは、オペレーティング環境にインストールされます。このため、最新バージョンのオペレーティング環境を使用していれば、このバンドルはインストールされています。インストールされていない場合、OnlineDiagnosticバンドルは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/softwaredepot>（英語）において、「B6191AAE」でキーワード検索することによって入手できます。

プロバイダに含まれているデポを入手できたら、次のコマンドを使用して管理対象システムからインストールできます。

\$ swinstall -s <depot_location> T1471AA B8465AA

\$ swinstall -s <depot_location> LVMPProvider WBEMP-LAN-00 SysFaultMgmt

4. Serviceguardプロバイダの設定

Serviceguard用のWBEMプロバイダは、オプションでHP Serviceguardクラスタにインストールできます。このプロバイダは、HP Systems Insight Managerがシステム リスト内でクラスタとそのメンバを関連付けたり、HP Serviceguardクラスタのステータスを表示したりする際に役立ちます。

HP Systems Insight Managerからファーストタイム ウィザードを使用する場合、rootユーザと非rootユーザがあらかじめWBEMのデフォルト ユーザに指定されています。また、このシステムについて、ユーザが特別に設定されている可能性もあります。

非rootユーザがWBEMユーザの場合、HP Systems Insight ManagerからServiceguardプロバイダにアクセスするには、非rootユーザにServiceguardへの管理アクセスを許可するように

Serviceguardを設定する必要があります。ServiceGuardの詳細については、「HP Serviceguard Managerの概要」を参照してください。

管理対象システム ソフトウェアの設定

HP Systems Insight Managerのエージェントの設定および修復機能を使用すると、管理対象システムを迅速かつ簡単に設定することができますが、LinuxおよびHP-UXシステムについては手動設定が可能です。

CMSからのエージェントの設定および修復機能の実行

複数のシステムに同時にリモートからエージェントの設定および修復を実行するには、エージェントの設定および修復ツールを実行する権限を持っていなければなりません。

ノードのセキュリティ ファイルでのHP Systems Insight Managerのコミュニティ名を変更するには、CMSのフル設定権限を持つ必要があります。また、ターゲットシステムで、エージェント設定を指定および修正するには、Windowsシステムの場合はadministrator権限、LinuxおよびHP-UXシステムの場合はroot権限が必要です。

注記：管理対象システムの設定には同種のオペレーティングシステムを使用することをおすすめします。たとえば、Linux管理対象システムに対してはLinuxベースのCMSを使用してエージェントの設定および修復を実行し、HP-UX管理対象システムに対してはHP-UX CMSを使用してエージェントの設定および修復を実行してください。Windowsシステムは、Windows CMS以外からは設定できません。

エージェントをリモートから設定するには、次のように操作します。

1. メニューから、**[設定]>[エージェントの設定および修復]**の順に選択します。

注記：ツールを選択する前にターゲットを選択すると、**[ターゲット システムの確認]**ページが表示されます。

2. ターゲットを追加します。まず、ドロップダウンボックスからグループを選択してください。選択したグループの内容が表示され、ターゲットとして選択できます。また、グループ自体を選択するには、**["グループ"自体を選択]** チェックボックスを選択します。
3. 適用をクリックします。**[ターゲット システムの確認]**セクションにターゲットが表示されます。

注記：選択したターゲットに、ツールとの互換性がない場合は、問題の簡潔な説明が**[ツール起動OK?]**カラムに表示されます。ターゲットを削除するには、ターゲットを選択して、ターゲットの削除をクリックします。

4. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ターゲットの追加をクリックして、ターゲットを**[ターゲット システム リスト]**に追加します。
 - ターゲットを削除するには、ターゲットを選択して、ターゲットの削除をクリックします。
 - 次へをクリックして、ツール パラメータを指定し、タスクをスケジュールします。
5. **[認証情報を入力]**ページで、以下を実行します。

- a. **[ユーザ名]**フィールドに、ターゲット システムのシステム管理者のユーザ名を入力します。
- b. **[パスワード]**フィールドに、前の手順で入力したユーザ名のシステム管理者パスワードを入力します。
- c. **[パスワード]**フィールドに入力したものと同一システム管理者パスワードを**[パスワード (確認)]**フィールドに再び入力します。
- d. Windows管理対象システムの場合のみ、**[ドメイン]**フィールドに、Windowsドメインを入力します。

注記：この手順で使用するログイン認証情報は、選択したすべてのターゲット システムで有効なものでなければなりません。ドメインの**administrator**または**root**ログイン認証情報を使用することをおすすめします。

6. 次へをクリックします。戻るをクリックすると、前のページに戻ります。**[構成または修復設定]**ページが表示されます。

使用できるオプションは次のとおりです。

- **[SNMPの設定]**。このオプションを選択して、SNMP設定を指定します。

このオプションを選択する場合は、次の各ステップを検討する必要があります。

1. **[読み込みコミュニティ名の設定]**を選択します。

注記：この時点でデフォルトSNMPインストレーションのHP-UXシステムだけを設定する場合は、このオプションの選択を解除することができます。HP-UXは、デフォルトで読み取りを許可します（HP-UXシステムではGetコミュニティ名がデフォルトでpublicに設定されています）。

注記：このオプションを選択した場合、**[読み込み]**コミュニティ名がターゲットシステムに追加されます。ターゲット システムがSuSE LinuxまたはMicrosoft Windows 2003の場合、管理対象ノードは、それら自体とリモート ホストの間のSNMP通信を常に許可しません。HP Systems Insight Managerシステムのインスタンスがこれらのターゲット システムとSNMP通信することを可能にするには、この設定を変更します。

注記：**[読み込み書き込み]**コミュニティ名が現在存在しない場合のみ、SNMP設定を修正すると、このコミュニティ名がターゲット システムに追加されます。このコミュニティ名は、システムごとに異なります。また、30文字を超える文字（数字と文字）で構成され、そのシステムの管理者権限を持つユーザだけが表示できます。**[読み込み書き込み]**コミュニティ名は、Webエージェントが特定のスレッシュホールド設定機能を実行する際に必要です。このコミュニティ名は、ターゲットシステム上でローカルでのみ使用され、ネットワーク経由でHP Systems Insight Managerが使用することはありません。

2. ターゲット システムの**[SNMPトラップ送信先]**で、**[HP Systems Insight Managerのこのインスタンスを参照するトラップを設定]**を選択します。これにより、ターゲット システムは、HP Systems Insight ManagerのこのインスタンスにSNMPトラップを送信できます。

- **信頼関係"証明書による信頼"に設定。**このオプションを選択して、システムがSystem Management Homepageとの[証明書による信頼]信頼関係を使用するようにします。

ターゲット システム上のSystem Management Homepageの場合、このオプションは、信頼モードを[証明書による信頼]に設定して、HP Systems Insight Managerのシステム証明書をターゲット システムの信頼証明書ディレクトリにコピーします。これにより、HP Systems Insight Managerユーザは、認証に証明書を使用してSystem Management Homepageに接続できます。

注記：後でLinuxに信頼ステータスを設定する際に問題が発生した場合は、HP Systems Insight Managerのオンライン ヘルプのトラブルシューティング ヘルプ ファイルを参照して解決に役立ててください。

- **Insightマネジメント エージェントバージョン7.1以前の管理者パスワードの設定。**このオプションを選択して、ターゲット システムにインストールされているすべてのInsightマネジメント エージェントの管理者パスワードを修正します（WindowsおよびLinuxシステムについて該当する場合）。

注記：Insightマネジメント エージェント7.2以上がインストールされている場合、このオプションの選択は解除してください。

注記：リモート システムがHP-UXを実行している場合、このオプションはHP-UXシステム上では適用されないため、リモート システムでは実行されません。この時点でHP-UXターゲット システムだけを設定する場合は、このオプションの選択を解除することができます。

このオプションを選択する場合、次の各ステップで設定を行う必要があります。

1. [パスワード]フィールドに、新しい管理者パスワードを入力します。
2. [パスワードの確認]フィールドに、前の手順で入力した新しい管理者パスワードをそのまま再入力します。

- **セキュア シェル（SSH）アクセスの設定。**

このオプションを選択する場合は、次のうちいずれかを選択する必要があります。

- **SSHのホスト ベース認証** - SSHの詳細については、
<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>
（英語）にある『Secure Shell (SSH) in HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。
- **各ユーザは、管理されたシステムで認証される必要があります。**

注記：選択したシステムにLinuxまたはHP-UXオペレーティング システムが搭載されていて、SNMP設定、信頼関係、およびHP Insightマネジメント エージェント 7.1以前の管理者パスワードのオプションが選択されている場合、SSH認証がまだ設定されていないければ、この時点で選択してください。

注記：SSHは、OpenSSHサービスが管理対象システムで動作している場合にのみ設定できます。OpenSSHは、Windowsシステムでは、[展開]>[ドライバ、ファームウェアおよびエージェントのインストール]>[Open SSHのインストール]の順に選択し、[Open SSHのインストール]ツールを実行することによってインストールできます。

● **WBEMイベントのサブスクリプションを作成。**

注記：このオプションは、LinuxおよびHP-UXシステムにのみ適用されます。このオプションを選択すると、ターゲットシステムが、HP Systems Insight ManagerにWBEMイベントを送信するように設定されます。

注記：WBEMイベントのサブスクリプションは、管理対象システムにWBEMイベントプロバイダがインストールされ、動作している場合にのみ作成できます。

7. **すぐに実行をクリックします。**このタスクを後で実行する場合はスケジュールをクリックします。戻るをクリックすると、前のページに戻ります。**[タスク結果]**ページが表示されます。

注記：エージェントの設定および修復ツールは、複数のターゲットシステムの更新に使用できます。それぞれのシステムの結果が異なる可能性があります。この情報は、**[標準出力]**の情報の表示に使用されます。結果は、修正の試みが成功したかどうかを示します。

注記：Linuxシステム上での、SNMP設定、信頼関係、Insightマネジメント エージェント 7.1以前の管理者パスワードの修正は、独立したタスクによって実行されます。このタスクは、タスク ログ メニュー選択で表示できます。HP-UXシステム上での、SNMP設定、信頼関係の修正は、独立したタスクによって実行されます。このタスクは、タスク ログ メニュー選択で表示できます。LinuxシステムとHP-UXシステムが選択されている場合、LinuxシステムとHP-UXシステム用に2つのタスクIDが存在します。

[タスク結果]ページに、次の情報が表示されます。

- **[ステータス]**。タスクインスタンス内の各ターゲットシステムの詳細が表示されます。
- **[終了コード]**。実行可能プログラムが正常かエラーかを表します。戻り値がゼロか正である場合、実行可能プログラムは正常に実行されました。負の値が返された場合、実行可能プログラムはエラーです。
- **[ターゲット名]**。ターゲットの名前/IPアドレスが表示されます。
- **[標準出力]**タブ。出力テキスト情報が表示されます。
- **[標準エラー]**タブ。実行可能プログラムでエラーが発生したかどうかに関する情報が表示されます。
- **[コピー済みファイル]**タブ。コピー中のファイル、またはターゲットシステムにコピーされたファイルが表示されます。
- **印刷可能なレポートの表示。**現在選択しているターゲットシステムのレポートまたはタスク インスタンスに関連しているすべてのターゲットシステムのレポートを印刷できます。

レポートを印刷するには、次のように操作します。

1. **印刷可能なレポートの表示をクリックします。**

[オプション メッセージ]ボックスが表示され、現在選択しているターゲットシステムのみを含むレポート、またはタスク インスタンスに関連するすべてのターゲットシステムを含むレポートを生成するかどうか、質問されます。

2. **印刷するレポートを選択します。**

3. レポートを印刷するには、**OK**をクリックします。[タスク結果の表示]ページに戻るには、キャンセルをクリックします。
8. ターゲットシステムに、マネジメントHTTPサーバがインストールされている場合、マネジメントHTTPサーバのパスワード ファイルで、ログイン認証情報が更新されます。

管理対象システムの手動セットアップ

HP Systems Insight Managerのエージェントの設定および修復を使用すると、最も簡単に管理対象システムを設定することができます。ただし、LinuxおよびHP-UX管理対象システムの手動設定手順がイベントに含まれている場合は、手動設定が必要です。

以下のセクションでは、管理対象システムの設定方法を詳しく説明します。

- 「HP-UX管理対象システムの手動セットアップ」
- 「Linux管理対象システムの手動セットアップ」

HP-UX管理対象システムの手動セットアップ

HP Systems Insight Managerのエージェントの設定および修復ツールを使用して複数のHP-UX管理対象システムを同時に設定することもできますし、各管理対象システムを手動で設定することもできます。

HP-UXシステムの手動設定に役立つ次の一般手順を実行します。

1. SSH（バンドルT1471AA）をインストールします（インストールされていない場合）。
2. WBEM（バンドルB8465BA）をインストールします（インストールされていない場合）。
3. （省略可能）トラップをCMSに送信するようにSNMPを設定します。
4. （省略可能）HP-UX 11.11システムでDMIを設定します（WBEMがインストールされている場合は不要）。

CMSで次の手順を実行します。

5. このシステムのSSHキーを設定します。
6. デフォルトのWBEMユーザ名およびパスワードを設定します（設定されていない場合）。

注記:



HP-UX 11.23システムには、SSHとWBEMがデフォルトでインストールされています。11.11システムについては、インストールされているかどうかを、次のコマンドで確認してください。

swlist B8465BA T1471AA

7. WBEMイベントを予約します。

各管理対象システムで次の手順を実行します。

1. SSHを管理対象システムにインストールします（インストールされていない場合）。

swinstall -s /directory/depot T1471AA

ここで、directoryはデポ ファイルへのパス、depotはデポ ファイルのファイル名です。次に例を示します。

swinstall -s /tmp/HPSIM_download.depot T1471AA

2. WBEMを管理対象システムにインストールします（インストールされていない場合）。

swinstall -s /directory/depot B8465BA

ここで、directoryはデポ ファイルへのパス、depotはデポ ファイルのファイル名です。次に例を示します。

swinstall -s /tmp/HPSIM_download.depot B8465BA

3. トラップをCMSに送信するようにSNMPを設定します。
 - a. 次のファイル内に、trapdestという、CMSの完全ホスト名またはIPアドレスを追加します。

/etc/SnmpAgent.d/snmpd.conf

trap-dest: hostname_or_ip_address

- b. 次のコマンドを使用して、SNMPマスタ エージェントとすべてのサブエージェントを停止します。

/sbin/init.d/SnmpMaster stop

- c. 次のコマンドを使用して、SNMPマスタ エージェントとすべてのサブエージェントを再起動します。

/usr/sbin/snmpd

4. 管理対象システムで、CMSのDNSホスト名を追加して、DMIを設定します。

注記:



DMIは、HP-UX 11.11についてのみ設定する必要があり、WBEMがインストールされていない場合にのみ設定する必要があります。

- a. 管理対象システムでDMIデーモンを停止させます。

/sbin/init.d/Dmisp stop

- b. /var/dmi/dmiMachinesを編集して、このファイルの最後にCMSのホスト名を追加します。ファイルを保存します。
- c. DMIデーモンを起動します。

/sbin/init.d/Dmisp start

5. CMSで、**mxagentconfig**を使用して、CMSから管理対象システムにSSH生成パブリックキーをコピーします。

次のいずれかのコマンドを使用します。

- **mxagentconfig -a -n <hostname> -u root -f <file_with_root_password>**

または

- **mxagentconfig -a -n <hostname> -u root -p <root_password>**

注記：-pオプションを使用するとps出力によってパスワードが知られてしまいます。このため、**mxagentconfig -a**を使用する際は、**-f**オプションを使用することを強くおすすめします（ファイルは、rootだけが読み取れるように設定し、管理対象システムのrootパスワードだけを含むようにしてください）。**-p**オプションを使用する場合、パスワードに「&」や「\$」などの特殊記号が含まれていなければ、パスワードを一重引用符で囲んでください。詳細およびオプションについては、**man mxagentconfig**を使用して**mxagentconfig**のマニュアルページを参照してください。

6. HP Systems Insight Manager GUIにログインします。この手順については、「ログイン」を参照してください。GUIを使用して、デフォルトのWBEMユーザ名およびパスワードを[グローバル プロトコル設定]ページに追加します。

注記：WBEMのユーザ名とパスワードを組み合わせた、最低1つのアカウントが、各管理対象システムに必要です。

注記：この手順は、セットアップするすべての管理対象システムについて1度実行することができます。

- a. [オプション]>[プロトコル設定]>[グローバル プロトコル設定]を選択します。
- b. [デフォルトWBEM設定]セクションで、[WBEM有効]チェックボックスが選択されていることを確認し、デフォルトのWBEMユーザ名、パスワード、および確認パスワードを追加します。
- c. **OK**をクリックします。

注記:



WBEMのユーザ名とパスワードを組み合わせた、最低1つのアカウントが、各管理対象システムに必要です。[グローバルプロトコル設定]のユーザが管理対象ノードに存在しない場合は、[システム プロトコル設定]ページから、システムごとのWBEMユーザ名およびパスワードを設定することができます。

7. 以下の手順を実行して、WBEMイベントを予約します。

注記：OnlineDiagnosticの詳細については、
<http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英

語)にある『WBEM Subscriptions in HP Systems Insight Manager white paper』を参照してください。

- a. 管理対象システムから、WBEMがすでにインストールされていることを確認します。

注記：管理対象システムでのWBEMイベントの予約はオプションです。

- b. **SysFaultMgmt**プロバイダがインストールされていることを確認します。

cimprovider -ls

「**EMSWrapperProviderModule**」と表示されるはずです。

CMSから、以下の手順を実行します。

1. WBEMがrootアクセスを持っていることを確認します。

mxnodesecurity -l -p wbem -n <systemname>

WBEMイベントを予約するには、**root**アクセスが必要です。[グローバル プロトコル設定]が管理対象システムと一致しない場合、または[グローバル プロトコル設定]に**root**アクセスが含まれていない場合は、WBEMイベントの予約ができません。次のコマンドラインを実行すると、WBEMが持つアクセスのタイプを確認することができます。

mxnodesecurity -l -p wbem -n <systemname>

管理システムが**root**アクセスを持っていない場合は、個々のシステムを変更することができます。

注記：エージェントの設定および修復ツールを使用すると、**root**パスワードを永久に記録せずに、この手順を実行することができます。

個々のシステムを変更するには、次のように操作します。

- a. [ツール]->[システム情報]->[システム ページ]を選択します。
 - b. [システム]ページから、[ツール&リンク]->[システム プロトコル設定]を選択します。
2. CMSから、WBEMイベント コマンド ラインを実行します。

mxwbemsub -l -n <systemname>

詳細については、「WBEMイベントの予約」を参照してください。

Linux管理対象システムの手動セットアップ

HP Systems Insight Managerのエージェントの設定および修復ツールを使用して複数のLinux管理対象システムを同時に設定することもできますし、各管理対象システムを手動で設定することもできます。

Linux管理対象システムを手動で設定するには、各管理対象システムで以下の手順を実行します。

1. SSHをインストールして設定します。

- a. SSHが管理対象システムにインストールされていることを確認します。

`rpm -qa | grep ssh`

インストールされていない場合、SSHのインストールについては、Linuxプロバイダを参照してください。

- b. CMSで、CMSから管理対象システムにSSH生成パブリック キーをコピーして、キーを実行可能ユーザ（rootまたはadministrator）の認証済みキー ファイルに保存します。

重要：英語版以外のCMSでは、administratorアカウント（administratorと正確に綴る）がCMS上に存在すること、および作成されたadministratorアカウントに対して**mxagentconfig**がCMSで実行されていることを確認してください。

- i. CMSコマンドプロンプトから**[SSHキーの管理]**ダイアログ ボックスを開きます。

`mxagentconfig -a -n hostname -u username -p Password`

- ii. 接続をクリックします。

2. SNMPトラップを送信できるように、システムを設定します。

注記：この手順は、Linuxのバージョンによって多少異なる場合があります。ファイルパスとファイル名がシステムにない場合、詳細については、Linuxプロバイダを参照してください。

- a. SNMPがインストールされていることを確認します。

`rpm -qa | grep snmp`

SNMPがインストールされていない場合、SNMPのインストール方法については、Linuxのプロバイダに問い合わせてください。

- b. HPサーバ管理ドライバとエージェントをLinux用のProLiant Support Packからインストールしていない場合は、この手順を省略してください。インストールしている場合は、次のコマンドを使用して、HP Systems Insight ManagerをインストールするプラットフォームでHPサーバ管理ドライバとエージェント デーモンを停止させます。

`/etc/init.d/hpsm stop`

注記：HPサーバ管理ドライバとエージェント デーモンがインストールされていない場合、この手順と手順Fは省略してください。

- c. SNMPデーモンを停止させます。

`/etc/init.d/snmpd stop`

- d. 任意のテキスト エディタを使用してsnmpd.confファイルを編集します。

Red Hat Linuxの場合、viエディタでこのファイルを開くコマンドは、次のとおりです。
`vi /etc/snmp/snmpd.conf`

SuSE SLES 8の場合、viエディタでこのファイルを開くコマンドは、次のとおりです。
vi /usr/share/snmp/snmpd.conf

- i. trapsink行からコメント記号（#）を削除して、CMSのIPアドレスを追加します。

trapsink IPaddress

ここで、IPaddressはCMSのIPアドレスです。

- ii. 次の行を追加して、読み取り専用コミュニティにCMSを追加します。

rocommunity CommunityName IPaddress

CommunityNameはCMSによって使用されるSNMPコミュニティ名、IPaddressはCMSのIPアドレスです。

- iii. 変更内容をファイルに保存します。viエディタ使用して変更内容を保存し、ファイルを閉じる場合、Escキーを押し、**:wq!**と入力して、Enterキーを押します。

- e. 次のようにSNMPデーモンを起動します。

/etc/init.d/snmpd start

- f. HPサーバ管理ドライバとエージェントデーモンがインストールされている場合、システム上で次のように起動します。

/etc/init.d/hpasm start

- 3. Linux Proliant Support Packをインストールします。このソフトウェアをダウンロードしてインストール情報を参照するには、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/swdrivers>にアクセスします。
- 4. HP Systems Insight Manager GUIにログインします。この手順については、「ログイン」を参照してください。
- 5. デフォルトのWBEMユーザ名およびパスワードを、HP Systems Insight Manager GUIの[グローバル プロトコル設定]ページに追加します。

注記：各管理対象システムには、1つ以上のWBEMユーザ名とパスワードの組み合わせについてのアカウントが存在している必要があります。

注記：この手順は、セットアップするすべての管理対象システムについて1度実行することができます。

- a. [オプション]->[プロトコル設定]->[グローバル プロトコル設定]を選択します。
- b. [デフォルトWBEM設定]セクションで、[WBEM有効]チェックボックスが選択されていることを確認し、デフォルトのWBEMユーザ名、パスワード、および確認パスワードを追加します。
- c. **OK**をクリックします。

例

Windows管理対象システムのセットアップ

以下の例では、Windows CMSからリモートのWindowsシステムをセットアップする方法について説明します。

Windows CMSからリモートのWindowsシステムをセットアップするには、次のように操作します。

1. CMSのフル設定権限で、Windows CMS上のHP Systems Insight Managerにログインします。
2. 実行済みでない場合、ファーストタイム ウィザードを実行します。詳細については、「検出タスクの実行」を参照してください。
3. 実行済みでない場合、検出を実行します。ファーストタイム ウィザードの実行について詳しくは、「ファーストタイム ウィザード」を参照してください。
4. System Management Homepageおよびバージョン コントロールコンポーネントを事前設定します。
5. リモート システムに、ProLiantまたはIntegrity Support Packをインストールします。
 - 初期ProLiant Support Packインストールを実行して、Windowsシステムに最新のProLiant Support Packをインストールします。詳細については、「WindowsシステムへのProLiant Support Packの初期インストール」を参照してください。
6. エージェントの設定および修復機能を実行します。詳細については、「CMSからのエージェントの設定および修復機能の実行」を参照してください。

Linux CMSからのリモートのLinuxシステムのセットアップ

以下の例では、Linux CMSからリモートのLinuxシステムをセットアップする方法について説明します。

Linux CMSからリモートのLinuxシステムをセットアップするには、次のように操作します。

1. CMSのフル設定権限で、Linux CMS上のHP Systems Insight Managerにログインします。
2. 実行済みでない場合、ファーストタイム ウィザードを実行します。詳細については、「検出タスクの実行」を参照してください。
3. 実行済みでない場合、検出を実行します。ファーストタイム ウィザードの実行について詳しくは、「ファーストタイム ウィザード」を参照してください。
4. System Management Homepageおよびバージョン コントロールコンポーネントを事前設定します。
5. リモート システムに、ProLiantまたはIntegrity Support Packをインストールします。
 - Linux展開ユーティリティを実行して、LinuxおよびHP-UXシステムに最新のIntegrity Support Packをインストールします。詳細については、HPのWebサイト

<http://www.hp.com/servers/psp>（英語）にあるHP ProLiant Support Packおよび展開ユーティリティ ユーザ ガイドをダウンロードしてください。

6. エージェントの設定および修復機能を実行します。詳細については、「CMSからのエージェントの設定および修復機能の実行」を参照してください。

HP-UX CMSからのリモートのHP-UXシステムのセットアップ

以下の例では、HP-UX CMSからリモートのHP-UXシステムをセットアップする方法について説明します。

HP-UX CMSからリモートのHP-UXシステムをセットアップするには、次のように操作します。

1. CMSのフル設定権限で、HP-UX CMS上のHP Systems Insight Managerにログインします。
2. 実行済みでない場合、ファーストタイム ウィザードを実行します。詳細については、「検出タスクの実行」を参照してください。
3. 実行済みでない場合、検出を実行します。ファーストタイム ウィザードの実行について詳しくは、「ファーストタイム ウィザード」を参照してください。
4. 管理対象システム ソフトウェアがインストールされていることを確認します。詳細については、「HP-UXシステムへの必要なソフトウェアのインストール」を参照してください。
5. エージェントの設定および修復機能を実行して管理対象システムを設定します。詳細については、「CMSからのエージェントの設定および修復機能の実行」を参照してください。

関連トピック

- 信頼関係の設定
- バージョン コントロール

SSHキーの管理

[SSHキー]機能により、known_hostsファイルに保存されるパブリックSecure Shell（SSH）キーを中央管理サーバ（CMS）から表示および管理することができます。SSHキーによって、CMSと管理対象システムは、安全な接続を認証できます。

HP Systems Insight Managerには、次のSSHキー設定オプションがあります。

- **Secure Shell**パブリック キーのセキュリティ レベルの選択。 [オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]を選択します。
- **SSHキー**のインポート。 [オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]を選択し、インポートするSSHキーを選びインポートをクリックします。
- **SSHキー**のエクスポート。 [オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]を選択し、エクスポートするSSHキーを選びエクスポートをクリックします。
- **SSHキー**の削除。 [オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]を選択し、削除するSSHキーを選び削除をクリックします。

関連プロシージャ

- SSHキーのインポート
- SSHキーのエクスポート
- SSHキーの削除
- SSHキー セキュリティの設定

SSHキー セキュリティの設定

Secure Shell (SSH) キー セキュリティ レベルを設定すると、中央管理サーバ (CMS) でのセキュリティ レベルを指定できます。

CMSで、SSHキー セキュリティ レベルを設定するには、次の操作を行います。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]を選択します。[SSHキー]ページが表示されます。

[管理システムSSHパブリック キー動作の選択]の下では、次のオプションを使用できます。

- 中央管理サーバは、**SSH接続が最初に行われるとき送信されるキーを保存します。**
- 中央管理サーバは、下のリストにない場合も含めて、任意のキーで**SSH接続を受け入れます。**

このオプションは、デフォルトで選択されます。

このオプションにより、SSHキーが変更されても、ホストに対するすべての接続が受け入れられます。known_hostsファイルが無効になり、新しいキーを反映して更新されます。

注記：このオプションは、man-in-middle攻撃に対して無防備です。

- 中央管理サーバは、キーが下のリストにある場合のみ、**SSH接続を受け入れます。**

このオプションでは、SSHキーが[管理システムSSHパブリック キー]リストになれば、接続が許可されません。

注記：このオプションが最も安全であるため、このオプションをおすすめします。

2. **OK**をクリックします。設定が保存されます。

関連プロシージャ

- SSHキーのインポート
- SSHキーのエクスポート
- SSHキーの削除

関連トピック

- SSHキーの管理

SSHキーのインポート

Secure Shell (SSH) キー リストをインポートすると、中央管理サーバ (CMS) が、安全な接続を認証した上で、管理対象システム上でコマンドを実行できるようになります。1つのファイルから複数のSSHキーがインポートされます。インポートされた各SSHキーは、それぞれの行に記載され、ホスト システムに関連付けられます。

CMS上でSSHキーをインポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]**を選択します。**[SSHキー]**ページが表示されます。
2. インポートをクリックします。**[管理システムSSHパブリック キー]**リストの下に、**[SSHキーのインポート]**セクションが表示されます。
3. 参照をクリックして、インポートするSSHキーを含むファイルにナビゲートします。
4. ファイルを選択して、開くをクリックします。キーは**[管理システムSSHパブリック キー]**リストに追加されます。操作を中止するには、キャンセルをクリックします。

関連プロシージャ

- SSHキーのエクスポート
- SSHキーの削除
- SSHキー セキュリティの設定

関連トピック

- SSHキーの管理

SSHキーのエクスポート

選択したSecure Shell (SSH) キーをエクスポートすると、SSHキーがファイルに保存されます。このファイルは、他のシステムのSSHキー リストにSSHキーをインポートするために使用できます。

中央管理サーバ (CMS) 上でSSHキーをファイルにエクスポートするには、次のように操作します。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]**を選択します。**[SSHキー]**ページが表示されます。
2. **[管理システムSSHパブリック キー]**リストで、エクスポートするSSHキーを選択します。**[システム]**を選択して、リストのすべてのSSHキーを選ぶこともできます。
3. エクスポートをクリックします。**[SSHキーのエクスポート]**セクションが表示されます。
4. 表示されるリンクを右クリックして、**[対象をファイルに保存]**を選択します。**[名前を付けて保存]**ダイアログ ボックスが表示されます。
5. ファイルを保存するディレクトリまでナビゲートします。
6. 保存をクリックします。キーがエクスポートされます。
7. **OK**をクリックします。

関連プロシージャ

- SSHキーのインポート
- SSHキーの削除
- SSHキー セキュリティの設定

関連トピック

- SSHキーの管理

SSHキーの削除

[管理システム**SSH**パブリック キー]リストから、Secure Shell（SSH）キーを削除すると、中央管理サーバ（CMS）上の SSH信頼キーを削除できます。

CMSでSSHキーを削除するには、次のように操作します。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[SSHキー]を選択します。[SSHキー]ページが表示されます。
2. [管理システム**SSH**パブリック キー]リストで、削除するSSHキーを選択します。
3. 削除をクリックします。SSHキーを削除しようとしていることを示すメッセージが表示されます。
4. **OK**をクリックします。[管理システム**SSH**パブリック キー]リストからキーが削除されません。

関連プロシージャ

- SSHキーのインポート
- SSHキーのエクスポート
- SSHキー セキュリティの設定

関連トピック

- SSHキーの管理

データベースのバックアップと復元

HP Systems Insight Managerをインストールしなおす際に、データベースに保存してある情報を維持する場合は、データベースをバックアップする必要があります。HP Systems Insight Managerをインストールしなおした後で、前のデータベースの情報をバックアップから復元できます。

関連プロシージャ

- HP-UX/Linux
- Windows

関連トピック

- リファレンス情報

HP-UX/Linux

HP-UXオペレーティング システムとLinuxオペレーティング システムにおけるデータベースのバックアップと復元

HP Systems Insight Manager関連のすべてのデータを保存するため、HP Systems Insight ManagerではPostgreSQLサーバ データベースが使用されています。データベースは定期的にバックアップしてください。復元が必要になった場合、HP Systems Insight Manager CMSは、復元プロセス中に自動的に再起動されます。

データベースのバックアップと復元を行うには、次のように操作します。

1. データベースを保存するには、`/opt/mx/bin/mxrepositorysave -f file_name/directory`と入力します。

ディレクトリを省略すると、日時情報を含むファイル名でファイルが生成されます。この機能は、自動バックアップで便利です。

ファイル名に`.gz`文字列を含めると、gzipフォーマットのファイルをバックアップすることもできます。

2. データベースを復元するには、`/opt/mx/bin/mxrepositoryrestore -f filename`と入力します。
CMSが再起動されます。

注記：現行データベースのすべてのデータは削除されます。

3. バックアップをスケジュールします。

[ツール]>[コマンド ライン ツール]>[PostgreSQL DBバックアップ]を選択し、**CMS**ノードをターゲットとして選択します。

注記：定期的に行うようにバックアップをスケジュールする場合は、パラメータにディレクトリ名を指定できます。ファイルはgzipフォーマットで保存され、日時情報がファイル名に含まれます。バックアップを1回だけ実行する場合は、ディレクトリかファイル名を指定できます。

HP Systems Insight Managerデータベース パスワードの変更

HP Systems Insight Manager設定中は、**mxadmin**ユーザがPostgreSQLで作成され、設定中にパスワードが生成されます。

1. パスワード**MxDBUserPassword**の値を取得するには、`/opt/mx/bin/mxpassword -l`と入力します。
2. HP Systems Insight Managerデータベース パスワードを変更するには、`/opt/mx/bin/mxpassword -m -x MxDBUserPassword=newpassword`と入力します。

関連プロシージャ

- Windows

関連トピック

- データベースのバックアップと復元

Windows

HP Systems Insight Managerでは、ネットワーク上のシステムに関して収集した、すべての情報、およびすべての設定オプションの保存に、Microsoft SQL Serverデータベース（MSDE）が使用されます。常に適切なバックアップスケジュールを使用して、データベースをバックアップしてください。深刻なデータベースの問題が発生した場合は、このバックアップを復元して、HP Systems Insight Managerを動作状態に戻すことができます。

データベースを復元する必要がある場合は、サービス アプレットからHP Systems Insight Managerサービスを停止した後で復元する必要があります。復元が完了した後で、サービスを再起動してください。

HP Systems Insight Managerをインストールし直す際に、データベースに保存してある情報を維持する場合は、データベースをバックアップする必要があります。HP Systems Insight Managerをインストールしなおした後で、HP Systems Insight Managerのインストール中に作成されたデータベースに、前のデータベース バックアップを復元できます。

SQLサーバ データベースのバックアップ

Microsoft SQL Enterprise Managerにはユーティリティが内蔵されており、データベースをバックアップできるようになっています。必要な場合は、バックアップを自動的に実行できます。この手順を完全に理解するには、SQL Enterprise Managerで提供されているヘルプを参照してください。

Microsoft SQL Enterprise Managerを使用してHP Systems Insight Managerデータベースをバックアップするには、次のように操作します。

1. HP Systems Insight Managerからサインアウトし、HP Systems Insight Managerサービスを停止します。
2. HP Systems Insight Managerをインストールした設定サブディレクトリ`config`をバックアップします。

注記：このプロセスでは、使い慣れたツールを使用して、ディレクトリをバックアップしてください。たとえば[エクスプローラ]を使用して、HP Systems Insight Managerインストール ディレクトリのコピーを作成できます。

3. Windowsコンソールの[スタート]メニューを使用して、Microsoft SQL Enterprise Managerを開きます。
4. 左側に表示されるツリーで、**[Microsoft SQL Servers]**ブランチと**[SQLサーバ]**グループを展開します。HP Systems Insight Managerデータベースがあるサーバがリストされない場合は、右クリック メニューから**[新しいSQLサーバ登録]**を選択して追加します。
5. HP Systems Insight Managerデータベースがあるサーバを選択します。最上部の**[ツール]**メニューから**[データベースのバックアップ]**を選択します。表示されるダイアログ ボックスで、Insight_v*というデータベースを選択し、バックアップオプションとして**[データベース全体]**が選択されていることを確認します。

6. 追加をクリックし、データベースのバックアップを取る場所を選択します。たとえば、ディスクかテープを選択します。
7. バックアップを始めるには、**OK**をクリックします。

バックアップによるSQLサーバ データベースの復元

1. Windowsコンソールの[スタート]メニューを使用して、Microsoft SQL Enterprise Managerを開きます。
2. 左側に表示されるツリーで、**[Microsoft SQL Servers]**ブランチと**[SQLサーバ]**グループを展開します。HP Systems Insight Managerデータベースがあるサーバがリストされない場合は、右クリック メニューから**[新しいSQLサーバ登録]**を選択して追加します。
3. HP Systems Insight Managerデータベースがあるサーバを選択します。最上部の右クリックメニューから、**[すべてのタスク]->[データのインポート]**を選択します。
DTSインポート/エクスポート ウィザードが起動されます。次へをクリックします。
4. **[サーバ]**フィールドで、エクスポートされたデータベースが存在するサーバを選択します。認証のモードとして**[Windows認証を使用]**を選択します。
5. **[データベース]**ドロップダウン メニューから、復元するデータベースの名前を選択します。たとえばInsight_v*を選択します。
6. 次へをクリックします。
7. **[サーバ]**ドロップダウン メニューからHP Systems Insight Managerシステムを選択します。認証のモードとして**[Windows認証を使用]**を選択します。**[データベース]**ドロップダウンメニューから**[Insight_v*]**を選択します。次へをクリックします。
8. **[変換元データベースからテーブルとビューをコピー]**を選択します。次へをクリックします。
9. **[選択した変換元テーブルとビュースクリーンのすべてのボタンを選択]**を選択します。次へをクリックします。
10. **[今すぐ実行]**を選択します。次へをクリックします。
11. 完了をクリックします。
12. 完了をクリックします。
13. HP Systems Insight Managerをインストールした設定サブディレクトリconfigを復元します。
14. HP Systems Insight Managerサービスを起動します。

MSDEデータベースのバックアップ

MSDEを使用すると、データ ファイルとトランザクション ログの両方をバックアップできます。障害が発生した場合は、最新データベースバックアップが復元されます。復元が完了したら、すべての後続トランザクション ログ ファイルに含まれる変更内容を適用し、最終夜間トランザクション ログがバックアップされたときの状態にデータベースを戻すことができます。

Microsoft Access 2000がある場合は、Accessプロジェクトの**[データベース ユーティリティ]**メニューで**BACKUP**コマンドを使用し、MSDEデータベースをバックアップできます。SQL Client

Toolsをインストールした場合は、SQL Enterprise Managerを使用してMSDEデータベースをバックアップできます。

SQL Client ToolsとAccess 2000は、Microsoft Data Engine (MSDE) インストールの一部ではありません。このため、MSDEのみをインストールしている場合は、上記のプログラムに付随するオプションを実行することはできません。MSDEデータベースをバックアップするには、**TSQL BACKUP DATABASE**コマンドを使用して**Osql.exe** (コマンドライン クエリ ツール) で実行できます。この手順は、Microsoft Data Engine (MSDE) 1.0に当てはまります。以下のセクションのすべてのストアード プロシージャについては、SQL Books Onlineを参照してください。

MSDEデータベース コマンド ライン機能を使用したHP Systems Insight Managerのバックアップ

1. HP Systems Insight Managerからサイン アウトし、HP Systems Insight Managerサービスを停止します。
2. HP Systems Insight Managerをインストールした設定サブディレクトリ`config`をバックアップします。

注記：このプロセスでは、使い慣れたツールを使用して、ディレクトリをバックアップしてください。たとえば[エクスプローラ]を使用して、HP Systems Insight Managerインストール ディレクトリのコピーを作成できます。

3. 次のコードは、MSDEでさまざまなストアード プロシージャを使用してバックアップを実行する例です。このコードでは、重要なデータベースが「そのまま」バックアップされないため、データベース名やサーバ名などを修正して環境に合わせて実行しなければならないことがあります。次のTSQLスクリプトを「メモ帳」に貼り付け、`myBackup.sql`というファイルに保存してください。

- このTSQLスクリプトでは、バックアップ ジョブが作成され、`sp_start_job`が呼び出されてジョブが実行されます。
- ジョブを作成します。
- Emailアドレス (コメントになっている部分) やポケベルなどを指定できます。
- このオプションやその他のオプションの詳細については、SQL Books Onlineを参照してください。

```
USE msdb
EXEC sp_add_job @job_name = 'mydbBackupJob',
@enabled = 1,
@description = 'mydbBackupJob',
@owner_login_name = 'sa',
@notify_level_eventlog = 2,
@notify_level_email = 2,
@notify_level_netsend = 2,
@notify_level_page = 2
```

```
- @notify_email_operator_name = 'email name'
```

```
go
```

- ジョブ ステップを追加します (データのバックアップ)。

```
USE msdb
EXEC sp_add_jobstep @job_name = 'mydbBackupJob',
@step_name = 'Backup INSIGHT Data',
@subsystem = 'TSQL',
@command = 'BACKUP DATABASE "Insight_v*" TO DISK
="c:\INSIGHT.dat_bak"',
@on_success_action = 3,
@retry_attempts = 5,
@retry_interval = 5
```

go

- ジョブ ステップを追加します（ログのバックアップ）。

```
USE msdb
EXEC sp_add_jobstep
@job_name = 'mydbBackupJob',
@step_name = 'Backup INSIGHT Log',
@subsystem = 'TSQL',
@command = <command> 'BACKUP LOG "Insight_v*" TO DISK' =
'c:\INSIGHT.log_bak"',
@on_success_action = 1,
@retry_attempts = 5,
@retry_interval = 5
```

go

- ターゲット サーバを追加します。

```
USE msdb
EXEC sp_add_jobserver @job_name = 'mydbBackupJob',
@server_name = N'(local)'
```

- ジョブを実行します。ジョブをすぐに開始します。

```
USE msdb
EXEC sp_start_job @job_name = 'mydbBackupJob'
```

- ファイルを/mssql/binフォルダの下にコピーする必要があります。

- これを実行するコマンドは、OSQL -Smysqlserverです。

-U sa -Pパスワードが存在する場合は、パスワードを-i mybackup.sql -nに指定します。

関連プロシージャ

- HP-UX/Linux

関連トピック

- データベースのバックアップと復元

SSHバイパス プロパティの設定

globalsettings.propsには、設定可能な多くのプロパティがあります。これらの設定は、お客様の実行環境に合わせて、HP Systems Insight Managerの各種設定のパフォーマンスを細かくチューニングするために使用されます。

SSHバイパスは、中央管理サーバ（CMS）がツールをCMSでローカルに実行する場合に、指定されたユーザのSSH接続の設定のオーバーヘッドをバイパスすることによって、パフォーマンスを向上させます。また、ローカルで適切に設定されていないSSHによる潜在的な問題を解決します。SSHバイパスは、CMSで排他的に実行されるツールに適用されます。この機能は、HP Systems Insight Manager 4.2 SP2 – Windowsで導入されており、HP-UXおよびLinuxについてもHP Systems Insight Manager 5.0に含まれています。この機能は、HP-UXおよびLinuxのrootユーザとWindowsのadministratorおよびinstallerアカウントについてはデフォルトで有効になっています。

globalsettings.propsで、SSHバイパス プロパティを設定するには、次のように操作します。

1. 次の位置にある、globalsettings.propsファイルを開きます。

- **Windowsの場合。** 一般に、C:\Program Files\HP\System Insight Manager\config\globalsettings.propsにあります。
- **HP-UXおよびLinuxの場合。** /etc/opt/mx/config/globalsettings.propsにあります。

2. 次のプロパティを編集します。

- **mx_dtf_ssh_bypass_user.** このプロパティを変更して、SSHバイパス機能のユーザ名を追加します。各ユーザ名はカンマで区切ってください。Windowsドメインアカウントについては、ドメイン名とユーザ名の間に2つの円マークが入っている必要があります（mydomain\mynameなど）。CMSについての完全な管理者権限を与えないユーザ名は追加しないでください。
- **mx_dtf_enable_ssh_bypass.** このプロパティをTrueに設定して、mx_dtf_ssh_bypass_userにリストされているユーザについて、ほとんどのローカルツールのSSHの使用をバイパスします。または、Falseに設定して、常に、ローカルに実行されるSSHツールを使用します。デフォルト設定はTrueです。

監査ログ

HP Systems Insight Managerでは、システム上のHP Systems Insight Managerユーザが実行するタスクをすべてログに記録しています。情報は、中央管理サーバ（CMS）の監査ログファイルに保存されます。HP Systems Insight Manager監査ログでは、複数の機能を設定できます。たとえば、データをログに記録するツール、および最大監査ログファイルサイズを指定できます。HP Systems Insight Manager監査ログは、log.propertiesファイルで設定し、ログに記録するツールを有効または無効に設定する場合は、XMLツール定義ファイルで行います。

HP Systems Insight Manager監査ログの設定

HP Systems Insight Manager監査ログの設定は、コマンドライン インタフェース (CLI) から実行します。rootまたはAdministratorとしてログオンしてください。

ツール定義ファイルの設定

XMLツール定義ファイルには、単一システム対応 (SSA) コマンド ツールとマルチシステム対応 (MSA) コマンド ツールのログを無効にするオプションがあります。コマンド要素のログ属性では、コマンドの結果をHP Systems Insight Managerログ ファイルに出力するかどうかを指定します。コマンド出力はデフォルトでログに記録されます。

log.propertiesファイルの設定

log.propertiesファイルが次のディレクトリに存在しない場合は、ファイルを作成してlog.propertiesという名前を付ける必要があります。このファイルが存在しない場合、またはファイル内で変数が定義されていない場合、HP Systems Insight Managerはデフォルト値を使用します。詳細については、「監査ログ ファイルの設定」を参照してください。

関連トピック

- 監査ログの表示

監査ログの表示

HP Systems Insight Managerでは、システム上のHP Systems Insight Managerユーザが実行するタスクをすべてログに記録しています。情報は、中央管理サーバ (CMS) の監査ログ ファイルに保存されます。

注記:



監査ログ ファイルを直接読み取るには、rootまたはAdministrator、または完全な設定権があるユーザとしてログインする必要があります。

HP Systems Insight Manager監査ログを表示して、CMSで記録された情報を確認するには、次のように操作します。

1. [タスク&ログ]>[**HP Systems Insight Manager監査ログの表示**]を選択します。[監査ログ]ページが表示されます。
2. 次のうちいずれかのオプションを選択し、表示するログ エントリを選択します。
 - [最新の**40**エントリ]。最新ログ エントリ数を選択して表示するには、これを選択します。デフォルトは、40個の最新ログ エントリを表示するように設定されています。
 - [検索開始エントリ " " 検索終了エントリ " "]。ログ エントリのうちインデックス付けした範囲を表示するには、このオプションを選択します。

3. すぐに表示をクリックします。要求したログ エントリが表示されます。

ログの内容

HP Systems Insight Manager監査ログには、次の情報がこの順序で含まれます。監査ログ エントリでは、すべてのフィールドの前にログ エントリ キー@!@が付きます。

- タイム スタンプの日付、時刻、タイム ゾーン
- カテゴリ
- 結果
- アクション
- オブジェクト タイプ
- オブジェクト タイプ記述子
- レベル
- セッション ユーザ ログイン名
- セッションID（任意）
- トランザクションID（任意）
- セッション ユーザの完全ユーザ名（任意）

上のフィールドは1行に表示されます。ログ エントリに関するメッセージや追加情報が存在する場合は、次の行に表示されます。

HP Systems Insight Manager監査ログの例を以下に示します。

```
@!@,2003-07-11 18:21:50 MDT,CONFIG,SUCCESS,ADD,TASK,Default Automatic  
Discovery,SUMMARY,mxadmin,0,11,
```

```
@!@,2003-07-11 18:22:06 MDT,CONFIG,SUCCESS,MODIFY,TASK,Initial Hardware Status  
Polling,SUMMARY,mxadmin,0,12,
```

```
@!@,2003-07-11 18:51:01  
MDT,CONFIG,SUCCESS,ADD,AUTHORI,MX_AUTH,SUMMARY,jsmith,590,1186800129,
```

John Smith Added authorization for user djones with a toolbox of **Monitor Tools** for All Managed Systems.

```
@!@,2003-07-11 18:53:08 MDT,CONFIG,SUCCESS,MODIFY,TASK,Hardware Status Polling for  
Servers,SUMMARY, mxadmin,0,88,
```

関連トピック

- 監査ログ

監査ログ ファイルの設定

監査ログ ファイルを、ユーザが指定したディレクトリに配置されるように設定してください。

監査ログを設定するには、次のように操作します。

1. Windowsの場合は、path.propertiesという名前のファイルをC:\Program Files\HP\System Insight Manager\configに作成します。

LinuxとHP-UXの場合は、path.propertiesという名前のファイルを/etc/opt/mx/configに作成します。

2. path.propertiesというファイルに、**LOG=\\Auditlog\\LogsまたはLOG=C:/Auditlog/Logs**というエントリを追加します。

注記：C:\\Auditlog\\Logは、例として挙げたものです。このパスは、ユーザによって定義されます。

3. LinuxとHP-UXの場合は、HP Systems Insight Managerデーモンを再起動します（**mxstop**と**mxstart**）。Windowsの場合は、HP Systems Insight Managerサービスを再起動します。サービスを再起動すると、path.propertiesファイルで指定したディレクトリに、mx.logという名前の新しいログファイルが常駐します。

log.propertiesファイルでは、次のように5つの変数を定義できます。

- MX_LOG_FILENAMEは、ファイル名を表します。デフォルトでは、"MX_LOG_FILENAME=mx"です。
- MX_LOG_FILEEXTは、ファイル拡張子を表します。デフォルトでは、"MX_LOG_FILEEXT=log"です。
- MX_LOG_FILESIZEは、ファイルの最大サイズを表します。デフォルトでは、"MX_LOG_FILESIZE=20"です。
- MX_LOG_ROLLFILEEXTは、ロール オーバ名のファイル拡張子を表します。デフォルトでは、"MX_LOG_ROLLFILEEXT=old"です。
- MX_LOG_QUEUE_SIZEは、監査ログに書き込む項目をキューに入れるために割り当てるメモリ量を表します。デフォルトでは、"MX_LOG_QUEUE_SIZE=300"です。

ファイルの最大サイズは、メガバイト単位で設定されます。

監査ログ ファイルが最大サイズに達すると、ログ ファイルの拡張子がMX_LOGROLLFILEEXTに変更されて、新しいファイルへの書き込みが開始されます。前バージョンのファイルがすでにMX_LOG_ROLLFILEEXT拡張子に変更されていた場合は、そのファイルは、監査ログ ファイルの自動ロール オーバになります。ロール オーバは、実行中のタスクの完了後に行われます。ただし、最大ファイル サイズを超えてから1時間が経過してもタスクが完了しない場合は、監査ログ ファイルは別のファイルにロール オーバされます。

注意:



キュー サイズの変更は慎重に行ってください。キュー サイズの設定値が大きすぎると、ログ マネージャにより大量のシステム メモリが消費される可能性があります。

log.propertiesファイルに加えた変更は、ログ マネージャ デーモンを再起動するまでは有効になりません。Windowsの場合は、HP Systems Insight Managerサービスを再起動してください。LinuxとHP-UXの場合は、ログ マネージャを再起動してください。

注記:



デフォルトの場合、LinuxとHP-UXでは、ログファイルのパスが/var/opt/mx/logsに設定されます。このパスは、/etc/opt/mx/config/path.propertiesファイルのLOGの値を編集することにより、設定できます。このプロパティファイルがない場合は、作成する必要があります。Windowsの場合、デフォルトの場所は、製品がインストールされているディレクトリのlogsサブディレクトリです。

関連トピック

- 監査ログ
- 監査ログの表示

トラブルシューティング

認証	ブラウザ	CIMOM
CLI	クラスタ	収集
カスタム コマンド	データベース	検出
イベント/SNMPトラップ	ファームウェア アップグレード	一般的な問題
HP Systems Insight Manager	HTTPイベント	識別
Internet Explorer	インストール	IPアドレス
OpenSSH	オペレーティング システム	ポケベル通知
ping	印刷機能	プロパティ ページ
プロトコル	エージェント設定のレプリケート	応答
検索	セキュリティ	Serviceguard Manager
サイン イン	SNMPエージェント	ソフトウェア ステータス
ストレージ システム	スイッチ	システム
システム ページ	タスク	ツール
VCRMカタログ	Windows NTイベント ログ	WMIMapper

認証

HP Systems Insight Managerが正常に実行されていたが、認証やデータベースへのアクセスを行うと、コンソールに次のようなエラー メッセージが表示される。認証の失敗または データベース アクセス エラー

解決策：この問題を解決するには、DNSサーバで、HP Systems Insight Managerが使用するネットワーク アドレスをCMSのホスト名と正しく関連付けられていることを確認します。DHCPサーバを使用して中央管理サーバ（CMS）のIPアドレスを割り当てている場合は、IPアドレスを静的に割り当てます。HP Systems Insight Managerのホスト名を変更することはできません。

ブラウザ

HP Systems Insight ManagerがインストールされたLinuxシステム上の**System Management Homepage**にアクセスしようとすると、複数のブラウザ警告メッセージを受け取る。

解決策：

1. ターミナル ウィンドウを開きます。
2. コマンド プロンプトで次のように入力します。
cp /etc/opt/hp/sslshare/* /opt/hp/sslshare
3. Enterキーを押します。
4. コマンド プロンプトで次のように入力します。

"service hpsmhd restart"

5. Enterキーを押します。

HP Insight マネジメント エージェントがインストールされている、**Linux** または **HP-UX CMS** にアクセスして、**Insight** マネジメント エージェントをクリックすると、[セキュリティ アラート] ダイアログ ボックスが表示される。

解決策： マネジメント HTTP サーバ 証明書が、HP Systems Insight Manager 証明書で上書きされていません。これは、OpenSSL が正しく設定されていないために発生します。Linux では、OpenSSL は、必ず、/usr/bin/ディレクトリにインストールしてください。HP-UX では、OpenSSL は、必ず、/opt/apache/ssl/bin/ディレクトリにインストールしてください。OpenSSL を正しいディレクトリにインストールしたら、新しい HP Systems Insight Manager 証明書を作成してこの問題を解決します。

ログインしている **HP Systems Insight Manager** サーバ上に存在する **Insight** マネジメント エージェントへのシステム リンクをクリックすると、システム ページにセキュリティ アラートが表示される。

解決策1： 証明書の名前がサイトの名前と一致しないというセキュリティ アラートの場合は、システムへのリンクがシステム証明書の名前と同じフォーマットを使用するように、HP Systems Insight Manager の設定を変更できます。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[システム リンク設定]を選択します。[システム リンク設定] ページが表示されます。
2. 使用可能ないずれかのオプションを選択します。システムの証明書を表示して、使用されている名前フォーマットを確認します。
3. **OK** をクリックします。

システムの証明書が、ネットワーク上で正しく解決されない名前フォーマットを使用している場合は、正しく解決されるリンクフォーマットを選択する場合があります。このケースでは、システムの証明書をブラウザの信頼済みリストにインポートしているかどうかに関わらず、この名前の不一致の警告が表示されます。これを防止するには、Internet Explorer へのチェックインをオフにします。これを行うには、[ツール]>[インターネット オプション]を選択し、[詳細設定] タブを選択します。[セキュリティ設定] で、[無効なサイト証明書について警告する] の選択を解除します。ただし、これは推奨事項でなく、実際のセキュリティ ポリシーとガイドラインに従って慎重に検討する必要があります。

ブラウザの[無効なサイト証明書について警告する]を無効にすると、アクセスしている HP Systems Insight Manager サーバまたは管理対象システムを正しく識別する機能が低下するだけでなく、Web ベース管理製品と関係がない任意の外部または内部のインターネット サイトを正しく識別する機能も低下します。

解決策2： 信頼されていない証明書や無効な証明書のようなその他の理由でセキュリティ アラートが出る場合の詳細については、ブラウザ項 [609] を参照してください。

インストールが完了した後に **HP Systems Insight Manager** にアクセスすると、証明書のホスト名が **URL** と一致しないことを示すメッセージが表示される。

解決策： インストール後に、**CN** の IP アドレスで新しい証明書を作成します。詳細については、サーバ証明書の作成 [admin_cert_server_create.html#CreateServerCert] を参照してください。新しい証明書を作成したら、HP Systems Insight Manager サービスを再起動してください。

システムにアクセスすると、セキュリティ アラートが発行される。

解決策：ブラウザにシステム サーバ証明書がインポートされ、証明書に指定されている名前を使用してシステムにアクセスしていることを確認します。たとえば、**[localhostへのブラウズ]**では、このセキュリティ アラートが発行されます。

HP Systems Insight Managerの別のページにアクセスすると、次のエラー メッセージが表示される。

「このウィンドウはセキュアおよび非セキュア アイテムを含んでいます。」

解決策：いくつかの条件により、この警告メッセージが表示されます。

- 不適切なバージョンのInternet Explorer

Internet Explorer 6.0には既知の問題があるため、この警告メッセージが誤って表示されます。HP Systems Insight Managerのホーム ページや**[タスク結果]**ページなどでこの問題が発生しますが、他のページでも発生する場合があります。

ブラウザでこの問題を解決するには、ブラウザの**[バージョン情報]**ボックスで**[バージョン]** 文字列を調べて、バージョンが最低でも5.50.4522.1800になっていることを確認します。

注記:



IEの**[バージョン情報]**ボックスに表示される**[更新バージョン]**文字列を信頼しないでください。サービス パックが正しく表示されないことがあります。たとえばSP1となっても、バージョンが5.50.4134.0600である場合は正しくないことがあります。バージョンが5.50.4522.1800以上になっていることを確認してください。

Internet Explorerの問題について詳しくは、Microsoft Knowledge BaseのArticle Q269682を参照してください。インストールされているブラウザのバージョンを確認するには、Microsoft Knowledge BaseのArticle Q164539を参照してください。

- SSLをサポートしていないシステムへの移動

SSLをサポートしていないシステムへHP Systems Insight Managerの**[システム ページ]**を移動する場合、そのシステムに対するシステム リンクによって、HTTPSでなく、非セキュア プロトコルであるHTTPが指定されます。HP Systems Insight Managerからの安全な項目とシステムからの安全でない項目の両方が表示され、警告が指示されます。

SSLをサポートしているシステム用にHP Insightマネジメント エージェントの新しいバージョンが存在する場合があります。新しいバージョンが存在しない場合や、今すぐシステムを表示する場合は、はいをクリックして安全でない項目を表示してください。そうしないと、システムを表示できません。管理対象システムとブラウザとの間のすべてのデータはSSLを使用して暗号化されたままです。また、ブラウザとシステム間のデータはSSLを使用して暗号化されません。サイン イン証明書は、古いHP Insightマネジメント エージェントのサイン イン アプレットによって慎重にエンコードされるため、安全にサイン インできますが、その他のすべてのデータは暗号化されません。

注記:



警告メッセージに対して、はいを選択すると、ウィンドウの部分が安全でないため、ブラウザからロックアイコンが削除されます。また、ブラウザを再起動するまでは、次回安全でないシステムにアクセスするときに警告メッセージが表示されないことがあります。

注記:



SSLをサポートしないシステムでは、シングルログインはサポートされないか、試行できません。

● ブラウザにエラー ページが表示される

ブラウザがエラー ページを表示しようとし、この警告メッセージが表示されます。詳細については、Microsoft Knowledge Baseのarticle Q184960を参照してください。

HP Systems Insight Managerサーバ自体で**Insight**マネジメント エージェントにアクセスすると、エージェントにアクセスしている間、複数のセキュリティ アラートが表示される。

解決策：これは、以下の条件で発生します。

- HP Systems Insight Managerサーバとして同じシステムのInsightマネジメント エージェントにアクセスした場合。たとえば、HP Systems Insight Managerサーバの名前がDAMONで、HP Systems Insight Managerにアクセスするとき、DAMONのシステム ページへ移動し、**System Management Homepage**などのWebベースの管理リンクを選択した場合です。
- Insightマネジメント エージェントとHP Systems Insight Managerの証明書が、ブラウザにインポートされていない。

HP Systems Insight ManagerとInsightマネジメント エージェントの両方を同じシステムで実行している場合でも、同じSSL Webサーバではなく、同じ証明書を持っているわけではありません。

Windowsによるセキュリティ アラート ウィンドウの表示を停止するには、HP Systems Insight ManagerとWebベースのマネジメント エージェントの証明書をブラウザにインポートします。詳細については、「サーバ証明書のインポート」を参照してください。この情報は、Webベースのマネジメント エージェントの証明書をインポートする場合にも適用されます。

セキュリティ アラートが証明書の名前とアドレス上の名前の不一致による場合は、証明書をインポートしても、問題は解決されません。代わりに、証明書の名前を使用して、HP Systems Insight Managerまたはマネジメント エージェントにアクセスします。あるいは、片方は証明書の名前を使用してアクセスし、他方は証明書の名前を使用しないでアクセスします。たとえば、IPアドレスを使用してHP Systems Insight Managerにアクセスし、システム名を使用してマネジメント エージェントにアクセスします（あるいは、HP Systems Insight Managerにシステム名、マネジメント エージェントにIPアドレスでアクセスします）。それぞれに異なる名前を使用すると、ブラウザで2つのドメインが分離され、同じドメインに異なる証明書をもつ混乱が防止されます。その他のセキュリティ問題の詳細については、以下を参照してください。

HP Systems Insight Manager以降、HP Systems Insight Managerは、この問題を緩和するために、その証明書とプライベート キーをInsightマネジメント エージェント用のローカルHTTPサーバと同期化しようと試みます。同期化が実行された場合、同期した証明書でHP Systems Insight ManagerとHTTPサーバを再起動するために、システムを再起動する必要があります。詳細については、「証明書の同期」を参照してください。

CLI

コマンド ラインから**`mxmib -f SHIPPING CFGs not preloaded.txt`**を入力すると、次のエラーが発生する。次の値は無効な引数値です：**CFGs**

解決策：コマンド**`mxmib`**は、空白文字を処理できません。ファイル名を、**`mxmib -f "SHIPPING CFGs not preloaded.txt"`**のように引用符で囲みます。

コマンド**`mxagentconfig -a cms_name -p password`** がエラーになり、次のメッセージが表示される。

Unknown hostname: 'cms_name' ..

解決策：確認の目的で、コマンド**`nslookup cms_name`** を使用し、管理対象システムでネットワーク名解決をテストします。問題を解決するには、管理対象システムの/etc/hosts ファイルにCMS情報を追加し、ネットワーク名解決を管理対象システムで適切に設定します。

コマンド**`mxnode -a system_name`** か**`mxnode -r system_name`** がエラーになり、次のメッセージが表示される。 **Unknown host: 'system_name' System ignored.**

確認：コマンド**`nslookup system_name`** を使用し、CMSでネットワーク名解決をテストします。

解決策：中央管理サーバでネットワーク名解決を適切に設定します。

次のメッセージを受け取りました。他のユーザが現在**`mxmib`**を使用しています。再度実行してください。この問題をどのように修正しますか。

解決策：これは、予期された動作です。**`mxmib -r`**を実行してインターロックを解除します。

MXMIBでは、別のファイル名を使用して**MIB**をコンパイルできるが、同じ内部モジュール名がすでに存在し、そのモジュールがコンパイル済み**MIB**になっている。これが、データベースの矛盾の原因になっている。

解決策：モジュール名とファイル名は一貫している必要があります。名前が一致していないと、障害が発生する可能性があります。

データベースにすでに存在するMIBをコンパイルしようとする、実際には更新しているにもかかわらず、インポートしているというCLIメッセージが表示されます。

既存の**HP Systems Insight Manager**ユーザ グループのメンバだが、**CLI**からコマンドを実行しようすると、次のようなエラー メッセージが表示される。**There was a problem connecting to the HP Systems Insight Manager server. Make sure that: (HP Systems Insight Manager**への接続の際に問題が発生しました。以下を確認してください)

1. Your user name has been added to HP Systems Insight Manager (ユーザ名がHP Systems Insight Managerに追加されている) Do this by signing into the HP Systems Insight Manager GUI at least one time. (この操作を行うには、少なくとも一度はHP Systems Insight Manager GUIにサイン インします。)

2. Your username and password, if specified, are correctly spelled. (ユーザ名とパスワードの綴りに間違いがない)
3. HP Systems Insight Manager is running. (HP Systems Insight Managerが実行されている)
4. You used '-' for any long options and double quotes if your username includes a domain. (ユーザ名にドメインが含まれる場合、長い名前のオプションと二重引用符に対して '-' が使われている) For example, <commandname> -user "mydomain\myusername" -pass mypassword. (たとえば、<コマンド名> -user "mydomain\myusername" -pass mypassword のように入力します)

Red Hat 4.0システム上で **# /opt/mx/bin/mxrepositorysave -f /root/sql.log** コマンドを実行した後、バックアップ ファイルが空になる。

解決策 : Red Hat 4.0システム上では、mxrepositoryコマンドは正しく機能しません。別のディレクトリを作成して、postgresqlデータベースをコピーしなければならない場合があります。

mxnodesecurity -r -p protocol ?n <非フルDNS名> コマンドを実行したあと、システムが削除されたという内容のメッセージは表示されるが、システムは**mxnodesecurity**リストに残っている。

解決策 : **mxnodesecurity -r ?p protocol ?n** <ホスト名> コマンドを使用して、システムをmxnodesecurityリストから削除するには、<ホスト名>ではなく、完全修飾ドメイン名を使用する必要があります。

完全な設定権を持っていますが、**CLI**コマンドを実行使用とすると、例外を受け取る。

mxnodesecurityについての解決策 : Linuxシステムでは、コマンドはrootユーザで実行する必要があります。

すべてのCLIコマンドについての解決策 : .

- HP Systems Insight Managerユーザ グループのメンバの場合、少なくとも1度は、HP Systems Insight Manager GUIにサイン インする必要があります。サイン インが終わると、権限のあるユーザのリストに登録され、CLIからコマンドを実行できるようになります。
- WindowsシステムでCLIコマンドを実行するには、Windows Administratorグループのメンバでなければなりません。

CIMOM

検出されたネットワーク上に**common information model object manager (CIMOM)**が存在するが、ポートからいかなる情報も受け取っていない。

解決策 : 次のいずれかの解決策を試してください。

- CIMOMがインストールされ、デフォルトのポート5989ではないSSL (Secure Sockets Layer) ポートでリスンしている場合は、config/identification/wbemportlist.xmlファイルで新しいポート番号を指定する必要があります。次に例を示します。

```
<port id="5991" protocol="https">
<interopnamespace name="root" />
```

```
<interopnamespace name="interop" />
</port>
```

- Wbemプロバイダのinterop namespaceが、config/identification/wbemportlist.xmlファイルのport要素に存在するかどうかを確認します。存在しない場合は、port要素に、interopnamespace要素として追加し、HP Systems Insight Managerを再起動してください。

注記:



新しいportまたはinterop namespaceを追加すると、HP Systems Insight Managerが、検出範囲の各IPアドレス上の、port、interop namespace、ユーザ名/パスワードペアの可能な組み合わせをすべて検出対象にするため、検出時間が延びます。

クラスタ

クラスタがクラスタとして識別されない。

解決策: クラスタがクラスタとして定義されていないか、クラスタのノードが正しく識別されない場合は、すべてのクラスタ マネジメント エージェントがそのクラスタのすべてのクラスタ ノードにインストールされていることを確認し、必要に応じて再インストールします。

システムをクラスタとして手動で追加した後で、システムがクラスタでない場合でも、システム タイプが変更されない。

解決策: システムをクラスタとして手動で追加した後は、システムが最初からクラスタでない場合でも、システム タイプは変更されないことがあります。システム タイプをリセットするには、システムを削除し、検出を実行してください。

クラスタまたはクラスタ ノードが正しく 識別されない。

解決策: クラスタまたはクラスタ ノードは、次の理由で見つからない場合があります。

- バージョン6.30以降のSmartStartでは、クラスタ エージェントのいずれかが正しくインストールされません。実行可能ファイルはクラスタ ノードにインストールされますが、Windows レジストリが更新されないため、更新する必要があります。

1. Windowsレジストリにアクセスします。[スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、**regedit**と入力してください。
2. 次のキーを作成します。

キー:

HKEY_LOCAL_MACHINE,"SOFTWARE\Compaq\CompaqCommonClusterAgent\CurrentVersion"

値: Pathname,%REG_EXPAND_SZ,"%SystemRoot%\System32\svrclu.dll"

SmartStart CD 7.4からは、このアップデートを利用できます。

- クラスタとクラスタ ノードが自動検出のIP範囲に含まれ、除外されていないことを確認します。

- クラスタやクラスタ ノードの名前を変更した場合、クラスタが使用しているDNSサーバと HP Systems Insight Managerが新しい名前になっていることを確認します。
- クラスタ ノードが動作していない可能性があります。
- クラスタ ノードに、バージョン4.22より古いInsightエージェントがあります。
- Insightエージェントがクラスタ ノードで実行されていません。
- SNMPエージェントがクラスタ ノードで実行されていません。
- ネットワーク トラフィックの原因により、ネットワークが長時間渋滞しています。
- SNMPコミュニティ名が、HP Systems Insight Manager設定のコミュニティ名と一致していない可能性があります。

次の前提条件が満たされているかどうかを確認してください。

- クラスタ マネジメント エージェントは、すべてのクラスタ ノードで実行する必要があります。
- 検出の間にシステムに対してクラスタ識別を実行するには、システムはサーバまたはクラスタとして識別される必要があります。

クラスタまたはクラスタ ノードが、[クラスタ監視]クラスタまたはノード リソース設定に表示されない。

解決策：この問題は、検出の実行時にクラスタ監視リソースが実行されていなかった、特定の HP Insight マネジメント エージェントが原因で発生する可能性があります。解決策としては、クラスタおよびクラスタ ノードで正しいエージェントが実行されていることを確認してから、検出を再実行します。

クラスタ ノードが、検出によって正しく識別されない。

解決策：DHCPサーバのクラスタ ノード名が、そのWindows NT名と異なる可能性があります。解決策としては、各クラスタ ノードのLMHOSTSファイルにWindows NTコンピュータ名を明示的に設定してから、検出を再実行します。svrclu.dllのレジストリ キーが作成されているかどうかも確認してください。レジストリ キーの詳細については、クラスタ項[614]を参照してください。

クラスタ監視が正しく表示されない。

解決策：ブラウザで[フォント サイズ]として[小さいフォント]を使用するように設定されていることを確認します。

[設定]内のクラスタ監視の下にあるリスト ボックスが正しく動作しない。

解決策：下矢印がリスト ボックスに表示されるには2、3秒かかります。複数のリスト ボックスがある場合は、最初のボックスで選択を行ってから2、3秒待って2番目のボックスで選択を行う、といった方法で、後続の各ボックスでの選択を行う必要があります。選択が早すぎると、リスト ボックスは正しく動作しない場合があります。解決策としては、右ウィンドウを再度配置してから、リスト ボックスに戻ります。

クラスタ エイリアスが手動検出のシステムとして使用された場合、クラスタ ノードが検出されない。

解決策：手動検出では、クラスタ エイリアスと各ノードを別々に追加して、これらが確実にデータベースに入力されるようにしてください。あるいは、クラスタ エイリアスとノードIPアドレスをIP範囲に含めてください。

クラスタでHP Systems Insight Managerを実行する場合の注意事項

解決策： HP Systems Insight Managerは、クラスタ対応アプリケーションではありません。クラスタの各ノードにHP Systems Insight Managerのインスタンスをインストールして、証明書サーバやその他の認証機関を使用して独自の証明書を作成しないと、各ノードはクラスタの名前でなく、ノードの名前を持つ別々の証明書を持つことになります。クラスタにアクセスするとき、ブラウザで[無効なサイト証明書について警告する]を設定していると、アクセスした名前が証明書の名前と一致しないことを警告するセキュリティ アラートがブラウザに表示されます。証明書をブラウザにインポートしていない場合、または信頼できる認証機関から証明書が発行されていない場合、証明書を信頼できないことを通知するセキュリティ アラートも表示されます。証明書が正しいことを確認し、続行します。

フェールオーバー中、1つのノードが停止し、他方のノードがアクティブになります。HP Systems Insight Managerはクラスタ対応でないため、HP Systems Insight Managerにアクセスしているブラウザを閉じ、クラスタにアクセスし直す必要があります。上記のように、他のノードの証明書を使用すると、別のセキュリティ アラートが表示される場合があります。その場合は、証明書を確認し、続行します。

HP Systems Insight Managerサーバとの信頼関係を確立する任意の管理対象システム（たとえば、単一ログインのサポート、レプリケート エージェント、ソフトウェアの更新など）は、任意のノードがアクティブで、希望するコマンドをシステムへ発行する場合があるので、クラスタのすべてのノードを信頼する必要があります。信頼関係の設定方法については、「信頼関係の設定」を参照してください。

クラスタの識別に問題がある。

解決策：クラスタ名またはクラスタ メンバ名がシステムのIPアドレスで、ホスト名でないことがわかっている場合は、Windows 2000/Server 2003用の新しいHP Insightマネジメント エージェントを、クラスタのそれぞれのクラスタ メンバにダウンロードしてください。

1. <http://www.hp.com>に移動し、[サポート & ドライバ]をクリックします。
2. [サポート & ドライバ]ページの、[Compaqサポート カテゴリ]の下で、[Compqダウンロード]をクリックします。
3. ソフトウェアおよびドライバ ページで、サーバ カテゴリにある[ProLiant]をクリックします。
4. [製品ファミリ]リスト ボックスから適切なProLiantシリーズ、たとえば、[ProLiant DL380]を選択します。
5. [製品モデル]リスト ボックスから適切なモデル、たとえば[G3(2.4GH z +)]を選択します。
6. [オペレーティング システム]リストで、適切なオペレーティング システム、たとえば[Microsoft Widows 2000]を選択します。
7. [ソフトウェアの検索>>]ボタンをクリックします。
8. [HP Insight マネジメント エージェント for Windows 2000/Server 2003]をクリックします。

9. **[HP Insight マネジメント エージェント for Windows 2000/Server 2003]**ページから、**[ダウンロード>>]**をクリックしてソフトウェアをダウンロードします。
10. **[HP Insight マネジメント エージェント for Windows 2000/Server 2003]**をクリックします。

エージェントがインストールされます。

収集

共有またはプライベート セクションに重複する収集名を作成しようとして、エラー メッセージが生成された。

解決策：重複する収集名は、共有またはプライベート セクションでは使用できません。共有セクションでは、プライベート セクションと同様に同じ収集を使用できますが、1つのセクションで同じ名前を持つ2つの収集を使用することはできません。

システムを削除した後、製品名または**Web**エージェント条件が削除されない。

解決策：製品名またはWebエージェントが検出されると、その検索条件は、データベースが再インストールされるまでデータベース内に残ります。これにより、かつて存在していて今後も存在する可能性がある条件に基づいて、検索を実行できます（たとえば、これらの条件を持つ検索とは別にタスクを作成して、新しいシステムまたはイベントがこの検索条件に一致するときにそれが実行されるように設定できます）。

名前にスペースを含むマシン名が、収集でスペース文字のところで切り取られる。

解決策：HP Systems Insight ManagerがSQLデータベースに検出されたシステムを書き込む場合、そのマシン名にスペースが含まれると、SQLはその名前を切り取ります。スペースを含まないように、システムの名前を変更してください。

収集を並べ替える場合、列の並べ替えを行うために何回もクリックしなければならないことがある。

解決策：マウスの動作が速いと、アプレットはマウスのクリックを読み取れません。並べ替えようとする列をクリックするときは、マウスを動かさないようにしてください。

検索結果をIPアドレスによって並べ替える場合、アドレスが数字順にリストされない。

解決策：IPアドレスは、122.22.22.15、122.22.22.152、122.22.22.155、122.22.22.17、122.22.22.171、122.22.22.18のような数字順にリストされます。HPでは、以降のリリースでの修正プログラムの提供を検討しています。

カスタム コマンド

カスタム コマンドがエラーになり、次のエラーが表示される。

C:\Program Files\OpenSSH\bin\switch.exe:* can't create title mutex 'Global\cygwin153-2003-11-04 16:46.title_mutex.0', Win32 error 0**

解決策：カスタム コマンドを実行しようとしているユーザは、管理者グループに所属していません。管理者グループにそのユーザを追加してください。

作成したカスタム コマンドが見つからない。

解決策：新しいカスタム ツールは、[すべてのツール]ツールボックスに追加されます。[すべてのツール]ツールボックスの、使用権限を持っていない可能性があります。[ツール]>[カスタム コマンド]のツールを表示するには、[アプリケーション起動ツール]の下にあるそのボックスに対する権限のあるツールボックスに、ツールを追加する必要があります。詳細については、「ツールボックスの編集」を参照してください。

データベース

HP Systems Insight Managerをアンインストールした**Windows**システムで**HP Systems Insight Manager**を再インストールしようすると、**Unable to Create Database**というメッセージが表示される。このエラーは、データベース作成プロセス中に発生する。

解決策：この問題は、HP Systems Insight Managerをアンインストールした後でMSDEかMicrosoft SQL ServerからHP Systems Insight Managerデータベース ファイルの削除か名前変更を行わなかった結果として発生します。データベース ファイルの削除か名前変更を手動で行ってから、HP Systems Insight Managerインストールを再実行してください。

検出

HP Systems Insight Managerで、既存のシステムが新しいIPアドレスで更新される代わりに、新しいIPアドレスを割り当てたシステムが**HP Systems Insight Manager**で新しいシステムとして検出される。元のシステムは、クリティカルなステータスになる。

解決策：原因は、DNSがネットワーク上で設定されていないことです。HP Systems Insight Managerは、DNSのシステム名を使用して、以前検出されたシステムと同じ名前の新しいシステムを突き合わせようとします。HP Systems Insight ManagerサーバでDNSが設定され、DNSサーバ自体で問題のシステムが正しく設定されていることを確認してください。正引きDNS検索も逆引き検索も、同じシステムを解決する必要があります。Windows上では、**nslookup<アドレスまたは名前>**を使用して問題を診断できます。

システム リスト ビューとピクチャー ビューが一致しない。

解決策：影響を受けるラック内のすべてのシステム（そのラック内のすべてのサーバ、iLO、エンクロージャ、スイッチなど）を削除し、削除したシステムで検出を実行します。

注記:



サーバ、iLO、およびスイッチを削除する前に、これらのシステムのIPアドレスをメモしてから、システムを削除して、検索を実行してください。

HP Systems Insight Manager 4.1から**HP Systems Insight Manager 4.2**にアップグレードした後、**ProLiant BL40p**サーバ ブレードとエンクロージャの関係が、「エンクロージャ内のサーバ」ではなく「**iLO**内のサーバ」として表示される。

解決策：影響を受けるサーバ ブレードをデータベースから削除して、検索をもう一度実行します。これにより、サーバ ブレードとエンクロージャの関係が適切に表示されるようになります。

検出実行後、システムは検出されているが、**WMI/WBEM**デバイスとしては識別されていない。正しく検出されない理由は何ですか。

解決策：システムが正しく検出されない理由として、次のようなことが考えられます。

- ユーザの認証情報が正しくない。
- プロバイダがWBEMリクエストに応答する際に、問題が発生した。
- システム名には、アルファベット（A～Z）、数字（0～9）、マイナス記号（-）、ピリオド（.）を使用できます（これ以外は使用できません）が、システム名の先頭に数字を配置したり、末尾にマイナス記号（-）やピリオド（.）を配置することはできません。
- HP-UXまたはLinux 中央管理サーバで、WMI Mapperが指定されていない。このため、Windows システムを、WBEM対応システムとして識別できない。
- ターゲットのHP-UXまたはLinuxシステム上に、プロバイダがインストールされていない。

Windowsの管理対象システムに**WBEM**予約を設定したあと、ログ ファイルのステータスが、マイナーと表示される。**WBEM**の予約が失敗する理由は。

解決策：WBEMイベント プロバイダはHP-UX システムでのみ利用できます。WBEM予約がWindowsシステムを対象に作成されたため、このようなステータス表示になります。

HP-UXシステムの削除を試みたが、管理プロセッサを搭載する**HP-UX**システムを削除することはできないという内容のエラー メッセージが表示される。

解決策：HP Systems Insight Managerは、現時点では、システムがPA-RISCベースの場合、管理プロセッサをサーバに関連付けることはできません。

イベント/SNMPトラップ

SNMP認証トラップを受信しても、通知を受信しない。

解決策：SNMP拡張機能のトラップ処理は、デフォルトでは無効（処理しない）になっています。これは、通常、システムで正しくないコミュニティ名を設定でき、HP Systems Insight Managerで正しくないコミュニティ名が設定されるからです。このため、システムに要求を送信するたびに認証失敗トラップが管理サーバへ送信され、多くのトラップがログに記録されます。この設定を有効（処理する）に変更するには、以下の手順に従ってください。

1. HP Systems Insight Manager (<http://machinename:280>) を開きます。
2. 完全な設定権があるユーザとして、サイン インします。
3. [オプション]>[イベント]>[SNMPトラップの設定]を選択します。
4. [MIB名]フィールドで[rfc1215.mib]を選択します。
5. 選択されていない場合は、[トラップ名]フィールドで、[authenticationFailure]を選択します。
6. [トラップ処理有効]フィールドで、[はい]を選択します。
7. **OK**をクリックします。

この手順によって、[認証失敗トラップ]を処理するように設定され、すべての失敗が通知されます。

トラップ通知タスクを作成し、宛先サーバを複数個指定してタスクを実行しているにもかかわらず、1つのサーバがすべてのトラップを受信する。

解決策：トラップを送信しているサーバもHP Systems Insight Managerにより検出されていることを確認してください。検出されていない場合は、そのサーバシステムを検出してからタスクを再実行してください。これによりすべての宛先サーバがトラップを受信するようになるはずです。この問題は、Windows、HP-UX、またはLinuxの各サーバで見られます。

ファームウェア アップグレード

スイッチのファームウェアのアップグレード時に[タスク結果]ページの[成功]リンクをクリックすると、ログ ファイルに次のエラー メッセージが記録される。

```
Processed command line:/v 1.1.1 /s /l c:\hpsim_switchfw_logs\
587_11a.wbem.com.log /c /i 170.50.2.3 /f /a swfwupgrade.ini
```

```
Usage: swfwupdate [/c SNMPcommunityString
[/i IPAddr [- IPAddr] ... ]]
[/v FWversion | /b BootVersion] [/m 1 | 2] [/t TFTPport] [/d] [/l logfile]
```

```
[/x IPAddr [IPAddr...]] [/s[ilent]] [/f[orce]]
The /s option requires that /i, /c, and /v also be specified and implies /f.
```

The /s option deletes all database entries prior to discovery.

解決策：[グローバル プロトコル設定]ページで、スイッチのSNMP書き込みコミュニティ名が適切に設定されていることを確認します。

一般的な問題

キーボードが予期したとおりに応答しないことがある。

解決策：Windowsオペレーティングシステムに慣れている場合、**Tab**、**Enter**、または**Alt**などの特定のキーの動作を予想できます。ただし、一般にJavaアプレットおよびWebアプリケーションでは、Windowsのスタイルが使用されていない場合があります。このため、目的のページにフォーカスを戻すには、マウスを使用する必要があります。たとえば、システムIPアドレスまたは時刻に無効なエントリを入力した場合、条件またはスケジュール ページが再フォーカスされますが、キーボード アクセスが最後の入力フィールドに復帰しないことがあります。これは通常、試行を繰り返した後で発生します。フォーカスを戻すには、使用するページをクリックしてください。

ユーザ名がアルファベット順にリストされない。

解決策：ユーザ名は、認証レベルごとにグループ分け（完全な設定権、制限付き設定権、設定権なし）されます。このグループ内でユーザは、作成された順にリストされます。

HP Systems Insight Manager

ブラウザを終了するときに、メモリ アドレスの違反に関するメッセージが表示される。

解決策：Windows NT 4.0 SP3のインストール後、SNMPエージェントを再インストールしなければならないことがあります。Windows NT 4.0 SP4をインストールした場合は、SNMPホットフィックスをインストールする必要があります。SNMPサービスにはメモリ リークがあるので、SNMPホット フィックスをインストールしないと、システム リソースが浪費されます。

完全な設定権があるユーザを作成すると、**SQL Analyzer**から生成されるユーザ リストにユーザ名が表示される。ただし、**UserID**ファイルの編集後に**HP Systems Insight Manager**を終了し、**HP Systems Insight Manager**を再起動すると、[オプション]->[セキュリティ]->[ユーザおよび認証]->[ユーザ]の順に選択しても、ユーザが表示されない。ただし、ユーザ名はデータベースにある。

解決策：UserIDファイル、またはユーザ情報ハッシュ ファイルを手動で修正しようとする、ユーザ アカウントがHP Systems Insight Managerから削除されます。このため、ユーザはHP Systems Insight Managerにアクセスできなくなります。

MIBインストーラ ツール、コマンド ライン**MIB**マネージャ、またはコマンド ライン システムタイプ管理の使用中にデータベースとの接続が失われるが、ツールは正常終了を表示する。

解決策：HP Systems Insight Managerの外でこれらのコマンド ライン ツールを実行する際にデータベースにアクセスできなくなる場合、おそらく実行中の処理が壊れている可能性があり、予想される結果や復旧は保証されません。

[ホーム]および[サイン アウト]リンクがバナー領域に表示されない。

解決策：ブラウザ ウィンドウの最上部にある[更新]ボタンをクリックします。

バナーを更新したときに、**JavaScript**エラーが起こる。

HP Systems Insight Managerから**Partition Manager**を起動すると、**HTTP 404**エラーが起きる。

解決策：HP Systems Insight Managerのセキュア ポートを再設定した場合は、`/var/opt/mx/tools/parmgr-web-tools.xml`ファイルでポートを修正する必要があります。これは次のように実行します。

1. `/var/opt/mx/tools/parmgr-web-tools.xml`を編集します。
2. セキュア ポートに設定したものに、ポートを50000から修正します。
3. コマンド ラインから`/opt/bin/mxtool -m -f /var/opt/mx/tools/parmgr-web-tools.xml`を実行します。

Windowsベース オペレーティング システムで**HP Systems Insight Manager**サービスが起動せず、**NT**アプリケーション ログにエラーが表示されるが、明示的なエラーは表示されない。

解決策：Programという名前のフォルダかファイルをルート ディレクトリで検索します。このファイルが存在する場合は削除します。このフォルダが存在する場合は、名前を変更するか、そのフォルダが空である場合は削除します。

HTTP イベント

新しいHTTPカテゴリを作成した後で、新しいイベント タイプを検索したときに、[高度な検索] ページの[基準]ボックスに表示されない。

解決策：HTTPイベントによって作成された新しいイベント タイプを検索するには、イベント カテゴリごとにイベントを選択し、[およびタイプ名が]リストからイベント タイプを選択する必要があります。

識別

検出と識別を実行した後に、[システム ページ]の[識別]タブやデータ収集レポートに**ProLiant BL p-Class**および**e-Class**スイッチのシリアル番号が表示されない。

解決策：このスイッチのシリアル番号を取得するには、スイッチのファームウェアでのサポートが必要です。現時点では、このファームウェアは提供されていませんが、このサポートは、ProLiant BL p-Classスイッチの将来のバージョンで予定されています。既存のスイッチについて、現在、ファームウェアのアップグレードは予定されていません。

Internet Explorer

Tabや**Enter**などのホット キーが、ブラウザで予期したとおりに動作しない。

解決策：マウスを使用して、予想どおりの結果を出してください。

インストール中にシステムが再起動すると、インストールによってブラウザが起動される。**Internet Explorer**に、ローカル ホストとの接続を確立できなかったことを知らせるメッセージが表示される。ブラウザがサービスの開始以前に起動される。

解決策：URLフィールドにカーソルを置いてEnterキーを押し、再度URLにアクセスしてください。アプリケーションがブラウザにロードされるまで続けてください。

ブラウザの戻るボタンを使用しても、前のウィンドウに戻らないことがある。

解決策：Internet Explorerの場合、フレームセットが変更されると、ブラウザの履歴が失われます。常に表示されているHP Systems Insight Managerのヘッダを使用して前に戻ってください。

収集の表示中、ブラウザの戻るボタンをクリックすると、該当する[システム]または[イベントの概要]ページに戻る。

解決策：これは、正しい機能です。ブラウザの履歴は、フレームセットが更新されたために更新されていません。[システム]または[イベント収集]をクリックして、テーブル ビュー ページに戻ってください。

リストをたどれないか、または[システム ページ]のエージェント リnkをたどることができない。

解決策：2つのブラウザが同じシステムで開いていて、それぞれが異なるHP Systems Insight Managerの管理サーバにポイントされている場合、予期しない結果が生じることがあります。一部の矛盾がある場合、収集を開くことができないか、エージェント（たとえば、設定履歴レポート（Surveyユーティリティ））のリンクをたどることができません。

ローカル システムの<http://localhost:280/>にある**HP Systems Insight Manager**にアクセスできない。

解決策1: Internet Explorerのプロキシ サーバ設定を確認してください。プロキシ サーバのアドレスが無効だと、Internet Explorerは、ローカル システムを含むどのアドレスもブラウズできません。

解決策2: システムによっては、localhost名を解析できない場合があります。その場合は、<http://127.0.0.1:280/>かhttp://machine_name:280/を使用します。machine_nameは、HP Systems Insight Managerがインストールされているシステムです。

[すべてのシステム]ウィンドウを長時間アイドル状態にして新しいブラウザ ウィンドウを開くと、[すべてのシステム]ウィンドウが白くなり、**Internet Explorer**がハングする。タスクの終了を強制される。**Internet Explorer**のハングを回避する方法はありますか。

解決策: [すべてのシステム]収集を表示した状態で、Internet Explorerを長時間開いたままにしないでください。この問題を避けるだけでなく、セキュリティの理由もあるので、モニタから離れる前にHP Systems Insight Managerからサイン アウトしてください。

Internet Explorerを使用して**HP Systems Insight Manager**にアクセスすると、異常な動作が発生する。

解決策: サードパーティ製のブラウザ拡張が原因となっている可能性があります。これらの拡張を無効にしてから、問題が解決されるかどうかを確認してください。Internet Explorerで、[ツール]>[インターネット オプション]>[詳細設定]を選択して、[サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする]を無効にし、Internet Explorerの実行中のすべてのコピーを再起動します。

インストール

Windows NT 3.51または**Windows NT 4.0**で**HP Systems Insight Manager**をロードできない。

解決策: Windows NT 3.51およびWindows NT 4.0は、サポートされているプラットフォームではありません。

HP Systems Insight Managerインストールの**Java**ベース データベースのインストール中に、エラー「データベース接続エラー」が表示される。

解決策: ターゲットのMicrosoft SQL Serverサービス (MSSQL) が実行されていることを確認してください ([コントロール パネル]>[サービス]>[MSSQLSERVER])。

サーバでディスク イメージ ソフトウェアを使用すると、グローバル ユニーク識別子がすべてのシステムで同じになる。

解決策1: ディスク イメージをまだ取っていない場合は、ソース マシンにHP Insightマネジメント エージェントをインストールした後で以下を実行し、Insightマネジメント エージェントを再起動する前にイメージを取ってください。

1. システムの1つから、すべてのInsightマネジメント エージェントをアンインストールします。
2. ディスク イメージ ソフトウェアを使用して、Insightマネジメント エージェントをインストールしていないシステムから設定をコピーします。
3. 手順2で得られたディスク イメージを使用して、ターゲット システムにコピーします。

4. すべてのシステムにHP Insightマネジメント エージェントを再インストールします。

解決策2:すでにディスクイメージを配備した場合は、以下を実行して各ターゲットシステムからイメージを削除します。以下の情報はネットワーク オペレーティング システム別になっています。

● NetWareの場合：

グローバル ユニーク識別子情報は、NetWareサーバのsys:\systemサブディレクトリに16バイトのファイルとして保存されます。このファイルは、HP Systems Insight ManagerがNetWareサーバに対してSNMP **SET**コマンドを実行すると作成されます。

グローバル ユニーク識別子を永久に削除するには、NetWare SYSボリュームから\system\cpqbssa.cfgファイルを削除します。

ファイルを削除したら、Insightマネジメント エージェントを再起動します。システムが検出されると、HP Systems Insight Managerによって新しいグローバル ユニーク識別子が割り当てられます。

● Windows NTの場合：

マネジメントエージェントが、Windows NTレジストリの項目にグローバル ユニーク識別子情報を作成します。

グローバル ユニーク識別子を永久に削除するには、エントリを削除します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Compaq Insight Agent\hostGUID

エントリの削除後、Insightマネジメント エージェントサービスを再起動すると、新しいグローバル ユニーク識別子が自動的に生成されます。

● UnixWareの場合：

グローバル ユニーク識別子情報は、HP Systems Insight ManagerがUnixWareサーバに対してSNMP **SET**コマンドを実行すると作成されるファイルに保存されます。

グローバル ユニーク識別子を永久に削除するには、UnixWareシステムから次のファイルを削除します。

/var/spool/Compaq/foundation/registry/cpqhoguid.dat

このファイルを削除したら、マネジメント エージェントを再起動します。システムが検出されると、HP Systems Insight Managerによって新しいグローバル ユニーク識別子が割り当てられます。

長いホスト名を持つ**Linux**または**HP-UX**システムに**HP Systems Insight Manager**をインストールしようとする、インストールに失敗する。

解決策: HP Systems Insight Manager 4.2は、LinuxおよびHP-UXについて、長いホスト名（最大256文字）を持つシステムの検出と管理をサポートしていますが、長いホスト名を持つシステムへのインストールはまだサポートしていません。

Windows XP SP2マシンで、エラー メッセージが表示され、インストールが完了しない。

解決策:「簡易ファイルの共有」が有効になっている場合は、無効にする必要があります。

1. **[スタート]>[マイ コンピュータ]>[ツール]>[フォルダ オプション]>[表示]**を選択します。

2. 詳細設定のリストを一番下までスクロールして、[簡易ファイルの共有を使用する（推奨）]の選択を解除してください。
3. **OK**をクリックします。

HP-UXシステムで、mxinitconfig -aコマンドが、ステップ8で失敗し、/var/opt/mx/logs/initconfig.logファイルに、次のエラー メッセージが表示される。...8. Database Configuration Connecting to database...- Failed HP Systems Insight Manager shutting down: Lost connection to database. org.postgresql.util.PSQLException: Connection refused.Check that the hostname and port are correct and that the postmaster is accepting TCP/IP connections. for db loaded from database.props

解決策：以下の解決策を実行してください。

- semmniおよびsemmnsカーネル パラメータが、最小値（semmniでは1024、semmnsでは2048）に設定されていることを確認します。
- PostgreSQL製品がインストールされていないか、インストール後、不正にアンインストールされているため、/var/opt/iexpress/postgresqlサブディレクトリが存在します。PostgreSQLがインストールされている場合は、アンインストールして、/var/opt/iexpress/postgresqlディレクトリを削除し、その後、PostgreSQLを再インストールしてください。

IPアドレス

システムがネットワーク上のIPアドレスを変更すると、データベース内の情報の信頼性がなくなる。たとえば、システム名があるシステムからのものであり、その記述がそのアドレスをとる新しいシステムからのものである。

解決策：システムが検出されると、「非検出」になることはありません。アクセス不能になったシステムは、収集を介して削除する必要があります（完全な設定権があるユーザとしてサインイン）。HP Systems Insight Managerが通信しなくなったシステムは、クリティカルなステータスに変わります。システムは、収集内のシステムを選択して削除をクリックすることで削除できます。

OpenSSH

管理対象システムに**OpenSSH**をインストールした後で、**.ssh**ディレクトリが見つからない。

解決策：.sshディレクトリは、SSHインストーラによって作成されません。CMSに戻って**mxagentconfig**を実行し、hpsystemなどのターゲット システム名と証明書を入力する必要があります。

OpenSSHの実行時に、**%1 is not a valid Win32 application**のようなエラーが発生する。

解決策：Programという名前のフォルダがファイルをルート ディレクトリで検索します。このファイルが存在する場合は削除します。このフォルダが存在する場合は、名前を変更するか、そのフォルダが空である場合は削除します。

オペレーティング システム

システムのオペレーティングシステムを変更して、システム検出を再実行しても、**HP Systems Insight Manager**が、古いオペレーティング システムを実行しているシステムのインスタ

スを検出し、システム リンク セクションに項目がない。**HP Systems Insight Manager**は、システム リンクが正しい、新しいオペレーティング システムを実行しているシステムも検出する。

解決策：システムが検出されると、「非検出」になることはありません。アクティブでなくなった（管理サーバがそのシステムと対話できなくなった）システムは、クリティカル ステータスに変更され、削除できるようになります。

Evo Workstation 6000でWindows XPを実行しているとき、正しいオペレーティング システムが表示されない。

解決策：根本的な問題は、SNMPエージェントが、このバージョンのWindowsを正しく認識しないことです。SNMPサービスを停止し、手動起動に設定し、HP Systems Insight Managerからデータ収集を再実行して、正しい情報を取得してください。

ポケベル通知

ポケベル通知機能を持つ**HP Systems Insight Manager**のアップグレード バージョンで、ユーザが存在しないというエラーが表示される。ただし、ユーザページには、ユーザが表示される。なぜか。

解決策：完全な設定権があるユーザが既存のポケベル通知先ユーザを削除し、元のポケベル通知先ユーザと同じ詳細で新しいポケベル通知先ユーザを作成する必要があります。

解決するには以下の手順に従います。

1. **[オプション]>[セキュリティ]>[ユーザおよび認証]>[ユーザ]**を選択します。
2. **[ポケベル設定済み]**列でポケベル通知先ユーザを見つけます。ユーザがポケベル通知先ユーザの場合は、**[はい]**が表示されます。
3. 削除するユーザ アカウントを選択します。
4. **新規**をクリックします。
5. 手順3で書き留めた情報を入力して、新しポケベル通知先ユーザ アカウントを作成します。
6. **OK**をクリックします。

ping

検出されたシステムに**ping**できない。

解決策：HP Systems Insight Managerで、1000台を超えるシステムを管理している場合は、`/etc/sysctl.conf` ファイルを編集して、次のエントリを追加し、カーネル パラメータを変更してください。

net.ipv4.neigh.default.gc_thresh3 = 4096

net.ipv6.neigh.default.gc_thresh3 = 4096

エントリの追加後、システムを再起動します。

印刷機能

[ラック]表示を含むコンテナ ビュー ページを印刷するとき、表示が正しく印刷されない。

解決策：Internet Explorerで、[ツール]>[インターネット オプション]の順に選択し、[詳細設定]タブを選択します。[印刷]を選択し、[背景の色とイメージを印刷する]を選択します。システムの詳細ページに[ラック]表示が正しく印刷され、ラックのすべての詳細が印刷されるはずです。

Internet Explorerに印刷しようとする、プリンタが設定されていないことを示すメッセージが表示される。**Mozilla**では、印刷ダイアログ ボックスが表示されてファイルを印刷します。

解決策：Internet ExplorerとMozillaの両方で印刷する前に、プリンタをインストールする必要があります。

HP Systems Insight Managerでリストまたはレポートを印刷するときに、印刷の向きで[横]を選択しても、横向きに変更されない。

解決策：[コントロール パネル]の[プリンタ]で、印刷の向きを横に設定します。

プロパティ ページ

プロパティページに、次のエラー メッセージが表示される。

エラー: **WBEM**を使用してターゲット システムに接続することができません。[オプション] - [プロトコル設定] - [グローバル プロトコル設定]を使用して、このシステムの**WBEM**プロトコル設定を確認してください

解決策：ターゲット システムは、WBEMに対応するように設定されていますが、ターゲット システムに対する証明書が壊れています。証明書を確認して、ターゲット システムを再度識別してください。

プロパティページに、次のエラー メッセージが表示される。

不明な**WBEM**エラー。

解決策：予想外のWBEMエラーが発生しています。ヘルプ デスクに問い合わせてください。

プロパティページに、次のエラー メッセージが表示される。

接続が切れました。ウィンドウを閉じて、このシステムのプロパティ ページを再起動してください。

解決策：プロパティ ページは、Webサーバのデフォルト タイム アウト（20分）の制約を受けます。プロパティ ページがタイムアウトすると、このメッセージが表示されます。ウィンドウを閉じて、ターゲット システムに対してプロパティ ページを再起動してください。

プロパティページに、次のエラー メッセージが表示される。

WBEM Storageプロパティがこのシステム上で動作しているため、プロパティ ページを利用することができません。

解決策：ターゲット システムには、ストレージ プロキシCIMOMであるWBEMインストレーション（CIMOM）が存在します。ターゲット システムをモデル化するWBEM CIMOMは、ありません。このため、プロパティ ページは、エージェント収集システム固有情報を保持してい

ません。サーバWBEM CIMOMをインストールして、ターゲット システムのWBEM管理を有効にしてください。

プロトコル

クライアントを**CMS**に追加すると、**WBEM**プロトコルが管理プロトコルとして表示されず、**WBEM**のどのプロパティもクライアントの[システム ページ]に表示されない。

解決策： [システム プロトコル設定] ページ ([オプション]->[プロトコル設定]->[グローバル プロトコル設定]の順に選択) のパスワードが適切でない可能性があります。

「<<<空白のフィールドがあります。」というエラー メッセージが表示され、スケジュールボタンとすぐに実行ボタンが無効になる。

解決策： [システム プロトコル設定] ページのフィールドを空白のままにすると、このメッセージが表示されます。空白のフィールドに入力すると、ボタンが有効になります。

エージェント設定のレプリケート

エージェント設定のレプリケート タスクを、[設定する前にターゲット システムを省電力モードで起動する。]を選択して実行すると、[タスク結果] ページの[タスク詳細] セクションに「システムの起動に失敗」というエラー メッセージが表示されます。

解決策： この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

1. システムのIPアドレスを解放して更新します。
 - a. [スタート]->[設定]->[ネットワークとダイヤルアップ接続]の順に選択します。
 - b. [ローカル エリア接続]をダブルクリックします。[ローカル エリア接続状態]ウィンドウが表示されます。
 - c. プロパティをクリックします。[ローカル エリア接続状態]ウィンドウが表示されます。
 - d. [インターネット プロトコル (TCP/IP)]を選択して、プロパティをクリックします。[インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
 - e. IPアドレスを適切に更新します。
2. データベースからシステムを削除し、システムを検出しなおします。検出の実行の詳細については、「自動検出の設定」を参照してください。
3. エージェント設定のレプリケート タスクを実行します。詳細については、「エージェント設定のレプリケート タスクの作成」を参照してください。

応答

URLアドレスに**https://**を入力すると、ロードに**5分**以上かかる。

解決策： URLアドレスは、"S"のないhttp://で入力する必要があります。URLにhttps://と入力すると、SSLメッセージがサーバへ送信され、遅れが発生します。

HP Systems Insight Managerからリモート システムの**Web**エージェントまたは**System Management Homepage**にアクセスすると、ブラウザに「**Page Note Found**」というメッセージが表示される。

解決策：以下のように、いくつかの解決策が考えられます。

- WebエージェントまたはSystem Management Homepageがリモート システムで動作していない可能性があります。それらを起動しないと、アクセスできません。
- リモート システムがブラウザからアクセスできない可能性があります。HP Systems Insight Managerサーバが2つのネットワーク上のシステムを管理しており、ブラウザクライアントが一方のネットワーク上だけに存在していて、リモート システムがもう一方のネットワーク上に存在する場合は、リモート システムにアクセスできません。
- ターゲット システムのアドレスが適切なIPアドレスに正しく解決されていない可能性があります。ネットワークのDNS設定に問題があります。この場合、DNS設定の問題を解決できないときは、リモート システム名と実際のIPアドレスをHP Systems Insight Managerサーバやブラウザ システム、あるいはその両方のhostsファイルに追加することによって問題を回避することができます。また、別の解決策として、HP Systems Insight Managerで、**[オプション]>[セキュリティ]>[システム リンク設定]**の順に選択し、設定を変更して、**[システムのIPアドレスを使用]**を選択することもできます。

検索

オペレーティング システムが単一バージョンの**HP-UX 11i v1 (B.11.11)**であるシステムを検索するとき、オペレーティング システム コレクションに**2つの基準**が表示される。**[HP/HP-UX 11.11]**を選択すると、**CMS**が表示される。**[HP-UX/HP-UX B.11.11 U]**を選択すると、**CMS**を除くすべての**HP-UX**システムが表示される。

解決策：比較選択ボックスで**[次]**を選択する代わりに**[次の文字を含む]**を選択し、**HP-UX 11.11**と入力してください。

セキュリティ

管理対象システムのツールを実行すると、次のエラーが発生する。認証エラー：中央管理サーバ（**CMS**）と管理対象システム タイム クロックは、同期されないか、通信時間制限を超える場合があります。

解決策：CMSと管理対象システムでは、時間が同期化されていないと、認証エラーが発生します。通信時間制限は20分であり、この制限を超えると、認証エラーが発生します。コマンド **xntpd(1m)**を使用し、時間同期を設定します。

シングル ログインができないか、または**Linux**エージェントに信頼ステータスを設定できない。

解決策：この問題を解決するには、**[システム リンク設定]**の設定を、IPアドレスまたは完全修飾DNS名に変更します。

[システム リンク設定]の設定を変更するには、次のように操作します。

1. HP Systems Insight Manager CMSで、**[オプション]**、**[セキュリティ]**、**[システム リンク設定]**の順に選択します。**[システム リンク設定]**ページが表示されます。
2. 次のいずれかのオプションを選択します。

- IPアドレスを指定する場合は、[システムのIPアドレスを使用]
- 完全修飾DNS名を指定する場合は、[システムのDNS名（フル）を使用]。

3. **OK**をクリックします。設定が保存されます。

Serviceguard Manager

Serviceguard Managerがインストールされた**SCM 3.0**から**HP Systems Insight Manager 4.1**にアップグレードすると、**Serviceguard Manager**が動作しなくなる。

解決策：HP Systems Insight Managerをアップグレードすると、Serviceguard Managerがインストールした一部のファイルが置き換わります。このため、Serviceguard Managerがインストールされていないようにみえます。Serviceguard Managerを再インストールしてください。

Serviceguard Managerを起動すると、**.jnlp**ファイルをダウンロードするように要求される。**Serviceguard Manager**のインストール時に、次のシナリオとなることがある。

シナリオ1:**Java Web start**がインストールされていない。

解決策：Java Web startをダウンロードしてインストールしてください。

シナリオ2:**Java Web start**がインストール済みであるにもかかわらず、**.jnlp**ファイルのダウンロードを求められる。次に示すオペレーティングシステムごとの解決策のいずれかを参照してください。

Windows 2003のIEブラウザの解決策:

1. .jnlpファイルをダウンロードします。
2. .jnlpファイルを右クリックします。
3. プログラムから開く...を選択します。
4. 参照をクリックします。
5. C:\Program Files\Java Web Start\javaws.exeを探して開きます。
6. この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使うを選択します。
7. **OK**をクリックします。

LinuxのMozillaブラウザの解決策:

1. **Launch Serviceguard Manager**をクリックします。
2. プログラムから開く...を選択します。
3. **Choose**をクリックします。
4. /usr/java/j2re1.4.2/javaws/javawsを特定します。
5. **Always perform this action**を選択します。
6. **OK**をクリックします。

HP-UXのMozillaブラウザの解決策:

1. **Launch Serviceguard Manager**をクリックします。
2. プログラムから開く...を選択します。
3. **Choose**をクリックします。
4. /opt/java1.4/jre/javaws/javawsを特定します。

注記:



このパスが存在しない場合は、T1456AAとJava Web Startをインストールする必要があります。

5. **Always perform this action**を選択します。
6. **OK**をクリックします。

Serviceguard Managerを起動しようとすると、**HTTP 404**エラーが起きる。

解決策: HP Systems Insight Managerをインストールした後、CMSプラットフォーム（Windows、Linux、HP-UX）にServiceguard Managerをインストールする必要があります。このとき、SGMがHP Systems Insight Managerで登録されます。後でServiceguard Managerをアンインストールした場合、Serviceguard Managerを起動しようとすると、HTTP 404エラーが発生します。これは、Serviceguard Managerのアンインストール アプリケーションが、HP-UXおよびLinux環境では/opt/hpwebadmin/webappsに、Windows環境では\Program Files\HP\System Insight Manager\hpwebadmin\webappsにあるHP Systems Insight Managerのwebappsディレクトリのsgmgrディレクトリを削除するためです。

HTTP 404エラーが今後発生しないようにするには、次のコマンドを使用してHP Systems Insight Managerからツールを削除してください。

mxttool -r -f sgmw-web-tools.xml

将来Serviceguard Managerを再インストールする場合は、次のコマンドを使用してHP Systems Insight Managerにツールを追加してください。

mxttool -a -f sgmw-web-tools.xml

サイン イン

パスワードを入力せずに、**Windows XP**の**HP Systems Insight Manager**にサイン インできない。

解決策1: パスワードを設定してください。セキュリティが向上します。管理者に依頼して、Windowsユーザ アカウントを変更し、空白以外のパスワードを指定してください。

解決策2: パスワードを空白にしなければならない場合は、Windows XPマシンでセキュリティポリシー [アカウント：ローカル アカウントの空のパスワードの使用をコンソール ログオンのみに制限する。]を無効にします。

注記:



このポリシーを無効にすると、パスワードのないアカウントを使用してネットワーク経由でリモート ログインできます。

Windowsシステムで、ローカル アカウントを使用した、パスワードなしのサイン インをコンソールのみに制限するには、以下の手順に従ってください。

1. **[プログラム]>[管理ツール]>[ローカル セキュリティ ポリシー]**の順に選択して、**[ローカル セキュリティ 設定MMCアプリケーション]**を開きます。
2. **[ローカル セキュリティ ポリシー]**フォルダを開き、**[セキュリティ オプション]**サブフォルダを開きます。
3. ポリシーを無効にします。

Windows XPのHP Systems Insight Managerにサイン インできない。

解決策：パスワードを空白にする場合は、上記の問題を参照するか、Windows XPマシンでローカル セキュリティ ポリシー**[ネットワーク アクセス：ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル]**を**[Guestのみ]**から**[クラシック]**に変更します。

注記:



この設定は、ドメイン アカウントを使ったりリモート サイン インには影響しません。このセキュリティ ポリシーを変更すると、ゲスト アカウントだけでなく、リモート サイン インを設定したローカル アカウントからネットワーク経由でリモート ログインできます。すべてのローカル アカウントが適切なパスワードを持っていることを確認してください。

設定を変更するには、次のように操作します。

1. **[プログラム]>[管理ツール]>[ローカル セキュリティ ポリシー]**の順に選択して、**[ローカル セキュリティ 設定MMCアプリケーション]**を開きます。
2. **[ローカル セキュリティ ポリシー]**フォルダを開き、**[セキュリティ オプション]**サブフォルダを開きます。
3. 設定を**[Guestのみ]**から**[クラシック]**に変更します。

[Guestのみ]が好ましいポリシー設定である場合は、前の手順を実行してHP Systems Insight Managerにサイン インし、ドメイン アカウント（ローカル アカウントではない）かローカル ゲスト アカウントをHP Systems Insight Managerのアカウントとして追加します。終了したら、ローカル ポリシー設定を**[クラシック]**に戻してください。

クラスタ システムで、シングル ログインが失敗する。

解決策：シングル ログインは、仮想クラスタ システムに対して動作しません。クラスタを構成する物理システムで動作します。

プロキシ サーバを使用すると、ユーザ用に設定されたIPアドレス ログイン制限を不注意か故意にバイパスする場合があります。

解決策：プロキシ サーバを使用すると、プロキシ サーバのIPアドレスがIP除外範囲に含まれていない場合、**[ログインIPアドレスの制限]**ページの特定のIP除外をバイパスできる場合があります。同様に、有効なプロキシ サーバがIP除外範囲に含まれていると、有効なユーザがそのプロキシ サーバ経由でサイン インできない場合があります。

有効なプロキシ サーバが有効な適用範囲にあることを確認し、含まれる範囲をできるだけ小さくしてください。含まれるIP範囲を使用すると、そこに指定されていないすべてのアドレスが除外されるので、IP除外範囲を使用するより含まれるIP範囲を使用した方が効率的です。

Internet Explorer 6.0を使用して、**HP Systems Insight Manager**、または**HP Systems Insight Manager**からアクセスしている管理対象システムにサイン インできない。

解決策1：システム名にアンダースコアが入っていると、Internet Explorerで認証Cookieが正常に動作しません。

解決策1A：HP Systems Insight Managerでは、Internet Explorer 6.0を使用していて、HP Systems Insight Managerサーバの名前にアンダースコアが入っている場合は、Internet Explorerのアドレス フィールドに入っている名前の代わりに、HP Systems Insight ManagerサーバのIPアドレスを使用してください。

解決策1B：管理対象システムでは、システムの名前にアンダースコアが入っている場合は、システムのIPアドレスを使用してください。名前の代わりにIPアドレスを使用してシステムへのリンクを作成するように、HP Systems Insight Managerを設定します。以下の手順に従ってください。

1. HP Systems Insight Managerにアクセスしてサイン インします。
2. **[オプション]->[セキュリティ]->[システム リンク設定]**を選択します。**[システム リンク設定]**ページが表示されます。
3. **[システムのIPアドレスを使用]**を選択します。
4. **OK**をクリックします。

注記：名前の代わりにIPアドレスを使用すると、管理対象システム証明書の名前がリンク内の名前と一致しない場合、セキュリティ アラートが表示される場合があります。管理対象システムのデフォルト証明書では、IPアドレスでなく、システム名が使用されています。

解決策2：管理対象システムでは、Internet Explorer 6.0のプライバシー ポリシー設定によって、管理対象システムからの認証Cookieがブロックされます。

解決策2A：ブラウザのプライバシー セキュリティ ポリシー設定を変更してください。Internet Explorerブラウザのメニューで、**[ツール]->[インターネット オプション]**の順に選択し、**[プライバシー]**タブを選択します。プライバシー設定は、次のいずれかの方法で変更できます。

- スライダーバーを一番下まで移動して、プライバシー設定を**[すべてのCookieを受け入れる]**に設定します。この設定により、ブラウザは、ファーストパーティ サイトとサードパーティ サイトのすべてのCookieを受け入れることができます。HP Systems Insight Managerにアクセスしたり、管理対象システムに直接アクセスしたりするときは、ファーストパーティ サイトとみなされます。HP Systems Insight Manager経由で管理対象システムへ移動するときは、サードパーティ サイトとみなされます。

または

- **[詳細設定]**をクリックし、**[自動Cookie処理を上書きする]**を有効にして、Cookie処理をカスタマイズします。次に、ファーストパーティCookieとサードパーティCookieについて、適当なラジオボタン（**[受け入れる]**または**[ダイアログを表示する]**）を選択します。**[プロンプトを表示する]**を選択すると、Cookieを受信するたびにCookieを処理する方法に関するプロンプトが表示されます。各回または毎回Cookieをブロックするか、許可するかを選択できます。WebエージェントはセッションCookieを使用しないので、**[常にセッションCookieを許可する]**を有効にしても問題は解決されません。

または

- システムごとにCookieの処理を個別に指定します。**[Webサイト]**セクションにある**編集**をクリックし、指定したフィールドにシステムのアドレスを追加します。許可をクリックして、常にそのシステムへのCookieを許可します。すべてのシステムについて、これを繰り返します。

解決策2B: インターネット ゾーンからシステムを削除します。プライバシー ポリシーは、ブラウザのインターネット ゾーンにあるシステムだけに影響するので、インターネット ゾーンからシステムを削除すると、プライバシー ポリシーがそのシステムに影響しなくなります。これは、次のいずれかの方法で実行できます。

- 名前の代わりにIPアドレスでシステムにアクセスすると、ブラウザが、それらのシステムがインターネット ゾーンにあるとみなす場合があります。代わりに、名前でアクセスしてください。HP Systems Insight Managerを設定して、**[オプション]**→**[セキュリティ]**→**[システムリンクの設定]**の順に選択して**[システム名を使用]**を選択することでシステムへのリンクを作成する際に、システム名を使用できます。
- プロキシ サーバを使用するようにブラウザを設定すると、特定のシステム用のプロキシサーバをバイパスするようにブラウザを設定できます。これによって、ブラウザの**[インターネット ゾーン]**からそのシステムが削除されます。ブラウザのメニューから**[ツール]**→**[インターネット オプション]**を選択し、**[接続]**タブを選択します。**[LAN設定]**をクリックし、プロキシ サーバを使用する場合、**[詳細設定]**をクリックします。**[例外]**リストで、プロキシサーバをバイパスするアドレスのリストを指定できます。このアドレスは、**[インターネット ゾーン]**に存在しなくなり、プライバシー設定ポリシーに影響されません。

新しいブラウザ ウィンドウを開くリンクを選択するために別のサイン インが必要になる。

解決策: Windowsエクスプローラの中から[Internet Explorer]リンクを使用してアクセスしている場合、代わりに別のプロセスとしてInternet Explorerを開始する必要があります。Windowsの[スタート]メニューから選択するか、デスクトップ アイコンを使用して、Internet Explorerを起動します。

Windows NT、Windows 2000、またはWindows XPからHP Systems Insight Managerにサイン インできない。

解決策: HP Systems Insight Managerへのアクセスに使うWindowsアカウントには、**[ネットワーク経由でコンピュータへアクセス]**権限が選択されていなければなりません。

Windows NT 4.0の場合、**[スタート]**→**[プログラム]**→**[管理ツール]**の順に選択して**[ユーザ管理]**を開きます。**[ポリシー]**メニューから**[ユーザ権限]**を選択します。**[権限]**ドロップダウン リストから**[ネットワーク経由でコンピュータへアクセス]**を選択して、HP Systems Insight Manager ユーザに完全な設定権が割り当てられていることを確認します。

Windows 2000およびWindows XPの場合、**[スタート]**→**[プログラム]**→**[管理ツール]**の順にクリックし、**[ローカルセキュリティ ポリシー]**を開きます。**[ローカルセキュリティ ポリシー]**ツリーを展開し、**[ユーザー権利の割り当て]**を選択します。HP Systems Insight Managerユーザに

[ネットワーク経由でコンピュータへアクセス]の権限があり、[ネットワーク経由でコンピュータへアクセスを拒否する]が選択されていないことを確認します。

**HP Systems Insight Managerへのサイン イン中に、例外
org.apache.jasper.JasperExceptionが発生する。**

解決策： workディレクトリのすべてのファイルを削除し、再度サイン インします。

- HP-UXおよびLinux： /opt/mx/jboss/server/hpsim/work
- Windowsの場合 \jboss\server\hpsim\work

信頼済みシステムにアクセスするとき、サイン イン証明書を求められる。

解決策： HP Systems Insight Managerと管理対象システムの間で、有効な信頼関係を設定したことを確認してください。目的のシステムで適切なツールの権限があることも確認してください。シングル ログインを有効にするツールには、管理者としてのSystem Management Homepage、オペレータとしてのSystem Management Homepage、ユーザとしてのSystem Management Homepage、エージェント設定のレプリケート、およびソフトウェアやファームウェアのインストールがあります。信頼関係の設定方法については、「信頼関係の設定」を参照してください。

Microsoft MS04-025: Cumulative Security Update for Internet Explorer (867801)
のインストール後、**HP Systems Insight Manager**および**System Management Homepage**にアクセスできなくなる。

解決策：この問題は、Windows XP Service Pack 2とすべてのバージョンのHP Systems Insight ManagerおよびSystem Management Homepageを実行するシステム、またはWindows XP Service Pack 2を実行し、サポートされているオペレーティング システム環境で動作するHP Systems Insight Managerにアクセスするシステムに影響します。解決方法は、以下の3つの部分に分かれます。

- System Management HomepageにアクセスできるようにWindows XP Service Pack 2のファイアウォールを設定する。
 1. Windows XPシステムで、[スタート]->[コントロール パネル]->[Windowsファイアウォール]を選択して、ファイアウォールの設定を変更します。
 2. [例外]タブを選択し、ポートの追加をクリックします。
 3. ファイアウォール保護に、次の例外を追加します。製品名およびポート番号をそれぞれ入力してください。

説明	ポート	プロトコル
HP SMH Webサーバ*	2301	HTTP
HP SMHセキュア Webサーバ*	2381	HTTPS
WBEM/WMI Mapper	5988	HTTP
WBEM/WMI Mapperセキュアポート	5989	HTTPS

説明	ポート	プロトコル
SSHポート	22	SSH
SNMPエージェント	161	SNMP
Ping検索 (ICMP) **	***	ICMP
Ping検索 (TCP) **	80	HTTP

* システムがHP Systems Insight Managerから管理されていない場合は、ブラウザがSystem Management Homepageにアクセスできるように、ポート2301および2381のみを設定する必要があります。

** 使用方法はHP Systems Insight Managerで設定できます。

*** この設定は、**[Windowsファイアウォール]**ウィンドウの**[詳細設定]**タブで行います。**[ICMP設定]**を選択し、**[エコー要求の着信を許可する]**を選択してください。

4. **[ポートの追加]**ウィンドウで、**OK**をクリックします。

5. **[Windowsファイアウォール]**ウィンドウで、**OK**をクリックします。

この設定により、Windows XP Service Pack 2のセキュリティ強化はそのまま、前の表に示されたポートのトラフィックが許可されます。

注記： HP Systems Insight Managerは、他のポート上のWebサイトを検出します。

● 「ファイルとプリンタの共有」と「リモート管理の例外」を有効にする。

1. 以下の手順で、ファイルとプリンタの共有を有効にします。

- [スタート]->[コントロール パネル]**の順に選択します。
- [Windowsファイアウォール]**をクリックします。ファイアウォールの設定ウィンドウが開きます。
- [例外]**タブを選択します。
- [ファイルとプリンタの共有]**チェックボックスを選択します。
- OK**をクリックします。

2. 以下の手順で、リモート管理の例外を有効にします。

- [コントロール パネル]**で、**[Group Policy]**エディタを開きます。
- [コンピュータの構成]**を選択します。
- [管理用テンプレート]**を選択します。
- [ネットワーク]**を選択します。
- [ネットワーク接続]**を選択します。
- [Windowsファイアウォール]**を選択します。

- g. **[ドメイン プロファイル]**を選択します。
- h. **[Windowsファイアウォール: リモート管理の例外を許可する]**を選択します。

- HP Systems Insight ManagerにアクセスできるようにWindows XP Service Pack 2のファイアウォールを設定する。

Windows XP Service Pack 2とHP Systems Insight Managerを実行するシステムで以下の手順を実行します。

1. Windows XPシステムで、**[スタート]->[コントロール パネル]->[Windowsファイアウォール]**を選択して、ファイアウォールを設定を変更します。
2. **[例外]**タブを選択し、ポートの追加をクリックします。
3. ファイアウォール保護に、次の例外を追加します。製品名およびポート番号をそれぞれ入力してください。

製品	ポート	プロトコル
SNMP Trap Listener	162	SNMPトラップ (UDP)
HP Systems Insight Manager Web Server	280	HTTP
RMIレジストリ	2367	RMI
JBoss RMI/JRMP Invoker**	4444	TCP
JBoss Pooled Invoker**	4445	TCP
JBoss Web Service ポート**	8083	TCP
HP Systems Insight Manager Secure Web Server	50000	HTTPS
HP Systems Insight Manager SOAP *	50001	HTTPS
HP Systems Insight Manager SOAP、クライアント証明書認証*	50002	HTTPS
HP Systems Insight Manager SOAP *	50003	HTTPS
HP Systems Insight Manager WBEM Event Receiver*	50004	HTTPS/HTTP*
WBEMイベント	50005	TCP
PostgreSQL	50006	TCP

製品	ポート	プロトコル
JBoss Naming Service RMIポート**	50008	TCP
JBoss Naming Serviceポート**	50009	TCP
HP Systems Insight Manager VMM Essentials v 1.1.2.0	50010	TCP
WebサービスRMIクラスローダ	50013	TCP
JRMP invoker	50014	TCP
Pooled invoker	50015	TCP

* HP Systems Insight Managerで設定できます。

** SIM/jboss/server/hpim/conf/jboss-service.xml記述子で設定できます。

4. **[ポートの追加]**ウィンドウで、**OK**をクリックします。
5. **[Windowsファイアウォール]**ウィンドウで、**OK**をクリックします。

この設定により、Windows XP Service Pack 2のセキュリティ強化はそのまま、この表に示されたポートのトラフィックが許可されます。

HP Systems Insight Managerのインストール後、Windowsの管理者パスワードを変更すると、HP Systems Insight Managerにサイン インできなくなる。

解決策：SQL Serverをローカル インストールしている場合、SQL Serverが動作していることと、ログオン証明書が選択されていないかどうかを確認してください。SQL Serverサービスが動作していない場合は、サービス ログオン証明書が変更されたことが原因である可能性があります。HP Systems Insight Managerサービスは、インストール時に使用された証明書のもとで動作するように登録されています。この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

1. 以下の手順で、MSSQLサービスのパスワードを変更します。
 - a. Windowsで、**[サービス]**を開きます（**[コントロールパネル]>[サービス]**の順に選択）。
 - b. MSSQLサービスをクリックして、**[プロパティ]**を選択します。
 - c. **[ログオン]**タブを選択して、パスワードを変更します。
 - d. MSSQLサービスを再起動します。
2. 以下の手順で、HP Systems Insight Managerサービスのパスワードを変更します。
 - a. Windowsで、**[サービス]**を開きます（**[コントロールパネル]>[サービス]**の順に選択）。
 - b. HP Systems Insight Managerサービスをクリックして、**[プロパティ]**を選択します。
 - c. **[ログオン]**タブを選択して、パスワードを変更します。
 - d. HP Systems Insight Managerサービスを再起動します。

3. Windows Server 2000または2003でOpenSSHを使用している場合は、以下の手順で、OpenSSH Serverサービスのパスワードを変更します。
 - a. Windowsで、**[サービス]**を開きます（**[コントロールパネル]** > **[サービス]**の順に選択）。
 - b. OpenSSH Serverサービスをクリックして、**[プロパティ]**を選択します。
 - c. **[ログオン]**タブを選択して、パスワードを変更します。
 - d. HP Systems Insight Managerサービスを再起動します。

ダイヤルアップ接続からのサイン インに時間がかかる。

解決策：接続には、ユーザが制御できる範囲を超えた多数の要素が関わっています。たとえば、モデムの速度が遅い、接続するサーバが最高の効率で動作していない、または電話回線のステータスが悪いことなどです。

HP Systems Insight Managerにサイン インできない。

解決策：この問題は、以下のいずれかの理由により発生します。

- **[IPアドレス制限]**フィールド（**[新規ユーザ グループ]**、**[ユーザの編集]**、**[新規ユーザ]**、または**[ユーザ グループの編集]**ページ）が設定されている場合、CMSのすべてのIPアドレスが含まれていることを確認してください。localhostにアクセスする場合は、ループバック アドレス127.0.0.1も含まれていることを確認してください。
- 情報が正しく入力されていません。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- 入力したアカウントは、HP Systems Insight Managerの有効なアカウントではありません。
- 入力したアカウントの削除、無効化、またはロックアウトが行われています。
- アカウントのパスワードを変更する必要があります。
- 指定されたアカウントに有効でないIPアドレスからサイン インしようとしてしました。
- ブラウザでCookieが有効になっていないか、またはCookieブロックを使用しています。

Windows HP Systems Insight Managerにサイン インできない。

解決策：ドメイン アカウントではなく、CMSで作成したWindowsユーザ アカウントでサイン インするとき、CMSホスト名が15文字を超えているのであれば、ドメイン フィールドにはCMS名の最初の15文字を入力してください。たとえば、Windows CMSの名前が、「SIMwin2003withsp2」でローカル アカウントが「bob」の場合、ユーザ名 = 「bob」、ドメイン = 「SIMwin2003withs」でサイン インしてください。新しく作成されたローカル ユーザ アカウントは、ドメイン名フィールドに入力される、システム名の最初の15文字のみを使用して作成されたもので、その名前を使ってサイン インするのでなければ、サイン インできません。

SNMPエージェント

HP Systems Insight Managerのエージェント設定のレプリケート タスクを使用しているとき、SNMPエージェントが使用できる[エージェントを再起動する]オプションを有効または無効にするにはどうしたらよいか。

解決策：HP Systems Insight Managerのエージェント設定のレプリケート タスク内からオプションを変更する必要があります。

1. **[設定]**→**[エージェント設定のレプリケート]**を選択します。
2. ターゲット システムを選択し、次へをクリックします。ターゲット システムの選択の詳細については、「タスクの作成」を参照してください。

注記:



ソース システムは、HP Systems Insight Managerサーバとの信頼関係がなければなりません。詳細については、「信頼証明書の要求」を参照してください。

3. システムに関連する**[設定]**リンクを選択します。
4. **[Insightマネジメント エージェント]**ページで、**[エージェントを再起動する]**オプションの下、**[有効にする]**または**[無効にする]**ラジオ ボタンを選択します。
5. 適用をクリックして、**[SNMP設定]**ページを閉じます。
6. HP Systems Insight Managerに戻り、更新をクリックします。
7. 更新された設定が、エージェント設定のレプリケート タスクに表示されます。
8. 次へをクリックし、タスク名を定義し、収集を選択し、タスクのスケジュールを定義して、エージェント設定のレプリケート タスクのセットアップを完了します。保存をクリックして設定を完了し、**[タスク結果]**ページに戻ります。

注記:



エージェント設定のレプリケート タスクが完了したら、変更を有効にするため、ソース システムでエージェントを再起動する必要があります。

ソフトウェア ステータス

[SW]ステータス列で不明と表示される。ステータスが不明となる理由を知るには、どうしたらよいか。

解決策： **SW**ステータスが不明と表示される理由はいくつかあります。ステータスが不明な理由を調べるには、カーソルを不明と表示されている**[SW]**ステータス カラムにおきます。ツールチップが表示され、何が不明なのかを示すヒントが表示されます。以下のいずれかの情報が表示される可能性があります。

- HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャがみつかりません。
- 考えられるバージョン コントロール エージェント信頼の問題
- システム上でソフトウェア ステータス ポーリング タスクが実行されていない。

ステータスを判別できない場合は、ツールチップには、「クリックして詳細表示」と表示されます。

ストレージ システム

ストレージ システムの[識別]タブのセクションが表示されないか、または**No data available**と表示される。

解決策：データが収集されていないか、またはデータ収集タスクが失敗しました。以下の解決策を実行してください。

- HP Systems Insight Managerが、ストレージ システムからデータを検出および収集するように設定されていることを確認します。詳細については、「ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定」を参照してください。
- データを収集したいシステムを対象に、新しいデータ収集タスクを作成して実行します。詳細については、「データ収集タスクの作成」を参照してください。

HP Systems Insight Managerのストレージ システム収集から、**1つまたは複数のストレージ システム**が消えている。

解決策：SMI CIMOM、またはSMI-Sプロバイダの設定に問題がある可能性があります。以下を実行してください。

- HP Systems Insight Managerが、ストレージ システムを検出するように設定されていることを確認します。詳細については、「ストレージ システムに対するHP Systems Insight Managerの設定」を参照してください。
- SMI-Sプロバイダがインストールされ、SSLが有効になるように設定されていることを確認します。SMI-Sプロバイダの入手とインストールについては、『[HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド](#)』を参照してください。
- ネットワーク上で、WBEM SSLポートにアクセス可能かどうか確認します。CMSで、コマンド ウィンドウを開いて、**telnet <プロバイダのIPアドレス> 5989**と入力します。
 - ポートにアクセスできる場合は、空白行が表示されます。また、Connect failed、Connection refusedなどのエラーは表示されません。**Control-]**キーを押して、**quit**とタイプし、Telnetを切断し終了します。
 - SMI-Sプロバイダが正しくインストールおよび設定されているのに、ポートにアクセスできない場合は、CMSとSMI-Sプロバイダをインストールしているシステムの間にファイアウォールがないかどうか確認します。ファイアウォールがある場合は、ファイアウォールを設定して、プロバイダが通信に使用するポート（通常、5989）を介したトラフィックを許可します。

スイッチ

HP ProCurveスイッチを検出して識別した後、[システム ページ]の[リンク]タブにある[**HP ProCurve switch**]リンクをクリックすると、スイッチ管理ページが表示されない。

解決策：システムの[システム リンクの設定]ページの設定を変更する必要があります。以下を実行してください。

1. [オプション]>[セキュリティ]>[システム リンクの設定]をクリックします。[システム リンク設定]ページが表示されます。
2. [システムのDNS名（フル）を使用]を選択します。これにより、システム名の代わりにシステムの完全DNS名が使用されるようになります。
3. 変更内容を保存して適用するには、**OK**をクリックします。

HP ProCurveスイッチの[システム ページ]に戻ると、リンクが正常に開きます。

システム

システム テーブル ビュー ページにクリティカルなステータスで表示されるシステムに、**IP/IPX** アドレスが示されず、システム リンクがない。

解決策： HP Systems Insight Managerが、このシステムのアドレスを別のノードに割り当てています。このステータスは、システム構成でのDHCPなどの変更に伴ってアドレスが変更される場合に発生することがあります。次のような場合に、このステータスが発生します。

- システムが、ネットワークから一時的に削除されています。システムは、ネットワークに戻ると、管理されたステータスに戻ります。これは、ラップトップ コンピュータがネットワークから長期間削除されて、DHCPがその以前のアドレスを再使用した場合に発生します。
- システムの名前が変更されましたが、HP Systems Insight Managerによって検出されていません。HP Systems Insight Managerは、その名前でシステムの検索を続けます。

hosts ファイルでシステムを追加するとき、**SNMP** パラメータが保存されない。次のように、ネットワークに存在しないファイルを作成した。例：

```
#$IMXE:Type="Server"
```

```
#$IMXE: SNMP_RET=4 SNMP_TIM=10 SNMP_MON=HP SNMP_CON=HP
```

1.1.1.1 myserver

SNMP パラメータを保存するには、どうしたらよいか。

解決策： この問題は、システムがオンラインになっていないときに限って発生します。HPでは、次の回避策を推奨しています。

```
#$IMXE_DEFAULT: Type = Server SNMP_RET=4 SNMP_TIM=10 SNMP_MON=HP  
SNMP_CON=HP
```

1.1.1.1 myserver

[すべてのシステム]ウィンドウを数分間アイドル状態にして新しいブラウザ ウィンドウを開くと、[すべてのシステム]ウィンドウが白くなり、**Internet Explorer**がハングする。タスクの終了を強制される。**Internet Explorer**のハングを回避する方法はありますか。

解決策： セキュリティの理由のため、常にHP Systems Insight Managerからサイン アウトした後でInternet Explorerを閉じてください。サイン アウトしてからInternet Explorerを閉じると、この問題は解決します。

mxnode -r -f コマンドを使用してシステムを削除しても、コンテナ システム（クラスタ、エンクロージャ、ラックなど）が削除されない。

解決策：コンテナは、個別に削除する必要があります。

現在、グローバル デフォルトを使用しているシステムの証明書を変更する方法を知りたい。

解決策：以下の手順を実行してください。

1. **mxnodesecurity** コマンドを実行して、証明書を変更または追加します。
2. CLIから、**mxnode**を実行して、特定のシステムのXMLファイルを生成し、出力を外部ファイルにリダイレクトします。

mxnode -lf nodename >somefilename.xml

ここで、somefilename.xmlは、出力がリダイレクトされる外部ファイルの名前です。

以下に、mxnode XMLファイルの一部を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<node-list>
<node name="abc" guid="..." host-name="abc.mycompany.com">
<hw-attribute name="DeviceType">Workstation</hw-attribute>
<hw-attribute name="DeviceSubType">HP9000</hw-attribute>
<hw-attribute name="Model">9000/785</hw-attribute>
<hw-attribute name="ProcessorFamily">pa-risc</hw-attribute>
<sw-attribute name="OSName">HP-UX</sw-attribute>
<sw-attribute name="OSVendor">HP</sw-attribute>
<sw-attribute name="OSRevision">11.00</sw-attribute>
<sw-attribute name="IPAddress">192.1.2.3</sw-attribute>
<sw-attribute name="ProtocolSupport">SNMP:1.0</sw-attribute>
<sw-attribute name="Description">HP-UX phoenix</sw-attribute>
<sw-attribute name="SystemName">abc.mycompany.com</sw-attribute>
<sw-attribute name="DefaultProtoSettings">true</sw-attribute>
<sw-attribute name="DefaultAttributeSettings">true</sw-attribute>
<sw-attribute name="DefaultSystemName">true</sw-attribute>
</node>
</node-list>
```

3. 最後の3つのsw-attributeエレメントは、現在のデフォルト設定を示します（trueまたはfalse）。ファイルを編集して、3つの値をすべてfalseに変更してファイルを保存します。
4. **mxnode**コマンドを使用し、修正したXMLファイルを入力として用いて、同じシステムを変更します。

mxnode -m -f somefilename.xml

システムは、新しい設定を使用するようになるはずです。

システム ページ

システム ページで、[管理プロセッサ]リンクをクリックすると、**HTTP 1.1**依存エラーが表示される。また、管理プロセッサのステータス アイコンは表示されない。

解決策：iLOとプロキシ サーバ（使用している場合）が、HTTP 1.1を使用するように設定する必要があります。

● HTTP 1.1を使用するようにInternet Explorerを設定する

1. Internet Explorerで、[ツール]->[インターネット オプション]->[詳細設定] を選択します。
2. [HTTP 1.1設定]の下で、[HTTP 1.1を使用する]を選択します。
3. **OK**をクリックします。

● HTTP 1.1を使用するようにMozillaを設定する

1. [編集]->[設定]->[詳細]->[HTTPネットワーク]を選択します。
2. [直接接続オプション]で、[HTTP 1.1を使う]を選択します。
3. また、[直接接続オプション]で、[接続の持続（KeepAlive）を有効にする]も選択します。
4. **OK**をクリックします。

● プロキシ サーバ経由で、iLOと通信する場合は、次のように操作します。

1. Internet Explorerで、[ツール]->[インターネット オプション]->[詳細設定] を選択します。
2. [HTTP 1.1設定]の下で、[プロキシ接続でHTTP 1.1を使用する]を選択します。
3. **OK**をクリックします。

HTTP通信に関与するシステム ページのリンクが、エージェントの停止時に更新されない。

解決策：Webエージェント（<http://machinename:2301>）を持つ特定のシステムをブラウズする場合、ウィンドウ上の最初のリンク/GIF（通常は、InsightマネージャWebエージェント）は、すべてのHTTPコマンドを送信するプロキシ エージェントです。「プロキシ」エージェントではないWebエージェントが停止していると、そのWebエージェントへのリンクを更新できるようにするHP Systems Insight Managerに、適切なHTTPコマンドが送信されません。システムへの正しいリンクがあることを確認するには、検出または日単位識別タスクを実行して、特定のシステムに対して実行されているすべてのWebエージェントを確認します。

システム ページのリンクをたどっていくとタイムアウトが発生する。

解決策：これは、HP Systems Insight Manager管理サーバが複数のサブネットを管理しているときにしばしば起こります。しかし、ユーザーがブラウジングしているシステムからは見ることができません。一部のリンク（マネジメント エージェントなど）をたどる場合、HP Systems Insight Managerは、追加されたURL情報を使用して、<http://systemIPaddress:2301>に接続します。これにより、そのシステムで実行されるエージェントに直接接続することになります。ユーザーの参

照元のマシンは、TCP/IPを介して対象のシステムと通信できなければなりません（たとえば、そのシステムにpingできる）。

クリティカル システムをたどっていくと、**HP Systems Insight Manager**がシステムスに通信できなくなる前に存在したすべてのリンクが、まだシステム ページに表示される。

解決策：これは、予期された動作です。問題のシステムが再起動中など処理の途中の状態にある場合、リンクはもとのままです。システムがダウンしている場合、任意のエージェントまたはWebサーバに接続すると、そのリンクはタイムアウトします。

タスク

タスクを作成しているときに、**Backspace**キーを使用してテキスト ボックスのテキストを削除できない。入力内容を編集するには、どうしたらよいか。

解決策：タスクを作成しているときに、マウスを使用して修正するテキストを選択するか、Deleteキーを使用してテキスト ボックスからテキストを削除します。更新された情報を入力します。

タスクの実行時に、メッセージ**Unknown OS**が表示される。

解決策：次の手順を実行してください。

1. タスクを実行しようとしているシステムがWindowsシステムである場合は、SSHのインストール後にリポートしたことを確認します。リポートしないと、インストールは完了しません。
2. オペレーティング システムのタイプを判断できるように、DMI、WBEM、SNMPのうちいずれかをシステムで有効にしてから、識別とデータ収集を実行してHP Systems Insight Managerデータベースを更新します。
3. オペレーティング システムを判断するコマンドが動作することを確認します。

Windowsの場合： `ver`

HP-UXおよびLinuxの場合： `uname`

最初のProLiant Support Packインストール タスクの実行時にエラーになる。

解決策：Windows 2000システムがWindows 2003システムで最初のProLiant Support Packインストール タスクを実行するときは、**[ドメイン]**フィールドにドメインを入力してください。システムがドメインの一部でない場合は、ターゲット システム名を代わりに入力します。

HP-UXシステムで、完全な設定権があるユーザがタスクを編集して、オーナーを設定権が制限されているユーザに変更し、タスクを表示したところ、元のユーザがまだオーナーとして表示されている。完全な設定権があるユーザが別のブラウザでタスクを表示させると、正しいオーナーが表示される。

解決策：時々起こるエラーであり、解決策はありません。

Windows 2000 Advanced Serverシステムでインストール ソフトウェア/ファームウェア タスクを実行した後、**[タスク結果]**セクションでステータスが更新されない。ステータスは、進行中と表示されたままであるが、インストール ソフトウェア/ファームウェア タスクが**2時間**後にタイムアウトする。

解決策：Linuxバージョン コントロール エージェントターゲット システムは、中央管理サーバのアドレスを解決できません。名前解決が正しく設定されているかどうか確認してください。また、解決されている場合は、バージョン コントロール エージェントがインストールされたLinuxシステムを設定して、hostsファイルにCMS名を含む必要があります。

Linuxシステムでhostsファイルを設定するには、次の操作を行います。

1. `\etc` ディレクトリのhostsファイルを編集します。

注記：このファイルは、テキスト エディタまたはviを使用して編集できます。

hostsファイルに次のエントリを追加します。

- `<サーバのIPアドレス> <サーバの完全装飾DNS名> <サーバ名>`

たとえば、IPアドレス`170.50.1.201`、完全修飾ドメイン名`perf760g2.wbem.com`、および名前`perf760g2`のHP Systems Insight Managerシステムの場合、Linux バージョン コントロール エージェントシステムの管理対象ノードのhostsファイルのエントリは、次のとおりです。

```
170.50.1.201 perf760g2.wbem.com perf760g2
```

2. ファイルを保存します。

どの自動イベント処理タスクもエラーになり、[タスク結果]ページに「**Send failed. class Could not connect to SMTP host: ipaddress, port 25;java.net.SocketException: Software caused connection abort:connect**」というメッセージが表示される。

解決策：アンチウイルス ソフトウェアがインストールされており、ポート25をブロックするように設定されている場合は、アンチウイルス ソフトウェアがポート25をブロックしないようにするか、アンチウイルス ソフトウェアを無効にすると、自動イベント処理タスク (Email) が正常に動作するようになります。

ツール

ツールを起動したときに、**HTTP - 404**エラーが起きる。

解決策：このエラーは、使用する権限のないツールにアクセスしたときに起こります。

GUIかコマンド ライン インタフェース (**CLI**) からツールを実行するとき、**mxauthenticationexception**が生成される。

解決策：以下を実行してください。

1. 実行しようとしているユーザに、システムでツールを実行する権限があることを確認します。権限の確認と付与については、「ユーザと認証」を参照してください。
2. SSHデーモンがターゲット システムでアクセス可能であることを確認します。
 - a. CMSからシステムにSSHを手動でインストールしてみます。サインインする必要はありませんが、接続できることを確認してください。
 - b. Windowsシステムの場合管理ユーザとして、HP-UXシステムやLinuxシステムの場合rootとしてログインします。

- c. HP-UX CMSかLinux CMSでは以下を実行します。

ssh root@<HP-UX/Linux node>

または

ssh Administrator@<Windows node>

Window CMSから以下を実行します。

<OpenSSHディレクトリ>\bin\ssh root@<HP-UX/Linuxノード>

<OpenSSHディレクトリ>\bin\ssh Administrator@<Windowsノード>

ホスト キーを受け入れるかパスワードを入力するように要求されたら、SSHデーモンはアクセス可能です。

3. **mxagentconfig**を次のように再実行し、キーが転送されることを確認します。

mxagentconfig -a -n <ノード名、またはIPアドレス> -u <ユーザ名> -p <パスワード>

4. ツールを実行しようとしているシステムで、一部のディレクトリの権限を確認します。

使用しているユーザ名のホーム ディレクトリの権限をチェックします。

- ホーム ディレクトリの権限は、次のようになっている必要があります。

drwxr-xr-x (755)

- ホーム ディレクトリ内の.sshディレクトリの権限は、次のようになっている必要があります。

drwxr-xr-x (755)

- .sshディレクトリのauthorized_keys2ファイルの権限は、次のようになっている必要があります。

-rw-r--r-または-rwxr-xr-x (644か755)

- a. 権限を確認するには、次のように操作します。

- Windowsの場合

<OpenSSHインストール ディレクトリ>\bin\ls -ld <ファイル、またはディレクトリ名>を実行します。

- HP-UXまたはLinuxの場合

ls -ld <ファイル、またはディレクトリ名>を実行します。

- b. 権限を変更するには、次のように操作します。

- Windowsの場合

<OpenSSHインストール ディレクトリ>\bin\chmod <パーミッション番号><ファイル、またはディレクトリ名>を実行します。

- HP-UXまたはLinuxの場合

chmod <パーミッション番号> <ファイル、またはディレクトリ名>を実行します
(権限番号は、644/755など、上記の番号です)。

5. コマンドの実行時には、実行ユーザがステータスにリストされます。これが、**mxagentconfig**を実行する必要があるユーザです。
6. これまでは実行できていて今回実行できない場合は、ターゲット システムでSSHを再インストールしたことを確認してください。SSHを再インストールすると、ホスト キーがシステムで変更されます。これにより、SSHは、通信しようとしているシステムを確認できるようになります。

- **mxagentconfig -r -n システム名** を実行します。

または

GUIにアクセスして、システム ホスト キーを削除します。

- 実行するシステムを表す行を削除します。systemnameやsystemname.hp.comなど、システムのすべての参照を削除してください。
 - known_hostsファイル全体を削除することもできます。この場合は、SSHが、システムと次回通信するとき、すべてのシステムのキーを再登録します。これは、それぞれのシステムと通信するまで、セキュリティの問題となることがあります。
7. 管理対象システムで、ユーザのホーム ディレクトリから.sshディレクトリを削除します。**mxagentconfig**のエラーの原因となる、古いキーや古い権限がなくなります。
 8. **mxagentconfig**を再び実行します。

HP Systems Insight Managerによって**OpenSSH**がインストールされていない**Windows** 管理対象システムでユーザを認証しようとしたとき、**mxagentconfig**がエラーになる。

解決策：以下を実行してください。

1. 次を実行します。

sshuser ?u <ユーザ名> -d <ドメイン名> >> "c:\Progra~1\OpenSSH\etc\passwd"

2. **mxagentconfig**を再び実行します。

mxagentconfigがエラーになる場合は、上記の手順を実行し、SSHが動作していることを確認します。

1. 管理対象システムで、ユーザのホーム ディレクトリから.sshディレクトリを削除します。**mxagentconfig**のエラーの原因となる、古いキーや古い権限がなくなります。
2. これでも動作しない場合は、手動でキーをコピーします。管理対象システムにファイル.dtfSshKey.pubを転送してください。このファイルは/etc/opt/mx/config/sshtools/にあります。 HP-UXおよびLinuxの場合は、<HP SIM Install Directory>\config\sshtools にあります。

- Windowsの場合

<.pubファイルのロケーション> >> <ユーザ ホーム ディレクトリ
>\.ssh\authorized_keys2と入力します。

注記：またはhpsimssh（sshuserの実行前に、ユーザのホーム ディレクトリがない場合）’

● HP-UXまたはLinuxの場合

.cat <.pubファイルのロケーション< >> ~/.ssh/authorized_keys2

Windowsシステムに**HP Systems Insight Manager**をインストールした後で、コマンド ライン ツールを実行できない。次のエラーが発生する。%1は**Win32**アプリケーションではありません。

解決策：Programという名前のフォルダかファイルをルート ディレクトリで検索します。このファイルが存在する場合は削除します。このフォルダが存在する場合は、名前を変更するか、そのフォルダが空である場合は削除します。

HP-UXシステムで、**mxnodesecurity**コマンドを使用して別のドメインからシステムを追加しても、コマンドが適切に動作しない。たとえば、**mxnodesecurity -a -p wbem -c openview\wmi:wmi -n testnode10**と入力した場合、**openview**と**wmi**の間でバックスラッシュが欠落する。

解決策：UNIXシェル環境では、バックスラッシュがエスケープ文字として認識されます。別のドメインからシステムを追加する場合は、バックスラッシュをもう1つ追加して認識させてください。たとえば、**mxnodesecurity -a -p wbem -c openview\\wmi:wmi -n testnode10**のように入力します。

ツールを実行しようとする、失敗する。この問題は、どのツールを選択しても発生する。

解決策：この問題は、HP Systems Insight ManagerをC:ドライブのないシステムにインストールすると発生します。

ツールが新しいウィンドウを開いたときにブラウザの更新ボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じる。

解決策：ブラウザの更新ボタンを使用して表示を手動で更新すると、すべてのウィンドウが閉じます。これは、更新操作がウィンドウを閉じる操作と区別されず、どちらの操作でもウィンドウが閉じられるためです。

Linuxまたは**HP-UX**システムで、完全な設定権を持っているが、**mxnodesecurity**コマンドを実行しようとする、例外を受け取る。

解決策：コマンドはrootユーザで実行する必要があります。

コマンド ラインからツールを実行しようとする、**SSH**認証が失敗したというエラー メッセージが表示される。

解決策：管理者アカウントの名前を変更した場合は、各ツールのTDEFファイルを編集し、Execute-asユーザを変更してください。次に例を示します。

1. /System Insight Manager/toolsに移動して、mx-tool.xmlを開きます。
2. <execute-as-user>Administrator</execute-as-user>を、新しい管理者アカウント名に変更します。
3. ファイルを保存します。

4. DOSプロンプトで、**command: mxtool -m -f mx-tool.xml -x force**を実行します。ツールが実行されます。

この手順は、すべてのコマンド ライン ツールについて実行する必要があります。

VCRMカタログ

HP Systems Insight Managerで、**HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ**のソフトウェア カタログのリストに、必要なソフトウェア コンポーネントがない。選択したバージョン コントロール レポジトリ マネージャにそのコンポーネントが存在することは確認しているが、表示されるリストには含まれていない。

解決策：他のコンポーネントの1つのリビジョンとして、多少異なる名前で示されている可能性があります。このような状況は、コンポーネントの名前が、前のバージョンから変更されたときに発生する場合があります。それでもコンポーネントが見当たらない場合は、各システムの**HPバージョン コントロール エージェント**にアクセスし、そこからコンポーネントをインストールしてください。

Windows NTイベント ログ

Windows NTイベントログにエラーメッセージ**DCOM was unable to communicate with computer<system> using any of the configured protocols.**が記録される場合は、**WMI**エラーのログを無効にしてください。このエラー メッセージは、**WMIMapper**によって生成されません。**Microsoft Windows Management Instrumentation (WMI)** サービスが、ターゲット システムとやり取りして**WMI**情報を取得できないとき、このエラー メッセージを生成します。一般的に、ターゲット システムは、**Windows**以外のシステムです。

解決策：Windows NTイベント ログへの**WMI**エラーのログを無効にするには、**WMIMapper**がインストールされているシステムで、次の手順を実行します。

1. Windows NTで**[Pegasus WMI Mapper]**サービスを停止します（[コントロール パネル]->[管理ツール]->[サービス]）。
2. [マイ コンピュータ]を右クリックします。
3. [管理]を選択します。[コンピュータの管理]ページが表示されます。
4. [サービスとアプリケーション]を展開します。
5. **[WMIコントロール]**を選択してを選択して右クリックします。**[WMI Control Properties]**ページが表示されます。
6. [ログの収集]タブを選択します。
7. [ログ レベル]セクションから**[無効]**を選択し、**OK**をクリックしてこのページを閉じます。
8. [コンピュータの管理]ウィンドウから**[サービス]**をダブルクリックし、**[Windows Management Instrumentation]**サービスを選択します。サービスの停止と再起動を行います。
9. [サービス]ページから**[Pegasus WMI Mapper]**サービスを起動します。

WMIMapper

システムの[システム ページ]に**WBEM**プロトコルがリストされず、**WBEM**からのデータが表示されない。

解決策：デフォルトの場合、WindowsプラットフォームにCMSをインストールすると、WMIMapperサービスはc:\Program Files\The Open Group\WMIMapperにインストールされます。WMIMapperのインストールでは、ディレクトリc:\hp（小文字）も作成され、システムによって使用される証明書がサブフォルダに含まれます。c:\HP（大文字）というディレクトリを作成している場合、証明書はそのディレクトリにインストールされます。この場合、WBEMとWMIMapperがやり取りしようとする、WMIMapperはc:\hp（小文字）というディレクトリを検索し、証明書が見つかりません。WMIMapperをインストールしたWindowsプラットフォームでは、これと同じ問題が発生します。この問題を解決するには、Windowsプラットフォームで、c:\HP（大文字）ディレクトリを削除してから、CMSかWMIMapperをインストールします。そのディレクトリのデータを使用するアプリケーションを、新しいディレクトリにリダイレクトしてください。

クライアント システムから**WMI**情報にアクセスできない。

解決策：WMIは、管理者グループのアカウントのリモート アクセスを許可するように設定されています。リモート システム上で、権限がゲストになると、リモート システムからWMIに接続できません。このため、クライアント システムのローカル セキュリティ ポリシーが問題になることがあります。設定を修正してください。

1. [スタート]->[コントロール パネル]->[管理ツール]->[ローカル セキュリティ ポリシー]->[ローカル ポリシー]->[セキュリティ オプション]を選択し、[ネットワーク アクセス：ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル]を選択します。
2. クラシック - ローカル ユーザーがローカル ユーザーとして認証するを選択します。

リファレンス情報

HP Systems Insight Managerは、Microsoft SQL Server 2000 Service Pack 3、MSDE（Windows インストール）、PostgreSQL SQL 7.4.x（HP-UX かLinuxインストール）データベースを使用し、収集済みイベント データとシステム データを保存します。データベースは、管理アプリケーションと同じシステム、またはデータベース サーバにネットワークでアクセスできる別のシステムに配置できます。しかし、HP Systems Insight Managerデータベース テーブルの設定をリモート システムで実行することはできません。HP Systems Insight Managerでは、JDBC（Java データベース接続性）とODBC（Open DataBase Connectivity）を使用してデータベースとやり取りします。

インストール中に、必要なデータベース システムとトランザクション ログ システムが作成されてから、データベースの作成と入力が行われます。

注意:



HP Systems Insight Managerアプリケーションのみで、テーブルの追加か削除を行ってください。別の方法でテーブルを修正すると、アプリケーションでキャッシュの一貫性の問題が発生します。

データベースには以下が含まれます。

- イベント
- 検出済みシステム
- システム ステータス
- ユーザの優先順位
- 詳細システム情報
- 言語テキスト（英語のみ）

重要:



データベースを定期的にバックアップし、データベースのサイズを監視して、必要に応じて拡大してください。詳細については、「HP-UX/Linux」および「Windows」を参照してください。

レポートは、Microsoft Access、Excel、Crystal Reportsなど、データベースにアクセスできる、標準的なレポート生成ツールで作成できます。データベース スキーマを公開すると、レポート作成が簡単になります。

定義済みビュー

複数の定義済みビューがHP Systems Insight Managerに同梱されています。このビューを使用すると、データ収集情報、イベント データ、ライセンス データなど、さまざまな情報をデータベースで検索できます。

[Notices_view]。システムのイベントとその説明をリストするために使用できます。イベントの詳細は含まれていませんが、簡単なレポートには便利です。システム名、イベントの深刻度、クリア ステータス、受信時刻、クリア時刻、イベントの説明が返されます。

[View_deviceAssociations]。検索の構築に使用します。主に内部で使用されます。

licenseCounts。ライセンス レポートにライセンス カウント データを表示するために使用します。

deviceTypesEnum。デバイス テーブルの[productType]フィールドが、システム タイプを表す、英語の文字列とリンクされます。

deviceSubTypesEnum。[nodeSubTypesEnum]テーブルの[enumOrd]フィールドが、システム サブタイプを表す、英語の文字列とリンクされます。

注記:



HP Systems Insight Managerをアンインストールしても、データベースとビューは削除されません。

使用可能なレポート ビューを見るには、「レポート ビュー」を参照してください。

データベース テーブル

次のセクションでは、データベースの内容について説明します。この表では、HP Systems Insight Managerによって収集された情報、および情報を保存するデータベース テーブル構造について説明します。使用できるテーブルは次のとおりです。

AuthenticationMethods_values テーブル	CIM_ActiveConnectionテーブル	CIM_Chassisテーブル
CIM_ComponentCSテーブル	CIM_ComputerSystemPackage テーブル	CIM_ComputerSystemテーブル
CIM_ControlledByテーブル	CIM_DeviceSAPImplementation テーブル	CIM_DeviceSoftwareIdentity テーブル
CIM_ElementCapabilities テーブル	CIM_HostedStoragePool テーブル	CIM_IPProtocolEndpoint テーブル
CIM_IPRouteテーブル	CIM_iSCSICapabilities テーブル	CIM_iSCSIConn_TCPProtoEnd テーブル
CIM_iSCSIConnection テーブル	CIM_iSCSISession テーブル	CIM_LogicalDevice テーブル
CIM_LogicalDisk テーブル	CIM_LogicalPortGroup テーブル	CIM_MediaAccessDevice テーブル
CIM_MemberOfCollection テーブル。	CIM_NetworkPipeComposition テーブル	CIM_NetworkPort テーブル
CIM_NetworkAdapter テーブル	CIM_OperatingSystem テーブル	CIM_PhysicalElement テーブル
CIM_PhysicalMedia テーブル	CIM_PhysicalMemory テーブル	CIM_PhysicalPackage テーブル
CIM_PortController テーブル	CIM_PowerSupply テーブル	CIM_Process テーブル
CIM_Processor テーブル	CIM_Product テーブル	CIM_ProtoControlAccessesUnit テーブル

CIM_ProtocolControllerForPort テーブル	CIM_ProtocolControllerForUnit テーブル	CIM_ProtocolEndpointテーブル
CIM_Rackテーブル	CIM_Realizesテーブル	CIM_RemoteServiceAccessPoint テーブル
CIM_SCSIProtocolController テーブル	CIM_SCSIProtocolEndpointテー ブル	CIM_Sensorテーブル
CIM_SoftwareElementテーブル	CIM_SoftwareIdentityテーブ ル。	CIM_StoragePoolテーブル
CIM_StorageVolumeテーブル	CIM_TCPProtocolEndpointテー ブル	Classifications_valuesテーブル
ComputerSys_HAPテーブル	ComputerSys_LogicalPortGroup テーブル	ComputerSys_NetworkPortテー ブル
ComputerSys_PortControllerテー ブル	ComputerSys_SAPテーブル	ComputerSys_SCSIProtoContテー ブル
ComputerSys_SCSIProtoEndp テーブル	ComputerSys_SoftwareIdent テーブル	ComputerSys_StorageVolテーブ ル
DB_DeviceInfoテーブル	DB_DeviceInfoExテーブル	DC_Enclosureテーブル
DC_ProliantHostテーブル	Dedicated_valuesテーブル	DeviceNamesテーブル
Device Extended Attributesデー タベース テーブル	Devicesテーブル	DeviceProtocolInfoテーブル
ExtentStatus_values table	DeviceSnmpSettingsテーブル	HP_Clusterテーブル
HP_Nodeテーブル	HP_NParCabinetテーブル	HP_NParCellテーブル
HP_NParIOChassisテーブル	HP_NParIOChassisSlotテーブ ル	HP_NPartitionテーブル
HP_NParComplexテーブル	HPUX_BaseKernelParameter テーブル	HPUX_Bundleテーブル
HPUX_DNSServiceテーブル	HPUX_Filesetテーブル	HPUX_HFSテーブル
HPUX_LogicalVolumeテーブル	HPUX_NISServerServiceテーブ ル	HPUX_NTSPServiceテーブル
HPUX_PhysicalVolumeテーブル	HPUX_Productテーブル	HPUX_VolumeGroupテーブル
IPAddressテーブル	IPProtocolEnd_NetworkPortテー ブル	IPXAddressテーブル
NetworkAddresses_valuesテー ブル	NodeSnapshotテーブル	NodeTypesEnumテーブル
NodeSubTypesEnumテーブル	Noticesテーブル	NoticeTypeテーブル
OperationalStatus_CSvalues テーブル	OperationalStatus_NPvalues テーブル	operationalStatus_PCvaluesテー ブル
OperationalStatus_SVvalues テーブル	PhysicalPackage_Productテーブ ル	SCSIProtoCont_SCSIProtoEnd テーブル
SCSIProtocolCont_SoftwareId テーブル	SCSIProtoEnd_SCSIProtoEnd テーブル	SCSIProtoEnd_iSCSISessionテー ブル
SCSIProtoEnd_NetworkPortテー ブル	Snapshotテーブル	SPAllocatedFromStoragePoolテー ブル

SVAllocatedFromStoragePool テーブル	TCPPROTOEnd_IPPROTOEnd テーブル
------------------------------------	--------------------------------

AuthenticationMethods_valuesテーブル

カラム名	データ型	説明
AuthenticationMethodId	BIGINT	この行を一意に定義。
AuthenticationMethodsValue	SMALLINT	レポート生成用。
AuthenticationMethodsPos	SMALLINT	レポート生成用。

CIM_ActiveConnectionテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	通信用に設定されており、依存SAPとアクティビティに通信している、あるいはそのいずれかのServiceAccessPoint。単方向接続では、送信中のSAP。
Dependent	BIGINT	Antecedent SAPと通信可能な2つ目のServiceAccessPoint。単方向接続では、通信を受信中のSAP。

CIM_Chassisテーブル

カラム名	データ型	説明
Chassis_LUID	BIGINT	この行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_Chassisを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_Chassisを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Chassisを部分的に識別し、CIM_Chassisに一致
Tag	NVARCHAR(256)	物理要素とサーバを一意に識別し、要素のキーとして使用可能な、任意の文字列であり、資産タグやシリアル番号データなどの情報を含めることができる。
dc_ProductID	NVARCHAR(64)	エンクロージャの製品ID文字列。エンクロージャがproductID文字列をレポートしない場合は空。
dc_SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	シャーシがラックの一部である場合、この属性はCIM_Rackになる。シャーシがラックの一部でない場合は、CIM_ComputerSystemになる。
dc_SystemName	NVARCHAR(256)	シャーシがラックの一部である場合、この属性は、CIM_Rack.Nameの値になる。シャーシがラックの一部でない場合は、所有するCIM_ComputerSystem.Nameの値になる。

カラム名	データ型	説明
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
ElementName	NVARCHAR(256)	オブジェクトのユーザが利用しやすい名前。
Width	real	CIM_PhysicalPackage.Widthから継承。物理パッケージのインチ単位の幅。
Height	real	CIM_PhysicalPackage.Heightから継承。物理パッケージのインチ単位の高さ。
Depth	real	CIM_PhysicalPackage.Depthから継承。物理パッケージのインチ単位の奥行き。
SerialNumber	NVARCHAR(64)	CIM_PhysicalElement.SerialNumberから継承。メーカーが割り当てた番号であり、物理要素の識別に使用。
PartNumber	NVARCHAR(256)	CIM_PhysicalElement.PartNumberから継承。物理要素の生産や製造を行った組織が割り当てた部品番号。
SKU	NVARCHAR(64)	CIM_PhysicalElement.SKUから継承。物理要素のストック維持装置番号。
Model	NVARCHAR(64)	CIM_PhysicalElement.Modelから継承。物理要素を一般的に認識する名前。
Manufacturer	NVARCHAR(256)	コンポーネントのメーカーの名前。
ChassisTypes	SMALLINT	CIM_ChassisTypesの列挙値。(1 = その他、2 = 不明、3 = デスクトップ、4 = 低プロファイル デスクトップ、5 = ピザボックス型、6 = ミニ タワー、7 = タワー、8 = ポータブル、9 = ラップトップ、10 = ノートブック、11 = ハンドヘルド、12 = ドッキングステーション、13 = オールインワン、14 = サブノートブック、15 = 省スペース、16 = ランチボックス型、17 = メイン システム シャーシ、18 = 拡張シャーシ、19 = サブシャーシ、20 = バス拡張シャーシ、21 = 周辺機器シャーシ、22 = ストレージシャーシ、23 = ラック マウント シャーシ、24 = 封印ケースPC)
TypeDescriptions	NVARCHAR(512)	CIM_Chassis.ChassisTypesに関する追加情報。
Version	NVARCHAR(64)	CIM_PhysicalElement.Versionから継承。物理要素のバージョンを表す文字列。

カラム名	データ型	説明
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(512)	CIM_PhysicalElement.OtherIdentifyingInfoから継承。物理要素の識別に使用できる、タグ情報以外の追加情報を取得（例として、資産タグも含む要素に関連するバーコードデータを挙げることができる。バーコードデータのみが使用可能で、一意のものが要素キーとして使用されている場合、このプロパティはNULLになり、バーコードデータが、タグプロパティでクラスキーとして使用される）。
R_Model	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。

CIM_ComponentCSテーブル

カラム名	データ型	説明
GroupComponent	BIGINT	他のシステムを含むか、まとめた、またはその両方のComputerSystem。
PartComponent	BIGINT	含まれる（サブ）ComputerSystem。

CIM_ComputerSystemPackageテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成に使用されるフィールド。
Dependent	BIGINT	レポート生成に使用されるフィールド。

CIM_ComputerSystemテーブル

カラム名	データ型	説明
ComputerSystem_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_ComputerSystemを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_ComputerSystemを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(256)	エンタープライズ環境のシステム インスタンスのキーとして動作する、継承した名前。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CreationClassNameは、インスタンスの作成に使用されるクラスまたはサブクラスを示す（このクラスの他のキープロパティとともに使用された場合は、このプロパティによって、このクラスまたはサブクラスのインスタンスが一意に識別される）。
Description	NVARCHAR(512)	テキストによるオブジェクトの説明。
Caption	NVARCHAR(64)	テキストによるオブジェクトの簡潔な説明（1行の文字列）。

カラム名	データ型	説明
Status	NVARCHAR(10)	CIM_ManagedSystemElement.Statusから継承。オブジェクトの現行ステータスを表す文字列。
PrimaryOwnerContact	NVARCHAR(256)	プライマリ システム所有者への連絡方法についての情報を提供する文字列。
PrimaryOwnerName	NVARCHAR(64)	プライマリ システム所有者の名前。Name
dc_PrimaryOwnerPager	NVARCHAR(32)	非標準。CIM_Person.Pagerに基づく。プライマリ所有者のポケットベル情報を含む。
dc_SystemLocation	NVARCHAR(256)	非標準。このシステムの物理的な位置について説明する情報を含む。
dc_HardwareCapability	NVARCHAR(64)	非標準。システムのハードウェア機能（32ビットと64ビット）
R_OverallStatus	NVARCHAR(50)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_ProductType	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
Domain	NVARCHAR(256)	このシステムのドメイン。
ElementName	NVARCHAR(256)	このオブジェクトのユーザが利用しやすい名前。
NameFormat	NVARCHAR(64)	名前の生成方法を定義する。
ReleaseDate	NVARCHAR(256)	無停止システムでは、システム リリースの日付。
R_OperationalStatus	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_PortCount	INT	レポート生成に使用されるフィールド。
R_PortUtilized	INT	レポート生成に使用されるフィールド。

CIM_ControlledByテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	制御対象デバイス
Antecedent	BIGINT	コントローラ

CIM_DeviceSAPImplementationテーブル

カラム名	データ型	説明
deviceSAPImplementation_LUID	BIGINT	レポート生成用。
NodeID	BIGINT	CIM_DeviceSAPImplementationを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_DeviceSAPImplementationを部分的に識別。
Dependent	BIGINT	LogicalDeviceを使用して実装されたServiceAccessPoint。
Antecedent	BIGINT	LogicalDevice

カラム名	データ型	説明
dc_PermanentAddress	NVARCHAR(256)	レポート生成用。

CIM_DeviceSoftwareIdentityテーブル

カラム名	データ型	説明
System	BIGINT	レポート生成用。
InstalledSoftware	BIGINT	レポート生成用。

CIM_ElementCapabilitiesテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	管理対象要素。
Antecedent	BIGINT	要素に関連しているCapabilitiesオブジェクト。

CIM_HostedStoragePoolテーブル

カラム名	データ型	説明
GroupComponent	BIGINT	アソシエーション内の親システム。
PartComponent	BIGINT	システムのコンポーネントであるStoragePool。

CIM_IPProtocolEndpointテーブル

カラム名	データ型	説明
IPProtocolEndpoint_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_IPProtocolEndpointを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_IPProtocolEndpointを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。
ServiceCreationClassName	NVARCHAR(256)	将来用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致するCIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
IPv4Address	NVARCHAR(255)	このProtocolEndpointが表すIPv4アドレス。

CIM_IPRouteテーブル

カラム名	データ型	説明
IPRoute_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_IPRouteを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_IPRouteを部分的に識別。

カラム名	データ型	説明
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_IPRouteと一致。
ServiceCreationClassName	NVARCHAR(256)	将来用。
ServiceName	NVARCHAR(256)	将来用。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	ModelIDが一致する CIM_ComputerSystem.Nameの値。
IPDestinationAddress	NVARCHAR(256)	
IPDestinationMask	NVARCHAR(256)	トラフィックの宛先として使用するIPアドレス。このクラスのAddressTypeプロパティで定義されている、適切な表記法に従ってフォーマットされている（このプロパティの意味は、NextHopRoutingスーパークラスから継承される DestinationAddressと同じだが、プロパティ名は異なる。その理由は、このプロパティとNラスが、NextHopRoutingより前に定義され、主要プロパティであるため。削除はできない。ModelCorrespondenceは、一貫性を保って検索を簡単にするため、これを等しい値に設定する必要があることを示す）
AddressType	SMALLINT	アドレス プロパティのフォーマットを表す列挙値 (IPv4形式でフォーマットできるアドレスは、IPv4とIPv6の混合サポートを確実にするため、この方法でフォーマットする必要がある。AddressTypeはキーの一部であるため、IPv4とIPv6では、ネットワーク番号が同一のIPサブネットにルート付けされるが、v4とv6という、異なるバージョンが共存できる。（0は不明、2はIPv4、2はIPv6））
IsStatic	bit	真は、固定ルートであることを表す。偽は、ダイナミックに取得したルートを表す。
NextHop	NVARCHAR(256)	次ホップ ルータのアドレス、または宛先に到達するために使用されるインタフェースを含む。
	NVARCHAR(32)	非標準。ルート宛先のゲートウェイ（不明、ローカル、リモート）。
dc_RouteArgument	NVARCHAR(1024)	非標準。/usr/sbin/routeコマンドの引数リスト。

CIM_iSCSICapabilitiesテーブル

カラム名	データ型	説明
ISCSICapabilities_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。

カラム名	データ型	説明
NodeID	BIGINT	CIM_iSCSICapabilitiesを部分的に識別するために使用。
SnapshotID	BIGINT	CIM_iSCSICapabilitiesを部分的に識別するために使用。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
InstanceID	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
MinimumSpecificationVersionS	BIT	レポート生成用。
MaximumSpecificationVersionS	BIT	レポート生成用。

CIM_iSCSIConn_TCProtoEndテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

CIM_iSCSIConnectionテーブル

カラム名	データ型	説明
ISCSIConnection_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_iSCSIConnectionを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_iSCSISessionを部分的に識別。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
InstanceID	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
ConnectionID	INT	レポート生成用。
HeaderDigestMethod	SMALLINT	レポート生成用。
OtherheaderDigestMethod	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
DataDigestMethod	SMALLINT	レポート生成用。
OtherDataDigestMethod	NVARCHAR	レポート生成用。
ActiveiSCSIVersion	BIT	レポート生成用。

CIM_iSCSISessionテーブル

カラム名	データ型	説明
ISCSISession_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_iSCSISessionを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_iSCSISessionを部分的に識別。
InstanceID	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
SessionType	SMALLINT	レポート生成用。
TSIH	INT	レポート生成用。
EndPointName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。

カラム名	データ型	説明
CurrentConnections	INT	レポート生成用。
ErrorRecoveryLevel	INT	

SCSIProtoEnd_iSCSI_Sessionテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

SCSIProtoEnd_NetworkPortテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

CIM_LogicalDeviceテーブル

カラム名	データ型	説明
LogicalDevice_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_LogicalDeviceを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_LogicalDeviceを部分的に識別。
DeviceID	NVARCHAR(64)	論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_LogicalDeviceを部分的に識別。 CIM_LogicalDeviceに一致。
ServiceCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_LogicalDeviceを部分的に識別。 CIM_ComputerSystemに一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	CIM_LogicalDeviceを部分的に識別。 NodeIDが等しい CIM_ComputerSystem.Nameの値。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。 簡潔なテキストによる、オブジェクトの説明（1行の文字列）。
Description	NVARCHAR(512)	テキストによる、オブジェクトの説明。

カラム名	データ型	説明
Availability	SMALLINT	システムの主要可用性とステータス。列挙値。(1 = その他、2 = 不明、3 = 動作中/フル電源、4 = 警告、5 = テスト中、6 = 適用不能、7 = 電源オフ、8 = オフライン、9 = 未使用、10 = 劣化、11 = 未インストール、12 = インストールエラー、13 = 省電力、不明、14 = 省電力、停電源モード、15 = 省電力、スタンバイ、16 = 電源切り替え、17 = 省電力、警告、18 = 一時停止、19 = 準備未完了、20 = 未設定、21 = 休止)
LastErrorCode	INT	論理デバイスによって報告された最終エラーコードを取得。
dc_HardwareType	NVARCHAR(64)	非標準。このシステムのハードウェアタイプ。
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(256)	論理デバイスの識別に使用できる、DeviceID情報以外の追加情報を取得。例として、ユーザが利用しやすい、デバイスのオペレーティングシステム名をこのプロパティに維持することが挙げられる。
dc_AssociatedDriver	NVARCHAR(64)	非標準。このシステムの関連ドライバ。

CIM_LogicalDiskテーブル

カラム名	データ型	説明
LogicalDisk_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	INT	CIM_LogicalDiskを部分的に識別。
Snapshot	INT	CIM_LogicalDiskを部分的に識別。
DeviceID	NVARCHAR(256)	CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_LogicalDiskと一致。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致するCIM_ComputerSystem.Nameの値。
Win32_FreeSpace	BIGINT	Win32_LogicalDiskから派生。バイト単位の合計空き容量。
Win32_Size	BIGINT	Win32_LogicalDiskから派生。バイト単位の合計サイズ。不明の場合は0。単位はバイト。
Description	NVARCHAR(512)	テキストによる、オブジェクトの説明。
R_SizeMB	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_UsedMB	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_UsedPercent	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。

カラム名	データ型	説明
dc_SpaceUsed	BIGINT	非標準。現在使用されているファイル システム スペース（バイト単位）。
dc_PercentSpaceUsed	INT	非標準。現在使用されているファイル システム スペースの割合。
BlockSize	BIGINT	論理ディスクのブロックのサイズ。バイト単位。
NumberOfBlocks	BIGINT	論理ディスクのストレージ ブロック数。バイト単位のサイズは、BlockSize * NumberOfBlocksから算出可能。

CIM_LogicalPortGroupテーブル

カラム名	データ型	説明
LogicalPortGroup_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_LogicalPortGroupを部分的に識別。
Snapshot	BIGINT	CIM_LogicalPortGroupを部分的に識別。
InstanceID	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
NameFormat	NVARCHAR(64)	レポート生成用。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。

CIM_MediaAccessDeviceテーブル

カラム名	データ型	Description
MediaAccessDevice_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_MediaAccessDeviceを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_MediaAccessDeviceを部分的に識別。
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_MediaAccessDeviceと一致。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	このNodeIDのCIM_ComputerSystem.Nameの値。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
Description	NVARCHAR(512)	テキストによる、オブジェクトの説明。
MaxMediaSize	BIGINT	このシステムがサポートするメディアの最大サイズ（KB単位）。（KBのバイト数は、1000バイトではなく1024バイトとなる）

カラム名	データ型	Description
UnitsUsed	BIGINT	AccessDeviceの使用単位を表す符号なし整数。システムのクリーニングが必要であるときを示す場合に便利（単位の解釈方法は、プロパティUnitsDescriptionによって定義される）。
DefaultBlockSize	BIGINT	バイト単位のデフォルト ブロック サイズ。
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(256)	CIM_LogicalDevice.OtherIdentifyingInfoから継承（論理デバイスの識別に使用できる、DeviceID情報以外の追加情報を取得。例として、ユーザが利用しやすい、デバイスのオペレーティング システム名をこのプロパティに維持することが挙げられる）。
TotalPowerOnHours	BIGINT	CIM_LogicalDevice.TotalPowerOnHoursから継承。デバイスに電源が入っている総時間数。
UnitsDescription	NVARCHAR(256)	プロパティ MaxUnitsBeforeCleaningでの使用に関連して単位を定義。 MediaAccessDeviceをクリーニングするタイミングの判断に使用する基準を説明。
NeedsCleaning	BIT	MediaAccessDeviceのクリーニングが必要であることを表す。
Status	NVARCHAR(10)	CIM_ManagedSystemElement.Statusから継承。オブジェクトの現行ステータスを表す文字列。
MAStatInf_UnrecoverableWriteOp	INT	MediaAccessStatInfo_UnrecoverableWriteOperationsに対応。 CIM_MediaAccessStatInfo.UnrecoverableWriteOperations。 回復できない書き込み操作の数。
MAStatInf_UnrecoverableReadOp	INT	MediaAccessStatInfo_UnrecoverableReadOperationsに対応。 CIM_MediaAccessStatInfo.UnrecoverableReadOperations。 回復できない読み取り操作の数。
dc_RaidLevel	NVARCHAR(64)	RAIDコントローラ上の論理ドライブのフォールトトレラントRAID設定を格納（可能なステータスには、有効でない、RAIDレベル0、RAIDレベル1、RAIDレベル0+1、ミラーリング、データ ガード、分散データ ガード（RAID 5）、アドバンスド データ ガーディング、RAIDレベル4、RAIDレベル5がある）。
dc_Type	NVARCHAR(64)	非標準。システムへのアクセスに使用されたメディアのタイプを表す文字列。

カラム名	データ型	Description
dc_TransferMode	NVARCHAR(64)	非標準。Compaq ATAディスク転送モード（other、pioMode0、pioMode1、pioMode2、pioMode3、pioMode4、dmaMode0、dmaMode1、dmaMode2、ultraDmaMode0、ultraDmaMode1、ultraDmaMode2、ultraDmaMode3、ultraDmaMode4、ultraDmaMode5）
R_DrivePort	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_Type	NVARCHAR(64)	レポート生成に使用されるフィールド。

CIM_NetworkAdapterテーブル

カラム名	データ型	説明
NetworkAdapter_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_NetworkAdapterを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_NetworkAdapterを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_NetworkAdapterと一致。
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承（論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報）。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	このNodeIDのCIM_ComputerSystem.Nameの値。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
NetworkAddress	NVARCHAR(64)	アダプタのネットワークアドレスを表す文字列の配列。カンマで区切られたリストで表現。

カラム名	データ型	説明
StatusInfo	SMALLINT	<p>CIM_LogicalDevice.StatusInfoから継承。論理デバイスが、有効（値＝3）、無効（値＝4）、その他（値＝1）、不明（値＝2）のうちどれになっているかを表す。このプロパティが論理デバイスに適用されない場合は、値5（適用不能）が使用される。デバイスが有効（値＝3）である場合は、電源が入っており、設定されて動作状態になっている。可用性（AdditionalAvailability）が、動作中/フル電源（値＝3）であるか、オフライン（値＝8）であるかにより、システムが機能するかどうかが決まる場合がある。有効であるがオフラインモードである場合、システムは、診断の実行中など、帯域外要求を実行している可能性がある。\'無効\'（値＝4）である場合、デバイスは、\'有効\'になっているだけか電源が入っていない可能性がある。パーソナルコンピュータ環境の場合、\'無効\'は、システムのドライバがスタックで使用できないことを表す。その他の環境の場合、設定ファイルの削除により、システムは無効になることがある。無効デバイスはシステムに物理的に存在し、リソースを消費しているが、ドライバのロード、設定ファイルのロード、その他の\'有効化\'アクティビティが実行されるまでやり取りできない。CIM_LogicalDevice.StatusInfoの列挙値。（1＝その他、2＝不明、3＝有効、4＝無効、5＝適用不能）</p>
PermanentAddress	NVARCHAR(64)	<p>アダプタにハードコードされているネットワークアドレスを定義（ハードコードされているアドレスは、ファームウェアのアップグレードかソフトウェア設定で変更できる。変更できる場合は、変更するときこのフィールドを更新する必要がある。ネットワークアダプタにハードコードされたアドレスがない場合は空白になる）。</p>
Caption	NVARCHAR(64)	<p>CIM_ManagedElement.Captionから継承。簡潔なテキストによる、オブジェクトの説明（1行の文字列）。</p>

カラム名	データ型	説明
EthernetAdp_InternalMACRcvErr	INT	内部MACサブレイヤ受信エラーのため、特定インタフェースの受信がエラーになったフレーム数（FrameTooLongプロパティ、AlignmentErrorsプロパティ、FCSErrorsプロパティのいずれかの対応インスタンスによって数えられない場合、フレームはこのオブジェクトのインスタンスによって数えられる。このオブジェクトのインスタンスによって表現される数の正確な意味は、実装によって異なる。特にこのオブジェクトのインスタンスは、他の方法では数えられないインタフェースの受信エラー数を表現できる）。
EthernetAdp_InternalMACTranErr	INT	内部MACサブレイヤ受信エラーのため、特定インタフェースの受信がエラーになったフレーム数（LateCollisionsプロパティ、Excessive Collisionsプロパティ、CarrierSenseErrorsプロパティのいずれかの対応インスタンスによって数えられない場合、フレームはこのオブジェクトのインスタンスによって数えられる。このオブジェクトのインスタンスによって表現される数の正確な意味は、実装によって異なる。特にこのオブジェクトのインスタンスは、他の方法では数えられないインタフェースの転送エラー数を表現できる）。
FullDuplex	BIT	アダプタが全二重モードで動作していることを表すブール値。
OctetsTransmitted	BIGINT	フレーミング文字も含む、転送済みオクテットの総数。
OctetsReceived	BIGINT	フレーミング文字も含む、受信済みオクテットの総数。
MaxSpeed	BIGINT	ネットワークアダプタの最高速度（1秒あたりのビット数）。
IPProtocolEndpoint_SubnetMask	NVARCHAR(64)	CIM_IPProtocolEndpoint.SubnetMaskから派生。このProtocolEndpointのIPアドレスのマスクであり、このクラスのAddressTypeプロパティで定義されている、適切な表記法に従ってフォーマット。
dc_AdminStatus	NVARCHAR(32)	アダプタの管理ステータスを格納（Up、Down、Testing、Dormant、Some component missingなど）。
dc_BroadcastAddress	NVARCHAR(64)	非標準。このインタフェースに割り当てられたブロードキャストアドレス（ドット表記フォーマット）。
dc_DHCPEnabled	NVARCHAR(32)	非標準。DHCPが有効であるかどうかを表す。

カラム名	データ型	説明
dc_OperStatus	NVARCHAR(32)	アダプタの動作ステータスを格納（Up、Down、Testingなど）。
R_InputErrors	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_OutputErrors	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_Duplex	NVARCHAR(25)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_MacAddress	NVARCHAR(64)	レポート生成に使用されるフィールド。
LANEndpoint_ProtocolType	SMALLINT	ポート上でアクティブなプロトコルを表す整数。ValueMap { "0", "1", "2", "3", "4", "5", "6", "7", "8", "9", "10", "11", "12", "13", "14", "15", "16", "17", "18", "19", "20", "21", "22", "23", "24", "25", "26", "27" }, Values { "Unknown", "Other", "IPv4", "IPv6", "IPX", "AppleTalk", "DECnet", "SNA", "CONP", "CLNP", "VINES", "XNS", "ATM", "Frame Relay", "Ethernet", "TokenRing", "FDDI", "Infiniband", "Fibre Channel", "ISDN BRI Endpoint", "ISDN B Channel Endpoint", "ISDN D Channel Endpoint", "IPv4/v6", "BGP", "OSPF", "MPLS", "UDP", "TCP" }
LANEndpoint_OperationalStatus	nvarchar(255)	このポートの動作ステータス値。
EthernetPort_PortType	SMALLINT	Ethernetの場合のポート タイプの整数コード。ValueMap { "0", "1", "50", "51", "52", "53", 16000..65535 }, Values { "Unknown", "Other", "10BaseT", "10-100BaseT", "100BaseT", "1000BaseT", "Vendor Reserved" }
EthernetPort_MaxDataSize	INT	Ethernetパケットの最大データ サイズ。

CIM_MemberOfCollectionテーブル。

カラム名	データ型	説明
Collection	BIGINT	レポート生成用。
Member	BIGINT	レポート生成用。

CIM_NetworkPipeCompositionテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

CIM_NetworkPortテーブル

カラム名	データ型	説明
NetworkPort_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_NetworkPortを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_NetworkPortを部分的に識別。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
Name	NVARCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致する CIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
DeviceID	BIGINT	レポート生成用。
Speed	BIGINT	レポート生成用。
MaxSpeed	BIGINT	レポート生成用。
UsageRestriction	SMALLINT	レポート生成用。
PortType	SMALLINT	レポート生成用。
OtherPortType	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
LinkTechnology	SMALLINT	レポート生成用。
OtherLinkTechnology	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
PermanentAddress	NVARCHAR(64)	レポート生成用。
PortNumber	SMALLINT	レポート生成用。
R_OperationalStatus	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
R_ParentName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
R_PortType	NVARCHAR(256)	レポート生成用。

CIM_OperatingSystemテーブル

カラム名	データ型	説明
OperatingSystem_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_OperatingSystemを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_OperatingSystemを部分的に識別。
CSCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
CSName	NVARCHAR(256)	このNodeIDのCIM_ComputerSystem.Name の値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_OperatingSystemと一致。
Name	NVARCHAR(256)	継承された名前は、コンピュータ システム 内のオペレーティングシステム インスタ ンスのキーとして働く。
LastBootupTime	BIGINT	オペレーティング システムが最後にブー トされた時刻。

カラム名	データ型	説明
LocalDateTime	BIGINT	オペレーティング システムのローカル日時。
Version	NVARCHAR(64)	オペレーティング システムのバージョン番号を表す文字列（バージョン情報のフォーマットは、<メジャー番号>.<マイナー番号>.<リビジョン>または<メジャー番号>.<マイナー番号>.<リビジョン文字>である）。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
OSType	SMALLINT	オペレーティング システムのタイプを表す整数（CIM_OSTypeの列挙値。（0 = 不明、1 = その他、2 = MACOS、3 = ATTUNIX、4 = DGUX、5 = DECNT、6 = Digital Unix、7 = OpenVMS、8 = HPUX、9 = AIX、10 = MVS、11 = OS400、12 = OS/2、13 = JavaVM、14 = MSDOS、15 = WIN3x、16 = WIN95、17 = WIN98、18 = WINNT、19 = WINCE、20 = NCR3000、21 = NetWare、22 = OSF、23 = DC/OS、24 = Reliant UNIX、25 = SCO UnixWare、26 = SCO OpenServer、27 = Sequent、28 = IRIX、29 = Solaris、30 = SunOS、31 = U6000、32 = ASERIES、33 = TandemNSK、34 = TandemNT、35 = BS2000、36 = LINUX、37 = Lynx、38 = XENIX、39 = VM/ESA、40 = Interactive UNIX、41 = BSDUNIX、42 = FreeBSD、43 = NetBSD、44 = GNU Hurd、45 = OS9、46 = MACH Kernel、47 = Inferno、48 = QNX、49 = EPOC、50 = IxWorks、51 = VxWorks、52 = MiNT、53 = BeOS、54 = HP MPE、55 = NextStep、56 = PalmPilot、57 = Rhapsody、58 = Windows 2000、59 = 専用、60 = OS/390、61 = VSE、62 = TPF、63 = Windows (R) Me、64 = Caldera Open UNIX、65 = OpendBSD、66 = 適用不能）
NumberOfUsers	INT	オペレーティング システムが状態情報を現在保存しているユーザセッションの数。
NumberOfProcesses	INT	オペレーティング システム上で現在ロードされているか実行されているプロセス コンテキストの数。
MaxNumberOfProcesses	INT	オペレーティング システムでサポートできるプロセス コンテキストの最大数。固定値がない場合は0。

カラム名	データ型	説明
CurrentTimeZone	SMALLINT	オペレーティング システムがGMTからオフセットしている時間（分単位）。数値は、プラスかマイナス、または0になる。
TotalVisibleMemorySize	BIGINT	オペレーティング システムで使用できる物理メモリ容量（キロバイト単位）。物理メモリの正しい容量でなく、使用可能としてオペレーティング システムにレポートされている容量であることがある。
TotalSwapSpaceSize	BIGINT	キロバイト単位のスワップ総容量。スワップ領域がページ ファイルと区別されていない場合はNULL。
OtherTypeDescription	NVARCHAR(64)	メーカーとオペレーティング システム タイプを表す文字列。オペレーティング システム プロパティ OSType が 1 か 59（その他が専用）に設定されている場合に使用される（ OtherTypeDescription に挿入される文字列のフォーマットは、OSType 用に定義された値の文字列のフォーマットと同じ。OSType が 1 か 59 以外の値である場合、OtherTypeDescription は NULL に設定される）
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Caption から継承。簡潔なテキストによる、オブジェクトの説明（1行の文字列）。
dc_OperatingSystemCapability	NVARCHAR(64)	非標準。オペレーティング システムの機能（32ビットか64ビット）。
dc_OSType	NVARCHAR(256)	非標準。オペレーティング システムを表す文字列（解釈が含まれることがあり、OSType の値を正確に反映しない）。
dc_PrimaryOS	bit	非標準。CIM_InstalledOSBoolean から派生し、このOSがコンピュータ システムのデフォルトであることを表す。
Win32_CSDVersion	NVARCHAR(256)	非標準。Windows システムのOSのCSDバージョン/サービス パック レベル。
dc_SwapSpaceName	NVARCHAR(256)	非標準。スワップ領域を識別する名前。
dc_SwapType	NVARCHAR(64)	非標準。スワップ領域のタイプの説明。
dc_SwapSpaceMinimumSize	BIGINT	非標準。スワップ領域の最小サイズ。
dc_SwapSpaceMaximumSize	BIGINT	非標準。スワップ領域の最大サイズ。
dc_SwapSpaceReservedSize	BIGINT	非標準。スワップ領域の予約サイズ。

CIM_PhysicalElement テーブル

カラム名	データ型	説明
PhysicalElement_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_PhysicalElement を部分的に識別。

カラム名	データ型	説明
SnapshotID	BIGINT	CIM_PhysicalElementを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_PhysicalElementを部分的に識別。 CIM_PhysicalElementと一致。
Tag	NVARCHAR(256)	CIM_PhysicalElementを部分的に識別。物理要素とサーバを一意に識別し、要素のキーとして役立つ、任意の文字列であり、資産タグやシリアル番号データなどの情報を含めることができる。
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。簡潔なテキストによる、オブジェクトの説明（1行の文字列）。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
InstallDateTime	BIGINT	CIM_ManagedSystemElement.InstallDateから継承。オブジェクトがインストールされたときを表す日時の値。値が欠落していても、オブジェクトがインストールされていないことを表さない。
Status	NVARCHAR(10)	CIM_ManagedSystemElement.Statusから継承。オブジェクトの現行ステータスを表す文字列。
ManufactureDate	BIGINT	物理要素が製造された日付。
Manufacturer	NVARCHAR(256)	物理要素の生産に責任のある組織の名前（要素の購入相手先になるが、そうでないこともある。後半の情報は、CIM_ProductのVendorプロパティに含まれる）。
Model	NVARCHAR(64)	物理要素を一般的に認識する名前。
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(512)	物理要素の識別に使用できる、タグ情報以外の追加情報を取得（例として、資産タグも含む要素に関連するバーコードデータを挙げることができる。バーコードデータのみが使用可能で、一意であるか要素キーとして使用可能な場合、このプロパティはnullになり、バーコードデータが、タグプロパティでクラスキーとして使用される）。
PartNumber	NVARCHAR(256)	物理要素の生産や製造を行った組織が割り当てた部品番号。
PoweredOn	bit	物理要素の電源が入っているか（真）、現在オフになっているか（偽）を表すブール値。
SerialNumber	NVARCHAR(64)	メーカーが割り当てた番号であり、物理要素の識別に使用。

カラム名	データ型	説明
SKU	NVARCHAR(64)	物理要素のストック維持単位番号。
Version	NVARCHAR(64)	物理要素のバージョンを表す文字列。
Slot_Number	SMALLINT	システム スロット テーブルのインデックスとして使用できる物理スロット番号を表す。そのスロットが物理的に占有されているかどうかを示す。
dc_Location	NVARCHAR(64)	非標準。物理要素の場所を表す文字列。
dc_Condition	NVARCHAR(64)	非標準。OK、劣化、障害など、物理要素の状態を表す文字列。
dc_FirmwareRevision	NVARCHAR(64)	非標準。物理要素に関連するファームウェア リビジョン。
dc_HWLocation	NVARCHAR(256)	非標準。複合多重SBBハードウェアのみで、要素のハードウェアの場所を表すテキスト。
dc_ProductID	NVARCHAR(64)	サーバ ブレードの製品ID文字列。

CIM_PhysicalMediaテーブル

カラム名	データ型	説明
PhysicalMedia_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_PhysicalMediaを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_PhysicalMediaを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	PhysicalMediaを部分的に識別。 CIM_PhysicalMediaと一致。
Tag	NVARCHAR(256)	CIM_PhysicalElement.Tagから継承。物理要素とサーバを一意に識別し、要素のキーとして役立つ、任意の文字列であり、資産タグやシリアル番号データなどの情報を含めることができる。

カラム名	データ型	説明
MediaType	SMALLINT	<p>物理メディアのタイプを列挙型整数として指定。メディアタイプの明示的な定義、フォーマット済みかどうか、互換性機能などの説明には、MediaDescriptionプロパティが使用される。</p> <p>CIM_PhysicalMedia.MediaTypeの列挙値。 0 = 不明、1 = その他、2 = テープ、3 = QICカートリッジ、4 = AITカートリッジ、5 = DTFカートリッジ、6 = DATカートリッジ、7 = 8mm テープ カートリッジ、8 = 19mm テープ カートリッジ、9 = DLT カートリッジ、10 = ハーフインチ磁気テープカートリッジ、11 = カートリッジディスク、12 = JAZディスク、13 = ZIPディスク、14 = SyQuestディスク、15 = Winchester リムーバブル ディスク、16 = CD-ROM、17 = CD-ROM/XA、18 = CD-I、19、19 = Recordable、20 = WORM、21 = Magento-Optical、22 = DVD、23 = DVD-RW+、24 = DVD-RAM、25 = DVD-ROM、26 = DVD-Video、27 = Divx、28 = フロッピー/ディスケット、29 = ハード ディスク、30 = メモリ カード、31 = ハード コピー、32 = Klikディスク、33 = CD-RW、34 = CD-DA、35 = CD+、36 = DVD Recordable、37 = DVD-RW、38 = DVD-Audio、39 = DVD-5、40 = DVD-9、41 = DVD-10、42 = DVD-18、43 = Magneto-Optical Rewriteable、44 = Magneto-Optical Write Once、45 = Magneto-Optical Rewriteable (LIMDOW)、46 = Phase Change Write Once、47 = Phase Change Rewriteable、48 = Phase Change Dual Rewriteable、49 = Ablative Write Once、50 = Near Field Recording、51 = MiniQic、52 = Travan、53 = 8mm Metal Particle、54 = 8mm Advanced Metal Evaporate、55 = NCTP、56 = LTO Ultrium、57 = LTO Accelis、58 = 9トラック テープ、59 = 18トラック テープ、60 = 36トラック テープ、61 = Magstar 3590、62 = Magstar MP、63 = D2テープ、64 = Tape、DST Small、65 = Tape、DST Medium、66 = Tape、DST Large)</p>

カラム名	データ型	説明
Capacity	BIGINT	メディアから読み取ったりメディアに書き込んだりすることができるバイト数（\"ハード コピー\"（文書）やクリーナメディアには適用できない。このプロパティの値が上がってしまうため、データ圧縮を想定しないこと。テープの場合は、ファイルマークや空白領域がメディアに記録されないことが仮定される）。
Removable	bit	CIM_PhysicalComponent.Removableから継承（パッケージ全体の機能を損なわず、一般的に見られるように物理コンテナに装填したり物理コンテナから取り外したりするように設計されている場合、物理コンポーネントはリムーバブルである。電源をオフにして取り外す必要がある場合も、コンポーネントはリムーバブルになる。電源を「オン」にしてコンポーネントを取り外せる場合、その要素は、リムーバブルでもあり、ホットスワップ可能でもある。たとえば、アップグレード可能プロセッサ チップはリムーバブルである）。
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(512)	物理要素の識別に使用できる、タグ情報以外の追加情報を取得（例として、資産タグも含む要素に関連するバー コードデータを挙げることができる。バー コードデータのみが使用可能で、一意であるか要素キーとして使用可能な場合、このプロパティはnullになり、バー コードデータが、タグ プロパティでクラス キーとして使用される）。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
HotSwappable	bit	CIM_PhysicalComponent.HotSwappableから継承（コンテナパッケージの電源が入っている間に、物理的には異なるが同等のものに要素を置き換えることができる場合は、ホットスワップ可能である）。
Manufacturer	NVARCHAR(256)	物理要素の生産に責任のある組織の名前（要素の購入相手先になるが、そうでないこともある。後半の情報は、CIM_ProductのVendorプロパティに含まれる）。
Model	NVARCHAR(64)	物理要素を一般的に認識する名前。
SerialNumber	NVARCHAR(64)	メーカーが割り当てた番号であり、物理要素の識別に使用。

カラム名	データ型	説明
Version	NVARCHAR(256)	物理要素のバージョンを表す文字列。

CIM_PhysicalMemoryテーブル

カラム名	データ型	説明
PhysicalMemory_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	
SnapshotID	BIGINT	
CreationClassName	NVARCHAR(256)	PhysicalMemoryを識別。 CIM_PhysicalMemoryと一致。
Tag	NVARCHAR(256)	CIM_PhysicalMemoryを部分的に識別。 CIM_PhysicalElement.Tagから継承。物理要素とサーバを一意に識別し、要素のキーとして役立つ、任意の文字列であり、資産タグやシリアル番号データなどの情報を含めることができる。
MemoryType	SMALLINT	物理メモリのタイプ (CIM_PhysicalMemory.MemoryTypeの列挙値。0 = 不明、1 = その他、2 = DRAM、3 = 同期DRAM、4 = キャッシュDRAM、5 = EDO、6 = EDRAM、7 = VRAM、8 = SRAM、9 = RAM、10 = ROM、11 = Flash、12 = EEPROM、13 = FEPRAM、14 = EPROM、15 = CDRAM、16 = 3DRAM、17 = SDRAM、18 = SGRAM、19 = RDRAM、20 = DDR)
Capacity	BIGINT	物理メモリの合計容量（バイト単位）。
R_MemoryType	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_MemoryTech	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
FormFactor	SMALLINT	CIM_Chipから派生（チップの実装形式係数。CIM_PhysicalMemory.FormFactorの列挙値。0 = 不明、1 = その他、2 = SIP、3 = DIP、4 = ZIP、5 = SOJ、6 = Proprietary、7 = SIMM、8 = DIMM、9 = TSOP、10 = PGA、11 = RIMM、12 = SODIMM、13 = SRIMM、14 = SMD、15 = SSMP、16 = QFP、17 = TQFP、18 = SOIC、19 = LCC、20 = PLCC、21 = BGA、22 = FPBGA、23 = LGA)
PartNumber	NVARCHAR(256)	物理要素の生産や製造を行った組織が割り当てた部品番号。
SerialNumber	NVARCHAR(64)	メーカーが割り当てた番号であり、物理要素の識別に使用。
dc_ErrorMethodology	NVARCHAR(512)	非標準。メモリ コンポーネントによってサポートされているメイン エラー訂正スキーム。

カラム名	データ型	説明
dc_HWLocation	NVARCHAR(256)	非標準。複合多重SBBハードウェアのみで、メモリ要素のハードウェアの場所を表すテキスト。
R_Slot	SMALLINT	レポート生成に使用されるフィールド。
Description	NVARCHAR(64)	要素の説明
BankLabel	nvarchar(64)	メモリ バンク指名子。
MemLoc_LocationIdentifiers	nvarchar(255)	オンボード メモリの位置識別子。

CIM_PhysicalPackageテーブル

カラム名	データ型	説明
PhysicalPackage_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_PhysicalPackageを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_PortControllerを部分的に識別。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
Name	NVARCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。
Tag	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
Manufacturer	NVARCHAR(64)	レポート生成用。
Model	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
PartNumber	NVARCHAR(256)	レポート生成用。

CIM_PortControllerテーブル

カラム名	データ型	説明
PortController_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_PortControllerを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_PortControllerを部分的に識別。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致する CIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
DeviceID	NVARCHAR(64)	レポート生成用。
ProtocolSupported	SMALLINT	レポート生成用。
R_OperationalStatus	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
R_PortCount	INT	INT
R_PortUtilized	INT	レポート生成用。
R_Condition	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_MaxCapacity	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。

カラム名	データ型	説明
dc_RedundancyState	NVARCHAR(512)	非標準。電源装置の二重化状態。
dc_CurrentOutputPower	INT	非標準。電源の容量や出力電源（ワット単位）。

CIM_PowerSupplyテーブル

カラム名	データ型	説明
PowerSupply_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_PowerSupplyを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_PowerSupplyを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_PowerSupplyを部分的に識別。 CIM_PowerSupplyと一致。
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_PowerSupplyを部分的に識別。 CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_PowerSupplyを部分的に識別。関連データがCIM_PhysicalElementにある場合、このフィールドはCIM_PhysicalElementと等しくなる。関連データがCIM_PhysicalElementにない場合は、CIM_ComputerSystemと等しくなる。
SystemName	NVARCHAR(256)	ノードIDが同一である CIM_PhysicalElement.Nameか CIM_ComputerSystem.Nameの値。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。

カラム名	データ型	説明
Availability	SMALLINT	<p>システムの主要可用性とステータス (AdditionalAvailability配列プロパティを使用して、別のステータス情報を指定できる。たとえば、Availabilityプロパティでは、システムが動作していてフル電源であること(値 = 3)、警告(値 = 4)、テスト(値 = 5)、劣化(値 = 10)、省電力状態(13から15と17)であることが示される。省電力状態に関しては、次のように定義されている。値13(\\省電力 - 不明\\)は、システムが省電力モードに入っているが、このモードでの正確なステータスが不明であることを表す。値14(\\省電力 - 低電源モード\\)は、システムが省電力状態に入っているが機能しており、パフォーマンス劣化の可能性のあることを示す。値15(\\省電力 - スタンバイ\\)は、システムが機能していないが、すぐにフル電源に戻せることを表す。値17(\\省電力 - 警告\\)は、システムが警告状態になっているが、省電力モードにもなっていることを示す。</p> <p>CIM_LogicalDevice.Availabilityの列挙値。 (1 = その他、2 = 不明、3 = 動作中/フル電源、4 = 警告、5 = テスト中、6 = 適用不能、7 = 電源オフ、8 = オフライン、9 = 未使用、10 = 劣化、11 = 未インストール、12 = インストールエラー、13 = 省電力、不明、14 = 省電力、停電源モード、15 = 省電力、スタンバイ、16 = 電源切り替え、17 = 省電力、警告、18 = 一時停止、19 = 準備未完了、20 = 未設定、21 = 休止)</p>
AdditionalAvailability	SMALLINT	<p>Availabilityプロパティで指定されているものを除く、デバイスのその他の可用性とステータス(Availabilityプロパティは、デバイスのプライマリステータスと可用性を表す。一部のケースでは、このプロパティのみでデバイスの完全なステータスを表現できない。このような場合は、AdditionalAvailabilityプロパティを使用して詳細情報を提供できる。たとえば、デバイスのプライマリ可用性が\\オフライン\\(値 = 8)であるが、低電力状態(AdditionalAvailabilityの値 = 14)になっていたり、デバイスが診断を実行していたり(AdditionalAvailabilityの値 = 5、\\テスト中\\)することがある。</p> <p>CIM_PowerSupply.Availabilityの列挙値を参照)</p>

カラム名	データ型	説明
TotalOutput	INT	PowerSupplyの総出力電源（ミリワット単位）。0は不明を表す。単位はミリワット。
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(256)	電源装置を識別できる追加情報。
R_Status	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_Condition	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_MaxCapacity	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
dc_PowerSupplyPresent	NVARCHAR(32)	非標準。電源がシャーシ内に存在するかどうかを表す。
dc_PowerSupplyStatus	NVARCHAR(64)	電源のステータス（noError（1）、generalFailure（2）、bistFailure（32）、fanFailure（4）、tempFailure（5）、interlockOpen（6）、epromFailed（7）、vrefFailed（8）、dacFailed（9）、ramTestFailed（10）、voltageChannelFailed（11）、orringdiodeFailed（12）、brownOut（13）、giveupOnStartup（14）、nvramInvalid（15）、calibrationTableInvalid（16））
dc_RedundancyState	NVARCHAR(512)	非標準。電源装置の二重化状態。
dc_CurrentOutputPower	INT	非標準。電源の容量や出力電源（ワット単位）。

CIM_Processテーブル

カラム名	データ型	説明
Process_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_Processを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_ProcessM/paraを部分的に識別。
CSCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
CSName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一であるCIM_ComputerSystem.Nameの値。
OSCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Processを部分的に識別。CIM_OperatingSystemと一致。
OSName	NVARCHAR(256)	CIM_Processを部分的に識別。ノードIDが同一であるCIM_OperatingSystem.Nameの値。
Handle	NVARCHAR(256)	CIM_Processを部分的に識別。プロセスの識別に使用する文字列。プロセスIDは、一種のプロセス ハンドルである。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Processを部分的に識別。CIM_Processと一致。

カラム名	データ型	説明
Name	NVARCHAR(256)	CIM_Processを部分的に識別。プロセスの名前。
ExecutionState	SMALLINT	プロセスの現在の動作状態。 CIM_Process.ExecutionStateの列挙値（0 = 不明、1 = その他、2 = 準備完了、3 = 実行中、4 = 保留ブロック、6 = 保留準備完了、7 = 終了、8 = 停止、9 = 拡大）
Priority	INT	プロセス実行の緊急度が重要度を示す。
UnixProcess_ParentProcessID	NVARCHAR(256)	CIM_UnixProcess.ParentProcessIDから派生。実行中プロセスの親プロセスID。
UnixProcess_ProcessGroupID	BIGINT	CIM_UnixProcess.ProcessGroupIDから派生。実行中プロセスのグループID。
UnixProcess_RealUserID	BIGINT	CIM_UnixProcess.RealUserIDから派生。現在実行しているプロセスの実ユーザID。
UnixProcess_ProcessTTY	NVARCHAR(32)	CIM_UnixProcess.ProcessTTYから派生。このプロセスに現在関連しているTTY。
UnixProcess_ModulePath	NVARCHAR(512)	CIM_UnixProcess.ModulePathから派生。プロセスの実行モジュールのファイルパス。
OtherExecutionDescription	NVARCHAR(512)	CIM_UnixProcess.ModulePathから派生。実行中プロセスのコマンドパス。
UnixProcess_Parameters	NVARCHAR(512)	状態を表す文字列。インスタンスのExecutionStateプロパティがOtherに設定されている場合に使用。Other以外に設定されている場合はNULL。
UnixProcess_ProcessNiceValue	INT	CIM_UnixProcess.Parametersから派生。実行中プロセスに提供されたオペレーティングシステムパラメータ。
UxPrStatInf_RealStack	BIGINT	CIM_UnixProcess.ProcessNiceValueから派生。プロセスのナイス値。優先順位の算出に使用。
UxPrStatInf_VirText	BIGINT	UnixProcessStatisticalInformation_RealStack。 CIM_UnixProcessStatisticalInformation.RealStackから派生。プロセスによって使用される実スタックスペースのキロバイト数。
UxPrStatInf_VirData	BIGINT	UnixProcessStatisticalInformation_VirtualText。 CIM_UnixProcessStatisticalInformation.VirtualTextから派生。プロセスによって使用される仮想テキストスペースのキロバイト数。
UxPrStatInf_VirStack	BIGINT	UnixProcessStatisticalInformation_VirtualData。 CIM_UnixProcessStatisticalInformation.VirtualDataから派生。プロセスによって使用される仮想データスペースのキロバイト数。
UxPrStatInf_VirSharedMem	BIGINT	UnixProcessStatisticalInformation_VirtualStack。 CIM_UnixProcessStatisticalInformation.VirtualStackから派生。プロセスによって使用される仮想スタックスペースのキロバイト数。

カラム名	データ型	説明
UxPrStatInf_VirSharedMem	BIGINT	UnixProcessStatisticalInformation.VirtualSharedMemory。 CIM_UnixProcessStatisticalInformation.VirtualSharedMemory から派生。プロセスによって使用される 共有メモリのキロバイト数。
UxPrStatInf_VirMemMapFileSize	BIGINT	UnixProcessStatisticalInformation.VirtualMemoryMappedFileSize。 CIM_UnixProcessStatisticalInformation.VirtualMemoryMappedFileSize から派生。プロセスによってメモリ マッ プファイルに使用される仮想スペースの キロバイト数。

CIM_Processorテーブル

カラム名	データ型	説明
Processor_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_Processorを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_Processorを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Processorを部分的に識別。 CIM_Processorと一致。
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_Processorを部分的に識別。 CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論 理デバイスを一意に指定するアドレスか その他の識別情報。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_Processorを部分的に識別。オブジェ クトを認識するためのラベル。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一である CIM_ComputerSystem.Nameの値。

カラム名	データ型	説明
Family	SMALLINT	

カラム名	データ型	説明
		<p>プロセッサ ファミリ タイプ。</p> <p>CIM_Processor.Familyの列挙値（1 = その他、2 = 不明、3 = 8086、4 = 80286、5 = 80386、6 = 80486、7 = 8087、8 = 80287、9 = 80387、10 = 80487、11 = Intel® Pentium®ブランド、12 = Pentium® Pro、13 = Pentium® II、14 = MMX™技術を採用したPentium®プロセッサ、15 = Celeron®、16 = Pentium® II Xeon™、17 = Pentium® III、18 = M1ファミリ、19 = M2ファミリ、24 = K5ファミリ、25 = K6ファミリ、26 = K6-2、27 = K6-3、28 = AMD Athlonプロセッサファミリ、29 = AMD Duronプロセッサ、30 = AMD29000ファミリ、31 = K6-2+、32 = Power PCファミリ、33 = Power PC 601、34 = Power PC 603、35 = Power PC 603+、36 = Power PC 604、37 = Power PC 620、38 = Power PC X704、39 = Power PC 750、48 = Alphaファミリ、49 = Alpha 21064、50 = Alpha 21066、51 = Alpha 21164、52 = Alpha 21164PC、53 = Alpha 21164a、54 = Alpha 21264、55 = Alpha 21364、64 = MIPSファミリ、65 = MIPS R4000、66 = MIPS R4200、67 = MIPS R4400、68 = MIPS R4600、69 = MIPS R10000、80 = SPARCファミリ、81 = SuperSPARC、82 = microSPARC、83 = microSPARC IIep、84 = UltraSPARC、85 = UltraSPARC II、86 = UltraSPARC Ili、87 = UltraSPARC III、88 = UltraSPARC Ilii、96 = 68040、97 = 68xxxファミリ、98 = 68000、99 = 68010、100 = 68020、101 = 68030、112 = Hobbitファミリ、120 = Crusoe TM5000ファミリ、121 = Crusoe TM3000ファミリ、128 = Weitek、130 = Intel® Itanium®プロセッサ、144 = PA-RISCファミリ、145 = PA-RISC 8500、146 = PA-RISC 8000、147 = PA-RISC 7300LC、148 = PA-RISC 7200、149 = PA-RISC 7100LC、150 = PA-RISC 7100、160 = V30ファミリ、176 = Pentium® III Xeon™、177 = Intel® SpeedStep技術を採用したPentium® IIIプロセッサ、178 = Pentium® 4、179 = Intel® Xeon™、180 = AS400ファミリ、181 = Intel XeonプロセッサMP、190 = K7、200 = Intel® Xeon™プロセッサMP、201 = G4、202 = G5、250 = i860、251 = i960、260 = SH-3、261 = SH-4、280 = ARM、281 = StrongARM、300 = 6x86、301 = MediaGX、302 = MII、320 = WinChip、</p>

カラム名	データ型	説明
		350 = DSP、500 = ビデオ プロセッサ)
CurrentClockSpeed	INT	プロセッサの現行速度（MHz単位）。
UniqueID	NVARCHAR(256)	プロセッサのグローバル ユニーク識別子（この識別子は、プロセッサ ファミリ内のみで一意であることがある）。
LoadPercentage	SMALLINT	最後の1分間で平均した、このプロセッサの負荷（パーセント）。
CPUStatus	SMALLINT	プロセッサの現行ステータスを表す（たとえば、ユーザがBIOSによって無効にしたり（値 = 2）、POSTエラーによって無効になったり（値 = 3）することがある）。このプロパティの情報は、SMBIOS、タイプ4構造体、Status属性から入手可能。CIM_Processor.CPUStatusの列挙値。（0 = 不明、1 = CPU、2 = ユーザがBIOS設定によってCPUを無効化、3 = BIOSによってCPUが無効（POSTエラー）、CPUがアイドル状態、その他）
OtherIdentifyingInfo	NVARCHAR(64)	CIM_LogicalDevice.OtherIdentifyingInfoから継承。論理デバイスの識別に使用できる、DeviceID情報以外の追加情報を取得（一例としては、このプロセッサのソケットおよびスロット情報）。
R_CPUType	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_CPUSpeed	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_CPUStatus	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
dc_HWLocation	NVARCHAR(256)	非標準。複合多重SBBハードウェアのみで、プロセッサのハードウェアの場所を表すテキスト。
ArchitectureRevision	SMALLINT	プロセッサのアーキテクチャ リビジョン。
FirmwareRevision	NVARCHAR(255)	プロセッサのファームウェア リビジョン。
DataWidth	SMALLINT	プロセッサのデータパスの幅（ビット単位）。
ProcessorLocation_CellNumber	NVARCHAR(255)	このプロセッサを含む複合体のセル（セルラ システムのみ）。

CIM_Productテーブル

カラム名	データ型	説明
Product_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_Productを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_Productを部分的に識別。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。

カラム名	データ型	説明
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
IdentifyingNumber	NVARCHAR(64)	製品ID
Vendor	NVARCHAR(256)	製品の供給元、または製品を販売する実体の名前。
Version	NVARCHAR(64)	製品バージョン情報。DMTF Solution Exchange StandardのProductオブジェクトのVersionプロパティに対応。

CIM_RemoteServiceAccessPointテーブル

カラム名	データ型	説明
RemoteServiceAccessPoint_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_RemoteServiceAccessPointを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_RemoteServiceAccessPointを部分的に識別。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致するCIM_ComputerSystem.Nameの値。
AccessInfo	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
Name	NVARCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。

CIM_SCSIProtocolControllerテーブル

カラム名	データ型	説明
SCSIProtocolController_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_SCSIProtocolControllerを部分的に識別
SnapshotID	BIGINT	CIM_SCSIProtocolControllerを部分的に識別
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致するCIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
DeviceID	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
MaxUnitsControlled	INT	レポート生成用。

CIM_SCSIProtocolEndpointテーブル

カラム名	データ型	説明
SCSIProtocolEndpoint_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_SCSIProtocolEndpointを部分的に識別
SnapshotID	BIGINT	CIM_SCSIProtocolEndpointを部分的に識別
Name	NVARCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致する CIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
ConnectionType	SMALLINT	レポート生成用。

CIM_ProtoControlAccessesUnitテーブル

カラム名	データ型	説明
ProtoControlAccessUnit_LUID	BIGINT	レポート生成用。
ProtoControlAccessUnit_LUID	BIGINT	レポート生成用。

CIM_ProtocolControllerForPortテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
NodeID	BIGINT	CIM_ProtocolControllerForUnitを部分的に 識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_ProtocolControllerForUnitを部分的に 識別。
DeviceNumber	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
Name	NVARCHAR(255)	オブジェクトを認識するためのラベル。

CIM_ProtocolControllerForUnitテーブル

カラム名	データ型	説明
ProtocolControllerForUnit_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_ProtocolControllerForUnitを部分的に 識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_ProtocolControllerForUnitを部分的に 識別。
DeviceNumber	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

CIM_ProtocolEndpointテーブル

カラム名	データ型	説明
protocolEndpoint_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_ProtocolEndpointを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_ProtocolEndpointを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(1024)	レポート生成用。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致する CIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
ProtocolIFType	NVARCHAR(256)	レポート生成用。

CIM_Rackテーブル

カラム名	データ型	説明
Rack_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_Rackを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_Rackを部分的に識別。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Rackを部分的に識別。CIM_Rackと一致。
Tag	NVARCHAR(256)	CIM_Rackを部分的に識別。 CIM_PhysicalElement.Tagから継承。物理要素とサーバを一意に識別し、要素のキーとして役立つ、任意の文字列であり、資産タグやシリアル番号データなどの情報を含めることができる。
SerialNumber	NVARCHAR(64)	CIM_PhysicalElement.SerialNumberから継承。メーカーが割り当てた番号であり、物理要素の識別に使用。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。

CIM_Realizesテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。

CIM_Sensorテーブル

カラム名	データ型	説明
Sensor_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_Sensorを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_Sensorを部分的に識別
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_Sensorを部分的に識別。 CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Sensorを部分的に識別。CIM_Sensorと一致。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_Sensorを部分的に識別（センサがシャーンによって所有される場合、このフィールドはCIM_Chassisと等しくなる。センサがシャーンによって所有されない場合は、CIM_ComputerSystemと等しくなる）。
SystemName	NVARCHAR(256)	ノードIDが同一であるCIM_Sensor.NameかCIM_ComputerSystem.Nameに一致。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_Sensorを部分的に識別。オブジェクトを認識するためのラベル。
Status	NVARCHAR(10)	CIM_ManagedSystemElement.Statusから継承。オブジェクトの現行ステータスを表す文字列。
CurrentState	NVARCHAR(128)	センサが示す現在の状態（Possible Statesプロパティのいずれかになる）。
PossibleStates	NVARCHAR(512)	センサの文字列出力を列挙（たとえばスイッチ センサは、状態オンかオフを出力する。スイッチの別の実装では、状態オープンとクローズが出力される。別の例として、スレッシュOLDをサポートするNumericSensorがある。このセンサは、正常、上位重大、下位非クリティカルなどの状態をレポートする。読み取りとスレッシュOLDを公開しないが、このデータを内部的に保存する数値センサは、状態をレポートできる）。
CurrentReading	INT	電源装置の排気部分の現在の気温（℃）。
OtherCurrentReading	INT	電源装置の吸気部分の現在の気温（℃）。
BaseUnit	INT	読み取りが使用するユニットのコード（pull from CIM_NumericSensorから取得）。

カラム名	データ型	説明
SensorType	SMALLINT	センサーのタイプ。ValueMap { "0", "1", "2", "3", "4", "5", "6", "7", "8", "9", "10", "11", "12" }, Values { "Unknown", "Other", "Temperature", "Voltage", "Current", "Tachometer", "Counter", "Switch", "Lock", "Humidity", "Smoke Detection", "Presence", "Air Flow" }

CIM_SoftwareElementテーブル

カラム名	データ型	説明
SoftwareElement_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	CIM_SoftwareElementを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	CIM_SoftwareElementを部分的に識別。
SoftwareElementID	NVARCHAR(256)	CIM_SoftwareElementを部分的に識別（ソフトウェア要素の識別子であり、その他のキーと併用して要素を一意に表現するように設計されている）。
SoftwareElementState	SMALLINT	CIM_SoftwareElementを部分的に識別（このモデルで定義され、ソフトウェア要素のライフサイクルのさまざまな状態を識別する。展開可能状態になっているソフトウェア要素では、ソフトウェア要素を正常に配布するために必要となる詳細、およびインストール可能状態（次の状態）にするために必要となる詳細（チェックとアクション）が表現される。インストール可能状態になっているソフトウェア要素では、ソフトウェア要素を正常にインストールするために必要となる詳細、および実行可能状態（次の状態）にするために必要となる詳細（チェックとアクション）が表現される。実行状態になっているソフトウェア要素では、開始した要素を管理するために必要となる詳細が表現される。 CIM_SoftwareElement.SoftwareElementStateの列挙値。0 = 展開可能、1 = インストール可能、2 = 実行可能、3 = 実行中）
Version	NVARCHAR(64)	CIM_SoftwareElementを部分的に識別。ソフトウェアバージョンは、<メジャー>.<マイナー>.<リビジョン>または<メジャー>.<マイナー><文字><リビジョン>の形式でなければならない
Name	NVARCHAR(256)	CIM_SoftwareElementを部分的に識別。ソフトウェア要素の識別に使用する名前。

カラム名	データ型	説明
TargetOperatingSystem	SMALLINT	CIM_SoftwareElementを部分的に識別（要素のオペレーティング システム環境を指定する。このプロパティの値では、バイナリの実行可能プログラムであることが保証されない。この他に2つの情報が必要になる。最初に、クラス CIM_OSVersionCheckを使用してオペレーティング システムのバージョンを指定する必要がある。次に、オペレーティング システムが動作するアーキテクチャの情報が必要である。この情報は、 CIM_ArchitectureCheckを使用して確認する。この構造体の組み合わせにより、特定ソフトウェア要素で必要となるオペレーティング システムのレベルが明確に識別される。CIM_OperatingSystem.OSTypeの列挙値を参照すること）。
InstallDate	BIGINT	CIM_ManagedSystemElement.InstallDateから継承。オブジェクトがインストールされたときを表す日時の値。
R_Date	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_Status	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
DeviceSW_Purpose	SMALLINT	DeviceSoftware_Purpose。関連デバイスに関して、ソフトウェアが果たす役割を示す列挙型整数。 CIM_DeviceSoftware.Purposeの列挙値（0 = 不明、1 = その他、2 = ドライバ、3 = 設定ソフトウェア、4 = アプリケーションソフトウェア、5 = 装置、6 = ファームウェア、7 = BIOS、8 = ブートROM）
DeviceSW_PurposeDescription	NVARCHAR(512)	DeviceSW Purposeプロパティの詳細情報を提供する、自由形式の文字列。
swd_VersionWeight	INT	CIM_SoftwareElementのswd_VersionWeight。ソフトウェア バージョン ポーリングで使用されるフィールド。
dc_OtherVersionInfo	NVARCHAR(64)	非標準。この項目のバージョンを指定する文字列。
R_Type	NVARCHAR(64)	レポート生成に使用されるフィールド。

CIM_SoftwareIdentityテーブル。

カラム名	データ型	説明
SoftwareIdentity_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。

カラム名	データ型	説明
NodeID	BIGINT	CIM_SoftwareIdentityを部分的に識別するために使用。
SnapshotID	BIGINT	CIM_SoftwareIdentityを部分的に識別するために使用。
InstanceID	NVARCHAR(255)	<p>InstanceID このクラスのインスタンスを不明瞭かつ一意に識別する。NameSpace内での一意性を確実にするため、InstanceIDの値は、以下の「推奨」アルゴリズムを使用して作成される必要がある。</p> <p>"<OrgID>:<LocalID>"。ここで、<OrgID>と<LocalID>は、コロン':'によって区切られる。<OrgID>は、著作権つき、商標つき、InstanceIDを作成/定義するビジネス主体が所有するその他固有の名前、または、認められている世界的権威によって当該ビジネス主体に割り当てられた登録済みIDを含まなければならない（スキーマ クラス名の<Schema Name>_<Class Name>の構造と同様）。さらに、一意性を確実にするため、<OrgID>にコロン（":"）を含めないこと。このアルゴリズムを使用するときは、InstanceIDの最初のコロンは<OrgID>と<LocalID>の間に置く必要がある。</p> <p><LocalID>は、ビジネス主体によって選択される。別の下位（実世界）要素を識別するために再使用しないこと。上記の「推奨」アルゴリズムを使用しない場合は、エンティティの定義の結果として生じるInstanceIDが、このインスタンスのNameSpaceへのプロバイダが作成するInstanceIDのすべてにわたって、再使用されないことを保証する必要がある。DMTF定義のインスタンスについては、<OrgID>をCIMに設定し、推奨アルゴリズムを使用しなければならない。</p> <p>例："HEWLETTPACKARD:HPCPGASMEXE7.15.19.0"</p>
VersionString	NVARCHAR(255)	完全なソフトウェア バージョン情報を表す文字列（意味や表現の変化によって単純な計算や比較ができなくなることがあるので、数値表現および文字列表現の両方が用意されている。数値部分については、MajorVersion、MinorVersion、RevisionNumber、BuildNumberを参照）。
Manufacturer	NVARCHAR(255)	このソフトウェアのメーカー。
Description	NVARCHAR(512)	この要素の説明。
MajorVersion	SMALLINT	この要素のメジャー バージョン番号。

カラム名	データ型	説明
MinorVersion	SMALLINT	この要素のマイナー バージョン番号。
RevisionNumber	SMALLINT	この要素のリビジョン番号。
BuildNumber	SMALLINT	この要素のビルド番号。
DeviceSW_Purpose	SMALLINT	関連デバイスに関して、ソフトウェアが果たす役割を示す列挙型整数。 CIM_DeviceSoftware.Purposeの列挙値（0 = 不明、1 = その他、2 = ドライバ、3 = 設定ソフトウェア、4 = アプリケーションソフトウェア、5 = 装置、6 = ファームウェア、7 = BIOS、8 = ブートROM）。
TargetType	NVARCHAR(256)	キー ファイル名。SoftwareIdentityのバージョン間で変わらないアプリケーション固有の不変識別子（ソフトウェアID命名構造に対するさらに大きな変更に対しても、同じ値である。このパラメータの目的は、特定のSoftwareInstallationServiceと互換性のあるクライアントがソフトウェアIDを選択できるようにすることである。クライアントは、このパラメータを使用して、SoftwareInstallationServiceCapabilitiesのSupportedTargetTypesパラメータの内容と比較し、候補ソフトウェアIDを選択する）。
TargetOperatingSystem	SMALLINT	要素のオペレーティング システム環境を指定する（このプロパティの値では、バイナリの実行可能プログラムであることが保証されない。この他に2つの情報が必要になる。最初に、クラス CIM_OSVersionCheckを使用してオペレーティング システムのバージョンを指定する必要がある。次に、オペレーティング システムが動作するアーキテクチャの情報が必要である。この情報は、 CIM_ArchitectureCheckを使用して確認する。この構造体の組み合わせにより、特定ソフトウェア要素で必要となるオペレーティング システムのレベルが明確に識別される。CIM_OperatingSystem.OSTypeの列挙値を参照すること）。
InstallDate	NVARCHAR(256)	この要素のインストール日付は、CIM日時フォーマットである。
swd_VersionWeight	INT	CIM_SoftwareElementのswd_VersionWeight。ソフトウェア ステータスポーリングで使用されるフィールド。
dc_OtherVersionInfo	NVARCHAR(64)	非標準。この項目のバージョンを指定する文字列。
SoftwareElementState	SMALLINT	レポート生成用。

カラム名	データ型	説明
Device_SW_PurposeDescription	NVARCHAR(512)	DeviceSW_Purposeプロパティの詳細情報を提供する、自由形式の文字列。
R_Type	NVARCHAR(64)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_Date	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。
R_Status	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。

CIM_StoragePoolテーブル

カラム名	データ型	説明
StoragePool_LUID	BIGINT	CIM_StorageVolumeを一意に識別するために使用。
NodeID	BIGINT	CIM_StorageVolumeを部分的に識別するために使用。
SnapshotID	BIGINT	CIM_StorageVolumeを部分的に識別するために使用。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
InstanceID	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
PoolID	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
Primordial	BIT	レポート生成用。
TotalManagedSpace	BIGINT	レポート生成用。
RemainingManagedSpace	BIGINT	レポート生成用。

CIM_StorageVolumeテーブル

カラム名	データ型	説明
StorageVolume_LUID	BIGINT	CIM_StorageVolumeを一意に識別するために使用。
NodeID	BIGINT	CIM_StorageVolumeを部分的に識別するために使用。
SnapshotID	BIGINT	CIM_StorageVolumeを部分的に識別するために使用。
DataRedundancy	SMALLINT	レポート生成用。
ElementName	NVARCHAR(255)	レポート生成用。
NameFormat	SMALLINT	レポート生成用。
NoSinglePointOfFailure	BIT	レポート生成用。
PackageRedundancy	SMALLINT	レポート生成用。
Name	NCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。
SystemCreationClassName	NCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NCHAR(256)	NodeIDが一致するCIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NCHAR(256)	レポート生成用。

カラム名	データ型	説明
DeviceID	NARCHAR(64)	レポート生成用。
Availability	SMALLINT	レポート生成用。
BlockSize	BIGINT	レポート生成用。
NumberOfBlocks	BIGINT	レポート生成用。
ConsumableBlocks	BIGINT	レポート生成用。
IsBasedOnUnderlyingRedundancy	BIT	レポート生成用。
SequentialAccess	BIT	レポート生成用。
R_OperationalStatus	NARCHAR(256)	レポート生成用。
R_ExtentStatus	NARCHAR(256)	レポート生成用。
R_RaidLevel	NARCHAR(256)	レポート生成用。

CIM_TCPProtocolEndpointテーブル

カラム名	データ型	説明
TCPProtocolEndpoint_LUID	BIGINT	レポート生成用。
NodeID	BIGINT	レポート生成用。
SnapshotID	BIGINT	レポート生成用。
Name	NVARCHAR(1024)	オブジェクトを認識するためのラベル。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが一致する CIM_ComputerSystem.Nameの値。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	レポート生成用。
ProtocolIFType	SMALLINT	レポート生成用。
PortNumber	NVARCHAR(256)	レポート生成用。

Classifications_valuesテーブル

カラム名	データ型	説明
ClassificationsId	BIGINT	レポート生成用。
ClassificationsValue	SMALLINT	レポート生成用。
ClassificationsPos	INT	レポート生成用。

ComputerSys_HAPテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_LogicalPortGroupテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_NetworkPortテーブル

カラム名	データ型	説明
GroupComponent	BIGINT	レポート生成用。
PartComponent	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_PortControllerテーブル

カラム名	データ型	説明
GroupComponent	BIGINT	レポート生成用。
PartComponent	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_SAPテーブル

カラム名	データ型	説明
AvailableSAP	BIGINT	レポート生成用。
ManagedElement	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_SCSIProtoContテーブル

カラム名	データ型	説明
GroupComponent	BIGINT	レポート生成用。
PartComponent	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_SCSIProtoEndpテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_SoftwareIdentテーブル

カラム名	データ型	説明
System	BIGINT	レポート生成用。
InstalledSoftware	BIGINT	レポート生成用。

ComputerSys_StorageVolテーブル

カラム名	データ型	説明
GroupComponent	BIGINT	レポート生成用。
PartComponent	BIGINT	レポート生成用。

DB_DeviceInfoテーブル

DB_DeviceInfoテーブルには、一般的なシステム情報が含まれます。SNMPをサポートするシステムでは、このテーブルに情報が入ります。DB_DeviceInfoのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*DeviceKey	INT	
UpdateTime	DATETIME	データベース レコードが最後に更新された日時。
Description	CHAR(200)	システムの説明。
Location	CHAR(200)	物理的な場所（システムで入力されている必要がある）。
Contact	CHAR(200)	このシステムの連絡先（システムで入力されている必要がある）。

注記:



アスタリスク（*）は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

DB_DeviceInfoExテーブル

DB_DeviceInfoExテーブルには、HP Systems Insight Managerエージェントが標準的なデスクトップ管理インタフェース（DMI）サービス レイヤを実行しているシステムの基本的な情報が含まれます。DB_DeviceInfoEXのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*DeviceKey	INT	収集済みデータ セットにシステムを関連付ける。システム情報は、DeviceKeyを使用してデバイステーブルにリンクされる。
UpdateTime	DATETIME	データベース レコードが最後に更新された日時。
TotalMemory	INT	システム メモリの総容量。
ROMVersion	CHAR(80)	システムROMバージョン。
SerialNumber	CHAR(80)	システム シリアル番号。

カラム名	データ型	説明
AssetTag	CHAR(100)	システム資産タグ（システムで入力されている必要がある）。
OSName	CHAR(100)	オペレーティング システム名。 <u>注記</u> ：ツール定義ファイルのOSNameとは異なる。mxnodeのOSNameStr値である。
OSType	CHAR(100)	ツール定義のOSNameフィールドに使用されるOSタイプ識別子。WINNT、HPUX、LINUXのような値。
OSVersion	CHAR(100)	オペレーティングシステムのバージョン。
OSVendor	CHAR(64)	オペレーティング システムのベンダ名。
ClusterName	CHAR(100)	システムが属しているクラスタの名前（存在する場合）。
OSDescription	CHAR(100)	ホスト オペレーティング システムの説明。
TrustStatus	Int	HP Web対応エージェントのシステム信頼状態。

注記:

アスタリスク（*）は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

DC_Enclosure テーブル

カラム名	データ型	説明
Enclosure_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	dc_Enclosureを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	dc_Enclosureを部分的に識別。
Tag	NVARCHAR(256)	タグは、dc_Enclosureを部分的に識別する。エンクロージャを一意に識別し要素キーとして機能する任意の文字列。
dc_Address	INT	エンクロージャのラック内の一意のアドレス
dc_EnclosureMaxNumBladesX	INT	エンクロージャが収容できるサーバブレードの最大数。
dc_EnclosureMaxNumBladesY	INT	エンクロージャが収容できるサーバブレードの最大数。
dc_FusePresent	NVARCHAR(32)	説明されているヒューズがシステム内に存在する場合に指定。その他（1）、なし（2）、あり（3）

カラム名	データ型	説明
dc_FuseCondition	NVARCHAR(32)	ヒューズの状態（その他（１）、ヒューズステータス検出がサポートされていない、OK（２）、ヒューズが正しく動作している、障害（４）、ヒューズが遮断されているか、正しく動作していない）。

DC_ProliantHostテーブル

カラム名	データ型	説明
ProliantHost_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	この行のシステムIDを識別。
SnapshotID	BIGINT	この行のスナップショットIDを識別。
dc_SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
dc_SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一であるCIM_ComputerSystem.Nameの値。
OverallCondition	NVARCHAR(16)	このオブジェクトは、このMIBによって表現されるサーバのホスト システムの全体的なステータスを表す。
MIBStatusArray	NVARCHAR(512)	MIBステータス構造の配列（それぞれの構造は、4つのオクテットから構成される。第1オクテットは、MIBの存在である。第2オクテットは、MIBの状態である。第3オクテットは、MIBのメジャー リビジョンである。第4オクテットは、MIBのマイナー リビジョンである。4つのオクテットのブロックは、それぞれHPエンタープライズの直後でMIB識別子によってインデックス付けされる（たとえば、1.3.6.1.232.11 mibのインデックスは11）。第1ブロック（ブロック0）の4つのオクテットは、システム管理用に予約されており、MIBの統計として働く）。
GUID	NVARCHAR(64)	サーバのグローバル ユニーク識別子（オペレーティング システムが一意のIDを判断できない場合は、変数にすべて0がデフォルトで含まれる。この場合、管理ステーションはこの変数にSETを実行し、一意のIDを提供する）。
WebManagementPort	INT	HP Insightマネジメント エージェントによって使用されるポートを表す。

カラム名	データ型	説明
ASRStatus	NVARCHAR(16)	自動サーバ復元機能ステータス（このオブジェクトの現行値がその他（１）か使用不可（２）である場合、すべての設定操作はエラーになる。管理ステーションでこのオブジェクトをその他（１）か使用不可（２）に設定しようとしても、エラーになる。このオブジェクトを無効（３）に設定すると、ASR機能は無効に、有効（４）に設定すると有効になる）。
SystemID	INT	HPシステムID。この値は、システムのシステム ボードのHPシステムIDを表す（古いマシンで使用されている製品ID（cpqSiProductId）は、このIDで置き換わる。cpqSiProductIdの値が7Ehである場合は、cpqSiSystemIdを使用してHPシステムを識別する必要がある。値がゼロ（0）である場合は、このマシンでシステムID機能がサポートされていない。この場合は、cpqSiProductIdを使用してシステムを識別する必要がある）。
ServerRole	NVARCHAR(64)	システムの役割。リモート コンソールによって割り当てられる設定可能自由形式テキスト フィールドであり、システムの機能を簡潔に説明する。
ServerRoleDetail	NVARCHAR(512)	システムの詳細説明。リモート コンソールによって割り当てられる設定可能自由形式テキスト フィールドであり、システムの機能を詳細に説明する。
ConfigChangeDate	BIGINT	エージェントが最後にロードされた日時。
SystemUptime	BIGINT	システムがフルに動作していた、分単位の総時間（サーバ健全性サポート ソフトウェアが動作している間）。

Dedicated_valuesテーブル

カラム名	データ型	説明
DedicatedId	BIGINT	この行を一意に識別するために使用。
DedicatedValue	SMALLINT	レポート生成用。
DedicatedPos	INT	レポート生成用。

注記:

アスタリスク（*）は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

DeviceNamesテーブル

DeviceNamesテーブルには、このデバイスがサポートする、さまざまなプロトコルによって判断されるデバイス名が含まれます。DeviceNamesのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*DeviceKey	INT	収集済みデータ セットにシステムに関連付ける（システム情報は、デバイス テーブルからのDeviceKeyを使用してシステムにリンクされる）。
nameSNMP	CHAR(60)	SNMPによって取得したシステム名。
nameIPX	CHAR(60)	ネーム サービス（WINSやDNSなど）か hosts ファイルから取得したシステム名。
nameDMI	CHAR(60)	DMIによって取得したシステム名。
NameFullDNS	CHAR(90)	完全に限定したDNS名（使用可能な場合）。
nameActiveDisc	CHAR(60)	現在は使用されない。

注記:

アスタリスク（*）は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

Device Extended Attributesデータベース テーブル

Device Extended Attributesフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
snoozeTimeMin	INT	snoozeStartTimeに示された時刻からシステムが無効になる値（分）。
snoozeStartTimeMs	Long	システムが無効な状態になってからの最初のタイムスタンプ

Devicesテーブル

Devicesテーブルには、検出されたシステム情報が含まれます。これは、システム関連データの定義に使用する主要テーブルです。Devicesのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
DeviceKey	INT	収集済みデータ セットにシステムを関連付ける（システム情報は、DeviceKeyを使用してデバイス テーブルにリンクされる）。
Name	CHAR(255)	システムの名前。
GUID	CHAR(128)	グローバル ユニーク識別子。ネットワークアドレスが変更された場合、ネットワーク上のシステムの識別に使用する一意のキー（この値をここに保存するには、この値の取得がシステムでサポートされている必要がある）。
Discovered	BIGINT	システムが検出された日時。1970UTCから経過したミリ秒で表現される。
ProductType	INT	この項目の製品タイプ（詳細については、nodeTypesEnumテーブルを参照。このテーブルは、deviceSubTypesEnumビューを使用して最適に表示できる）。
ProductTypeStr	Char(32)	製品タイプの文字列表現（詳細については、nodeTypesEnumテーブルを参照。このテーブルは、deviceTypesEnumビューを使用して最適に表示できる）。
ProductSubType	CHAR(32)	サブタイプ（存在する場合）（マッピングの詳細については、NodeSubTypesEnumテーブルを参照。このテーブルは、deviceSubTypesEnumビューを使用して最適に表示できる）。
ProductName	CHAR(100)	ProLiant 1500などの製品名。
OverallStatus	INT	システムの全体的なステータスを表す（0 = 不明、1 = 正常、2 = 警告、3 = マイナー、4 = メジャー、5 = クリティカル、10 = ステータスなし（新しいシステムで、またはポーリング前の起動時に発生））。
LockFlags	INT	検出で変更できないように、製品のタイプか名前、またはその両方がロックされているかどうかを表す。 ● 0 = ロックなし
Timestamp	BIGINT	予約済み（このテーブルだけではなく、データベースで一部のシステム情報が最後に更新された時刻）。

カラム名	データ型	説明
FullDNSName	VARCHAR (90)	システムのフルDNS名。
MxGUID	CHAR(32)	HP Systems Insight Managerがこのシステムに割り当てた、ユニーク識別子。

DeviceProtocolInfoテーブル

デバイス プロトコル情報フィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
DeviceKey	INT	デバイス テーブルのシステムにこのテーブルを関連付ける。
IPAddressable	INT	このシステムにTCP/IPでアドレス付けできるかどうかを示すフラグ。
IPXAddressable	INT	このシステムにIPXでアドレス付けできるかどうかを示すフラグ。
SNMP	INT	SNMPベースの管理がこのシステムでサポートされているかどうかを示すフラグ。値-1は、システムが識別されなかったことを表す。値0は、システムでSNMPがサポートされていないことを示す。値1から5は、SNMPがシステムで見つかったことを表す。
SNMPverStr	NVARCHAR(32)	検出されたSNMPのバージョンを表す文字列（現在のところ、HP Systems Insight Managerでは、「1.0」のみがサポートされている）。
HTTP	INT	HTTPベースの管理がこのシステムでサポートされているかどうかを示すフラグ。値-1は、システムが識別されなかったことを表す。値0は、システムでHTTPがサポートされていないことを示す。値1は、HTTPがシステムで見つかったことを表す。
DMI	INT	DMIベースの管理がこのシステムでサポートされているかどうかを示すフラグ。値-1は、システムが識別されなかったことを表す。値0は、システムでDMIがサポートされていないことを示す。値1は、DMIがシステムで見つかったことを表す。
DMIVerStr	NCHAR(32)	常に2.0。
WBEM	INT	システムでWBEMが検出された場合は1に設定される。検出されなかった場合は0。
WBEMverStr	NCHAR(32)	HP Systems Insight Managerがシステムで検出したWBEMのバージョン。
SSH	INT	システムでSSHが検出された場合は1に設定される。検出されなかった場合は0。
SSHverStr	NCHAR(64)	SSH要求から返されたシステムID。

カラム名	データ型	説明
PrimaryAddress	nchar(32)	将来の拡張用。
WMIProxyID	INT	このレコードのシステムのWMIプロキシに使用されるシステムのデバイスキー（すなわちHP Systems Insight Managerは、WMIProxyIDと同じデバイスキーを含むシステムを使用し、その他のシステムで動作しているWMI Mapperを通してWBEMで要求する）。

ExtentStatus_values table

カラム名	データ型	説明
ExtentStatusId	BIGINT	レポート生成用。
ExtentStatusValue	SMALLINT	レポート生成用。
ExtentStatusPos	INT	レポート生成用。

DeviceSnmpSettingsテーブル

DeviceSnmpSettingsテーブルには、システムで現在設定されているSNMP設定が含まれます。DeviceSnmpSettingsのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*DeviceKey	INT	収集済みデータ セットにシステムを関連付ける（このシステム情報は、デバイス テーブルからのDeviceKeyを使用してリンクされる）。
networkTimeout	INT	秒単位のネットワーク タイムアウト値。
networkRetries	INT	SNMP要求に使用される再試行回数。
icmpTimeout	INT	秒単位のICMP pingタイムアウト値。
icmpRetries	INT	実行するICMP ping再試行回数。
defaultProtoMask	INT	このシステムで、一部のプロトコルかすべてのプロトコルのデフォルト（グローバル プロトコル設定）を使用するか、個別設定を使用するかを定義（ビットマスク フィールドであり、さまざまなビットによって、使用されるデフォルトが定義される。値は、論理的な順序になっている。1= デフォルトSNMP読み取りコミュニティを使用、2= デフォルトSNMP書き込みコミュニティを使用、4= デフォルトSNMPタイムアウトを使用、8= デフォルトSNMP再試行回数を使用、16= デフォルトICMPタイムアウトを使用、32= デフォルトICMP再試行回数を使用、64= デフォルトWBEMユーザ名を使用、128= デフォルトWBEMパスワードを使用）

注記:

アスタリスク (*) は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

HP_Clusterテーブル

カラム名	データ型	説明
HPCluster _LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HP_NParCellを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParCellを部分的に識別。
MembershipIncarnation	BIGINT	クラスタ メンバシップを一意に識別する整数値（クラスのメンバシップを変更すると、MembershipIncarnationが増加する。したがって、このプロパティの値が大きいと、一連のクラスタ メンバ（その次のHP_ParticipatingCSアソシエーションにある）がより新しいことを示す）。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
Interconnect	NVARCHAR(256)	クラスタの相互接続メカニズムを説明する自由形式の文字列。
dc_Types	NVARCHAR(256)	クラスタタイプ（クラスタがフェールオーバー用（値=2）か、性能用（3）かななどを指定。指定可能な値は、相互に排他的ではない。ValueMap { "0", "1", "2", "3", "4", "5", "6" } Values { "Unknown", "Other", "Failover", "Performance", "Distributed OS", "Node Grouping", "SysPlex" })

HP_Nodeテーブル

カラム名	データ型	説明
HPNode _LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HP_Nodeを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_Nodeを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(256)	オブジェクトを認識するためのラベル。
Membername	NVARCHAR(256)	汎用HPクラスタ内のこのメンバの名前を記述（継承されるNameの値は完全修飾で、企業内で一意である必要がある。MemberNameの値は、クラスタ内で一意な短縮バージョンでもよい）。

カラム名	データ型	説明
MemberID	INT	汎用HPクラスタ内のこのクラスタ メンバを一意に識別する整数値。システムが最初にクラスタに追加されたときに割り当てられ、そのシステムがクラスタから削除される（インスタンスが削除される）までそのままの状態に残る（そのメンバが後で再び追加された場合は、新しいインスタンスが、別のMemberID値で作成される）。

HP_NParCabinetテーブル

カラム名	データ型	説明
NParCabinet_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HP_NParCellを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParCellを部分的に識別。
CabinetType	BIGINT	値は以下のとおり。不明（0）、その他（1）、8セルフルハイトキャビネット（2）、4セルフルハイトキャビネット（3）、4セルハーフハイトキャビネット（4）、2セルキャビネット（5）、I/O拡張キャビネット（6）。これらのキャビネットタイプの例は、以下のとおり。8セルフルハイトキャビネット（SD-32000）、4セルフルハイトキャビネット（SD-16000）、4セルハーフハイトキャビネット（rp8620）、2セルキャビネット（rx7620）
Label	NVARCHAR(256)	キャビネット番号を含む文字列を表示。 例： <u>cab0</u>
ServiceProcessorCount	NVARCHAR(256)	このキャビネット内のサービスプロセッサ数。
ServiceProcessorLocation	NVARCHAR(1024)	このキャビネット内のサービスプロセッサの位置に対する長い表示名の配列（サービスプロセッサがコアI/Oカード上にあるキャビネット上では、そのカードの指定を含む。例： <u>cab0, coreio0</u> ）
ServiceProcessorStatus	NVARCHAR(256)	このキャビネット内のあらゆるプロセッサのステータスの配列。 ServiceProcessorLocationと同じ順。値は次のとおり。不明（0）、その他（1）、アクティブ（2）、バックアップ（3）

HP_NParCellテーブル

カラム名	データ型	説明
NParCell_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。

カラム名	データ型	説明
NodeID	BIGINT	HP_NParCellを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParCellを部分的に識別。
SlotID	INT	NPar Cellが存在するスロットのID。
TotalMemoryInstalled	BIGINT	セルに取り付けられた合計メモリ (MB)。
CPUCount	SMALLINT	このセル上のプロセッサの実数。
CPU Speed	INT	セル上のプロセッサのクロック速度 (MHz)。
FirmwareRevision	NVARCHAR(256)	表示可能なファームウェア リビジョン文字列
DIMMSlotPopulated	NVARCHAR(256)	DIMMスロット番号をインデックスとする配列。スロットにDIMMが収容されているかどうかを示す（注記：このプロパティは、セルの電源が切れていると使用できない場合がある）。
ConnectedToIOChassis	BIT	このセルがIOシャーシに接続されていれば真
MaxCPUCount	INT	このセルでサポートされるプロセッサの実数の最大数。プロセッサ モジュール スロット数とこのプラットフォームでサポートされるモジュール当たりの最大プロセッサ数の両方を意味する（実際に取り付けられるモジュール当たりのプロセッサ数から考えて、この値は、このセルの最大プロセッサ数を反映していないことがある。このシステムでサポートされるモジュール当たりの最大プロセッサ数は、この値をCPUModuleSlotCountで除することで求められる）。
CPU SlotPopulated	NVARCHAR(256)	プロセッサ スロット番号をインデックスとする配列。プロセッサスロットが埋まっているときに真となる（プロセッサスロット番号をCPUCountPerModuleで割ると、プロセッサ モジュール番号になることに注意。その値が同じであるすべてのプロセッサ スロットは、同じプロセッサ モジュール内にある）。
CellArchitecture	SMALLINT	このセル上のプロセッサのアーキテクチャ。値は、不明 (0)、その他 (1)、PA-RISC (2)、Itanium®ベース (3)。

カラム名	データ型	説明
ComponentStatus	SMALLINT	このコンポーネントのステータス。値は、次のとおり。不明（0）、その他（1）、電源オフ（2）、電源オン（3）、非アクティブ（4）、アクティブ（5）（電源を入れるとコンポーネントの電源もオンになるが、まだ電源投入時セルフテスト（POST）を実行している。POSTが完了してもnPartitionに参加しないとコンポーネントは非アクティブになる。その理由は、コンポーネントがnPartitionに割り当てられていない、nPartitionに割り当てられていてそのnPartitionがアクティブでない、nPartitionの起動中にコンポーネントに障害が発生した、そのコンポーネントがアクティブなnPartitionに割り当てられていてそのnPartitionの再構成のための再起動やシャットダウンが完了していない、そのコンポーネントがnPartitionの起動時に非アクティブのままになるように設定されている、などがある。コンポーネントは、起動中にnPartitionに参加してアクティブになる。コンポーネントのステータスからは、nPartition上のオペレーティングシステムの状態については何もわからないことに注意。たとえば、オペレーティングシステムがまだ起動プロセス中でもコンポーネントはアクティブになる。このコンポーネントのデータの取得中に障害が発生すると、ステータスは不明になる）。
ConnectedIOChasssId	INT	セルの接続先のシャーシのI/OシャーシID（ConnectedToIOChassisが偽の場合は、このプロパティは存在しない）。

HP_NParComplexテーブル

カラム名	データ型	説明
NParComplex_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HP_NParComplexIを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParComplexを部分的に識別。
ProfileID	INT	NPar複合体のプロファイルID。
dc_ComputeCabCount	INT	複合したコンピュータ キャビネット数。
dc_IOXCabCount	INT	複合したIOXキャビネット数。
ComplexName	NVARCHAR(256)	NPar複合体の名前。
RevisionString	NVARCHAR(256)	表示可能なリビジョン文字列。

カラム名	データ型	説明
MaxPartitionsSupported	SMALLINT	この複合体がサポートできるnPartitionsの最大数（たとえば、rp7410システムは2つまでのnPartitionsをサポートする）。
CreatorSerialNumber	NVARCHAR(256)	元のメーカーが割り当てた複合体のシリアル番号。
CreatorProductName	NVARCHAR(256)	OEMメーカーが割り当てた製品の名前（このプロパティは、Itanium®ベースのプラットフォームでのみサポートされるが、そのすべてのプラットフォームに存在するわけではない）。
OEMSerialNumber	NVARCHAR(256)	OEMメーカーが割り当てた製品の名前（このプロパティは、Itanium®ベースのプラットフォームでのみサポートされるが、そのすべてのプラットフォームに存在するわけではない）。
OEMSerialNumber	NVARCHAR(256)	OEMメーカーが割り当てた複合体のシリアル番号（このプロパティは、すべてのプラットフォームでサポートされるわけではない）。
OEMProductName	NVARCHAR(256)	OEMメーカーが割り当てた製品の名前（このプロパティは、Itanium®ベースのプラットフォームでのみサポートされるが、そのすべてのプラットフォームに存在するわけではない）。
OriginalProductOrderNumber	NVARCHAR(256)	最初に配送されたときのこの複合体の製品注文番号。例：AxxxxxA（複合体がアップグレードされている場合は、アップグレード前の製品注文番号）
CurrentProductOrderNumber	NVARCHAR(256)	現在存在するこの複合体の製品注文番号。例：AxxxxxA（複合体がアップグレードされている場合は、アップグレード後の製品注文番号）
UUID	NVARCHAR(128)	ソフトウェアのライセンスに使用する16バイト値（このプロパティは、すべてのプラットフォームでサポートされるわけではない）。
CellAssignments	NVARCHAR(256)	セルIDをインデックスとする値の配列。このセルが割り当てられる先のnPartitionのnPartition ID。または、セルのタイプがFreeの場合は255。ユーザ設定が可能（iCODシステム上では、修正にiCODソフトウェアの承認が必要）。

HP_NParlOChassisテーブル

カラム名	データ型	説明
NParlOChassis_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。

カラム名	データ型	説明
NodeID	BIGINT	HP_NParIOChassisを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParIOChassisを部分的に識別。
ConnectedCellID	INT	セルのID
PopulatedPCISlotCount	SMALLINT	このシャーシ内の埋まっているPCIスロットの数。

HP_NParIOChassisSlotテーブル

カラム名	データ型	説明
NParIOChassisSlot_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HP_NParChassisIOSlotを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParChassisIOSlotを部分的に識別。
ID	INT	NPar I/Oシャーシ スロットのID。
CabinetID	INT	I/Oシャーシ スロットの属するキャビネットのID。
IOBayNumber	INT	I/Oシャーシの存在するキャビネットのベイ番号。
Number	INT	ベイ全体で固有のI/Oシャーシ番号。

HP_NPartitionテーブル

カラム名	データ型	説明
NParPartition_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HP_NParPartitionを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HP_NParPartitionを部分的に識別。
PartitionID	INT	NParパーティションのID。
dc_TotalCPU	INT	NParパーティション内の合計CPU。
dc_InstalledCells	INT	NParパーティションにインストールされたセルの数。
dc_PoweredOnCells	INT	NParパーティション内の電源の入っているセルの数。
PartitionName	NVARCHAR(256)	NParパーティションの名前。
dc_CoreCell	INT	NParパーティション内のコア セル インデックス。
dc_CoreCellCabinet	INT	NParパーティションのキャビネット内のコア セル インデックス。
dc_HasInterleaveMem	INT	Flag to indicate if the NParパーティションにインタリーブ メモリが設定されているかどうかを示すフラグ（1 = 設定されている）。
R_dc_HasInterleaveMemory	NVARCHAR(256)	レポート生成に使用されるフィールド。

カラム名	データ型	説明
PartitionNameLabel	NVARCHAR(256)	Concatenation of the nPartition名とそのラベルの結合。例: "MyPartition (par2)"
PartitionType	SMALLINT	このnPartition内のセルのタイプ。値は、不明 (0)、その他 (1)、PA-RISC (2)、Itanium®ベース (3)。
PartitionIsDefined	BOOLEAN	このパーティションが現在存在すれば (複合体に設定されていれば) 真、そうでない場合は偽。
CoreCellID	INT	このnPartitionに対するコアセルのセルID。または、nPartitionが起動していない場合は255。
PrimaryBootPath	NVARCHAR(256)	このnPartitionのプライマリ起動パス。BootPathsAreAvailableが真の場合に、存在、設定可能。ユーザ設定が可能。
AlternateBootPath	NVARCHAR(256)	このnPartitionの代替ブートパス。PA-RISCプラットフォーム上のすべてのnPartitionに対して存在し設定可能。しかし、Itanium®ベースのプラットフォーム上では、プロバイダが動作しているnPartitionに対してのみ存在し設定可能。ユーザ設定が可能
HAAlternateBootPath	NVARCHAR(256)	このnPartitionのHA代替ブートパス。BootPathsAreAvailableが真の場合に、存在、設定可能。ユーザ設定が可能。

HPUX_BaseKernelParameterテーブル

カラム名	データ型	説明
BaseKernelParameter_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_BaseKernelParameterを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_BaseKernelParameterを部分的に識別。
BaseKernelParameterID	INT	HPUX_BaseKernelParameterを部分的に識別。カーネル設定グループのインデックス。
settingID	NVARCHAR(256)	カーネル設定パラメータの名前。
CurrentValue	NVARCHAR(256)	カーネル設定パラメータの値。

HPUX_Bundleテーブル

カラム名	データ型	説明
Bundle_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_Bundleを部分的に識別。

カラム名	データ型	説明
SnapshotID	BIGINT	HPUX_Bundleを部分的に識別。
IdentifyingNumber	NVARCHAR(64)	CIM_Product.IdentifyingNumberから継承。ソフトウェアのシリアル番号、ハードウェアチップのチップ番号、プロジェクト番号などの製品識別。
Version	NVARCHAR(64)	CIM_Product.Versionから継承。製品バージョン情報。DMTF Solution Exchange StandardのProductオブジェクトのVersionプロパティに対応。
Vendor	NVARCHAR(256)	CIM_Product.Vendorから継承。製品の供給元、または製品を販売する実体（メーカー、小売業者、OEM）のNameDMTF Solution Exchange StandardのProductオブジェクトのVendorプロパティに対応。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_Product.Nameから継承。一般的に使用される製品名。
Architecture	NVARCHAR(64)	HPUX_Bundleに固有。製品のバリエーションの区別に使用される、ベンダが定義した文字列（表示、およびソフトウェア仕様の解決に使用される。リビジョン属性とベンダタグ属性が同一の製品において、ターゲットアーキテクチャごとにソフトウェアのバージョンが異なるか、別のバリエーション（サポートされているロケールなど）がある場合、アーキテクチャ属性の値は、バージョンごとに異なる。この値にその他の意味はない）。
Location	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleの場所。HPUX_Bundleに固有。インストール済みソフトウェアのソフトウェア仕様の解決に使用。特定製品の場所は、その場所にインストールされている、その製品のすべてのファイルセットに関係する（製品のリロケータブルファイルが保存されているパスである）。
QualifierID	NVARCHAR(64)	HPUX_Bundleに固有。ソフトウェアのインストール時にユーザが指定し、論理名を使用して製品（または製品バージョンのセット）を識別するために使用する。
CreateTime	BIGINT	HPUX_Bundleに固有。実装によって設定される値。オブジェクトのカatalog情報が初めて書き込まれた時刻。Epochから経過したミリ秒として保存される。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。

カラム名	データ型	説明
ModificationTime	BIGINT	HPUX_Bundleに固有。実装によって設定される値。オブジェクトのカatalog情報が最後に書き込まれた時刻。Epochから経過したミリ秒として保存される。
Size	NVARCHAR(32)	HPUX_Bundleに固有。ソフトウェア オブジェクト内に含まれる、すべてのファイルとコントロール ファイルの合計サイズ（バイト単位）（ファイルセット以外のオブジェクトの場合、値は必要に応じてダイナミックに算出される）。
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。テキストによる、オブジェクトの簡潔な説明。
Copyright	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleに固有。バンドルの著作権表示。
Directory	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleに固有。製品に一般的に関連する、ベンダが定義したディレクトリ（一般的には、製品のすべての（またはほとんどすべての）ファイルがインストールされるディレクトリである。Is Locatable属性が真になっているファイルセットを含む製品の場合は、製品ディレクトリの一部を製品の場所で置き換えて、パスの先頭部分としてこのディレクトリを含むすべてのファイルを、インストール中にLocation Directoryに移動できる）。
InstanceIdentifier	NVARCHAR(16)	HPUX_Bundleに固有。同一タグを含む製品（およびバンドル）のバージョンを区別する、唯一の属性（バージョンを区別する属性の単純形式であり、エクスポートされたCatalogのコンテキスト内のみで有効）。
IsLocatable	bit	HPUX_Bundleに固有。製品の任意のファイルセットでIs Locatable属性が真に設定されているかどうかを表すブール値。
LayoutVersion	NVARCHAR(64)	HPUX_Bundleに固有。この属性と値は、将来使用するために組み込まれている。
MachineType	NVARCHAR(64)	HPUX_Bundleに固有。POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なマシン メンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列（互換性の判断に使用）。
SKUNumber	NVARCHAR(64)	CIM_Product.SKUNumberから継承。製品SKU情報。

カラム名	データ型	説明
OperatingSystemName	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleに固有。POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なsysnameメンバを説明するソフトウェアパターンマッチング文字列（互換性の判断に使用）。
OperatingSystemRelease	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleに固有。POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なリリースメンバを説明するソフトウェアパターンマッチング文字列（互換性の判断に使用）。
OperatingSystemVersion	NVARCHAR(64)	HPUX_Bundleに固有。POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なバージョンメンバを説明するソフトウェアパターンマッチング文字列（互換性の判断に使用）。
ISPatch	bit	HPUX_Bundleに固有。このソフトウェアオブジェクトがパッチであるかどうかを表すブール値。
InstallSource	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleに固有。ソフトウェアのインストール元の場所。
DataModelRevision	Nvarchar(64)	HPUX_Bundleに固有。POSIX互換性のバージョンに関する情報を提供。ソフトウェアのパッケージ化かインストールを行うオペレーティングシステムリリースに対応。
InstallDate	BIGINT	HPUX_Bundleに固有。ソフトウェアがシステムにインストールされた年月日と時刻のタイムスタンプ。Epochから経過したミリ秒で保存される。
Contents	NVARCHAR(256)	HPUX_Bundleに固有。バンドルの内容のファイルセットソフトウェア仕様。

HPUX_DNSServiceテーブル

カラム名	データ型	説明
DNSService_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_DNSServiceを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_DNSServiceを部分的に識別。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一である CIM_ComputerSystem.Nameに等しい。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_ManagedSystemElement.Nameから継承。オブジェクトを認識するラベルを定義する。

カラム名	データ型	説明
SearchList	NVARCHAR(512)	ホスト名検索の検索リストである。この属性とドメイン名属性は、相互に排他的である。
Addresses	NVARCHAR(512)	リゾルバが検索するネーム サーバのIPアドレス（ドット表記）を指定する（9個までのネーム サーバをリストできる。名前は空白で区切られる）。

HPUX_Filesetテーブル

カラム名	データ型	説明
Fileset_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_Filesetを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_Filesetを部分的に識別。
SoftwareElementID	BIGINT	CIM_SoftwareElement.SoftwareElementIDから継承。ソフトウェア要素の識別子であり、その他のキーと併用して要素を一意に表現するように設計されている。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_SoftwareElement.Nameから継承。ソフトウェア要素の識別に使用する名前。
Version	NVARCHAR(64)	CIM_SoftwareElement.Versionから継承。ソフトウェアバージョンは、<メジャー>.<マイナー>.<リビジョン> または <メジャー>.<マイナー><文字><リビジョン>の形式でなければならない。

カラム名	データ型	説明
TargetOperatingSystemName	SMALLINT	CIM_SoftwareElement.TargetOperatingSystemNameから継承（CIM_OperatingSystem.OSTypeの列挙値を使用する：0 = 不明、1 = その他、2 = MACOS、3 = ATTUNIX、4 = DGUX、5 = DECNT、6 = Digital Unix、7 = OpenVMS、8 = HPUX、9 = AIX、10 = MVS、11 = OS400、12 = OS/2。13 = JavaVM、14 = MSDOS、15 = WIN3x、16 = WIN95、17 = WIN98、18 = WINNT、19 = WINCE、20 = NCR3000、21 = NetWare、22 = OSF、23 = DC/OS、24 = Reliant UNIX、25 = SCO UnixWare、26 = SCO OpenServer、27 = Sequent、28 = IRIX、29 = Solaris、30 = SunOS、31 = U6000、32 = ASERIES、33 = TandemNSK、34 = TandemNT、35 = BS2000、36 = LINUX、37 = Lynx、38 = XENIX、39 = VM/ESA、40 = Interactive UNIX、41 = BSDUNIX、42 = FreeBSD、43 = NetBSD、44 = GNU Hurd、45 = OS9、46 = MACH Kernel、47 = Inferno、48 = QNX、49 = EPOC、50 = IxWorks、51 = VxWorks、52 = MiNT、53 = BeOS、54 = HP MPE、55 = NextStep、56 = PalmPilot、57 = Rhapsody、58 = Windows 2000、59 = 専用、60 = OS/390、61 = VSE、62 = TPF、63 = Windows Me、64 = Caldera Open UNIX、65 = OpendBSD、66 = 適用不能
CreateTime	BIGINT	実装によって設定される値。オブジェクトのカタログ情報が初めて書き込まれた時刻。Epochから経過したミリ秒として保存される。
Description	NVARCHAR(32)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
ModificationTime	BIGINT	実装によって設定される値。オブジェクトのカタログ情報が最後に書き込まれた時刻。Epochから経過したミリ秒として保存される。
Size	NVARCHAR(32)	ソフトウェアオブジェクト内に含まれる、すべてのファイルとコントロール ファイルの合計サイズ（バイト単位）（ファイルセット以外のオブジェクトの場合、値は必要に応じてダイナミックに算出される）。
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。

カラム名	データ型	説明
ControlDirectory	NVARCHAR(256)	エクスポートされたカタログ内でファイルセットのコントロール ファイルが保存されたファイルセット コントロール ディレクトリの名前。
ISKernel	bit	ファイルセットでカーネルの再構築が必要であるかどうかを表すブール値。
ISLocatable	bit	ファイルセットをインストール中に移動できるかどうかを表すブール値。
ISReboot	bit	ファイルセットを設定したホストをリブートする必要があるかどうかを表すブール値。
Location	NVARCHAR(256)	リロケータブル ファイルが保存されている場所を指定（この属性は、インストール済みソフトウェアのファイルセットのみで有効。移動がインストール中に指定された場合に限り、製品ディレクトリ属性と異なる）。
MediaSequenceNumber	NVARCHAR(256)	ファイルセットのファイルが存在するメディアを識別する値のリスト。
SoftwareElementState	SMALLINT	列挙値：0 = 展開可能、1 = インストール可能、2 = 実行可能、3 = 実行中
DataModelRevision	NVARCHAR(64)	POSIX互換性のバージョンに関する情報を提供。ソフトウェアのパッケージ化かインストールを行うオペレーティング システム リリースに対応。
InstanceIdentifier	NVARCHAR(16)	同一タグを含む製品（およびバンドルとファイルセット）のバージョンを区別する、唯一の属性（バージョンを区別する属性の単純形式であり、エクスポートされたカタログのコンテキスト内のみで有効）。
InstallDate	BIGINT	ソフトウェアがシステムにインストールされた年月日と時刻のタイムスタンプ。Epochから経過したミリ秒で保存される。
Architecture	NVARCHAR(64)	製品のバリエーションの区別に使用される、ベンダが定義した文字列。表示、およびソフトウェア仕様の解決に使用される（リビジョン属性とベンダ タグ属性が同一の製品において、ターゲット アーキテクチャごとにソフトウェアのバージョンが異なるか、別のバリエーション（サポートされているロケールなど）がある場合、アーキテクチャ属性の値は、バージョンごとに異なる。この値にその他の意味はない）。

カラム名	データ型	説明
MachineType	NVARCHAR(64)	POSIX.1 (2)、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なマシンメンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列（互換性の判断に使用）。
OperatingSystemName	NVARCHAR(64)	POSIX.1 (2)、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効な sysnameメンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列（互換性の判断に使用）。
OperatingSystemRelease	NVARCHAR(256)	POSIX.1 (2)、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なリリース メンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列（互換性の判断に使用）。
OperatingSystemVersion	NVARCHAR(64)	POSIX.1 (2)、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なバージョン メンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列（互換性の判断に使用）。
InstallSource	NVARCHAR(128)	ソフトウェアのインストール元の場所。
ISPatch	bit	このソフトウェア オブジェクトがパッチであるかどうかを表すブール値。
ISSparse	bit	ファイルセットが完成していないことを表すが、パッチではなく、更新として限定される（散在しているファイルセットで更新した結果、古いファイルセットのカタログ情報が新しいファイルセットにマージされて古いファイルセットが削除され、すべてのファイルセットの更新後もシステムが同じ状態になる。このオプションは、先行属性と併用し、散在するファイルセットが更新できるソフトウェアのバージョンを正確に示す必要がある。散在するファイルセットは、そのバージョンとともにインストールする場合、またはそのバージョンがすでにインストールされている場合に限って便利である）。
PatchState	NVARCHAR(16)	インストール済みパッチのみに適用される。インストール済みパッチの現在の状態を表す。
AppliedPatches	NVARCHAR(256)	インストール済みパッチのみに適用される。このパッチ ファイルセットが適用されているソフトウェアを指定する。
SupercededBy	NVARCHAR(256)	このパッチの前のパッチをリストする。

カラム名	データ型	説明
SavedFileDirectory	NVARCHAR(256)	このパッチ ファイルセットのインストール中にソフトウェアインストールによって使用され、patch_save_filesがそのときに真に設定されている場合に、パッチ適用済みファイルを保存する（ロールバック時、またはこのパッチの適用時に、この属性が使用されて、保存されたファイルにアクセスするディレクトリが判断される）。

HPUX_HFSテーブル

カラム名	データ型	説明
HFS_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	
SnapshotID	BIGINT	
Name	NVARCHAR(256)	CIM_FileSystem.Nameから継承。コンピュータシステム内のファイルシステムインスタンスのキーとして動作する、継承した名前。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	HPUX_HFSに一致。
CSCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
CSName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一である CIM_ComputerSystem.Nameと一致。
Root	NVARCHAR(256)	CIM_FileSystem.Rootから継承。ファイルシステムのルートを定義するパス名かその他の情報。
ReadOnly	bit	CIM_FileSystem.ReadOnlyから継承。ファイルシステムが読み取り専用として指定されていることを表す。
FileSystemType	NVARCHAR(256)	CIM_FileSystem.FileSystemTypeから継承。ファイルシステムのタイプ、および規則について説明する文字列（たとえば、\"NTFS\"や\"S5\"、およびファイルシステムの実装に関する追加情報など。さまざまなファイルシステム（S5など）が存在するので、このプロパティは文字列として定義される）。
FileSystemSize	BIGINT	CIM_FileSystem.FileSystemSizeから継承。ファイル システムの合計サイズ（バイト単位）（不明の場合は0）。
BlockSize	BIGINT	CIM_FileSystem.BlockSizeから継承。データストレージと検索のファイルシステムのブロック サイズ。

カラム名	データ型	説明
AvailableSpace	BIGINT	CIM_FileSystem.AvailableSpaceから継承。ファイルシステムの合計空き容量（バイト単位）。
RemoteFileSystem_Name	NVARCHAR(256)	CIM_ManagedSystemElement.Nameから継承。オブジェクトを認識するためのラベル。
FreelNodes	BIGINT	CIM_UnixLocalFileSystem.FreelNodesから継承。ファイル システム内に存在する空きノード数。
TotalNodes	BIGINT	CIM_UnixLocalFileSystem.TotalNodesから継承。ファイル システムで使用できるノードの総数。0は、このファイル システムに事前設定され制限がないことを示す。
FSReservedCapacity	BIGINT	CIM_UnixLocalFileSystem.FSReservedCapacityから継承。ファイル システムの予約データ容量（バイト単位）。
Bootable	bit	ファイル システムがブート可能であるかどうかを表す。
LargeFileSupported	bit	このファイル システムで巨大ファイルがサポートされていることを示す。
MinimumFreespace	bit	許可されている空きディスク容量の最低パーセンテージを示す。
FragmentSize	INT	ファイル システムのフラグメント ブロック サイズを指定する。
InodeSize	INT	ファイル システムのノードの密度を指定する。
SectorsPerTrack	INT	ディスク上のトラックごとのセクタ数。
TracksPerCylinder	INT	ディスク上のシリンダごとのトラック数を指定。
DiskCylindersPerCylinderGroup	INT	シリンダ グループごとのディスク シリンダ数を指定。
DiskRevolutionsPerSecond	INT	1秒間のディスク回転数を指定。
RotationalDelay	INT	転送完了割り込みをかけてから、同じディスクで新しい転送を開始するまでの予想時間（ミリ秒単位）を指定。
dc_MountedFileSystems	INT	現在マウントされているファイル システムの総数。

HPUX_LogicalVolumeテーブル

カラム名	データ型	説明
LogicalVolume_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_LogicalVolumeを部分的に識別。

カラム名	データ型	説明
SnapshotID	BIGINT	HPUX_LogicalVolumeを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(256)	システムの論理ボリュームの名前。
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報。
Access	SMALLINT	CIM_StorageExtent.Accessから継承。メディアが読み取り可能であるか書き込み可能であるか、またはその両方であるかを説明する（列挙値：0 = 不明、1 = 読み取り可能、2 = 書き込み可能、3 = 読み取りと書き込みを両方ともサポート、4 = Write Once）
LogicalExtentSize	BIGINT	HPUX_LogicalVolume.BlockSizeにHPUX_LogicalVolume.NumberOfBlocksをかけて算出。
Capacity	BIGINT	論理拡張の数による、論理ボリュームの容量。
MirrorCopyNumber	INT	論理ボリュームのミラー コピー数。
ConsistencyRecovery	NVARCHAR(64)	ミラー論理ボリュームの一貫性復元方法。ミラーリングされていない論理ボリューム（MWC、NOMWC、NONE）には値がない。
SchedulePolicy	NVARCHAR(64)	論理ボリュームのアクセス スケジュールポリシー。Striped、Sequential、Parallelのうちいずれかの値になる。
NumberOfStripes	INT	論理ボリュームのストライプ数。
StripeSize	INT	論理ボリュームのストライプ サイズ。キロバイト単位の値。
BadBlockRelocation	BIT	不良ブロック移動機能のスイッチ。オンである場合は真。オフである場合は偽。
AllocationPolicy	NVARCHAR(64)	論理ボリュームの割り当てポリシー。Non-Strict、Non-Strict/Contiguous、Strict、Strict/Contiguous、PVG-Strict、PVG-Strict/Contiguous、PVG-Strict/Distributed、Unknownのうちいずれかの値。
StaledLogicalExtent	INT	論理ボリュームの古い論理拡張のカウンタ。論理ボリュームがミラーリングされている場合に限り有効。
NumberReadAccesses	INT	論理ボリュームの読み取りアクセス数。
NumberWriteAccesses	INT	論理ボリュームの書き込みアクセス数。
Status	NVARCHAR(64)	論理ボリュームの利用可能ステータス。Available/State、Available/Syncd、Available、Unavailableのうちいずれかの値。

HPUX_NISServerServiceテーブル

カラム名	データ型	説明
NISServerService_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_NISServerServiceを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_NISServerServiceを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_ManagedSystemElement.Nameから継承。オブジェクトを認識するラベルを定義する。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一である CIM_ComputerSystem.Nameと一致。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	HPUX_NISServerServiceに一致。
ServerWaitFlag	SMALLINT	NISサーバ待機フラグ。ホストはNISサーバの応答を待機する（列挙値：0 = 不明、1 = その他、2 = 待機、3 = 待機なし）
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
ServerType	SMALLINT	管理対象システムがどのタイプのNISサーバであるかを返す。システムがNISサーバでない場合はNoneが返される（列挙値：0 = 不明、1 = その他、2 = なし、3 = NISマスタ、4 = NISスレーブ

HPUX_NTPServiceテーブル

カラム名	データ型	説明
NTPService_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_NTPServiceを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_NTPServiceを部分的に識別。
SystemCreationClassName	NVARCHAR(256)	CIM_ComputerSystemと一致。
SystemName	NVARCHAR(256)	NodeIDが同一である CIM_ComputerSystem.Nameの値と一致。
CreationClassName	NVARCHAR(256)	HPUX_NTPServiceに一致。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_ManagedSystemElement.Nameから継承。オブジェクトを認識するラベルを定義する。
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。

カラム名	データ型	説明
ServerAddress	NVARCHAR(512)	ファイル/etc/hostsに出現するホスト名によって指定されるか、ドット表記のIPアドレスである（複数のサーバは、カンマで区切られて指定される）。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。

HPUX_PhysicalVolumeテーブル

カラム名	データ型	説明
PhysicalVolume_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_PhysicalVolumeを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_PhysicalVolumeを部分的に識別。
Name	NVARCHAR(256)	システムの物理ボリュームの名前。
DeviceID	NVARCHAR(64)	CIM_LogicalDevice.DeviceIDから継承。論理デバイスを一意に指定するアドレスかその他の識別情報（物理ボリュームの名前が返されることがある。たとえば/dev/dsk/c0t0d0など）。
AlternatePVName	NVARCHAR(256)	代替物理ボリューム バス名が返されることがある（たとえば、/dev/rdisk/c0t0d0など。「dsk」を「rdsk」に置き換えたDeviceIDが返される）。
Status	NVARCHAR(32)	物理ボリュームの利用可能ステータス。AvailableかUnavailableが返される。
PhysicalExtentSize	BIGINT	バイト単位のサイズ。 HPUX_PhysicalVolume.BlockSizeに HPUX_PhysicalVolume.NumberOfBlocksを かけて算出。
Capacity	BIGINT	物理拡張の数による、物理ボリューム全体の容量。
Allocated	INT	物理拡張の数による、割り当て済み物理ボリュームのサイズ。
Free	INT	物理拡張の数による、空き物理ボリュームスペースのサイズ。
NumberStaledPEs	INT	物理ボリュームの古い物理拡張のカウント。

HPUX_Productテーブル

カラム名	データ型	説明
Product_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_Productを部分的に識別。

カラム名	データ型	説明
SnapshotID	BIGINT	HPUX_Productを部分的に識別。
IdentifyingNumber	NVARCHAR(64)	CIM_Product.IdentifyingNumberから継承。ソフトウェアのシリアル番号、ハードウェアチップのチップ番号、プロジェクト番号などの製品識別。
Name	NVARCHAR(256)	CIM_Product.Nameから継承。一般的に使用される製品名。
Version	NVARCHAR(64)	CIM_Product.Versionから継承。製品のリビジョンについて説明する、ベンダが定義した文字列。
Vendor	NVARCHAR(256)	CIM_Product.Vendorから継承。製品の供給元、または製品を販売する実体（メーカー、小売業者、OEM）の名前。
Architecture	NVARCHAR(64)	製品のバリエーションの区別に使用される、ベンダが定義した文字列（表示、およびソフトウェア仕様の解決に使用される。リビジョン属性とベンダ タグ属性が同一の製品において、ターゲット アーキテクチャごとにソフトウェアのバージョンが異なるか、別のバリエーション（サポートされているロケールなど）がある場合、アーキテクチャ属性の値は、バージョンごとに異なる。この値にその他の意味はない）。
Location	NVARCHAR(256)	インストール済みソフトウェアのソフトウェア仕様の解決に使用（特定製品の場所は、その場所にインストールされている、その製品のすべてのファイルセットに関係する。製品のリロケータブル ファイルが保存されているパスである）。
QualifierID	NVARCHAR(64)	ソフトウェアのインストール時にユーザが指定し、論理名を使用して製品（または製品バージョンのセット）を識別するために使用する。
CreateTime	BIGINT	実装によって設定される値。オブジェクトのカタログ情報が初めて書き込まれた時刻。Epochから経過したミリ秒として保存される。
Description	NVARCHAR(512)	CIM_ManagedElement.Descriptionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
ModificationTime	BIGINT	実装によって設定される値。オブジェクトのカタログ情報が最後に書き込まれた時刻。Epochから経過したミリ秒として保存される。

カラム名	データ型	説明
Size	NVARCHAR(32)	ソフトウェアオブジェクト内に含まれる、すべてのファイルとコントロール ファイルの合計サイズ（バイト単位）（ファイルセット以外のオブジェクトの場合、値は必要に応じてダイナミックに算出される）。
Caption	NVARCHAR(64)	CIM_ManagedElement.Captionから継承。テキストによる、オブジェクトの説明。
AllFileSets	NVARCHAR(256)	製品を構成する、実際のファイルセットを含む（現在インストールされているものではなく、製品用に定義されている、すべてのファイルセットのリスト。ファイルセット属性によって説明される）。all_filesets属性は、別のソフトウェア オブジェクトがこの製品に依存する場合、この製品の完成度を判断するために使用する。製品の前提条件や共通条件をチェックする場合、実際にはインストールされていないか使用できない、all_filesetsのfileset.tagが存在するということは、依存できないことを表す。前提条件や共通条件でテストしたすべての内容の代わりに、事前条件では依存仕様の内容が存在するかどうかテストされるため、事前条件には影響しない）。
ControlDirectory	NVARCHAR(256)	エクスポートされたカタログ内で製品のコントロール ファイルが保存された製品コントロール ディレクトリの名前。
Copyright	NVARCHAR(256)	製品の著作権表示。
Directory	NVARCHAR(256)	製品に一般的に関連する、ベンダが定義したディレクトリ（一般的には、製品のすべての（またはほとんどすべての）ファイルがインストールされるディレクトリである）。Is Locatable属性が真になっているファイルセットを含む製品の場合は、製品ディレクトリの一部を製品の場所で置き換えて、パスの先頭部分としてこのディレクトリを含むすべてのファイルを、インストール中にLocation Directoryに移動できる）。
InstanceIdentifier	NVARCHAR(16)	同一タグを含む製品（およびバンドル）のバージョンを区別する、唯一の属性（バージョンを区別する属性の単純形式であり、エクスポートされたカタログのコンテキスト内のみで有効）。
IsLocatable	bit	製品の任意のファイルセットでIs Locatable属性が真に設定されているかどうかを表すブール値。

カラム名	データ型	説明
PostKernelPath	NVARCHAR(256)	カーネル ファイルセットのインストール後に実行されるスクリプトのパス。カーネル ファイルセットを含む製品には、このパスが含まれる必要がある（この属性が提供される場合は、対応するスクリプトが実行される（インストール済みソフトウェアのルート ディレクトリの相対ディレクトリに存在する場合）。この属性が提供されない場合は、実装によって定義されたパス（属性のデフォルト値）が使用される（インストール済みソフトウェアのルート ディレクトリの相対ディレクトリに存在する場合）。代替ルート ディレクトリを使用すると、インストール済みソフトウェアのルート ディレクトリの相対ディレクトリにデフォルト パスが存在することになる）。
LayoutVersion	NVARCHAR(64)	この属性と値は、将来使用するために組み込まれている。
MachineType	NVARCHAR(64)	POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なマシンメンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列（互換性の判断に使用）。
SKUNumber	NVARCHAR(64)	この属性の値に関連する意味は定義されていない。部品番号、注文番号、シリアル番号など、ベンダが定義した値の保存に使用できる。
OperatingSystemName	NVARCHAR(256)	POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効な sysnameメンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列。互換性の判断に使用。
OperatingSystemRelease	NVARCHAR(256)	POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なリリースメンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列。互換性の判断に使用。
OperatingSystemVersion	NVARCHAR(64)	POSIX.1（2）、セクション4.4.1によって定義されているuname構造の有効なバージョンメンバを説明するソフトウェア パターン マッチング文字列。互換性の判断に使用。
ISPatch	bit)	このソフトウェア オブジェクトがパッチであるかどうかを表すブール値。
InstallSource	NVARCHAR(128)	ソフトウェアのインストール元の場所。

カラム名	データ型	説明
DataModelRevision	NVARCHAR(8)	POSIX互換性のバージョンに関する情報を提供。ソフトウェアのパッケージ化インストールを行うオペレーティング システム リリースに対応。
InstallDate	BIGINT	ソフトウェアがシステムにインストールされた年月日と時刻のタイムスタンプ。Epochから経過したミリ秒で保存される。

HPUX_VolumeGroupテーブル

カラム名	データ型	説明
VolumeGroup_LUID	BIGINT	このテーブル行を一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	HPUX_VolumeGroupを部分的に識別。
SnapshotID	BIGINT	HPUX_VolumeGroupを部分的に識別。
CollectionID	NVARCHAR(64)	CIM_DiskGroup.CollectionIDから継承。収集オブジェクトの識別。
Name	NVARCHAR(256)	システムのボリューム グループの名前。
AccessPermission	NVARCHAR(64)	システムのボリューム グループのアクセス権。Read-Only、Read-Writeのどちらかになる。
Status	NVARCHAR(32)	システムのボリューム グループの利用可能ステータス。AvailableかUnavailableのどちらかになる。
PhysicalExtentSize	INT	基礎的な物理拡張サイズ（バイト単位）。
Capacity	INT	物理拡張の数による、ボリューム グループ全体の容量。
Allocated	INT	物理拡張の数による、ボリューム グループで割り当てられたスペース。
FreeSpace	INT	ボリュームグループの空き物理拡張の数。
MaxNumberOfPVs	INT	ボリューム グループで定義できる物理ボリュームの最大数。
NumberOfDefinedPVs	INT	物理ボリュームから割り当て可能な物理拡張の最大数。
NumberOfActivePVs	INT	ボリューム グループで現在定義されている物理ボリュームの数。
MaxNumberOfLVs	INT	ボリューム グループで定義できる論理ボリュームの最大数。
NumberOfDefinedLVs	INT	ボリューム グループで現在定義されている論理ボリュームの数。
NumberOfActiveLVs	INT	ボリューム グループで現在アクティブになっている論理ボリュームの数。
NumberOfPVGroups	INT	ボリューム グループの物理ボリューム グループの総数。

IPAddressテーブル

IPAddressテーブルには、デバイスの認識済みIPアドレスが含まれる。IPAddressのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*DeviceKey	INT	収集済みデータ セットにシステムを関連付ける。システム情報は、DeviceKeyを使用してデバイステーブルにリンクされる。
*ipindex	INT	システムのアドレス インデックス。たとえば、0は最初のIPアドレス、1は第2 IPアドレスということになる。
*IPAddress	CHAR(16)	TCP/IPアドレス (x.x.x.x)。
IPAddressNumber	bigint	IPアドレスの数値表現。
MACaddr	CHAR(12)	システムのネットワーク カードのMACアドレス (および「:」や「-」などの区切り文字)。
IPsubnetMask	CHAR(16)	TCP/IPサブネット マスク (x.x.x.x)。
IFType	IFType	インタフェース タイプ。

注記:



アスタリスク (*) は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

IPProtocolEnd_NetworkPortテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。

注記:



アスタリスク (*) は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

IPXAddressテーブル

IPXAddressテーブルには、システムの認識済みIPXアドレスが含まれます。IPXAddressのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*DeviceKey	INT	収集済みデータ セットにシステムを関連付ける。システム情報は、DeviceKeyを使用してデバイステーブルにリンクされる。
*IpxIndex	INT	システムの一意的IPXインデックスであり、1つのシステムに複数のIPXアドレスが存在する場合におもに使用される。
*IPXAddress	CHAR(25)	このシステムのIPXアドレス。

注記:

アスタリスク（*）は、フィールドがテーブルのプライマリ キーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリ キーはそれぞれのフィールドに関連します。

OperationalStatus_SVvaluesテーブル

カラム名	データ型	説明
OperationalStatusId	BIGINT	レポート生成用。
OperationalStatusValue	BIGINT	レポート生成用。

PhysicalPackage_Productテーブル

カラム名	データ型	説明
PartComponent	BIGINT	レポート生成用。
GroupComponent	BIGINT	レポート生成用。

SCSIProtoCont_SCSIProtoEndテーブル

カラム名	データ型	説明
AvailableSAP	BIGINT	レポート生成用。
MangedElement	BIGINT	レポート生成用。

SCSIProtocolCont_SoftwareIdテーブル

カラム名	データ型	説明
System	BIGINT	レポート生成用。
InstalledSoftware	BIGINT	レポート生成用。

SCSIProtoEnd_SCSIProtoEndテーブル

カラム名	データ型	説明
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。

NetworkAddresses_valuesテーブル

カラム名	データ型	説明
NetworkAddressesId	BIGINT	この行を一意に識別する
NetworkAddressesValue	NVARCHAR(64)	レポート生成用。
NetworkAddressesPos	INT	レポート生成用。

NodeSnapshotテーブル

カラム名	データ型	説明
Snapshot_LUID	BIGINT	NodeSnapshotを部分的に識別
NodeID	BIGINT	NodeSnapshotを部分的に識別。
Tag	NVARCHAR(256)	ユーザが定義したタグを含む。
Description	NVARCHAR(512)	ユーザが定義したタグの説明。
CollectionDateTime	BIGINT	Epochから経過したミリ秒として保存される。
DetailedInformation	NVARCHAR(512)	詳細な収集ステータス情報。
ReturnCode	SMALLINT	バイナリ ステータス情報。ゼロはエラーがないことを示す。
Status	NVARCHAR(256)	システムのスナップショットのステータス。さまざまなレポートによって使用される。
DataAvailable	INT	現在のところは未使用で、予約されている。
FilterID	BIGINT	現在のところは未使用で、収集フィルタID用に予約されている。

NodeTypesEnumテーブル

カラム名	データ型	説明
enumOrd	INT	このエントリの列挙型識別子（deviceTypesEnumビューでリンクする場合に使用できる。デバイス テーブルの productTypeの値にも一致）。
enumLabel	char(64)	製品タイプの識別に使用する、一意の文字列（表示不可）（すべてのインストールで一意であることが保証されている、唯一の値）。

NodeSubTypesEnumテーブル

カラム名	データ型	説明
enumOrd	INT	このエントリの列挙型識別子（deviceSubTypesEnumビューでリンクする場合に使用できる）。
enumLabel	char(64)	製品サブタイプの識別に使用する、一意の文字列（表示不可）（すべてのインストールで一意であることが保証されている、唯一の値。デバイス テーブルの productSubType フィールドにリンクできる）。

Noticesテーブル

Noticesテーブルには、デバイス検出イベントやSNMPトラップなど、受信したか生成されたすべてのイベントが含まれます。Noticesのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*NoticeId	INT	通知インスタンスのユニーク識別子
State	INT	<ul style="list-style-type: none"> ● 1=確認中 ● 2=未確認（アクティブ） ● 5=確認済み
NoticeType	INT	noticeTypeテーブルのインデックス
NoticeSeverity	INT	1 = 正常、2 = 警告、3 = マイナー、4 = メジャー、5 = クリティカル、100 = 情報
NoticePriority	INT	予約済み。
DeviceKey	INT	デバイス テーブルのインデックス。
Generated	bigint	通知が生成されたか、通知を受信した日時。1970 UTCから経過したミリ秒で表現。
Cleared	bigint	通知がクリアされた日時。1970 UTCから経過したミリ秒で表現。
Completed	bigint	予約済み。
LastChecked	bigint	予約済み。
LastModified	bigint	通知がクリアされた日時。1970 UTCから経過したミリ秒で表現。
JobID	char(128)	この通知が、あるジョブに関連している場合、そのジョブのジョブID。
Timestamp	bigint	予約済み。
AssignedTo	VARCHAR (255)	イベントが割り当てられているユーザ名。
Comments	VARCHAR (1000)	1つ以上のイベントにユーザが入力したコメント。

注記:

アスタリスク(*)は、フィールドがテーブルのプライマリキーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリキーはそれぞれのフィールドに関連します。

NoticeTypeテーブル

NoticeTypeテーブルでは、処理できるすべてのイベントタイプが定義されます。NoticeTypeのフィールドについて、次の表で説明します。

カラム名	データ型	説明
*NoticeType	INT	システムが割り当てた識別子。
GUID	Char(32)	システムが割り当てた、ユニーク識別子。
TypeIdStr	CHAR(255)	イベントの一意の文字列識別。
dispHandler	CHAR(255)	イベント表示の内部ハンドラ。
rxHandler	Char(255)	イベント受信の内部ハンドラであり、一般的には空白。
defaultSeverity	Int	イベントで使用するデフォルト深刻度。
Privilege	Int	イベント詳細の表示にユーザが必要とする内部権限レベル。
ServiceEnable	INT	CRSMがインストールされている場合に使用される。
ServiceEnable	INT	CRSMがインストールされている場合に使用される。
ProviderID	INT	CRSMがインストールされている場合に使用される。

注記:

アスタリスク(*)は、フィールドがテーブルのプライマリキーの一部であることを表します。同じテーブルの複数のフィールドにアスタリスクが表示されている場合、プライマリキーはそれぞれのフィールドに関連します。

OperationalStatus_CSvaluesテーブル

カラム名	データ型	説明
OperationalStatusId	BIGINT	レポート生成用。
OperationalStatusValue	SMALLINT	レポート生成用。
OperationalStatusPos	INT	レポート生成用。

OperationalStatus_NPvaluesテーブル

カラム名	データ型	説明
OperationalStatusId	BIGINT	レポート生成用。
OperationalStatusValue	SMALLINT	レポート生成用。
OperationalStatusPos	INT	レポート生成用。

operationalStatus_PCvaluesテーブル

カラム名	データ型	説明
OperationalStatusId	BIGINT	レポート生成用。
OperationalStatusValue	SMALLINT	レポート生成用。
OperationalStatusPos	INT	レポート生成用。

Snapshotテーブル

カラム名	データ型	説明
SnapshotID	BIGINT	このスナップショットを一意に定義するLUID。
OverallStatus	NVARCHAR(256)	スナップショットの全体的なステータス。スナップショットが正常かどうかを表すコード。
SnapshotTag	NVARCHAR(256)	ユーザが定義したタグを含む。
CollectionDateTime	BIGINT	Epochから経過したミリ秒として保存される。

SPAllocatedFromStoragePoolテーブル

カラム名	データ型	説明
SPAllocFromStoragePool_LUID	BIGINT	SPAllocFromStoragePoolを一意に定義するLUID。
NodeID	BIGINT	レポート生成用。
SnapshotID	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
SpaceConsumed	BIGINT	レポート生成用。

SVAllocatedFromStoragePoolテーブル

カラム名	データ型	説明
SVAllocFromStoragePool_LUID	BIGINT	SVAllocFromStoragePoolを一意に定義するLUID。

カラム名	データ型	説明
NodeID	BIGINT	レポート生成用。
SnapshotID	BIGINT	レポート生成用。
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。
SpaceConsumed	BIGINT	レポート生成用。

TCPProtoEnd_IPProtoEndテーブル

カラム名	データ型	説明
Antecedent	BIGINT	レポート生成用。
Dependent	BIGINT	レポート生成用。

Windowsのイベント ログ

Windows NT/2000イベント

HP Systems Insight Managerでは、通常操作中に、次のイベントをNTイベント ログに書き込むことができます。

イベントID	イベント タイプ
1	エラー
2	警告
3	情報

Windows NT/2000イベント ログ エラー メッセージ

メッセージ	説明
HP Systems Insight Manager error: NNNN StartServiceCtrlDispatcher failed	無効なコマンドライン引数を指定してHP Systems Insight Managerサービスを開始しようとした。
HP Systems Insight Manager error: NNNN SetServiceStatus failed	HP Systems Insight Managerからステータスを取得しようとしたとき、エラーが返されました。
HP Systems Insight Manager Application Stopped Abnormally	HP Systems Insight Managerアプリケーションが異常終了しました。
SNMP and Snmptrap services required by HP Systems Insight Manager are not installed or not running	SNMPサービスがインストールされていないか停止中であることをHP Systems Insight Manager サービス プログラムが検出したので、HP Systems Insight Managerアプリケーションが起動されませんでした。サービス プログラムは、自動的に終了します。
Failed to set SQL Server 'show advanced options' to 1	HP Systems Insight Managerでデータベース サーバを設定できませんでした。

メッセージ	説明
Failed to set SQL Server 'min server memory' to MemorySizeHere MB	HP Systems Insight Managerでデータベースサーバを設定できませんでした。
The SQL Server 'min server memory' is set to MemorySizeHere MB, which is less than the recommended MemorySizeHere MB	HP Systems Insight Managerにより、ユーザが指定したデータベースサーバメモリ使用法が設定されました。
Failed to set SQL Server 'show advanced options' back to 0	HP Systems Insight Managerでデータベースサーバを設定できませんでした。
NoticeDescriptionHere	HP Systems Insight Managerがセキュリティ通知を受信しました。
Modified SQL Server 'min server memory' from 0 to MemorySizeHere MB	HP Systems Insight Managerにより、ユーザが指定したデータベースサーバメモリ使用法が設定されました。
Attempting to Restart HP Systems Insight Manager Application	HP Systems Insight Managerサービスプログラムの自動再起動機能が、HP Systems Insight Managerアプリケーションを再起動しようとしています。
HP Systems Insight Manager Application Started	HP Systems Insight Managerアプリケーションが、HP Systems Insight Managerサービスプログラムによって起動されました。
HP Systems Insight Manager Application Stopped	HP Systems Insight Managerアプリケーションが正常終了しました。
HP Systems Insight Manager Application stopped Abnormally	HP Systems Insight Managerアプリケーションが異常終了しました。
HP Systems Insight Managerサービスがインストールされました	HP Systems Insight Managerプログラムが正常に作成され、HP Systems Insight Managerのインストールが完了しました。
HP Systems Insight Managerサービスが削除されました	HP Systems Insight Managerサービスプログラムの停止と削除が、正常に実行されました。
HP Systems Insight Managerサービスが開始しました	HP Systems Insight Managerサービスプログラムが、正常に起動しました。
HP Systems Insight Managerサービスが停止しました	HP Systems Insight Managerサービスプログラムが、正常に停止しました。
CPU Cluster Monitor Resource	接続の問題があるか、またはCPU利用率が定義可能なスレッシュホルドを超えました。
Disk Cluster Monitor Resource	接続の問題があるか、またはディスク容量が定義可能なスレッシュホルドを超えました。
System Cluster Monitor Resource	システムの情報を受信する接続の問題があります。
SNMP and SNMP trap services required by HP Systems Insight Manager are not installed or not running	SNMPサービスがインストールされていないか停止中であることをHP Systems Insight Managerサービスプログラムが検出したので、HP Systems Insight Managerアプリケーションが起動されませんでした。サービスプログラムは、正常に終了します。

メッセージ	説明
DCOM was unable to communicate with computer<system> using any of the configured protocols	WMIエラーのログが無効です。詳細については、「WMI Mapperプロキシ」を参照してください。

サービスとサポート

サービスおよびサポート

HP Systems Insight Managerに対するサポートは、基本となるハードウェアのサポートの補助として提供されています。HPサポート ページの目的は、各種の製品、サービス、およびサポート関連リソースを提供することです。特に、以下の目的でこのページを使用できます。

- <http://www.hp.com/servers/manage>（英語）にアクセスしてください。このWebサイトは、システム管理製品専用です。このサイトには、豊富な製品情報やサービス関連情報が掲載されています。
- HPのサポート ホームページやWebサイトにアクセスしてください。電話番号、オンラインツール、および情報が掲載されています。
- HP製品についてのご質問は、HPサポート フォーラムにお問い合わせください。HPサポート フォーラム（英語）は、次の場所にあります。<http://forums.itrc.hp.com/>（英語）

各自の設定を詳しく記録しておく、トラブルシューティングプロセスを大幅にスピードアップできます。HPのサービス窓口からサポートを受ける場合は、以下を参照してください。

- 管理サーバのメーカー、モデル、シリアル番号情報
- バージョン番号、適用されたすべてのService Packのリスト、HP PSPのバージョン、および適用されたInsightエージェントの名前とバージョンなどの、オペレーティング システム情報
- ハードウェア設定情報
 - Surveyユーティリティの出力、またはHP Insight Diagnosticsからの出力、または[システムの参照 (Inspect)]の印刷出力
 - システム コンフィギュレーション ユーティリティの印刷出力
 - [システムの参照 (Inspect)]ユーティリティまたはシステム コンフィギュレーション ユーティリティの印刷出力に示されない、サードパーティ製の装置の説明

用語解説

[すべてのツール]ツールボックス	権限があるシステムかシステム グループのすべてのツールに完全にアクセスできる、デフォルトのツールボックス。
[監視ツール]ツールボックス	管理対象システムの状態を表示するツールが含まれるが、管理対象システムの状態を変更するツールが含まれないデフォルトツールボックス。
common information model object manager (CIMOM)	CIMOMは、Webベース エンタープライズ管理 (WBEM) プロバイダと管理アプリケーション (HP Systems Insight Manager など) の間の通信のインタフェースとして機能する。SMI-S プロバイダ用のインタフェースを提供するCIMOMは、SMI CIMOMと呼ばれることがある。
CPUポーリング率	監視対象システム上でHP Insightマネジメント エージェントがレポートするCPUの利用率を、クラスタ監視CPUリソースがチェックする頻度のこと。
DMI	参照 デスクトップ管理インタフェース
DMIを使用したシステム情報	DMI V2規格に準拠し、テストに合格したエージェント。DMI V2に準拠したエージェントのリストについては、 http://www.dmtf.org を参照。
Email通知	HP Systems Insight Managerの通知タスクの1つ。電子メールで通知を送信する。
hosts ファイル	IPアドレスなど、HP Systems Insight Managerデータベースのクリティカル システムの全情報が含まれるファイル。
HP Insightマネジメント エージェント	ユーザの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。
HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM)	Microsoft Virtualサーバ、ならびにVMwareのGSXおよびESXで、仮想マシンを1か所で集中的に管理および制御する。VMMは、HP Systems Insight Managerに統合されることにより、HP ProLiantホスト サーバと仮想マシンを統一的に管理できる。
HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack	HP Systems Insight Managerに統合される、必要な機能をすべて備えた脆弱性評価およびパッチ管理ツール。サーバの可用性に影響を及ぼす可能性のある問題の予防的識別と解決を簡素化して、中央の単一コンソールに統合。
HP ProLiantおよびIntegrity Support Pack	HPによってバンドルされたHP製ソフトウェア コンポーネントのセット。特定のオペレーティング システムで動作することが確認されている。ProLiantおよびIntegrity Support Packには、ドライバ コンポーネント、エージェント コンポーネント、ならびにアプリケーションおよびユーティリティ コンポーネントが含まれる。これらは、すべて一緒にインストールしても問題ないことが確認されている。
HP Systems Insight Manager データベース (データベース)	ユーザ、システム、ツールボックスなど、HP Systems Insight Managerに関する重要な情報を保存するデータベース。

HPバージョン コントロール エージェント (VCA)	サーバにインストールし、サーバにインストールされているHP製ソフトウェアを確認するためのエージェント。バージョン コントロール レポジトリ マネージャエージェントをポイントするようにバージョン コントロール エージェントを設定すると、バージョンを簡単に比較したり、レポジトリからソフトウェアを更新したりできるようになる。
HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ (VCRM)	ユーザ定義のレポジトリに保存されているHP製ソフトウェアを管理するHPエージェント。
HyperText Transfer Protocol (HTTP)	ワールド ワイド ウェブで使用される、基礎となるプロトコル。
Internetwork Packet Exchange (IPX)	Novell NetWareオペレーティング システムで使用されるネットワーク プロトコル。また、コネクションレス通信で 사용되는データグラム（パケット）プロトコル。
IP範囲	指定した範囲内のIPアドレスを持つシステム。
Javaデータベース接続性 (JDBC)	ODBCと同様に、アプリケーション プログラム インタフェース（API）のこのセットはJavaアプレットのデータベース アクセスを可能にする標準メカニズムを提供する。
Javaリモート メソッド呼び出し (RMI)	Javaオブジェクトが、別のJavaオブジェクトとリモートでやり取りできるようにするプロトコル セット。
Microsoftクラスタ サービス ステータス ページ	Microsoftクラスタ サーバによって定義されたクラスタ ステータスを要約し、MSCS定義のクラスタ属性のステータスと値をリストするページ。クラスタ監視は、色を使用してMSCS ステータス値（正常、劣化、障害、その他）を基にステータスを表示する。
Open Service Event Manager (OSEM)	Insightマネジメント エージェントが動作している、サポートされているシステム（ProLiantおよびIntegrity）の問題のレポートを収集し、フィルタリングし、送信することができる。さらに、システムで問題が検出されると、サービス イベント通知を自動的に送信する。
Open Service Event Manager (OSEM)	Insightマネジメント エージェントが動作している、サポートされているシステム（ProLiantおよびIntegrity）の問題のレポートを収集し、フィルタリングし、送信することができる。さらに、システムで問題が検出されると、HP Systems Insight Managerにサービス イベント通知を自動的に送信する。
Performance Management Pack (PMP)	HP ProLiantサーバのハードウェア障害の検出、分析、説明を行うソフトウェア ソリューション。PMPツールは、オンライン分析、オフライン分析、CSVファイル生成レポート、システム概要レポート、ステータス分析レポート、設定、ライセンス、手動ログ パージから構成される。
ProLiant Essentialsライセンス キー	HPがお客様に与える契約上の許可であり、ライセンスの特定のインスタンスを示すライセンス コードの形式で具体化される。1つのライセンスは、1つのキーで表現されたり、キーの集合によって表現されたりする。

ProLiant Support Pack	HPによってバンドルされたHP製ソフトウェア コンポーネントのセット。特定のオペレーティング システムで動作することが確認されている。ProLiant Support Packには、ドライバ コンポーネント、エージェント コンポーネント、ならびにアプリケーションおよびユーティリティ コンポーネントが含まれる。これらは、すべて一緒にインストールしても問題ないことが確認されている。
Red Hatパッケージ マネージャ (RPM)	Red Hatパッケージ マネージャは、強力なパッケージ マネージャで、個々のソフトウェアパッケージをビルド、インストール、クエリ、確認、アップデート、およびアンインストールするために使用できる。パッケージは、ファイルのアーカイブと、名前、バージョン、および説明を含むパッケージ情報で構成される。
Secure HTTP (HTTPS)	HTTPプロトコルの拡張機能であり、Web上でデータを安全に送信できる。
Secure Shell (SSH)	ネットワークを通して別のシステムにログインし、そのシステムでコマンドを実行するプログラム。あるシステムから別のシステムにファイルを移動でき、安全でない経路でも安全な認証と通信を提供する。
Secure Sockets Layer (SSL)	HTTPとTCPの間にあって、クライアントとサーバの間でプライバシーやメッセージ整合性を提供する標準プロトコル層。一般に、SSLは、クライアントが正しいサーバと通信していることを保証するサーバ認証に使用される。アプリケーション プロトコルに依存しない。
Service Advertising Protocol (SAP)	ネットワークに接続されているサーバのサービスとアドレスの識別に使用されるNetWareのプロトコル。
Short Message Service (SMS)	簡潔なテキスト メッセージをワイヤレス電話に直接送信する便利な方法。最大メッセージ長は140文字。
Simple Network Management Protocol (SNMP)	HP Systems Insight Managerによってサポートされる管理プロトコルのうちの1つ。ネットワークシステムとほとんどのサーバによって広く使用される、従来の管理プロトコル。MIB-2は、すべてのベンダに一貫して提供されている標準情報である。
SMI CIMOM	参照 common information model object manager
SMI-Sプロバイダ	ストレージ管理のための明確に定義されたインタフェースを実装する業界標準WBEMプロバイダ。HBA、スイッチ、テープライブラリ、およびストレージ アレイのメーカーは、それらのシステムをSMI-Sプロバイダと統合するか、SMI-Sプロバイダを個別のソフトウェアパッケージとして提供することができる。 参照 Webベース エンタープライズ管理
SNMPトラップ	障害を通信するのに使用するシステムで、SNMPエージェントによって生成される非同期イベント。
SNMPを使用したシステム情報	SNMP MIB-2規格に準拠するエージェント。

SNMP通信設定	SNMP通信をサポートするシステムとの通信時に使用されるデフォルトのSNMPコミュニティ名。
Storage Management Initiative Specification (SMI-S)	SNIA（Storage Networking Industry Association）によって策定された標準管理インタフェース。SMI-Sによって、複数のベンダのストレージ デバイスを管理するための共通インタフェースが提供され、管理が容易になる。SMI-Sは、業界標準の共通情報モデルとWebベース エンタープライズ管理技術を使用する。
Surveyユーティリティ	ハードウェアとオペレーティング システムの設定情報を収集および配信するエージェント（またはオンライン サービス ツール）。この情報は、サーバがオンラインの間に収集される。
System Management Homepage	HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアのHPサイトによって使用される統合されたソフトウェア。HTTPおよびHTTPS上の通信用。HP Webベース システム マネジメントソフトウェアに対する機能とセキュリティの統一セットを提供。
Tomcat	WebサーバとしてHP Systems Insight Managerが使用する、Java サブレット技術とJavaサーバ ページ技術のオープンソース実装。
Virtual Server Environment (VSE)	HP Virtual Server Environmentは、HP-UX、Linux、およびWindowsサーバ用の統合サーバ仮想化製品で、サーバ リソースの利用率を最適化する柔軟なコンピューティング環境を提供する。VSEは、動的にサイズを変更できる仮想サーバのプールによって構成される。各仮想サーバは、サービス レベル目標やビジネス優先度に応じて拡張または縮小される。詳細については、HPのWebサイト http://hp.com/go/vse （英語）を参照。
WBEMサービス	HP WBEM Services for HP-UXは、WBEM標準とDMTF標準を使用してHP-UXシステム リソースを管理するHP製品である。
Web-Based Enterprise Services (WEBES)	システムのダウンタイムを防止または削減するためのツールスイート。
Webベース エンタープライズ管理 (WBEM)	システム、ネットワーク、ユーザ、およびアプリケーションを、複数のベンダ環境にまたがって管理するための業界イニシアチブ。WBEMは、システム管理を簡素化し、WBEM準拠アプリケーションで読み出すことのできるソフトウェア データとハードウェア データへのアクセス性能を向上させる。
Web起動対応 (WLA)	Webサーバを使用してWebブラウザで起動するツールの実行タイプ。WLAツールは、複数のシステムに対処するように設計できる。
Windows Management Instrumentation (WMI)	ネットワーク、一般にはエンタープライズ ネットワーク内のシステムの管理と制御を可能にする、Windowsオペレーティング システムのAPI。
X Windowシステム	プラットフォーム間ウィンドウ システムであり、クライアント/サーバモデルを使用して、ネットワーク経由でサービスを

	配布する。これにより、リモート コンピュータ上でアプリケーションやツールを実行できるようになる。
XML文書	XMLで表現されたデータの集合。
Xクライアント	Xサーバ上に表示されるアプリケーションまたはツール。Xクライアントは、Xアプリケーションとも呼ばれる。
Xサーバ	Xクライアントの要求を受け入れて、それに基づいて動作するローカル アプリケーション。
イベント	<p>管理環境に何か変更があった場合に、特定ユーザに通知する情報。イベントはSNMPトラップから生成され、このリリースでは事前に設定されている。重要なイベントが発生すると、HP Systems Insight Managerはトラップを受信する。イベントは次のように定義される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 警告。 このタイプのイベントは、問題に発展する可能性のある状態を示す。 ● 情報。 このタイプのイベントに注意する必要はなく、これらは、便利な情報として提供される。 ● 正常。 このイベントは問題ではない。 ● マイナー。 このタイプのイベントは、さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータスを示す。 ● メジャー。 このタイプのイベントは、差し迫った障害を表す。 ● クリティカル。 このタイプのイベントは、障害が発生しており、すぐに対処する必要があることを示す。
イベントを確認済みに変更	未確認から確認済みにイベント ステータスを変更すること。
イベント概要	製品タイプごとに未確認イベントを要約する表。
インスタント サポート エンタープライズ エディション (ISEE)	データセンタ内の、HP-UX、Microsoft Windows、Linux、OpenVMS、Tru64 Unix、NonStop、およびSun Solarisサーバ、ならびにストレージ システム、ネットワーク システムの可用性を向上させるために、予防的なりモート監視、診断、トラブルシューティングを行う。
インストールされているバージョン	バージョン コントロール エージェントがインストールされているサーバにインストールされている、特定のHP製ソフトウェア コンポーネント。
インターネット プロトコル (IP)	ネットワーク上で送受信されるデータグラム（パケット）のフォーマットとアドレス指定スキーマを指定する。ほとんどのネットワークは、送信先と送信元の仮想接続を確立するTCP（Transmission Control Protocol）と、このIPを組み合わせている。
エージェント	ユーザの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。HP Systems Insight Managerエージェントでは、ハードウェアとソフトウェアの詳細情報、およびサブシステムのステータスが、HP Systems Insight Managerと多数のサードパーティ製管理アプリケーションに提供される。

	参照 マネジメント エージェント
エージェントの設定および修復	エージェントの設定および修復機能は、SNMP設定の認証情報や、HP Systems Insight Managerとターゲット システムの間の信頼関係を修正できるHP Systems Insight Managerのプラグイン機能。7.1以前のエージェントがインストールされているターゲット システム上のWebエージェントパスワードを更新することもできる。
エージェント設定のレプリケート	Webベース エージェント設定をシステムのグループにコピーするツール。
エンクロージャ	1組のブレード サーバを収納する物理的なコンテナ。エンクロージャは、電源と信号を供給するバックプレーンと配線や温度センサ用のその他のハードウェアから構成される。CPUの電源やサーバの電源もホストする。
カスタム コマンド	HP Systems Insight Managerを実行するサーバでアプリケーションを起動するタスク。
キー	暗号法で、単体または暗号デコーダ（対応するパブリックまたはプライベート キー）と一緒に使用される値。従来のプライベート キー暗号法では、お互いがメッセージを暗号化および解読できるように、キーまたは暗号キーが通信者によって共有されている。このシステムには、ある人がキーをなくすとシステムが破綻するというリスクがある。パブリック キー暗号法では、プライベート キーはパブリック キーと関連するため、システムの各人が共有されない自分独自のプライベート キーを所有している。
キーストア	キーのリストを保管するデータベース。キーストアには、自分のプライベート キーを入れることができる。また、証明書に公開されているパブリックキーのリストを入れることもできる。 参照 キー
クライアント	HP製デスクトップ、ハンドヘルド、およびワークステーション システム。
クラスタ	複数の個別システムから構成される、並列または分散コンピューティングシステムであり、単一で統合されたコンピューティング リソースを形成する。機能、複雑さ、そして目的に応じて、クラスタの最適な構成は異なる。
クラスタ システム識別	クラスタ システムに関する情報。この情報はデータベースに格納される。
クラスタIPアドレス	クラスタのIPアドレス。
クラスタ監視	HP Systems Insight Managerの中心的なコンポーネント。クラスタ監視では、マルチノードクラスタの監視と管理ができる。また、クラスタ監視は、異機種環境で複数のクラスタ プラットフォームを管理する。
クラスタ監視リソース	クラスタ内でクラスタ化されたノードの監視または管理機能を提供するプログラム。

グラフィカル ユーザ インタ フェース (GUI)	コンピュータのグラフィック機能を利用して、プログラムを簡単に使用できるようにするプログラム インタフェース。HP Systems Insight Manager GUIはWeb対応であり、Webブラウザ内に表示される。
クリティカル ステータス	HP Systems Insight Managerが管理対象システムとやり取りできないときに生成される状態。
コマンド ライン インタ フェース (CLI)	コマンド ラインは、オペレーティング システム コマンド シェルのコマンド シェルからコマンドを直接実行できるプログラム インタフェース。
コンポーネント	コンポーネントは、インストール可能な（対話式またはサイレント）単一の自己記述バイナリ ファイルで、ファームウェア イメージ、ドライバ、エージェント、ユーティリティなど、マネジメント ツールやアップデート ツールでサポートされるソフトウェアを含む。
サーバ ブレード	一般には、マイクロプロセッサ、メモリ、ネットワーク カードなどを搭載する超高密度サーバシステムのこと。ラックに設置可能なエンクロージャに挿入して、電源、ファン、スイッチなどのコンポーネントを他のサーバブレードと共有できる。サーバブレードは、従来のラックマウント型サーバやタワー型サーバと比較して、一般に、コスト効率が高く、配備に時間がかからず、成長や変化への対応が容易である。 参照 エンクロージャ, ラック
サーバ ブレードの図による 位置の特定	各エンクロージャおよびラック内の、ProLiant BL e-Classおよびp-Classサーバを視覚的に表示する機能。 参照 エンクロージャ, ラック
サブネット	TCP/IPネットワークで、IPアドレスのプレフィックスが同じシステムの集まり。たとえば、10.10.10. で始まるIPアドレスを持つすべてのシステムが、同じサブネットに含まれる。
システム	TCP/IPまたはIPXを介して通信するネットワーク上のノード。システムを管理するには、あるタイプの管理プロトコル（SNMP、DMI、WBEMなど）がシステムに存在する必要がある。システムの例としては、サーバ、ワークステーション、デスクトップ、ハンドヘルド、ルーター、スイッチ、ハブ、およびゲートウェイがある。
システム グループ	システム収集（システム グループが作成された時点でのソース収集の静的なスナップショット）に基づくシステム グループ。ユーザ認証に使用する。
システム ステータス パネル	画面の左側にあるGUIセクションで、ステータス情報とシステムまたはイベント警告を表示する。
システム タイプ	12のタイプが提供されている。これらのタイプの1つをもとに独自のタイプを追加できる。たとえば、Serverタイプを使用してMyServerタイプを作成する。このタイプは依然としてサーバであり、同じ方法でレポートされるが、独自の指定を持っている。

システム タイプ管理 (STM)	検出と識別のデフォルト動作を修正し、不明やシステムの別のカテゴリに分類されたオブジェクトを、要求どおりに正確に検出して識別できるようにするユーティリティ。HP Systems Insight Managerでは、システムの検出と識別が行われ、プライマリルールセットとして指定したルールセットに、不明システムが一致する場合、新しい情報が適用される。さらに、新しいシステムタイプを作成すると、[システム リンク]ページが提供され、システムエージェントまたはSNMPやDMIの通信プロトコルから戻される情報が表示される。
システム デフォルト検索	統計システムヘルスステータス、プロアクティブサブシステムステータス、および詳細なコンポーネント情報（管理プロトコルに関係なく、サーバ、ワークステーション、デスクトップ、およびハンドヘルドに含まれている）に関するデータ要求。
システムヘルスステータス	<p>ターゲットシステムでサポートされているプロトコル（DMI、SNMP、WBEM、Insightマネジメントエージェントなど）から収集される全体的なステータス。ステータスは、次のように定義されている。</p> <ul style="list-style-type: none">● クリティカル。 HP Systems Insight Managerがシステムとやり取りできない。このシステムは以前検出されていたが、現在はpingできない。システムが停止しているか、電源が切れているか、ネットワークの問題のためにネットワーク経由でアクセスできない。● メジャー。 このシステムに、重大な問題が発生している。このステータスにはすぐに対処する必要がある。HP Insightマネジメントエージェントを実行しているシステムの場合は、一部のコンポーネントで障害が発生している。システムが正常に動作しておらず、データが消失している可能性がある。● マイナー。 このシステムに、軽度の問題がある。Insightマネジメントエージェントを実行しているシステムの場合、一部のコンポーネントが故障しているがシステムはまだ機能している。● 警告。 システムに潜在的な問題が存在するか、問題が発生する可能性のある状態になっている。● 正常。 システムは正常に稼働している。● 無効。 監視機能から見るとシステムは無効になっているが、必ずしも電源が切られているわけではない。● 不明。 HP Systems Insight Managerが、システムに関する管理情報を取得できない。● 情報。 システムの状態が変化しているところか、またはエラーではない状態が発生している。
システム リンク	マネジメントエージェントを持つ特定システムの要約情報ページ。
システム概要レポート	HP Systems Insight Managerを初めて起動したときに取得されるシステムのステータスを示すレポート。システム検索結果には、HP Systems Insight Managerデータベースに登録されているシステム数が含まれる。システムは、それらのステータス条件によってグループ化されている。列の各番号はシステムの詳

	細情報リストへのハイパーリンクで、概要における番号に対応したシステムを表示する。
システム検索	HP Systems Insight Managerデータベース内の情報に基づいてシステムを論理グループに分類すること。検索を定義すると、システム ビュー ページに結果を表示し、管理タスクに関連付けることができる。
システム検索結果	システム検索の結果。
システム識別	システムに関する情報を識別すること。この情報はデータベースに格納される。以下の情報が識別される。 <ul style="list-style-type: none">● システムの管理プロトコルタイプ（SNMP、DMI、WBEM、HTTP、SSH）● HP製システムの種類（サーバ、クライアント、スイッチ、ルータなど）● システムのネットワーク名
システム情報	[識別] タブの [システム ページ] ページに表示される情報。システム情報には、以下が含まれる。 <ul style="list-style-type: none">● ネットワーク アドレス● ネットワーク名● 説明● 連絡先● Location● システム リンク
シングル ログイン	HP Systems Insight Managerにアクセスする認証済みユーザが、管理対象システムに再認証せずに、HP Systems Insight Manager内から管理対象システムにアクセスするための権限。HP Systems Insight Managerが、認証の初期ポイントとなり、別の管理対象システムへのアクセスは、HP Systems Insight Manager内から行う。
ステータス タイプ	ステータスメッセージ（クリティカル、メジャー、マイナー、正常、警告、および不明）の分類。
ステータス メッセージ リスト	クラスタ管理リソースが作成するリスト。 [クラスタ監視] ページの左下の領域に、検出されたエントリが収集され、異常な状態のクラスタ属性が通知される。
ステータス メッセージ概要ヘッダ	リストヘッダでは、リスト内のステータスメッセージの総数、および調査されなかったステータスメッセージの数が、括弧に囲まれてまとめられている。
ストレージ システム	SANに接続されたファイバチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、またはホスト（ファイバチャネルホストバスアダプタ搭載）。
スプーフィング	別のサイトを装うWebサイトの行為。機密情報の収集、データトランザクションの変更、不正データや誤解を招くデータの表示を行う。

すべてのイベント	何らかのイベント タイプが発生しているシステム。
すべてのディスク スレッシュホルドの削除	HP Systems Insight Managerによって提供されるタスクであり、関連収集に載っているシステムのディスク スレッシュホルドを削除する。このタスクでは、HP Systems Insight Managerによって設定されるディスク スレッシュホルド、またはWebエージェントの直接参照によって設定されるディスク スレッシュホルドだけが削除される。ディスク スレッシュホルドを含むWindows 32用のHP Systems Insight Managerによって設定されたスレッシュホルドは、このタスクでは削除されません。
スレッシュホルド	その値に達したり、値を超えたりしたときにイベントを生成するあらかじめ設定された制限値。
セキュア タスク実行 (STE)	管理対象システムから安全にタスクを実行するHP Systems Insight Managerの機能。STE機能では、タスクを要求するユーザに適切なタスク実行権があることが保証され、要求が暗号化されてデータが保護される。
セキュリティ ロール	管理者が、ユーザごとかグループごとにシステム アクセスと管理アクセスを制限できるようにする機能。システム管理者は、この機能により、高度な機能や危険な機能にアクセスできないようにして、スタッフにタスクを委任できる。システム管理者は、別の組織や顧客が所有するシステムにアクセスできないようにして、特定の組織や顧客にシステムの管理を委任することもできる。
ソフトウェア インベントリ	バージョン コントロール エージェントがインストールされているシステムにインストールされているHP製ソフトウェアのリスト。
ソフトウェアの全体的なステータス	このセクションは、バージョン コントロール エージェントがインストールされているサーバ上のソフトウェアが監視するように設定されているレポジトリに、そのソフトウェアが利用できるアップデートがあるかどうかを示す。
ソフトウェア更新	リモート サイトからソフトウェアやファームウェアを更新するタスク。
タイプ	標準システム タイプとしてシステムを識別するシステムの分類システム。システム タイプは、クライアント、クラスタ、ハンドヘルド、プリンタ、リモート アクセス デバイス、リピータ、ルータ、サーバ、スイッチ、不明、ワークステーション、およびその他がある。
タスク	特定セットの引数を使用して、1つ以上のシステムかシステムグループにおいて実行される、HP Systems Insight Managerツールのインスタンス。
タスク スケジューリング	ポーリング タスク、コントロール タスク、および通知タスクをスケジューリングするための主要スケジューリングツール。
ツール	HP Systems Insight Managerがタスクを行うために1つ以上のシステムで実行するアプリケーション、コマンド、スクリプト。

ツール カテゴリ	ツールをグループ化する構造。ツールは、1つのみのカテゴリに属す。ツール カテゴリにはツールのみを含めることができる。その他のツール カテゴリを含めることはできない。
ツールボックス	データベース管理やソフトウェア管理などの特定タスクにユーザが必要とするツールの定義済みセット。各HP Systems Insight Managerツールボックスは、ツール セットに関連付けられている。
ディスク スレッシュホールドの設定	HP Systems Insight Managerによって提供されるタスクであり、関連収集に載っているシステムのディスク スレッシュホールドを設定する。このスレッシュホールドは、ターゲット システム上のすべてのディスク ボリュームに設定される。
データ収集タスク	管理対象システム グループから情報を収集し、データベースに格納する手順。HP Systems Insight Managerでは、ハードウェアステータスポーリングタスクとデータ収集タスクが使用されて、収集が行われる。
データ収集レポート	データ収集レポートは、検出したシステムの情報を単一インスタンスのレポートまたは時系列変動解析レポートに含む。HP Systems Insight Managerでは、Insightマネージャ7で単一インスタンス データ収集タスクと呼ばれた [既存データセットを上書き（詳細解析用）] 、およびInsightマネージャ7でデータ履歴収集タスクと呼ばれた [新規データセットを追加（時系列変動解析用）] がサポートされる。 [既存データセットを上書き（詳細解析用）] では、単一インスタンスでシステムからデータが収集される。 [新規データセットを追加（時系列変動解析用）] では、システムの履歴を詳述するデータが収集される。
デジタル署名	トランザクション送信者の確認に使用される技術。この技術では、プライベート キーが使用されてデータが電子的に署名され、パブリック キーが使用されて送信者が確認される。
デスクトップ管理インタフェース (DMI)	DMTFによって確立された、主にクライアント管理で使用される業界標準プロトコル。DMIは、クライアント システムについての問題レポートを効率的な方法で提供する。DMI準拠のコンピュータは、ネットワーク上の中央管理システムにステータス情報を送信できる。
デスクトップ管理タスクフォース (DMTF)	業界のDMIおよびWBEM標準を定義する業界標準組織。HPはDMTFの積極的なスポンサおよびメンバである。
ドメイン ネーム サービス (DNS)	ドメイン名をIPアドレスに変換するサービス。
トラップ	イベントが発生したことを示すマネジメント エージェントによって生成される非要求メッセージ。たとえば、監視項目は設定スレッシュホールドまたは変更されたステータスを超えていることなど。以前は、アラームと呼ばれていた。 参照 イベント
トラップ カテゴリ	イベント タイプによって検出されるイベント収集システム。HP Systems Insight Managerが、機能に従って論理グループに分類したSNMPトラップ。

トラップ通知アドレス	HP Systems Insight Managerシステムによって通知されるトラップ通知を受信するために指定されたシステムのIPアドレス。
バージョン コントロール	WindowsシステムおよびLinux ProLiantシステムにインストールされている場合はバージョン コントロール レポジトリ マネージャと呼ばれ、HP-UX オペレーティングシステムでは、Software Distributorと呼ばれる。管理対象のすべてのProLiantまたはIntegrityシステムのソフトウェア ステータスの概要を提供し、それらのシステム上であらかじめ設定された条件に基づいて自動的にシステム ソフトウェアとファームウェアのアップデートを行うことができる。バージョン コントロールは、古いシステムソフトウェアを実行しているシステムを識別して、アップグレードを利用できるかどうかを示し、アップグレードの理由を提供する。HP-UXシステムでは、1台または複数のインストール済みHP-UXシステムに対して、Software Distributorを、HP Systems Insight Manager CMSから起動できる。
バージョン コントロール エージェント ログ	バージョン コントロール エージェントによって実行されたすべてのソフトウェア メンテナンス タスクとそのタスクの結果生成されたレポートのリスト。
バナー	画面最上部に表示されるGUIの一部。ユーザ名が表示され、ホームページにアクセスしたり、サイン アウトしたりするためのリンクがある。
マイナー ステータス	システムから収集された統計ステータス情報であり、監視対象サブシステムの1つ以上が正しく動作せず、システムに影響を与えていることを示す。これ以上のエラーが発生することを回避するために、できるだけ早く対処する必要がある。
マネジメント エージェント	管理対象システムで動作するデーモンかプロセス。管理対象システムにおいて、CMSから要求を受信して実行する。
マネジメントHTTPサーバ	HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアのHPスイートによって使用される統合されたソフトウェア。HTTPおよびHTTPS上の通信用。HP Webベース システム マネジメントソフトウェアに対する機能とセキュリティの統一セットを提供。このバージョンは、ProLiant Support Pack 7.10以前で利用できる。
マルチシステム対応 (MSA)	多重システム操作をサポートする実行タイプ。この実行タイプのツールは、分散タスク ファシリティを使用する代わりに、内部メカニズムを使用して、ターゲットシステムで動作する。MSA実行タイプでは、分散タスクファシリティが使用されて、1つのシステムでツールが起動されてから、その他の管理対象システムと関連するツールが起動される。
メジャー ステータス	システムから収集された統計ステータス情報であり、監視対象サブシステムの1つ以上が正しく動作せず、システムに影響を与えていることを示す。このステータスにはすぐに対処する必要がある。
ユーザ	HP Systems Insight Managerに追加されているCMSで有効なログインがあるネットワーク ユーザ。

ユーザ アカウント	HP Systems Insight Managerへのログインに使用するアカウント。このアカウントには、ローカルWindowsユーザ アカウントかドメイン アカウントが関連し、HP Systems Insight Manager内の認証レベルとポケベル属性が含まれる。
ユーザ グループ	HP Systems Insight Managerに追加されている、CMSオペレーティング システム上で定義されているユーザ グループ。オペレーティング システムのユーザ グループのメンバは、HP Systems Insight Managerにサイン インできる。
ユーザ設定ページ	HP Systems Insight Managerのページ。管理アプリケーションへのアクセスと関連するアクセス権を持つユーザを作成および定義する機能を提供する。
ユーザ認証	ユーザ名とパスワードに基づいて、個人を識別するプロセス。ユーザ認証は、ログインしたユーザが実際にその人物であるかどうかを確認するプロセスであり、「認証」とは異なる。
ラック	相互に通信するために配線されたコンポーネントのセット。ラックはエンクロージャのためのコンテナである。
リソース パーティション	<p>OSインスタンスが所有するリソースのサブセット。これらのリソースの使用は、Fair-Share Scheduler、pSet、メモリ リソース グループなどの技術によって制御される。</p> <p>また、リソース パーティションに関連付けられる一連のプロセスがあり、これらのプロセスは、リソース パーティション内のリソースを排他的に使用できる。PRM（Process Resource Manager）、WLM（Workload Manager）、gWLM（Global Workload Manager）などのツールによって確立されるポリシーは、OSインスタンス内の一連のリソース パーティションへのリソースの割り当て方法を制御する。</p>
リファレンス サポート パック	HP製ソフトウェア コンポーネントのベースラインバンドル。バージョン コントロール エージェントがレポジトリでポイントするように設定できる。この設定を行うことにより、ユーザは所有するすべてのソフトウェアについて、特定のサポート パック レベルを維持するように指定できる。
リモート ウェイクアップ	<p>Wake-On-LAN（WOL）と呼ばれることもある。常駐WOLネットワーク カードによって、リモート サイトからシステムの電源を入れること。その場合、ROMまたはF10キー（セットアップ）からのシステムの「ウェイクアップ」が有効になっている必要がある。</p> <p>HP Systems Insight Managerは、この機能に依存して、スケジュールされたソフトウェア更新やエージェント設定のレプリケートのシステムをオンに切り替える。</p>
ルール セット	システム情報に適用するステータス、ポリシー、または条件で、どのようなシステムかを決定する。
レポジトリ	ProLiant Support PackまたはIntegrity Support Pack、およびSmart コンポーネントを含むディレクトリ。
外部サイト	サードパーティ アプリケーションのURL。

確認済みステータス	システムがクリアされたことを示すステータス状態。
完全な設定権があるユーザ	CMSを含むすべてのシステムの[すべてのツール]ツールボックスの権限が自動的に与えられるユーザ。このタイプのユーザには、HP Systems Insight Managerソフトウェアを管理する、特別な権限が与えられる。
管理LAN	システム管理に必要な通信専用のLAN。一般的に、帯域は中程度（10/100 BaseT）であり、アクセス制限によって安全になっている。
管理サービス	自動検出、データ収集、システムとイベント情報の中央レポジトリ、イベント管理、基本通知、およびセキュア アクセスなどの機能のコアセットを提供する。この機能は、HP、マネジメント ソリューション パートナー、およびHP Systems Insight Managerユーザからのアドインによって使用される。
管理スコープ	HP Systems Insight Managerが管理する、検出されたすべてのシステムのセット内にあるシステムセット。
管理タスク	システムまたはイベントの検索を設定する手続き。
管理ドメイン	管理対象システムと呼ばれるリソースの集合であり、HP Systems Insight Managerの制御下に置かれる。それぞれの中央管理サーバが、管理ドメインを制御する。管理対象システムは、複数の管理ドメインに属することができる。
管理プロトコル	検出されたシステムとの通信を確立するWBEM、HTTP、SNMP、またはDMIなどのようなプロトコルのセット。
管理機器	システムで動作し、HTTP、DMI、またはSNMPプロトコルの管理情報を提供するエージェント。
管理情報フォーマット (MIB)	管理可能な製品の機能と属性を記述する、DMIアーキテクチャのASCIIテキスト ファイル。DMIは、この情報をMIFデータベースに保持し、オペレーティングシステムと管理アプリケーションで使用できるようにする。DMTFは、さまざまなシステム タイプと周辺システムに対するMIFフォーマットを指定している。
管理情報ベース (MIB)	SNMPプロトコルを使用して情報を送信するためのデータ仕様。また、MIBはネットワーク管理プロトコルによってアクセスされる管理オブジェクトのデータベースである。
管理対象システム	サーバ、デスクトップ、リモートInsightボード（RIB）など、HP Systems Insight Managerによって管理されるシステム。
共通情報モデル (CIM)	Desktop Management Task Force（DMTF）によって定義されたオブジェクト指向スキーマ。CIMは、エンタプライズ ワイドで管理情報を説明および共有する情報モデル ガイドである。CIMは、それが使用される管理環境単位で拡張できるように設計されている。
共有リソース ドメイン (SRD)	システム リソースを共有するコンパートメント（すべて同タイプ）の収集。——コンパートメントには、nPartition、仮想パーティション、プロセッサセット（pSet）、またはFair Share

	<p>Scheduler (FSS) グループなどがある。nPartitionを含むサーバは、nPartitionの要件が満たされていれば、SRDになる可能性がある。一仮想パーティションに分割されたサーバやnPartitionは、その仮想パーティション コンパートメントのSRDになる可能性がある。同様に、pSetを含む、サーバ、nPartition、または仮想パーティションは、そのpSetコンパートメントのSRDになる可能性がある。さらに、FSSグループを含む、サーバ、nPartition、または仮想パーティションは、そのFSSグループ コンパートメントのSRDになる可能性がある。</p> <p>nPartitionを含む複合体は、複数のSRDを保持する可能性がある。たとえば、複合体がPar1およびPar2という名前のnPartitionに分割されている場合、Par1のコンパートメントが仮想パーティションである可能性があり、Par2のコンパートメントがpSetである可能性がある。</p> <p>各コンパートメントが負荷を持つ。gWLMは、コンパートメントのリソース割り当てを調整して負荷を管理する。</p>
警告	<p>特定イベントが発生したとき、HP Systems Insight Managerの [System Status] パネルに表示される、ユーザが設定可能な通知。たとえば、監視されている項目が変更された場合、アラームはユーザに変更が発生したことを通知する。</p> <p>参照 トラップ、イベント</p>
検索条件	<p>すべての情報のセットから情報のサブセットを定義するために使用する変数（情報）のセット。フィルタできる情報セットには、アクション情報、いくつかのシステム情報などがある。フィルタは、包含フィルタに続き除外フィルタで構成される。これら2つのフィルタリング処理の結果は、グループと呼ばれる。フィルタの例として、表示可能な情報を作成したり、管理操作を実行したりするSQL文が挙げられる。</p>
検出	<p>ネットワーク オブジェクトを検索および識別する管理アプリケーションの機能。HPの管理アプリケーションでは、検出により、指定したネットワーク範囲にあるすべてのHP製システムが検索および識別される。</p>
検出テンプレート	<p>検出テンプレートは、自動検出によって使用されるファイルであり、[自動検出- 一般設定] ページの[包括範囲をping] フィールドや[除外範囲] フィールドにアドレスを直接入力する代わりとなる。また、自動検出の範囲を迅速に変更するための方法として設計されている。</p>
検出フィルタ	<p>完全な設定権があるユーザが、特定システム タイプのデータベースへの追加を許可したり禁止したりできるようにする。</p>
権限	<p>ユーザ、ツールボックス、システム、システム グループ間の関係のマップ。</p>
作業領域	<p>ツールが表示されるGUIの一部。</p>
使用できるソフトウェア	<p>バージョン コントロール エージェントがポイントするように設定されているレポジトリ内の使用できるソフトウェア コンポーネントのリスト。バージョン コントロール エージェント</p>

	に直接アクセスするとき、これらの追加コンポーネントを選択してインストールできる。
時間制限付きイベント	必要なイベントのスケジュールを設定する処理。バックアップ、ディスク ストレージのクリーンアップなどのイベントが例。ユーザは、このカテゴリのツールを定義する。
自己署名証明書	記載者と認証機関が同じであるなど、認証機関を証明する証明書。 参照 証明書, 認証機関
自動検出	HP Systems Insight Managerが、ネットワーク上のシステムを検出および識別し、その情報を使ってデータベースを作成するプロセス。データの収集およびシステム ヘルス ステータスの追跡を行うには、最初にシステムを検出する必要がある。
識別	管理プロトコルとシステムのタイプを識別する検出プロセスの状況。
手動検出方法	次のタスクの完全検出を省略できるようにするプロセス。 <ul style="list-style-type: none">● 1つのシステムの追加● システムの編集● HP Systems Insight Managerデータベースhostsファイルの作成またはインポート● 一般hostsファイルの作成かインポート
収集	システムのグループを作成するためやイベント検索するための方法。
収集の編集	既存の収集を修正し、検索条件の追加や削除を行うこと。
証明書	記載者のパブリックキーと識別情報を含む電子文書。証明書は、認定機関（CA）の署名入りで、キーと識別の関係を保証する。 参照 認証機関
制限付き設定権があるユーザ	CMSを設定する機能が制限されているユーザ。設定権が制限されるユーザには、すべてのレポートと自分自身のツールの作成、修正、削除を行う権限がある。
制御タスク	イベントの削除、ディスク スレッシュホールドの削除、ディスク スレッシュホールドの設定、およびデバイス アクセス コミュニティ名の設定など、検索やイベントに関連する命令のシーケンス。
設定権がないユーザ	CMSを設定できないユーザ。ただし、ユーザは、CMSとすべての管理対象システムに関する定義済みレポートの表示と実行ができる。
設定履歴レポート	サーバの設定を表示するレポートを含み、設定履歴ファイルを比較して差異を発見する調査ユーティリティ。
属性	管理情報フォーマット（MIF）ファイルの属性。属性は、管理可能な製品またはコンポーネントの1つの特性を説明する。関

	連する属性の組み合わせは、グループを構成する。たとえば、プロセッサ チップのクロック速度は、そのチップを説明するグループの属性である。 参照 管理情報フォーマット
対称鍵	メッセージの送信側と受信側が共有し、メッセージの暗号化と解読に使用する共通のキー。
単一システム対応 (SSA)	多重システム操作をサポートしない実行タイプ。この実行タイプのツールでは、ツールが動作しているノードのみが認識される。
中央管理サーバ (CMS)	HP Systems Insight Managerソフトウェアを実行する、管理ドメイン内のシステム。HP Systems Insight Manager内のすべての集中操作は、このシステムから開始される。
注意	その指示に従わなければ、装置の損傷や情報の消失を引き起こす恐れがある注意事項を示す。
通信プロトコル	参照 管理プロトコル
認証機関 (CA)	信頼された第三機関であり、デジタル署名、およびパブリックキーとプライベート キーのペアの作成に使用するデジタル証明書を発行する。このプロセスでの認証機関の役割は、証明書の所有者が本人であることを保証することにある。
標準エラー (stderr)	システムがエラーメッセージを書き出す、デフォルトの場所。デフォルトは、端末ディスプレイ。
標準出力 (stdout)	プログラムが出力を書き出す、デフォルトの場所。デフォルトは、端末ディスプレイ。
不明ステータス	HP Systems Insight Managerが、SNMPまたはDMIを使用して、システムに関する管理情報を取得できない。管理関連情報は取得できないが、システムに対してpingを実行できる。コミュニティ名またはセキュリティの設定が間違っている可能性がある。
分散タスク ファシリティ (DTF)	管理対象システムにおける、タスクのリモート実行を管理する管理アプリケーション。
分散型コンポーネント オブジェクト モデル (DCOM)	コンポーネント オブジェクト モデル (COM) の拡張機能であり、COMコンポーネントが、同一ネットワーク上のクライアントとサーバ間でやり取りできるようにする。
未確認イベント ステータス	深刻度が、クリティカル、メジャー、マイナー、正常、または情報になっているイベント。 <ul style="list-style-type: none">● クリティカル。 障害が発生し、すぐに対応する必要がある。● メジャー。 近いうちに障害が発生する。● マイナー。 さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータス。● 正常。 このイベントは問題ではない。● 情報。 注意する必要はない。これは便利な情報として提供される。

役割

参照 ツールボックス

索引

記号

, 273
SNMPエージェント, 608
システム テーブル ビュー ページ, 85, 98, 182, 213–215, 217, 223, 244, 277, 347, 396, 451, 460, 560, 608
データベース
 イベントの割り当て, 237
 管理, 229, 237
エージェント設定のレプリケート, 165, 301
バージョン コントロール, 35, 421–422, 424–428, 430
 概要, 420
マネジメントHTTPサーバ
 信頼関係, 174
中央管理サーバ, 35, 316, 608
 概要, 42
 信頼関係の設定について, 47
 中央管理サーバへのアクセス, 47

B

bdf, 320

C

cat, 320
cim_ip.dat, 98
CIMOM, 608
CLI, 608
CLIの問題, 608
CMS (参照 中央管理サーバ)
Command View
 検出, 276
Copy Depot Software, 449
cp, 320
CPUスレッシュホールド, 306
CPUリソース, 310, 314
CPU利用率, 314
 クラスタ監視, 312
Create or Modify Recovery Archive, 449
Create or Modify Tape Recovery Archive, 449
CSR (参照 証明書署名要求)

D

Deploy SSH Public Key, 449
df, 117
DHCPサーバ, 608
DMI, 85, 103, 397, 546, 552, 560, 573
 , 71, 557
DMIアクセス

 設定, 301, 347
DMI識別, 114
DMIステータス ポーリング, 545
DMIルール
 削除, 106
 追加, 114
DTD (参照 文書型定義)
DTF (参照 分散タスク ファシリティ)
DTMF
 , 557

E

Email
 HTML, 513
 エンコーディング, 513
 ポケベル/SMS, 513
 メッセージ フォーマット, 513
Email設定, 51, 506, 508
 CMS, 522
 SMTPホスト, 522
 自動イベント処理タスク, 506
 設定, 53, 522
Emailポケベル通知
 例, 531

G

GlancePlus Pak
 概要, 459
globalsettings.props, 59, 155, 529, 603
GUI (参照 グラフィカル ユーザ インタフェース)

H

hostsファイル
 , 71
 インポート, 98
 拡張機能, 99
 削除, 93, 96
 作成, 93–94
 システムの追加, 71, 93
 データベースへの追加, 97
 編集, 93, 96
HP 9000 iLO, 366, 451
 iLOの制御, 372
 LANアクセス, 371
 LDAP設定, 371
 SSHパブリック キーのインストール, 373
 システム識別LED, 368
 システム電源, 367
 ファームウェア アップグレード, 373
 ユーザの削除, 370
 ユーザの作成, 368
 ユーザの編集, 369
HP BladeSystem Integrated Manager

- アクセス, 469
- 概要, 469
- HP Client Manager, 451
 - アクセス, 469
 - 概要, 469
- HP Insightマネジメント エージェント, 608
- HP Instant Toptools, 200
- HP Integrity, 366, 451
 - iLOの制御, 372
 - LANアクセス, 371
 - LDAP設定, 371
 - SSHパブリック キーのインストール, 373
 - システム識別LED, 368
 - システム電源, 367
 - ファームウェア アップグレード, 373
 - ユーザの削除, 370
 - ユーザの作成, 368
 - ユーザの編集, 369
- HP Integrity Superdome, 83
- HP Integrity内蔵Lights-Out, 366
- HP OpenView Network Node Manager , 35
- HP OpenView Operations, 35
- HP OpenView Storage Area Manager
 - 概要, 464
- HP OpenView Storage Data Protector, 451
 - アクセス, 463
 - 概要, 463
- HP OpenView Storage Management Appliance
 - アクセス, 464
 - 概要, 464
- HP OpenView Storage Operations Manager
 - アクセス, 465
 - 概要, 465
- HP Performance Management Pack, 35, 301, 572
 - アクセス, 572
 - 手動ログ ページ, 572
 - 設定, 572
 - ライセンス設定, 572
- HP ProLiant Essentials, 467
- HP ProLiant Essentials Automation Manager
 - 概要, 468
- HP ProLiant Essentials Rapid Deployment Pack - Windows Edition, 35
- HP ProLiant Essentials Server Migration Pack, 35, 301, 394–395
- HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack, 35, 200, 301, 394, 440–442, 445
 - アクセス, 440, 443
 - インストール, 440
- HP ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack, 35, 200
 - アクセス, 470
- HP Serviceguard Cluster, 301
- HP Serviceguard Manager, 35, 460
- HP Serviceguardクラスタ, 223, 460
- HP Serviceguardクラスタ, 223, 460
- HP Storage Essentials, 35, 451
 - HP Systems Insight Managerとの併用, 271
 - アクセス, 471
 - イベント, 238, 524–525
 - 概要, 471
 - 監視の停止/回復, 569
 - 検出, 77
 - システム プロパティ, 564, 567
 - システム プロパティ, 564, 567
 - 収集, 259
 - ストレージ アレイ識別タブ, 411
 - ストレージ スイッチ識別タブ, 408
 - ストレージ ホスト識別タブ, 405
 - ツールボックス, 130
 - データ収集レポート, 418
 - テーブル ライブラリ識別タブ, 415
 - レポートに対する影響, 269
- HP Storage Essentials, 35, 451
- HP StorageWorks Command View EVA, 451
 - アクセス, 474
 - 概要, 474
- HP StorageWorks Command View SDM, 451
 - アクセス, 473
 - 概要, 473
- HP StorageWorks Command View TL, 451
 - アクセス, 473
 - 概要, 473
- HP StorageWorks Command View XP, 451
 - アクセス, 472
 - 概要, 472
- HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition, 451
 - アクセス, 473
 - 概要, 473
- HP StorageWorks EVA, 451
- HP StorageWorks MA/EMA, 451
- HP StorageWorks Modular Smart Array 1000
 - アクセス, 474
 - 概要, 474
- HP StorageWorks Modular Storage Array 1000, 451
- HP StorageWorks XP, 451
- HP StorageWorksVA, 451
- HP System Management Homepage, 35
- HP Systems Insight Manager, 608
 - コマンド , 63
 - セットアップ, 53
 - パブリック キー, 381
- HP Systems Insight Manager概要, 35
- HP Systems Insight Managerコマンド , 63
- HP Systems Insight Managerの問題, 608
- HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager, 35

HP Virtual Server Environment

アクセス, 470

概要, 470

HP Web Jetadmin

アクセス, 471

概要, 471

HP-UX, 165, 546, 605

MIBリストの表示, 375

PAMの設定, 149

言語の設定, 59

コマンド, 117

データベースの復元, 598

認証の使用, 149

HP-UX SAM, 451

HP-UXコマンド, 315

HP-UXシステム

WBEMイベントの操作, 35

HP-UX設定, 451

HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ

アクセス, 468

概要, 468

HPエージェントの設定および修復, 35

HPタブレットPC, 451

HPノートブック, 451

HPビジネス デスクトップ, 451

HPワークステーション, 451

HTTP, 85, 103, 214, 241, 546

HTTPS, 85

HTTPイベント, 608

HTTPイベントの問題, 608

I

ICMP, 552

ICMP設定, 554, 556

Ignite-UX, 320, 451

アクセス, 459

概要, 459

Ignite-UX Console, 449

Ignite-UX Restricted Console, 449

iLO, 83, 85, 103, 200, 219 (参照 内蔵Lights-Out)
設定, 363

Initial ProLiant Support Pack Install, 449

Insightマネージャ7, 560

Install OpenSSH, 449

Install or Recover System, 449

Install Software, 449

Install WLM Configuration, 449

Internet Explorer, 608

Internet Explorerの問題, 608

Internet Explorer

言語, 59

IP, 85, 397

IPX, 397

IPX SAP, 85

IPアドレス, 347, 608

IPアドレスの問題, 608

IP範囲

指定, 85

リファレンス, 103

ISEE (参照 Open Service Event Manager) (参照 イン
スタント サポート エンタープライズ エディション)

J

Java, 608

K

known_hostsファイル, 594

KVMスイッチ, 83

L

LANアクセス

HP 9000 iLO, 371

HP Integrity, 371

LDAP設定

HP 9000 iLO, 371

HP Integrity, 371

Linux, 165, 316, 442, 546, 560, 605, 608

MIBリストの表示, 375

言語の設定, 59

コマンド, 117

データベースの復元, 598

認証の使用, 149

バージョン コントロール エージェント, 421

Linuxコマンド, 315

LinuxXシステム

WBEMイベントの操作, 35

log.properties, 603, 605

ls, 117, 320

M

mcompile, 63, 376

MIB, 114, 301, 533

インターネット管理, 557

コンパイル, 377

登録, 374, 378

登録解除, 380

プリロード, 378

編集, 376

ベンダ, 557

リストの表示, 375, 378

ルール, 114

Microsoft Virtual Server, 443

MIF

例, 114

Mozilla, 608

言語, 59
 MSA (参照 マルチシステム対応) (参照 マルチシステム対応ツール)
 MSAツール, 301, 449
 MSCS
 クラスタ, 304
 MSCSステータス
 監視, 309
 MSCSポーリング率, 305
 MSCSリソース, 310
 mx.log, 605
 mxagentconfig, 35, 63, 316, 318–319, 370, 380
 mxauth, 63, 138, 142–143
 mxcert, 63
 mxcollection, 63, 189, 191–195, 197–198
 mxdomainmgr, 63
 mxdtf, 63, 603
 mxexec, 59, 63, 120, 122, 125, 127, 129, 132–135, 138, 142–143, 284, 290, 315, 529
 mxgethostname, 63
 mxglobalprotocolsettings, 63
 mxglobalsettings, 63
 mxinitconfig, 63
 mxmib, 63, 375, 380
 mxngroup, 63, 138, 140, 143–144
 mxnode, 63, 91, 142
 mxnodesecurity, 63
 mxpassword, 63
 mxquery, 63
 mxreport, 63, 476, 479, 481, 483
 mxrepositoryrestore, 63
 mxrepositorysave, 63
 mxstart, 63
 mxstm, 63, 107, 109, 112–114
 mxstop, 63, 605
 mxtart, 605
 mxtask, 59, 63, 290, 297, 529, 563
 mxtool, 63, 316, 318–319, 345, 370
 ツールのタイプ, 318–320, 345
 その他の要件, 318–320, 345
 ツールのタイプ, 318–320, 345
 ツール フィルタリング, 318–320, 345
 バージョン番号, 318–320, 345
 パラメータ化された文字列, 318–320, 345
 文書型定義, 318–320, 345
 文字列の置換テーブル, 318–320, 345
 mxtoolbox, 63, 132–135
 mxuser, 63, 120, 122, 125, 127, 129
 mxwbemsub, 63, 529

O

Open Service Event Manager, 451, 533
 OpenSSH, 301, 381, 383, 432, 442, 529, 608

インストール, 35, 380–381
 コマンドライン, 383
 OpenSSHツール
 インストール, 35
 OpenSSHの問題, 608
 OpenSSL, 165, 608
 OSEM (参照 Open Service Event Manager)
 OS名, 200

P

PAM (参照 Pluggable Authentication Modules)
 Partition Manager, 451
 アクセス, 459
 概要, 459
 path.properties, 605
 HP Performance Management Pack, 35, 301, 572
 Personal Digital Assistant, 83
 ping, 347
 設定, 552
 代替, 35
 pingの問題, 608
 Pluggable Authentication Modules, 149
 設定, 149
 PMP, 35, 200, 301, 355, 504, 572 (参照 Performance Management Pack) (参照 ProLiant Essentials Performance Management Pack)
 CSVファイル生成, 502
 オフライン分析, 387
 オンライン分析, 387
 PostgreSQL DB Backup, 449
 Process Resource Manager, 301, 466
 アクセス, 466
 ProLiant Essentials Performance Management Pack, 200, 351, 355
 アクセス, 387
 ProLiant Essentials Vulnerability and Patch Management Pack, 451
 概要, 470
 ProLiant Support Pack, 573
 インストール, 432

R

R_ArrayControllers, 484
 R_Batteries, 484
 R_CellularSysParComplex, 484
 R_CellularSysParIOChassis, 484
 R_CellularSysPartition, 484
 R_CPU, 484
 R_deviceLicenseInfo, 484
 R_DIMMSlots, 484
 R_HPUXFileSystem, 484
 R_HPUXKernelParam, 484
 R_HPUXLogicalVolume, 484

R_HPUXNetworkDetails, 484
R_HPUXPhysicalVolume, 484
R_HPUXSoftwareBundle, 484
R_HPUXSoftwareProduct, 484
R_HPUXVolumeGroup, 484
R_InstalledBoards, 484
R_Inventory, 484
R_lockdownStatus, 484
R_LogicalDisks, 484
R_NetworkInterface, 484
R_OperatingSystem, 484
R_PhysicalDisks, 484
R_PowerSupply, 484
R_Process, 484
R_Racks, 484
R_Software, 484
R_StorageDeviceCapacity, 484
R_StorageDeviceControllers, 484
R_StorageDeviceInventory, 484
R_StorageHostBusAdapters, 484
R_StorageLogicalUnits, 484
R_StoragePorts, 484
R_UnixIODevices, 484
R_UnixIPRoute, 484
R_UnixLogicalMemory, 484
R_UnixOSDetails, 484
Rack and Power Manager, 451
Rapid Deployment Pack, 381, 451
RDP, 35
Remove Depot Software, 449
Remove Software, 449
RPM (参照 RPMパッケージ マネージャ)
RPMパッケージ マネージャ, 391, 451
 確認, 391, 393
RPMパッケージ マネージャ, 391, 451
 アクセス, 391
 アンインストール, 391–392
 インストール, 391–392
 確認, 391, 393
 クエリ, 391, 393

S

SAM, 451
SD Job Browser, 449
secure shell, 35, 594
 インストール, 35
secure sockets layer, 35
Secure Sockets Layer, 147
Serviceguard Manager, 200, 451, 608
Serviceguard Managerの問題, 608
Smartアレイ コントローラ, 451
SMI CIMOM, 552
SMI-Sシステム

 WBEMイベントの操作, 35
SMI-Sプロバイダ
 ストレージ システム, 267
SMP (参照 HP ProLiant Essentials Server Migration Pack)
 アクセス, 395
 ライセンス, 394
 ライセンスの追加, 394
SMTP設定, 522
SNMP, 51, 85, 103, 214, 241, 397, 460, 545–546, 552, 560, 573, 594–597
 トラップ, 241, 506, 508
 ルール, 107
SNMPアクセス
 設定, 301, 347
SNMPエージェントの問題, 608
SNMPステータス ポーリング, 214
SNMP設定, 554, 556
SNMPトラップ, 231, 508, 533, 545
 設定, 527
 フィールド, 527
SNMPトラップ設定
 イベント, 506
SNMPトラップの問題, 608
SNMPルール
 削除, 106
 追加, 114
SOAP, 320
Socks, 608
Software Distributor, 35, 451
 VMM, 461
 アクセス, 461
 概要, 461
Software Distributor Job Browser, 449
SQL
 データベースのバックアップ, 599
SQLクエリ, 484
SSA (参照 単一システム対応ツール)
SSH, 35, 59, 103, 573, 594, 596 (参照 secure shell)
 SSHの使用, 67
 パブリック キー, 316, 318–319
SSHキー
 管理, 35, 595
SSHキー, 594
 インポート, 594
 エクスポート, 594, 596
 管理, 35, 595
 削除, 594, 597
 セキュリティ レベル, 594
SSHキーの管理, 594
SSHセキュリティ レベル, 595
SSH設定, 554, 556
SSHバイパス プロパティ
 設定, 603

- SSL (参照 secure sockets layer) (参照 Secure Sockets Layer)
STE (参照 セキュア タスク実行)
STM (参照 システム タイプ管理)
STMルール
 削除, 106
 追加, 106
STMルール リファレンス, 114
Subscribe to WBEM Events, 449
Superdome, 35
Syntax Check Configuration, 449
Syntax Check on the Systems Insight Manager Server Configuration, 449
System Management Homepage, 395
 アクセス, 396
 信頼関係, 174
- T**
TCP, 552
TDEF (参照 ツール定義ファイル)
Thinクライアント, 83
- U**
UNIX
 コマンド, 320
Unsubscribe to WBEM Events, 449
UPS, 83
- V**
VCRMカタログの問題, 608
VM
 ステータス, 445
VMM, 35, 440–442, 444–445 (参照 HP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack)
 アクセス, 443
VMM Windowsエージェント
 インストール, 442
VMware ESX, 440, 443
VMware GSX, 443
VMサーバ, 35
VMホスト, 440, 442–445
 アップグレード, 445
 登録, 444
 登録解除, 444
 ライセンス, 441
VPM, 35, 200
- W**
Wake On LAN, 390
WBEM, 51, 103, 351, 397, 460, 552, 560, 573 (参照 Webベース エンタープライズ管理)
 ツール, 446
WBEM Providers for Linux
 アクセス, 448
 概要, 448
WBEMイベント, 35
 ポート, 529
 予約, 506, 529–530
 予約解除, 506, 529, 531
WBEMイベントの操作
 HP-UXシステム, 35
 LinuxXシステム, 35
 SMI-Sシステム, 35
WBEM設定, 554, 556
WBEMプロパティ ページ, 35
Web JetAdmin, 451
Web-Based Enterprise Services, 451, 533
WEBES (参照 Web-Based Enterprise Services)
Webmin, 462
 アクセス, 462
Web起動対応ツール, 320
Web起動ツール, 316, 340
 作成, 345
 パラメータ, 339
Webベース エンタープライズ管理, 351
Windows, 442, 605
 MIBリストの表示, 375
 ロケールの設定, 59
Windows NTイベント ログ, 608
Windows NTイベント ログの問題, 608
Windows XP Service Pack 2, 608
WLA (参照 Web起動対応ツール)
WMI Mapperプロキシ, 560
 概要, 548
 削除, 217, 548, 550
 追加, 548–549
 編集, 548–549
WMIMapperの問題, 608
Workload Manager, 451
 概要, 462
- X**
X Windowツール
 作成, 319
xlsfonts, 59
X Resourceファイルのプロパティ, 59
Xアプリケーション ツール, 316
Xクライアント, 59
- あ**
アイコン ビュー, 212
アクセス, 426–427
 CMS, 47
 HP Client Manager, 469
 HP OpenView Storage Data Protector, 463

-
- HP OpenView Storage Management Appliance, 464
 - HP OpenView Storage Operations Manager, 465
 - HP Serviceguard Manager, 460
 - HP Storage Essentials, 471
 - HP StorageWorks Command View EVA, 474
 - HP StorageWorks Command View SDM, 473
 - HP StorageWorks Command View TL, 473
 - HP StorageWorks Command View XP, 472
 - HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition, 473
 - HP StorageWorks Modular Smart Array 1000, 474
 - HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager, 469
 - HP Web Jetadmin, 471
 - HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ, 468
 - Ignite-UX, 459
 - Partition Manager, 459
 - PMP, 572
 - PRM, 466
 - ProLiant Essentials Performance Management Pack, 387
 - RPMツール, 391
 - SMP, 394–395
 - System Management Homepage, 396
 - VMM, 440, 443
 - VPM, 470
 - VSE, 470
 - WBEM Providers for Linux, 448
 - Webmin, 462
 - イベント監視サービスの概要, 458
 - エージェント設定のレプリケート, 389
 - 検出フィルタ, 87
 - システム障害管理, 447
 - 自動イベント処理, 508
 - プロパティ ページ, 446
 - アップグレード, 35
 - HP 9000 iLOファームウェア, 373
 - HP Integrityファームウェア, 373
 - アドミニストレータ テンプレート, 130
 - アプリケーション
 - 起動, 340
 - アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ, 451
 - アンインストール
 - RPMパッケージ マネージャ, 391–392
 - アンチウイルスソフトウェア, 608
 - い**
 - 移行
 - HP Systems Insight Managerへの移行, 67
 - HP Systems Insight Managerへの手動での移行, 67
 - 新しいシステムへのHP Systems Insight Managerの移動, 67
 - 一般的, 608
 - 一般的なタスク, 67
 - 管理対象システムのセットアップ, 67
 - 一般的な問題, 608
 - 自動イベント処理タスク
 - 作成, 506, 511, 513, 516, 542
 - イベント
 - HP Storage Essentials, 271
 - SNMPトラップ, 527
 - SNMPトラップ設定, 506
 - 確認済みに変更, 230, 236, 506, 524, 539
 - 確認済みに変更, 230, 236, 506, 524, 539
 - 監視, 181
 - 管理, 506, 508, 510
 - 関連システム, 241
 - クリアされたステータス, 241
 - 検索, 243, 249
 - コメント, 241
 - コメントの追加, 230, 238
 - サーバ、確認済みに変更, 539
 - サービス, 259
 - サービス通知, 533
 - 削除, 230, 237, 250, 506, 508, 525, 539–540
 - 時間, 231, 241
 - 詳細, 231, 241
 - 詳細の印刷, 241
 - 詳細の表示, 241
 - 詳細の変更, 241
 - 深刻度, 231, 240–241
 - ステータス, 231, 528
 - ステータス変更, 528
 - ステータス, 231, 528
 - ストレージ (SNMP) , 273
 - 設定, 154, 528
 - 説明, 241
 - ソース, 241
 - タイプ, 231
 - タスクの管理, 511
 - タスクの作成, 513
 - 担当者, 241
 - フィルタ, 526
 - フィルタ設定, 506, 508
 - フィルタの設定, 526
 - 未確認ステータス, 186
 - モデム設定, 523
 - ルール, 508
 - 割り当て, 230, 237
 - イベント/SNMPトラップ, 608
 - イベント
 - 確認済みに変更, 230, 236, 506, 524, 539
 - イベント確認済み変更タスク
 - 実行, 524
-

- スケジューリング, 524
- イベント 監視サービス, 451
- イベント 監視サービスの概要
 - アクセス, 458
 - 概要, 458
- イベント 検索結果
 - 印刷, 251
- イベント 収集
 - HP Storage Essentials, 271
 - 印刷, 230, 239
 - 概要, 182
 - カスタマイズ, 194, 230
 - 管理, 230
 - 共有, 259
 - 削除, 198
 - 作成, 195, 539–540
 - プロパティの設定, 199
 - 編集, 197
 - レポート, 239
- イベント ステータス, 57
- イベント タイプ, 241
- イベント タスク
 - 実行, 539
 - スケジューリング, 539
 - 例, 536
- イベント テーブル ビュー
 - 結果の印刷, 231
- イベント テーブル ビュー ページ, 182, 236–238, 241, 254, 396
 - 印刷, 239
 - 概要, 230
 - カスタマイズ, 231, 236
 - ナビゲート, 231
 - 並べ替え, 236
 - 列の削除, 236
 - 列の追加, 236
- イベントの問題, 608
- 印刷, 608
 - イベント テーブル ビュー, 231
 - クラスタ収集, 223
 - クラスタ テーブル ビュー, 223
 - システム テーブル ビュー, 200
 - タスク結果, 295
 - レポート, 476, 479, 481
- 印刷の問題, 608
- インスタント サポート エンタープライズ エディション, 451, 533
- インストール, 35, 608
 - HP 9000 iLO SSHパブリック キー, 373
 - HP Integrity SSHパブリック キー, 373
 - HP ProLiant Essentials Performance Management Packデータ マイグレーション ツールのインストールおよび使用, 67
 - HP Systems Insight Managerのインストール, 67

- MSCSクラスタへのHP Systems Insight Managerのインストール, 67
- OpenSSH, 380–381
- OpenSSHツール, 35
- ProLiant Support Pack, 432
- RPMパッケージ マネージャ, 391–392
- System Management Homepageの個別インストール, 67
- VMM, 440
- VMMLinuxエージェント, 442
- VMMWindowsエージェント, 442
- バージョン コントロールの個別インストール, 67
- ライセンス キー, 351, 355
- インストールの問題, 608
- インポート
 - CSR, 163
 - CSRの提出, 162
 - hostsファイル, 98
 - SSHキー, 594, 596
 - サーバ証明書, 156, 161
 - 信頼証明書, 169

う

- 受け取り
 - 警告の受け取り, 67

え

- 英語, 59
- エージェント, 573
- エージェント設定のレプリケート, 165, 301
 - アクセス, 389
 - イベント, 390
 - 信頼関係, 389–390
 - タスクの作成, 389
- エージェント設定のレプリケートの問題, 608
- エクスポート
 - SSHキー, 594, 596
 - サーバ証明書, 157
 - 信頼証明書, 169–170
- エンクロージャ, 83, 85, 103, 200, 213, 215, 231, 241
- エンクロージャ ビュー, 213

お

- 応答, 608
- 応答の問題, 608
- お使いになる前に, 46
- オペレータ テンプレート, 130
- オペレーティング システム, 200, 608
 - タイプ, 103
 - 名前, 103, 200
 - バージョン, 103

か

- カーネル構成, 451
- カーネル パラメータ, 608
- 概要, 169, 351, 422, 424
 - GlancePlus Pak, 459
 - HP Client Manager, 469
 - HP OpenView Storage Area Manager, 464
 - HP OpenView Storage Data Protector, 463
 - HP OpenView Storage Management Appliance, 464
 - HP OpenView Storage Operations Manager, 465
 - HP ProLiant Essentials Automation Manager, 468
 - HP Storage Essentials, 471
 - HP StorageWorks Command View EVA, 474
 - HP StorageWorks Command View SDM, 473
 - HP StorageWorks Command View TL, 473
 - HP StorageWorks Command View XP, 472
 - HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition, 473
 - HP StorageWorks Modular Smart Array 1000, 474
 - HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager, 469
 - HP Web Jetadmin, 471
 - HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ, 468
 - Ignite-UX, 459
 - Partition Manager, 459
 - Software Distributor, 461
 - VPM, 470
 - VSE, 470
 - WBEM Providers for Linux, 448
 - WMI Mapperプロキシ, 548
 - Workload Manager, 462
 - イベント監視サービスの概要, 458
 - 管理対象システム, 573
 - サービス通知, 533
 - システム障害管理, 447
 - システム ライセンス情報レポート, 363
 - 信頼関係, 174
 - ストレージ システム, 266
 - ストレージ ソリューション (SNMP), 273
 - セキュリティ, 147
 - セキュリティ パッチ チェック, 460
 - デフォルト ポーリング タスク, 281
 - 認証, 117
 - バージョン コントロール, 420
 - バージョン コントロール エージェント, 421
 - バックアップ, 597
 - ライセンス キー, 352
 - レポート機能, 475
- 学習
 - ProLiantまたはIntegrity Support Packに関するさらなる学習, 67
 - ProLiantリモート デプロイメント ユーティリティに関するさらなる学習, 67
 - 隔週データ収集, 560
 - 確認
 - RPMパッケージ マネージャ, 391, 393
 - RPMパッケージ マネージャ, 391, 393
 - 確認済みに変更
 - イベント, 236, 506, 524, 539
 - 確認済みに変更
 - イベント, 236, 506, 524, 539
 - カスタマイズ
 - イベント収集, 194
 - イベント テーブル ビュー, 231
 - イベント テーブル ビュー ページ, 236
 - クラスタ収集, 188-189
 - クラスタ テーブル ビュー, 223
 - クラスタ テーブル ビュー ページ, 228
 - [システムおよびイベント]パネル, 182
 - システム収集, 188-189
 - システム ステータス パネル, 57
 - システム テーブル ビュー, 200
 - システム テーブル ビュー ページ, 216
 - カスタム コマンド, 301
 - Web起動ツール, 340
 - 環境変数, 340
 - 管理, 340, 342
 - 削除, 340, 342
 - 作成, 341
 - 実行, 342
 - スケジューリング, 342
 - 編集, 342
 - 命名規則, 341
 - 有効な文字, 341
 - カスタム コマンドの問題, 608
 - カスタム ツール
 - 変数, 343
 - 仮想マシン, 301
 - 管理, 440
 - カテゴリ
 - システム, 186
 - 環境監視製品, 451
 - 環境変数
 - カスタム コマンド, 340, 343
 - 環境モニタ, 83
 - 監査ログ, 154, 320, 603-604
 - 設定, 605
 - 表示, 604
 - 監視 (参照 停止) (参照 有効化)
 - MSCSステータス, 309
 - イベント, 181
 - クラスタ, 181
 - システム, 181
 - 管理

- HP Systems Insight ManagerによるHP-UXシステム用のWBEMイベント予約の管理, 67
 - HP Systems Insight Managerによるファイアウォール経由でのHPサーバの管理, 67
 - SSHキー, 35, 595
 - SSHキー, 35, 595
 - WMI Mapperプロキシ, 548
 - イベント, 506, 508, 510
 - 概要, 504
 - カスタム コマンド, 340, 342
 - クラスタ収集, 223
 - クラスタ リソースの設定, 305
 - 検出タスク, 77
 - 時間フィルタ, 298
 - システム グループ、CLIから, 144
 - システム グループ、GUIから, 144
 - システム タイプ, 105
 - 自動イベント処理タスク, 506, 508, 511
 - ソフトウェア, 504
 - ツールボックスの概要, 130
 - ツールボックスの削除, 134
 - ツールボックスの作成, 132
 - 認証, 117
 - 認証の概要, 136
 - 認証の更新, 140
 - 認証の削除, 142
 - 認証の作成, 138
 - 認証のレポート, 143
 - ノード リソースの設定, 306
 - バージョン コントロール レポジトリ, 571
 - ユーザ, 119
 - ユーザ グループ, 119
 - ユーザ グループの削除, 127
 - ユーザ グループの追加, 122
 - ユーザの概要, 119
 - ユーザの削除, 127
 - ユーザの作成, 120
 - ライセンス キー, 351, 358, 365
 - レポート, 483
 - 管理エージェント, 200, 573
 - 管理対象システム, 42, 165, 432
 - HP環境でのソフトウェア メンテナンスの自動化, 67
 - 概要, 42, 573
 - セットアップ, 573
 - 管理ドメイン
 - 概要, 42
 - 管理プロキシ
 - ホスト システムの削除, 217
 - 管理プロセッサ, 83, 103, 200, 214, 301, 397
 - iLOコントロール, 366
 - LANアクセス, 366
 - LDAP設定, 366
 - SSHパブリック キーのインストール, 366
 - 識別, 545
 - システム識別LED, 366
 - システム電源, 366
 - ファームウェアのアップグレード, 366
 - ユーザの削除, 366
 - ユーザの作成, 366
 - ユーザの編集, 366
 - 管理プロトコル,
 - , 557
- ## き
- キー, 351
 - キーストア, 165
 - 既存データ セットの上書き
 - 新規データ セットの追加, 563
 - 起動
 - アプリケーション, 340
 - カスタム コマンド, 340
 - 基本検索, 245
 - 共有収集, 182, 259
- ## く
- クエリ
 - RPMパッケージ マネージャ, 391, 393
 - クライアント管理ソフトウェア, 451
 - クラスタ, 77, 83, 103, 608
 - HP Serviceguard, 223, 460
 - MSCS, 304, 307
 - Serviceguard Manager, 35
 - 監視, 181
 - 検索, 243, 251
 - 検索からの削除, 252
 - 削除, 223, 229
 - 識別, 545
 - 識別タブ, 401
 - クラスタ監視, 304, 308
 - CPUポーリング率, 313
 - CPU利用率の表示, 312
 - MSCSポーリング率, 313
 - [クラスタ]タブ, 307
 - クラスタ リソースの設定, 305
 - システム ステータス ポーリング率, 313
 - 属性, 310
 - ディスクポーリング率, 313
 - ネットワーク タブ, 308
 - ノード タブ, 307
 - ノード リソースの設定, 306
 - ポーリング率, 313
 - リソース, 310
 - リソース タブ, 308
 - クラスタ監視リソース
 - CPU, 312
 - CPUスレッシュホールド, 306

- CPUポーリング率, 306
 - 概要, 310
 - スレッシュホールド, 314
 - 設定の指定, 305
 - ディスク スレッシュホールド, 306
 - ディスク ポーリング率, 306
 - ノード設定の指定, 306
 - ポーリング率, 305
 - クラスタ管理, 451
 - クラスタ検索結果
 - 印刷, 253
 - クラスタ収集, 304
 - 印刷, 223, 229
 - 概要, 182
 - カスタマイズ, 188–189, 223
 - 管理, 223
 - 削除, 192
 - 作成, 189
 - プロパティの設定, 193
 - 編集, 191
 - レポート, 229
 - クラスタ テーブル ビュー
 - 結果の印刷, 223
 - クラスタ テーブル ビュー ページ, 304
 - 印刷, 229
 - 概要, 223
 - カスタマイズ, 223, 228
 - ナビゲート, 223
 - 並べ替え, 228
 - 列の削除, 228
 - 列の追加, 228
 - クラスタの問題, 608
 - グラフィカル ユーザ インタフェース, 35
 - ホームページのカスタマイズ, 56
 - グラフィカル ユーザ インタフェース
 - 概要, 54
 - システム ステータス パネルのカスタマイズ, 57
 - バナー, 54
 - ホームページ, 54
 - グループ, 136
 - グローバル プロトコル設定, 77, 551–552
 - ストレージ システム, 267
 - 設定, 85, 560
- け**
- 警告, 57
 - 結果の印刷
 - イベント 検索, 251
 - イベント テーブル ビュー ページ, 239
 - キャンセル, 218, 229, 239
 - クラスタ 検索, 253
 - クラスタ テーブル ビュー ページ, 229
 - システム 検索, 248
 - システム テーブル ビュー ページ, 218
 - 権限, 117, 138
 - 言語
 - Internet Explorer, 59
 - Mozilla, 59
 - 英語, 59
 - 設定, 59
 - 日本語, 59
 - 検索, 54, 608
 - イベント, 243, 249
 - イベントの削除, 250
 - 階層表示, 244
 - 基本, 243–245
 - クラスタ, 251
 - クラスタの削除, 252
 - 高度, 243–244, 246, 249, 251
 - システム, 187, 243, 246
 - システムの削除, 247
 - 条件, 254
 - 保存, 187
 - 検索結果の印刷
 - キャンセル, 248, 251, 253
 - 検索条件, 215, 231, 254, 546, 560
 - イベント, 254
 - クラスタ, 254
 - システム, 254
 - 検索の問題, 608
 - 検出, 51, 103, 573
 - Command View, 276
 - hosts ファイルの削除, 93
 - hosts ファイルの作成, 93
 - hosts ファイルの編集, 93
 - IP 範囲, 103
 - 一般設定, 85
 - イベント ベースの自動検出, 71
 - 自動, 35, 53, 71, 77, 79–80, 85, 87–88, 103, 219, 241, 271, 504, 551–552
 - 自動, 35, 53, 71, 77, 79–80, 85, 87–88, 103, 219, 241, 271, 504, 551–552
 - 自動, 35, 53, 71, 77, 79–80, 85, 87–88, 103, 219, 241, 271, 504, 551–552
 - 自動検出, 89, 103
 - 手動, 53, 71, 91, 504
 - 初回, 71
 - ストレージ システム, 267
 - ストレージ ソリューション (SNMP) , 275
 - テンプレート, 71
 - テンプレートの作成, 88
 - 検出コマンド, 608
 - 検出タスク
 - 一般設定, 77
 - 削除, 77, 82
 - 作成, 77, 79
 - 実行, 77, 82

- すスケジュールリング, 79
 - 停止, 77, 82
 - 編集, 77, 80
 - 無効化, 77, 81
 - 有効化, 77, 81
 - 検出テンプレート, 71
 - 管理, 77
 - 削除, 88, 90
 - 作成, 88-89
 - 編集, 88-89
 - 検出フィルタ, 35, 85, 103
 - アクセス, 87
 - 無効化, 87
 - 有効化, 87
- ## こ
- 更新
 - 認証, 136, 140
 - コピー
 - 時間フィルタ, 298
 - 自動イベント処理タスク, 511
 - タスク, 519
 - レポート, 483
 - コピー ファイル ツール, 316
 - 作成, 318
 - コマンド
 - , 63
 - bdf, 315
 - cat, 315
 - cp, 315
 - df, 315
 - find, 315
 - ls, 315
 - mv, 315
 - ps, 315
 - rm, 315
 - コマンド ライン
 - インタフェース, 35, 63
 - インタフェース, 35, 63
 - コマンド ライン ツール, 301, 315-316
 - 作成, 316
 - パラメータ, 339
 - コミュニティ名, 71, 219, 552
 - コンテナ
 - 削除, 217
 - コンパイル
 - HP Systems Insight ManagerによるSNMP MIBのコンパイルおよびカスタマイズ, 67
 - MIB, 377
- ## さ
- サーバ, 83
 - 識別タブ, 397
 - サーバ監視, 451
 - サーバ証明書, 156, 162-163, 165
 - インポート, 156, 161
 - エクスポート, 157
 - 作成, 156, 159
 - 同期化, 165
 - 編集, 156-157
 - [サーバ証明書]ページ, 156
 - サーバ ブレード, 397
 - サービス イベント (参照 サービス通知)
 - サービスおよびサポート, 737
 - サービス通知
 - 概要, 533
 - 詳細, 533
 - 設定, 533
 - サイン アウト
 - CLI, 50
 - GUI, 50
 - サイン イン
 - GUI, 47
 - SSLの使用, 47
 - リモートから, 47
 - 削除
 - hostsファイル, 93, 96
 - HP 9000 iLOユーザ, 370
 - HP Integrityユーザ, 370
 - SSHキー, 594, 597
 - STMルール, 106, 113
 - WMI Mapperプロキシ, 217, 548, 550
 - イベント, 237, 506, 525, 539-540
 - イベント収集, 198
 - カスタム コマンド, 340, 342
 - 管理プロキシ ホスト システム, 217
 - クラスタ, 223, 229
 - 検出タスク, 77, 82
 - 検出テンプレート, 88, 90
 - コンテナ, 217
 - 時間フィルタ, 298
 - システム, 200, 217
 - 自動イベント処理タスク, 511
 - 収集, 192
 - 信頼証明書, 169, 172
 - タスク, 280, 287, 292
 - タスク インスタンス, 297
 - タスク結果, 296
 - ツールボックス, 134
 - ディスク スレッシュホールド, 348, 350
 - 認証, 136, 142
 - ユーザ, 127
 - ユーザ グループ, 127
 - 削除ツール, 316
 - 実行, 388
 - 作成
 - CSR, 162

- hostsファイル, 93–94
- HP 9000 iLOユーザ, 368
- HP Integrityユーザ, 368
- Web起動ツール, 345
- X Windowツール, 319
- イベント収集, 195, 539–540
- エージェント設定タスクのレプリケート, 389
- カスタム コマンド, 340–341
- クラスタ収集, 189
- 検出hostsファイル, 93
- 検出タスク, 77, 79
- 検出テンプレート, 89
- コピー ファイル ツール, 318
- コマンド ライン ツール, 316
- サーバ証明書, 156, 159
- 時間フィルタ, 298
- システム収集, 189
- 自動イベント処理タスク, 506, 508, 510–511, 513, 516, 542
- タスク, 280, 284
- ツールボックス, 132
- データ収集タスク, 563
- テンプレートの作成, 88
- 認証, 136
- ユーザ, 53, 120
- ルール, 109
- レポート, 479
- サポート, 44
- 参照
 - コマンド, 63
- し
- 支援, 44
- 時間フィルタ, 298
 - 管理, 298
 - コピー, 298
 - 削除, 298
 - 作成, 298
 - 適用, 289, 298, 513, 516, 537, 542
 - 編集, 298
- 識別, 35, 214, 608
 - DMI, 114
 - SNMP, 114
 - 管理プロセッサ, 545
 - クラスタ, 545
 - システム, 103, 504
 - 初期, 103
 - ストレージ ソリューション (SNMP), 275
- 識別タブ
 - クラスタ, 401
 - サーバ, 397
 - ストレージ アレイ, 411
 - ストレージ スイッチ, 408
 - ストレージ ホスト, 405
 - テープ ライブラリ, 415
 - パーティション, 404
 - 複合体, 402
- 識別の問題, 608
- システム, 353, 358, 608
 - WBEMステータス, 220
 - カテゴリ, 186
 - 監視, 181
 - 検索, 187, 243, 246
 - 削除, 200, 217, 247
 - 識別, 103, 504
 - ステータス, 219
 - ポート タイプ, 418
 - リンクの設定, 153
- システム アドレス, 200
- [システムおよびイベント]パネル
 - ツリー コントロール, 182
 - ナビゲート, 182
- システム概要, 181
- [システム概要]ページ
 - 表示, 186
- システム監視
 - HP Storage Essentialsインストール済み, 271
 - 回復, 35, 564
 - 単一システムの回復, 569
 - 単一システムの停止, 569
 - 停止, 35, 564
 - 複数のシステムの回復, 570
 - 複数のシステムの停止, 570
- システム監視
 - 回復, 35, 564
- システム キー, 54
- システム グループ
 - 管理, 144
- システム検索結果
 - 印刷, 248
- システム サブタイプ, 405, 408, 411, 415
 - HP Storage Essentialsインストール済み, 271
- システム識別LED
 - HP 9000 iLO, 368
 - HP Integrity, 368
- システム収集
 - 印刷, 200, 218
 - 概要, 182
 - カスタマイズ, 188–189, 200
 - 管理, 200
 - 共有, 259
 - 削除, 192
 - 作成, 189
 - プロパティの設定, 193
 - 編集, 191
 - レポート, 218
- システム障害管理, 451

- アクセス, 447
- 概要, 447
- システム ステータス, 182
- システム ステータス パネル, 54
 - カスタマイズ, 57
- システム タイプ, 83, 85, 200
- システム タイプ管理, 83
 - DMIルール, 114
 - SNMPルール, 114
 - SNMPルールの編集, 112
 - 新しいルールの作成, 109
 - ルールの削除, 113
- [システム タイプの管理]ページ
 - ナビゲート, 106
- システム テーブル ビュー
 - 結果の印刷, 200
- システム テーブル ビュー ページ, 85, 98, 182, 213–215, 217, 223, 244, 277, 347, 396, 451, 460, 560, 608
 - 印刷, 218
 - 概要, 200
 - カスタマイズ, 200, 216
 - システムの削除, 200
 - 収集の保存, 200
 - ナビゲート, 200
 - 並べ替え, 216
 - 列の削除, 216
 - 列の追加, 216
- システム電源
 - HP 9000 iLO, 367
 - HP Integrity, 367
- システムの問題, 608
- システム プロパティ
 - HP Storage Essentialsインストール済み, 271
 - 単一システムの編集, 565
 - 複数のシステムの設定, 567
 - 編集, 35
- システム ページ, 213–214, 231, 277, 397, 401–402, 404–405, 408, 411, 415, 446, 551, 560, 608
 - イベント, 396
 - 識別, 396
 - リンク, 396, 418
- システム名, 200, 231
- システム リソース, 310
- 実行
 - イベント確認済み変更タスク, 524
 - イベント タスク, 539
 - カスタム コマンド, 342
 - 検出タスク, 77, 82
 - 削除ツール, 388
 - タスク, 287, 290
 - データ収集タスク, 563
 - レポート, 476
 - 実行可能ユーザ, 573, 608
- 指定
 - IP範囲, 85
- 自動
 - 検出, 79
- 自動イベント処理, 35, 51, 53
 - Email設定, 508, 522
 - アクセス, 508
 - 新規タスクの作成, 508
 - タスクの管理, 508
 - タスクの作成, 510
 - モデム設定, 508, 523
- 自動イベント処理タスク, 506
 - Email設定, 506
 - 管理, 506, 511
 - コピー, 511
 - 削除, 506, 511
 - 作成, 506, 511, 513, 516, 542
 - 指定された属性, 513
 - 存在する収集から, 516
 - タスク結果, 511
 - 定義の表示, 511
 - 特定のイベントで, 542
 - 編集, 511
 - 無効化, 511, 522
 - モデム設定, 506
 - 有効化, 511, 522
- 自動検出, 35, 53, 77, 80, 87–89, 103, 219, 241, 551–552
 - 設定, 85
- 収集, 144, 608
 - イベント, 181–182, 539–540
 - 共有, 182, 259
 - クラスタ, 182
 - 削除, 192
 - システム, 181–182
 - ストレージ システム, 266, 268
 - プライベート, 182
 - 保存, 187, 539
 - 命名規則, 264
 - 問題, 608
 - ライセンス キー, 351, 353
- 手動検出, 53
 - hostsファイル, 71
 - システムの追加, 91
- 障害管理, 35
- 使用の開始, 46
- 商標, 31
- 情報
 - 検索, 244
 - シングル ログイン, 149
 - ログイン, 149
- 証明書, 156–157, 159, 161–163, 165, 169–170, 172–173, 608

- サーバ, 147, 156
- 信頼関係の設定, 174
- 信頼済み, 608
- 証明書署名要求
 - インポート, 163
 - 作成, 162
 - 提出, 162
- 証明書の問題, 608
- 初期ProLiantバック インストール, 35
- 初期ステータス ポーリング, 103
- 初期設定, 53
- 初期データ収集, 560
- 新機能, 40
- シングル ログイン, 149, 174
- 信頼関係, 147
 - CMS, 47
- 信頼証明書, 169
 - インポート, 169
 - エクスポート, 169-170
 - 削除, 169, 172
 - 要求, 173

す

- スイッチ, 83, 103, 200, 608
- スイッチの問題, 608
- スクリプト起動ツール, 301, 320
- スケジューリング
 - イベント確認済み変更タスク, 524, 539
 - イベント タスク, 539-540
 - カスタム コマンド, 342
 - 検出タスク, 79
 - タスク, 280, 289
- [スケジュールされたすべてのタスク], 292
- スケジュール設定
 - データ収集タスク, 563
- ステータス
 - イベント, 57
 - ノード, 307
 - ヘルス, 186
 - 未確認イベント, 186
- ステータス ポーリング
 - SNMP, 214
 - 初期, 103
 - ソフトウェア ステータス ポーリング, 545
 - ハードウェア, 552
 - ハードウェア ステータス ポーリング, 545
- ストレージ アレイ
 - 識別タブ, 411
- ストレージ システム (SMI-S)
 - SMI-Sプロバイダ, 267
- ストレージ システム (SMI-S)
 - HP Storage Essentialsの使用, 271
 - WBEMイベント, 267

- アレイ容量の表示, 270
- 概要, 266
- 検出, 267
- ストレージ システム, 269
- 表示, 268
- ストレージ システムの問題, 608
- ストレージ スイッチ
 - 識別タブ, 408
- ストレージ ソリューション (SNMP)
 - イベント収集の設定, 277
 - 概要, 266, 273, 277
 - 検索, 277
 - 検出, 275-276
 - ストレージ統合について, 273
- ストレージ デバイス, 83
- ストレージ統合
 - 概要, 266
- ストレージ統合について
 - ストレージ ソリューション (SNMP), 273, 275
- ストレージ ホスト
 - 識別タブ, 405
- スナップショット比較, 35, 501, 563
- すべてのスケジュール済みタスク,
 - タスク結果リスト, 280
 - 表示, 293
- スレッシュホールド
 - クラスタ監視, 314

せ

- 制御
 - HP 9000 iLO, 372
 - HP Integrity iLO, 372
- 製品アーキテクチャ, 42
- 製品名, 103, 200
- セキュア タスク実行, 152, 174
- セキュリティ, 165, 608
 - オプション, 147
 - 概要, 147
 - システム リンクの設定, 153
 - 信頼関係について, 174
 - セキュア タスク実行, 152
 - タイムアウト, 155
 - 役割ベース, 35
 - ログイン, 149
 - ログイン イベント設定, 154
- セキュリティ管理, 451
- セキュリティ警告, 608
- セキュリティの問題, 608
- セキュリティ パッチ チェック, 451
 - 概要, 460
- セキュリティ レベル
 - SSHキー, 595
- 設定

DMIアクセス, 301, 347
Email設定, 53, 522
HP Systems Insight Manager, 51
HP-UXにおけるPAM, 149
HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ, 571
iLO, 363
ping, 552
Pluggable Authentication Modules, 149
PMP, 572
SNMPアクセス, 301, 347
SNMPトラップ, 527
SSHバイパス プロパティ, 603
イベント, 528
イベント フィルタ, 526
エージェントの設定および修復, 67
監査ログ, 603, 605
グローバル プロトコル, 85
言語, 59
システム リンク, 153
自動検出, 85
信頼関係, 174
ストレージ システムの検出, 267
タイムアウト オプション, 155
ツール定義ファイル, 603
ディスク スレッシュホールド, 348–349
ファーストタイム ウィザード, 51
プロトコル, 554, 556
プロトコル設定, 53
ポケベル設定, 53
モデム設定, 523
ログイン イベント, 154
ロケール, 59
設定権, 117
セットアップ
 HP Systems Insight Manager, 53
 管理対象システム, 573
 初期, 53
選択
 ライセンス キー, 355

そ

属性
 クラスタ監視, 310
その他の要件
 mxtool, 319–320, 345
ソフトウェア
 管理, 504
 ステータス, 222
ソフトウェア ステータス, 200, 397, 608
ソフトウェア ステータスの問題, 608
ソフトウェア ステータス ポーリング, 546

た

ターゲット システム
 タスク スケジュール, 284
タイムアウト
 オプションの設定, 155
 設定, 546
タスク, 35, 284, 608
 インスタンス, 280
 エージェント設定のレプリケート, 389
 結果の表示, 521
 コピー, 519
 削除, 280, 287, 292
 作成, 280, 284
 時間フィルタ, 298
 実行, 287, 290
 詳細, 241
 スケジューリング, 280, 289
 ステータス, 299
 ステータスの追跡, 280
 設定の表示, 520
 停止, 280, 296–297
 データ収集, 560
 デフォルト, 281
 表示, 293
 編集, 280, 287, 291, 519
 ポーリング, 281
 ポケベル通知, 537
 ユーザ権限, 280, 287
タスク インスタンス, 280
 削除, 297
 表示, 293
タスク結果
 印刷, 295
 削除, 296
 自動イベント処理タスク, 511
 表示, 287, 289, 293, 296, 524, 539–540
タスク結果リスト, 296
 タスク インスタンス, 296
タスクの問題, 608
単一システム対応ツール, 59, 293, 320
単一システム プロトコル設定, 551
 設定, 560

ち

中央管理サーバ, 35, 316, 608
 言語の設定, 59
 ロケールの設定, 59
著作権, 31

つ

追加
 DMIルール, 114
 hostsファイルをデータベースに, 97

SMPライセンス, 394
SNMPルール, 114
STMルール, 106
WMI Mapperプロキシ, 548-549
個別キー, 361
システム, 91
システムをデータベースに, 93
ファイルからキー, 360
ツール, 35, 426-427, 608
 OpenSSH, 301
 ping, 347
 PMP, 301
 ProLiant Support Pack, 301
 Resource Process Manager, 301
 Serviceguardクラスタ, 301
 VMM, 301
 WBEM, 446
 エージェント設定のレプリケート, 301
 カスタム コマンド, 301
 管理ツール, 301
 クラスタ監視, 301
 コマンド ライン, 301, 315
 コマンド ライン ツール, 301
 支援, 451
 システム情報, 301
 システム ソフトウェアの更新, 301
 システム タイプ管理, 105, 107
 システム ページ, 301
 使用, 301
 スクリプト起動ツール, 301
 ディスク スレッシュホールド, 301
 デバイスのping, 301
 デフォルト, 301
 バージョン コントロール, 301
 プログラム起動ツール, 301
 プログラムの起動, 301
 プロパティ ページ, 301
 ライセンス, 301
 ライセンス マネージャ, 301
ツール定義ファイル, 35, 603
ツールのタイプ
 mxtool, 318-320, 345
ツールの問題, 608
ツール フィルタリング
 mxtool, 318-320, 345
ツールボックス, 117, 132, 136
 HP Storage Essentials, 130, 271
 削除, 130, 134
 作成, 130, 132
 編集, 130, 133
 編集, 130, 133
 レポート, 130, 135
 レポート, 130, 135
ツリー コントロール, 182

ツリー ビュー, 208

て

定義の表示

 自動イベント処理タスク, 511

停止

 検出タスク, 77, 82

 システム監視, 35

 タスク, 280, 296-297

提出

 CSR, 162

ディスク スレッシュホールド, 306

 概要, 348

 削除, 348

 設定, 348-349

 例, 350

ディスク容量, 314

ディスク リソース, 310, 314

データ収集, 35, 560

 隔週, 560

 既存データ セットの上書き, 560

 検索条件, 560

 詳細解析, 560

 初期, 560

 新規データ セットの追加, 560

 ストレージ システム, 267

データ収集タスク

 結果の表示, 563

 作成, 563

 実行, 563

 スケジュール設定, 560, 563

 スケジュール設定, 560, 563

データベース, 103, 608

 HP-UXのバックアップ, 598

 Linuxのバックアップ, 598

 SQLのバックアップ, 599

 Windowsのバックアップ, 599

 イベントの削除, 237

 管理, 229, 237

 クラスタの削除, 229

 システム, 735

 システムの削除, 217

 システムの追加, 93

 バックアップ, 597

 ビュー, 484

 復元, 597

データマイグレーション ツール, 35

テーブルライブラリ

 識別タブ, 415

適用

 時間フィルタ, 289, 298, 513, 516, 537, 542

デスクトップ, 83

デフォルト タスク

[hardware status polling for systems no longer disabled], 281
 [software version status polling for systems no longer disabled], 281
 隔週データ収集, 281
 初期データ収集, 281
 初期ハードウェア ステータス ポーリング, 281
 ソフトウェアバージョンステータス ポーリング, 281
 [ハードウェア ステータス ポーリング - サーバ], 281
 [ハードウェア ステータス ポーリング - 非サーバ], 281
 日単位デバイス識別, 281
 電源管理ソフトウェア, 451
 電源装置, 83
 テンプレート
 ユーザ, 130

と

問い合わせ
 サポート, 44
 同期化
 サーバ証明書, 165
 統合, 424
 Integrity Essentials, 455
 登録
 MIB, 374, 378
 VMホスト, 444
 登録解除
 MIB, 380
 VMホスト, 444
 トラップ, 241
 詳細, 241
 トラブルシューティング, 67, 608

な

内蔵Lights-Out, 219
 内蔵Lights-Outアドバンスド, 451
 内蔵Lights-Outスタンダード, 451
 ナビゲート
 すべてのスケジュール済みタスク ページ, 287
 ナビゲート
 イベント テーブル ビュー ページ, 231
 クラスタ テーブル ビュー ページ, 223
 [システムおよびイベント]パネルのナビゲート, 182
 [システム タイプの管理]ページ, 106
 システム テーブル ビュー ページ, 200
 ピクチャ ビュー ページ, 213
 ホーム ページ, 54

に

日本語, 59
 認証, 136, 144
 概要, 117, 136
 更新, 136, 140
 削除, 136, 142
 作成, 136, 138
 ツールボックスの削除, 134
 ツールボックスの作成, 132
 ツールボックスの編集, 133
 ツールボックス レポート, 135
 認証の削除, 142
 ユーザ, 53, 119, 147
 ユーザ グループの削除, 127
 ユーザ グループの追加, 122
 ユーザ グループの編集, 125
 ユーザ グループ レポート, 129
 ユーザの削除, 127
 ユーザの作成, 120
 ユーザの編集, 125
 ユーザ レポート, 129
 レポートの印刷, 136
 レポートの表示, 136
 レポート, 143
 認証の問題, 608

ね

ネットワーク クライアント, 42
 概要, 42

の

ノード
 ステータス, 307
 ノード ステータス, 307
 ノートブック, 83

は

バージョン コントロール, 35, 421–422, 424–428, 430
 バージョン コントロール エージェント, 200
 バージョン コントロール レポジトリ
 選択, 571
 バージョン番号
 mxtool, 318–320, 345
 パーティション, 83
 識別タブ, 404
 パーティション管理, 451
 ハードウェア ステータス, 200
 ハードウェア ステータス ポーリング, 546, 552
 実行, 546
 スケジューリング, 546
 [ハードウェア ステータス ポーリング - サーバ], 545

[ハードウェア ステータス ポーリング - 非サーバ], 545

配電ユニット (PDU), 83

バックアップ

HP-UXのデータベース, 598

Linuxのデータベース, 598

Windowsのデータベース, 599

データベース, 597

パッチ カタログの取得, 451

バナー, 54

ハブ, 83

パブリック キー, 594

セキュリティ レベル, 594

パラメータ

例, 339

パラメータ化された文字列

mxtool, 318-320, 345

文字列の置換テーブル, 318-320, 345

文字列の置換テーブル, 318-320, 345

ハンドヘルド, 83

凡例, 54

ひ

非管理対象, 83

ピクチャ ビュー ページ, 215

ナビゲート, 213

ビュー, 502

表示

MIBリスト, 375, 378

MIBリスト, 375, 378

監査ログ, 604

クラスタのCPU利用率, 312

[システム概要]ページ, 186

スケジュール済みタスク, 293

タスク, 293

タスク インスタンス, 293

タスク結果, 287, 289, 293, 296, 521, 524, 539-540

タスク設定, 520

データ収集タスクの結果, 563

ライセンス データベースの内容, 359

ライセンスの詳細, 362

ふ

ファーストタイム ウィザード, 35, 47, 51

ファームウェア アップグレード, 608

ファームウェア アップグレードの問題, 608

フィルタ

イベント設定, 508

設定, 526

フィルタ設定

イベント, 506

復元

データベース, 597

複合体, 35, 83

識別タブ, 402

複製, 165, 389

不明, 83

プライベート収集, 182

ブラウザの問題, 608

プラグイン ツール, 391, 451, 459

HP Integrity内蔵Lights-Out, 366

HP OpenView Storage Area Manager, 464

HP OpenView Storage Data Protector, 463

HP OpenView Storage Management Appliance, 464

HP OpenView Storage Operations Manager, 465

HP ProLiant Essentials Automation Manager, 468

HP Storage Essentials, 271, 471

HP StorageWorks Command View EVA, 474

HP StorageWorks Command View SDM, 473

HP StorageWorks Command View TL, 473

HP StorageWorks Command View XP, 472

HP StorageWorks Command View XP Advanced Edition, 473

HP StorageWorks Modular Smart Array 1000, 474

HP Systems Insight Manager内のHP BladeSystem Integrated Manager, 469

HP Web Jetadmin, 471

HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ, 468

Partition Manager, 459

Software Distributor, 461

VPM, 470

VSE, 470

WBEM Providers for Linux, 448

イベント監視サービスの概要, 458

システム障害管理, 447

プリンタ, 83

プリンタ管理ソフトウェア, 451

ブレード, 35, 83, 85, 200, 213, 215, 231, 430, 652

プログラム

起動, 340

プログラム起動ツール, 301, 320

プロトコル, 573

DMI, 71, 103, 546, 552, 557, 560

HTTP, 103, 214, 241, 546, 557

ICMP, 552

IP, 71

SNMP, 71, 103, 214, 241, 545-546, 552, 557, 560

SSH, 103

TCP, 552

WBEM, 71, 103, 552, 557, 560

グループ, 554

グローバル, 551

- グローバル設定, 85, 267, 552
- グローバル設定, 85, 267, 552
- 設定, 551, 554, 556
- 単一システム, 551, 554, 556
- プロトコル設定
 - WMI Mapperプロキシ, 548–550
 - 設定, 53
- プロトコルの問題, 608
- プロパティの設定
 - イベント収集, 199
 - クラスタ収集, 193
 - システム収集, 193
- プロパティ ページ, 35
 - WBEM, 35, 446
 - アクセス, 446
- 分散タスク ファシリティ, 316, 320
- 文書型定義
 - mxtool, 318–320, 345

へ

- ヘルス ステータス, 57, 186, 397
 - タイプ, 219
- ヘルス ステータス セクション, 54
- ヘルプ, 44
- 編集

- hostsファイル, 93, 96
- HP 9000 iLOユーザ, 369
- HP Integrityユーザ, 369
- MIB, 376
- WMI Mapperプロキシ, 548–549
- イベント収集, 197
- カスタム コマンド, 342
- クラスタ収集, 191
- 検出タスク, 77, 80
- 検出テンプレート, 88–89
- 検出フィルタ, 87
- サーバ証明書, 156–157
- 時間フィルタ, 298
- システム収集, 191
- システム プロパティ, 35
- 自動イベント処理タスク, 511
- タスク, 280, 287, 291, 519
- ツールボックス, 133
- 認証, 136
- ユーザ, 125
- ユーザ グループ, 125
- ルール, 112
- レポート, 481

ほ

- 法的な注意事項, 31
- ポート25, 608
- ホーム ページ, 54

- 概要, 54
- カスタマイズ, 56
- ポーリング タスク
 - カスタマイズ, 545
 - デフォルト, 281
- ポーリング率
 - クラスタ リソース, 306
- 他の要件
 - mxtool, 318
- ポケベル設定
 - 設定, 53
- ポケベル通知, 608
- ポケベル通知の問題, 608
- ポケベルのサポート, 35
- 保証, 31
- 保存
 - システム収集, 200
 - 収集, 187, 539

ま

- マルチシステム対応, 293, 296
- マルチシステム対応ツール, 59, 320

む

- 無効化
 - 検出タスク, 77, 81
 - 検出フィルタ, 87
 - ＜自動イベント処理タスク, 511

め

- 命名規則
 - カスタム コマンド, 341

も

- モデム設定, 506, 508
 - 自動イベント処理タスク, 506
 - 設定, 523

ゆ

- 有効化
 - 検出タスク, 77, 81
 - システム監視, 35
 - 自動イベント処理タスク, 511, 522
- ユーザ, 120, 136
 - 概要, 119
 - 管理, 119
 - 削除, 127
 - 作成, 53, 120
 - 認証, 138
 - 編集, 125
 - ユレポート, 129
- ユーザ グループ, 122, 136

- 管理, 119
- 削除, 127
- 追加, 122
- 編集, 125
- レポート, 129
- ユーザ設定, 51
- ユーザ テンプレート, 120, 130
- ユーザ テンプレート, 120, 130
 - デフォルト, 130
- ユーザ認証, 35, 608
- ユーザの権限, 117

よ

- 容量
 - ストレージ アレイ, 270
- 予約
 - WBEMイベント, 267, 506, 529–530
- 予約解除
 - WBEMイベント, 506, 529, 531

ら

- ライセンス
 - iLO, 351
 - ProLiant Essentials, 351
 - SMP, 394
 - VMホスト, 441
 - キーのインストール, 351, 355
 - キーの概要, 352
 - キーの管理, 351, 358
 - キーの個別追加, 361
 - キーの収集, 351, 353
 - キーの選択, 355
 - 収集結果, 353
 - 詳細の表示, 362
 - データベースの内容の表示, 359
 - デプロイメント結果, 356
 - ファイルからのキーの追加, 360
 - レポート機能, 363
- ライセンス管理, 351, 365
- ライセンス キー, 353, 356
 - iLO, 358
 - Intrinsic, 352
 - 暗証キー契約, 352
 - インストール, 355
 - 管理, 358, 365
 - 個別, 352
 - 個別追加, 361
 - サブスクリプション, 352
 - 詳細の表示, 362
 - 選択, 355
 - デモ, 352
 - デモ（使用ユーザ数と時間）, 352
 - 評価, 352

- ファイルからの追加, 360
- フレキシブル数量, 352
- ライセンス設定
 - PMP, 572
- ライセンス データベース
 - 内容の表示, 359
- ライセンス マネージャ, 301, 353, 441
- ラック, 83, 85, 213, 215, 231, 241
- ラック ビュー, 213

り

- 理解
 - セキュリティに関する理解, 67
- リスト
 - タスク結果, 296
- リソース
 - クラスタ監視, 310, 314
 - 支援, 44
 - スレッシュホールド, 314
- リソース ライブラリ, 67
 - HP ProLiant Essentials Server Migration Packの使用, 67
 - HP StorageWorks Management Software, 67
 - HP Systems Insight Managerシステム名の変更, 67
 - OpenViewの使用, 67
- リモートInsightボードEISA, 214
- リモートInsightボードLights-Out Edition, 451
- リモートInsightボードLights-Out Edition（RLOE）, 214
- リモートInsightボードPCI, 214
- リモート アクセス デバイス, 83
- リリース履歴, 31

る

- ルータ, 83, 103
- ルール
 - DMI, 114
 - SNMP, 114
 - STM, 114
 - 作成, 109
 - 編集, 112

れ

- 例, 165, 573
 - Email送信, 536
 - Emailポケベル通知, 531
 - Web起動ツール, 339
 - 確認済みイベントの削除, 536
 - コマンド ライン ツール, 339
 - サーバイベントを確認済みに変更, 539
 - 情報イベントの削除, 536
 - ディスク スレッシュホールドの削除, 350
- レポート, 35, 475, 502

- HP Storage Essentialsインストール済み, 269
- SQLの表示, 484
- 印刷, 476, 479, 481
- 管理, 483
- コピー, 483
- 作成, 479
- 実行, 476
- ストレージ システム, 269
- スナップショット比較, 35
- ツールボックス, 135
- 並べ替え順序, 476, 479, 481
- 認証, 143
- ビュー, 484
- 編集, 481
- ユーザ, 129
- ユーザ グループ, 129
- ライセンス情報, 363
- レポート機能, 501-502, 608, 652
 - SQLクエリ, 484
 - 概要, 475
 - ストレージ アレイの容量, 270
 - ストレージ システム, 269
 - ビュー, 363, 475, 484
 - ライセンス, 363
 - ライセンス情報, 363
 - レポートの作成, 479
 - レポートの実行, 476
 - レポートの編集, 481
- レポート機能の問題, 608

ろ

- グ
 - [スケジュールされたすべてのタスク], 292
- グイン, 147, 608
 - CLI, 47
 - イベントの設定, 154
 - 失敗, 149
 - シングル, 149
- グイン イベント
 - 設定, 154
- グインの問題, 608
- ケール
 - 英語, 59
 - 日本語, 59

わ

- ワークステーション, 83